



新聞切り抜きに見る 女の16年 I

リブの台頭 1970～1972



事実に基づいて真実を考える——あごろ

1号<女が働くこと> ￥200
●資料 働く女は過保護か ●調査 共働き実態
●意見 女が働くこと 松谷みよ子ほか(品切)

2号<女性と能力> ￥200
●調査 働く女性の地位向上をめぐる
●討論 女性と能力 はか

3号<主婦の解放> ￥200
●調査 団地の主婦の解放意識
●討論 主婦の解放 ●解説 二分二乗法

4/5号<何かしたい主婦のために> ￥300
●記録 何かしたい主婦のためのセミナー
●壁を破った人々 ●資料 2つの差別裁判

6/7号<運動をすすめよう> ￥350
●報告 解放への道——海外の婦人たち
●資料 各国の母性保護 ●討論 婦人運動をすすめる (品切)

8号<子殺しを考える> ￥380
●資料 世界各國の妊娠中絶立法例
●討論 性の二重性をめぐって (品切)

9号<働く女と主婦の接点> ￥430
●論文 働く女と主婦の接点 神田道子ほか
●調査 働く女と主婦 ●討論 人口抑制と産む性 (品切)

10号<女と法> ￥700
●記録 名古屋放送女子若年定年制
●資料 法律の中の女性 ●討論 産む性と法律 (品切)

11号<女と教育> ￥750
●論文 主婦が学ぶということ 伊藤雅子
●調査 教科書の中の女性差別 ●討論 <女と教育> (品切)

12号<メキシコ会議と世界行動計画> ￥750
●記録 国際婦人年世界会議とトリビューン
●資料 世界行動計画、ILO活動計画ほか (品切)

13号<国際婦人年国内集会と行動計画> ￥750
●記録 国際婦人年国内集会
●調査 国際婦人年 ●討論 メキシコ会議

14号<女の記録入選発表> ￥750
●隣がこわい 佐多稲子 ●アメリカ考察 水田珠枝
●新女大学研究 エリザベス・マウア

15号<職場の中の女性差別> ￥750
●調査 日本の著名企業100社にみる男女差別
●概説 女子労働市場の現場 正木直子(品切)

16号<女と結婚> ￥750
●文化人類学から見た日本の結婚・祖父江孝男
●討論「結婚の幻実」●随想 私と結婚(品切)

17号<女と生涯学習> ￥780
●生涯学習への提言 ●女子成人教育の問題点
●調査 婦人学習グループ ●ルポ 女が学ぶ所(品切)

18号<いま女性解放は> ￥1300
●討論 日本の女性運動をどう展開するか
●ルポ いま職場でたたかう39人の女たち
●資料 女性差別に関する国連条約ほか(品切)

19号<女にとって子どもとは> ￥800
●論文 日本の近代の国家と母性 中島 邦ほか
●資料 優生保護法改訂をめぐる経過 (品切)

20号<女性解放と男女雇用平等法> ￥1300
●論文 女性史におけるウーマンリブ 水田珠枝
●論文 女性解放論の模索と反省 田中寿美子
●資料 労基研報告 雇用平等法案ほか(品切)

21号<子と母の関係を問う> ￥1100
●論文 親ばなれ子ばなれ考 伊藤雅子 ほか
●調査 著名企業144社にみる女性の就労状況

22号<男女平等と母性保障> ￥1200
●保護派と平等派の接点を求めて
●いた女の働く場は——現場からの報告

23号<女たちは、いま変わる> ￥1500
●コペンハーゲン会議と女性差別撤廃条約

24号<女と戦争> ￥1500
●ふたたび戦争を起こさないために

25号<女と情報> ￥1500
●つくられる女からつくる女へ●情報化社会と女

26号<女がモノを言うということ> ￥1500
●情報化社会の中での自己確立を目指して

27号<いま平和を支える> ￥1500
●女たちの発言と行動の記録

28号<産む産まない産めない> ￥1800
●優生保護法をめぐる考察と運動の記録

29号<子どもがあぶない> ￥1400
●危いのは子どもだけか……問題の本質をさぐる

30号<均等、平等、保護> ￥1600
●実質的平等、結果の平等を問う均等法を考える

31号<均等法、派遣法、そして……> ￥1600
●均等法以後、どう変わるか、何をすべきか

32号<記録ナイロビ会議> ￥2000
●国連とNGOの2つの会議 ●2000年への戦略

33号<新聞切り抜きに見る女の16年> 1 ￥1800
リブの台頭(1970~72) ●女性記者座談会

新聞切り抜きに見る女の16年 I

1970~1972

リブの台頭



一九七二年二月、「女の問題を考える資料誌」として出発した『あごら』は、創刊号から「新聞切り抜き」をのせ続けてきました。しかし切り抜きをのせることについては繰り返し繰り返し賛否両論がたたかわされ、編集会議での激論の末、敗者復活のような形でやっと命脈を保ってきたことを思い出します。

『あごら』は、女たちがお金を出しあってつくっている雑誌です。横から横へのミディメディアを旨とする雑誌の貴重なページを費やして、あえてマスメディアの要約をのせる必要があるのか、記事になったことだけが事実か、等々の疑問も、当然のことでした。

しかし、社会が女を受容した尺度として、マスメディアの記事が資料的価値を持つことも事実です。祖母たちや母たちが、『青鞥』や、女博士や女校長の出現の記事に欣喜雀躍したように、一つ一つの記事を切り抜きながら、私たちはさまざまな思いを語り合いました。記事にハサミを入れて切り取るとき、その記事が血となり肉となるような思いもありました。相も変わらぬ母子心中、子殺しに涙しながら、サッチャー首相出現の記事に喜ぶよりも、このような記事がなくなる日を祈り続けてきました。

『あごら』創刊満十五年にあたり、さかのぼって一九七〇年からの切り抜きをまとめてみました。十六年分をまとめてみると、小さな点がつながって線となり面となって見えてきたものもあります。女たちのたしかな足どりが聞こえ、その女たちの背後にある、何百万、何千万の、決して記事にならない女たちの暮らしに、改めて熱い思いがふれます。記事になった女、記事を書いた女、記事にならなかった女、切り抜いた女、要約した女、それぞれの女たちへ深い感謝をこめて、まずは第一集をお届けします。

新聞切り抜きに見る女の16年 I リブの台頭 (特集33)

新聞記事のうしろ側——婦人記者に聞く——

金森トシエ・佐藤洋子・深尾凱子・増田れい子・松本侑子

4

AGORAZEIN

一九七〇年

風潮	29
当世女事情／進出／主婦パワー／リブ	
集会・活動	40
労働	45
パート	
法・制度	52
裁判／制度	
調査・統計	54
保育・教育	57
保育／女子教育／性教育／障害児／PTA／制度／荒廃	
からだ	61
妊娠・出産・中絶／体外受精／危険／保健婦	
意見・投書	64
働くこと／解放／農村女性／差別／女の気持ち／性・性教育／その他	

一九七一年

相談	69
夫・婚家／愛	
人	73
ひと／賞／訃報	
本	80
繁栄の陰に	81
公害	87
差別	92
戦争	93
海外	96
南ベトナム／ビルマ／セイロン／インド／ヨルダン／ビアフラ／ソ連／フランス／イタリ	
ア／イギリス／アイルランド／アメリカ合衆	
国／その他	
婦人の地位	103
日本とアメリカ……市川房枝	

127

一九七二年

風潮	129
当世女事情／進出／くらし／主婦	
集会・活動	135
リブ	142
婦人運動の人脈	144
消費者運動／密娼運動／女流民権運動／母親	
運動／婦人労働／裁判闘争	
労働	155
法・制度	159
裁判／制度	
調査・統計	162
保育・教育	166
保育／教育	

からだ	169
意見・投書	169
相談	174
人	176
ひと／賞／訃報	
本	183
公害	184
差別	185
戦争	187
繁栄の陰に	188
海外	192
中国／ベトナム／イギリス／アメリカ	

風潮	197
進出／主婦／高年婦人パワー／第二十回全国	
婦人会議／物価・消費／風潮	
集会・活動	216
活動／グループ／リブ	
職場	224
法と制度	227
制度／裁判	
調査・統計	233
保育・教育	235
保育／教育	
からだ	239

意見・投書	241
相談	243
人	244
ひと／賞／訃報	
本	251
繁栄のかげに	254
差別	261
海外	261
中国／フィリピン／ベトナム／インドネシア／	
シンガポール／ブルガリア／フィンランド／ス	
ウェーデン／スイス／ドイツ／フランス／イギ	
リス／アメリカ	

あこら読書室
あこらのあこら

AGORAZEIN

新聞記事のうしろ側

婦人記者に聞く

金森 トシエ

神奈川県立婦人総合センター
館長（元読売新聞婦人部長）

佐藤 洋子

朝日新聞学芸部記者

深尾 凱子

読売新聞論説委員

増田 れい子

毎日新聞「女のしんぶん」編集長
兼 論説委員

松本 侑王子

共同通信文化部記者

司会／斎藤 千代

あごら編集部

斎藤 今晩は。女性の職業の中でも一番忙しいジャーナリスト、その中でも超多忙な皆様方なのに、ほんとうにありがとうございます。

今度、一九七〇年から八五年までの、女の問題に関する新聞切り抜きをまとめて刊行することになり、ぜひとも皆様のお話が伺いたくて、ご無理を申し上げます。

〈あごら〉では、一九六四年に創り出した前身の〈BOC〉の時代から、女の問題の新聞切り抜きを続けていましたが、七二年に雑誌「あごら」を創刊する際、「新聞切り抜き帖」というページを設けました。

そして七三年からは、この部分をコンピュータに入れました。三年分ずつくらいまとめて別冊にしたいと考えていましたが、なかなか余力がなく、ことし十五周年記念として、ようやくまとめて刊行する運びになったところです。

まとめてみますと、それだけで千数百ページもあるんですね。それで第一回は

三年分の分冊という形をとることにしたのですが、通読してみるととてもおもしろい。女の動きが実によく見えるんです。

この切り抜きはしろうと仕事で不完全な部分がたくさんあるんですけど、それでも女の問題を考える第一級の資料だなアと改めて感じました。たとえば七〇年代の初めと今を比べてみますと、女の記事が幾何級数的にふえている。初めは

女の記事を探し歩くのが大変でしたが、最近は一誌だけでも毎日十件くらい切り抜きます。情報量が数十倍、もしかすると百倍近くふえているかな、という実感があり、ああ、女性ジャーナリストのご苦労が実ったなア、という感じがしみます。特にパイオニア世代の皆様が、女記者は記者全体の一％以下という厳しい状況の中で必死に発言し続けてこられたご苦労を目近に見ておりますだけに、よくも頑張った下さったなア、ありがたいなあ、と、涙がこぼれそうな気持ちになります。

考えてみますと、私たち市井で生活し

ている人間は、皆様方から言うと、被書体^①というか、取材対象なわけですが、「切り抜き帖」に関しては、僭越ですが、私たちが皆様方のご活躍をジャーナリスチックに眺めてきたわけです。それだけにさまざまな感慨がある反面、現場のなまなましい状況をどれだけ知り得ていただろうという思いもあるんです。

この「切り抜き帖」は、実は雑誌の「あら」の中でもないへん重い部分で、北海道から九州まで、無名の女たちがシコシコと切り抜き、シコシコとリライトしてつくってきました。みんなの汗と涙の結晶なんです。日本国じゅういろんな女たちの地下に潜っていた動きを地表に引き出して描いて下さった方があってこそ、切り抜きという活動もできたわけ

です。

さらにさかのぼれば、そういう「被書体」となった女たちの活動そのものが切り抜き帖の原点とも言えるわけで、網の目のように、さまざまな女たちの動きや祈りがからみあっているなアという感じがします。この本を手にした読者の方が、もしそこまで読み込んで下さったらどんなにうれしいだろうという思いも込めて、まずは皆様方のご苦労話を伺いたい。そして、読者の中から、ああ、やっぱり女性ジャーナリストを支えよう、という動きが出ればいいなアと、思っているわけです。

どうか今夜は、今までご披露なさりにくかったようなご苦労話も、どしどしお聞かせください。

やっぱり大きかった国際婦人年

ところで、そのお話に入る前に、この十七年を、マクロに見てどういうふうにとらえていらっしゃるのかをちょっと同

いたいと思います。そしてそれを、もし「進歩」というふうにお考えになるとしたら、そのモノサシは何なのかも、でき

ればあわせて話して下さいませんか。

とにかく、女の問題が話しやすくなったと思いますけど。

増田 話しやすくなった。話しやすくなったし、話すのがおもしろくなった。私なんかクロスしまししまいと思っただけ。もっと大きな問題が解決しないと女の問題は解決しない、って固く信じ込んでた。いまその逆をやってるけど。

金森 私たちはそうは思わなかった。

深尾 反対ね。まず女の人の生活の上に大きな問題があるんだって、いつも金森さんと言ってたわね。



金森 そういう思いで、私は六〇年代は働く女性がおこした裁判闘争を追ってたの。結婚退職とか若年定年とかの闘争が始まり出したところで、女性問題というと、やっぱり労働の場が中心だった。改めて壁の厚さを感じて閉塞の思いだった。「この頃どう？」って聞か

れて、「沈滞しつつ和気あいあいとしてるわよ」って答えた記憶があるんだけど、婦人年以降変わりましたよね。六〇年代は片方では市民運動が広がってきて、その中で経済的自立がなくても体制を変革できる力になれるんじゃないかみたいな主張も出てきて、例の「主婦こそ解放された人間じゃないか」という論もでてきた。でも何となくモヤモヤモヤモヤしてた。

婦人年で、性別役割分業の見直しという視点が打ち出されて、あのへんから一ラウンド変わった、という感じがするわね。それまではよく怒ってたわね。

深尾 ごはん食べながらね。

金森 食前、食中、食後、怒ってた。食前に怒って、ごはん食べながら怒って、食後にコーヒー飲みに行ってそこでまた怒ってた(笑い)。

深尾 それが変わったのは、やっぱり婦人年ね。婦人年のメキシコ会議で事務局長のシピラさんがおっしゃったでしょう。人間もりっぱな資源じゃないかって。エ

ネルギーだけじゃなく人間もりっぱな資源なのに、その半分を占める女性の力を浪費して地球に未来はあるだろうかって。あの時はその論理を理解する人が少なかったけど、今では男性でも、それはわかるようになった。

斎藤 当時は男性だけでなく、女性自身もそれに気づいていない人が多かったんです。あの市川房枝さんでさえ、「英語もろくにわからない日本人がメキシコ会議に行ったら何になる」っておっしゃったり……。

深尾 平等を目ざす女性の大ストライキ。いわゆるアメリカのリブ運動の幕開けが一九七〇年八月に全米各地でいっせに行われたのを覚えていらっしゃるでしょう。あの頃の日本の新聞の切り抜きを繰り広げると実に面白い。各紙ともこの動きを大きく報道して、その後に日本の有識者の雑話を書いているんですが、その一部を引用すると、例えば遠藤周作さん。「何が不満でそんなゼネストをやるのか理解できませんナ。ユーモア

でやるというんなら、よくわかるんですがね。第一、家庭を一旦放り出したらゴミは積もるし、こどもはギャンス力泣くし、あとで困るのは、亭主じゃなくて女房でしょう。日本でゼネストやったら亭主族は喜んで外へメシを食いに行くだけです」。

昔は主婦がキライだった

佐藤 お二方がおっしゃったように、婦人年以降、社会の状況も女の人も変わった。私は家庭欄の仕事に入ったのが一九六八年で、それまでは映画記者。男とか女とか全然ないような取材をやってたでしょう。「家庭欄の取材を始めてから女性問題にも……」という感じだったの

で、もちろん婦人年も強い印象があるんですけど、私にとっては何よりも七〇年のリブとの出会いが衝撃的だったわけ。衝撃的と言っても、衝撃になるまで時間がかかって、いったい何が起ったんだらうって、何が始まったかがわからな

作家・佐藤愛子さんも意外にも当時はこんなことをおっしゃっている。「ヒマ人の運動だと思えますねえ。むやみに騒いでセンセーションを巻き起こして、結局は自己顕示欲を満足させる。そんなところで終わるんじゃないかしら。……」
(一九七〇年八月二十七日付サンケイ新聞)

かった。でも何かが起ったんだという思い、何かが押し寄せてくる思いがあったんです。



六八年に家庭欄に移ったときは、金森さんと同じように、私も働く女の問題ばかりやっていたわけ。

女の問題って働く女の問題だとばかり思ってた。独り者で子どもも持たなかったし、そういうものが見えてなかったということもあるんだけど、職場で生

きにくいとか労働条件の問題ばかり追ってて、ハッキリ言ってそのころ主婦ってキライだったの。主婦に問題があるっていうのはどういう問題かというのもよくわからないし、主婦という人たちとあんまりつきあいたくなかったの。というの、仕事を持っている女が主婦に取材行くと、ひととき欄投稿などの優秀な人たちなんだけど、最後に必ず言われるのは、「あなたは、子どもを持ってないでしょ、子どもを持ってないってこと。子どもがなくなっちゃ問題はずかめるはずだと思ってたし、三十代の初めで若かったし、そう言われるのがとてもイヤだった。それと、「問題」としてとらえるという意味で言えば、働く女の問題は「問題」として顕在化してたし……」。

そういう私が、女としても取材記者としても変わったのは、七〇年代のリブに出会ってから。第一回のあの合宿にも参加して、すごい衝撃を受けたんだけど、あの人たち何を言いたいんだらうってこ

とが即座にはわからなかったの。その頃デスクもとても関心を持ってね、小さい集会から何から、リブという名のつくものには全部行きました。その時、新聞記者として行くと「エリート女」とか叱られるから、おっかないから個人参加で（笑い）……。

松本 怒られるの、へーえ。

一同（口々に） 怒られましたよ。

深尾 アメリカからも、当時、リブの闘士が日本の集会に来てましたが、「話を聞きたい」と取材に行くと、「ホワットフォア？」何のためにって、鼻先であしらわれる。当時のアメリカのリブの闘士っていうのが、ボロボロの格好して、こわい、きたない、きたない感じだったですね（当時を思い出す人たちの笑い声）。

佐藤 とにかくそんなことで身分を隠して行っただけで、記者として、というより前に、あの人たちの言いたいことが知りたい一心で、記事にできないものでも、日曜でも土曜でも聞きに行って…、

あれが私を変えたと思います。

斎藤 リブを誰よりも追跡なさったのは佐藤さん、という感じがしますね、たしかに。

佐藤 と、自分では思っているんですけど。

松本 私なんか後から来た世代で、もう、主婦が怖いとか主婦がキライなんてアレギーはなかった。むしろ、マスコミ利用してやろうなんていうしたたかな主婦の団体が出てきて、「これは朝日には言うけど共同には一週間遅れて言う」とかね（笑い）、「気をつけなきゃ」って、こっちが思うくらい主婦が育った時代に取材に入ったんです。コペンハーゲンの後ですから、皆さんより非常に遅れて入ったので、ずいぶん違うな、と思うんです。ただ、今の諸先輩の話きいて、その時代の名残りがあるなあとと思うのは、せっかく取材に行ってるのにマスコミに対して非常に荒々しい対応をする女性がいること。共感の気持ちで取材に行ってるのに（硬い声で）「皆さん、ここにマ

スコミが一人まぎれこんでます」って言われたり（笑い）、「皆さんの同意を得るまで書かないで下さい」って言われたり、非常に不思議だったわけ。どうして自分たちのことわかってもらおうと思わないんだらうかって。いまお話聞いてわかったんだけど、そうなるまでの歴史があったんですね。

佐藤 そう。マスコミに対してある種の用心とか、権威一般の人から見れば権威



ですよね、マスコミに対して異議申し立てをしたのは、やっぱり六〇年代後半の学生運動だったと思うんですよね。大学紛争の中で権威を否定して行った。

あの頃からですよ、新聞取材をそうありがたいとか、新聞記者なら誰でも受け入れるということがなくなった。それが女の問題の時にはリブの時に非常に先鋭に出て来た。取材される側から異議申し立てをしてきたっていうのは、ある意味

リブに出会って大変革

一九七四年、国際婦人年の前年に、アメリカの家政学総会がワシントンで開かれまして、その時取材に行きました。その会のゲストスピーカーがリブの闘士で作家のロビン・モーガン。それまでの家政学をウイメンズ・リベレーションの境地から斬ってスピーチしたの。そしたらみんながもう拍手拍手大拍手ですごかったんです。当時日本の家政学会は、そう言っちゃ悪いけど、まだお豆の煮方がど

ではプラスとして受け止めたのね。新聞記者が恩きせがましくすることないんだし。威張れないのも当然のことだし、向こう側が用心するのは当然のことだと、私なんか受け止めましたけどね。

松本 取材する側も意識が変わってききましたね。権威主義で取材するとか、書いたことがどれほど大変かなんて気持ちもこっちにはないんですよ。むしろ本当のことを知りたいって気持ち。

うとか、衿ぐりの一センチがどうかっていう（笑い）段階だったので、すごいショックを受けました。アメリカの女性と、日本のエリート女性の意識の差がものすごくありましたね。彼女は自分の書いた本を山のように持って来てサインして渡してた。日本じゃ、「私たちはウーマンリブじゃありません」って言う時代だったでしょ。

斎藤 アメリカの風邪は十五年遅れて日

本ではやるって言われるけど、六〇年代は、リブというよりウーマンパワーの時代でしたね、日本は。

佐藤 そう。影山裕子さんに代表される女性の能力開発の時代だったのね。職場を中心にして、職域拡大、能力開発みたいなね。能力開発ってことはが一番はやったんじゃない？

金森 高度経済成長の中で、それに乗った形だね。

斎藤 それとアンガージュマン。女の人たちが社会の中にどれだけ参加していくかが始まった時代だったような気がしますね。

金森 ただ、片方では繁栄の時代ですからね。団地に象徴される小家族の平和なマイホーム、主婦たちの史上未曾有の幸せの時代が始まったのでは……。

斎藤 高度成長の中で人手不足があり、あの頃、団地などを「人買い車」が回って主婦パートを集めてましたものね。働いて下さい、働いて下さい、ということ、主婦様さまでしたね。

いま主婦がおもしろい

金森 さっき佐藤さんが主婦がキライだったっておっしゃったけど、私もキライだった。六〇年代後半の裁判闘争などを取材すると、女だからといって労働権を奪われてる、まさに人権問題だという実感がある。ところが片や団地の中流といわれる層の主婦を取材すると、言うことは観念的だし、腰は重いし。農村などで生産労働と結びついている女の人たちの強さに比べても、どうも主婦は好きじゃなかった。未曾有の幸せに浸って、優雅な主婦業それで結構じゃないか、という肯定が広がって、性別役割分業はあそこでむしろ強化されたと思ってます。

ただ、片方で身の上相談が変わってきました。それまでは妻の悩みの一位は夫の経済力のなさ、大酒飲みで稼いでくれないとかね、二位が浮気だったのが、六〇年代の後半から夫の性格の不満が一位に出てきた。どういう不満かというと、夫の

愛情が薄い、会話をしても楽しくない、家に帰っても無口である、ユーモアを解さない、夫に教養を身につけさせるにはどういう本を読ませたらいいでしょうか（笑い）なんていうのが出てきた。古風なタイプの回答者は怒るわけです。よく黙って稼いでくれりゃ、そんないい夫はないじゃないですか（笑い）。でも、私は、日本の家族が近代的な夫婦家族に妻の側から変わり始めていて、夫に人間としてもっと魅力のある人間になってほしいという要求が出て来たと思った。

もう一つ変わったのは、「私は幸せです。夫はまじめに働いて子どもは大きくなりました。家には電化製品が揃っています。だけどむなしくてむなしくてたまりません。何か私のすることはないでしょうか」という相談がふえたこと。主婦も一見優雅に見える中で今日の主婦の芽は出ていたと思うの。

いま地方で暮らしていて感じる反省は、マスメディアもまた中央集権であって、私自身記者時代は働く女の問題に目を奪われて、地域社会の中の当たり前の主婦層を視野に入れてなかったということ。

いまは、主婦がおもしろい時代になった。佐藤 その話を私がやった仕事に結びつけて言えば、パートタイマーシリーズを先輩の男性記者と組んでやったのが一九七〇年なの。パートが社会問題的にワツと言われた時代。ところがその時パートという労働をいいと考えるのか悪いと考えるのか、三シリーズ三十回くらいやったのに最後まで結局わからなかったの。従来のフルタイムの女の人たちの問題だと、マスコミ風に言えば悪役がハッキリしてたでしょう。会社が悪いとか労働条件が悪いとか保育所がないとか（笑い）。ところがパートっていうのは、企業がちゃんと「皆さん夫にご迷惑をかけない時間帯にどうぞ」って言うでしょう。主婦のほうも、「家に近くてラクで、五時間なら五時間働けばいい」って言う。

経営と働く側が全部一緒なのね。この労働ってどういう労働なんだろうと思ったけど、ワットとふえてきた時代だったから、私たちも価値観とかいろいろのかわからず、かなり実用に力を入れようというのが企画の狙いで、ハウツー的な要素も相入れたんです。

読売さんがつい数年前パートの取材を連載なさったでしょう。自分がやった時代と比べて読むと、今のパートタイマーってものすごく意識が高い。組合結成したり、ずいぶん違いますよね。七〇年代のパートは、金森さんのいう「主婦満足層」から出てきたパートだったと思うけど。

松本 金森さんが、かつては働く女にばかり焦点をあてたとおっしゃるけど、いま、主婦自身が本当におもしろくなってるんですよ。昔の主婦は、悪いけどおもしろくなかった。でも、私自身の問題としてコミュニケーションはしてなかったんですね。だけど、私は、ここ五、六年、女の問題をやってるわけですけど、最初から

「いま主婦がおもしろい」って企画なんですよ。

最近地方選にひっかけた土井さん以降の「女と政治」に関する取材をしたところなんですけど、主力は主婦なんですよ。今の主婦は学歴が高い。意識が高いし経済力はあるし、時間があるし……。

金森 高校進学率が、七〇年代に男女ともに七〇％台に上がったんですね。大学進学率もそのへんからパッと上がってる。それがちょうど今の三十代から四十代初めの層なのかな。

松本 だから、お父さんを通じての社会の窓じゃなくて、お父さんに教えてもらわなくても直接社会の情報を收拾してる。

金森 お父さんは疲れてますよ。お疲れ印のお父さん、元気印のお母さん(笑い)。

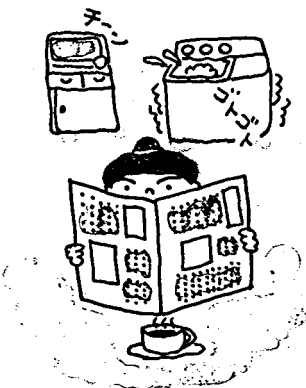
佐藤 自分のことで恐縮だけど、「両手を広げた主婦たち」という企画が今ちょうど終わったところなんですけど、今までそうじゃないかとか、取材を通じて当たり前の部分を当たり前にやったんだけど、逆にフルタイムで働いてる私は、これか

ら老後にかけてどうしようっていうね……(笑い)。

金森 定年後の男たちが産業廃棄物にたとえられるけど、私たちが男なみに働いてるんじゃないかしら……。

松本 ポロポロになり方はこっちのほうが早いんじゃないか……。

金森 ただ、佐藤さんの記事の中で神田道子さんが指摘してるように、あの主婦たちには経済的自立がぬけ落ちている。佐藤 そこはやっぱりきちんとやってかなくちゃいけない。ただ、いま主婦がもしろいだけではすまない。それは主婦自身も考えていると思うの。



ユカイだった今度の選挙

松本 「女と政治」で取材して、アアッ
と思ったのは、「主婦の就職口で一番い
いのは議員だ」って言うの（一同、口々
に賛成の声）。ボランティアや地域活動
などでいまやっていると同じなんです
よ。議員の仕事は。住民運動でもボラン
ティアでも、みんな持ち出しでしょう。
議員になれば、同じことをやってても食
える。

佐藤 どころか、かなり高額な収入にな
る。

斎藤 その当然のことを人をはばかりず
言えるようになった、ということですね。
実は私は六〇年、六一年ころ、議員は女
性の最高の就職口って、ずいぶん人を
煽ったことがあるんですけど、当時は誰
ものらなかったの。私は、六〇年安保を
契機に、突如として地域運動を始めたん
だけど、真っ先に言われたのは、「あの人
あんなに熱心にやってるのは、きっと区

議に立つのよ」ということ。「私は立た
ないけど、女の人が立つといいと思う。
就職口としても最高よ」って、月収を具
体的に説明すると、みんなホーッて言う
でも、のらなかった。お金はほしいし、
職場もほしいんだけどのれなかったん
すね、人の目が怖くて。

松本 当時はまだちょっとね……。

佐藤 いま生協なんかだと、私も立ちた
い、私も立ちたいと、人選するのに困っ
たらしいですよ。

深尾 ボランティア活動やってて、それ



ならいっそ議員に
というの、まさ
に十年、十五年前
のアメリカと同じ
ですね。たとえば
私の取材したバー
モント州知事のマデレーン・クーニンさ
んはボランティア運動を経て議員になっ

て、ついに州知事になった人ですが、ほ
かにも草の根レベルの運動から女性政治
家になった人って多いですよ。

佐藤 今度の続きもので取材した中の、
婦人問題を企業にしたという主婦の人た
ち、「今までボランティアはゴマンとやっ
てきた。今度は同じことをお金にした
い」って言うの。わかるわね、その気持
ち……。

ただ、いきなり政治って言ったって、
それは無理なのよ。金森さんがおっ
しかったように、六〇年代からボラン
ティアが始まって七〇年代にかけてグ
ループ活動とかいろんな経験を無数に
やってきて、やっと八七年に至って、し
かも地方選だつてところがすごくおもし
ろいと思うのね。

金森 地方でも中小都市ですよ。農
村部はまだまだ……。

佐藤 でも曲がりなりにも政治のところ
まで辿り着いたって感じね。当選するし
ないは別として。

松本 だから今度落選した人たち、全然

メゲてないのね。四年後見てなさい、って感じで。こりゃすごいと思った。

斎藤 今度、鳥取県下で初めて町議に出た芦谷さんっていう私たちの仲間、十四票届かなかったんだけど、実に意気軒高、さわやかなの。悔いない戦いをしたからいいって。「四年後も町議じゃもったいないから、今度は県議、いや町長に立たない? それとも参議院に出ない?」って言ったら、「ウン」だって。全然こだわりのないの。とにかくものすごくおもしろい選挙だったんですって。毎日毎日辻説法、言いたい放題言ってる。仲間たちはみんな有休とって駆けつけて、「こりゃ、会社よりよっぽどおもしろい」って。「毎日選挙がないだろうか」って(笑い)。

増田 いくつ?

斎藤 三十三。四年後でも三十七。

一同 ウーン、若い!!

増田 NHKのテレビ見てたら、主婦の立候補者がたすきかけて、スーパーに行ってた。あれ見て、これだ!と思った。

今まで男の人たち、いやというほど選挙に立ったけど、誰がスーパーに立ったか……。

松本 PTAや子どもの保護者会なんかにも行くのね。

増田 選挙事務所で子どもにごはん食べさせたりして、あれでいいのね、選挙は。女性がああいうふうに出ていくと、選挙そのものを変え、スタイルを変え、意識もイメージも全く変え、本ものの選挙にしていく。参加っていうのはいろんなものを変えていくな、本質的なものを変えていくなっていう点で非常に意味がある。

「私ヤリマスワヨ」の時代に

佐藤 ひととき欄に「選挙を終わって」という投稿がいろいろ来てるんだけど、とてもおもしろかったのは、「今度の選挙に関わったというのは、自分が立てた候補なり応援した候補が当選しようと落選しようと、それで終わったわけじゃな

松本 今度の選挙の数をどういうふうにお感じになりました? 女性の地方議員が二・六%になったということを。

金森 それまでは一・六%だったから。

増田 それはやっぱり高く評価すべきじゃないの。

金森 ただ末端の話をいろいろ聞いてみると、必ずしも、あの人ならいいって人じゃない人が出ている場合がある。裏で作戦立てているのは手馴れた男たちだったり、本人も自己顕示欲が強い人だったり、ルックスのいい人が選ばれてたり……。

増田 試行錯誤があつていいんじゃない。だんだんだんだん本ものが成長する。

い」ってとらえること。「やっと、朝コーヒーを飲んでます。あの落ちた人、受かった人、みんな今日から始まるんです」って、みんな書いてるの。「自分が応援しなかった人が当選した。あの人をジッと見てる。なんかあの人はおかしい

の」とか、「敗北にしろ当選にしろ、自分の仕事も今日から始まる」と、とらえてる。だから四年後、八年後はどんどん増えるでしょうね。

一同 そうね。加速度的でしょうね。

増田 それに、女性が立候補できたっていうことは、夫を説得したか、あるいは説得半ばで出ていったら夫がついてきた、というふうに男性も変化してくれたのだと言えるわね。男が立つ場合は、だいたいおかみさんに一応は相談するだろうけれども、イエスカノーを聞くわけじゃないものね。立つから応援しろ、と、そんなもんでしょ。女性が立つ場合は、それはもっといろいろと説得すると思うのね。金森 そう。でもね、地域活動の段階でも、十年前なら夫がイヤな顔をするからやらないということがあったけれども、この頃はやろうと思ったら、イヤな顔をされてもヤッチャウのよね。

斉藤 夫は事後承諾せざるを得ないというふうに変わってきていますね。

増田 何事かを解決するのにな、解決し

てから行動するのでなく、行動してから後に解決しているなって非常に強く思いますね。

佐藤 それは女の人の大きい変化ね。



増田 パートに出るのだって、夫を説得

してからというのでは永遠に出られないけど、ともかく内緒でも出て行っちゃった、ということから物事は変わってゆく。行動するということは、こんなに大きな成果を生むかということをしみじみと感じているわけ。

深尾 あのね、何年前かに単身赴任でアメリカに行っていた人がこの間帰って来たのね。留守番をしていた奥さんはこれを機にパートで仕事を始めたのだけど、彼は帰国してから奥さんとしっくりいかない、と言うのよ。「前には女房はしっかりとか家を守っていてくれて、帰ればちゃんと食事でもできていた、でも今は自分が帰ってきててもまだ帰って来てないこ

ともあるし、夜中近くに帰ってきたりする。彼女はやっと手に入れた仕事なんだからって張り切っている」ってわけ。二人の気持ちにすごくギャップができてしまつて、彼は「僕も帰って来たんだし、何もそんなにガリガリ働かなくても食えるだろう、と言っても、あなた何言ってるのよ、って全く気持ちがすれ違っちゃってどうしたらいいだろう」って言うから、私は「女性の考え方や意識はこの三、四年で大きく変わってるんだからあなた自身も変わらなきゃあ」って言うたら「ああ、そうなのかあ」って。

佐藤 その男の人、不思議じゃない。アメリカへ行くと変わるでしょ、男の人って。

一同 (口々に) そうよ、そうよ。よっぽど保守的なものね。絶望的よ(笑い)。松本 何も見てないのよ。東京の社内しか見てないんじゃない。社会のそういう所を何も見ずに政治の世界しか見てないんじゃない(一同大笑い)。

佐藤 うちの社の男性も七〇年頃はすこ

く保守的だったけど、一番先に変わったのはアメリカとヨーロッパに特派員で行った人ね。M氏などはその筆頭でベストメンになったくらいだからね。彼自身、「僕はものすごく保守的な男だったけど、

変わった主婦、変わらない労働の場

斎藤 私の感じでは一番変わったのは主婦で、一番変わらないのは労働の現場のような気がします。

金森 ええ。均等法ができたりして一見変わったように見えるけれど、さっき佐藤さんが言ったように、以前は結婚退職制とか性差別がはつきり見えていて悪役が決まっていたけど、今はそれが見えにくくなっているでしょ。一部のキャリアコースは平等に「男なみ」という「」がつくし。その他はパートや人材派遣など縁辺労働力化がどんどん進んでいる。新しい差別構造が生まれているのに、それは見えにくくて、働く女の多くは変わらないように見える。

アメリカに行って女を見て変わった」っているんな所で発言してます。

一同（口々に） 物を見る、その見ようによって違うのね。変わる人も変わらぬ人もいる。見ようによって見えるのに。

佐藤 それは、働いている女が変わらないんじゃない、働く場所が変わらなくなるわけ。労働観とか職場とか。雇用態勢とか昇進昇格の仕方とか。それは男が作ってきたから変わらないだけで、働いている女も主婦やっているわけだから、変わる思いはもっているわけですよ。だから一番苦しんでいるのはフルタイムで働いている女なんじゃないの、逆にねえ。斎藤 相変わらず、そうなんですよねえ。松本 主婦には時間と、行動の自由があるからねえ。大きなワク付きではあっても。

佐藤 食べるのは夫に任せて、小遣いでもいいとなればずいぶん違った稼ぎ方はあるわけよね。自分の良心を曲げずに、とか。それでも変われる要素はあるわけ。でも人に食べさせてもらって変わってゆ

くっていくのは本当の変わり方ではないし、そこがこれからも一番大きな問題よね。そこは変えにくいところだから。

金森 地方のいろいろな集会に出ると、いまだに「夫につきし子どもを育てて私たち主婦は立派に社会参加しているのだ、経済的な自立って言ってもたかがパートなんかで何の自立だ」って発言があるし、拍手も多いですよ。だから変わったって言ってもまだまだ……。

佐藤 日本の場合、官庁用語で社会参加っていうと、仕事と分けていますよね。



社会参加っていうとボランティアとか勉強会とか地域活動とかに分けてるけど、女性学の研究者なんかに言わせると、外国人が社会参加というときは、労働も全部入っていて、話題の中心は必ず労働、すなわち働くことの参加が中心になってゆくからね。それがまだ分けられるだけ日本の状況は、どうなのかしら、男社会と女社会がまだ分かれていることの証拠でもあるかもしれないと思うわね。

増田 なかなか男社会の中に出てゆけないっていう現実があるのね。

豊かさの中でどう生きる

斎藤 主婦と共働きの人、あるいは独身で働いている人との分断の問題も、この十七年間であんまり変化していないと思うのですが。

金森 それは両方悪いんじゃないかしら。労組婦人は家庭婦人や婦人団体に呼びかけませんでしたよ。家庭婦人のほうも、労働婦人の問題は別問題だという意識が

深尾 それと、日本の場合には労働の形態が、だんだん崩れてきてはいるものの、男の人の間には終身雇用で安泰って考えがまだ強いでしょ。それが欧米では全然崩れちゃって、男といえども就職したってすぐクビになるかもしれない、という状況でしょ。だから、男は仕事、女は家庭で安泰といかなくなってきてますわね。

増田 そこが変われば働く女性もずいぶん変わってくると思うけどね。

金森 そうね。楽になってくるでしょうけどね。

強くて。食うには困らない時代になったせいか、経済的な自立というのはどうもクラシックなテーマになっちゃっている感があるようだけど、やっぱりそれがなくちゃあだめだと思うの。そのところはすべての女性が合意してほしいのね。

合意した上で、あとは選択の問題だと思うの。合意ができないで、つまり

女性の世論がもりあがることもなくて、望ましい均等法なんてできるはずないですよ。これも、これからのテーマじゃないでしょうかね。

斎藤 不安に思うのは、六〇年代から七〇年代のはじめにかけては女の人がハングリーだったのが、今はハングリー精神がなくなっているような感じがすること。

金森 ハンシャイでいる感じもある。今度の選挙でも。

斎藤 投稿がね、昔のほうがずっと面白いんです。この頃のは拾おうと思ってもめったにないんですよ。切り抜いてはいても、載せようと思うのがないんです。心を打つ面白いのがない。これはなぜでしょうかね。選ぶ側にも問題があるのか……。

金森 昔は差別がいろいろにあって、やっぱり身にこたえた怒りみたいなものがあつたのよ。怒りはやっぱり原動力だと思えますよ。

斎藤 昔の投稿を読むとズシッと胸に当たっていたのに、今は髪の毛の先をよぎる

ような感じなのね。読んでもね。

佐藤 今度主婦を取材してみても、社会全体の構造の問題として、ものすごく階層分化、つまり豊かさと言貧しさに分化していることを感じましたね。

一同 それはあるわね。

佐藤 そこに主婦も、私たち働く人間も全員組み込まれていて、豊かな層っていうのが積極的なよね。他のことをやるにしても。時間もあるし、夫の月給で食べられるし。ある学者が東京のある地区で調査したら、一人で稼いでいる世帯のほうが二人で稼いでいる世帯より収入が多いという結果がわかったの。ということは、階層的に非常に豊かな世帯の主婦が時間資源も豊かに持って、教育もハイレベルだし、積極的に活動しているってことで、そこまで言っちゃうと身も蓋もないって思うけど、面白くなくなってきたるってのは、稼ぐ必然性というものをよそに置いておいて別のところで論じてるからではないかしら。

金森 今回の選挙への女性の進出で一つ

気になったのは、それね。議員になった人たちが、働く女性の問題を果たしてどこまで押さえているのかなあ、と不安ですよね。

増田 誰のために働く、つまり仕事をす

るかってことね。
一同（口々に） 役割のうえで出てきているといえるのですものね。

松本 私ね、でもそれすらも、それでもい

いと思っているの。

何といっても三

パーセントに満た

ないんですけど、

いけませんよ。三

割ならいいけど

え。議員が百人いて女性が二人半しかい

ないなんて、グロテスクな社会ですよ。

増田 さっき佐藤さんの言った、一人で

二人分以上に稼いでいるっていうのは具

体的にいうと年収いくらをいうの。

佐藤 六百万以上でしょうね。例の税制

改革の時に言われたのは、国民の八割ま

で年収四百万から六百万というんで



しょ。いちばん多いのは四百万円台でしょ。ところが、銀行だの商社だのいわゆる一流企業と言われる所に働く人は、四十歳代で二十万円を軽く超えるわけですよ。

増田 そういう場合には主婦がどういう意識を持つのか。ボランティアや地域活動をやりましようって、いったい誰のために、何のためにするのか。まず第一は自分のためにやるんでしょうね。

金森 一昨年私たちのセンターで神奈川の女性の社会参加調査をしたんだけど、今までは悩みというと、家庭と職業の両立だったのが、今度は、個人的な趣味もやりたいし地域活動もしたいけど、それがなかなかできないというのがトップなの。三立多立の時代へ、まさに「手をひらげた主婦たち」と同じなんですよ。

もうひとつ、再就職についての調査を見て面白いのは、フルタイムでかなり高収入の層と、パートその他で一番低い所得の層の、ちょうど一七パーセントずつが、働く理由として、「経済的な自立のため」をあげている。トップとボトムに

経済的自立が出てきているんですよ。

一同 なるほどね。

佐藤 意識の高い層と、生活の必然のための層なのね。

斎藤 その真ん中の人はどうしているのかしら。

増田 その人たちが、余暇を生かすとか、ちょっとパートに出てるとか、じゃないかしら。私があるパートの人から毎月原稿をもらっていたんですけど、「夫の稼いで学習会に行ったりするのは、非常に辛い思いをした。それくらいのお金、つまり、自分の勉強のため、自分の活動のための資金くらいは稼ごうと思った」というのね。

佐藤 それは常識になっているわね。

松本 さっきおっしゃった、「経済的自立」を言わない中間層の人たちは、夫一人の収入では足りないから補うためってのがあるんですね。私、いつも頭にきているのは、組合でね、我が社ではポーンサっていわずに補給金っていうんですけど、その基礎作りのためのアンケート

をするんですよ。それでね……。

一同 もうわかった。わかったわよ（大笑い）。

松本 収入が少ない、ってところにみんな丸をつけるでしょ。次に「少ない収入をどのようにして生活してますか」ってなると「妻を働かに出させる」ってのが第一ね。「妻を働かに出す」っていうの

“社内変革”に知恵を絞る

金森 七五年の国際婦人年の時に我々女性記者も何かしよう、ということになって翌年の春にレポートをまとめたんですよ。きっかけは、七〇年代はじめの「若い母親の子捨て、子殺し」事件で、あれがセンセーショナルに書かれるわけ。「どうも近頃の新聞おかしいんじゃない。あらんなに母親だけを鬼だ、悪魔だって責めるだけで、女と子どもを捨てた男や、零歳児保育所もろくに作らない社会の責任を問わないでいいのかって。女性記者は一パーセントで男の記者が九九パーセン

は、男しか働いていないって発想でしょ。一同（口々に） いやあね。組合が一番遅れているのよ。本当にネ、遅れてるんですよ。

金森 経営者のほうが進んでいますよ。これからは一人の能力による賃金というふうに変えてゆこうって言うてるんだからね。

トなんだから、我々の目で点検してみよう」ということになって、朝日、毎日、読売、共同の女性記者有志がお互いに分担して、それぞれレポートしたわけですよ。性別役割分担と、子捨て・子殺し、犯罪事件の中の女性など、いくつかの項目に分けてまとめ、日本新聞協会に提出して、『新聞研究』という月刊誌に掲載してもらったんです。「新聞の女性



表現に対する疑問」として。

佐藤 あの前からじゃない。女性記者の目とか、女の側から何か言ってるってゆこうとやっていう意識が我々の側からも出てきたのは。

深尾 私たち女性記者が女の目で改めて新聞を読もう、とかね。

増田 差別語を点検したりとかね。

深尾 「男と女、仲良くしましょうよ」とか言ってるね。アイスランドで女性のストライキがあったでしょ。日本で起きたらどうだろう、電車も空いて良い、などと女性をからかった記事を問題にしたり。「男は外に出れば七人の敵がいる」ってことを取り上げたりね。

金森 その時私が思ったことは、女性読者がなぜ黙っているのか、ということね。我々の目で見ていかにもおかしいという記事があっても、女性読者から何の抗議も来ないわけですよ。社内でも私たちがおかしいおかしいって言ってもダメでね、もし外の読者から葉書でも百通の抗議が来たら変わるのになって思ったわね。それ

は今でも感じるんですけど、日本の女性には沈黙が好きですね。批判だけでなく、良いときは良いということも大事。記者も励まされるし、新聞を良くしますよ。

佐藤 私もよく個人的に記事について言われるとき、「あなた、それを葉書に書いて会社に送ってちょうだいよ」って言うのね。つい何か月前もね、うちの新聞の社会面の「街」っていう欄に「主人」であつたら、「主人ってのはおかしい」という投書が出たのね。私は男性記者たち二十二年も「夫」のことを「主人」と書くのはおかしいって言い続けているわけですよ。自分でも「ひととき」の投稿を見る時には「主人」と書かれているのを「夫」と書き直すし、自分の記事には絶対「主人」と書かないしね。それくらい繰り返して繰り返して言うのに「主人なんて、呼び名なんだからどうでもいいじゃないの。そんなことは角を立てるほどの問題じゃない」なんて言われてきたんですよ。それが、あの社会面に出たということは、男の意識の大きい変化が

あったということ、女にとっては何でもないことなんだけれど、男が書いてる社会面であれが初めて出たということは、何年がかりだったかしらというガツカリした思いもあるけれど、「やっと出た」っていう感じ、「やっと男が」という気がしましたね。

金森 私も、「男は外、女は内」という神話を破れ」という見出しの社説が載った時は、論説委員のところに「よく書いてくれました」とって握手に行ってたわよ。あれは全く我が社のエポックメイキング。

この頃は少し変わりましたが、でもおとし、毎日の外報面のトップでね、サッチャー首相が六十歳を迎えたという記事の見出しが「還暦迎えた鉄の宰相」っていうんですよ。男の宰相なら「還暦迎えた」とはならないでしょ。その上、リードを読んだら「次の四期目にも意欲を燃やしている鉄の宰相が『普通の主婦』に戻るのはいつの日なのか」って書いてある。私はさっそく葉書を出したの。「貴社は今回のナイロビ会議にも女性特派員

を出してとてもいい記事を送って活躍していらしたし、初の女性の論説委員も登用されて、かねがね敬服していました。それだけに大変残念です。私知ってる中年のアメリカ人に話したら、日本の新聞はとてもおもしろい、それじゃあ、レーガンや中曽根についてもいつになったら『普通の夫』に戻るのだろうか、って書くのだろうか、って笑っていました。そして、もちろん個人として出したの。そして、それから電話がかかって、「編集局長が面白いって言ってますので、もう一度改めて原稿に書いてください」っていうんです。言いくくても言うことで、編集局長が担当部長に言ってくれたりして、やや前進した経験もありましたからね。朝日の「今日の問題」にも葉書を書いたことあるし、私も忙しいんですよ。深夜やっと雑用を片づけて、寝るまぎわに改めて夕刊を読んで「やや、これはどうしても書かなくちゃ」ってなっちゃ（笑い）。

深尾 ほんとにずいぶん書きましたね。



一九七〇年代の思い出って言えば、ある化粧品メーカーの新社長に対する朝日のインタビュー記事で、男性記者が「お宅は今年は女性の大学卒を何人採用なさいましたか」って聞いたら、「一人も採用しません。だって子ども以外、ものを作るのは男の仕事ですから」って答えてる。社長あてに個人名で「記事を読みました。以後お宅の製品は買いません」ってハガキを出したら、社の広報の人が飛んで来たわね。

金森 私も抗議の手紙を出したら返事が来てね、深尾さんの所に来た広報担当に、「初めまして、デスクの金森でございます。私もこういうお返事を頂戴しております」って言ったら驚いてね。

深尾 その後の釈明がいいのよ。「あれ

は、うちの社長が朝日さんのインタビューを終わった後で言ったことなんですから」って言うから、「だいたい新聞記者っていうのは手帳と鉛筆をしまった後からほんとの取材をするようにトレーニングされていますから」って言ったの（笑い）。

佐藤 そういう意味でも、読者が新聞を変えてゆくという側面もあるのね。読者だけに責任を負わせるという意味じゃないけど、これは大事なことよね。

一同（口々に）大事なことよね。読者の反響はねえ。手紙ください。編集局長あてがいいわよ。電話じゃだめよ。証拠が残らないとね。

佐藤 それから、ひと頃外国から女性の大使とか女性の政府の高官が来ると、日本の男の記者が、男しかないなかったから、高官をインタビューするのは、必ず「主婦としてどうですかとか、子どもはどうですか」って聞くのね。そういう時代があったのだけど、外国の女が日本の男の記者を変えてきた側面もあるのね。

一同 そう、そう。サッチャーさんも日本の男の記者を怒ったからね。

佐藤 サッチャーさんまでいかないまでも、例えばテレビで日米の経済問題の会談なんか見ても、必ず女が混じってるでしょ。ねえ。

一同 そうよ、四極通商会議でも、漁業交渉でもね。

深尾 日米漁業交渉でやってきたアメリカの代表が女性でした。日本側のお役人が接待のためにゴルフをアレンジしたんですって。ところがその日がすごい嵐のようなお天気の悪い日になって、彼女が断ってきたんですって。アメリカじゃゴルフは日常茶飯事だから、日本みたいにどんな天気でも強行なんてことはないのね。そしたら「やっぱり女はダメだ。男ならこちらの顔を立ててちゃんとやってくれるのに」ってことになったそうです。

一同 日本的ねえ（大笑い）。

金森 女性の貿易代表も来たことあったでしょ。読売のインタビュールだったけど、「家庭と職業とをどういうふうに両立さ

せていますか」って聞いたのね。そして「あなたは私の夫にも同じ質問をなさいますか」って切り返されたのね。男だっ

て家庭と職業を両立させているんですものね。

佐藤 それは効くわねえ。外国の女性が少しずつ男の記者の見方を変えてきてるのよね。日本の女が言ったのではなかなか聞いてくれなくても、仕事として発言権のある外国の女性がそれを言うということは、ある種のインパクトを与えるものね。

一期はあえてきたない格好をすることで、既成の女の型を破ろうとしたわけでしょう。

深尾 そうですね。あの頃外国の女性から教えられることが多かったのですけど、その一つは、ニコニコしながらきつことをクールに言うことね。それと外国から来るハイステータスな人たちが、とてもカッコイイ、きれいな人たちが多くなったことです。

一同 そうなのよ。

深尾 これが女性解放運動の第二期ですね。第一期の、いわゆるウーマンリブの人たちはきたなかったものね（笑い）。

佐藤 話は少し変わるけど、この間三井マリ子さんが受かったでしょ。その時、うちの部の男たちが何と言ったと思う。「洋子さん、美人でもリブやるんだね」。今ごろ言うんだから（一同大笑い）。「だって彼女がきれいなことなんて十年前から私が言ってるじゃない」って言ったのね。「僕アメリカ行った時、彼女に会ってくれば良かったなあ」。

金森 記事にもありましたね。「これがリブとは思えないチャームिंगな女性

もはや女を無視できない時代

だ」って。アメリカの「ミスなんか」だった人がリブ運動家になって来日したことがあったじゃない。深尾さん、編集局内を連れて歩きたいって言っていたわね。

佐藤 「ブスでモテない女しか権利主張しない」という神話がかなり長いことあったわけね。で、これは今日只今、87年でもこんな言葉が出てくるんだから、まだ残っているってことよね。

一同 そうですね。

深尾 金森さんと私はね、女性の立場に理解を示した記事を書いてくれた男性記者に食事をご馳走したり、誉めたり感謝したりという努力を続けていましたね。また書いてもらいたいと伝えたわね。

金森 反対に変なこと書かれたら、二人揃って「ちょっと教えていただきたいことがございまして」って、それこそ笑顔で行くの。自信がないのに先人観や通念で書いていることが多いから、「イヤー!」とか言ってあわてる人もいたわね。

斎藤 均等法がポツポツ紙面に出はじめた、80年代はどうでしょうか。

松本 ここ数年、朝日、読売では二ヶタ単位で女性記者をとりはじめましたね。

佐藤 朝日は百人を超えました。私のところに、二十八歳の入社六年生がいるのね、彼女「女性記者は、私の先輩より後輩の方が多い」っていうわけ。

松本 だけど増えたとは言ってもまだまだだね。この間の選挙シリーズで女性の活躍してる写真が欲しいと思って写真部に行ったけど、女性のうなだれた写真しかないの。「負けても健気」というわけなのか、ともかく女をフォローした写真が少ないのよ。政治部、社会部に女がいない、ニュースセクションに女がいらないため、女性候補は「話題」としては取り上げて選挙の「大勢」に影響はないっていうことなのね。

深尾 テレビのニュースキャスターにも

女性が増えましたね。(国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会)の人たちが「なぜ、男はニュースで、女は天気予報」なのかとテレビ局に抗議を申し入れましたが、十二年後の今は女性ニュースキャスターが花盛りですものね。読売の時事川柳欄にも今年の初め「テレビ局ニュースに看板娘出し」という句が入選作として載っていました。

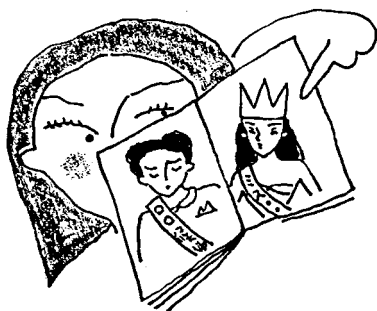
深尾 読売は女性記者が六十二人です。松本 共同通信はずーっと長いこと十三人だったけど少し増えた。でも二十人はいないわね。

増田 毎日とはことし大量七人採用してゼンたいでは五十人くらい。

佐藤 私のところなど、もう娘の世代の人たちが入って来てるもので「お母さん」なんて呼ばれてる。男性記者なんか「そんなこと言ったらお母さんに言いつけちゃう」なんて言ってる。女が増えて

ジョークが言えるっていうのはいいわ、私など年下のデスクに対して軽く言えるし。

金森 私は79年に女ではじめての部長になった時、相棒だった男のデスクがショックを受けて一週間ほど出勤して来なかったのよ。女の部長となんか一緒にやれないって（驚きの声）。佐藤さんも早くデスクになって頂きたいわ。やはりラインにも女性が必要よ。



新人類世代に期待する

松本 後輩の立場から言えば、先輩が定年前に辞めることくらいメゲることはないですね。それぞれに事情はあるけど、相談も何もせず辞めた先輩をみてこっぴどくメゲてしまってます……。

佐藤 とにかく五十歳を過ぎたらいろいろな事情がでてくるものよ。私はいつも男たちに「歩どまりは同じだ」って言うてるけど、ドーンと入社してきた人たちが、これから結婚・出産期を迎える。どうなるのかしらとも思いますね。出産して育児休業をとって職場復帰して数日で辞めた人も、現にいました。

増田 辞めた後で、パートと同じすごい安い賃金で働きながらものすごいバイタリティーでいろいろな活動やってる人もいますね。

深尾 たくさん入社してきた女性たちが、出産してもずっと働き続けるのか、あるいは退社して、フリーライターとして自

由な働き方をするかを選ぶ人も出てくるのか、今後注目したいところです。

佐藤 若い人と話していて面白いのは、今は六十歳定年でしょ。時々「あら、あなた可哀想ねえ。定年まで三十二年もあるのね」なんて言うのと「佐藤さん、そんな恐ろしいこと言わないでください」って言うのね（笑い）。これからの三十年なんて、ほんとに恐ろしいことよ。簡単に辞められるのも困るけど、若い人たちに絶対に辞めないことが正義であるという論理とか倫理とかを言うのもねえ。

深尾 十年は辞めないで、というのはどうかしら。

一同 そうねえ。五十歳までは、とかね。佐藤 入社四年生もね、「私だって両親がいるし、いつ介護しなくちゃならなくなってるかわからない」って言うから、「ウン。なるべく辞めるのヨシだね。そんなことになったら事前に私にひとこ

「と言ってね」って、その程度に言うようになつたの。時々「三十年いでも定年來ないんだ。私なんか、あと九年で定年だ、ザマアみるザマアみろ（笑）」って冗談言うんだけどね。これから人生八十年だし、「続ける」って意味が私たちの時代とは違ってきている、若い世代の職業倫理ってものを我々が柔軟な目で見ないといけないわね。

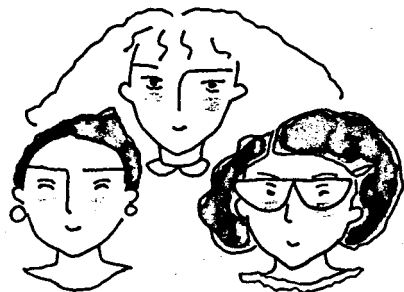
松本 それはやっぱり社会全体との相關關係で見ないとね。私たちが何とか職場にしがみついて來たのは、悪口いろいろ言いながらも年功序列、終身雇用型の企業にいて、それに乘っているからなのね。これが将来実力主義、能力主義の世の中になったら、男といえどもというか、男も女もなくどんだん実力での移動が可能になったら変わってくるでしょうね。私はそうになったら女の人にはむしろ有利だと思うの。子育ての時は家にいて、その代わりシコシコと腕を磨いておいて、ソレって舞台上に躍り出て試験なんかバンバン通っちゃって、スパッと論説委員か

なんかでデビューできれば、それは結構なこと、何もずーっと働き続けなくていいわけだね。

一同 それができればね。もう少し移動型でもいいわね。

佐藤 出向の波なんて、もう朝日では女性記者にも押し寄せてきていますよ。出版部にいる記者が技術革新の新しい会社の下準備にと、大阪の中堅記者が神戸のマリオンみたいな地域の住民向け情報誌に出向したりね。

私たちの時代は会社に入るのは難しかったけど、入り込めばごく少数派だったから移動も少なかったし、仕事も固定的にやれてきたのね。若い記者は数が多いだけにいろいろと男性と同じにやらなければならず、「洋子さんはうらやましい」「って言うわね。「うらやましいことないわよ。苦勞してきたんだから（笑い）」って言いながらも、彼女たちの言うことはわかるわね。これだけの数の中で生き残るのは大変だろうなって思うもの。



増田 競争も大変だしね、女性同士の競争もね。支局に何年もまわされるし。

佐藤 女性同士悪口言わないとか、連帯してとかいうことも、四、五人だから言えたのであってね、合わない人がいても我慢してということもできたけど、百人になれば男と同じパターンの人もいっぱい出てきて、出世志向も出てくるし、難しくなるわね。記者職も書く職場だけでなく、整理部にもすでに三人いるし、

出向する人も出てきて、男と同じに配分されるから、これからどうなってるかわからないわね。

松本 共同も、少なしとはいえ一ケタながら私たちと違う育ち方をしている人があるんですよ。地方の支局をダーツとまわされている人たちがね。そのトップがそろそろ戻って来はじめているんだけど、みんな文化部に来たがるわけ。結婚して子どもでも生まれればやっぱりフイーチャーセクションが楽なんですよね、泊まりはないし、大阪にしか転動個所がないし、しかも大阪は少人数だから行くチャンスは少ないしね。残りの所は全部泊まりはあるし、男と同じわけでしょ、行きたくないわけよ。ところが文化部にもそんなに女ばかりは要らない、ということになると、私たちの時代は平等に対して文句を言っていれば良かったけれど、彼女たちには平等の中で新しい工夫をして生き伸びなくてはならないという大変さがあるわけ。

一同 大変よね。そうね。

深尾 大変だけどそれくらいはやってほしい、という気持ちはあるわね。

増田 常に問題はあるわよね。

松本 そうは言っても、私たちはシフトの中の泊まりの勤務はやっていないからね。夜勤まではやってもね。それも例外的なね。

増田 只働きはしたけどね。

金森 みんな相当苛酷なことをやってきたわよ。

佐藤 うちでは現実に社会部と整理部の記者は、最低ひと月に二回の泊まりをやっているといっていました。私も学芸部の夜勤はずっとやったけど泊まりはやってないもの。

増田 整理部っていうのは激しすぎるからねえ。どうにもならないわね。

深尾 朝日がずっと先駆けでやってきたけど、新聞社もずっと育児休暇ができてね。

増田 NHKもやっととれたんだってね。毎日もあります。最近、二人、育児休暇とってバリバリやっています。休暇のあと

の対策がまた大変なようですけど、一人は両親に上京してもらって。一人は二重保育、小児科医の近くに住んで万全を期しています。彼女は女性問題の取材を懸命にしていたら、出産、育児の段階になって地域の婦人たちが全面支援してくれ、二重保育の受け入れ先も見つかったそうです。

松本 共同もあります。

深尾 読売はおとしからよ。

佐藤 朝日は私が息子を産んだ年だから、75年から一年間の休暇。私は大きなおなかをかかえて育児休業の原案を書いた。実際には私は取らなかったけど。

金森 「女は黒人か？」なんてタテカン（立て看板）つくったりしたとか。

深尾 読売もね、この十一月に出産する女性が第一号で取る予定です。五年前かな、入社してきた時「アラッ、育児休暇もないんですか」って驚いていたのでこっちは驚いたけれど。（一同大笑い）。育児休暇どころか女性を定期的に採用しだしたのはやっと最近のことなんだから。

で、初めから育児休暇があるわけじゃなくて、女性たちが少しずつ増えてきて、自分たちが要求して取ってゆくものなんだ、と言ったのね。私も子どもを二人産んだけれど、もう二十年も前のことで、そういう考え方すら社会にはない時代でしたものね。新しい制度やなんか作っていかなくちゃあね。

一同 本当にそうね。

金森 そろそろ帰らなくちゃあ。家が遠いものですから。

深尾 まだいろいろお話ししなければならぬことがあるような気がするけれど、斎藤 お約束の九時をとうに廻っています。ぜひ伺いたいお話がたくさんあるので、次回、次次回と、若い記者の方も交じえてまた計画したいと思います。今日は本当にありがとうございます。

増田 若い人たちが一線でどんな苦労しているのか、おもしろいと思いますよ。金森 私も読みたいし、聞きたいから傍聴させてほしいわ。よろしく。

(一九八七・五・六)

――出席者の主な著書――

金森トシエさん

『人物婦人運動史』（労働教育センター）

『女の社会学 男の家庭学』（新潮社）

佐藤洋子さん

『女の子はつくられる』（白石書房）

『子を持つ女が輝くとき』（教育史料出版会）

『子どもをあずけて働くということ』（大和書房）

『自由と自立への歩み』（朝日新聞社）

『新聞記者になって』（筑摩書房）

深尾凱子さん

『歩き出した女たち』（ELEC出版）

『モザイク社会の女性たち』（ELEC出版）

『カタカナことは』（サイマル出版）

『仕事と交際のマナー』（PHP研究所）

『ルポ・アメリカNOW』（読売新聞社）

増田れい子さん

『独りの珈琲』（鎌倉書房）

『いろんな瓶』（鎌倉書房）

『風の行方』（鎌倉書房）

『夢のゆくえ』（鎌倉書房）

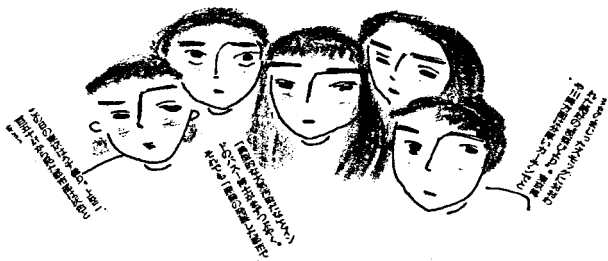
『ゆりかごの歌』（鎌倉書房）

『白い時間』（講談社）

『春の予感』（冬樹社） など



1970



六〇年安保に続く七〇年安保の決定的敗北は、多くの市民運動に大きな衝撃を与えた。

高度成長の六〇年代は「政治の季節」でもあったが、その高度成長の光も影も、七〇年代にきわめて鮮明になる。「経済の季節」と言われる七〇年代、国際的にはアメリカの経済的支配が衰退しはじめ、工業化国での公害問題が各地に多発する。史上稀れな高速高度成長を遂げた日本は、その影の部分もひときわ拡大した。七〇年代は「公害の季節」でもあった。

市民運動の衰退の中で、ひとり生彩を放っていたのは女たちだった。カナリアのように公害をいち早くかぎとり、果敢に問題を追及した。消費に密着する生活者として、企業という巨大な生産のメカニズムに立ち向かったのは主婦層を中心とする女たちだった。カラーテレビ不買運動のように業者を震え上がらせた実効ある運動も少なくなかった。

海の向こうの「女性革命」と伝えられていたウーマンリブ、ラジカルフェミニズムも上陸する。六〇年代の「ウーマンパワー」に代わって、七〇年代は「ウーマンリブ」の季節、そしてさまざまなタイプのフェミニズム運動が花開いた季節であった。

わが国初のリブ・デモ、続くリブ大会が衝撃を与えた七〇年代は、婦選獲得二十五周年、物価を追って共闘を繰り返していた主婦連・地婦連・婦民・有権者同盟など大組織が連合して記念集会、後の共闘の基礎を築く。

六〇年代の労働力不足を主婦労働力で補充した産業界は、「良質で安価な」この労働力を一層活用しようと、女子保護廃止の「労基法に関する意見」（東京商工会議所）を出す。内職、パートの問題は深刻、この年、家内労働法がようやく制定される。

〔ブーム〕万博、マキシ、SL、チリ紙交換、自動販売機（100万台に） 〔流行語〕ウーマンリブ、女のうらみつらみを男と権力に叩きつける、鼻血ブー、スキンシップ、ヘドロ

〔本〕グリア『去勢された女』亜紀書房『現代婦人問題講座』山手茂『現代日本の婦人問題』塩月弥栄子『冠婚葬祭入門』曾野綾子『誰のために愛するか』ペンダサン『日本人とユダヤ人』

〔TV〕縦の木は残った、細うで繁盛記、時間ですよ 〔歌〕走れコウタロー、夢は夜ひらく

〔映画〕イーザーライダー、明日に向かって撃て、エロスと虐殺、戦争と人間

〔物価〕牛乳25円、食パン1斤50円、もり・かけ100円、コーヒー120円 〔雇用者の平均月収（含賞与）〕女42,710円、男88,537円 〔女子の平均勤続年数、平均年齢〕4.4年、30.2歳 〔月間平均労働時間〕女 173.4時間 男194.2時間 〔雇用者中の女子の比率〕27.0% うち有配偶者18.3%

〔各国の賃金男女格差〕仏：86.9 豪：73.9 デンマーク：73.6 西独：69.2 英：59.9 日：50.9

〔物故〕大妻コタカ(1.3) 松尾千代(1.16) 近藤鶴代(8.9) 森田たま(10.31) 生田花世(12.8) エノケン(1.7) 鈴木茂三郎(5.7) 西条八十(8.12) 大宅壮一(11.22) 三島由紀夫(11.25) バートランド・ラッセル(2.2) ナセル(9.28) ド・ゴール(11.9) ニナ・リッチ(11.29)

1970年の主な出来事

1. 1 中国『人民日報』など、ソ連社会帝国主義を非難
- 1-4 日本医師会、医療費値上げで休診
- 7 国際通貨基金 SDR (特別引き出し) 第1回配分
- 4 中央推進協、コメ減産へ県別目標を了承
- 〃 沖縄基地労働者整理、8-9、19-23 大規模スト
- 〃 反戦女性被告30人が獄中でハンスト
- 13 医療費 9.7%引き上げ決定
- 14 第3次佐藤内閣発足 (通産：宮沢、防衛：中曽根)
- 15 ビアフラ降伏 (3年間で200万の戦死者)
- 21 主婦連等、チクロ食品不買運動
- 24 長沼ナイキ訴訟、札幌高裁で農民側逆転敗訴
- 28 メーデー事件17年9か月ぶり東京地裁判決、騒乱罪は第2衝突後に限定、無罪110、有罪も執行猶予
- 〃 金森老、大阪高裁の再審で28年ぶり無罪に
2. 1 ミンヘン大、低温保存による神経人体移植成功
- 3 政府、核拡散防止条約調印を決定。25年間核兵器をつくらず持たず、を世界に公約
- 11 国産衛星おおすみ、5度目に初成功 (世界4番目)
- 18 ニクソンドクトリン (70年代の外交政策) 発表
- 20 車の排ガス 8月から5.5%に規制を閣議決定
- 23 ガイア共和国 (旧英領ギアナ) 建国
3. 2 ロードシアが独立共和国宣言
- 4 福岡地裁、博多駅 TVフィルム差し押さえ。報道各機関、報道の自由侵害で抗議
- 5 核拡散防止条約が発効 (144か国)
- 〃 米繊維規制難航 (化・合繊維業者が反対)
- 11 ボーイング747羽田に。空も大量輸送時代に入る
- 〃 第1回生活を守る全国婦人対話集会
- 12 13か国40人の社会科学者、公害追放へ東京宣言。
- 14 万博、大阪千里丘で閉会 (9.13まで。77か国)
- 18 カンボジアでクーデター。シアヌーク元首相解任
- 19 両独首相、東独で初の会談
- 20 厚生省、スモン患者は2,689人と発表
- 31 赤軍派9人、より号乗取り (4.3全員救出)
- 〃 新日本製鉄発足 (八幡・富士合併)
4. 1 地価公示制スタート
- 〃 第1回ママさんバレー大会
- 5 周首相北朝鮮訪問、「日米帝国主義は敵」と声明
- 8 大阪地下鉄工事でガス爆発、死者79、負傷728
- 10 ビートルズ解散
- 10-16 第22回婦人週間「婦人の能力を生かす社会参加と家庭責任」(15-16 第18回婦人会議)
- 15 カンボジアでベトナム人大量処刑、メコンに死体
- 16 SALT II、ウィーンで本交渉
- 18 政府、長沼ナイキの福島裁判長忌避を申し立て
- 25 中国、人工衛星打ち上げ (世界で5番目)
- 26 西独製薬会社サリドマイド禍に100億円の補償金
- 28 新著作権法が成立。来年1月から50年に
- 〃 道交法成立。8月施行
- 〃 沖縄デー。全国で集会とデモ
- 30 カンボジアに米地上軍が出撃
5. 1 億万長者664人、大部分は地主。土地税制改革で
- 6 チェコ・ソ連友好協力相互援助条約に調印
- 7 札幌地裁、福島裁判長忌避を却下
- 8 家内労働法成立 (家内労働手帳を交付、権利保護)
- 17 アジア会議 (於ジャカルタ) 全外国軍撤退を要求
- 19 ILO、世界の15%が栄養失調と「貧困白書」発表
- 24 渡部節子、エベレストで世界女性高度新記録樹立
- 26 牛込柳町で鉛中毒患者発生。鉛汚染調査開始
- 27 水俣病一任派、50万円上積みで補償安堵
- 31 ベルー地地震で死者5万人
6. 1 ソ連、ソユーズ9号打ち上げ (19日帰還)
- 1-21 各地に反安保デモ相次ぐ
- 2 米、コラーナ博士、遺伝子合成に成功
- 3 北海ノルウェー沖に大油田発見
- 7 婦民、21支部を解散。新委員長に佐多稲子
- 14 種痘ワクチン禍続出
- 15 米最高裁、信念に基づく兵役免除を認める
- 16 平塚らいてうら9婦人、安保廃棄のアピール
- 17 英保守党逆転勝利、6年ぶりに政権
- 22 日米安保条約自動延長。反安保行動77万人
- 26 チェコ、ドブチュク除名。自由化運動に止め
7. 1 日本共産党、初の公開大会
- 3 北アイルランドで市街戦
- 7 厚生省、カドミウム事件でコメに安全基準
- 12 筏で大西洋横断 (57日間、ヘイエルダール博士)
- 13 福島裁判長忌避、札幌高裁でも却下。政府断念
- 14 日本をニッポンと呼ぶ旨、閣議決定
- 17 家永教科書裁判、文部省が敗訴 (東京地裁「教育権は国民に帰属、思想審査になる」と)
- 19 光化学スモッグ、東京で多発。硫酸ミスト10倍に
- 24 ヘドロで田子の浦港マヒ。対策協議発足
- 31 中央公害対策本部発足
8. 1 婦人経理士連盟、共働夫妻の配偶者控除引上げ提唱
- 2 銀座などに歩行者天国誕生
- 8 中東、3年ぶりに停戦。ケリなお停戦拒否
- 12 西独・ソ連、武力不行使条約に調印
- 17 資本自由化率80%を超すと外資審議会が答申
- 19 東京・神奈川・千葉、東京湾汚染を合同調査
- 25 アメリカ各地で反戦デモ続出
- 25 第16回母親大会
- 〃 侵略差別と闘うアジア婦人会議集会
- 26 全米各地でウーマンリブ大行進
9. 5 椿忠雄新潟大教授、スモン・キノホルム説を発表
- 6 アラブゲリラ、欧州で続々ハイジャック
- 7 厚生省、キノホルム販売・使用中を全国に指示
- 〃 地婦連、カラーテレビ不買運動を呼びかけ
- 19 田子の浦の主婦たち、ヘドロで市長に抗議
- 〃 PLO乗っ取り、ライラ・カリドの釈放を要求
- 22 米上院、マスキー法 (大気汚染防止法) 可決
- 27 カイロ和平協定にPLO・ヨルダン調印
- 28 ナセル大統領急死
- 29 コメ大豊作 (1,300万トン) で減産に失敗
10. 1 人口1億突破。1億277万4,949人 (沖縄の94万5,111人を除く) 1世帯3.72人、核家族化進む
- 8 ノーベル文学賞にソルジェニーツィン
- 〃 東京商工会議所「労基法に関する意見」を決議
- 9 カンボジア、国名をクメール共和国とする
- 14 東京地裁、歩道橋中止の国立市民要求を却下
- 15-16 第2回国際家族計画会議
- 20 政府、初の「防衛白書」発表、専守防衛を強調
- 〃 農林省、稲作にBHC、有機リン酸等、全面禁止
- 21 ウーマンリブ、初の銀座デモ
- 23 お産シーン初めてTVに登場 (フジテレビ)
- 24 テリにアジエン大新大統領 (初のコミュニスト)
- 29 佐藤総裁4選、全開留任
11. 3 婦人有権者同盟25周年
- 4 <北富士第二母の会> 結成
- 7 ウーマンパワー開発研究会議 (事務能率協会主催)
- 10 ドゴール死去
- 11 消費者26団体全国大会、公害追放、値下げ要求
- 13 東バキスタン、サイクロンで死者30万
- 14 第1回リブ大会「性差別への告発」(東京・渋谷)
- 15 沖縄で国政参加選挙、革新勝利。本土復帰批判
- 17 ソ連の自動月面車、8車輪で20m走る
- 25 三島由紀夫自衛隊に乱入、割腹自殺
- 28 チソ総会水俣病患者から社長包囲、わび状読ます
12. 1 イタリアで条件つき離婚法成立
- 2 社党、成田-石橋体制スタート
- 5 選挙制度審議会に久保田きぬ
- 7 西独・ポーランド国交正常化条約に調印
- 8 侵略と差別と闘う女集会 (東京・清水谷)
- 9 日中復交議員連盟発足 (379人、会長藤山愛一郎)
- 14 ポーランド暴動、各地に波及、事実上戒厳令下に
- ソ連「金星7号」金星に初の軟着陸
- 18 京浜安保共闘、東京・板橋の交番襲撃
- 〃 公害14法成立、「公害国会」閉幕
- 20 沖縄ゴザ市で反米焼き打ち
- 24 最高裁、飯守鹿兒島地裁所長を青法協差別で解任
- 27 婦連獲得25周年記念集会で22婦人団体が統一行動
- 31 沖縄親民と米軍衝突、射撃演習を一時中止
- 〃 金、外貨準備高40億ドル台 (44億9,900万) に

風潮

〔当世女事情〕

七〇年代の女はどうなる

朝日新聞が有識者百人に質問した結果、最も一致度が高かったのは性の解放。マスコミのセックス情報氾濫が拍車をかけ、「恋人同士が街頭でキスするようになる」はほぼ半数。ピルは副作用がないとわかればインスタント食品と同じように普及し、その結果、性がスポーツ化するを見る。

しかしバーや料亭はすたれるのではないかと見る人は特に経済人に多い。商談がビジネスライクになる、ホステスのなり手が減る、もっと刺激的な享楽がはびこる、などがその理由。

(1・1朝日)

佳人が減る

「出版界は好景気なのに男はスポーツ紙だけ。女はバッグに新書判」「若い娘が電話で『ウン』『やさしい心・静かにものを考える佳人がいなくなった』『だんなが交通事故で亡くなったら……』といつも考えているのが日本女性」「そこまで考えてるか……家も持った、亭主は課長、いつ部長に、が関心」「フェミニズムが勝利して、女が男の社会に入った。そうすると佳人であることは難しい」「若いコと夕飯食べても、まだ十時ネなんという。時間の觀念がない」「でも、親が結婚式は簡単に言うと、子が「結納もきちっと交わして本式に」と言ったり」「変わったという感慨は万葉の時代からある。同時に人間はいつも変わらない部分もある」(高橋義孝・夏目通利・塩月弥栄子の対談「世相を語る」)

(1・1朝日)

女のスカートどこまで短く

世界の流行に乗って我が国でもミニとパンタロンが主流に。さらに進んでスカートレスになるとの声も。(1・1毎日)

婦人自衛官に「恋人」の訓示

六日伊丹市緑ヶ丘の陸上自衛隊中部方面隊で行なわれた婦人自衛官三十九人の着隊式で、中部方面総監の渡辺博陸将(55)は「共產主義に毒されたもの、新興宗教にうつつを抜かすもの、町のあんちゃんといったものを恋人にしないでほしい」と訓示。

公明党は、「自衛隊の最高幹部が公開の席でこのような発言をしたことは、憲法で保障された、宗教の自由を侵すもの」と問題に。(1・7読売)

主婦のSEX病

動悸がする、からだがかゆい婦人が病院に続々。調べると週刊誌等のSEX記事が原因。

欲求不満から。(1・13朝日)

成人式のお祝いは

「今まではブローチだったけど金の指輪に」「うちは七、八千円の鏡台」「誕生石の指輪。一万円はかかるけど……」中卒の集団就職、六年も働いた子はいわいと、婦人服業者たち。一方、ドクトルチエコの性教育講話を企画するところも。(1・15朝日)

ミニと足入れ婚

「アンコ姿は窮屈でイヤ。ミニで働ける仕事がいい」「インスタントラーメンが作れたらお嫁に行けるサ」大島アンコも様変わり。だが、足入れ婚は依然として続いている。(1・16朝日)

少女小説セックスがいっぱい
「ジュニア文芸」「小説ジュニア」「女学生コース」の「三

家は、毎月二十一三十万部の売れ行き。中二、高三が対象。男女共学、吉屋さんの時代にはなかったテーマが生まれた」「おとなの世界へ入るための橋渡しを編集の基調としている」と編集者たち。キス描写は当たり前、教育界もあきらめ顔。呼び名も「少女小説」から「青春もの」「ジュニアもの」に変わりつつある。

(1・21朝日)

衣食足りて厚化粧

三十九年以来安定成長、一〇%前後の伸びだった化粧品が前年比二一・八%も増加。アイメイキャップ(九九・六%)、まゆずみ・まつ毛化粧(六〇・一%)、美爪(九四・三%)などの増加がその典型。「TPOで化粧を変える女性が多くなったせい」と業界。だが男性化粧品はほとんど伸びず。

(1・23朝日)

独身男はおしゃれ、女は貯金

経企庁の「独身勤労者消費動向調査」(東京・大阪・札幌・北九州の二十九歳以下、三、一七二人)によると、男性は昨年に比べておしゃれ、家財道具への消費が伸び、カラーテレビ、ステレオ、ゴルフ道具、自家用車等と被服費の増加が目立つのに対し、貯金・保険は女が男より三・一%も伸び率が高い。平均貯金高は男二四万五、〇五三円、女一九万八、八〇八円だが、これは男性の平均年齢が高いため。

(1・23朝日)

全国婦人会議の出席者募集

第二十二回婦人週間のテーマは「今日における婦人の家庭責任」。四月十五、六日、高山市で開催の会議出席希望者は、①職場で働いている②家業や内職で働いている③社会活動をしている④家事のみをしている、のいずれかにわたって感想文四百

字三枚を書き、婦人少年室かNHKへ。

(1・26朝日)

民芸が「あゝ野麦峠」上演

特定の主人公を対象としない設定はすぐれているし、「明治から大正へ」の幕切れで雪の山道を手をとりあつて歩む工女の大群は迫力あるが、「大正から昭和へ」では、ストの敗北と峠の象徴性と現代の三つの結びつきが甘いと劇評。(1・26朝日)

四月に第一回全国家庭婦人

バレーボール大会

四十六都道府県と沖縄代表四十八チームで開催。主催/日本バレーボール協会・朝日新聞社後援/文部省・日本体育協会・都道府県教育長協議会ほか。

(1・31朝日)

NHKで新家庭論

シリーズ「婦人学級」が発足。第一回は「結婚をきめるとき」。

現代女性が求める男性像を描く。五代利矢子、牧羊子、東山千栄子さんらが、娘時代の結婚観、理想の男性を獲得する確率などを展望する。

(2・2朝日)

未亡人ばかりの炭住

北海道栗沢町、雪の炭鉱閉山地帯に残るのは未亡人だけ。店や土地の値段もゼロ同様になった。

(2・3朝日)

昭和元禄、捨て子、虐待……

主婦パートの増加が拍車をかけている。産業都市川崎には地方から六畳一間のアパートへの移住者も多く、母親の結核と精神分裂、蒸発が多く、働くのに邪魔と、精神的に遺棄された子が激増。

(2・13朝日)

結納に代わって婚約式

婚約不履行に泣く女性が多いが、結納は売買婚の名残り、結婚調査センター(五百木文二

所長)が「婚約式」を提唱、婚約品も宝石でなくてもよいと、十六日発表会。(2・17朝日)

激増する新婚旅行

予約は九州だと三、四か月前、伊豆なら一か月前。国外旅行も最近はあるが、国内がほとんど。北海道なら六日、山陰山陽、九州なら五日、東北、北陸は三日が平均。チップ五百円、みやげもの三千元。(2・20朝日)

女性上位は小学校から

「ここ数年、すっかり女の子が強くなったようです」とぼやくのは台東区の男性小学校教師。クラス会でバツバツと男性群をなぎ倒したり、掃除当番のときアゴで男の子を使ったり、運動会の騎馬戦で勝ち残るのはほとんど女の子だったり…。その原因を都教育庁の指導主事は「今の小学生の母親の大半は33年以降の生まれ。六三制が発足

して中学校や高校で男女共学を経験、家庭でも発言権が大きくなったことを反映しているのではないか。街のファッションもモノセックス時代。『女らしく』とのワクがない限り女子が強いのは当然」と解説。

(2・21毎日)

根強く残る「結納」制度

「現代っ子カップルの八割が結納金を取りかわし、その相場は十万円。女性の四割は結納金をもらいつ放し」新宿の京王百貨店がまとめた結納調査の結果。「ヨメ買い」的な色彩の強い結納が根強く残っているのは不思議な現象。思想的な問題より「トクになれば」のチャッカリ精神の表れか。(2・24毎日)

女の旅に「三案」あり

欧米なみ夫婦旅行の代わりに日本では家族旅行か、夫は夫同士、妻は妻同士の仲間旅行。し

かし一番楽しむのは妻。行くまで楽しみに待ち、当日を楽しむ。帰っての追想を楽しむ。

(岡田喜秋「旅」編集長)

(2・27朝日)

おばあちゃんの行き場はどこ?

美容技術を習おうと二十九歳の主婦が団地新聞に「月二十日ほど子どもを見て下さる方」と老婦人を求めたところ、家出志願の十人もが名乗り出た。が、いざとなると家族が「立場がなくなる」と猛反対してまともらず。ちなみに67歳以上の婦人の家出は67年八四七人、68年一〇五七人(警視庁調べ)。

(3・2朝日)

講師も感動、婦人大学

平均年齢四十歳、目の輝やきがすばらしいと講師陣が絶讃。一年前開講の世田谷婦人大学、百四十人入学して進級百十人、皆勤七十人。(3・8朝日)

神近市子さん、

「エロス+虐殺」の上映禁止訴え

現代映画社製作の「エロス+虐殺」(吉田喜重監督)にモデルとして登場する神近市子さん

は上映中止をたびたび申し入れていたが、同映画が十四日から上映されることになったため、プライバシーの侵害と名誉棄損を理由に、東京地裁に上映禁止の仮処分を申請する。

同映画は関東大震災の最中、憲兵隊に虐殺された無政府主義者、大杉栄をとりまく三人の女の愛を、現代の青春と対比させて描いたもの。(3・10各紙) 仮処分申請に社党若手反発 法に訴える前に手はなかったか、と上田哲氏ら。

(3・11朝日)

仮処分申請に監督協会が抗議

表現の自由を侵すもの、と

(3・12朝日)

上映禁止は却下

名誉棄損にならぬと東京地裁

が決定。(3・14各紙)

神近さんが抗告

「人格権」を軽く見ていると
抗告。高裁で争うことに。

(3・17朝日)

「エロス」論争をめぐって

日本人好みのヤジ馬根性。

婦人解放の歴史的産物の中の
セックス問題が社会党内部で大
論争とはまことに寒い。(男
性・会社員・57)

直感だが、何となく上すべり
な感がある。映画衰退期、大衆
の劣情にナマでぶつけた題名で
はないか。このような題名もつ
けず、またモデルの死後でも心
ある人にアピールするものこそ
価値ある作品では。(東京・主
婦・37)

神近さんを敬愛して作ったと
いう監督の言を信じたい。若き
日の刃傷沙汰は人格低下にはな
らない。むしろその情熱でこそ、
女性のために闘ってこられたと
信じる。(倉敷市・無職・女性

・55) (3・21朝日)

映画を見て女性解放運動家神
近市子さんを知りたい衝動にか
られた。題名にとられ報道や
直感で論じるのでなく「事実」
をとらえないと、国家権力によ
ってプライバシーなどは簡単に
に侵されるのでは。(東京・学
生・21) (3・29朝日)

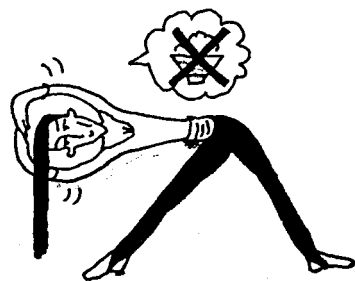
沖縄全軍労に

女性が名も告げず百万円
クビ切り撤回のために闘って
と若い女性二人が総評を訪れ百
八万円余をカンパ、だまって立
ち去った。「東京で働く女子事
務労働者」「保母一同」などの
手紙が添えられており、都内の
女性の職場で集められた模様。
男性にもない巨額に総評はビッ
クリ。(3・15朝日)

「やせる本」十三万部

歌手の弘田三枝子さんが書いた
「ミコのカロリーブック」が

ベストセラー、書店も出版社も
品切れに悲鳴。「やせたい女の
心理をずばりつかんだことと、
テレビにカッコよくやせた実物
がくり返し現れていること」が
その理由。(3・19毎日)



女の問題、女同士で
婦人少年局と海外技術協力事
業団の招きでアジア七か国から
八人の女性エリート官僚(子ど
ものある人がほとんど)が来日、
婦人問題セミナーを研修。

(3・21朝日)

売れっ子女子短大生

ここ何年か、就職戦線は中卒
者の「金のタマゴ」のうわさで
持ち切りだったが、「銀のタマ
ゴ」の高卒者も減る一方。今年
は売り手市場で元気がいっぱい
の短大生、そのかげで泣く四年制
大学の女子学生。(3・22読売)

「婦人図書」から「家庭図書」へ

家族の意識変化は本の売れゆ
きにも影響。男性が家事の分野
にクチバシを入れ、「家事秘訣
集」(犬養智子)「スパルタ教
育」(石原慎太郎)「冠婚葬祭
入門」(塩月弥栄子)等がベス
トセラーに。著者のサイン会の
四割は男性。「家庭で男女両方
に共通な話題が成立する地盤が
もうできているのでしょう」と
は光文社編集長、長瀬博昭氏。
(3・22毎日)

女性マージャン教室大盛況

去年十一月、神田で開講、た

ちまち札止め。家庭麻雀になれば麻雀ウイドウから解放されるという主婦、恋人が雀キチという若い女性、お茶にもお花にもあきたという老婦人など。

(3・22朝日)

『それいゆ』『ひまわり』復刊

『女の部屋』と名を改め、三月下旬創刊。「繁栄で大きなものが失われつつある中、ものを考える心を培っていきたい」と、中原淳一氏。表紙は同氏。

(3・25朝日)

女性雑誌は恋愛専科

各誌の「新入社員」企画は結婚の手くだのみで、働く意識はそっこのけ。女子社員に求める男性の声は「すなおで女らしくあれ」

(3・26朝日)

不気味な女房群

理由のはっきりしない女性からの離婚申し立てがふえている。

努力して絆を保とうとせず、第二の人生はすぐつかめるという気持ち。慰謝料もハネ上がり一億円も出てきた。浮気もしないが面白味のない夫を嫌う。日立家電の主婦二十万人調査では「亭主閨白」一二％に対し「女房にベタボレ」二八％。「結婚相談失敗集」でベストセラーの島津久子家裁調停員が頭をかかえている。

(3・26朝日)

お母さんみたいなお父さん

明星学園の室谷幸吉教諭が初等部二、三年の家庭六十を調査した結果、「父親の仕事」のイメージは①定職②家庭雑役③掃除と食事④買物とフロタき⑤裁縫と洗たく。「共かせぎでない家庭でも家庭作業で父母の分担が次第に増えている」と同教諭。

(3・28朝日)

高額所得者番付に新顔

一日公表された東京国税局の

四十四年高額所得者一覧でバーのホステスさんが初めて高額所得者番付(年間五百万円以上の所得)に顔を出した。高額所得者六百十九人のうち女性は八十三人。所得五百万円の大台を超えたホステスさんが三人。いずれも二十代で独身。実質夜三時間半働いて稼ぎ出したもの。時給にして一万四千円。それに比べて主婦のパートは二、三百円。

(5・2毎日)

『亭主の世話』は最下位

「家庭内で大切なことは、夫の世話よりもまず料理。家事はできるだけ合理化し、自分の楽しみを持ちたい」アイディア・バンクの東京の主婦のアンケート調査で。

(5・9朝日)

ふえる「母のない家庭」

全国社会福祉協議会がまとめた、全国初の「父子家庭調査」の結果によると、子どもを残し

て蒸発する母や、交通事故で死ぬ母、離婚の増加で、父子家庭が増えている一方、福祉の手がさしのべられず、子どもの養育などに困りはてた父親が増えているという。

(5・11朝日)

ヌード野放しテレビCM

最近のテレビCMには、女性のヌードを売りものになっているのが多い。一つのスポンサーがヌードを売りものにする、他のスポンサーは宣伝する商品に関係なくすぐ追従し、さらに輪をかけたような宣伝をする。今のうちにテレビCMの基準を明確にする必要があるのではないか。

(5・17読売)

命の値段、女は男より安い

交通事故などで命を奪われた場合、遺族に支払われる損害賠償額は命の値段。相手の誠意や支払い能力、被害者の条件などによって、本来変わりの

ないはずの命の値段に差がでる。日本人の命は欧米人よりはるかに安く、女性の命は男性より安いのが普通だ。注射でショック死した四十六歳の主婦が百三十万円、車にはねられて死んだ六十五歳の茶華道教授が四百九十二万円。同じ職業でも評価はまちまちだが、無収入の主婦でも、女子の平均賃金を基に逸失利益を計算して「内助の功」を評価しようとする傾向も出てきた。

(6・3 読売)

結婚デモ行進

挙式した教会から新居までの二キロの道のりを友人らと結婚デモ行進をした若い新郎新婦。歌を歌いながら手には「沖縄即時無条件返還」「産業公害をなくそう」などのプラカード。

(6・8 朝日)

歩道橋は酷道

歩行者は上へ下へと追いやら

れ、乳母車を押して歩く母親には悩みの種。車イスの人には「外出禁止」の宣告にさえなっている。

(7・2 朝日)

私の赤ちゃん預かって

「こども好きの方にー」という書き出しで東京四谷に住む共かせぎの若い夫婦が新聞折り込み広告を出した。親類は遠く、相談に行った区役所では「六か月以上たってから」と言われ「働く女性は一千万人もいるのに保育園はあまりに貧弱」と、途方にくれている。(8・18 読売)

赤ちゃん広告へ電話殺到

若夫婦に、一日五十二件の電話、預ける人も決まった。

激励組は女性が圧倒的に多く

「ひとこととは思えない。がんばって」「金目当ての人には赤ちゃんを預けてはいけない」など。逆に非難組は男性が多く「妻の仕事をやめさせて子どもの世

話をするのが当然。夫がだらしない」「甘えるな。計画性が無い」など。(8・19 読売)

女性校長、二百人に

文部省の調べによると小学校の女の校長が全国で二百人になったが、ふえたとはいえ、公立小学校百二十校に一校程度の割合。(9・1 朝日)

青少年水泳教室の

申し込みにママの列

千駄谷の国立競技場前にモータースタレーの列。「スワナにと」と聞いてみれば十月から始まる初心者水泳教室の申し込み。定員男女百人ずつのところ、前夜から十三時間も並んだ人を入れて五百人ものママさん。(9・9 毎日)

女性だけにおカネ貸します

銀座に、二十三歳の社長をはじめオール女性で固めたサラキ

ンが「男性お断り」を看板に開店。ギャンブルや飲み代につき込む男性と違い、女は生活のエンジョイのため借金をし、返済も確実という。(9・20 毎日)

女性の能力高めよう

労働省が主催する第十八回働く婦人の福祉運動の行事として「婦人職場指導者セミナー」が開かれた。

各職場から参加した中堅的立場にある百人の話を総合すると、女性社員に対する教育訓練は、客との対応や業務に関するもの、教養や人間関係を中心に行なわれ、男性の研修はもっぱら業務中心。チャームスクールに行かせた電機部品メーカーも。「真に能力を高め、それを生かしたい」とのまともに多くの共感があつまった。(9・28 朝日)

野菜安売りに主婦五千人

練馬で開かれた野菜の安売り

市にどつとくり出す主婦五千人。
ジャガイモ一キロ三十五円、タ
マネギ一キロ五十五円と市価よ
り二―五割安。二時間で売り切
れ。

(10・3毎日)

デパートのおそうざい売り場
繁盛しているデパートのおそ
うざい売り場、客の四割は男性。
大都市で独身生活を送る男性が
ふえた、夫族がわが家の食卓に
満足していない…の面説あり。

(10・12毎日)

百円化粧品 静かなブーム
地婦連が賢い消費者運動の一
つとして会員に売ってきた「ち
ふれ」が、全国でざつと三百万
人に普及。「女性がようやく真
実に気づきはじめた証拠」とい
うのが地婦連の分析。

(10・19朝日)

理・美容師さん男女交替中
男性美容師が急速にふえ、床

屋さんには女性が進出中。東京
の美容学校では、百十五人中、
三十一人が男性。理容学校では
男性四割、女性六割の比率。

(11・8読売)

オンナ・カタカナ業
パブリシティガール “たば
こやの看板娘”を企業戦略に応
用、車のショールームなどで客
の相手をする。

エアポートホステス 空港で、
依頼に応じて外人客を出迎え、
指定されたホテルまで送り届け
たり、空港内の案内、国際会議
の通訳など。日本空港ビル会社、
航空接遇部に所属。

ディスクジョッキー 喫茶店
で、レコードを選び、その曲に
まつわる話をする。タレントプ
ラスアナウンサーのよう。

コピーライター 感覚的で、
火花のようには消えてゆく
広告文章をつくる。CM教室
花ざかり。

パーティコンパニオン 飲ん
じゃいけない。食べちゃいけな
い。お客さまに飲みもののおか
わりをあげ、お料理をとってあ
げ、まんべんなくサービスする
のがつとめ。

スタイリスト スタイルを作る
人のこと。モデルを捜し、帽
子・くつ・ハンドバッグ・頭か
ら足の先までみんなそろえる。
センスとフイリーングがボイン
ト。

タイムキーパー テレビの番
組をつくる時のタイム係。場面、
場面の時間をはかり、時間内
におさまるように監視する。TB
S制作部のタイムキーパーは現
在三十人で、うち十人が女性。

(11・12月連載毎日)

党再生はウーマンパワーで
社会党田中寿美子さんは大会
で「婦人の力を吸い上げなけれ
ば党勢は回復は困難です。社会
党には婦人代議員が少ない。地

方選でも勝っているところは婦
人の力が強い」と婦人軽視の社
会党の体質をチクリ。

(12・2毎日)

主婦連の大安売りが大人気

四谷の主婦会館で開かれた不
要品交換会に、物価高に悲鳴の
主婦五百人がつめかけ、大混乱。
(12・3毎日)

【進出】

女性電報電話局長が誕生

影山裕子さん(三十七)は一
月二十六日付で三多摩初の女性
の電報電話局長に就任。

(1・27毎日)

万博ボディーガードに婦人警官
十人が特訓を受け、要人を待
機中。
(2・20朝日)

高島屋に女性部長

女性で初めて百貨店の部長に

なった石原一子さん(四五)二
児の母、部下の数二百人(うち
女性百五十人)、部下のうち課
長六人、主任十二人はみな男性。

「部長に求められるものは、優
れた判断力。部としての利益責
任も厳しいが、部下の気持ちをつ
つかんでやり抜きたい。幸い健
康にめぐまれていけるし心臓も強
い。私は主人の帰宅を待つハウ
スワイフはいや。といって独身
もいや。仕事と妻の座の両方を
生かしたい」(2・23毎日)

初めの東大教授に中根さん
四月一日付で東大教授に発令
される文化人類学の中根千枝さ
ん。インドの研究、「未開の顔
・文明の顔」「タテ社会の人間
関係」等の著者として有名。「教
授なんて、いわば役所の課長の
ようなもの。上からの仕事も下
からの仕事も殺到する。一番忙し
いポストですよ。大学院なんか、
まだ紛争中ですし、思いやられ

ます」「いまいる女性助手に早
く講師になってもらって、仲間
をふやさなくては」
(3・12毎日)

独立ディレクターで腕ふるう
レコード界で大活躍の松村慶
子さん、武田京子さんなど。
(3・29朝日)

グライダー部員半数は女子
顔は真っ黒。男性部員を圧倒
する学習院大。(3・29朝日)

女性の高度新記録
エベレストに初めていどんだ
女性登山家、日本山岳会エベレ
スト登山隊の渡部節子隊員(三
一)が十七日サウス・コル(七
九八五メートル)に到着、世界
の女性の高度到達新記録を樹立。
(5・24読売)

ヨットで初の世界一周
日本人初の西回り世界一周の

ヨット「日鷲」が帰ってきた。
乗組員は女性一人、男性二人の
冒険トリオで、出港以来四百七
十五日めの帰港。(8・22毎日)

プロ運転手募集に女性殺到
トラック、陸送、タクシーな
ど運送業界の深刻な人手不足に
女子学生、未亡人、主婦のバー
トの進出が目立つ。

「小型トラックの女性ドライ
バーを求む。月給五万円以上」
の広告を出した中小運送会社に
は一日で七十件以上の電話、三
十人が面接。(9・29朝日)

紅一点のプロ・コック
二十一歳になったばかりの東
海林みつ子さんは女人禁制だっ
たプロ・コックの職場の力べに
いどんでいる。(10・17朝日)

世界最大タンカーに
初めて女性の乗組員
梅原和子さん(二〇)は、「日

石丸」の司厨員として、来年か
ら日本とベルシャ湾を往復する。
「毎日毎日満員電車でゆられて、
机にむかって同じ仕事をくり返
すより海のほうが」
(11・22読売)

七期連続当選の女性町長
岐阜県本巣郡穂積町長で現職
の松野友さん(五八)は、任期
満了にともなう町長選で対立候
補がなく七選を決めた。
(11・24読売)

選挙制度審議会委員に女性
国連総会の日本政府代表代理
を三回、日本婦人有権者同盟副
会長、国際法律家委員会日本支
部事務局長の久保田キヌさんが
就任。「いくら答申しても政府
がいうことを聞いてくれない。
ああいう審議会に入っても無意
味なんですがね……」「しかし
何ごととも一挙にはいかない。気
長に少しずつよくしてゆく努力

を忘れてはならない」「議員定数のアンバランスの是正と、政治資金の規制をまず第一に改正したい」
(12・5毎日)

台東区長候補に女性

「女性の権利を復活させたい」と、台東区議会が公募した区長候補者に主婦が名乗り。〈権利を守る市民会議〉の代表、中谷君恵さん(四二)。「本当に区政を区民の手に取り戻し、女性とくに主婦の権利を復活させたい。もちろん勝敗は最初から度外視」
(12・6毎日)

〔主婦パワー〕

主婦に実費で団地大学
講師は住民、専門家ぞろい、
三か月千三百円で、簿記・珠算・妻の人権などを。小金井市の公務員住宅(八八八世帯)自治会の試み。
(1・13朝日)

婦人の夜間講座

日米関係を中心に国際政治を学ぶ講座を二か月間、婦選会館で。聴講料六百五十円、講師は緒方貞子氏。
(1・21朝日)

海外赴任者の妻の研修

ファミリースクール(波多野勤子理事長)で実施、好評。「年配の方でもミニのほうが目立たない」「さしみ包丁はぜひ持参して」「ペラペラ話すより内容のある会話を」など。
(3・13朝日)

ママさんバレーのねらい

現在は全国で約五万チーム。二年連続出場不可は最善とは思わないが、過当競争や強化合宿は防げる。家庭を放ってまで参加にはしたくない。バレーを家庭婦人の日常生活に浸透させるのがねらいで、今年はすべてテストケース。夜は子どもとの教育など話し合う会を持つ。(座

談会・大松博文、中村昌枝ほか

(3・19朝日)

石川県に花咲く女性同人誌

四十一・六十三歳の金沢の主婦四人で五年前に創刊した「朱鷺(とき)」は、コスモス賞受賞。ほかに「北陸文学」や小松市の「青」、詩誌「笛」「わが村」等で主婦作家が活躍。
(3・25朝日)

ふえた主婦ボランティア

身障者などに接して「もの考え方すっかり変わった」「生きがいのある人生」と好評。「主婦が主体性を持つようになったのが原因だが、他人のためにしてあげると思うのは不遜」と関係者。
(3・27朝日)

黙っていられないと主婦の文集
杉並に住む主婦が中心になって安保条約の勉強会を開き、戦争の歴史を学ぶうちに、「いま

日本は本当に平和だろうか」ということがみんなの疑問になった。勉強の成果や感想を書きとめたくて、五十ページ足らずの小さな文集が発行される。
(5・12朝日)

ゼロ歳児保育に、安売りに、

おかあさんパワー結集

葛飾区の金町駅前団地では、「団地内に保育園がほしい」の声が当初から起きていたが、お役所仕事は待てないワと、おかあさんたちが昨年十二月へ共同保育の会をつくり、「こぶた保育園」が発足。五人のおかあさん保育さんにゼロ歳児ばかり七人、保育時間は午前八時から午後六時まで、保育料は月一万二千元。

産地直送の安く新鮮な野菜を仕入れて、「物価戦争」にと四月一日、生協を発足させたのは江東区の都営辰巳団地のおかあさんたち。市価より一―三割安

くて新鮮な生鮮食品はアツという間に売り切れ。「団地内の商店(二十四店)の値段は高すぎる」と商店会に実力行使。

(6・1毎日)

予防接種全部無料に

千葉県船橋市では、「予防接種を無料に」という母親たちの十年間の運動が実を結び、全国で初めて全部の接種が無料に。市役所へ日参するなどしてがんばり、三十九年から一歩ずつ実施されて、本年度ついに、最後の日本脳炎も無料になったもの。

(7・9毎日)

女の一念市長を動かす

「金のことは考えずにゴミ公害対策をやる」と三鷹市長は、市役所前にすわり込んだ二十六人の主婦に約束した。

三鷹市のふじみ清掃工場の悪臭・騒音・ばい煙に「もうこれ以上耐えられぬ」と市長に直訴

した主婦らは、すぐに実行をと直訴したもの。

(8・11朝日)

法律学が主婦グループ

アパートを経営している主婦が「地主や入居者とのトラブルに悩まされて」呼びかけた法律を学ぶ会に、あつという間に三十五人が集まり、「夫は家のことはすべて主婦まかせ。せめて弁護士に頼んだ時、遅すぎた」なんていわれないよう」と大張り切り。

(9・1朝日)

主婦の趣味・多様化

余暇時間をもて余した主婦たちの趣味が多様化し、ボウリング、マージャン、ゴルフ、ビリヤード、園芸、佐賀錦、文学散歩、うまいもの食べ歩き、長うた、陶芸、作法、ペーパーフラワー、デパートの文化教室は花ざかり。

(9・13読売)

(リブ)

米国の婦人解放運動家

シャロット・パンチウィー

クさん(二五)ワシントン周辺の

の大学を借りて婦人問題の教べんをとっている社会教育家で、アメリカ婦人解放運動のリーダー。①女性自身が、自分たちの地位をまず認識する②自衛のための空手や自動車のメカニックの勉強③社会を変革するための活動の三つを軸に活動中。女性解放運動は理論からではなく、ごくごく身近な日常生活から始まる。職業・給料の差別、中絶、産児制限の問題、そしてアメリカ自身の問題。アジアで「だれのために戦争しているか」という問いかけにまで活動は広がっていくと語る。(5・19毎日)

夫が語る「性の政治学」

「本の題名は『セクシャル・ポリティックス』。政治的關係

としての二つの性の関係ということで、力とか支配という政治的關係として男と女をとらえている。アメリカの女は強いとか自由だとか言われているがほんとうの自由は与えられていない。何が女性を束縛しているのかを追求しようと思ったようです」と、ケイト・ミレットの夫の吉村二三生さん。

「ボクは買物がうまいし、ケイトはガラスをよくふく。きめられた役割なんて一つもありません。独立した一人の人間として生きようというリブ運動は、非常にまじめなもの」と吉村さんは言う。(9・2朝日)

女らしさってなあーに

ウーマンリブグループのへぐるーぶ(聞うおんな)とへ女性解放運動準備会は、六月ごろからセミナー活動が続けてきたが、10・21国際反戦デーに「女性解放統一行動」を起こそうと、築

地署にデモの許可申請。

スローガンは「女から女へ訴える」「女が生きたとは何か。われわれは本当に女か。女らしさのサル芝居に幕をおろすときが来た。今こそこの手で！」と男性社会を告発。

(10・20朝日)

やりますわよ、おんな解放。

米国などに広がっている「ウーマンリブ」の日本版がはじめて街頭に進出した。へぐるーぶ・闘うおんなへ女性解放運動準備会」のメンバーで、ほとんどが二十・二十五歳の会社員、学生、約二百人。銀座に女だけのシブレヒコールが響いた。

(10・22朝日)

渦まく、おんなの論理。

ウーマンリブ運動の背景
今年話題の「ウーマンリブ」は次々とデモや集会をやっているが、戦前からの婦人運動とど

う違うのか。なぜ、今の時期に起きたのか。

リブには二つの流れがある。一つはベ平連、反戦、学生運動に参加していた女性たちが、「男の反体制運動はニセモノ」だと指摘し、「女であることによつて辱しめられ、虐げられた者たちの哀しみや、呪いや、身悶えがこの人間の歴史の中にうじゃうじゃしているのに、男の論理で貫かれた歴史は、それをブルジョアジーとプロレタリアートの対立の中に解消してしまう。われわれ女は、そのような男たちの革命を信じない。一方で民族差別をうんぬんし、一方で女を差別する男の革命を信じない」(お茶の水女子大学祭のパンフから)。

もう一つの流れは「草の根リブ」。ここ数年、女性史、女性問題を研究する女性グループが続々とできた。「女の性」「結婚」「女の自立」「育児の社会

化」「中絶」等のテーマを学習する中から「女らしさ」「夫婦関係」を問い直す女たちが出てきたのだ。

これらの女性たちに共通するのは「未解放」の実感であり、「男女平等」ではなく、「女性解放」を主張。女であることを否定せず、本当の女が人間らしく生きる社会を考えたい、と。財界も労働力不足を補うため

「ウーマンパワーの活用」を言っているが、彼女たちは単なる社会進出は望んでいない。女性の労働力化、商品化、多産の奨励といった状況こそ女性解放運動を生んだ背景であろう。

(12・1朝日)

ウーマンリブの意味

日本でもウーマンリブが注目を集めているが、これは今夏のアメリカのそれに影響されたもので、日本にその必然的下地があったからである。日本は憲法

によって戦前の差別的法制度は形式的には解消した。しかし現実的には差別がある。高い教育を受け、経済成長によって家事、育児から解放された女性が「女とは何か」と問いかける意識革命がリブである。「まだ女のおしゃべりだ」と見る向きも多いが、これからまとまってゆくのだろう。(12・8毎日・社説)

男とカメラはお断りで集会

「12・8侵略と差別と闘う女集会」が東京・清水谷公園で二百人を集めて開かれ、「靖国之母に甘んじていた古い女性の座から立ち上がれ」「女の人格を認めない中絶禁止法を粉碎しよう」と訴えた。へぐるーぶ闘うおんななどの呼びかけ。

(12・9読売)

社会党にもウーマンリブ

戸叶里子氏が社会党代議士会会長になった。「ウーマンリブ

がはやっているからでしょう。何のとりえもありませんが誠意と努力で……」と就任の弁。

(12・16朝日)

元祖ウーマンリブが気炎

十七日は女性が参政権を得て二十五年目。東京で「婦選獲得二十五周年記念集会」が三百五十人を集めて開かれ、奥むめお、久布白落実、平塚らいてう、山高しげり女史には花束が贈られた。参加者に若い人が少なく、「婦人運動の同窓会」といった感じ。

(12・18読売)

教祖田中美津さんは語る

「女を女として生かさない社会体制解体の闘いになるでしょうね。物価闘争、消費者運動、いろいろあるけど、子殺しをする悲惨な女たちが現実に出てきている。ご時世にダイコンの値段ばかり言っているのは、本質的に女性べっ視よ。もっと根本的な

問題にかかわり、女が女として解放されることが人間として解放されることでなくちゃならないのよ。人間は本質的に「個」だと思ふ。個だからこそ、その悲しみを分かち合うためにコミュニティトしたい。いたわりあいたい。それが性。長い間、性はきたないものの、影の部分として抑圧されてきた。性を否定するために人間が根源的に人間でなくなる。性を否定から肯定へ。それが女として人間として生きることに通じる」

(12・29読売)

集会・活動

チクロで厚生省に抗議

主婦連、春野副会長らが、チクロ入り食品の回収期間延期に抗議。二時間かけて局長を採し直訴。

(1・10朝日)

チクロ不買運動

「チクロ追放」を厚生省が二月末から九月末まで延長したことに抗議して消費科学連合会と、主婦連、日本婦人有権者同盟などが主催して「回収延期を中止せよ」「チクロ、人工甘味料入り食品は不買で追放」と気炎。

(1・22毎日)

厚生省、欠席戦術

主婦連・地婦連・有権者同盟などによる「チクロ追放消費者会議」に、厚生省は一月の第一回に続き今回も「国会が忙しいので」。

(3・26朝日)

表示シリ抜けに主婦連カンカン

缶詰にチクロと明示してあったのは三十分の一。厚生省、都衛生局に嚴重抗議するとともに小売業者を食品衛生法違反で告発する方針を決めた。

(3・5朝日)

表示なしを取り締まれ、と集会

「危険な食品を追放しよう」と「第一回生活を守る全国婦人

対話集会」(新生活運動協会)が十一日集会。全国各地婦人団体連絡協議会、主婦連など七団体約七百人が参加、「チクロ入り缶詰はラベルが貼ってあることになっているのに調査したら三十店のうち一店にしか貼ってなかった」「国会で添加物の総点検をする」と総理が答弁したがどうなっているか」と鋭い質問。厚生省食品化学課長は「ラベルは徹底するよう通達を出した。点検は前向きにやっている」と回答。

(3・12各紙)

女性被告三十人ハンスト

筆記用具で労働者差別」と

十月の国際反戦デー、十一月の佐藤首相訪米阻止事件で起訴・拘置されている女性被告のうち、約三十人が、十三日朝から東京、東池袋の東京拘置所内で集団ハンスト。十一月闘争関係の女性被告約六十人のうち、反戦労働者約四十人だけが、「労

働者は勉強する必要がある」と

監房内でのノート、ボールペンなど筆記用具の使用を禁止されたが、学生や教員被告らは使用が認められていたため、騒ぎ出したもの。騒ぎは、たちまち女子房全体にひろがり、十二日朝、学生被告も共闘を組み、いっせいにシュプレヒコール。十三日朝から、学生を含め約三十人のハンスト。

(1・15読売)

毎月テーマを決めてデモ

他のデモに参加していたへ草の実会が、こしから毎月十五日に自主デモを。第一回の二月十五日は「再軍備よりも社会保障を」がテーマ。

(2・14朝日)

妊婦を保釈してとデモ

10・21国際反戦デーに拘置された妊娠七か月の被告(二七)の釈放を、と、十四日夕、東京大塚公園で集会、四百五十人が

東京拘置所わきをデモ。

(2・15朝日)

都議の日当値上げに抗議

婦人有権者同盟代表は都と都議会各党に「日当引き上げは審議会を設け都民の声を聞くべき」と抗議。

(3・4朝日)

ジャンブル全廃の全国運動を

主婦連・婦人有権者同盟など十団体でつくるへ都政をよくする都民会議は東京・永田町の参議院議員会館で集会、都営ジャンブルの廃止を推し進めるとともにこの運動を全国へ広めることを決議。(3・20毎日)

保母さん十人、都議会で騒ぐ

東京都議会、厚生文教委員会で二十四日、都が四月から実施しようとしている特例保育率(保育時間は原則として八時間だが、共働きのため例外として十時間保育を認めている保育児

の比率)の五%から一〇%への引き上げに「労働強化だ」と、都保育労働者共闘会議系の保母さん十人が突然発言を要求したため、議場騒然。保母さんらは巡視員が出動して廊下へ追い出された。

(3・25毎日)

相変わらずの暴力・ハダカ

地婦連がテレビ番組とCMの実態調査をしたところ、「ジャンケンでハダカになる遊びが流行して困っている」「ザ・ガードマンの影響で小学高学年生に暴力礼賛の行動が目立ってきた」；などテレビ公害が浮きぼりに。結果をテレビ会社やスポーツサーに送り、茶の間防衛に全力をあげることにしているが、家庭の協力がなければテレビの俗悪化は食いとめられない。

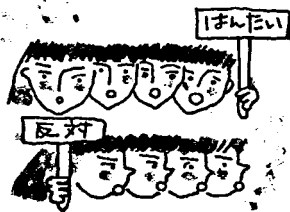
(5・11毎日)

安保反対デモに婦人たち

日米安保条約は二十三日、自

動延長される。東京では毎日、安保反対のデモが行なわれているが、女性の姿が目立つ。女性解放を叫ぶウーマンパワーの爆発は世界共通だが、日本でも、家庭にとじこもっていた人たちがデモに参加するようになった。

(6・20毎日)



「三十一歳定年」はひどい

盛岡市在住の大沢米子さんは、四月二十九日、勤務先の県経済農業協同組合連合会から、準職員就業規則による三十一歳定年退職の辞令を受けた。大沢さん

は「三十一歳で仕事の能力が落ちるとは思わない。特に女性には中堅職員にならないとする制度は、人権と人間性を無視した男女差別で基本的権利を侵すもの」と、近く八重樫会長を相手取り盛岡地裁に提訴する。

(6・28毎日)

共働きの減税運動

サラリーマン減税に関連して「共働きの妻の配偶者控除額を引き上げよ」という運動が婦人税理士などの呼びかけで起っている。八月一日、京都市で開かれる全国婦人税理士連盟総会で具体案を決め、税制調査会などに正式に要望する。

(7・17読売)

婦女子を前面に新しい労働運動

二十十日、川崎市のゼネラル石油精製の構内で爆発火災が起き、学習会でその原因となった四エチル鉛の毒性を知った労組

員は「公害発生企業の責任を追求しよう」と、会社に安全装置の完備、安全教育の実施、担当従業員の処分反対を申し入れた。おぎなりの会社側の反応にも組合はストライキで対抗。労組員の妻やその子たち、マニキュアやミニスカートの女性組合員が明るく「闘争」を続けている。

(8・9毎日)

尼僧だって男女同権

妻帯、有髪が当たり前になつていゝ男性僧に比べ、いまなお剃髪、結婚しないなど昔どおりの戒律を守っている尼僧の世界で、最近男性なみの「権利」を要求する声が全国の寺々で高まっている。曹洞宗の住職を父に持つ姉妹が有髪のまま出家したのがことの発端。

(8・19毎日)

黙ってはいられない公害

ますますひどくなる公害に、

婦人たちも立ち上がり、専門家をよんでの勉強会、住民へのアンケート調査、手製の測定器具で大気汚染の測定を始めた。

これまで一部の地域にまかせられていた感じの婦人の公害運動もようやく本格的になってきた。新日本婦人の会、日本婦人有権者同盟、東京都地婦連、横浜市婦団連など。8・21朝日)

侵略差別と闘う

アジア婦人会議

七〇年代の婦人運動はいかにあるべきか、アジア的視点で今後の闘いのあり方を考えようと、セイロンの代表や在日アジア人もふくめて千人が参加。

泉州紡績工場で二交代で働く女性、カネミ油症被害者の女性、三里塚芝山婦人行動隊、北富士忍草母の会、台湾からの留学生、部落解放同盟の女性。すべての女性が日本の国のありようを、その生活をともなった闘いの中

から問いかけていた。

(8・25毎日)

第十六回母親大会

約一万三千人の参加で開かれる。分科会テーマは子どもの教育、平和の問題、物価、公害、パート、米、有害食品など三八にものぼる。尼崎で公害日誌をつける人、船橋市で交通危険地区を調査した人、秋田県雄勝町でチクロ入り給食を追放した人の報告も。

(8・26読売)

地婦連、カラーテレビ不買運動「カラーテレビの購入を一年待って、値下げさせましょう。」

「二重価格」問題など不明確な点が多すぎる」全国に六百万人の会員を持つ全国地域婦人団体連絡協議会(山高しげり会長)

は七日、常任理事会でカラーテレビの不買運動を決め、全国に呼びかけた。

(9・8毎日)

田子の浦の主婦も立ち上がる

「国・県が発表した田子の浦港へドロの鈴川ふ頭、貯水場移動には絶対反対」と富士市の主婦約六十人が、市長、港湾管理事務所に抗議。(9・19毎日)

母子で自然を観察する会

多摩川左岸堤防自動車道計画に反対を続けている狛江市の主婦たちは、趣旨を同じくする「多摩川の自然を守る会」などと共同で「母子で自然を観察する会」を開く。(10・13朝日)

配給は新米だけにして

主婦連の春野鶴子代表らは、食糧庁を訪れ、「新米穀年度のスタートする十一月からは、自主流通米を排除し、古米を入れず新米だけを配給せよ」と申し入れた。(10・14毎日)

第二回国際家族計画会議

「家族計画と社会変革」のテーマ

マで西太平洋地域会議が開かれた。三日目には「性教育」がとりあげられ、デンマークでは九年前から性教育を積極的に推進するための国家委員会が設置され学校で教育が行なわれているとの報告。「くさい物にフタ」の日本との違いが目立った。参加は香港、韓国、デンマーク、マレーシア、日本など七か国。(10・17各紙)

墮胎天国はめられる
「日本の高度経済成長は、人工妊娠中絶で人口を抑制したからだ」と各国の代表がわが国の「墮胎天国」ぶりをほめた。また、優生保護法の目的が人口の抑制にあつて、「女性の解放」などではないことを知っている日本の学者たちは、頭をかくばかり。(10・16朝日)

婦人有権者同盟、二十五周年

日本婦人有権者同盟(近藤真柄会長、六千五百人)が十一月三日、創立二十五周年の集い。「実質的な男女平等はまだない。おめでとう、と言われても素直によろこべない。早くこの同盟がなくなる時代がきてほしい」と近藤会長。(11・4朝日)

若妻だつて聞きます
北富士へ第二母の会」結成
米軍北富士演習場の全面返還を求めている山梨県忍野村に「北富士忍草若妻会」が二十代三十代の約百人の女性によって結成された。四十代から七十代までの「母の会」(三百人)が懸命に闘う姿を見て自分たちもと。(11・4朝日)

女性裁判官なぜとらぬ
この四月研修所へ入った二十四期司法修習生の女性たち三十六人は、「女性、身体障害者、三十五歳以上は裁判官として歓迎されない」という最高裁矢崎

人事局長に対して質問状を提出した。「女じゃ裁判に権威がなくなる、というのが最高裁の本音」とふんまんやる方ない。(11・6朝日)

ウーマンパワー開発研究会
働く女性の能力をいかに活用したらいいか。日本事務協同会などが主宰した会議が各企業の部長クラスを集めて開かれた。ウーマンパワーを単なる女性問題としてでなく、会社全体の問題としてとらえ、女性の生きがい、働きがいを会社は考えてゆくべき。それにはまず男性の意識変革が必要との意見が印象的。(11・7朝日)

団地パワー総決起
「公団住宅の家賃値上げ反対」を叫んで全国の公団住宅入居者が東京で決起大会。子づれの主婦、しゅうとめさんも目立った。(11・17毎日)

11

うそつき危険食品

主婦ら摘発の集会

東京三鷹で新生活運動協会の六百人の主婦は「危険な商品、うそつき商品を追放しよう生活を守る全国婦人対話集会」を開いた。
(11・20読売)

五団体で強烈パンチ

カラーテレビをやり玉にあげて不買運動を盛りたてている「主婦連」「地婦連」「婦人有権者同盟」「生協連」「消費者の会」の五団体、会員は合計千五百万人というから影響力は大きい。生協以外はいずれもママさんグループ。消費者代表であり、物価と食品公害企業に挑戦するウーマンリブそのものである。

ビールの値上げにはすぐ「値切り運動」宣言。一般消費者の気持ちるすばやく汲みとった動きをみせながら、カラーテレビ運動を拡大させるといった巧

妙な戦術。なかでも業界に強いショックを与えたのは五団体が打ち出した「松下全製品ボイコット」運動。消費者運動がメーカーを動かした体当たり戦術は、企業も政府も、高度成長の「のんき節」ばかりを歌っておれない情勢をつくりあげた。
(11・20毎日)

「物価を押さえよ」

五団体が首相を突き上げ主婦連、婦人有権者同盟、地婦連など消費五団体の代表十六人は一日午後首相官邸を訪れ「政府はGNP世界第三位を誇っているが、国民は高物価と公害に泣かされている。消費者のために勇断をもって物価安定を実現してほしい」と要望。佐藤首相は「ご要望はいちいちごもっとも」と終始ニコニコ顔だったが、肝心の要望にはホコ先をかわすだった。
(12・2毎日)

生活かけた二十三年の闘い

北富士演習場で、米軍や自衛隊の演習に身体をはって反対し続ける北富士闘争の「忍草母の会」。

大森くわさん(六七)は、「これは生活の中の闘争だからな。わしらは貧乏で、あの梨ヶ原がなくては生きて行けねえ。ソバが五斗俵で四俵もたったことあるし、高冷地で霜害もねえ、桑だって肥料やらなくても育つ」と語る。

北富士演習場は昭和十一年陸軍が長距離大砲の演習をするため一方的に使ったもの。当時の陸軍でさえ、演習しない時は耕作を許していた。
(12・6朝日)

無店舗生協、町田に誕生

東京町田市の鶴川団地の鶴川地区自治会(七百三十戸)は、新しい形として、十世帯を一単位として品物の受注、配達をす

る生協を発足させる。

(12・6朝日)

妻が養う夫にも帰国旅費を

東京の在日米軍第二百四十九病院看護婦は「男性の兵士には帰国のさい扶養家族の旅費が支給されるのに、私の夫に支給されないのは差別」と訴え、米下院でひとめしそう。
(12・8毎日)

重度身障者も人間

東洋一の偉容を誇る府中療育センター、しかし在所生は「都は私たちに生活の保障はしてくるが、権利自由を奪っている」。「生理の始末をして「きかない。いやーね」と職員に言われる」と、都に文書で訴え。
(12・14毎日)



労働

「使い捨て、から、使い続け」に主婦が続々工場へ。全雇用者の三分の一が女性、うち四〇％が既婚。燃えてしまえば（結婚すれば）捨てて（解雇する）マッチ」の時代から、今は、働く女性も金の卵のウーマン・パワー時代。共かせぎは時代の要求でもある。（1・8 読売）

プレスエもおばさんで

どこも深刻な人手不足。町の鉄工所だけでなく大手造船会社にも女子の溶接工が誕生。「最大の効果は男性がハッスルしたこと」と受け入れ例。

「残っている労働力は婦人だけだから、早くから婦人の活用を図った企業が勝ち」と職安。

（1・10 朝日）

団地の「主婦工場」

一つの階段にトランジスタステレオの部品が持ち込まれ、同じ棟の主婦たちの流れ作業で数日後には九〇％完成の製品に。

深刻な人手不足の中小企業と、働きたいが勤めには出られない「主婦の希望で団地工場が軌道に。パートもイヤという東京都下・東久留米団地の主婦に話したところ、たちまち希望者が集まって八グループ四十八人に。一人がサボると次の人に影響するため能率はあがり、内職のイメージを破った責任感・連帯感が生まれ、企業もホクホク。収入は一日平均六百円、月一万五千元は堅いと主婦にも好評。企業側は「主婦工場」をさらに拡張の予定。（1・14、19 朝日）

世界各地に「日本人女子寮」？
海外の日本企業は、欧米も東南アジアも、現地企業より一割高で求人しているが、それでも

人材不足。現地に女子寮を作り、タイビストなど日本から連れていく案が練られている。

（1・16 朝日）

勤め妻は「別働き」

主婦の働きに出る目的が稼ぐことだけではなくった時代。

言葉も「共かせぎ」から「共働き」に変わったが、農家、商家と違い、勤め人は、「共働き」でなく「別働き」という人もいる。夫と妻が別々の場所に働きに出るというだけでなく、夫婦、親子の結びつきを切り離してしまおうという、気になる響きも。

（1・26 読売）

「保育所つき」で求人作戦

岐阜県不破郡のアルミサッシをつくるナニワ工業は、企業内保育所を作り、主婦たちをつなぎとめている。「人手確保のためなら安い投資。企業防衛費です」と会社側。（1・27 読売）

集まらぬのも道理、旅館女中

オフシーズンに旅行をさせる、保育園完備など、あの手この手の求人でも人はサッパリ。客が十人十色の勝手な注文、旅の恥はかき捨てがイヤだと。

（2・13 朝日）

郵便局のママさん集配人ふやす早く確実に届くと、東京周辺の団地などで好評のママさん集配人（郵便外務員）をふやす方針を郵政省が決め、四月から大都市の主要団地で「団地ポストの会」（仮称）を結成、主婦たちに呼びかける。

（2・26 朝日）

郵便外務員求人に殺到

人手不足に悩む首都圏の郵便局に六人の郵便外務職員を、と職安を通じての求人、応募は二十人。「外務員に女子職員を」の井出一太郎郵政相の構想による。

（10・9 毎日）

女子社員も特技時代

モータリッ社員時代を反映、女性もかつてのように職場の花ではいられなくなった。タイプ、簿記、経理事務、ひとつでも特技を身につけていなければ、現代社会に適応していけない。働きながら何か特技を身につけようと勉強している人も少なくない。職場教育を行なう各種学校は全国で七千校、生徒数も百五十万人。

70年代は、社会がさらにさまざまに変化し、多様化する時代。社会の変化にいつも適応できる能力を、生涯通して学んでいかなければならなくなる。生涯教育が男女を問わず大きな課題になりそう。(2・18読売)

内職主婦の工賃に税金

「家内労働法案」が国会に提出されるが、家内労働者は全国で百四十三万人(69年5月労働省調べ)で、ほとんどが内職労働者。

「第六回内職大会」(総評主婦の会主催)では「スカーフのふちかがりを、どんなに根

をつめてやっても一時間で二十六円分しかできない。工賃をあげて、と言ったら、引き受け手はいくらもある」と仕事を取上げられる(山形県酒田市からの参加者)。「毛糸の帽子を編んで一個三十三円。一つ編むのに一時間近く」(岡山県)夫の平均賃金五万五千四百七十一円(勤続十八・九年、家族数四・一人)。なぜ内職をするのか

「教育費のため三四・三%、別食費二七・三%、衣類購買九・三%、耐久消費材一・五%」などの実情が浮き彫りに。

「編物講師を始めて、やっと収入が安定したと思ったら、年に十二万円以上稼いだから扶養家族ではない、税金も保険料も夫と別に払えという。何のために働いたかわからない」「内職工賃一時間百五十円、内職者に税

金をかけるな」が共通の願い。

(2・24毎日)

看護婦の充足を急げ

厚生省の看護婦充足対策が決まった。養成機関を拡充し、待遇を良くすることで、「ニッパチ闘争」(一か月に夜勤回数を八回以内に、一病棟に二人配備をと主張)の解決に向かうべき。

(3・19毎日・社説)

通勤時間も「勤務中」に

全電通労組は「一定の通勤時間を超える場合は、勤務時間とみなす」要求を電電公社にしていく方針を固めた。この要求に応じない場合は、「それなら短時間の通勤ですむよう職住接近の住宅を保證せよ」と住宅大量建設を迫る二面作戦をたてている。

(7・6毎日)

気軽な主婦パートと学生バイト
夏休みにはいって、人手不足

で泣いているのは主婦パートが頼りの中小企業。子どもたちを海山へ連れてゆきたいから、と休むからだ。

代わって学生バイトが登場する。渋谷職安では三百人の夏休みバイト学生を紹介した。新学期までは学生が母さんパートの代わりをつとめる。

(8・12朝日)

「優能女性」の前途多難

東京、飯田橋の公共職業安定所に設置されて三年の女性専科の人材銀行「優能婦人センター」、人手不足の時代というのに、通訳、タイピストなど登録者に対して求人はさっぱり。「賃金、労働条件をよほど良くしないと企業が躊躇するのでしょう」と安定所次長。

(8・19読売)

「内職」をどう保護すべきか
十余年間の懸案であった「家

内労働法」が、十月から施行された。

労働省の調査によると、三十年代には約四十万人だった家内労働者は四十年には八十四万八千人となり、昨年五月末には百四十三万人を突破。家内労働者の九三％は女性、そのうち八八％が主婦。最低工資の決定を促進すること、工資不払いに対する保障措置を講ずること、労災保険加入範囲を拡大することなどが急務。

(10・13朝日)

司書資格をとつても職場がない
司書、司書補の有資格者は毎年五千余人も出るのに、図書館に就職できるのはその十分の一から二十分の一。原因は、司書を大量養成するわりには「専門職」としての地位が確立されていないため。日本図書館協会でも「解決はむずかしい」と言っている。

(10・21毎日)

東京商工会議所が

働く女性過保護論

世界各国で、女性解放が取り上げられているとき、日本では「労基法は女性を保護しすぎていゝ」という意見が東京商工会議所から持ちあがり、労基法改正意見書が労働省に出された。

東商は東京に本社のある二千社を対象に行なったアンケートの結果「①時間外労働の制限緩和②危険有害業務への就業制限を再検討③深夜業禁止の緩和④生理休暇の廃止または制限」を希望する企業が多いと主張。

(10・22毎日)

働く女性に過保護か

労働科学研究所所長齊藤一さんは、「企業間競争が激しい今、労働密度が非常に高い。労基法の女性への規定は、女性が弱いからではなく、母性保護のためだ。労働力不足のためだけを考えて保護をなくすのは人間尊

重に逆行している」と批評。

(11・9朝日)

主婦のパートタイマー増で

離婚がふえる？

百万人を超えたパートタイマーがひきおこす夫婦間のトラブルが増えている。

主婦業がおろそかになる、主婦の不貞等で、全国の家裁裁判所、各種相談所を訪れる夫たちは後を絶たない。時代が生んだ新しい夫婦の危機、パート職場の増加は時代のすう勢と見られているがこの先どうなるのか。

(11・11読売)

婦人の労働時間のあり方

雇用促進事業団が「婦人の労働時間管理」をテーマに研究会。「週休二日制、週四十時間労働が実現すれば、女性はパートからフルタイマーに組み込まれ、社会人として労働者として差別のない時代がやってくるのだろ

う」との問題提起のあと、女性たちが多様な労働時間を選択して自分の生活に合わせた希望を持っていることが、電器メーカー、保険会社、電電公社、食品会社から出された。生理休暇を無給にしたら取得者が減るといふ報告、技術革新が進んだ職場からは、昼休みの雑談に「漫然と生きている」「死にたい」と女性たちが話している例などが報告された。(11・23朝日)

農村の若妻、出かせぎ哀歌

ここ二、三年若夫婦の出かせぎが増えた。夫のいない家庭で姑と顔をつき合せているよりも、働きに出たほうが精神的に楽だし金にもなる。日雇いに出た若妻は不規則な授乳のため、母乳が出なくなつた。出かせぎ地帯の人々は、農業に対する不安とともに、大切なものを失いつつある。(山形県・柴崎しげお)

(12・19読売)

母性保護不要論に疑問

人手不足を背景に主婦のパートが経営者から喜ばれている。日経連は、低賃金にははおかむりしたまま配偶者控除の最低金額を引きあげることや、健保の運用をゆるやかにせよ、と政府に要望。

婦人労働者は過保護だという論も出てきた。職場環境も女性の体位も向上してきたから保護しなくてよい、と。労基法制定二十五年、激しく変わった産業界が法の見なおしを、というのわからないではないが、もしそうなれば主婦はパートタイムに追い込まれ、ますます半人前扱いの労働者になるだろう。(大羽 綾子) (12・26読売)

【パート】

引く手あまたの求人
マイクロバスで団地にパート求職の出張相談。干し物の多い

団地なら打率良好という。呼びかけにはTVの人気番組の時間帯ははずすなどの気の遣いよう。パートに出張したら、相談二百件、五十人が即決した。時給〃経理二百円、集計百七十円、掃除百五十円、袋詰め百四十円。働く理由は「子の教育費」「何かむなしくて」「家を建てたい」など。一方、東京、飯田橋の「優能婦人センター」では、医師千二千元、速記三百六十円など専門職をあっせん。時給は良いが求人がなかなかない。

一般に友達と一緒に働きたがるが、知人に顔を見られるのはイヤ。あれこれ見比べ決断しない。世間話、身上相談もまじり面接は平均一人二十分。一方、「買い上手は売り上手」と、顧客名簿でDM、成功したデパートも。

渋谷職安のパートタイムクリエイトセンター、求職者百人のアンケートでは「生きがいを得

たい」五一％がトップ、「余暇がある」七％が最下位。すでに働いている五百人では、「余暇があるから」がトップ(三二％)で、最下位は「生きがいを得る」(二％)。現実の仕事は必ずしも主婦の夢を満たさない。働いた結果は「家計が豊かに」がプラス面の一位、「家事がおろそかに」がマイナス面の一位。

あるパートでは、一年の特定の月だけ働くパートマンス、ある週だけのパートウィーク、ある日数だけはパートデー、一日の最多忙時だけ働く人をパートタイムと呼ぶ。婦人少年問題審議会の定義では「一日、一週、

一か月の所定労働時間が、当該事業所のフルタイム労働者より短く、その就業が規則的、自発的である労働者を指す」。現実には約半数が週六日働き、一日の就労も六時間以上七時間未満が三三・一％で最多、七時間以上も一二・六％もいる。が、賃

金・昇給・賞与などの制度化は少なく、ほとんどは「世間相場」の時間給で、そのほかは皆勤手当と交通費くらい。多くの主婦は「相場でいい」と答え、税金や社保料の引かれぬパートに代わる人も。しかし「パート」と呼ばれることには差別感があり、定時社員、嘱託、奥さま社員、協力社員等の呼び名も工夫されているが、呼び名が制度を伴っている例は少ない。(2・9、21朝日・「特集パート」求人・求職編)

明と暗

「誰それにはどうしたのに」と比較がウルサイ。十円高い所にサッと替わる。欠勤が多い。理由は①子どもの学校のこと②家事③子どもの病氣④どれも会社と無関係。賃金を上げてても出勤率は上がらない」雇用者側。「朝はぎりぎり、帰りはサッ、ろくにピラも見ず、組合活動に

無縁。こんなパートにまでは手が回らぬ」組合側。「本人もこのほうが気楽でいい、ガタガタ言うなら辞めるといふ」職安。「仕事は同じなのに賃金の差がひどすぎる。我々を踏み台にして正社員だけ賃上げ」パート側。問題だらけ。

朝八時から夕五時まで八時間労働で時給百十五円、それでも正社員はイヤ、縛られるからという。拘束されないプラスと身分保障のないマイナスが同居。

もう一つの問題は税金。年収二十二万五千円を超えると配偶者控除はなくなる。暮に一度に十人が辞めた職場もあり、賞与は不要と辞退する人も。「フルタイムの婦人労働者は家族手当も税金も振り切って働いている。パートがそれにこだわるのは働く以前の意識の問題」と総評のパートタイム分科会でやり合う場面もあった。

昨年の時給平均は百十二円

(前年比十五円アップ)だが、職種によってバラつきが大きい。勤務年数に関係なく時給が一律のところも。一方、「世間相場」で動くため、パートのほうが率がいいと正社員から不満が出たことも。「パートが上がりやすいのは景気変動に左右されるといふこと。上がりやすいとは下がりやすいこと」と、神田道子さん。

仕事でケガしたある主婦、労災の適用をすすめられたのに断わった。遠慮・気がね。労災に加入してないもぐり事業所の事故で死亡補償も出ない例も。労災加入事業所四五・七%、未加入五四・三%(全国中小企業団体中央会「女子パートタイム採用状況調査の概要」より)

ある出版社の賃上げストに十五、六人のパートが同調しない。組合が強く協力を求めたら、賃上げ・期末手当・正社員化を要求、パートは立場が弱いので、

当日は全員で「病欠」、会社側は要求を認めたが、正社員化は断わる人が続出、パート内部から団結が崩れた。「日本の主婦の伝統があり、妻は家庭にいるもの、しかしお金だけはほしいという人たちの意識を高め、組織化していくのは現実には難しい」と総評山本婦人部長。組織化に成功した組合もあるが。

六年越し労使双方が協議、パート雇用日本一を目指す伊勢丹では、時給百七十四―二百九十二円、週五日制、一年に二日以内授業参観等の休みを休日振替で認めている。「産休十六週は基準内賃金を払うが、支払い終わったとたん辞める人があり、「伊勢丹産院」になりかねないのが頭の痛いところ」「労基法の有休や失業保険はパートのない時代に作られているので、そのままではめにくい」と会社側。

五千人のパートを使う松下電

器も、八時間勤務のできる人は正社員化、七時間は定時社員化の道を開き、一般社員と同じ就業規則と労働協約を適用。パートは全員一律時給百六十円だったが、定時社員も入社二年後から正社員と同じ賃金計算にする。全国中小企業団体中央会が従業員三百人未満の会社を対象にした調査では、就業規則を適用していない会社は八七・四%。会社の規模が大きいほど規則も整っている。

企業内託児所の多くは法規のがれに「幼児園」と称し、保育園の増設をこそ企業も主張すべき、と、人手集めを批判、地域社会に目をむけないエゴイズムを指摘する人もいる。

が、パートは今後ますますふえるだろう。理由は、①仕事をしたい女性のおよそ三分の一、六百五十万人が何かの形で働かなくてはならない。内職に次ぎパートが二倍で、二百万人が希望。一

方、青少年労働力は五年間に二百七十万人減と予想されている。②家事はますます少なくなり、育児は社会化するから。

しかし現状は流動的で混んとしている。企業は男ならバカバカしくてできない仕事に主婦を動員し、生きがいだとPRする。働く側はPTAだから休ませてくれと言い、PTAを夜開いて、という要求はしない。このままではいずれ中高年はパートでしか働けなくなるのでは。(3・13・25朝日・「特集パート」問題編)

働けば家庭は変わる

働きに出て夫に気がね、子どもにはすまない思い。家庭責任からのがれられないからだが、働きに出ることで家の中はどう変わったか。

東京・名古屋・大阪・福岡の大都市のパート主婦百三十人にアンケート、回収百十。「家事

や育児に専念するのが主婦の仕事と思うか」の問いに、「それで一生を終わるのは寂しい」「ヒマすぎると教育ママになる。適当に忙しいのがよい」「一人の人間として進んで社会に役立ちたい」「お金がないと心が豊かにならない」「内職のように家の中がひっくり返らないのよい」「子どもが独り立ちしたあとも自分の生活を持てる」「家にいた頃は毎日頭痛。外働きで治った」など、働くことに賛成が七十九、反対が二十三。ただし賛成派も「子どもが大きくなったら」「家人に迷惑をかけない範囲で」などの条件つきが大半。反対派は「家にいたい」「いたが経済的事情でやむなく」など。「夫の給料では貯金ができないので働きに出たが、一か月の給料でタタミ六分の一の土地しか買えない。杜宅でも管理職の夫人は皆在宅、ヒラはパートか内職……」の声も。

中三・中一・四歳の三児の母Aさん(三七)の生活は――朝六時五十分起床、毎朝サオ三本分の洗たく。洗たくの合間に七時半から家族の朝食。バタバタしてるので主人は新聞も落着いて読めない。食器洗いは朝しなくて流しにまとめておくことだけは許してもらった。八時四十五分末児を連れて保育園へ。九時五分会社着。十五分から作業(包装)開始。四時仕事が終わる。みんなカケ足、集団スリのように。四時半保育園に迎えに行き、朝の食器を洗う。「誰もいない家のカギをあけるとムッとしてイヤ」の息子の言に、急いで帰る。息子、サッカールの靴代三千円を持って行くとき「お母さんは一日九百円なのに悪いネ」と言うようになった。七時夕食、九時片づけが終わる。絵本の読み聞かせは主人の仕事になった。十一時子どもたち、十一時半夫婦が就寝。「隅々まで

掃除できないので何となくほりっぱい。時々主人にイヤミを言われるが、土地の借金もあるので、子どもの世話や片づけの手伝いなど態度でいたわってくれる」。

パートに出ておろそかになった家事は掃除・洗たく、つくろいものがベスト3。反面、「家にいた時はだらけて家事をやっていたが合理化した」の声も。パートに出るとき夫に言われた言葉をつなぎ合わせると「ぼくの給料のワク内でやれないのか、男のコケンにかかわる。どうしても働きたいなら止められないが、働いて金をもらうのはそんなに甘いもんじゃない。家事と両立できるならやりなさい。三日と続かないだろう」になる。意見が別れるのは疲れたとき。疲れたら休むではダメ、という夫がいる反面、パートだから疲れたら休めという夫も。

これでは出鼻をくじかれそう

だが、それでも妻たちは出る。

中には二か月間、夫に気づかれなかった人も。そして働き続けると言う。奥さんががんばりますね」「ようもうけはりました」「いらいもんですわ」と評価する夫もふえたが、四十代、戦中派のある夫は「社会に目を向けるためとか何とか言うけど、結局はヒマだから出ていくんです。ヒマならもっとうまいものをつくれ、家の中もちゃんとしろと言いたい。家事のエキスパートになることだって大切だ」。三十代の夫は「子どもを追い回しているよりよっぽどいい。話題も豊富になったし、身の回りの世話はずいぶん慣らされた」

座ればお茶が出る、玄関の靴は磨いてある……を「自然現象」にしてきた夫たちは、中途からそれを奪われるのがやりきれない。いま一番大変なのは中高年パートではないか。

働いたお金は何に使うのか。

子どもの学用品、TV、家具、

ヘソクリ、自分の衣類、プレゼントなど。「自分で働いたお金のほうが尊くて、毎月月給袋を持ち歩いてます」という人も。

「子どもが大きくなったら」

の「大きく」はいつからか。離乳、保育園、就学、中学を出たら、大学を出たら、と、答えはまちまち。「大きい小さいより、過去にどういいうしつけや習慣を与えてきたかが問題。母親が家においても勉強部屋にこもりつきりではカギっ子と同じ」。「①働くことを自分独りで決めず家族で協議してほしい。②子どもの友達関係、生活設計などを点検してほしい。③留守中、子どもの友人たちの巣になるのは危険なので注意を。④働いていることを先生に話してほしい」と教育者はアドバイス。

働きに出て一番悲しかったことは、「手のかかる料理がつくれない」「ふとんが干せない」

「実家を訪ねられない」など。

「働くことで近所に迷惑をかけていますか」の答えは半々。

「清掃車が出た後の掃除ができない」「小包などを受け取ってもらう」「集金を預ける」などが迷惑の身。隣人に毎月お礼をする人もいる。迷惑をかけてないと断言したのは留守居のおばあさんのいる人だった。

それでも今後も働き続けたい人は八十一人、そのつもりはない二十一人を大きく上回る。「バスに乗って通うのが好きだ。すごいミニのお嬢さん、カッコいい男の子に会う。あつ梅が咲いた、桃が咲いた……。職場にもたくさん友達ができた」。

エンゲルスは「イギリスにおける労働者階級の状態」で、「婦人が働きに出、掃除は行き届かず規則正しい食事の習慣も乱れる。夫は経済力を背景とした権力を失い、殺ばつとした気持ちを酒でまぎらす」と一八四〇年

代、産業革命の中での家庭崩壊を描く。

「家庭の側から見ると日本の産業革命もここ五、六年の間に起こっている」とお茶大の湯沢助教。母の三分の一以上が働いているある小学校では子どもたちの服のホコロビが目立つ。が、母たちが外に出るのは人間解放を目指す女意識のゲバルトではないのか。

「人間としての自分を全うしたいという主婦の内なる声がかき消されることのない日が、もうそこまでやって来たのではないのか」(ベティ・フリーダ「新しい女性の創造」)

(4・6・15朝日・特集パート「生活編」)

ママさんパートも社員に

労働力不足から最近主婦のパートタイマーがふえているが、松下電器は十九日、労使の話し合いでパートタイマーを対象に

「定時社員制度」を実施することとを決定。契約期間が短いためすぐやめられたり、欠勤しがちな「ママさん労働者」の定着をねらったもので、労働力不足に泣く他企業にもかなりの波紋を呼んでいる。

定時社員制度は十か月以上勤務したパートタイマーを対象に、一年ごとの社員契約を結ぶもので、賃金は現在の時間給（百六十円）から、年齢、勤続給を取り入れた日給制とし、勤続一年未満で一日（七時間労働）千二百円・千三百三十円、勤続二年以上になると最高千四百七十円。二十五歳工員の最低賃金の九〇・一〇％で春のベースアップやボーナスも社員並みになるシステム。ただ退職金と社内住宅資金貸し付けや育英資金の給付対象からは除外される。

この制度は系列会社の松下電子工業、松下通信工業でも実施するので、約五千人のパートタ

イマーのうち、二千人前後が定時社員になる。（3・20読売）

法・制度

〔裁判〕

明治からの入会権認める

忍草人会組合が米軍北富士演習場内に建てた「第八の小屋」を国が撤去しないことを求めた仮処分申請に対し、東京地裁落合裁判官は「演習地への入会権は認められる」との新判断。小屋については「入会権行使のためでなく、闘争目的」としりぞけた。（1・15朝日）

離婚調停成立後交通死の

夫の慰謝料、妻へも認められる

京都地裁、常安政夫裁判官は「正式離婚寸前とはいえ、事故

当時はまだ妻であり、たとえ葬式や通夜、法事などに参列しなかったとしても精神的打撃をこうむらなかつたとはいえない」として離婚調停が成立した翌日夫が交通死した妻への慰謝料二十万円を認めた。（3・4毎日）

家永裁判勝訴

現行の教科書検定制度は憲法と教育基本法に反すると、家永三郎東京教育大教授が自著の高校用教科書「新日本史」の四十年改定申請のうち六か所を不合格とした文部省の「検定処分」の取消しを求めた。家永・教科書訴訟について、東京地裁は十七日「記述、内容への介入は表現の自由を侵すとして、不合格処分を取消す」と、勝訴判決。（7・17読売）

五年七か月も臨時工

解雇無効訴訟に勝つ

新潟県佐渡から集団就職して

川崎市の東芝トランジスタ工場で、二か月更新の臨時工として働いた女性工員が、五年七か月たって会社側が一方的に更新せず辞めさせられたが、身分確認訴訟に勝訴。（9・23毎日）

前橋地裁、既婚女性の

解雇認める判決

「既婚女性だからと解雇するのは憲法違反」として古河鋳業を訴えた渡辺まつ代さん（三五）に対して「既婚女性の退職が制度としてあるなら憲法違反だが、経営が危機に立った会社のやむを得ない合理化の措置だった」と植村裁判長は判決。（11・5朝日）

千葉大採血ミス裁判

「私は吸引器の右左の接続を間違えた。それ以前にも同様の事件は起きかけた。医師は研究のため二人の若い患者を見殺しにした。疲労で注射器が握れな

いこともある。医師も看護婦も加害者と思う。被告となった看護婦（二四）は「考えていたら仕事が終わらないのでロボットのようにな動けなかった」と涙ながらに医療社会の乱脈ぶりを証言。（12・25朝日）

【制度】

未婚女性にも福祉資金

東京都は、これまで二十歳以下の子を持つ母にしか支給されなかった「母子福祉資金」を、独身女性も含めた「婦人福祉資金」に改訂。内容は事業開始資金三十万円、住宅資金二十万円、結婚資金五万円、生活資金七千五百円。（1・22毎日）

児童扶養手当五百円上げ

月額二千円から二千四百円に、母子福祉年金は二千四百円が二千六百円に、十月から引き上げられる旨、厚生省と大蔵省

の予算折衝で決定。

（1・30各紙）

児童手当はまず調査を

第三子から月三千円給付、四十五年度実施を目指していたが、企業が費用負担に難色、二千万円の準備調査費計上に落ち着いた。年収百万円以下の家庭の妊婦健診は、四十五年度から無料になる。（1・31各紙）

児童手当・構想練り直し

年間経費八百億の四〇％企業負担で財界が反対、児童手当審議会（有沢巳会長）は制度の目的そのものから練り直すことに。（3・11朝日）

妻への贈与減税に首相言及

二十八日の衆議院予算委員会で堀昌雄氏（社会）が「妻の座を守る税制を前国会で主張し首相も同意したが、ことしの税制で実現されなかったのは残念。

現在二十五年以上の配偶者に二百万円以上の生前贈与は無税となっているが、十五年以上、五百万円にすべきだ」と質問、細見主税局長は「二十五年は長すぎるので短縮の方向で検討する。五百万円の件については相続税とのバランスもあり検討課題だ」佐藤首相は「その方向で努力することをはっきり国民の前で私から約束する。税調もムゲにしりぞけることはなからう」と答弁。（3・1読売）

上田市で育児休暇三年までOK

「無給ではあるが、希望すれば市の女子職員に三年未満の育児休暇を与える」と長野県上田市の小山一平市長が、二十七日発表。実施は来月からだが、国家公務員関係でも女子の一般職種についてはまだ実施されていないだけに、県地方課では国との均衡上、時期尚早だと、難色を示している。

「監督官庁ではあまり好ましいとはいわないだろうが、時代の要請でもあり、先べんをつける意味でもぜひ実現したい。これについてなにか不都合なことがあったら、私が悪者になったらいだろう」と小山市長。（5・28朝日）

沖縄に「売春防止法」

琉球立法院は八日午後の本会議で「売春防止法」を全会一致で可決、成立させた。

沖縄の特飲街は、全島で約三十か所。また特飲街で働く女性は約七千五百人。モグリを含めると一万数千人にのぼる。沖縄ではこれらの女性を解放するため、数年前から売春防止法立法化の動きがあったが、当時の保守政権や業者などの利害がからんで日の目をみなかった。ことし四月下旬、本土の売春防止対策審議会大浜英子副会長らの現地視察で、改めてクローズアッ

プされ、立法院可決にこぎつけたもの。(6・9毎日)

調査・統計

身を削って子を養う母

一人子と二人子では子も母も栄養のとり方にあまり差がないが、三児以上になるとガタ減り。ほとんど母が自分の食事を減らしており、子の数が多いと栄養失調に近い母も。一人子の母は一日、二四四円、二人子二〇〇円、三人子一三三円。しかし父親は子の数に関係なく一日二千カロリー以上摂っている。国立栄養研究所と民間の社会保険研究所の共同調査で。

(1・15朝日・読売)

テレビ八時間、マンガ三十冊

テレビは平均一日二時間半、多い子は八時間。子ども週刊誌

は月七・五冊。多い子は三十冊。東京深川の小学生の調査で。

(1・18朝日)

「仕事人間」と「家事人間」

アメリカの社会学者、ウルフが、家族の出来事について意思決定をくだすのは誰かをデトロイト市で調べた結果、夫婦の間の権威関係を四つに分けた。「夫優位型」、「妻優位型」、夫婦が相談して決める「一致型」、夫婦の領分が分かれていて、その領分についてはそれぞれが独自に決定権をもつ「自律型」。

結果は、日本では、自律型が七〇％、一致型は一六％、アメリカでは、自律型四〇％に対し、一致型は日本の倍の三一％。が、一致型の多いアメリカの離婚率が日本の約三倍なのは皮肉。一体感を求めるほど、期待はずれも起きやすい。日本のこれまでの夫婦は、結びつきが弱いため、

安定していたともいえる。しかし核家族、ことに子どもが果立ったあと、夫婦むき出しになった時も安定していられるだろうか。(1・21読売)

寿命、女74、男69

厚生省が二十二日発表した「四十三年簡易生命表」によると、平均寿命は男六九・〇、女七四・三歳。毎年〇・五歳ずつくらい伸び続けていたが、前年比、男〇・一四年、女〇・一五年増。インフルエンザの流行の影響か、伸び率の停滞傾向か。(1・23朝日)

労働力人口の伸び、十年で最低。去年は前年比〇・七％増、この十年で最低。進学率向上で十五・十九歳が前年比一四・六％減が影響。(2・14朝日)

生死は前年なみ、結婚離婚は増。出生一八九万三千人(人口千

人で一八・六人)、死亡六九万五千人(六・八人)と前年と全く同じ。乳児死亡率は一四・二人で、死産、人工死産とともに戦後最低。結婚は九八万三千件、前年より二万七千件増。戦後のベビーブームっ子たち。一方、離婚も九万二、八〇〇件で最高。(2・17朝日)

男は仕事、女は家庭

毎日新聞社が全国で行なった「生活の価値感」調査(対象数〇〇〇)によると、日本人が一番ほしがっているのは「幸福な家庭」と「健康な肉体」。「仕事」と「家庭」の選択では男性の過半数が「仕事」を選んでいるのに対し、女性の七四％が家庭を支持。家庭とは男性にとっては「衣食住の場」であり女性にとっては「安心できる憩いの場」であるとの答えが返った。

今の選挙制度で自分の意見が政治に反映されているか、との

問いには「ある程度」までふくめても二八%の人が反映されていると考えているに過ぎず、逆に「あまり反映されていない」をふくめると「反映されていない」と考える人は六六%にも。

(1・30 毎日)

猛妻、世にはびこる

東京家裁五百例の訴えで、夫の暴力十四件に対し、妻の暴力十一件。三十九年には妻の暴力五八件、四十二年は二五九件(司法統計年表)。不貞は夫七対妻三。結局元のサヤに納まるのは夫二三%、妻七%。

(2・28 朝日)

自分の考えで

“たよれる人”を選ぶ

69年選挙を受けて婦選会館調査研究部が東京の女性六百人を対象に調べたところ、選挙で男性を選んだ人八九・一%、女性一〇・九%で、基準は「人格者」

「汚職をしない人」「実行力のある人」に集中。「政治資金を選挙のたびに財界や労働組合から政党に献金すること」は「やめさせなければならない」が三七%で「やむをえない」が一五・七%「やむをえないにしても額を減らす」が二五%。また「夫の投票した人はわからない」が全体の四六・四%。理由は「主人は主人、私は私、投票はおのおの考え方」が目立つ。また大多数が公示と投票日の中ごろまでには投票する人を決めており「女性は浮動票」の説がくつがえされた。

働く女性のうち、パートタイムは商工サービス業の女性と並んで圧倒的に自民党支持が多く、六〇%以上。社会党支持は十人に一人。共産党はゼロ。安保条約は「よく知らない」が七七%で今年六月が改定期限だと知っている人も皆無。

一方フルタイムの勤め人は各

職業を通じて社会党支持が高く、四人に一人。安保についても過半数が正解。一方、主婦は約四〇%が自民党支持。若い人は「政策」・高年層へいくほど「人柄本位」で選ぶ。重点をおく政策は「物価」「減税」の順。

(2・26、3・1 毎日)

夫婦ゲンカのタネは

東京、太陽銀行調査部が都内に住む四百人の主婦に面接調査したところ、夫婦ゲンカの原因は、五〇%以上が「子どものこと」。以下「金銭上」「帰宅時間」と続く。古典的な「酒」「ギャンブル」「女性関係」は影が薄くなっている。

給料袋を切らずに渡す夫は五六・八%、夫の小づかいは平均一万三千円、財布はガッチリ、妻が。妻の夫への採点は平均八三・五点。逆に夫の妻への採点は平均八七点。

(3・7 朝日、3・18 毎日)

三下り半も女性から

離婚の申し立ては、妻側から出されるほうが多い。「女性上位時代」を裏づける厚生省の協議離婚の実態調査が十二日発表された。

夫妻の双方から回答のあった七百十七件の理由は、夫は「妻の性格がいやになった」がトップで二四%、次いで「妻に愛人ができた」二二%、「性生活がうまくゆかなかった」八%。一方、妻は「夫の経済面に不満」がトップで二七%、次いで「性格の不一致」二四%。また離婚の申し立ては妻側から五一%に対し夫側からは三六%。夫が妻に払う慰謝料は「十万円ー二十五万円」が最も多く二一%、「十万円未満」は八%。子どもを引き取る割合は、妻のほうがやや多いが、養育費を夫が負担しているのは、わずかに一割。六五%が、女の細腕一つで育てている。

(6・13、16 読売)

「離婚」ふえてます

離婚が着実に増え続け、年間十万人組の大会に達しそう。結婚後一、二年の初期が一番多く、理由は「性格が合わない」が一番多い。厚生省の調査から。

(10・24毎日)

どっと結婚、あっさり離婚

一九七〇年に結婚したカップルはついに百万組を突破。一方離婚も九万五千組。いずれも史上最高。三十一秒に一組が結婚し、五分三十秒に一組が離婚。

(12・21読売)

都内の女性四九%が就労

都内女性二千人を無作為抽出で調べたら、半数が主婦業以外の仕事を持っていた——都の民生局は十七日、婦人の就業実態調査結果をまとめた。四十年の国勢調査に比べると、就業率は一〇%以上もはね上がり、働く婦人が急増。(6・18朝日)

井戸端会議の代わりに

十二、三年前に生まれた女性週刊誌はまたたくまにブームに。日本雑誌協会・日本雑誌広告協会の調査(対象八千人)によると、その読者の一〇%は男性。読む理由は井戸端会議の代わり。

二十一二四歳の未婚女性が主力読者。(6・25毎日)

うちのパパはモーレッツ社員

日本電熱が従業員の奥さん二百人からアンケートをとった結果「ウチの亭主はモーレッツ社員。そういう主人に私は満足。私も主人につくしているつもり」と甘い評価。(7・15毎日)

都会女性の意識

朝日新聞社の西日本女性世論調査(山口県と九州で、県庁所在地と有権者数十万人以上の十四都市の女性対象)の結果、物価に敏感、特に食料品の値上に対しての不安が高く、家庭の

円満が最高のしあわせで、マイホーム型よりモーレッツ型の出世する男性を好み、女性の地位が向上したと思う人と思わない人は半々であることがわかった。

(7・28朝日)

教育費、十年間で二・五倍に

文部省の全国調査によると、小・中学校の父兄教育費負担が昭和三十四年を一〇〇とすると小学校二五七、中学校二六七。前年と比べても小学校一〇・五%、中学校一三・六%の増。

(8・6読売)

結婚調査

結婚ラッシュのことし東京・銀座三の四、結婚調査センターでは九月から十二月までに式をあげる千二百四十二組のカップルを対象に、ことしの結婚実態調査結果をまとめた。一番多かった結婚年齢は男二十六歳、女二十二歳。恋愛結婚が全体の

七八・一%。収入は男四万五千円―五万円。女二万五千円―三万円が平均。恋愛の場合は結婚後も二人で働くという希望が六三・一%だが、見合いの場合は女性が働くのをやめるといいうものが六五%を占め、恋愛と見合いの差をはっきり示している。結婚は恋愛・見合いとも十万円が平均。(9・3毎日)

布団を干さなくなった東京人

新宿区若葉町のオズマビーアル社が「公害と布団干し」の調査をしたところ、大気汚染のひどい地区では布団を干す回数が少ないことが判明。練馬や武蔵野では月六―十回、江東区では月一―五回。(9・8毎日)

所得三倍増で苦しい暮らし

第二次池田内閣が「十年間で所得倍増」をかかげてちょうど十年、経済企画庁の統計によると一人当たりの国民所得はざっ

と三・四倍。消費者物価指数は一・六倍に。

国民生活研究所の調べによると「生活が楽になった」と思う人が60年の調査と比べて四三％減。「苦しくなった」が四七％増。(9・21朝日)

ミセスの働く意欲

太陽銀行がサラリーマン家庭の主婦九百人を対象に再就職意向調査をしたところ、四割はパートタイムで働きたいが、育児と家事が「カベ」になっているので、国や企業は保育所を充実してほしい、と願っていることがわかった。(11・17読売)

いま、リブ度は？

「女は損」女七六％、男四六％。「どんな時か」生理、処女性を押しつけ、家事や育児の責任、未婚の出産等への偏見、しつけがきびしい、昇給や昇進の不平等、職場の雑用、職場の花

とみられる、思い切った行動がでない、等々。

「ウーマンリブを知っている」一女七九％、男七六％。

女性問題の研究、セミナーを開いているL・C・C(レディース・カルチャー・センター)のウーマンリブに関する調査で。

(12・11朝日)

保育・教育

〔保育〕

零歳児保育所を倍増

保育所新設は九十七か所、増設等と合わせ定員一万人増。零歳保育も百六十七か所に倍増するほか婦人福祉資金を新設、二十五歳以上の未亡人または未婚女性の低所得者に、住宅・生活資金を貸し付ける。第三章、に入った美濃部東京都予算。

(1・24朝日)

保母さん人手不足を訴えても手ごたえはサッパリ……と嘆く

山形の養護施設の保母さん(五〇)。予算政府案決定を前に大きな圧力団体の片隅で、一睡もせずにささやかな訴えを続ける。

(1・30朝日)

保育児水増し入園騒動

群馬県甘楽郡南牧村。三つの

保育園、計百八十人の定員なのに四十四人も水増し。県婦人

児童課の調査で児童福祉法違反が発覚。過疎対策に工場誘致、

五十余の工場に主婦がドッと働

きに：が事の起こり。結局、親

の圧力で、水増し児だけ特別会

計で扱い現状維持に。「新年度

から新しい施設を作ればよかん

べえ」と村長。(2・6朝日)

「託児所つき」に落とし穴

パート集めに企業内保育所が急増、英会話やバイオリンまで

教えるところもあるが、コンク

リート床もあれば、ホコリ充滿の作業場の横、乳母車に寝かされる子も。働きに来る母が交代

でみる「片手間保育」や受付の女子職員の「ながら保育」などもあり、厚生省も対策に立ち上

がる。(2・24朝日)

「企業内保育所を」と審議会

中央児童福祉審議会は緊急対

策として「企業内保育所の認可と国庫金補助改善」を具申。

(12・17読売)

ふえる園児に地下モグラ保育

東京、小平の私立保育園で地

下に四十人を収容、昼間から蛍

光灯をつけつけ放し。幼稚園設置

基準には地下室の規定はなく、

法には触れないが、園側も父兄

の反対でプレハブに急遽建て替

える。(3・1朝日)

公私で違いすぎる待遇

私立の保育園で働く保母が次

次と公立保育園へ移っていく。

違いすぎる待遇が理由と、「私立保育園で働く保母と各区議会厚生委員会委員長との懇談会」

(東京)で明らかに。

公立は、土曜の午後四時間分の賃金を計上、ベースアップも

毎年あるが、私立は土曜の午後はただ働き、ベースアップも国の保育単価に含まれている給与額内でのやりくりで格差は開くばかり。「待遇改善をしないで、保母の使命感ばかり強調されては、保母のなり手はますます少なくになります」とは私立保育園の保母さんの弁。(3・6毎日)

台所苦しい無認可保育所

東京都内九百九十一保育所のうち百六十六が無認可。一昨年からやっと補助金が出るようにはなったものの、公立の措置費に比べるとまだまだ。バザーで毎年資金を補充しているのが実態。(8・27毎日)

共働きと保育所

共働きの家庭がふえているのにふえない保育所。

・無認可保育所では月額一万三千円の保育料、離乳食代五百円、暖房費五百円。母親の賃金の半分は保育費に。

・三人目を妊娠したが保育所がない。公務員を辞めることも考えたが、夫の母を入れて六人家族を夫の賃金だけでは養えない。今の日本では三人目を産むのは間違いか。

・共同保育所を自分で作ったが家賃や人件費で毎月二万円もの赤字。県に交渉すると「市に言え」。市に言うとうと「県に頼め」。

・杉並「ゆりかご保育園」は二十平方メートルくらいの小さな部屋に六十五人の園児をかかえる無認可保育園。都からの援助は十四人分しかもらえない。今春、四人の保母が現状に耐えかねて一斉に辞めてしまった。保母さんらの献身だけをささげ

今日もギリギリの保育が続けられている。(12・2読売)

沖縄の保育所ふやして

第四回全国保母研究会で沖縄から参加の三人の保母さんは「保育所の絶対的不足、保育料の値上がり、保母の質」が本土並みでないのが問題だという。(12・3毎日)

区と保育ママ訴えられる

保育所不足を補うために設けられた「家庭福祉員」宅で、預けた愛児がミルクをのどにつまらせて死んだ。両親は家庭福祉員と、福祉員宅を紹介した区を相手に五日、計九百六十八万円の損害賠償請求の訴えを東京地裁に起こした。(10・6朝日)

赤ちゃん死亡に賠償金

三鷹市は、保育所の赤ちゃんが、ミルクを気管につまらせ窒息死した事件で、両親に四百八

十万円の賠償金を払う。(12・11毎日)

「女子教育」

男の子だって裁縫ぐらいは必要「ズボンのほつれも自分でやってくるから安心されたし」と息子からの便りにホッとした。小学校でボタンつけや補修を習ったのが役立っている。上京の際持たせた裁縫箱が活躍しているよう。男女の別なく最少限のことはできるようにしたい。(釧路・主婦)(3・4朝日)

新家庭科に造反の声

「家庭科の単位をふやす上に、女らしくユカタを縫えなんてナンセンス。家庭科廃止運動を起こしたい」昭和四十八年度から始まる新しい高等学校指導要領が先月文部省から発表されたが、その中の「家庭科」をめぐる、一部の女子高生の間に、こんな

声が起こっている。とういのも、宮地初等中等教育局長が、「女は女らしく良妻賢母の道を。和裁も習って夫のユカタの一枚くらい縫えるように」と発言したせい。

(5・15読売)

高校進学率

女性優位は三十四都県

今年春の高校への進学率は全国平均で八割の台を越えた。特に女生徒の進学率の伸びが著しく、女子の進学率が男子を上回る県は三十四都県に。

(10・25朝日)

第二世紀の女子教育

日本で女のためにはじめて設立された中等学校、フェリス女学院と女子学院で男女同等の女子への教育がはじまってちょうど百年。文部省が二十歳以上の男女三千人に対して行なった放送大学に関するアンケートで、女性が家政学を一番学びたがっ

ているという結果がでたのは皮肉なことである。

中教審などは生涯教育のプログラムを出しているが、教育統制の制度化との懸念もある。生涯教育は、ひとりひとりが自発的に考え出したものでなければならぬ。大学が年齢を問わず主婦の再教育のために開放されることを望みたい。奨学資金制度もほしい。自立のための生涯教育こそこれからの女子教育である。

(鶴見和子) (11・10朝日)

女子大の斜陽化を恐れる

女子大への志望学生が減っている。それは女子大特有の古めかしい学風が嫌われたせいだが、多くの女子大は学園闘争のアラシから免れたせいもあり、過去の権威や伝統のうえにアグラをかき、改革にほとんど関心をよせていない。急速に斜陽化するのではないか。(12・1朝日)

〔性教育〕

文部省性教育で懇談会

十日、村松博雄、朝山新一氏らを婦人教育課が招き、初のフリーディスカッション。「結論を出すのではなく私たちの勉強会です」と塩ハマ子課長。文部省の「純潔教育」はすでに破産。

(2・11朝日)

NHK主婦番組で性教育を

「こんにちは奥さん」で十六日から「赤ちゃんはどこからくるの」など三日間のシリーズ。「もう機は熟した。大胆に、慎重に」と鈴木健二アナ。

(2・6毎日、2・14朝日)

小・中・高に一貫カリキュラム

東京都教育庁は、性教育に真正面から取り組むことを決め、来年から実施する。親も教員も「性」をできるだけ避けて通ろうとする傾向が強いが、最近の

子どもの成長は加速度的に早熟化の傾向を見せ、性のタブーがかえって誤った興味を呼び起している。「性教育編成要領」の作成、「副読本」の順で性教育調査委員会が「性教育」への取り組みを始める。

(2・27毎日)

「性教育」その方向と課題

関心を持つ教師が集まって日本性教育研究会が結成された。性教育は性器教育でなく、あくまで人間学である、との主張があったが一方で、興味本位、挑発的になるなど「むずかしい」という意見もあった。理論の裏づけが急がれる。(8・26読売)

茶の間にお産のシーン

イギリスの国営BBC放送が、小学生の低学年向け性教育番組をテレビとラジオで放送して大きな反響を呼んだが、この番組の放送権をフジテレビが獲得。

今月二十三日のテレビ番組「ビ

ジョン討論会」で放送する。フィルムは、受精から出産までの「生の秘密」を科学的に大胆に取り上げており、特にお産のシーンが初めて家庭の茶の間に紹介されるわけで今後の性教育のあり方をめぐってまた一つ論議を呼びそう。(10・12朝日)

【障害児】

障害児にも学ぶ権利を

教育課程審議会の、特殊教育諸学校(盲・ろう・養護)教育課程改善に関する答申が近く出される。これまでは、あらかじめ教育内容を決めておいて、それに見合った子どもを対象として選んでいたが、答申では、子どもの能力や特性に応じて弾力的な扱いをする教育内容や方法を子どもたちに合わせるというもの。(9・29朝日)

【PTA】

脱皮めざすPTA

東京都教育委が教材や教職員の研究費は公費負担にしたのは三年前。寄付とボスを返上、着飾りの大社交の場から、父母と教師が学ぶ場に変身しつつあるPTA。指針として、宮原誠一「PTA入門」(国土社)、都教委編「これからのPTA」(学事出版社)、毎日新聞学芸部編「みんなのPTA」(野火書房)三井為友編「日本PTAの理論」等が好評。(3・25朝日)

近ごろのPTA広報

共働きやパートがふえ、母親たちの編集する広報活動が活発に。テーマをきめ座談会などで父母の声を反映、編集権を学校から独立の動きも。(3・28朝日)

【制度】

五歳児の就学賛成四〇%

心身の発達が著しいので、全国連合小学校長会の調査による校長先生の意見。時期尚早、現状維持は六〇%。(3・8朝日)

五歳就学は見送り

ここ数年は現状どおり、代わりに幼稚園の充実を、と、中教審が結論。改革に伴う混乱を恐れて。(3・22朝日)

通知表が変わったぞ

東京都内の小中学校では、都教育長が「相対的五段階評価でなくとも」との通達を出したことから三段階評価か個人の学習努力を加味した評価法(相対式プラス絶対式)などに改善した学校がふえた。子どもたちは相変わらずこわこわと通知表に見入っていた。(3・24毎日)

服装自由化の都立高

「制服はきゅうくつでイヤ」

という生徒の要望にこたえ、東京都立田園調布高校では、バッヂをつける、クツをはく、上ばきと体操服は決められたものを使うの四項目の規則を残しただけで、あとは生徒の良識に。(9・1毎日)

【荒唐】

登校拒否児の周辺

東京都立教育研究所が68年度に扱った四百件中、登校拒否は約半数。昔ながらの怠学もあるが、親の期待が大きすぎて腹痛など身体症状の出た子も。「子は模範生、父母はインテリが多く、子どもは人工的に作り上げるもの」と思い込んでいる親が大半。親から離すと治るケースが多い」と相談員。(1・20朝日)

教室で集団乱暴

北九州市小倉区の公立中学で三年生男子九人が四人の女生徒に集団暴行事件。帰らせた女生徒をおどして教室に連れ込み、見張りを置いて乱暴したものの。

(9・20朝日)

からだ

〔妊娠・出産・中絶〕

経口避妊薬に危険表示を

「高血圧、糖尿病、ガンになる恐れがあることを説明せよ」とFPA(米国食品医薬局)が

医師、薬局、病院管理者に指示。またすべてのメーカーに「血せん症を起こす恐れがある」旨、

表示を要求。(1・21朝日)

経口避妊薬

「慢性毒性」はまだ不明

FDAから警告が出たビル。

わが国では市販されていないが、

全国三十五病院、千五百例では、

吐きけ、乳房の痛み、頭痛などの

副作用は一〇%。「医師の管理の下で、二年使うならOK」

の声もあるが、「人工的にホル

モンのバランスを崩す影響は未知数」と、厚生省は慎重。

(1・23朝日)

全米は経口避妊薬大論争

ピルの安全性をめぐる愛用者九百万のアメリカ女性は大騒ぎ。

事の起こりは昨年十二月英医学界が行なった「副作用に血せん

症状が指摘され、最悪の場合

は命とりにもなる。ガン、脳溢

血、高血圧、糖尿病、不妊症な

どの原因にもなりうる」という

発表。性解放とも関連すると、

今や宗教・政治・法律・教育各

界で百家争鳴。(2・14読売)

初回中絶は母体に影響

総理府の調査では、初めての

妊娠で中絶手術をしたものは全

中絶経験者の一七%、五人に一

人の高率。中絶の理由は、病弱

など母体の健康にかかわるもの

が四分の一、あとは計画外の妊

娠、避妊の失敗、経済、住宅事

情など。その結果、下腹痛、頭

痛、月経異常、ノイローゼ、不

妊症などからだの異常が多発。

高齢出産だと妊娠中毒症や、死

産、未熟児などが増える。でき

るなら初産は二十七歳ぐらいま

でにと警告。(4・27読売)

妊娠婦を守るコンサルタント

妊娠婦の死亡率全国一の鹿児島

島県は、鹿児島大学医学部の協

力で離島や辺地の妊娠婦の電話

診断をする「モシモシコンサル

タント制度」を昨年六月に発足

させ、すでに七人の母子が命を

救われた。(5・12毎日)

アマゾン上流に

天然の経口避妊薬

ペルーのアマゾン川上流の湿

地帯にすむ部族の間では、長ら

く特定の植物を経口避妊薬とし

て使用していることがわかった。

避妊に有効な植物は二千二百種

もあるが、「ビリビリ」と呼ば

れるものが最も広く利用され、

生理の最後の日に服用する、若

い女性には二回飲む、などのル

ールがあるという。(8・6朝日)

安全なお産を

日本では家庭分べんが減少し、

病院・診療所・助産所などの施

設分べんが増加した。67年には

九〇%以上の人が施設分べんし

たことになる。一方、妊娠婦死

亡率は十万人につき七〇・五と

英国の三・五倍にもなっている。

日本では、助産所・病院・診療

所が組織的な連絡なしに、ばら

ばらにお産を取り扱っていると

ころに問題がある。地域ごとに

産科救急センターを設け、患者

の移送、輸血用血液の確保など

妊娠してから効く避妊薬

ウガンダのカリム博士は、人間や動物の組織に存在する「プロスタグランデインス」と呼ばれる脂肪酸の一種が、人口流産や陣痛促進に使えると発表。

(9・21朝日)

階段と流産の相関関係

丸の内に通勤する共かせぎ女性約三百八十人が階段を一日何段上り下りするか調べた。最高は八百段。流・死産の経験者は一日三百段以下の人たちで八一〇%。三百段以上は一六一・九%。家事専従女性の流・死産七七八%に比べ確かに多い。

(9・22朝日)

〔体外受精〕

英国で試験管ベビーの試み

不妊女性に施術、年内に第一号が生まれるだろうとスディブト博士がBBCで発表。体外

受精は44年に六日間(ハーバード大のロック博士)、61年には二十九日間(イタリア・ロニア大のベトルッチ博士)生存させたが、誕生はまだない。

(2・24朝日)

世界で革命的なできごとになるが、それはまた宗教上の問題をも提起するに違いない。

(2・25読売)

次はホストマザー?

英パーミンガム大学のジャック・コーエン博士は、「子どもはほしいが自分で産みたくない女性や、不妊症の女性が、他の女性に自分の子どもを代わって産んでもらうことも、近いうち可能になる。不妊症の女性の卵子を別の女性の胎内に移し、自分の夫の精子を人工受精で結合させ、受胎した元の女性からだに戻し出産させることも可能」と語った。(2・27各紙)

体外受精人体実験は行き過ぎ、英国の実験が発表されたが、

成功するかどうかはきわめて難しい。奇形にならない保証もなく、成功率は心臓移植よりはるかに低いというのが定説。しかも成功すれば「人工子宮」に進むのは必然。発表者は良心の苛責はないと言っているが、心臓移植にも似た医療先行だ。脱工業化、脱イデオロギー社会の次に来るのは人間喪失社会か。70年代は科学の勝利を考えるのではなく、科学が人間にどう寄与できるかを問うべき時と思う。

(水野 肇・医事評論家)

(3・2朝日)

〔危険〕

主婦の職業病、主婦湿疹

てのひらの皮膚がこわばり、赤くはれたり水泡や亀裂ができる、水仕事の多い主婦にとって湿疹は職業病。水や洗剤になるべくふれないよう、ゴム手袋を。 (東大皮膚科、相模成一郎助教授)

郎助教授)

(1・16朝日)

タバコで女性にガンが倍増
八百例の女性口腔ガン患者の九〇%が喫煙者と、カリフォルニア歯科大シルバーマン博士が発表。

(1・30朝日)

豊胸手術で乳ガンの恐れ
シリコンなどの注入が誘因に。アメリカではすでに禁止と、国立がんセンターの医師が警告。

(2・9朝日)

農村主婦にふえる薄い血

兼業で過重な労働、生野菜が足りないインスタント食事。休養と栄養が大切と、千葉大医学部が指摘。

(2・19朝日)



女心をあざむく化粧品

でたらめなラベル、法定外色素を使った乳液やヘアスプレーの発売元ベルローズ化成の営業許可を厚生省が取り消し。

(3・1朝日)

日赤製の血漿で少年中毒死

入院中の少年(一二)の死因を調べた東大病院では血漿に有機水銀系防腐剤が含まれていたのを発見、製造中止と製品回収を申し入れた。防腐剤は厚生省の基準に従って使用していたもので、基準にも問題。

(3・1朝日)

水銀抜きはムリと日赤側

現在の技術水準では腐敗する、と厚生省を突っぱねた。

(3・3朝日)

有機水銀、セーターや毛布にも防虫・防カビに広く使われ、皮膚炎の原因になっていることが、科学技術庁衣料処理剤研究

会の調査で判明。(3・9朝日)

三種混合ワクチン禍

武蔵野市で一歳九か月の赤ちゃんが三種混合ワクチンの予防接種を受けた直後、脳性小児マヒに。接種の一週間前軽いカゼをひいていた(8・18毎日)

接種の翌日赤ちゃん死ぬ

東京品川でジフテリアなどの三種混合ワクチンを接種した生後二か月半の女の赤ちゃんが翌朝から熱を出し、午後死亡した。

(9・11毎日)

種痘禍の親、厚相らを告発

「種痘禍裁判」の原告の親たちは、種痘痘苗の「大連株」に毒性が強いを知っていたながら何の対策も講じなかった、として、厚相、前厚相、厚生省公衆衛生局長を殺人罪で告訴。

(8・8読売)

予防接種、事前に健康診断を

全国統一の健康状態アンケート用紙を提出し、健康診断をすませたものに限って予防接種を行なうなどの条件を決めた。

(10・16朝日)

三・三%が高血圧

秋田県の小中学生

わが国はじめての大規模な血圧測定を実施した秋田県の小中学生。十九万八千二百二十人の調査結果。

(10・12毎日)

母乳から農薬

秋田市で開かれている第十九回農村医学会総会で、菅谷彪さんは母乳中の残留有機塩素量について発表、成人の一日摂取限度ぎりぎりのBHCが含まれていると報告。

(10・16毎日)

東京でも母乳汚染

農林省農業技術研究所・農業残留研究室の女性技官らが調査

したところ、十か月以上東京に住む健康な母親七人全員の母乳

にDDT、BHCなど有機塩素系農薬が残留していたことが判明。

(12・15読売)

カロリー過剰、

ビタミン、カルシウム不足

四十三年度栄養調査(厚生省)によると、日本人の食生活は動物性蛋白質がふえ穀類がグンと減った。しかし乳、果実、野菜が不足でアンバランス。

(10・16毎日)

〔保健婦〕

保健婦と住民の暮らし

第二十八回日本公衆衛生学会総会でシンポジウム「保健婦は住民の健康な暮らしを守る上でどのように役立っているか」が開かれた。行政のワクはきびしいが、それでも住民の中へ入り、よい助言者になる。住民の要求

に根ざした自主的な住民運動を支援する。保健婦がどんだん地域へ出ていける機構を、という声があがった。(11・4朝日)

意見・投書

【働く人】

家にいたっていいじゃないの
カギっ子にして外に出て三年、
やっと家に。安らかな日が続いたが、「アールもったいない」「ふとっちゃって」など、近所の目。夫までが「アイロンも」と上手に。家にいるんだらう」。
だが働かねばならない理由はない。チラシで見た会社の前で
Uターン。しかし世の風潮は恐ろしい。いつか主婦たちはかり出され、冷たいおやつと子どもだけになりはしないか。

(東京・主婦・31)(2・18朝日)

大賛成の手紙がドット

主婦の大切さを訴えた同感の投書が殺到。少数だが「働く人、家にいる人、非難のしあいはムダ。互いに思いやりを」の意見も。
(2・25朝日)

六十歳は檜山行きか

夫と死別、四十九歳で寮母の求人に応じたが四十八までと断られた。五十を過ぎると、どこでも五十までと言われ、仕方なく学生下宿を始めたが物価高騰で成り立たなくなった。新聞の寮母の求人を見て行くと五十五までと言う。私は老人過多世代なのか。六十五になれば六十まではいいいことになるのか。
(東京・主婦・62)(3・4朝日)

今日の六十歳はまだ働ける

「年齢はなぜ就職条件か」など、投書が続く。「声」にのつた朝から五十件の求人が舞い込み、投書者は社員クラブの世話

人に就職。月給三万、社保も社員なみ。職安には何回足を運んでも一件紹介されただけだった。
(3・15朝日)

名目だけの妻の給料

妻の給料を損金勘定にしている青色申告のうち実際に払っているのは二%。その金を積み立てて店舗改築や不動産購入をする際、裏預金の申告もれ所得が課税される。奥さん方に「奥さんも月給をきちんともらっている」れば一生食うに困らないのに」とある税務署員が話してくれた。

百人中九十八人の妻たちが自分の給料の何たるかを知らず、税が安くなる方法ぐらいにしか考えてない。
(八王子市・男性会社社員・48)(3・5朝日)

働く女はけなげ

ある新聞に、赤ん坊を産んでも働きたいと言っている若い主婦の話を書き、私もそれに賛成

だと述べたら、驚くほど反響があった。電話をくれた奥さんは、そのけなげな女性のためその人の子を預かってやりたいと言ってきた。しかし新聞社に来た大部分の手紙は、私の書いたことがけしからんという反対意見だった。女が子どもを産んだ以上、赤ん坊の面倒をみるのは当然で、経済的に困っていてもいいのにどうして赤ん坊を人に預けてまで働きたいのか、それほどの女の仕事があるとは思えないという意見だった。

でも私は働きたいという若い母をけなげで正しいという意見は変わらない。それほど仕事があるかと反発する女の人は、働くということの意味を働が持っているし、女の能力を自分から卑しんでいるのである。

(瀬戸内晴美)(5・2毎日)



主婦業の評価

ある評論家が「主婦のような仕事ぶりでは、サラリーマンだったらクビですよ」と言ったのを聞き、考えた。サラリーマンには昇給、昇進があるけれど、主婦にはない。失敗しても減給などないかわり、いくら一生懸命やっても認められるということがない。だからパートで働き始めた人たちが「生きがいがあって楽しい」と言うのだろう。ふところの重みが充実感をもたせるのではないか。主婦業というのはラクなようでラクではなく、自分で価値づけ、評価し、その中に生きがいを捜し出してやっていたかなければならない、不思議な、また私のような凡人には、むずかしい仕事だと思う。

(主婦・39)(6・26毎日)

最近の新入社員教育

最近の若い女性に結婚しても働き続けたい人、と聞くと八割

が手を上げる。子どもができても仕事を続けたい人とたずねるとあげた手がサッと減り、せいぜい五十人のうち二、三人。つまりいったんは家庭人になりきって、子どもは自分の手で育てたいという希望が依然として女心を占めているのだ。

(上坂冬子) (7・1朝日)

【解放】

婦人代議士へ 市川房枝

女性が何を望んでいるか、何に困っているかは、同性の婦人議員のほうが男性よりもよくわかる。つまり「女の目」。女性の人口のほうが多くなった現在、国政にもその目が必要。売春防止法をつくり、深夜喫茶の問題を取り上げたのは婦人議員、酔っ払い防止法も婦人議員が一致団結したから。男性がとかく妥協的になりがちなのに反し、女性は純粋でキメの細かい政策

をするには、どうしても婦人議員が必要。

わたしは、今度の任期(来年七月まで)で退くつもりだが、ぜひ次の四点の実行を。①女や子どもにとって不利な法律を廃止し、福祉を増進するように努める。②生活の安定のために、政治と台所を結びつける。③政治をきたなくする最大原因の選挙をきれいにする。④平和を守り、戦争にならないように努力する。

(1・10読売)

女流作家の解放感覚

田中澄江「椿谷」は、近代の洗礼を受けた女が次第に古さに共感を見いだす。しかし大正末期生まれの河野多恵子「草いきれ」は恋愛ごっこ。伝統回帰からも無縁。新人・森万紀子「密約」は、ごっことしての愛の神話の破産を描く。三人にとって家の否定も性の解放もはや意味をもたない点が重要。解放の

次に来る現実を予感している点で女性解放を唱える文学よりも明らかに新しい。

(3・14朝日「土曜の手帳」)

明治の女たちの生き方を上演
円地文子の『女坂』を菊田一夫演出で芸術座が上演。官僚が夫人(山田五十鈴)のほかに何人も美女(乙羽信子ほか)を抱え、息子の嫁(浜木綿子)まで奪う。明治の女が男に屈服しなければ生きていけなかった歴史を描く一方、妻の立場の女が「これではダメだ。もっと進もう、女族がみんな」と叫ぶ芝居だが、小説で読むほどの感動がない。

(秋山安三郎) (3・19朝日)

敵は男ではない

機械化、企業の大規模化にもなう分業のもとで、単純労働がますます増え、競争も激しくなるなか、企業をつくるコマ

シャルベースの生活パターンに乗れない貧困感を昔以上に感じる人が増えよう。特に社会的に自立して生活できる条件のない

女性はそのようである。が、社会の矛盾を男対女の戦いとして観念的にとらえるより、それができた現実の状況をより深く見つめることのほうが重要であろう。

(一番ヶ瀬康子)(9・7読売)

〔農村女性〕

余暇のない農家の主婦

「農家には日曜日が無いからいや」といって結婚間もない若妻が自殺した。婚家先は皆よい人でありあわせだったというのに、どうして早まったのかと、人ごとでない。

うだるような暑さの日曜日、私は一日中草むしりだ。農業は夫一人ではできない。家事の余暇に手伝うのでなく、夫と同じに畑で働き、家に帰れば家事一

切、ようやく涼しくなった夕暮れにまた草むしりひとしきり。

サラリーマンの妻がうらやましい。いっそ農業をやめて子をサラリーマンにし、日曜日は家中楽しく、きれいに、のんびりと一生を送らせようか、と思案してしまふ。

(農家の主婦)(8・3読売)

新しい困難も発生

農村婦人は昔も今も働き通し。家制度の締めつけのもとで、差別され道具視された労働を続けている。戦後、家制度、差別の秩序は否定され、農地は解放されたが、零細な耕地とミゼラブルな経営はそのまま。機械は入ったし、農業も使う。ハウスやライスセンターなどの装置農業も始まったが、婦人たちに過労と新しい作業による健康破壊はつきまとう。世界最高の農業使用による災害も増加するばかり。出稼ぎのための別居、主婦

まで出稼ぎに出る家庭状況。七〇年代は日本農業をどうするかきびしく問いなおすときである。

(丸岡秀子)(8・13毎日)

〔差別〕

最愛の夫と離され三年

「東京の人種差別に震えた」という記事と、「陳さんにわびる」という投書は、生涯忘れられない古傷をえぐる思いで読んだ。

私は台湾留学生と結婚、大学院修了後は夫とともに帰台するつもりだったが、六年間の結婚生活で物心ともに日本に根をおろしたので、在留資格変更届を出したが認められず、日本を愛する夫の滞日を願う心で血のにじむような嘆願を続け、仕事も捨て、貯金も使い果たしたが強制退去命令が出た。

そのころ南アの老人が日本女性と結婚、日本滞在が許可に

なったというニュースをテレビで見た。かつて日本人であった夫も許可になると思っていたのに裏切られ、幸福な家庭も一瞬のうちにくつがえされた。以来三年、自活の道を求めている女性の存在を当局はどう見ておられるのか。夫が白人だったら、と、その差別に憤る。日本男性と外国女性の結婚は簡単な手続きで認められるのに、夫の滞日が認められないのは男女平等の憲法からも納得できない。

(主婦・36)(3・19朝日)

人種差別撤廃の課題

南アやアメリカの人種差別は、その国の特殊な問題と日本人は考えがちだが、日本にも部落、在日朝鮮人等、差別は厳然として存在しており、差別の本質において共通する。階級支配であることを見過ごしてはならない。

(本田創造、神戸大助教授、西洋史)(3・20朝日)

大学の女子学生

女子高では、女性中心の考えがほとんどの場合通用していたが、大学では女性が不当に差別されていることばかり。先日も男子が私に「たいがいの先生は女の子に優をくれるよ。男と女では要求水準がまるで違うんだから」と言った。言いようもなくくやしかった。男女平等、女性上位なんていうことは、いったいどういうときにあてはまるのかしら。

(大学生・18歳) (7・8朝日)

「女の気持ち」

女らしさ母親問答

「男もののスラックスは、女らしさを消すと言いながら赤いスカーフで年ごろの美しさをまき散らし、戦争否定の発言をしなかった世代はウソと母を責める。カビのついたむくろのような女らしさをたくあんシッポ

みたいに引きずり新時代に戸惑いながら、自分のした苦勞はさせまいとする母を、ものわかりがよいと逃げ口上にする。女らしさは女が持つ最小限度のけじめに通じるもの。男に追従するのでなく、男に欠けている女のこまやかさ、女ごころの心意気といった芯の強さ、みずみずしさ、いわば女の誇りです」

(母・三島敏子・歌人)

「東京のおばさんがママと同じことを言うので驚いた。まあ色物の下着?」。洗面所で洗っている、「顔を洗う所で不潔ネ」。下着は最も清潔を保つもののなに何が不潔と腹が立ったから物干し台のてっぺんに干した。

ママは高校を出るまで私の日常を大根のように切り刻んできた。どこへ行くの? 何を悩んでいるの? 大学はどこ? ああママの中の女には我慢できない。ママの口紅のついた湯のみを見

てもゾツとした。「女だから」

を隠れみのにする受動的な生き方はイヤ。一人歩きできぬ自信のなさ、弱々しさは女らしさじゃない、強い意志を持って一人歩きできる人、豊かな暮らしの知恵とことばを自在に使える女こそ女らしい。それがわからぬ男は男らしくない男。

(娘・三島久美子・詩人・21)

(1・9朝日)

主婦の一揆が起ころぬものか
野菜の高騰は農業政策の失政、一方バタールは作りすぎで他国の二倍の高値なのに政府は補助金を出すという。余るとバタのエサか給食にと考える為政者は、人間とバタの区別もつかないのか。サラリーマン重税、交通地獄、公害、住宅難、物価上昇……ここらで主婦一揆でも起ころぬものか。

(主婦・31 3・26朝日)

母の座から解放されて

我が子として生まれて来たとき娘はすでに一個の人間だった。その生命を預かって必要なとき保護し、二十になった日、娘を娘自身に返した。娘は結婚し、私は全く孤独になったが、寂しさより解放感が先に立つ。これから先、他に迷惑を及ぼさぬ程度に自分の好きなように生きていきたい。小さな暮会所を経営上達しない暮と、間違っているかもしれないピアノを楽しみに、恵まれれば恋もしたい。

(千葉 囲暮クラブ経営、51)

(3・26朝日)

総理、聞いてください

佐藤さん、日本はGNP第二位だそうですね。でもほとんどの人が「われわれには関係ないなあ」と苦笑しています。佐藤さん、一度飛行機に乗って、この日本の国を空からごらんになってください。東京湾のあの

ひどい汚れ方はどうですか。悪

臭がにおいませんか。こんどは
家屋の密集地帯をみてください。
あの家の中、老人や身障者
がじっと保護を待っているの
です。たとえ、その声がかぼそ
くても、総理に聞こえないはず
はありません。郊外では、野山
が赤いハダをむき出しにしてい
ます。緑の木々がありません。ど
こかしこも、車でいっぱいな
のにも驚かれたでしょう。佐藤
さん、これが私たち日本人の生
活なのです。あなたの得意な「前
向きの姿勢」で「弾力的」にこ
れらの対策を立ててくれません
か。

(川崎市・主婦36)(9・20朝日)

母親の耐え得る限界

赤ん坊を栄養失調で死なせる。
そういうニュースを聞くと決
まって同じ議論になる。「いま
の母親はなっていない」「その
母親が不幸だからだ」。

先妻の子三人と四人の妻子。

そのうえ押し付けられた夫の愛
人の赤ん坊。しかも夫は愛人と
家出。そんな状態は人間の耐え
うる限界を越えている。

個人の力の限界を越えたこと
には国が、社会が手を貸すべき
だ。この不幸な女の人が夫や愛
人への憎悪とは別に、民生委員
や保健所をたずねる冷静さを持
ち、また、その訴えを容易に聞
いてくれる公的な施設があつた
ら、この悲惨事は避けられたの
にと思う。

世の母親のモラルの低下を嘆
く前に、世間が等しく責任を感
じたい。

(主婦・31)(12・21朝日)

〔性・性教育〕

中絶規制強化は必要か

〔賛成〕性道德の乱脈に拍車を
かけない保証はない。審議機関
を設けることが必要。

(三浦岱呆、慶大名誉教授)

〔反対〕生命の尊重なる言葉を
タテに庶民生活の中の選択の自
由まで奪おうとする思いがり
が不快。女性の性と愛における
基本的人権さえ無視されがちな
ニッポン。原則論より現実的対
応を。(奈良林 祥、医師)

(1・29朝日)

すべての本が性書

セックスがなければお巡りさ
んとドロボウは永遠に敵対関係。
その垣を取るのがセックス。異
性ととの交際では相手をいたわる
ことを第一に。女を傷つけて平
気な男など下の下。人間そのも
のの貧しさの証明になる。とに
かく一にも二にも読書。本さ
え読めば何でも書いてある。

(母から子へ)セックスについ
て(曾野綾子)(1・5朝日)

わが家の性教育

「私は尊敬するボーボー

がその自伝の中で初潮に驚いた
ことを書いているのを思い出し、
あの人にして性教育も受けず、
性知識もそれまでもっていな
かったことを考え、性の問題は
結局、女が自分でまわりから自
分を啓発してゆくものだと考え
ます」

(田中寿美子)(3・2毎日)

〔その他〕

女性と政治の間

ロベール・ギランが『第三の
大国・日本』を著し、タイムが
日本特集号を出し、日本の矛盾
がクローズアップされている。

TV普及率世界二位、造船世界
一、鉄鋼と自動車世界二位の一
方、無医地区三千箇所、生活保
護百七十五万人。経済優先、政
治不在の結果である。生活に一
番敏感な女性主権者が憤りを感じ
ずるようにならないければ直らな
い。三百六十五日国民生活を問

相心の科学

6月号 特別価格780円

国家秘密法研究

スパイとは何か なだいなだ
尾崎秀実の政情報告今井清一
尾崎秀実未発表論文

国家秘密法案研究 小野誠之

韓国の国家機密法制和田春樹

はまなすに…… 金子きみ

信頼を通りこすもの 八柏龍紀

小堀恵美子/寿岳章子/鈴木

由美子/水田ふう/みながわ

よしの/羽生慎子/大塚公子

/中山宗子/中村智子/安森

ソノ子/辻元清美

宣言一つ 藤田省三

国家秘密法Q&A 奥平康弘

連載 山田詠美/やまだ紫/

沢木耕太郎/森崎和江ほか

聞かれる ままた

武谷三男・北沢恒彦●1800円

原子力平和利用の提唱者

である武谷三男が、社会と

半生や文学・芸術・社会

問題等幅広い話題をもと

に、科学者の為すべき社

会的責任を問い直す。

思想の科学社

東京都文京区後楽2-16-2

TEL.03(813)1745

題にし続ける婦人の存在のほう
が、一回の投票よりもどれだけ
日本の政治に「活」を入れるこ
とになるか計りしれない。
(平沢和重、NHK解説委員)
(3・10朝日)

アジア人の目を持つと

中国を語る女流作家の第一人
者ハン・スーイン女史は「米ソ
両超大国の支配をゆるがすのが
中国の台頭である。中国はいま
地上初めての新しい試みをして
いる。それは始まったばかり。
日本人にアジア人の目をもって
中国史を読み、中国の現状とあ

〔夫・婚家〕

相談

すを見てほしい」と講演。

(9・18朝日)

結婚届を出さない夫

去年十月に結婚式をあげた。

初婚だが相手は再婚、先妻にも
子はないのにいまだに入籍して
くれない。それとなく話してみ
たが、なま返事で一向にその気
がないよう。仲人もなく、どう

頼りない夫と別れたい

夫三十二歳、同居はもうたく

したらよいか。(主婦・40)
〔答〕 戸籍係に行けば用紙を
無料でくれる。戸籍謄本を取り
証人二人の署名捺印を用意、夫
に署名捺印を求めれば否も応も
ないはず。面倒があるなら代筆で
記名し、ありあわせの印を押せ
ばよい。もちろん提出も妻でよ
い。休日でも受理される。電化
で余った時間でこういう知識を
吸収して、借地借家などの実務
も、これからは女性が…。

(下光軍二) (1・12朝日)

さん。四歳の男児がいる。義父
の経営する商店で働いているが
店の手伝いや老義父の干渉に耐
えられない。夫は頼りなく、離
婚を考える。(主婦・26)

〔答〕 嫁入りとは、とりもな
おさず他人の家にはいり家族と
ともに暮らすこと。日本のしき
たりだ。おたたくの経済が誰にさ
さえられているのか考えること
が必要。とかく若い女性は結婚
を美しいもののように夢みがち
だが、結婚とはすべて現実の生
活に直面したたかいなのだ。
(福島慶子) (1・14読売)

二軒で養子生活の夫

恋愛結婚で主人を養子に迎えて二年半、一歳の男児がいる。

一昨年春から外泊が多くなり、近所に大学出の女と同棲、先方も子が生まれ、彼を養子にしたがっていることがわかった。慰謝料三百万円を月賦で払うから籍を抜いてくれと言われ、全額揃えなければイヤと断わったところ、怒って帰ってしまった。

彼は二十七。(主婦・25)

〔答〕 恋愛する男性は寂しがりや。その心を他の女にとられてしまったのは残念。二人があまり傷つかないうちに別れるよりほかあるまい。(羽仁悦子)

夫婦の気持ちがどうして離れて行ったかというより今後の身のふり方が中心のお手紙。これでは別れるほかない。家裁に持ち出して正式の取りきめをしたほうがよい。

(羽仁 進)
(1・15朝日)

夫の不義で金を払う

夫は三十歳、職場の四十歳の人妻との現場を相手のご主人に知られ、離婚するからと十万円、その後、弁護士料等として九万円払わされたが、相手は離婚はしなかった。(結婚六年目の妻)

〔答〕 どうみても共謀のユスリ。慰謝料の領収証をもらったうえで、今後はあなたが先方に慰謝料を百万円くらい請求なさい。必ず勝てます。弁護士料はその中から払えばよい。悪い人間を懲らすのに臆病になる必要はない。(中川善之助、綾子)

(1・23朝日)

妹の病気に冷たい婚家

実妹が入院した。費用は私の小づかいしかない。主人の薄給では足らず、珠算、書道の腕を生かして働き続けて六年、入院費用はあと三か月しかない。

(共働きの妻)

〔答〕 入院費用は民生委員に相談したら。(新田次郎)

経済面は解決できるが婚家の冷たさは残る。やさしい言葉一つかけてくれないと、ご主人をうらんでおいでだが、あなたは温かいのか。共働きだから、疲れているから、と自分を甘えさせてはダメ。(藤原てい)

(1・22朝日)

夫が残酷な言動

結婚十一年、子どもが出来、雑用が多くなるにつれ、私をのしり、人間をやめるとまで。夫は再婚で三十七歳。

(福岡の妻)

〔答〕 ご主人の態度は病気を思わせるが、原因は何か。①倦怠期②職場の不満が考えられる。おいしい料理をつくり、立場を理解してあげよう。離婚は最後の問題。(宮城音弥、二三子)

(1・27朝日)

酒のみの夫と別れたい

二十八と二十六、共に教員の夫婦、四歳の女の子の家庭。酒を飲むと暴力、「酒を言うときイヤな顔をするな。親兄弟をもてなせ」と。私の実家には何もできないのに。(長崎、K子)

〔答〕 お子さんにはよいパパなら、離婚を考えず、「してくれない」と言わずに積極的に話し合うこと。身内の扱いに差があるのはおかしい。

(寿岳文章、章子)
(1・28朝日)

ムコ入りに親が反対

二十二歳の長男。弟がいるのに一人娘との結婚に反対された。

(愛知 N)

〔答〕 新憲法の下での結婚は二人で新しい家をつくること。両親の理解を求め、両親への責任は果たすように。

(羽仁悦子、進)
(1・30朝日)

妊娠中に実妹と夫が関係

三十二歳、ようやく子宝に恵まれたが、職人の夫は妹(二一)と関係。皆で説得して別れさせたが、ショックで難聴に。主人は「いやなら出て行け」。妹から慰謝料をもらえるか。

(愛知 N)

〔答〕 いやいやながらも主人は帰って来たのだし、慰謝料をもらっても取り返しはつくまい。妥協して結婚を続けては。

(三浦朱門・曾野綾子)

(2・4朝日)

女と帰って来た夫

一つ上の夫、四十五歳、復員後から女狂いが絶えず、五年前家裁の調停で「一年以内に女と別れて帰る」と誓約したのに、二年後、女連れで帰郷、近くに部屋を借り、帰宅は月に一、二度。二男二女を思い齒を食いしばってきたが。(福島 H子)

〔答〕 尽くすだけ尽くした、

使える手は全部使った、と考え別れては。子どもは完全にあなただけのものでしょう。

(市川 崑、和田夏十)

(2・5朝日)

義父母と住むより離婚を

結婚五年目に庭先に家を建て自立したが、七十と六十七の両親と別れるため離婚したい。貧乏は恐れない。(静岡 T子)

〔答〕 人一倍我がままな親なら、これからの半生を犠牲にするのもつまらぬ話。しかし子どもがついて来てくれるならと言われるが、あなた自身、子の重荷にならぬように。

(中川善之助、綾子)

(2・10朝日)

老後の備えができぬ夫

商売を始めるとたちまち百万円の借金をつくってやめた四十三歳の夫、働けなくなったら死ねばいいと言う。すぐ死ねるも

のなら心配はしない。

(福岡・理髪業の妻)

〔答〕 別れなければならぬほどの人ではないと思う。娘の結婚資金など作らなくても自力で作る女性も多い。

(寿岳しづ、章子)

(2・19朝日)

十八年間独り寝の妻

主人は四十三歳の公務員、長女が生まれてから泣き声がうるさいと、別に寝、この十年、夫婦関係もない。彼の身内は全く相談相手もない。

(新潟 S子)

〔答〕 孤独の中で育った孤独の人でしょう。それを解くのは妻の役目。愛情をお忘れでは。心をこめて愛情サービスを。

(羽仁悦子、進)

(2・24朝日)

男っぽくない夫がイヤ

家事が好き、たまの休日も掃

除と買物、こせこせしてイヤ。性生活は数か月に一度。

(山口 M子)

〔答〕 人によっては重宝がかるかもしれない夫をネズミのように働くとするあなた。なぜそんな男と結婚したのかを考えると、離婚しても同じこと。

(羽仁 進)

家庭を二人でつくるという覚悟が不十分。あなたは自分本位子どもができないうちに別れては。

(羽仁 悦子)

(3・17朝日)

気に入らない長男の嫁

四年前、家出するようにして来た嫁はすぐ妊娠、出産後は育児にかまけて夏は七時半ころまで寝ている。自動車や草刈り機の運転、搾乳機の扱いができるのを鼻にかけ「嫁は大事にするもんよね」と長男に言ったのを聞き、叱って謝らせたが、その後二児を置いて実家へ。長男は

「教育し直すから帰してくれ」と言うが。

(茨城、六十歳の酪農家)

〔答〕 あなたの世代へ若夫婦を引っ張り上げようとせず、若夫婦のほうへ降りていく気持ちも大切では。むりに吐って謝まらせたりしても働く意欲を失うだけ。

(寿岳文章、章子)

(3・26朝日)

「押しかけ妻」の嘆き

中学を出てすぐ勤め、二十一のとき同じ職場の男に誘われてホテルに直行、六年関係を続け、社長に話して結婚したが主人は私が気に入らず、六年前から愛人がいる。主人は部長で月給十万円、それは私が全部取っており、ワイシャツやネクタイは女がせつせと買ってくれるので助かる。主人は何百円もする高い本を買って女と読んでいるが、ムダ使いは困る。(埼玉 A子)

〔答〕 結婚そのものが「責任

を取る」ということから始まったのでは。あなたは今何を望んでいるのか。あなたの夫はよくできた方だと同情し、尊敬する。

(三浦朱門、曾野綾子)

(3・27朝日)

家売ったお金をほしいが

義父母と夫に十六年も苦しんできた四十一歳の主婦。義弟が三年前帰郷、家売って借金を返すという。夫と私で苦労して建てた家なのに金はもらえないのか。

(秋田 M子)

〔答〕 家はご主人名義とのこと。苦労はわかるが、あなたもお子さんも所有権はない。相続という将来の期待権こそあるが全くの無権利。義弟はなおさら権利がない。離婚の財産分与としてなら「苦労した」ことも評価されるかもしれないが、夫の家を売って妻と子で分けるというのは全くのナンセンス。(中川善之助、綾子)(3・3朝日)

〔愛〕

片思いがつのる人妻

集団就職して二年目、Kと二か月はどつきあったがフラレたと思い今の主人と結婚したがケンカばかり。半年前、Kに会って抱かれたが、Kには交際の女の子がおり、その後会おうとしない。Kに打ち明けて気持ちを確認かめたいが。(二十歳の妻)

〔答〕 Kさんは、後がめんどうと思ひ合わないのだと思う。あなたが忠実でないのでも夫も暴力をふるうのでは。(曾野綾子) 今あなたに必要なのは、自分がどんなにわがままか、反省することです。(三浦朱門)

(1・16朝日)

恋人がいるのに親は見合い話

二十三歳の大学院生。心に決めた彼がいるのに、親は無視して見合い話を次々に。

〔答〕 ひかえめでおとなしいのは、いつも美德とは限らない。

自分から何かをやらなければ、あなたは永久に自信を得られない。(和田夏十)

あなたはまるで人形のように。人形でないと思ういただけでも進歩。いま本当の勉強を始めたところ。(市川 崑)

(1・20朝日)

告白したら結婚をためらう彼 婚約した以上、秘密はなくそうと言われ、過去の男性関係を洗いざらい話したところ、ちょっと待てくれと言われ…。

(愛知 H子、21)

〔答〕 結婚に関して男はエゴイスティックなもの。彼はあきらめ、これからはモノを考えて言おう。(新田次郎)

「時が経てば許してくれる」は甘い。覆水盆にかえらず。(藤原てい)

(2・26朝日)

人

一歳の娘を預けて留学

東京練馬区に住む大野アキ子さん(二六)、周りの反対に、

「子どもは未来に満ちている。

二か月留守にするプランクなんてすぐ取り返せるが、私にとってチャンスは千載一遇」と、カリフォルニア大学へ。

(1・3 読売)

北の港町で独習して優勝

塩釜市の高二、菊池二三子さん、自ら編曲した「ヘアー」で

エレクトーン全国大会最優秀賞に。曲はラジオで覚え、編曲も演奏もすべて師匠なし。ピアノは習ったがエレクトーンのはうが安上がり、授業料なしですむとバイトで購入して転向。「高校は中退、東京で修業する。ボー

リング場で弾けば月四万円、何とかなる。」に網元の妻である母は真ッ青。(1・7 朝日)

七、五七七メートル目指す

女性だけの八千メートルをとというアンナプルナ第三峰登山隊長、宮崎英子さん(三六)。「日本の女性だけの登山は、数は少ないが失敗もなくやってきた。

せっかく先輩が築き上げて下さったので。」「奥地は女人禁制だけど、警察の証明書をもらって現地の人を刺激しないように歩く」

東女大↓立大と数学専攻、日本科学技術研修所のプログラマー。(1・9 朝日)

定年迎えた女性判事第一号

石渡清子さん(六五)。東京女高師を出て八年間の結婚生活を終え、明大法学部の「おばさん学生」となり、戦後第一回の司法試験にパス、四十四歳で判

事に。米軍人と日本人妻の離婚事件など数多く手がけた。「いまだに男の身勝手に耐えかねた申し立ては多いが、近頃は、妻の情事は許すから戻ってほしいという訴えが目につくようになった」と二十年間の変化を語る。母と妹の三人暮らし、これからは弁護士業。(1・17 朝日)

「障害児」療育を陰で支える

「障害児」の親子が一週間泊まり込んでいったこともあるし、寮母さんに自宅の一室を開放していたこともある。夫は忙しすぎて散髪しないので自宅で散髪するという、島田療育園園長夫人、小林美津枝さん(五六)。(1・21 朝日)

アフリカは男女平等よ

万国博覧会にザンビア代表で出席したグエンドリン・コニーさん(三一)。「私のような女性に万国博を任せるくらい男女

平等のザンビアとアフリカの姿を見てください」。(1・22 毎日)

「貝のうち」で時代を描く

明治四十一年、「女か、フンがっかりさせやがる」と父を嘆かせた出生に始まり、赤狩り、拷問、女優の道……とめした目で自伝を書いた沢村貞子さん。(1・29 朝日)

やさしさ秘めるエベレスト隊員

女性隊員第一号の渡辺節子さん(三〇)。高校時代から登山を始め、千葉の女性ばかりの山岳会で腕をみがき、二年前の夏、三人の仲間とへ日本女性登山隊を組織、中近東からヒマラヤへ。今回はできるだけ隊長さん(七〇)のお世話もしたいという心やさしい人。アジア経済研究所会計課勤務。(2・1 朝日)

ママさんバレーは社会勉強

「勝つための強化は邪道、世

間と接する機会の少ない主婦が目を開くチャンス」と、東京都

家庭夫人バレーボール連盟結成を呼びかけ、その幹事長になっ

た安西祐子さん(三八)。女子

高時代国体に二度出場、奈良女高師卒の元体育教師、小二の母。

(2・1朝日)

ブームのイラストレーター

むかしの「さし絵画家」は文章や記事に忠実。今のイラスト

は独立した世界。女性も多数活躍。その一人、大橋歩さんは男性週刊誌の表紙を六年近くも描

いている。七年前、多摩美大を卒業、故郷に帰るのがイヤで男

性ファッションデザイナーを志し、既製服会社に売り込みに行き、「デザイナーとしては採用

できないがおもしろい」と、社長が男性服飾誌に紹介、以来

カッコいい若者を描き続ける。最近

は女の子が主テーマに。男の子の

ほうが描きにくい。男つ

て、外見だけでもイヤな人がいたりするでしょ」

(2・1朝日)

ニューヨークのダンサー

ブロードウェイ初の日本人正

式タレント奈良井邦子さん(二五)。「八人の募集に三百人が

殺到、英語の発音で悩んだが、一度決まると、舞台で負傷して

も半年は全額有給、治療費も半額支給、公演しながら次のリ

ハーサルをすれば三、四割加算されるなど、保障は至れり尽く

せり」(2・6朝日)

ナワもって厚生省にデモを

新潟県長岡市に住む曽我ミ

さん(八〇)がエッセイ集『婆買わんか、八十歳買わんか』を

刊行。「日本中のおばあ、おじい様、みんなナワ一本持って集

まってください。サア、死にますよ。ナワ持っていますよ、と

厚生省を日本中の老人が取りま

いて、サア、どうしてくださる、老人の福祉はどうなっています

か、改めてください。生きているうちに救ってください……と

押しかけましょう」と。六十歳以上の老人には国が一万円を支

給し、老人の家、クラブを作り、一万円で食費その他をまかなう

などが夢。(2・11毎日)

農民と二十三年

開拓農家の保健指導、生活改善と闘って悔いなしと言う浜松

の保健婦、柏木はつみさん(五九)。「どんな時も一生懸命だっ

た。悔いはない」(2・13朝日)

ママさん先生の「ちぎり絵」

八年前から和紙の美に魅せられた兵庫県の高校教師中野はる

さん(五一)。今では主婦ら二千人に広がった。(2・16朝日)

郵便集配人リリーダー

田中静子さん(四六)「腕章、

黒いカバンをかついで歩くのは恥ずかしいという人もいるけど、

時給百五十円なら世間なみ。私はお金がほしいし、気に入って

ます」と、朝九時半に受け取り午後配達の日五時間労働。マイ

ホームは不要。この団地で一生を終えます。(2・19朝日)

手をつなごう世界の職業婦人

有職婦人クラブ国際連盟会長、

ペイシェンス・トムズさん(オーストラリア)が来日。新聞の婦

人ニュース編集者、いくつかの公職にもついている人。

「各国の働く婦人に共通している問題は、男女差別」。低開

発国では賃金の男女差、先進国では機会の不均等。自己主張が

女性のしとやかさや女らしさを減らすものではない」(3・3毎日)

俵萌子さん公述人に

衆院予算委公聴会で「二児の

母、一主婦として意見を述べる。佐藤首相は施政方針演説で今年には内面の充実の年と言われたが、予算案を見るとがっかり。十センチのダイコンが五十円という生鮮食品の値上がり、医療費、タクシー代の値上げで生活は圧迫されているのに余ったキャベツを捨てたり、転作、休耕奨励金の八百十四億円が計上されているのは不可解。計画出荷、ワールドチェインの対策が必要。よい国家、よい社会」とは、安心して子を育て病氣をしても心配がなく、豊かな老後を送れる、ということ。基本的な社会保障を予算に組んでもらいたかった」と発言。(3・4毎日)

女性性は平和のベテラン

「家庭内の平和を守る技術を、地域社会へ国へ世界へ広げなくては」と、来日の米国婦人団体協議会名誉会長J・J・ロビンソンさん。この団体は全米婦人

団体三十を総括、情報を提供、各組織の活動に役立てているが、最近の重点は公害と婦人の地域活動。来る七、八月にウィーンで世界的規模で平和を研究する一種の移動大学を開くという。(3・7朝日)

48歳で高校卒業の保健婦さん
無医村勤務二十年の後、大島で働く滝口晴子さん。英語塾に通うなど苦闘の連続の末。

(3・8朝日)

つよい女たち

・遠藤浄子さん(二二)「人間解放の一部としての女性解放よね。しかしながらア政権奪取を媒介としてこそマルクスも言うように人間解放の第一を踏み出すのであってエ」アジ調の用語と抑揚を除けば柔和かれんな表情ものごし。東京女子大全学ストを指揮、「デメーラ、インボ」と先生を攻撃した。

・犬養智子さん(三八)「パンツとフキンと一緒に洗う」コイン洗たく機なら必然的にそうなる。「家事秘訣集」で一世を驚かした。

・影山裕子さん(三八)「見習うべき発想はもうアメリカにない。日本独自の目標を探す段になって、私、独創力がないって気がついた」カラカラと笑い飛ばす声量・音質ともにパワー豊か。

・高橋靖子さん(二八)スタイリスト。マメで物知りで誰とも仲良くなれ、タクシーの料金もまけさせちゃうという「フリーリングで生きるハレンチな商売」。

・石牟礼道子さん(四二)「死んでいく者のけだるそうな目で見られて私が病人になった。ふらふらになってまた行つて：最近になってやっと話を聞かせてもらった。漁民のやさしさはやさしさのきわみ」

「ゾロゾロやってきて組合用語で患者を指導しようとする既成組織をにくみます。一切の組織に関わった経験のない漁民が、すべてを失い、この世のものではない姿になって土着のエネルギーでおカミに向かって立ち上がった。それは小手先の戦術論でやってきた連中に向けてのヤイバでもあると思うんです」。

突きぬけて童女のように明るい。
・倉橋由美子さん(三四)「男に対する対抗意識どころか、男そのものになりたかった。この社会が男のひとものだから。女のモノ書きが何を書こうと人間は動かないし社会は変わらない」ねばっこい感覚的文体で観念の世界を描き続け、女流という枠を初めて破ったと文壇で評される人。熱烈男性願望にもかかわらず、演技にしては完ぺきすぎる女らしさがおうよう。
・大橋鎮子さん(五〇)「ハイ、正義の味方。でも検察官じゃな

い探偵、切り捨てごめんじゃない」「信者を作ることに努力してきました」「五回校正、拡大鏡で見る、暮しの手帖社社長。」

・松尾弘子さん(三五)「西陣織の複雑な工程はすべて人の手の仕事。近代化が進んだらもう西陣ではなくなる」PR誌にしては野暮ったい「西陣グラフ」の編集をまかされて十年、編集しながら手と心を撮って歩く。「発表する時には西陣を出なくては。カメラを持っていては西陣の女ではない」

・沖山秀子さん(二四)「高校の学芸会、わがまま、ルーズ」「並の尺度じゃ計れない。心のまんま」評価が極端に二分する女優。「二流に何言われてもヘイキ」。

・中根千枝さん(四三)「スマートな東大諸先生を、「酒席での振る舞いはインドの未開発民族そっくり」と書き、東大紛争をおもしろがって観察。女はミ

ソックスだから客観的たり得たのか?」「いえいえ、人類学者が客観性を失ったら存在理由がない。ただ集団が一体となってコトに当たる場合、第三者的であってはならない」。知っていてなぜ?」「すべては経験的に学

ぶんです。失敗を重ねたから「タテ社会」だって書けた。「婦人問題や女性解放論にはそれなりに意味はあると思うが、興味はない。学者としていつも国際的第一線にいたい。紛争だったから研究できなかったでは通用しない」「あこがれて入る女子学生は多いが、追い越しような人は今のところいない」。(3・30)4・15朝日、「70年代の百人」第三部・連載

未亡人になったお陰で

田村俊子賞の松原一枝さんは大学生の一人息子をもつ五十四歳の大蔵省税関研修所事務官。「小説を書いてこれたのは、周

りがよかっただけ。書くことによって精神的に安定した」「主人は昭和二十五年に亡くなった。勤めるようになったのは、そのあたりをくったため」(3・11毎日)

サル生態研究を続ける

三戸サツエさん(五五)。京大霊長類研究所の研究を助けて二十二年。「幸島のサルはイモを洗って食べる。しつければ母から受けついだものか、女の目で追求したい」と、『幸島のニホンザル自然群におけるアカンボの社会的発達過程』を執筆中。「生後半年で子ザルを突き放す強い母ザルのことを話すと子どもたちは目を輝かせて聞く」。

宮崎県南郷小家庭科教師。

(3・20朝日)

私は郷土の文学ガイド

『室生犀星・ききがき抄』で三十八年のエッセイスト賞を受

けた新保千代子さん(五六)は四十三年一月、石川近代文学館設立を、亡夫との約束と、執念で実らせた人。いま常務理事として、維持会費と資料集め、文化行事に男をしのぐ活動。毎朝九時から夕方六時まで見学者のガイドも勤める多忙の中で、『兼六園』の研究・執筆にも取り組んでいる。(3・21朝日)

社会奉仕も看病の一つ

突然いい薬ができるかも……と、希望を捨てず看病十一年の埼玉県筋ジストロフィー協理事長河端静子さん(四四)。ない暇をみつけないが協会の仕事を続ける。(3・27朝日)

母さんは夜間中学二年生

四十四歳、四児の母の千葉としさんは夜間中学二年生。夫と内職で生活を立てているが、看護婦の資格をどうしても取って家計をもっと助けたいとがんば

る。「子どもたちが大きくなったら、一緒に話し合える母になりたい」と言う。

(5・11朝日)

新聞配達でヨーロッパ旅行

「パリへ行ったら、セーヌのほとりを一人で歩いてみたい」という秋山敏代さん(二〇)。一年間新聞配達をした人が対象の洋上大学の一員に。

朝四時起き朝刊配りを一日も休まず、自分の夢を実現するための自分への「賭け」と言う。

(8・2朝日)

女性代議士

今度の衆議院選で、八人の婦人代議士が誕生。全盛時代の三十九人に比べればわずか五分の一、男性議員六十人に一人の割合。女性有権者は男よりも、二百三十五万人も多くなっただけに責任は重い。新登場の声はい。

松山千恵子さん(五五)(自民)

「中堅家庭の減税が第一。年収百万円から二百万円の中堅サラリーマンの教育費を特別に控除するなど、思いきった手を打つ必要がある。身近なことからどんどん解決していくことが、家庭をより充実させる政治だと思う」

土井多賀子さん(四一)(社会)

「公害対策がまだまだ手ぬるい。公害といってもいろいろあるから、同じように扱ってはいけない。大企業本位の政治のあり方を変えないと、解決のメドはたえない」

(1・6、7読売)

あちゃん船長

愛媛県菊岡の浜の母ちゃん漁師の中から、六人の船長(小型船舶操縦士)が誕生。免状を持たないと釣り客を乗せて遊ばせる副業が認められなくなったので受験、母ちゃんたちは全員合

格。父ちゃんたちは五十四人中三人落第。船に乗り始めて以来、鉛筆を持ったことのない父ちゃんたちを母ちゃんがカバーする。

(8・4読売)



費等で借金はふえるばかり。

(8・23毎日)

大転換の花、山口シズエさん

社会党から自民党へ百八十度大転回の「自民党看板娘」山口シズエさん。入党三周年祝賀会で政界、支持者たち千人に「爆発的な人気」「社会党から追いつてよかった。大臣もあと一歩」と持ち上げられ、ハンカチで目頭を。

(10・18毎日)

「核も血もない島」に一票を

沖縄の女教師大湾芳子さん(四七)は、昭和十六年に先生に。「皇国の子」を育て、散らせた経験から、「二度と教えずを戦場へ送るまい。私の一票はそのために使う」と、復帰による初めての参政権を前に語る。

(11・5読売)

ボーボワールの妹

シモーヌ・ド・ボーボワール

の妹エレヌさんが来日。「一生結婚しないで絵を描こうと思っていたけど、絵の邪魔はしない、あなたの助けになろうと言われ結婚。フランス東部の寒村で、自然と生命に満ちたシンブルな生活。子を持たないことを選んだ。ウーマンリブは女性も人間であることの宣言。女性の仕事を持ったほうが幸せ。六十に手のとどく今日も、毎日十時間絵筆を握る毎日」と語る。

(11・12毎日)

「わたしはオニババ」

第四回「ねむの木賞」を受賞した愛知県立名古屋養護学校寮母長の横井紀子さん。私は肢体不自由児が松葉杖で転ぶのを見ても手をさしのべない。子どもたちには「不親切の親切」が必要。が、施設に入れても家族は疎遠にならぬよう愛情を注いでほしい。「私はオニババに徹し、子どもたちに体力、忍耐力をつ

けさせたい」(12・4読売)

休んではいられない

八月に東京で「侵略Ⅱ差別と闘う婦人会議」を開いた母体は「安保と闘う婦人会議」。三里塚闘争、沖縄闘争、七〇年安保闘争を支え、羽田闘争以後留置されている学生や青年労働者たちに日用品等を差入れする救援活動も。息子が逮捕されオロオロする母親たちには救援ノートを出版。中心の松岡洋子さんは、「アメリカのカンボジア侵略、北ベトナム再進入。日本の軍国主義復活の芽も三島事件にみられる。この傾向はさらに来年早いテンポで私の前に出てくるでしょう。休んではいられません」

(12・30毎日)

〔賞〕

田村俊子賞に

三枝さん、松原さん

三枝和子さんの「処刑は行な

われている」と、松原一枝さんの「お前よ美しくあれと声がする」に決定。賞金各五万円。

(3・6朝日)

芸術推奨に有吉さん

「出雲の阿国」を評価されて、文学部門で有吉和子さん(三九)に。

(3・11朝日)

第九回女流文学賞は

大谷さん、大原さん

大谷藤子さんの「再会」と、

大原富枝さんの「於雪」に決定。

賞金各五十万円。3・18朝日)

「苦海浄土」に大宅壮一賞

文春の第一回ノンフィクション賞(大宅壮一賞)は「苦海浄土」と「極限の中の人間」に決定。賞金各千ドルと世界一周旅行券。

(3・24朝日)

石牟礼道子さん受賞を辞退

今なお苦しんでいる患者を思うと……と道子さん(四二)。文

春は千ドルを水俣病患者家庭互助会に寄付する。(3・26朝日)

米国の「国際婦人賞」受賞

ロスアンゼルス慈善団体「国際孤児協会」が孤児や混血児の救済につくした婦人に贈る「国際婦人賞」を受けた堀内キンさん。養護施設「チルドレン・ゴスベル・ホーム」を経営、六百人余の孤児を世話。「子どもを粗末にする事件が多いのを聞くと、身を切られる思い」

(12・1毎日)



〔訃報〕

大妻コタカさん 大妻学院理事

長、大妻女子大、同短大校長、三日東京新宿区で脳軟化症のため死去。八十五歳。明治四十一年東京・千代田区に大妻扶芸教授所を開いてから一貫して良妻賢母主義の女子教育を進め現在の大妻学院をつくり上げた。女子教育の草分けの一人。

(1・5各紙)

竹内寿恵さん 前婦人経済連盟

理事長。七日、急性肺水腫のため東京港区で死去。六十六歳。

血液の売買をはじめ、化粧品、天然ガスなどに婦人経営者として手腕をふるった。(1・8各紙)

松尾千代子さん 元プロデュー

サー。十八日、東京・渋谷で死去、五十六歳。

社会党代議士、松本七郎氏と四十九年離婚以来、文化放送ブ

ロデューサーをしながら六人の子どもをかかえて働きぬいた体験を手記風に書いた『ママ、おうちが燃えているの』や障害児を育てた記録『その灯は消えない』などの作品がある。

(1・19各紙)

徳永寿美子さん 童話作家。五日、東京杉並区で死去。八十一歳。

『安寿と厨子王』『ものぐさ太郎』『ねずみのよめいり』など多くの童話を残したほか、世界名作童話の紹介に尽くした。

(2・6各紙)

山野千枝子さん 十一日、心筋

梗塞のため東京都渋谷区で死去。七十四歳。

バーマネントを最初に導入した日本における近代美容の創始者の一人。(2・12各紙)

鈴木乃婦子さん 声楽家。三十一日、脳軟化症のため東京杉並区で死去。八十四歳。

三浦環と並ぶわが国音楽界の長老として活躍した。

(4・1各紙)

林家とみさん 一日、老衰のため大阪市で死去。八十六歳。

二十七歳から寄席のおはやしになり、二代目林家染丸と結婚。昨年八月引退するまでほとんど現役で通し、上方ばやしの出ばやしやはめものなど寄席ばやしの生き字引だった。

(4・1各紙)

近藤鶴代さん 元科学技術庁長

官。九日、急性じん臓不全のため東京で死去。六十八歳。

教員から戦後、衆議院に当選四回、のち参院議員当選二回。

その間外務政務次官、池田内閣の科学技術庁長官になったが、68年政界を引退。(8・10各紙)

伊福部敬子さん 社会事業評論家、十九日、心臓マヒのため東京中野区で死去。七十一歳。

東京民事裁判所調停委員、東京都児童福祉委員などを歴任、母子問題のためにつくした『若き母に贈る』『母と子の記録』ほか、著書多数。

(8・20各紙)

一宮道子さん 日本女子大名誉教授。七日、じん臓炎のため死去。七十二歳。

幼児教育の専門家で東京成徳短大と星美学園短大の教授をつとめた。(9・8各紙)

森田たまさん 随筆家、元参議

院議員。三十一日、尿毒症のため東京で死去。七十五歳。

『もめん随筆』ほか著書多数。62年、自民党から参議院全国区に立候補、当選後文教委員となったが、一期だけで引退。

(11・1各紙)

本

『女優の一生』

杉村春子と小山祐士の対談の
中に浮かぶ文学座史。（白水社、
一、〇〇〇円）（2・16朝日）

『渚と漂と舵』

題は三人の子の名。副題は「ふ
うてんママの手紙」。桐島洋子
の波乱に富んだ自伝。（オリオ
ン出版社、四五〇円）
（2・16朝日）

『丹野セツ』

——革命運動に生きる——

主婦サークルで戦争体験を書
いたが戦争責任の追求には至ら
ず愚痴と泣き言に終わったこと
を痛感、この壁を破ろうと、山
代巴、牧瀬菊枝が、「動かぬ座
標として」丹野を書いたもの。

謙虚で強情で率直。野蛮で残酷
な官憲の圧迫の下で抱き続けた
夫渡辺政之輔への愛と尊敬が胸
を打つ。（勤草書房、七百元）
（2・17朝日）

『ふるさとを守る母たち』

「戦後二十余年、何も彼も変
わったが変わらぬのは女の哀れ
さ、ヨメさんと、育てられてい
る子どもたち」と、台所の片隅
のエジコ（嬰兒籠）で目だけ光
らせる乳児、嫁三十まで口要ら
ぬと沈黙を強いられる母を描き、
しかし物言わぬ動物から発言し
行動する人間へ、もえだした芽
を見つめる。（『母の友』三月
号、大弁羅 良）（2・17朝日）

『閉ざされた社会』

アメリカ最高裁が南部諸州の
黒人差別を違憲と認めた十年後
の一九六四年でもミシシッピ
州立大学の黒人学生は一人だけ。
北部名門大学の学生たちが同州

に約六百人移住、黒人の選挙権
登録を助ける運動、六百人のう
ち六人が暗殺された。彼らが父
兄に送った手紙集。州知事・警
察・裁判所・一般白人ばかりで
なく連邦警察までが組織的に抵
抗した姿を具体的に描く。

（サイマル出版会、四八〇円）
（3・4朝日）

『激動の中を行く』

与謝野晶子の名著。菊栄、ら
いてうと三つ巴の母性保護論争
を経て、個人主義的方法では問
題は解決しないと知り、女たち
を新しくするための基礎条件と
して、自我発展主義、文化主義、
男女平等主義、人類無階級的連
帯責任主義、汎労働主義の五つ

が総合しなければならぬと説き、
婦人解放の本質を詩人的直感で
見事にとらえた。（3・25朝日）

『石ころのはるかな道』

岩手県南部の農村に生きる伊

藤まつをさん（七五）の自伝。
単なる自伝でなく、明治・大正
・昭和の三代にわたる農村と農
民の歴史を、女性の立場からな
まなましく書いたすばらしい記
録。（講談社、四八〇円）
（3・25朝日）

『教科書を考える』

日本基督教団全国教会婦人連
合会編、副題は「母親たちの研
究から」。教科書の問題を、教
師でも専門家でもない、母親の
立場からまとめたもの。「いま
教科書はどうなっているのか」
を歴史的に、また実態的に、共
同研究、政治に支配されぬ教育
を説く。（6・1毎日）

『あめんぼクラブの子どもたち』

埼玉県福岡町で66年から始
まった学童保育の記録。母親た
ちの働きかけが町長や町議会を
動かし、あき教室に学童保育が
発足。働く婦人の権利と生活を

守り主体的には子どもたちの全面発達をうながす教育活動を描く。
(10・1毎日)

「まっくら」

女坑夫からの闘書き」

森崎和江著。昭和初期まで石炭を掘りつづけた後山十人の体験談。(現代思想社、八五〇円)

(10・5朝日)

「北海道母の百年」

こだまの会編。北海道の開拓事業は、はかり知れないほど困難であり、多くの犠牲を要求したが、この天地に生き場所を見いだして、自分の世界を築き上げていった妻たちの記録。女の側の開拓史。

(明治図書出版、八五〇円)

(11・9朝日)

「女性にとって

生きがいとは何か」

田中寿美子著。自分の青春時

代を率直にさらけ出しながら、愛、性、結婚、家庭そして女性と職業などについてのべている人生論。

(文化出版局、三三〇円)

(11・16朝日)

「新しい女性の創造」

ベティ・フリーダン著。三浦富美子訳。アメリカをゆるがしつづける婦人解放運動の理論を平易に述べたベストセラー。

(大和書房、五八〇円)

(11・30朝日)

「妻は囚われているか」

ハンナ・ギャブロン著。尾上孝子訳。妻は何にとらわれているかという、夫というより育児であるとし、幼児をもつ母親を社会に組み入れることを主張している主婦の座の新提言。

(岩波書店、一五〇円)

(12・21朝日)

繁栄の陰に

産んでは次々殺した若い母

アパートの異臭に乳児の二死体を発見。母(二三)は、離婚の慰謝料が取れず育てる自信がなかったと告白。(1・1朝日)

医者捜しの妊婦死ぬ

息が苦しくなった鹿児島市の主婦(三九)、病院四軒に往診をたのんだが、元旦の医師一斉休診で医師が起きなかつたり、「当番でない」と断られ、一一九番を通じてやっと病院に運ばれる途中死亡。彼女は妊娠八か月。死因は急性心不全。

(1・2毎日)

奥穂で女性二人帰らず

パキスタン遠征訓練中、奥穂高岳へ登山した京都市の日本婦

人バスキタン親善登山隊四人パーティのうち、山頂へ向かった女性二人が帰らず。

(1・6読売)

恋人が冷たいと母子心中

昨年一月、恋人ゆえに離婚した母(二九)が娘(六)と。

(1・18朝日)

基地はもうイヤ

全軍労スト第一日の十九日、那覇で米軍側が完全武装で対決に出たため小ぜりあい、逮捕者が続出、主婦も重症、「基地はもういやだ」と訴える。

(1・21毎日)

男手では育てられぬと子殺し

妻に死なれた教育パパで評判の大阪の洋服仕立工(三八)が一人息子(二〇)を絞殺、強盗に見せかけた。再婚の足手まといと考えたのか…。

(1・20朝日)

五児を遺つれ保護家庭の母

山林労働者の妻(三六)が、九、八、六、四、二歳と毒物心中。鹿児島で。(1・20朝日)

妻子ある男愛人に殺される

神戸市で、内縁関係にある女性に結婚話がもちあがり、別れ話から女性(三一)が製菓会社社長(三三)を殺害。(1・21毎日)

母と娘が知らぬ間に衰弱死

横浜市内で八十六の母と五十八の娘が誰も気づかぬうちに。お国に迷惑をかけては悪いと生活保護を固辞、和裁内職で暮らしていた。(1・21朝日)

ふえている捨て子

渋谷区広尾の日赤中央産院付属乳児院には、「置き去り児」「捨て子」が毎年四、五人だったのが、ここ二、三年四十余人にも増えている。理由は「経済

的理由」から「親の無責任」に変わりつつある。(1・22毎日)

父不在で母子四人焼死

歩けぬ坊やら三人(五歳、二歳、二か月)を母(三三)は救えず。父はタクシーで終日勤務中。埼玉の新興住宅街で午前零時の悲劇。(1・24朝日)

焼死九人、ほとんど年輩婦人

淡路島のマッチ工場で。従業員二百人中男子は四十人、他は地元の家庭婦人だった。(1・29朝日)

家政婦の母のために犯行

正月も休まぬ母にラクをさせたいと二百枚をつなぎ合わせて一万円分浮かした変造千円札を作った会社員(二五)が自首。(1・31朝日)

(1・31朝日)

奥さん、強盗と格闘

三十一歳の妻、男がつけた怪

獣の仮面をはぎ、御用！ 東京・町田市で。(2・4朝日)

十九歳の叔母、養女を毆殺

おもらしをする、とカッとして。母はホステス。東京、江戸川区のアパートで。(2・10朝日)

両親の不仲で十一歳が自殺

「パパはママをたいせつに」とたどたどしい遺書を残して。十四日夜、京都府で。(2・16朝日)

赤ちゃん、預け先で窒息死

都内でスナック経営者夫婦が義妹に預けた生後七か月の赤ちゃんがうつ伏せに寝ているうちに窒息死。(2・18毎日)

もぐり不動産、主婦らだます

池袋署は、69年三月から看板を掲げ、友人の借金の保証人になっていた主婦に「利子は月一

分、返済はいつでもよい」と四十万円を貸付け、実印と白紙委任状を預かり、主婦の土地家屋(時価二千四百万円相当)を登記したうえ、会社員と不動産屋に二重に売りつけるなどで一億に近い利益をあげていた四人を逮捕。(2・19毎日)

子供も一緒に、成田トリデ、

新空港建設公団の強制測量に對し、少年行動隊が登場。駒井野・天浪・木の根の団結小屋では、農民、学生、労働者に混じっていたいけな学童の姿が。ハチマキをしめ、「空港ができると勉強ができなくなる。テレビも見えなくなる。絶対に反対します」などと七校百六人が同盟休校して訴えた。(2・19毎日)

紛争続き、看護婦不足、

患者百余人を転・退院 川崎市の関東労災病院では、

看護婦の勤務、増員などをめぐる労働紛争が続いているが病院側が看護婦の大量退職を理由に三月一日から三病棟を閉鎖することにした。「私たち患者をほっぽり出しての紛争で事情がよくわからないが不安だ。病院が患者優先の誠意をもっていないければこんなことにならないはず」と入院患者。

(2・24毎日)

撲殺・虐待、精神病院

作業療法の名での事件が十件以上と日本精神神経学会が警告。

(2・28朝日)

ハレンチマンガに

父母・教師が総攻撃

「ハレンチマンガ、暴力マンガを再検討、子供文化の将来を考える」というティーチ・インが東京江東区深川小で開かれた。『深川文学教育会』という教師と父母の会(五十人)の主催。

「おばあさんはポインがベタンコ」だと言ったり、女の子のスカートをのぞく男の子が増えたとの報告もあり、会場には「映倫のようにマンガ倫でも作ったら」などのささやき声。

(3・1毎日)

女学生強盗を追い返す

果物ナイフを突きつけ「金を出せ」に、ナイフをつかみ返し「返りなさい!」。都立高一年生の気迫に男は退散。

(3・2朝日)

人間捨て場所精神病棟

悪臭と寒気の中へ患者放置、作業療法で酷使、何でもピンハネ。三回シリーズのルポ。

(3・5・12朝日)

ルポに高まる怒り

病院名明記、ルポを上回る報告も二十以上寄せられ、国会・地方議会にも改善要求の動き。

(3・15朝日)

知恵おくれの二児を殺す

ノイローゼとなった愛知の母(三四)、十、七歳を毆殺。

(3・10朝日)

女子寮で二人焼死

午前二時の出火、内職の寝入りばなを襲われて。秋田で。

(3・10朝日)

パート主婦四人死傷

都下、東村山市でTV用小型トランス製作の電機工場が火事、四十代主婦一人が死亡、三人重症。従業員七十五人中、正社員は十五人、残りはほとんどパートだった。

(3・12朝日)

ノリつみの四主婦死ぬ

礼文島で小舟転覆、凍る海へ。五十代二人、四十代一人、二十代一人。

(3・14朝日)

赤ちゃんを病院に置き去り

松戸市立国保病院で男児を出

産した母親が、赤ちゃんを置き去りにして退院。病院側の引き取り要請に「私の生活がこわされるから、ほしい人にあげてもよい」

(3・14毎日)

マイホームの夢破れ

内職の妻二児と心中

日のささぬ六畳一間から抜け出す資金で夫と争い、二児(六、二歳)を絞殺して投身(三三)。

東京、深川で。(3・19朝日)

離婚話で母子三人心中

九、六歳を道連れに三十四歳。東京、赤羽台団地のピアノ教師。

(3・22朝日)

チエ遅れの二児殺す

長野県上高井村の二児の母(三三)は二十二日、長男(四)を絞め殺し、さらに殺されそうになった二男(二)は、おびえて逃げ出し、川に転落死。「長男が虚弱児でチエおくれ、幼稚

園に行けそうもなく、近所の手前もあって」と。(3・23毎日)

三児道連れに

三、五、七歳の三児と共に東北本線に飛び込み。川口市の三十一歳。(3・24朝日)

母子心中

東京、葛飾で、三十二歳と三歳。夫に愛人が…と思いこんで。(3・24各紙)

小児マヒ苦に一家五人

新人学児の病気を苦に三十八の父母と、十七、十六、六歳が無理心中。茨城・牛久町で。後に残った子が子殺しの家と言われてもかわいそうと考えたよう。(3・27朝日)

泣き声を気にして乳児死なす

生後三か月を三十歳の母が。四畳半一間に親子四人暮らし、壁はベニヤでノイローゼ気味

だった。東京、板橋で。

(3・27朝日)

デパートにもセックス商品

上野松坂屋に「おとなのおもちゃ」が。「都内の他のデパートでもやってます」と松坂屋側。

(3・28朝日)

退屈で、好奇心で、主婦が売春

東京を中心にしたコールガールグループを調べていた警視庁が、あっせんをしていた女性らを逮捕。十九人のうち十二人が家庭の主婦。ほとんどが三十歳代で十歳以下の子持ち。好奇心や、家にとじこもっている退屈さからさズルズルというケース。売春のため出かける時は子どもをお互いに預け合っていた。

(4・23朝日)

美容整形、女心の自殺

整形手術を受けたが、本人が期待していたほどでなかったこ

とを苦にした若い女性(二十七歳)が自殺。死に顔を見せないで、と便せんに女心を切々と。

(4・25読売)

スモン病の老女自殺

山形でスモン病患者の佐藤とめさん(六〇)が首をつって死んだ。「私の病気はなおらない。生きていても迷惑をかけるばかり」との遺書があり、スモン病を苦にしたの自殺とわかった。

(4・28朝日)

愛人を殺したと思い込み自殺

三十八歳の女性が、別れ話を出した後酒を飲んで寝こんで愛人(四三)の頭をウィスキーのビンで殴り、殺したと思い飛び降り自殺。男は十日間のけが。

(5・4朝日)

母子三人が焼身

母親(二八)が長男(四)と長女(四か月)を道連れに、自

分の父親をまつてある杉戸の霊園の納骨堂前で、焼身無理心中をした。「最近実家に移り、母親と妻の間がうまくいかなかったことが原因では」と夫。

(5・15朝日)

少女にストリップ

警視庁は新宿地区で深夜飲食店の取締まりを行い、少女にストリップをさせていた悪質スナック支配人などを逮捕した。十七歳までの少女六人をホステスとして使い、時にはドアにカギをかけて、警察の立会を警戒し、客席の近くでストリップをさせていた。(5・20朝日)

歓迎されぬ子を母殺す

農作業で忙しい農家の家族の間で望まない三人目の子どもをめぐり、「産め」「産むな」「養子に出す」などという話になり、主婦(二六)が、その処置に困り、生後二十六日の女の赤ちゃん

んを農業用水に捨てて殺した。

(6・25朝日)

原爆症の女性自殺

長崎原爆忌を四日後にして被爆者女性(四〇)が入水自殺。

女学校生の時、長崎で被爆。七年後に結婚したが、まもなく原爆症が原因で離婚。各地を転々として苦労を重ね別府市の食堂で働いていた。

(8・4読売)

四年間の受験生活に疲れたと

東京・文京区的女子予備校生(二二)は、北海道の母親へ「迷惑かけてすみません」の遺書を残し、ガス自殺。

(8・5毎日)

選挙違反捜査に協力、村八分

静岡県浜名郡雄踏町で、町議選立候補者から、五百円相当のごちそうと投票依頼を受けたため警察に届けたAさんは、候補

を含む百三十四人が選挙違反で

検挙されたが、Aさん宅にはその後、庭先にゴミが投げ込まれたり、虫干し中の着物にニス、新車に塗装はけ離剤がかけられたり…。

(8・8毎日)

キーサンを架空結婚で密輸入

一流朝鮮料理店の妓生(キーサン)の滞在日数が短く人手不足なのに目をつけ、日本人と架空結婚させて呼び寄せては二百万円の謝礼をせしめていた日本人と韓国人のグループが摘発された。

(8・25朝日)

赤ちゃん受難の時代

生まれたばかりの赤ちゃんが顔だけ出して河原に埋められていたり、夫婦ゲンカの果てに生後六日目の赤ちゃんがドラム缶に捨てられたり、痛ましい赤ちゃんの事件が相次いでいる。

(9・5朝日)

きびし過ぎ教育ママ

三歳の子どもに「自分の名前ぐらい」と教えたが、遊びたがったのでせっかんし、押し入れに両手両足をしばって入れ死なせた、大阪に住む母(二七)が逮捕された。

(9・9朝日)

ニセ花嫁密輸に手入れ

日本の独身男性三人を台湾に送りこみ、台湾女性と擬装結婚させ、来日させた女性をキャバレーで働かせることを計画した会社社長など四人が警視庁に逮捕された。

(9・14読売)

84歳の母、67歳の子を殺す

広島県比婆郡で、口や耳の不自由な病氣勝ちな息子(六七)を「このままではふびんだ」と母親(八四)が絞殺。(9・18読売)

赤ちゃんを列車の窓からポイ

東北本線の福島県白河市の鉄橋下に産まれたばかりの赤ちゃん

の死体。母親(二八)が映画館の便所で産みおとし、処置に困って紙袋に包み、列車の窓から捨てたもの。(9・19読売)

女高生、赤ちゃん産み捨て

兵庫県の一年生(一六)、妊娠九か月で自宅風呂場で女児を産み、二日間自宅押し入れに隠してミルクなどを与えていたが処置に困り、近くの草むらに。家庭は裕福で両親とも妊娠に気づいていたが、見て見ぬふりをしていたという。(9・26毎日)

内職を世話」と主婦の敵

「医療保険請求事務の内職をあっせんする」と広告を出し、応募者から講習料として五、六千円を送金させ、東京都内の主婦千人から六百万円をだました男が逮捕された。(10・7毎日)

おばあちゃんとひったくり

東京浅草のエスカレーターで

若い男に二万円入りのハンドバッグをひったくられた信心深いおばあちゃん(七七)。「とられたお金はどうでもいい。いまごろ、あの人は飲み食いして喜んでいるでしょう」

(10・8毎日)

中学生、死の集団リンチ

青森県三戸郡で中学生が、同級生十六人から「なまいきだ」となぐられ死亡。(11・7読売)

無認可保育所で窒息死

東京都小金井市で、母親が病気のため預けられた四人兄妹の末っ子で生後三か月半の赤ちゃんが、預けたその日にうつ伏せに寝かされ窒息死。

(11・13毎日)

女高生イージーライダー死ぬ

千葉県銚子市でオートバイが乗用車に追突。二人乗りの女高生は共に死亡。(11・17毎日)

二日も押入れに放置

横浜市で、父が窃盗容疑で逮捕されたため、滞納した家賃の金策に駆けまわる母親が、二日間一年二か月の双生児を押入れに放置した、として書類送検された。衰弱しきっていた二人は近所の人の通報で病院に収容されあわや助かる。(11・19毎日)

義弟の子と放火心中

東京で子のない妻が、ノイローゼになり、引き取って育てていた義弟の子(八)と灯油で自宅に火をつけ心中。

(11・25朝日)

三島由紀夫、割腹自殺

「生命尊重のみで、魂は死んでもよいのか。生命以上の価値なくして何の軍隊だ。今こそわれわれは生命尊重以上の所在を諸君の目に見せてやる。それは自由でも民主主義でもない。日本だ。われわれの愛する歴史と

伝統の国、日本だ。これを骨抜きにしてしまった憲法に体をぶつけて死ぬ奴はいないのか。一略」

(11・25各紙)

子の成績不振を苦に母自殺

教育熱心の母、高二の二女と中二の長男の成績が思わしくないとガス自殺。(12・1朝日)

フィリピンの少女を売買

警視庁は、渋谷区の芸能プロダクション社長(三〇)と同社員ら四人を職安法違反で逮捕。

「万国博見物をさせてやる」とフィリピンの少女ら五人を誘い、観光ビザで入国させ、大阪市や新潟県、横浜市のキャバレーなどに、一人一晚一万二千元から一万四千元か一月九万円であっせんしていた。(12・2毎日)

結婚サギで二百七十万

妻子ある不動産ブローカー(三八)が「結婚」をエサに日

本舞踏家(五五)とその弟子(二六)から二百七十万円だましとり東京麹町署に逮捕された。(12・2読売)

“欠陥湯わかし器”で死ぬ

買って一年の台所ガス湯わかし器、バーナー上部にすがたまり、一酸化炭素で東京の母親死亡、娘重体。(12・2読売)

水俣闘争で疲れたと

女子学生飛び込み自殺

熊本県天草五橋で、熊本大学三年生Mさん(二〇)は飛び込み自殺した。正義感が強く水俣闘争参加のため家出をしていた。

(12・5朝日)



夫婦ゲンカ、母子三人焼死

五日、東京足立区で火事があり、母（二八）と長女（四）二女（一年八か月）が焼死。夫婦ゲンカのと妻が放火したもの。（12・6読売）

イタコ信仰、息子を殺す

青森県で、迷信を信じる母親（四七）が「魔物」を取り払うと息子になぐり首をしめて殺す。（12・9朝日）

夫の愛人の赤ちゃん餓死

神奈川県に住む妻（三〇）は先妻の子三人と自分の子四人を育てていたが、夫の愛人が赤ちゃんを玄關先に置き去りにしたため、五か月間育てたが飢え死にさせた。夫は六月から家出。（12・14読売）

コザで民衆、反米焼き打ち

二十日午前一時、沖縄コザ市で交通事故の処理に憤激した民

衆五千人は、二十五年の忍耐が

爆発、米憲兵隊に投石。憲兵隊の威嚇射撃がされるうち、騒ぎは全市に拡大。MPカーや米人乗用車をつぎつぎ押し倒して放火した。（12・21朝日）

交通事故数最高に

死者の数は一万六千二百六十一人を記録。（12・22朝日）

公害

スモン病患者、

東京に二百六十人

原因不明の奇病とされているスモン病の患者は東京都内で少なくとも二百六十人。その疑いのある人が百三十五人以上ある

ことが東京都衛生局の調べであった。性別では男百四十一人、女二百六十二人。（2・11毎日）
老婦人に多いスモン病

厚生省の全国実態調査で①老

婦人に多く成人病の性格が強い②全都道府県に患者がいる③患者がふえる傾向が明らかに。

患者数二、六六九人、男一女二の割合。特に五十以上に多発。死亡は八％。（3・20朝日）

スモン病は社会的災害

昭和三十年代に入って、全国的に、日本にだけ多発しているのはかつてない社会的災害ではないのか。ウィルス説等もあるが、その全容が現れたとき、いや応なくわが国の荒廃のさまを突きつけられるのでは。感染説で失職者どころか自殺者も出ており、社会的圧迫も激しい。（3・21朝日）

重い青春の始まり

死者百三十人、患者一万二千余人の森永ひ素ミルク事件から十四年、十四、五歳になった被害者たちの生活は重い。（2・16朝日）

公害は市民運動でこそ

役人は企業と密着、頼りにならぬと、公害問題国際シンポジウム最終日は「役人公害論」で湧いた。（3・13朝日）

工場廃液は国土の吐血

手の指のみか足首のみか首のみか、がっくり折れて鳴けぬ鳥のように口をあけて；水俣病患者は公式登録百十人、公式発生から十七年、医学的には放置され、行政には黙殺され、地域社会からは差別陰べい憎悪されて今も死につく公式死者四十五名。

大正十四年、チッソは工場汚水の補償を要求され「永久に苦情を申し出ない」ことを条件に漁業組合に千五百円を支払う。昭和十八年問題再燃、過去及び将来永久の補償として十五万二千五百円支払う。

昭和三十四年漁民約四千が工場なぐり込みに出て再び正体暴露。死者の命三十万、不治の体

の子の命年間三万、一切追加補償を行なわぬとの一札をとる。

先住地域住民の生命を自社の製品以下に扱い、臆面もない。「亡国に至るを知らざればこれ亡国なり」「亡国の亡霊が水俣病を予兆として70年代にのみがえるのを見る。」

(石牟礼道子)

(3・5朝日)

人間を返せと叫ぶ水俣病陳情団
「次官さん、あなたのことばはひどすぎます」と、十五日朝、水俣病患者七人と支援団体の人たちが厚生省にムシロを敷いてすわり込み、泣きながら訴えた。

「厚生省は被害者の味方か、加害者の味方か」と、橋本竜太郎厚生政務次官らに国の温かい保護策を要望したが、次官は患者のことばじりをつかまえては大声で逆につめ寄った。「まるで罪人あつかいだ」「おそろしかった」と怒りからだをふるわせる患者たち。(5・16朝日)

水俣病補償追及の発言で

日吉議員を懲罰

熊本県水俣市議会は、十八日の本会議で日吉フミコ議員(社会)を十四対一で三日間の出席停止処分に。十七日の本会議で「あっせん案の補償金は不当に低い。調印に立会った浮地市長が、市民の命を安く売ったことに憤りを感じる。チッソ資本の応援で当選したからか。私の発言は患者ののろいの言葉を代弁している」と述べたのが理由。

(5・19熊本日日)

これでいいのか公害補償

脳神経をおかされて狂い死にした犠牲者でさえ最高三百五十万円。工場廃液に奪われた生命と、気の遠くなるような十七年間の苦しみの代償はあまりにも安かった。二十五日、厚生省でわが国初めての公害補償額あっせん案を提示された水俣病患者、遺族の「一任派」代表十三人。堅く口を閉ざした貝のように押

し黙り、「予想以上に低かった」

と訴えるのがやっと。一方実力行使しても調停を粉砕しようとして厚生省前にすわり込んだ「訴訟派」は「人をバカにした低い数字に、情けなくて言葉もない」。発生源が明らかでありながら、補償をしぶる会社、逃げ腰の国、真つ二つに分かれた患者と遺族。(5・25読売)

石牟礼さんもきびしく

抗議団の一員として厚生省の前に立った石牟礼さん、「患者は口がきけません。ですから私

たちが叫ばなければならないのです。それが人間としてのつとめだと思えます。裁判になるとどちらか一方が悪いことになって困る」などという考えの処理委員会に一切をまかせられるほど、水俣病の悲惨さはなまやさしいものではない」

(5・25読売)

企業内告発の医師死す

水俣病を最初に発見し、その

原因が、自分の働くチッソ水俣工場の廃液であることを突きとめた、元チッソ付属病院長、細川一さんが逝去。

(10・14毎日)

チッソ株主総会

問答無用の五分間

十数年間の「怨念」にたった五分間の審議。患者とその家族、各地の水俣病を告発する会のメンバーは一株株主として「怨」の字の黒旗を林立させ、ご詠歌を歌って総会に参加。

浜元フミヨさん(四〇)は、

総会後の説明会で再び席に戻ったチッソの社長の胸に水俣病で死んだ両親の位牌を押しつけた。「飲め。水銀は飲め」とすがりつく患者たち。恨み晴れぬままの株主総会であった。

(11・28毎日)



映画になる足尾鉍毒版画

東演による『明治の枢（ひつぎ）』上映など足尾ブームだが、十五年かけて刻んだ農民像の版画大小六十枚が、三十分の十六ミリ映画『野に叫ぶ人々』（篠崎隆監督）になった。（3・18朝日）

食品添加物の副作用

チクロ入りのジュースを二杯飲み日光にあたると、赤い斑点や水はうのあるチクロ皮膚炎になり、慢性化すれば紅皮症を引き起こし死ぬことも。

（4・18読売）

モーレッツ汚染ひた隠し

カドミウム排水による公害病、イタイタイ病での発生で知られる富山県神通川の支流にある製薬工場が、異常に高い濃度の水銀をたれ流し。しかも、厚生省と県当局がヒタ隠しにしていたことが明るみに出た。

（4・19読売）

カドミウム公害の黒部

―奇病で二人死ぬ―

黒部市の日鉍三日市製練所のカドミウム汚染区で生活していた中年の婦人が二人、三十六年と四十四年に原因不明の奇病で死亡していたことがわかった。二人を診断した医師は「二人に共通するのは、顔、特に口の周囲にできる青紫色のアザと手足の痛み、腎臓がはれることなど。いまから考えると鉍毒の疑いもありそうだ」と話している。

（6・2毎日）

指曲がり病カドミウムのせい

東邦亜鉛安中製練所はカドミウム入りの廃水を碓氷川に流し、カドミウム入りの粉じんを煙突からふきあげた。煙をかぶる北野殿地区。大塚忠さん（六一）は妻富美子さんと近所の女性たちの指が曲がっていることに気づいた。公機関の調査では患者は百九十五人。（8・12朝日）

牛乳に、なお残留農薬

牛乳に、有機塩素系農薬BHCが、かなり高い濃度で含まれていることが、厚生省の分析検査で確認された。（4・22読売）

公害東京、もう限界

東京都は一日、初の総合的な公害報告書「公害と東京都」を発表。日増しに悪化する東京の公害は、「都民の健康を守るにはギリギリの段階にきている」とし、国や企業の対策の立ち遅れを追及する一方、都自治体の責任の重大さを指摘、とくに国に対し、規制権限を地方自治体へ委譲するよう強く迫る。

（5・2読売）

公害ガソリン対策

東京の牛込柳町住民などを深い不安におとしめているガソリンの鉛害問題をめぐり、注目されていた石油連盟（出光計助会長）は、一日、政策委員会を

作り「今後、ガソリン内に入れる鉛の割合を大幅に減らす」などを決定。（6・2毎日）

反公害市民運動全国で爆発

「公害許すまじ」の市民運動が全国各地で急激に展開されている。読売新聞社が行なった公害市民運動の実態調査によると、ことしになって結成された活動的な市民団体だけで二十八、それも四・五・六月の三か月間に二十二団体が集中、公害を住民の手で排除しようとする新しい胎動が明らかになった。全国には無名の団体が数限りなくあり、警察庁の昨年七月の調査では、全国で二百四十一団体、半官半民の協議会組織、各労組、PTAなどの市民運動を加えると、一千団体をはるかに超えるものと推定される。（7・1読売）

食物すべて汚染

肝臓ガン、じん臓ガンなどの

潜在発ガン性があるともいわれるBHC・DDTなど有機塩素系農業は農作物だけでなく田畑に残留、さらに河川に流れ込んで川魚にも蓄積、一連の食物連鎖を通して人体残留が増加と日本農村医学研究所の化学実験主任が発表。(7・6毎日)

ヒ素米も安中・黒部から

厚生省がカドミウム汚染の要観察地区に指定、七月の発表で深刻な大気汚染であると指摘された群馬県安中市の産米にカドミウムばかりかヒ素が含まれていたことが、東京教育大農学部の大気汚染研究班の分析で明らかに。(7・8読売)

大気汚染で新型公害

十八日午後東京杉並の立正高校で、生徒四十数人が、突然はききなどを訴えて倒れ近くの病院に。杉並・世田谷区内でも目が痛み、はききをするなどの被害者十数人が出た。都公害規制部と都公害研究所では「新公害」とみて原因究明に乗り出し、同日夕、光化学スモッグ公害であるオキシダント(強酸化性物質)と高湿度での硫酸ミスト(硫酸の微粒子)で、世界で初めての複合汚染が「犯人」と推定されると発表。(7・19朝日)

光化学スモッグ、ありや幻じゃ
自民党公害対策委員長の古川代議士が自民党本部記者室でこう言い切った。これが自民党の真意なのか、産業公害に締めつけられ、都市公害にむしばまれる公害列島に、まるで「政治公害」の追い打ち、自民党の公害対策はポーズだけなのか。(7・31毎日)

光化学スモッグで倒れる
町田市で、午後零時半ごろ、屋内体育館や校庭でバスケットやバレーの練習をしていた八十一人の生徒がせき込みながら次々と倒れた。光化学ス

モッグ公害。(8・6朝日)

光化学スモッグと公害追放を
市民団体・労組など二百の団体が参加して開かれた8・21集会には約二千人が集まり、「私は七十にもなって天からお叱りを受けたのかと思った。呼吸困難やケイレン、涙。三十八人の生徒が次々と倒れた」と東京立正高校校長。「鳥は感受性が強い。東京からめつきりツバメが減った」と日本野鳥の会会員。(8・22朝日)

車抜きで人間性回復

東京の盛り場、銀座、新宿、池袋、浅草で「歩行者天国」が実現。交通事故、排気ガス、騒音の「自動車三悪」から解放されようと、七十八万人が出かけた。ニューヨーク五番街に次ぐ世界で二番目の試み。毎日曜日に「歩行者天国」は続く。(8・3読売)

東京湾、工場のドブ沼に

昭和電工川崎工場からの無機水銀を含む廃棄物が、横浜沖の漁場に捨てられている。京浜、京葉工場地帯から出る有機廃液や固形物を陸上で処理しきれなくなり、海洋投棄が急激に増えたもの。東京湾はドブ沼化しつつある。規制の法律もまったくシリ抜け状態。(8・6朝日)

味の素、セントラル化学も
水銀廃液流す

川崎市公害部の調査で、昭和川崎工場の水銀不法投棄に続き、味の素川崎工場、セントラル化学会社の二社も水銀廃液を流出していることがわかった。(8・25朝日)

空気商売

「酸素を召しませ」と人気を集める酸素発生器。東京のデパートの宣伝では「アジをしめたら買って下さい」。都会人はキンギョになった？(8・10読売)

人間には「環境権」

日弁連、新しい法解釈提案

第十三回人権擁護大会で、人権侵害の焦点ともいえる公害問題が大きくとりあげられ、公開シンポジウムで「環境権」という新しい法律上の考えが示された。

(9・22朝日)

チクロ食品、

禁止前に大バーゲン

発ガン性のある人工甘味料・チクロ入りの缶詰や、びん詰めはあすから販売禁止になるが、その期限切れを前に、東京の間屋が値引きして社員に売っていた。日本消費者連盟は「販売禁止も有名無実」とカンカン。

(9・30読売)

食品発色剤に発ガン性

ハム・ソーセージ・イクラ・鯨肉製品などの発色剤として使われている「亜硝酸塩」が魚肉中に含まれる二級アミンと結合

すると強力な発ガン物質「ニトロソアミン」を生成することが明らかに。

(10・24毎日)

公害追放へ主婦のアイデア

粉ミルクの空き缶に亜硫酸ガスを吸収する「ろ紙」を入れた手製の装置を使って大気汚染のデータを集め公害地図を作ろうという「カンカン運動」が大田区から始まった。一年経った現在五百個にふえ、さらに関西にまで広がりがつつある。

(11・11毎日)

公害病の主婦死ぬ

川崎市の公害病認定患者が気管支ゼンソクで死んだ。三歳と一歳の子どもを残して死んだ主婦は五年前に結婚して川崎市に住むまで全く健康だった。

(11・14毎日)

財界が「公害罪反対」に火の手

経団連、経済同友会、日本商

工会議所、日経連の四団体は一致して「公害罪」反対の行動をとり始めた。「公害犯罪の処罰に関する法律」を審議未了廃案にするのがねらいで、「法が通過すると経済活動に支障をきたす」からだという。被害者が毎日のように死亡している事実を財界はどうする気か。

(11・20毎日)

有害食品に「四ない運動」

作らない、売らない、買わない、食べない―生活学校の主婦たちが、業者に有害な添加物を使用しないよう働きかけ、業者もそれを受け入れ成功。

東京西多摩郡羽村町婦人会は、「安全とうふ」づくりに成功。カビるショウユなど、業者との連帯感を大切に安全な食品づくりにとりくむ。(11・26読売)

石垣りんさん、公害告発の詩

「算数」

これは寓話ではありません。新しい杜宅の立派な空家と人の住んでいる古い長屋が隣り合っ

て建っていました。杜宅なら引っ越すことができます。個人に負担がかかりません。

ほんの道ひとつへだて二棟の長屋があります。

ここに住む人は生活に根が生えていますから

むかしから住んでいる人たちがすからかんとんに引っ越しが出来ません。

(12・4毎日)

「公害塾」超満員

東大助手・宇井純氏の自主講座は、東京大学の教授、卒業生が「公害」の加害者だった歴史を話し、学問のあり方を問う講義を続ける。「公害に対する学問は被害者から出発しなければならぬ」との言葉に五百人を超す一般人をふくむ「学生」は深い共感。

(12・5読売)

死の苦しみ、川崎ぜんそく

予想したよりもはるかにひどい患者の現実。鉛色のスモッグ。

「死んでしまったほうがまし。

カネささえあれば抜け出したい」

とほとんどの人が訴える。毛布

をかぶったS君（一四）は「き

のう退院したばかり。お父さん

もぜんそくで入院。お母さんは

別居中でいない」。乳児保育園

に預けられている孫二人とおじ

いちゃんの三人が認定患者と

なった家庭も。（12・16朝日）

埼玉の中学生たち

農薬で目の異常、高血圧

東大医学部の検診によると、

埼玉県下の百間中学校の全校生

徒四百三十九人中、二百六十七

人が若年高血圧で、三十八人が

「目の異常」を持っていること

がわかった。明らかに有機リン

系農薬が原因と医師らは報告。

（12・23読売）

差別

黒人の日本人妻

アメリカの黒人と結婚した日

本人妻の夫の大多数は、兵隊と

して駐日した人。その生活をほ

とんどが取材拒否。ようやく許

した一人も、「渡米後は町中の

人に首が曲がるほど振り返られ

子どもたちはジャップといじめ

抜かれたが、次第に腕力・知力

とも抜群に。しかしアメリカの

市民権は取らない、州法で非黒

人系との交婚を禁じられている

から」と言う。黒人やインディ

アンほど戦場に行く率が高く、

大戦中、黒人兵はヨーロッパの

白人女性との関係を恐れてアジ

アに回された。人種差別もテロ

もあるが、日本のように根強い

潜在的差別意識はない。数が多

いから、と、胸を張って生き続

けている。（2・2〜10朝日）

教員採用、思想で差別

この春、教育大学や教員養成

大学を巣立った教師の卵が、都

道府県で行なわれた任用試験な

どで「思想調査」されたり、学

生運動を理由にフルイ落とされ

ているという疑いが持ち上がり、

日本学術会議が実態調査にのり

出すことになった。同会議では

学問・思想の自由の立場から、

事実が明確になれば、教育委員

会や大学に勧告するなど、きび

しい態度で臨むという。

（4・23読売）

朝鮮人いじめをやめて

東京、北区十条台の東京朝鮮

中高級学校生が、都内や近県の

一部の高校生・大学生などのグ

ループに集団で乱暴される事件

がつづき、安心して通学できな

い状態だと、（在日朝鮮人の人

権を守る会）がこのほど事件の

調査報告をまとめた。三十七年

以来の約百件の主な事件を集め

てあるが、出入国管理法、外

国人学校法案の審議など、在日朝

鮮人に関する政治問題が起ころ

たびにふえ、偏見やイデオロ

ギーによるにおいが強いと同会

は指摘。

（5・9朝日）

無国籍に泣く二人の女性

終戦から二十五年。戦争は終

わらぬ女性も。

南太平洋パラオ諸島のペリ

リユー島で、日本の統治時代に

日本人と結婚した佐藤ゲセヤー

ルさんは敗戦後、夫と子らと日

本で暮らしたが、夫も死に、帰国

の決意。しかし日本の入管法は

彼女を無国籍として出国を拒否。

また満洲開拓団から二十六年

ぶりに帰国した矢吹マサさんは

連れ帰った息子の一郎さん（父

親は現地応召で行先不明）が無

国籍のため、仮入国しか許され

ない。

（8・9読売）

本土となぜ差別行政

第一回全国離島婦人会議に出席した鹿児島県飯（こしき）島の川添テイさん（五二）は語る。

「島の男たちの多くは関西方面に出稼ぎ、田植えとイネ刈りの時だけ帰ってくる。島には高校がないから川内市か鹿児島市に下宿させなければならず、一人一万五千円から二万円かかる。平地の少ない島では船で運ばれた野菜を買って食べる。でも島で生まれ、育ったから島で生きたい。道路を作ったり医者をしてほしい」（9・12読売）

戦争

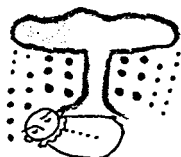
原爆奇形を見せ物に

ホルマリンづけの一つ目胎児、西宮市の神社境内の見せ物に兵庫被爆協が抗議。胎児はゴム人形、十数年前から北海道、四国、

関西を中心に巡業していた愛知の興業師は、「被爆者を傷つけるなら、これから気をつけます」（1・12朝日）

核実験で幼児五十万人死ぬ？

米国で四十万、英国で十万の幼児が死んだ可能性があると、米ピッツバーグ大スーティングラス教授が発表。一メガトンの実験ごとに一万人が大気汚染で死ぬ。大気圏内実験中止時期と幼児死亡率低下時期の一致は偶然ではない、と。（1・28朝日）



「復刻教科書」売れる

ノーベル書房が、教科書としてではなく一般向けの本として

出版した「尋常小学修身書・児童用・巻四」が売れている。教育勅語にはじまり、忠君愛国、孝行、博愛、よき日本人のあり方を説く。文部省は「あまりうれしいことじゃない」と迷惑気味。小学六年の女の子は「なんだ、内容はいつもママが言っていることじゃない」（3・5毎日）

卒業式に君が代を、と父兄が署名

東京、荒川区尾久小で五百七十世帯中三百八十世帯の署名を集め校長に提出。教職員は強く反発。（3・15朝日）

「反戦の本」は好ましくない

青森県五所川原市の県立五所川原農林高校で、図書館に備えてあった「反戦のすすめ高校生シリーズ」（小田実ほか編、三一新書）を校長がみつつけ「生徒に好ましくない焼いてしまったら」と言ったため教諭が石炭ス

トープで焼いてしまった。校長は「冗談だった。本は買い戻した」と言っているが、県高教組は「言論の自由の問題」と憤慨。（3・16毎日）

韓国の日本人妻

帰国措置を延長（ソウル）

韓国人と結婚し韓国で極貧生活を送る「日本人妻」とその子らの帰国措置は、当初四十四年度限りの臨時措置として今年末で打ち切られる予定だったが、複雑な事情から、帰国業務が思うようにはかどらず四十五年度も継続されることに決まった。八十四世帯、二百四十五人が帰国し日本で新生活に入っているが、現在五十世帯、百四十一人が手続き待ち。（3・28読売）

日本の若者がベトナムで戦死アメリカに永住した姉をたより渡米した弟が、永住権をとったとたん徴兵。「なぜ自分が米国

の戦争に」と苦悩しつつベトナムへ送られ、戦死。(6・7毎日)

カラー原爆映画リバイバル

敗戦直後、米軍が撮影、二十五年ぶりにみつかったカラーの広島、長崎原爆記録映画が、二十五日夕、東京、有楽町の朝日新聞東京本社講堂で初公開。せいさんの被爆者たちの姿に場内の人々はどうめき、終わってもしばらく席を立つのを忘れていた。(6・26朝日)

まだここに「戦後住宅」

「公園の中にみつともない」「水がふえたら危険だなあ」という声をよそに、葛飾区の公園と河川敷に一般の住宅が建っている。いずれもレッキとした公有地で、役所は「戦後ずっと不法占拠している」というが、住民側は「見て見ぬふりをしてきたお役所が悪い。長年住めば居住権もあるし、なんらかの補償

がなければ立ちのかない」と強気。(7・14毎日)

原爆写真

「売る」から「貸す」へ
原爆投下の瞬間を含む広島の高空写真六枚を売りたい、といていた米テキサス州のエルマー・ディクソン氏(六〇)は、在米日本人女性のレイコ・パンザンさん(四一)の、「もし日本人がパールハーバーの写真をアメリカ人に売るといったらどう思うか。写真は広島市に無償で貸してほしい」との説得に同意。(8・3朝日)

原爆の図アメリカへ

被爆二十五年目の今年、丸木位里、俊夫妻の原爆の図十部作がはじめて原爆投下国アメリカへ渡り展示される。これまで二十三か国で展示されたが、オーストラリアでは三日間で展示中止に。(8・5読売)

開拓団員、二十八年ぶりに帰国

若林ますみさん(六四)。三十五歳で「満洲」に。敗戦後兵役から帰った夫は一年後に死亡。食べるものも衣類も少なく、朝から晩まで働いても寒い土地で収穫は少ない。彼女の顔には数え切れないほどのシワ。「中国人にひどいことをされた覚えはないが、冷たい目で見られどおしかった。配給は平等だが、収入は半分。手紙は全部検閲された」と口ごもる。(8・11読売)

作られた「敵」

終戦時、銅山のある秋田県H町には捕虜として徴用されていたアメリカ人が食糧を求めて歩いた。彼らは「ニワトリ交換」「コメ交換」と言いながらチョコレットやガムを持って来た。「鬼畜米英」と教えこんだ国の教育は私に、外国人とはやさしい心も道義心もない残忍で恐ろしいものと思わせていたので、

米兵を見ると反射的に家に逃げ帰ったりした。幼い柔かい心に教育はおそろしい力で浸透していく。「敵」は民衆によってではなく、別の大きな力によって作りあげられていく。

(福本英子)(8・12朝日)

日本のために死んだのに

私の親類の仏壇には日本の兵隊さんの写真が飾られている。この日本兵は台湾の青年で生きていれば私と同年。彼の母はいつも「私がつれあいをなくし、一人で育てた三人のむすこは、三人とも昭和十八、九年に日本のためささげ、犬死にした。日本の人によろしく伝えて」と言い、一昨年路地裏のあばら屋でさびしく死んだ。大日本帝国のために死んだ台湾青年は三万人もいるのに、日本政府は何の慰霊もしない。やがて終戦記念日。日本のみなさん、何らかの方法で台湾の青年たちの霊を慰

めて。(孫溥盤、台湾、台南市)

(8・13読売)

自衛隊へ子ども会が体験入隊

浜松市の子ども会員三十五人が一泊二日で航空自衛隊基地に体験入隊。「最近のこどもに欠けている規律ある団体生活を体験させるため」と子ども会世話人。

(8・15朝日)

二十五年目の八・一五

全国戦没者追悼式会場の東京日本武道館には五千四百人の遺族代表。二人のむすこを沖繩とブーゲンビルで失った佐々木保賢さん(八四)は離島沖永良部から紋つきはかまで。「今でもヤス(二男保蔵さん)サダ(三男真保さん)のことは、この目の裏に焼きつけちよる。かあちゃんも四年前に死に、供養してやれるのはわしだけ」

(8・15読売)

宮崎の神話大論争

来春から教科書に神話が復活、子どもたちは神武天皇を教わる。宮崎では神話にのっとった記念碑などが、戦後いち早く改名されたが、元に戻せとの請願書が県議会に出されるなど、復古論争がさかん。平和台公園を八紘台へ戻せというもので、商工会議所会頭、婦人会、農協、青年団、PTA連合会、郷土史家などが請願者に。(8・16読売)

沖繩支援の米女性連行さる

アーニー・イクスさんは十日からはじまった全軍労ストの支援をしていたが、十日午後、嘉手納第二ゲートで金網ごしに基地内に「全軍を支援しよう」「基地労働者はなぜ戦わねばならないか」などを書き込んだビラを投げ入れたところ、米軍捜査機関に連行された。

(9・11朝日)

米軍演習にベトナム少年兵

復帰間近の沖繩伊江島で、米軍演習がくり返されているが、パラシュート降下演習で民家の屋根にドスンドスンと落ちてくる兵士に南ベトナム少年兵がいる。日米安保がアジア安保へ拡大する布石だと警戒するむきも多い。

(9・21朝日)

被爆怪獣マンガで謝罪

少年雑誌で扱われた「被爆怪獣」マンガについて、「被爆者に対する思いやりにかけるうえ、原水爆禁止のためにも逆効果になる恐れがある」という意味の抗議がなされ、小学館側が「不注意だった」と謝罪。

(10・15朝日)

反戦腕時計

ニューヨークで「TIME FOR PEACE」の十二文字で出来ている女性用腕時計が発表された。反戦彫刻家のディ

ミトリアスさんがデザインしたもの。(10・19毎日)

ハワイの日本人妻

「戦争花嫁」とよばれた日本女性が海を渡って二十余年。全米各地に散った女性たちも四十代。デパート、美容院、日本語教師、放送局、バー、たくましく働く女性になっている。

(11・8毎日)

一票へ沖繩女性の願い

唐ゆ(世)大和ゆアメリカゆ——沖繩には、その長い被支配の歴史をあらわす言葉がある。二年後の祖国復帰が万が一にもかかわらずのような差別支配の大和世に再び移ることであつたら——沖繩の多くの人々の心にはそんな不安がある。所得水準が本土の約六割。共働きや主婦の内職は当たり前。働く婦人の十六・六％は死離別者。戦争未亡人や米兵との間に

子どもを産んだ未婚の母、捨てられた現地妻も多い。赤いハイビスカス、紫のプーゲンビリヤ。青い海とサンゴ礁。だが「人間と切り離して、自然の美しさになんの意味があるでしょうか」と、ある主婦。(11・15読売)

反戦米兵を軍事裁判で援護

山口県岩国市の米軍海兵隊航空基地で開かれた公開軍事裁判で、日本人主婦が「ユーイング二等兵はまじめで誠実な青年。彼はベトナム戦争がきらいで基地を離れたと言った」と証言。

(12・9毎日)

海外

〔南ベトナム〕

女性四人虐待に抗議

サイゴンの女子学生四人のグ

ループは十一日、南ベトナムにおける反戦運動家の取り扱いについて調査するためサイゴンを訪れている外国の平和団体に報告書を提出、ツードク刑務所で女性四人に対し拷問と集団的りよう辱が行なわれていると非難。

(7・12毎日)

平和を求める女性

サイゴンに「平和を求めるウーマン・パワー」が誕生。正式名称は「婦人の生活権を求める委員会」で、二日、五百人以上が集まり発会式。元国家元首夫人、女性弁護士、上院第一副議長など、サイゴンのそうそうたる顔ぶれが参加。

(8・4朝日)

〔ビルマ〕

ビルマの誇りは「ウ・タント

総長、仏教、女性解放」

非同盟中立の新生ビルマ。その誇りの一つが「女性が自由で

解放されていること」。働きものの女性たちは、経済的にも男性と同じか、それ以上と言われる。ラングーンの理科系国立大学では一割が女性。経済大学では四五%。

(8・23毎日)

〔セイロン〕

シリマボ・バンダラナイケさん。夫のソロモン・バンダラナイケ首相が五九年に暗殺されたあと、推されて自由党の党首に。六〇年七月の総選挙では、統一国民党に勝ち、世界初の女性首相。このとき四十四歳、一男二女の母だった。

65年の総選挙で統一国民党に敗れ首相の座を下りたが、70年の選挙では野党が圧勝、首相に返り咲き。涙もろく、政界にデビューした60年の選挙では「泣き虫未亡人」のあだ名をもらった。

(6・1毎日)

〔インド〕

インドで「少女輸出」

ケララ州の二千人以上の貧しい娘が欧州のいくつかの国の尼僧院に売られ、応募した少女たちは欧州に到着するや「女中メカケ」にされている、とインド人民社会党のハラン議員は下院で非難。

(8・26読売)

〔ヨルダン〕

アラブの女性記者

ヨルダンの首都アンマン郊外パレスチナ難民収容所で生き生きと取材するサルワ・パンナさん(三二)。自らも難民、この憤りを訴えたいと、きゃしゃなからだで。「疲れちゃいられない。故郷に帰れる日まで頑張らなくちゃ」

(1・11朝日)



「ピアフラ」

子の食糧奪う母

乳児を持つ母は母乳を出すため年かさの子の食糧をねらい、子は母に奪われまいと逃げ回る地獄図絵も至るところに。避難民四百万、主食は三百倍値上がりしたピアフラ。(1・22朝日)

「ソ連」

女性優位

タシケント空港で男が女をなぐったのを見て「革命的」だとみんな言った。ソ連ほど男女同権の国はない。一つには労働力不足。二つには夫の収入だけでは生活が苦しいから。あらゆる分野に女性が進出して社会を支えている。店員、バス・電車の車掌、運転手、建築労働者、小中学校の教師、医師のほとんどすべての職業で賃金差は絶対ない。ソ連で、もし騒ぎが起るとすれば、むしろマン・パワー

の側だろう。それもウーマン・パワー打倒などという大それたものでなく、もう少しやさしくしてほしいという「請願デモ」がせいぜいかも。(9・8毎日)

ウーマンリブ、ソ連では

ソ連の女性は、国家枢要の政治からしめ出されている。共産党政治局の中央委員十一人の中には一人も含まれず、閣僚会議の女性は、文化相のフルツョフさんだけ。国会議員は三分の一が女性。工場労働者の半数が女性だが、管理職は十のうち九は男性。四人に三人の教師は女性だが、高校の校長は四人に三人。ソ連では女性が働くことは権利でなく義務。ソ連の女性はノーブラどころか、ブラジャーを買うために一生懸命働いている。「男性の職場に進出してきたことで、ソ連の女性は、女らしさとか母親らしさという幸福を奪われてしまった……」とは

ソ連女性記者のアメリカ女性たちへの皮肉か？ (11・27読売)

「フランス」

女性大統領や首相はこめん

フランス西部レンヌの地元紙が女性の地位に関する調査を千人に行なったところ、女性を大統領にすることには六九％の人が反対、女性首相にも五二％。市長や大臣に女性登用は支持されたが、ドライバー、パイロット、外科医などの職業についても女性には不適とする人が過半数。女性回答者の中でも社会で働くことに喜びを見いだしている人は少数で、五四％は「女は家庭に専念すべし」と考える始末。

(6・29毎日)

「男の國」仏学士院へ挑戦状

「男性への公開状」などの著作をもつ女性解放運動を進めている作家フランソワーズ・パリチュリエさんが、アカデ

ミー・フランセーズ(フランス学士院)の会員に立候補すると宣言、三百年来の「女人禁制」の城に乗り込もうと意気込んでいる。(10・17朝日)

男女同権まだまだ

国立経済統計研究所が賃金調査の結果を発表したが男女の差は歴然。フランスでは女性の選挙権は日本と同じく戦後にやっと与えられた。妻が自分の名で銀行口座を持てるようになったのは六年前。バースコントロールさえ二年前にやっと公認されるようになったばかりで、人工中絶はいまだに非合法。八月二十六日、米国女性たちに同調してパリでもデモが計画されたが、参加者は十数人。

フランスの歴史は女性も出入りするサロンを中心に展開した。つまり本質的には女性が差別されていないのであり、女はたえず男と平和共存を続けてきた。

『エクスプレス』主筆のフランソワーズ・ジルさんは「女性の生活条件を真に改善しようと思ふなら、男性に対して闘うのではなく、男性とともに闘わねば」と言う。(9・5毎日)

パリでもウーマンリブ

二十二日、ベルサイユで婦人雑誌主催の第一回「婦人の権利会議」が開かれた。

「妻の不貞が離婚の原因とされるべきではない」「新聞は女をバカ呼ばわりするな」「教科書で家事は主婦の仕事と決めつけるな」「男女の給与の平等化」「政治家は選挙以外の時も女性のことを考えて」などを要求。(11・25朝日)

〔イタリア〕

ローマで六つ子

ローマの病院で女の子四人、男の子二人の六つ子が誕生。母

親(三五)は十一年前結婚、出産経験がなかったが、排卵促進剤を最近飲んだという。(8・5朝日)

〔イギリス〕

演出に女性を初めて起用

二十三歳の演出助手グッドボディ嬢を『キング・ジョン』の演出に起用。全英で初めて。(1・27朝日)

「女性との平等」求め

男たちがスト

ロンドン近郊のボグゾール自動車工場のプレス部門では、夜勤の人手不足のため昨年十月組合と男女同一賃金協定を結び、夜勤にかぎり同額の賃金が支払われることになったが、そこで働く男性二百人のうち約半数が「女性四十五人が仕事の割り当てなどで優遇され、同一賃金なのに楽をしすぎている」と十二

日、山ネコ・ストに突入。

英国では、バーバラ・カースル雇用生産性相が女性大臣としての面目にかけて、男女の同一労働同一賃金をと、精力的なキャンペーンを展開中のため、すでに同一賃金を獲得している女性に対する男性の側からの「バックラッシュ(巻き返し)」と見られている。(3・15毎日)

ミス・ワールドは

美人じゃないわ

ロンドンで開かれた、ミス・ワールド・コンテストでグレナダのホステン嬢が栄冠を獲得したが、出場者たちから大会主催者に「審査はインチキ」「彼女は美人じゃない」とクレーム。(11・23朝日)

革命的女性が気勢

「横暴な男性が支配する社会に生きるのはあきあきした。セックス、子どもの養育など、

すべての面で真に男女平等の社会を勝ち取るう」二十八日、イギリス最古の伝統を誇るオックスフォード大学に怒れる若い女性闘士約四百人が集まり、「女上位の革命の旗」をあげた。

集まったのは全面的な共産革命をめざす国際社会主義女性代表から、未婚の母を助ける各組織の代表、家族制度は女性を抑圧すると非難する自由恋愛主義者などまで十五グループ、ほとんどがハイティーンと二十代前半のピチピチした女性たち。連れてきた約四十人の幼い子どもは男性に預けて論議を展開。(3・1読売)

女性記者有色人種に化けて取材
薬で肌の色を変え、プエルトリコ移民として中部工業地帯に潜入した英国大衆紙『デーリースケッチ』のアンシア・デイズニーさん。「有色人から見た英国はまるっきり別」と、連載記

事で訴える。(3・1朝日)

男女同様へ着実な歩み

英国のウーマン・パワーはすでに実績をあげている。参政権は一九一八年。元首は女王だし、労働党内閣では雇用生産性相がカースルさん。保守党内閣では教育科学相がサッチャーさん。今春、カースルさんが推進した「賃金平等法」が成立。七五年までには同一労働同一賃金が実現する。

“独身母親”や“離婚母親”もふえ、「ミス母親コンテスト」まで計画されかかった。

「男はミスターと一生呼ばれるのに女だけミスとミセスを区別するのは女を男の“もの”扱いにしている」と、敬称一本化を要求するグループも。女性解放運動への男の参加もみられる。一方、「女には、生理休暇も産休もあり、家事のための遅刻、早退もある。男が差別されてい

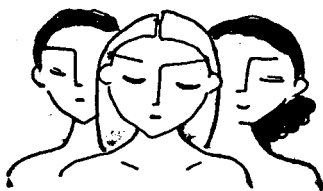
る」と男のストライキが起ったりしている。(9・7毎日)

「アイルランド」

デブリン嬢四か月ぶり釈放

「ミニのカストロ」として知られる北アイルランドのカトリック系住民の指導者バーナデット・デブリン嬢が二十一日朝釈放された。昨年のロンドンデリー暴動を扇動したかどで六か月の刑を言い渡され、四か月間収容されていたもの。

(10・22朝日)



「アメリカ合衆国」

ヤセ薬で一か月に三人死亡

ニューヨークの死亡例に、米国食品薬品局が調査開始。

(2・17朝日)

ガンもアル中も女性のせい

世の男性を苦しめている病気のほとんどは、女性が起こしたといえると、米労働省の専門家フォーン・ハドキンズ博士がまとめた報告の結論を発表。

ショッキングだが、お役人が

書いたリポートだけに、しごく大まじめで、著名な精神病学者、法律家、人類学者、社会学者の文献からまとめたもの。精神分裂病、偏執症、アルコール中毒、ガン、関節炎などの病気や、自殺、犯罪、同性愛、さらには父親の蒸発などは、家庭が女性上位であるためという。博士はこの報告書に自信満々だが、同僚の中には、公表したらフェミニ

ストの抗議で大変と今からビクビクしている者も多い。

(3・28読売)

中絶解禁、妊婦どつと病院に

妊娠中絶法が発効した一日、ニューヨーク州の病院にどつと妊婦が押しかけ、手術をうけた。ニューヨーク市とその北部地方では四十の公・私立病院などが、百四十七人の中絶手術を行なった。

(7・3朝日)

G-I相談所、店開き

ジェーン・フォンダさんなど反戦運動家グループがワシントンにG-I相談所をオープン。「米軍内で兵士の人権が侵される事件が非常に多く、とりわけ黒人、学歴を持たない兵士などに対する差別がひどい。調査して議会とも連絡をとり、相談にのりたい」と。

(8・11朝日)

編集にも女性を採用

アメリカの有力週刊誌

『ニューズウィーク』の経営者は、同誌の編集に女性を採用すると発表。これまではリサーチャー(取材・調査)か助手としてのみ女性を雇っていた。

(8・28朝日)

主婦も戦う公害防止運動

ニューヨークでは、公害防止は先ず家庭の中から、という考え方が広がりが市民の一人ずつが公害の加害者にならないように、二台の車は一台に、五滴の洗剤は三滴に、捨てられるものは何でも捨てていた生活を、ゴミを出さない生活に、と意識を変えている。スタンフォード大学のエルリック博士は「生活革命を起こさなければ。ただの公害防止対策では役に立たない」と手きびしい。

(8・29毎日)

男女平等法案(ERA)

米下院で可決

米下院は十日の本会議で、憲法の下でアメリカの婦人に男性と全く同じ権利を保証する歴史的な法案を圧倒的多数で可決、上院に送付。

(8・12読売)

憲法改正案、

男性の反発で危うし

八月二十六日の女性ゼネストの後、男性からの「反発」は次第に大きくなり、グリフィス女史の男女完全平等をうたった憲法改正案の成立は難しくなってきた。バーマン博士(ハンフリー前副大統領の主治医)は「女性には生理があり、妊娠があり、更年期がある。女性が大統領だったらキューバ危機はどうなっていたか」「男女の能力は異質のもの。一流の料理人、デザイナー、ヘアドレッサー、どれをとってみても男じゃないか」と失言を重ね、民主党政策

優先審議委を辞任させられたが、米国にこのような考え方は根強い。

(9・3読売)

差別許さないワ、米空軍

女性空軍大尉のトミー・スミス・スミスさん(三五)は、フリーピン転動に八歳の息子をつれていくことを禁止され、「男性には禁止規定はない」と連邦裁判所に訴訟を起こした。

(10・1毎日)

公害反対の米国の女性

二十五歳のマリオン・エディさんは「公害反対有権者同盟」をつくってキャンペーン、議員歴二十六年の「公害議員」を落選させた。合成洗剤や殺虫剤、プラスチック容器など「公害商品」の不買を呼びかける買物カゴ作戦でメーカーに圧力をかけている主婦グループもある。

(10・21朝日)

ノーブラでいきいき

米国の若ものたちのアングラ的解放度は、男ならヒゲと長い髪、女性ならブラジャーの有無でわかる。「ブラジャーはつしみや、徳を教えた中世思想の産物。それに現代の商業主義が便乗して女性を締めあげてきた。ノーブラ」は男性の長髪と同じで自然に近く、人間の心を解放する」と、コミュニケーションの女たち。

(2・24毎日)

ぶつつぶせ男性社会

米国でLIB運動が燃えさかっている。一昨年のミスアメリカコンテストでブラ焼き捨て以来「ブラレス」がふえ、リブ団体への参加者は五万人。最大はベティフリーダンが会長の「NOW」。ほかに暴力対決を主張する「地獄からの国際的テロ陰謀団WITCH」、男は敵、既婚女性も入れない「赤ストッキング」、男に対するゲリラ戦



を主張、実際にピストルで撃ったこともあるへ男めったがり協会 SCUM など。白人社会の価値観へ反抗を示す黒人運動同様、男の社会そのものに反抗、中絶の自由は女性自身が持つべき、一夫一婦制は考え直すべき、婦人参政権論者は投票権だけ目指したため、男に仕える女性という身分を約束した等々と主張、第一の敵は資本主義、第二は女らしさを作り出した心理学とするが、理想社会の姿は不明確で、

共產主義社会か原始共同体的コミュニティかという程度。社会学者ミード女史は「上つすべり」と批判しながらも「新しい時代が始まりつつある」と指摘。

(3・28朝日)

セックスはおあずけよ

アメリカの女性解放運動体の一つへ婦人のための全国組織「(NOW)」では①二十四時間解放の無料託児所設置②無料の堕胎手術③教育と雇用の完全な男女平等を要求。手段はデモ行進、すわり込み、家事スト、タイプ放棄、お買物ストツプからセックス拒否も。(7・16朝日)

全米で、女性ゼネスト

婦人参政権から五十周年にあたる八月二十六日、女性だけの二十四時間ゼネストが行なわれる。統一実行委員会によれば、少なくとも四十都市で数百万人の女性が、家庭や職場を投げ出

しデモや集会に参加する。米国社会にいぜん残る男女不平等の打破が目的。(8・26読売)

五番街リブで埋まる

ラッシュアワーのニューヨーク五番街は大混乱。参加者五万、観衆三万。全米女性ストのデモ行進だ。デモを「歩道の上で」という警察と「車道で」という女性たちの主張がくい違ったまま人波で車道は埋まる。「イコール・ペイ・フォア・イコール・ジョブ」(同一労働・同一賃金)のシュプレヒコールがざわめきの中からあがる。

ヒューストンではヘワンワングループと称する一団が放送局を占拠し、十二時間にわたって「彼女たち自身の放送」に成功。(8・27読売)

「万国の女性よ団結せよ」米国の婦人参政権五十周年を記念し、八月二十六日全米でくり広げられた「平等のための女性ス

トライキ」は近ごろの米国でちょっとした見ものだった。

一口にLIBBといっても穏健派、急進派それぞれの言い分は違うが、最大公約数は教育と雇用の機会均等、無料公営託児所の開設、無料の妊娠中絶に要約される。

政治の場で「完全平等な法律」の実現をめざしているリブ運動だが、下院でさきごろ通った男女同権憲法修正案を上院でも可決させ発効に必要な四分の三州の批准を急がせるのが当面の目標。(9・4毎日)

スカートの解放

米国の会社、役所、社交界などでは「女性は絶対にスカート着用のこと」という長いきたりを破って、ぞくぞく、パンタロンを認めている。女性は長年の服装の束縛から自分たちを解放し、男性同様ズボン風の服装を正式な場で着る権利を勝ち取っ

た。全米でいまだけなわの婦人解放運動のたくまざる成果。

(10・7朝日)

過激へ走る米婦人運動

カリフォルニア大学の元哲学助教授、黒人女性アンジェラ・デイビス(二六)は黒人グループの判事射殺事件にからんでFBIに「特別重要容疑者」として逮捕された。代わりにFBIのリストにのったのが、バーナディン・ドーン(二八)というユダヤ系白人女性。全米でゲリラ闘争を展開する最も過激な革命組織「ヘウゼーガーマン」の幹部。ウーマン・パワーを冷やかし半分で見えていた男性たちは、今度は取り締まり強化で臨もうとしている。

(10・23朝日)

レズビアンと

さげすむのはやめて

「レズビアンおよび女性解放論者」を自任する米国のリブ活

動家六人が、「レズビアン」と呼ぶことは彼女らの運動を妨害するもので許せない。『性の政治学』の著者ケイト・ミレット女史は「レズビアンとさげすんで呼び、そこから抜け出すのをよしとする時代は終わった。個人は性に対する好みを自ら決めるべき」と声明文を。

(12・20朝日)

〔その他〕

世界さまざま

人口千人につきソ連二・七三、米国二・一六で離婚率は世界のトップ。アイスランド生まれの女の赤ちゃんは七十六・二年生きられるのにアフリカオートボルトでは三一・一年しか生きられない。毎日三十二万人生まれ、十四万人死亡、六八年の世界人口は前年比六千三百万増の三十四億八千三百万人。国連人口統計年鑑から。(3・11朝日)



真実伝えて四十年

女の日 女の力 女の輪

1946年創刊以来、女たちの手で創られ続けてきた週刊新聞です。情報化社会といわれながら、私たちの側からの真の情報はとても得にくくなっている今、婦人民主新聞の価値がますます高まっています。どうかあなたも読者として、この新聞を支える仲間になってください。

1ヶ月600円
(送料込)

お問合せは 婦人民主新聞 東京都渋谷区神宮前3-31-18
お申込み 電話 03(402)3244・3238

婦人の地位
日本とアメリカ

...①...

市川 房枝

あり、婦人議員も一人ワシントン、の下院議員に選出されていた。

土月廿七日——日本に歸人
夢次梅が公布された二十五周年
その日が間もなくくる。一
夏、アメリカで、この八月、
歸人夢次五十年を迎えた。二
十五と五十
いた歸人解放運動に身を置いて
きた市川房枝さん（夢次 歸國
年、77歳）、目黒西園の五十
と二十五年の歸人の歩み、周
在の歸人の地位についてまどめ
てもらった。

市川さんは、アメリカの婦人



しげられたのであろうか。アメリカでも、日本でも、改めて、女性の差別を告発する運動が、いま、若い女性を中心に起っている。この機会に、長いあ

苦難の闘い

米国の二十一歳以上の輸入全部
禁酒権を与えられたのは、米国
が連邦の上下両院議員の選挙権、
憲法第十九条「投票する米国民

投獄された運動家も

米国 参政権獲得に70余年

したがって今年の八月二十六日は、ちょうどその五十周年にあたるので、アメリカの各州や、各華人団体その他で記念行事が行われ、大統領はじめ、知事、市長らが記念の声明を出したりしたのであった。

10万人が参加、デモ

それらの行事のうち代表的なものを挙げてみる。

三つの方向に分れ

ニューヨークの五街で働く人々たち
の代表者であった。ニューヨークの
の参加者は約五百人、全国では
万人に達していた。もう
つは、これに立つ六月十日
によって獲得したのであった。最

米国の婦人家政権獲得運動は一
八四四年の「男女同大令」に始
り、七十年の長い苦しい運動
を経て、文字通り人々の願い
をこたえたのであった。最

シ大統領
され、獄中
牛をわて
をこたえた

をとつたためである。門通の婦人
各州には婦人に不利な法律が多数
存在している、これを男女平等に

したが、過激派には特にサフラジエツトと名づけては別したのである。

正運動で、これは前記の全国婦人党が名称も組織も今日までもそのまま運動を開始し、今日まで戦後、これらの統一している。

A collage of three symbols. The top left is a circular emblem featuring the Statue of Liberty's head and crown, with the words 'WOMEN'S LIBERATION' written in a circular path around it. The top right is a black and white feminist symbol, which is a combination of a cross and a circle. The bottom is a circular sign with the word 'STERHOOD' at the top and 'FUL' at the bottom, with the word 'WOMEN'S' partially visible in the middle. The background of the collage is a dense, abstract pattern of lines and shapes.

久・沢村美佐子

婦人団体連で働いていたワシントン・ヒルトン・ホテルでの「婦人参政権獲得おめでとう」祝賀会。千九百二年冬に開かれたこの会であつたこの大会は金米から婦人団体活動の第一人者が出席（厳格に守られた）後、のちでは、婦權派のチャリ・チャップマン・キーツ夫人のスピーチに米国婦人参政権会と、若い人々を中心とする連隊。第二は、獲得した婦人参政権を平和の糧のために使つてきた平和の糧、これは前記のキーツ夫人の演説を、この日までに活動している、もう一つ新しい、若い婦人を中心として起つ婦人運動—NOW リップを中心としたのであつた。この演説は、

孤島を守る指導者

は大体次の三つの方向にわかれて、新しい運動を始めたようである。

第一は、獲得した婦人参政権を正しく有効に行使するたゝめ政治教育の運動で、これは能記である。

これら三つのうち、第二と第三は新しい金も加へ、それぞれ発展して来てゐるが、第一は目的の範圍が限定され、運動の進捗がみられなかつたせいか振舞ひ、古い指導者が慣習を守つて来ているやうである。しかし、いわゆる婦人運動——婦人自身の地位向上をめざす嚴格な意味での婦人運動からいへば、前者はもはや婦人運動ではないといへよう。

のキ、一、テ、ノ

た婦人參政會を
に便うべきたと
れば前記のキ
の目ざまして
それまでの米
主として、前
からの各婦人
り、後者のマ
婦人党の流れ
が、まったく
中心として
OWWPを中心
つた点が異な
る。新主権によ
からの各婦人
り、後者のマ
婦人党の流れ
が、まったく
中心として
OWWPを中心
つた点が異な

②「NOWとリブ」

ここ数年、急激な台頭
共通のデモに異る底流

NOWとリブによって代表される新しい婦人解放運動は、ここ四、五年來、急に台頭しはじめ、今年にいたって非常な勢いで伸びているようである。「男女の肉体の相異がその活

どうしてこの時期に新しい運動が起つてきたかについては、社会情勢の急激な変化によるともいえるが、次のような事情が底流にあったといわれている。

動範圍を規制する」との学説を心理学者、人類学者、社会学者たちも支持して、「婦人の場所は家庭にある」との世論を形成し、女子の大学入学の数は増加したが、結婚を急

差別の禁止実現

米国では、参政權獲得の第一位は前よりも後退したといふ九二〇年から四〇年ごろまで、う事実が存在していたので、約二十年間には婦人は各方あった。

面に進出 地位も相当に向上した。ところが第二次大戦後人の覚醒（かくせい）をよびの四五年ころからは、戦線か起しはじめたのは、一九六一

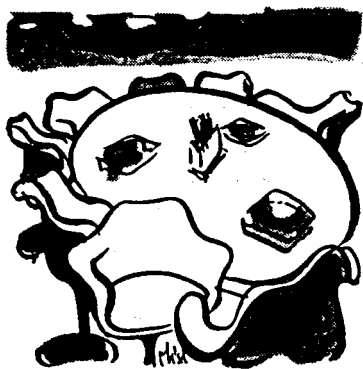
年、ケネディ大統領によって設置された「婦人の地位についての大統領特別委員会」の二年間にわたる全国的な調査

一九六三年、ジョンソン大統領はこの委員会の決議にしたがい、さらに「婦人の地位についての民間諮問協議会」を設けるとともに、閣内にも同様の協議会を置き、答申の実施につとめたのであった。また各州知事もこの大統領の措置にならって、それぞれ婦人の地位委員会を設け、地方

の結果が発表されてからだ。での実状を調査しはじめた。書かれている。すなわち、このそれらの結果、一九六三年に



の「第二の性」の英訳
部は、フランスのボーボワ
これより二年前の一九六一年
には、フランスのボーボワ
ル女史の「第二の性」の英訳
が出版され、これも六十五万
部ほど売れたようで、普及版
の表紙には「婦人解放の最初
のマニフェスト（宣言）」と
書かれている。



での実状を調査しはじめた。の「マニフェスト（宣言）」とそれらの結果、一九六三年には書かれている。は平等賞金法を、六四年にはこの情勢の中で、一九六六年、前記のフリーダ・カスロ女史の市民権法を改正して男女平等

黒人運動と相通ず

もう一つのいわゆるリブの発生は、NOWより少しおくれ、一九六八年ごろからと思われるが、表面にあらわれてきたのは、昨年末から今年にかけてのようである。学生運動に参加していた女子学生が、その運動の中で、女子はやはりお茶の世話や雑用やセックスのサービスマスまでさせられない

がら、肝心の運動の指導権は男子の学生が独占していることに憤慨し、過激派黒人組織ブラック・パンサーらの運動にまねて、まず自分たち女性としての立場を認識し、主体性を確立することが第一だというので、男性の協力を拒否し、化粧、服装、態度などの女性らしさをかなぐり捨てているようである。したがって、思想的には学生運動、反戦運動、黒人運動等と相通ずるものがあり、反体制といえよう。米国で、新しい婦人解放運動とか、リブとかいう場合には、NOWといわゆるリブの両方を含めており、両者は八月二十六日のデモのように共同で運動している場合もあるが、根本的には異っているようだ。日本で発生しかけているリブは後者のように思われる。

③ 後退の現状

男性に取代る役職

米国
給料比も60%に低下

現実のアメリカ婦人の地位は、五〇年代、六〇年代を通じて、

びっくりするほど後退に後退を重ねてきている」として次の数字をあげている。

最低の仕事へ集中

働く婦人はだんだん増加しているが、最低の仕事に集中している。今日の社会ではぜひ必要だが、女子の高等教育の拡大は、

から六十五歳までの婦人のうち、その大多数である七五％は、普通の事務、販売、工場または家事手伝い、掃除婦、病院の付添いなどとして働いている。黒人の婦人労働者の三分の二は、給料の最も低いサービス業に従事している。

最低の仕事へ集中

はそれ以上もらっている。

大学院や専門的な学校へ行く女子はきわめて少ない。

技術者も年々減少

さらに婦人は、今日の社会での重要な専門職や、政府や企業での管理職の地位を失いつつある。現在いるのは数えるほどで、お飾りに過ぎない。婦人の裁判官は一%以下、法律家も四%以下、医者は七%に過ぎない。前には婦人の領分と思われていた中学校、小学校、社会事業、図書館の上の地位は、男性にとりかえられつつある。婦人の地位が向上したという政府の発表は、この低下している真実をかくしているだけでなく、これをストップさせるために何もしていないことを示している。

なお、リブが作った七二年のカレンダーに印刷された数字で、アメリカ婦人の現状を補足することしよう。

一九六六年において、白人の男子の給料の平均は年七千六百四十四だが、白人以外の男子は四千五百二十八が、白人の婦人はそれより下の四千五百五十二が、白人以外の婦人は二千九百四十九がと低い。一九五五年には、婦人の平均給料は男子の六四%であったが、一九六七年には六〇%に低下している。婦人の販売員は男の六〇%、婦人のマネジャーや公務員は四五%、婦人の書記は四四%しか給料をもらっていない。一九七〇年の大学卒業の婦人は、男子と同一会計、化学者、技術者として就職しても、月給は男子

より五十ドル少ない。

三十年前の一九四〇年には、婦人の専門職、技術者は全体の四五%であったが、一九六七年には三七%に減少した。

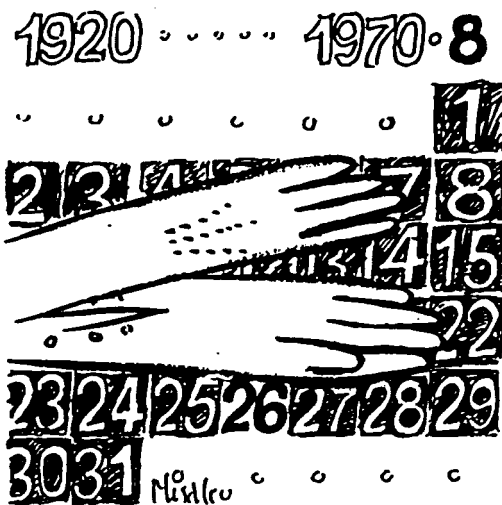
見つかからない。一九六六年三月には、五年もしくはそれ以上の大学教育を受けた婦人の七%が、家庭のお手伝いを含

日本に及ばぬ議員数

去る十一月三日に行われた中間選挙では、下院議員に前が六人、新が九人立候補し、十三人が当選した(定員四百三十五人)。

選挙前の十人からめずらく三人増加したわけだが、これは新しい婦人解放運動の成果の一つかもしれない。現にニューヨークから、リブの代表として立候補したベラ・アブザック女史が当選している。上院には前からのスミス女史がいるので、上下合わせて十四人になるが、日本の二十一人にはおよばない。

なお選挙前には、五十州の上下両院に三百五十人の婦人議員があり、一万人以上の都市には二十二人の婦人市長がいるが、果して増加したかどうかまだわからない。



また四〇年には、婦人は未熟なサールビス業、販売業、書記の仕事に従事している。四年の大学卒業生では一九%、三かまだわからない。

大学を出た婦人は、しばしがそうである。

④ NOWの性格

リブ運動とも共闘へ

中年の女性が多数参加

NOWすなわち「婦人のたの自由を実現するためには、
めの全国組織」が結成された。全国各地に保育所を設ける必
経過は前にのべたが、この団 要がある。

体はどんな立場に立ち、どんな主張を持っているかを、創立
の際の宣言文の中からいくつは結婚によって家庭が自分の
かひろってみることにしよう。

すべてでない結婚

「私も、婦人は結婚か職業かのどちらかを選ばなければならぬ」という、婦人に
対する伝統的仮定を承認することは出来ない。私も、
子どもを育てるために十年ないし十五年仕事をやめ、その
あとまた就職してもよいとい

う一般の考え方に疑問を持つ。を認めるべきだと信ずる。
本当の男女の機会均等、婦人

なお、私も、教会、政

府、大学、会社、工場等で、

保護の名目で婦人に機会を与えず、責任を持たせず、自信
を失わせるような政策やその
実施にも反対する。

NOWはこれらの目的を達



するため、どの政党からも独立の立場をとる。私もは特
権を求めるのではなく、また
男を敵視するのではなく、た
だちに行動を起すことによつ

て、また私も自身の男女平等、自由、人間としての尊厳
を話合うことによって、婦人
の新しいイメージをつくり出
すことが出来ると信ずる」

この立場で、NOWは連邦
議会と各州議会に対して法律
の改正運動をおこなう一方、
特定の会社、新聞社等への直
接行動をおこなった。

新しい運動の存在

もう一つは、ニューヨーク

歯みがき粉の会社であるコ
ルゲート社に押しかけ、女子
に対して就職の機会を
平等にあたえていない
ことに抗議し、製品の
不買同盟をおこなって、
その目的を達した。有
名な婦人雑誌レディー
ス・ホーム・ジャーナ
ルに対しても、二百人
から二十三日までシカゴで第
四回年次総会を開き、数十項
方針が婦人を家庭に結びつけ
るものであり、男子が編集長
おこなったが、この時フリー
であることに抗議した。その
ダン女史にかわって会長に選
ばれた黒人のアイリーン・ヘ

結果、リブに関する記事を共

ルナンデス女史は、一九七〇年の重点目標として、次の四つの項目をあげている。

①男女同権憲法改正案の両院通過②無料の保育所を全国に設置すること③妊娠中絶を禁止している法律の撤廃④市民権法およびその他の法律を改正して男女平等賃金、男女の就職の機会均等を拡大すること。

同会の組織は、現在二十四州にわたって百支部前後、会員の約一万人といわれているが、この中には少数の男子も含まれている。本部は最初ワシントンにあったが、のちニューヨーク市に移り、今はシカゴにある。財務、立法、保育、結婚と家庭、調査、広報の常設委員会を持っており、隔月に十二ページの会報を発

行している。この会報は「N OW・ACTS」と題し、同行動を重要視していることとができた。彼女は四十歳代で、化粧もせず、簡単な服を着て、いわゆるリブ運動にも相当の理解を示し、出来るだけ共同戦線をとりたいたいといった。NOWの会員は中年のインテリ婦人が多く、中年の主婦、専門職にある婦人たちが多数参加しているという。

保守派との攻撃も
NOWの考え方、運動方法は、他の婦人団体とは違っている。しかし、一応現体制を認めた上で、婦人の権利の問題だけを取上げているので、い

⑤ リブの主張

「就職・教育の平等を」

一般婦人は関心示さず

リブとは「リベレーション」(Liberation) すなわち解放で、正確に言えば「ウイメンズ・リベレーション・ムーブメント」婦人の解放運動である。この新しい解放運動のうち、NOWは全国組織を拒否しているようで、その記

録も発表されていない。去る八月二十六日のニュー

ヨーク五番街でのデモやそのあとの集会には、リブの次の諸グループが含まれていた。

「ラディカル・フェミニスト・グループ」が表面に現れてきたのは昨年以後のことであるが、発生は二、三年前

発生は二、三年前

「オールド・ウイメンズ・リブ」「ブラック・ウイメンズ・アライアンス」「パンサー・ウイメン」「コロンビア・ウイメンズ・リブ」「バーナード・ウイメンズ・リブ」「ハイスクール・ウイメンズ・リブ」

これらはいえよう。すなわち市民運動や反戦平和運動、学生運動などに参加してきた女子の大学生やその卒業生達が、婦人はそれらの運動の中で、コーヒの支度や雑用に使われ、運動の指導権は男子が独占している状態に反発、他人のためでなく、自分達自身を男子の抑圧から解放、男女平等を実現すべしとして、それぞれ婦人だけの討論会を続けていたのである。

彼女らは、自らを「ニュー起す」をやっているのは、毛
ヨーク・ラディカル・ウイメン」沢東のいう「お互いに苦しい
と称し、「……婦人の抑圧者 ことを話合う」というスロー
は男子である。特別な経済組 ンにならなっており、革命達
織（資本主義）のためではな 成のための正しい行き方だ、
い。男性の優越は今日もなお と結論したというのである。
ソ連、キューバなどでも存在 NOWの運動が進展しはじ
めている。チェ・ゲバラも革 命へのガイド・ブックの中で、
命へのガイド・ブックの中で、ン女史に会って話をしたが、
ゲリラ活動には、食事の調理 その考え方や態度に満足せず
をさせるため婦人をつれて行 六八年の六月に自分達が討議
くと便利だと書いている。一 した二十ページにわたる資料
体、究極の抑圧者は、男が資本 を印刷して一般に配布した。
主義か……」とくり返し討論 ところが予想以上の売れ行き
を続けた。そこへ南部で黒人 で、この考え方にしがった
の公民権運動に参加していた リブのグループが、方々で起
仲間が帰ってきて、黒人は白 ころってくるようになったらし
人を排撃し、黒人だけで運動 い。しかし、このラディカル
をすすめている表情をきいた。 ・ウイメンのグループもその
そこで婦人の場合も、手段と ご分裂し、さらにいくつかの
して婦人だけの運動をすすめ グループが出来たようである。
てもよいのではないか、私達 が少人数の婦人達のグループ
を作って、コンシヤスネス・ これらのグループはアメリカ
アライジング」（意識をよび カ全土とカナダの一部に百前

増加するグループ

後はあるといわれているが、 現在もひびくような勢いで増加
し、グループによって考え方 の相違があるようだが、単な
る女性解放、権利の獲得だけ 婦人としての自覚を喚起する
でなく、現体制を否認し、社 会全体の再編成をめざしてい
をする施設これらを多数が支 持している。
しかし、グループの大部分 は政治的な行動はおこなわず、
う人が多く、婦人としてのお 化粧や、華美な服装、婦人の
間でのオーバーな礼儀作法な どを排撃していることである。
銀行社長のロックフェラーの 娘アビー・ロックフェラーは
素足で木綿の労働者のシャツ を着て歩いているとのことだ
ある。自衛のため「カラテ」 がリブの間で取上げられてい
ることも付加しておこう。



り、みんなが気やすく発言す る。そのテーマや進行のしか ら、夕食後集 一般の婦人は、リブの運動に
関心がなく、新聞などをみて マユをひそめているようであ る。今までの婦人団体の幹部 の間でも、主張には同調する ところもあるが、運動方法に は賛成できないという声も出 ている。

男子入れずに会合

⑥ ウーマン・センター

若い人が活発な議論

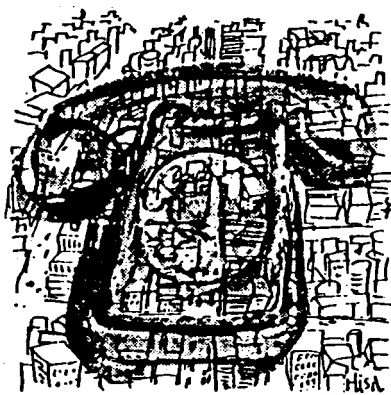
事務所・相談所を兼ねる

ウーマン・センターという建物である。玄関には何の表札もないが、二階のガラスの窓にポスターがはってある。でも事務所、集会場、相談所兼用の建物または部屋をいう。リブのグループの増加につれて、米国の主要な都市にいくつか出来ている。先ごろ渡米した折り、私は、サンフランシスコ、シカゴ、ニューヨーク、ロサンゼルスで訪問したが、スタイル・内容などは大体にている。

メモなど所狭しと

サンフランシスコのは、州立大学のあるパークレーでみた。大学に近い大通りに面した立派な二階建の独立し

が、集会に使うとのこと。隣の部屋には、赤ん坊をつけた三、四人の若い婦人がいた。どうしたのか、ちょっと足のふみ場もない状態だった。金



の部屋には、赤ん坊をつけた三、四人の若い婦人がいた。どうしたのか、ちょっと足のふみ場もない状態だった。金ので訪ねて行く。入口の車庫折れた。若い二十歳前後の婦

にあった車にも、リブのポスターがはってある。

ここでは男の学生は抗議を受け、男がはいったのはあな一人だといわれて許された。ここでも資料をもらったり、広いリビングルームには、婦人運動の図書が集められ、リ

人運動の図書が集められ、リブについての新聞や雑誌記事の切抜きが整理され、リフレット、雑誌がたくさんつまれて一杯はりつけてある。若い人たちが五、六人、電話をかけた。同志には、開放してあるので一度帰るようであつた。

シカゴのウーマン・センターは、黒人街の真

つかまえて質問してみたら、

「私たちは結婚を否定する。家庭もみとめない」という。

壁にボリシー(政策)とし 首都ワシントンにもあるは センターは独立の平家で、は
て「センターは政治的団体で ずなので捜して訪問したがし じめて入口にはっきり名札が
はない。男子禁制。資料のほ まっており、ベルを押しても 出ていた。はいつて行くと黒
しい男子はドアの外で買うこ 答えがなかった。しかし夕方 人の婦人が出てきて、あいそ
と。会員名簿の名前は、いか リブの一人の住宅を訪問した よく先方からいろいろ説明し
なる目的にも使用してはなら ているといい、パーラーで数 のことであつた。この日は土
ない。新聞記者には面会拒絶」 人々が輪になって健康の問題に 曜日だったせいか、十人前後
等々が書出されているのが目 人が輪になって健康の問題に 曜日だったせいか、十人前後
についた。なお、九月以後新 ターの役目をしているよう に であつた。法律相談、離婚、
約三十の名がはり出してあつ 思われた。 妊娠中絶の相談なども受けて
た。

ロサンゼルス・ウーマン・

いるといつていた。

幾種もの新聞雑誌

出版されて人気のあるのは、
日本に二年くらい住み日本人
の彫刻家と結婚しているケー
ト・ミレットの「性の政治学」
である。リブに理論的根拠
を与えたといわれ、発刊三カ
月で第三版が出ている。彼女
には会ってみたいと思ひ、彼
女の友人二人から連絡しても
らつたが、南部への講演旅行
中であつた。

⑦ 男女同権

47年ぶりに下院可決

上院通過は暗い見通し

米国の下院が、四十七年間の約二週間後に行われたの
タナ上げとなつていた男女同 であつた。デモが予想以上の
権憲法改正案を、賛成三百五 参加者を得、一般社会の注目
十、反対十五の圧倒的多数で をひくことになつたのは、こ
可決したのは八月十日で、婦 の憲法改正案通過の影響が大
選獲得五十周年記念のデモは、 いにあつたと思われる。

下院で可決された案の内容 は、次のようなものである。
一、法の下での同権は、合 衆国または州において、性
別によつて否認したり制限し てはならない。議会および各
州は、この条項を励行するた めに必要な法律を制定する権
限を持つ。
二、この条項は四分の三の 州の議会によつて批准されな
ければ実施されない。
三、この改正は批准が完了 した一年後に効力を発生する。
この改正案のそもその発 議者は、婦人参政権獲得に努
めた全国婦人党で、各州に 存在している法律上の差別を

撤廃するためには、米国憲法
の中に男女同権の規定を挿入
(そうにゅう)させることが
近道だと考え、参政権獲得三
年後の一九二三年に、上下両
院に提出してもらつたのが最
初であつた。以来、毎年提出
を続けて来たが、反対が強く
て進展せず、上院では二度通
過したことがあるが、下院で
は全く審議されず、いつも法
務委員会に付託されたまま握

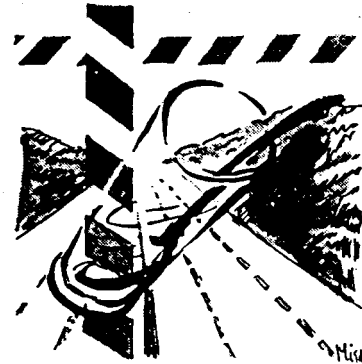
りつぶされてきたのであった。どうして反対が強かったのか、それがどうして急に圧倒的多数で可決されたのか、それは次の理由によるものと思われる。

大統領は賛意表明

案は法の下で男女平等を規定しているのも、もしこの改正案が成立すると、婦人労働者のみに適用されている時間制限、夜業禁止などの保護立法が、憲法違反で無効になるのではないかと考え、有力な労働組合、婦人団体などが反対にまわったのであった。

ところが、この反対は最近になって弱くなり、労働組合の中にも賛成する所が出てきたし、婦人団体でも反対を引こめるもの、賛成にまわるものが増加してきた。共和、民主両党の全国大会でも賛成の決議をするようになってきた。

シガン州選出の



民主党婦人議員クリフィス夫

もなく上院を通過するだろうと予想されていた。ところが十月にはいつてから二つの修正案が提出されたので、通過の見通しは暗くなってしまう。

夫人は、法案をまず法務委員会から本会議に引戻すことを考え、それに

必要の署名を集めた。かくて八月十日、本会議に引戻すこと

特に昨年の暮れには、ニクソン大統領が任命した「婦人の権利と責任」についての大統領委員会、が賛成の旨を答申し、上院では、この五月に法務委員会が公聴会を開いて審議をはじめていたので、下院から送られてきた改正案は、間

委員長の参加する両院協議会で話がまとまるとは思えない。そこで改正案の推進者達は、下院で可決されたそのまゝの上院を通過するよう苦慮しているが、どうもむずかし

そうな情勢である。

日本憲法も参考に

私は、実はこの改正案が最初に米議会に提出された一九二三年に発議者であるワシントンの全国婦人党の本部に二週間宿泊、運動をつぶさに見学したのであった。今回の渡米でも十月下旬、ワシントンに到着するなり同本部を訪問、八十六歳を迎えたというアリス・ポール女史に久しぶりに会ったが、女史からはこの改正案の心配な状況をいろいろきかされたのであった。

私が「日本の憲法では第一婦人に対する保護立法は男子にも適用すればよい」といって

性別、社会的身分または門地により、政治的経済的または社会的関係において差別されない旨の規定が、昭和二十一年に、それもあなたの国のマッカーサー元帥の助言で規定されました」といったら、「なんだ、私達アメリカの婦人は二十四年おくられている……」とびっくりしていた。それから、日本大使館から英文の日本憲法をとりよせ、それを上院への運動の参考にしようということになった。さらに私に手伝って行けということだったが、その能力もなければ、時間もないので、ご免こうむったのだった。

この改正案の成立にNOWは熱心だが、いわゆるリブは反対はしていないが熱心ではない。しかし、両者とも労働婦人に対する保護立法は男子にも適用すればよいといっている。

⑧ 中間選挙と婦人

参政権獲得後しぼむ

政策・運営つんばさじき

米国ではさる十一月三日 婦国しなければならなかった（選挙はいつでも十一月の第一の、選挙当日の風景をみる一月曜の次の火曜日と決定されてゐる）に中間選挙が行われたが、米国婦人にとっては、

男子より多い有権者

ち五十二％を婦人が占めてゐること、婦人有権者の方が三％多いこと、投票率は六〇—六二％くらいのことなどは発表されているが、

婦選挙獲得五十周年を記念した

もつとも私は前に大統領選挙を二回みているので、今回

直後の選挙であつたわけである。この中間選挙では、大統領

の選挙はなく、任期六年の、米国婦人は五十年間どの

上院議員の約三分の一の三十五人、任期二年の全下院議員

きたかを知りたいと思つて出かけたのであつた。米国の二

四百三十五人、五十州の知事十一歳以上の婦人は男子と同

（任期四年もあり二年もある）いだろうという。

のうち三十五人をはじめ、各様、すべての選挙に投票でき

州の上下両院議員、市長、市

会議員、地方検事、教育委員

前の一一定の日に登録しないと選挙できないし、その登録に

私は、この選挙の直前の十一月一日にロサンゼルスを出発

たがって、米人口約二億のう

働省の婦人局長クンツ女史

（黒人、ニクソン大統領になつてから任命された）は、「それはむずかしい質問だ。前には婦人は家庭内のことしかできなかつたが、今では家庭外で働く婦人やボランティアで働く婦人が多くなつた。これまでは外からの傍観者であつたが、いまは民主主義政治に参加するようになった。女性

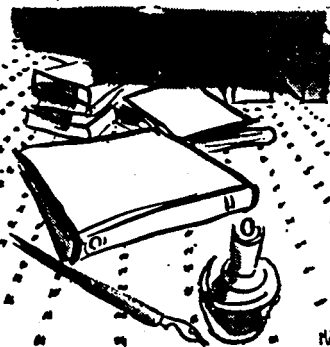
なつていないと語つた。彼女は男女同権憲法改正案には熱心に協力したといわれている。

まだ飾り物にすぎず

米国婦人の地位が低いことについては、婦人参政権獲得運動者たちが、参政権獲得で目的を達したとして喜び、そのあとの婦人運動婦人の地位向上の運動を怠つたからだという見方もあつた。

今回の選挙で、被選挙権を行使して婦人議員に当選した婦人の数は、前にもあげたように、十三人、これに非改選の一人を加えて十四人あるだけである。私が、日本では衆院議員八人、参院議員十三人、計二十一人いるといつたらみんなびっくりしていた。

なぜ婦人議員が少ないかということについて、共和、民主両党の婦人部が共同で、ある財団から寄付をもらつて調



査することにしたそうである。交代して政権をとっている状態、現在では共和党のニクソン氏が大統領だが、前は民主「少ない原因は知っているく」この二つの政党にはもちろんに……」とはきだすようにに、婦人が参加しているが、一般男子黨員と同じく共和党には金持の婦人が、民主党には労働婦人、インテリ婦人が参加している、民主党本部の婦人にしては、物にしていることへの反感らしい。

米国では勢力のほとんど等しい共和、民主の二大政党が

人部長がいていた。婦人の両政党への参加の仕方は、婦人部や婦人クラブといった組織をもっているほか、本部および各州の党支部では委員長が男性の場合は必ず婦人を副委員長とすることになっており、各州代表の全国委員は、男子一人、女子一人となつて

呼掛けほとんどない

今回の選挙での候補者は、すべて春以来の黨員だけでお

⑨ 有権者同盟

政府へ積極的な発言

選挙で直接推薦はせず

今年創立五十周年を迎えた米国有権者同盟は、会員数約十六万五千人、米国土に約千三百の支部を持つ最も有力な婦人団体である。

権者の理解ある活発な参加に依存するとして、投票権の確立、すべての個人やグループに対し差別なく公の無料の政治教育の機会を与えるべきことを主張している。

会合や印刷物発行

同盟は、米国憲法で確認された代議政治と個人の自由を信条とし、民主主義政治は有

したがって同盟自身、選挙に際しては棄権防止の運動はもちろ、有権者へのサービスとして候補者の意見を聞く会合を催したり、候補者の一覧表など選挙に関する種々の印刷物を発行している。平常は、中央政府をはじめ州や市

の政治の勉強、時の政治問題についての研究などを行い、特定の問題について連邦議会や政府に対し、あるいは支部、訪米の時も同盟を訪問したし、対して運動をしている。しかし同盟は中立の立場を堅持し、選挙に際しては、直接の推薦、運動をつぶさに見学したのである。しかし、その際同盟の前会長の一に面会して話したのは、アメリカに二年半滞在していた時で一九三二年、同じことは取上げない」といわれた。また当時は、いわゆる赤

こなわれる予備選挙ですでに決定しているせいか、本選挙に対して婦人団体からのよびかけはほとんどみられなかった。ロサンゼルス発行のリブの雑誌に、同地方の婦人候補者の写真と政策を掲げているくらいが目についただけであった。

狩りといわれたマッカーシズ
ムの盛んな時であったが、こ
れに對し同盟が何の意思表示
もしなかったことも不満で
あった。

そこで私自身としては、そ
の後同盟に對しあまり関心を
持たなくなっていた。ところが
が昨年の四月二十八日の朝日
新聞紙上で、同紙のワシント
ン特電として「米国婦人有権
者同盟は四月二十七日米政府
に對し、①中国の国連加盟に
反對すべきでない②中国との
文化、貿易、外交関係樹立の
ため具体的な政策をとるべき
であると要求した」旨の記事
をみて、びっくりしたのであつ
た。米国においては、なお中
國に對しての反對が強いのに、
有権者同盟が右のような態度
をとったことは、たしかに特
電に値する行動、私の同盟に
對する信頼もこれで幾分回復
し、この度の旅行で同盟を訪問

50周年総会の混乱

十八年ぶりに訪問した同盟
のワシントン本部は、新しい
きれいなビルの三階全部をO
EFと隣合せに占め、事務室



することとした次第であつた。
くたくましそうなベンソン会
長に会ったあと、中國問題と
貿易問題担当の若い職員から
話を聞いた。貿易問題につい
ては、同盟は自由貿易支持の
立場をとっており、こんどの
日本との繊維問題についても
日本を支持
していると言
語った。
同盟は、
去る五月四
日から四日
間、全国の
支部代表者
約千六百人
が出席の上、
ワシントン
のシェルトン・パーク・ホテ
ルで創立五十周年記念総会を
開催した。たまたまこの第一
日に、セント州立大学で四人
の学生が射殺されたし、その
四日前には米軍のカンボジア
進撃が行われた時であつた。

そのせいか事務報告の直後、
代表者から「カンボジア進撃
非難の決議と、婦人解放運動
支持の決議をしたい」との緊
急動議が提出され、議場が混
乱した。それは同盟の規約で
議場での緊急動議の提出は出
来ないとあるのを、しいて発
言したからであつた。採決の
結果、この動議は否決された
が、カンボジア進撃反對の提
案者は、さらにキャピタル(國
會議事堂)の階段で無言の反
對示威を行うことの動議を提
出、こんどは八百二十五對五
百五十六で可決、短いあき時
間を利用してデモを実行、ア
メリカの一般社会を驚かした
のであつた。

NOWの人は批判

この大会では、一九七〇年
から七二年までの全国的プロ
グラムとして、
①米國議會の構成、運営等に
ついての再検討
②教育、就職、住宅などの政
策の支持と、貧乏、差別等を
克服するための政策の再検討
③外交政策——開闢國と開発
途上國との協力、自由貿易、
中國との緊張を緩和し世界社
会への復帰の促進、國連の平
和維持機能の強化
④代議政治——大統領、副大
統領の直接選挙、首都ワシ
ントンの完全代表権の承認、州
議會の選挙区定員のアンバラ
ンスの是正、を決定した。
有権者同盟の運動の成果に
ついては、よい団体でよい印
刷物を出しているが研究団体
だというのが一般的批評で、
政党方面からは中立なので政
治的には力はないと評価され
ていた。NOWの人達は「同
盟は婦人の権利、地位の向上
については何もしていない」
と批判していた。

⑩ 未知数の運動

うけるリブの考え方

社会に不満抱く若い層

十八年ぶりに訪問したアメリカがどんなに変っていたか。二十日間という短い期間の、それもサンフランシスコ、シカゴ、ニューヨーク、ワシントン、ロサンゼルスを一巡してきただけの旅行者として、私は次のような事実を見聞した。

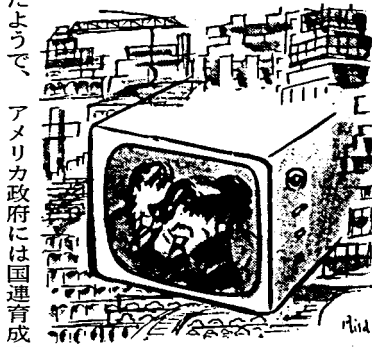
インフレーションで物価は高い。ホテル代も二倍から四倍にはね上がっている。ニューヨークのタイムス・スは了解できない。クエア付近で、わいせつな雑誌や本を公然と売っている本屋を何軒かみて、びっくりした。

新聞に出ない事件

新しい大きな建物ができ、都市は巨大化した。ところが、その街頭で異様な、いわゆるヒッピー族と思われる容姿、服装の男女を少なからず見受けた。どの都市でも、夕方から夕方の婦人のひとり歩きは危険だと注意された。だれが襲う

のかと聞いたら、黒人が多いが白人もある、新聞にはほとんどの出ないが事件はよくあるといわれた。アメリカ国民は、ベトナムのためにどうしてこんなに犠牲を払わなければならないのか、私どもには理解できない。

十一月三日



うとする法律を、ニクソン大統領が否認したので、金は使いた放題、金のかかる選挙となってしまったようである。

たまたま国連の二十五周年記念総会がニューヨークで開かれており、ニクソン大統領、佐藤総理はじめ各国首脳が演説していたので傍聴した。しかし盛り上がりはなく、特に

あらわれた望ましくないことばかりあげたようだが、ニューヨークの秋は美しかったし、私がたずねたアメリカの婦人達は昔どおり喜んで親切にしてくれたのであった。

ところで、こうした、病めるアメリカの現実に対して、同国の婦人たちはどの程度責任があるのだろうか。五十年にわたってのアメリカ婦人の政治への参加は、あまり役にたっていないように思われるがどうだろうか。このことについて、ある程度の数字や資料をもって私に回答してくれた人はいなかった。

今年の六月、米国の婦人局が開催した「婦選獲得五十年おおよび婦人局創立五十周年記念大会」は、「岐路に直面した米国婦人その将来の方向」をテーマとしたものであり、この会合の出席者約千人はいわゆるアメリカの各種婦人団

の中間選挙では、アメリカの直面している問題はあまり議論されなかったようである。むしろ保守派、タカ派が進出熱意はなさそうであった。

婦人たちの責任

私はアメリカ社会の表面に

こなうべく計画をすすめていく
ようである。

ところで日本での婦人参政
権要求の運動は、大正八年に
結成された新婦人協会が、大
正十年に男子の普通選挙をふ
くむ「衆議院議員選挙法改正
に関する請願書」を議会に提
出したのが最初といってよか
ろう。もっとも、この前の明
治三十七、八年には、治安警
察法を改正して婦人の政談演
説会への参加、およびその発
起人となり得る権利を獲得す
る運動があり、新婦人協会自
身も大正九年にその請願を議
会に提出していた。したがっ
て日本においては運動開始以
来二十五年で参政権を与えら
れたことになる。

マ元帥も指示する

もっとも昭和二十年の十二
月十七日に参政権が与えられ
たについては、私どもの運動

の結果ではなく、特殊な事情
があった。すなわち日本は昭
和二十年八月十五日にポツダ
ム宣言を受諾、無条件降伏し
たので、連合軍総司令官マッ
カーサー元帥が日本に進駐、
日本は米国の占領下におかれ
たのであった。総理大臣以下

ところが翌十一日幣原総理
はマッカーサー元帥から招か
れ、「ポツダム宣言によって
日本国民が数世紀にわたって
れい属させられてきた伝統的
社会秩序が矯正されることを
期待する」として、五項目の
実現を指示されたのであった。



の結果ではなく、特殊な事情
があった。すなわち日本は昭
和二十年八月十五日にポツダ
ム宣言を受諾、無条件降伏し
たので、連合軍総司令官マッ
カーサー元帥が日本に進駐、
日本は米国の占領下におかれ
たのであった。総理大臣以下
実現を指示されたのであった。

その第一が「選挙権賦与に
よる日本婦人の解放」で、理
由として「日本婦人は、政治
体の一員となることによって、
日本に新しい政治の観念をも
たらすであろう。これは直接
家庭の福祉に役立つであろう」

があげられていた。幣原総理
は、その問題は昨日の閣議で
すでに決定しましたと報告し
たところ、それは結構でした、
私の方から指示する前にやっ
てほしいとはめられたとのこ
とであった。

このことは当時の新聞には、
はっきり記載されず、したがっ
て婦人参政権はマッカーサー
元帥からの贈り物といわれ、
新しく当選した婦人議員達は
そろって元帥のところへお礼
に行ったという一幕もあった。

「一票」にとまどう

実は私たち戦時中に各方面
で活動していた婦人約二、三
十人は、終戦直後の八月二十
五日に会合をもち、戦後対策
委員会を結成して戦後に起る
婦人関係の問題に対処するこ
ととした。

私が部長となっていた政治
部では、九月二十四日に五項

目からなる婦人参政権の要求
書を決定、東久邇宮内閣、日
本自由党を組織しようとして
いた鳩山一郎氏、その他にも
提出した。そして、ポツダム
宣言によれば婦人参政権の実
現は必至なのだから、マ元帥
から指示されないうちに日本
政府の手で与えてほしいと説
明したのであった。鳩山氏は
ただちに賛成、日本自由党の
政策の中に加えてくれたが、
東久邇宮総理からは何の返事
もなく、幣原内閣になって実現
したのであった。

このころ新聞やラジオで婦
人参政権が間もなくもらえる
といわれたのに対し、ある主
婦は配給物かと思つて配給所
へいつもらえますかと聞きに
行ったとか、また一票もらえ
ると聞いて「一票」と思い、
炭一俵か、さつまいも一俵の
特配があるかと喜んで主婦が
あつたと伝えられた。

⑫ 平等の実現

めざましい権利回復

婦人の方も戸惑うほど

終戦後においての日本婦人 婦人に与えられたのであった。

政治結社へ参加も

の解放、男女平等の実現は、新憲法によったものではなく、降伏の条件であったポツダム宣言の「……日本政府は日本人民の間における民主主義的諸傾向の復活及び強化へのあらゆる障害物を取り除くべきである。言論、宗教、及び思想の自由、並びに基本的人権の尊重は確立するべきである」に基づいて、占領軍が指示、命令、助言したものとと思われる。したがって、前回にのべたように新憲法の公布、実施前、すなわち占領直後の十月十一日の日本改革五項目の指示にしたがって、第一に衆議院議員の選挙権、被選挙権が

この同じ指示の第四「秘密の投票獲得にのりだしたのであった。

し（自由党は吉岡弥生、進歩党は村岡花子、社会党は赤松常子）、やがて行使される婦人

つづく翌二十一年一月、占領軍は婦人の人権尊重の立場から、日本政府に対し「日本

同じ指令の第三

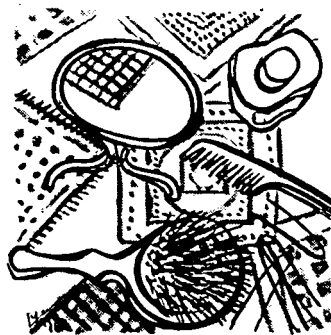
男女平等をみとめた。

婦人の町村長出現

同じ二十一年の九月には町村制、市制、府県制、都制が改正されて、婦人は男子と全く同等に、それ等の首長、会議議員の選挙権、被選挙権をあたえられ、翌二十二年四月の選挙に参加、婦人の町村長、議員が出現した。

新憲法そのものが両院を通過、公布されたのは二十一年十一月三日で、実施は翌二十二年五月三日からであった。新憲法での男女平等に関する条項は次の三カ条である。

第十四条（法の下での平等、貴族の禁止、米典）①すべて



院議員の選挙権、被選挙権が

けに許されていた大学、専門

方長官に公娼廃止を通過し、

国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分または門地により、政治的、経済的または社会的関係において差別されない。②

③略。第四四条（議員及び選挙人の資格）両議院の議員及びその選挙人の資格は、法律でこれを定める。ただし、人種、

①婚姻は両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。②配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に

刑法の改正が行われたが、いづれも男女同権、機会均等を規定している。特に労働基準法においては、第四条で「使用者は労働者が女子であることを理由として賃金について男子と差別的取扱いをしてはならない」とあり、同一労働同一賃金が規定されたのであった。

米より進歩の内容

また刑法の改正においては、妻にのみ適用されていた姦（かん）通罪を、夫と同等にするか、妻と同等にするかで

⑬ 占領時代

社会的進出を助ける

全国的な組織は許さず

マッカーサー元帥を総司令官とする連合軍は、二十年の八

G H Q民間情報教育局は東京・内幸町のNHKの建物を

文官の婦人も配置

婦人は他の政治、経済面と同様に、G H Q（総司令部）の強力な指示、助言の下にあったことはいうまでもあるまい。

米国人は他の政治、経済面と同様に、G H Q（総司令部）の強力な指示、助言の下にあったことはいうまでもあるまい。

が、日本人の某女史がG H Qへのフリー・パスを与えられ、婦人部顧問として参加していたのである。

その婦人対策は、戦争中の大日本婦人会の組織活動が、日本の軍国主義、侵略戦争に利用され、大きな力となったの見解から、地域の婦人会などは行なったことはすでは町村単位の小グループであるべきだとして、全国的な組織を許さなかった。またその婦人会には民民的な運営を行わねばならぬとして、議事運営についてのパンフレットを作成、その普及教育につとめたのであった。

二十二年九月労働省が設置されるや、その中にアメリカにならって婦人少年局（アメリカは婦人局）を設置させ、最初の局長山川菊栄氏はG H Qが推薦決定したのであった。

婦人担当将校は各婦人団体の幹部をはじめ、いろいろな

婦人を呼出しては人物試験？ にくたが、私どもの運動に対しては何の干渉も行わなかつてしまった。

私は終戦直後の二十年八月二十五日に戦後対策婦人委員会を結成し、婦人参政権要求などを行なったことはすでは述べたが、婦人参政権の実現が明確になったので、十一月三日、委員会からわかれて、米国の婦人有権者同盟とほとんど同じ立場に立つ新日本婦人同盟（二十五年十一月日本婦人有権者同盟と改称）を結成、第一回の総選挙に備えて婦人の政治教育運動を全国にわたって展開した。

圧力かけられ解散

G H Qの婦人将校は、エセル・ウィードという三十代の中尉であった。十月下旬に来日、私どもの発会式にも傍聴

十一月十一月創立、会長井上なつゑ氏、現日本看護協会、

大学婦人協会（二十二年五月創立、会長藤田たき氏）などはこの婦人将校の担当ではなかったようだが、G H Qのそれぞれの担当者の協力の下に結成されたことはたしかである。

なお、これも担当は違うであらうが、国家公安委員への植村環氏の任命をはじめ、各種委員会への婦人の参加、女の小学校長の任命など、婦人の社会的進出に力をかけてくれたのであった。

私は前記の新日本婦人同盟会長として忙しく全国を駆けめぐっていたが、創立一年半後の二十二年四月「日本を侵略戦争にかりたてた責任者」の一人として公職追放となり、同盟の会長を辞任、二十五年十一月解除になるまでの三年七月の間、一切の政治活動を禁止されてしまった。この



私どもがわかれたあとの婦人（洋子氏）が結成された。もつちが、翌二十一年の三月ごろ厚生省の協力を得て中央協婦会（会長宮城タマヨ氏）をりするにいたって、クラブも結成、不用品交換会などの運動をはじめたが、G H Qから日本産婆看護婦保健協会（二

とき公職追放になったのは、
山内植子（元大日本婦人協会
長）、竹内茂代（元同会理事、
女医）両氏と私の三人であつ
たが、別に吉岡弥生、井上秀
子、大妻コタカの三氏が教職
追放となつた。

大衆運動も広がる

占領時代の婦人団体として

は、戦争未亡人による戦争犠
牲者遺族同盟（二十一年創立、
米愛氏）、婦人人權擁護同盟
の未亡人同盟に改組）、山
川菊栄、平林たい子、神近市
子氏らの民主婦人協会（二十
二年四月創立、のち解散）、
不良マツチ追放の主婦連合会
（二十三年創立、会長奥むめ
お氏）が結成された。二十五
年から二十七年までの間には、
不良マツチ追放の主婦連合会
（二十三年創立、会長奥むめ
お氏）が結成された。二十五
年から二十七年までの間には、
ト教婦人矯風会、日本キリス
大衆運動も広がった。

二十三年と二十四年には、
三月八日の国際婦人デーと四
月十日の婦人の日大会がお互
いに対立する形で開かれ、二
十五年の朝鮮戦争の突発、講
和条約締結を前にしての全面
講和、再軍備反対、平和のつ
どいなどがそれぞれの陣営で
個別にあるいは共同で開催さ
れたのであった。

⑭ 政治参加

まだせまい公職の門

投票率は男性を上回る

日本の婦人が参政権を得て
から、この十二月十七日で二
十五年、四半世紀を経過した。
私どもはこの権利をどんなふ
うに使ってきたであろうか。
まず婦人有権者の数をみてか
ら、投票率と当選者の数をみ
ることにしよう。

男より多い有権者

本年の九月十日現在の選挙
人名簿登録者数によると、有
権者は七千五百六万人で、う
ち男子三千四百十二万人、女
子三千六百四十四万人、女子
の方が二百三十二万人多い。
後多い。この選挙権こそは男

女平等なので、婦人票が団結
すればいつでも婦人の望む候
補者が当選し、政権を担当す
ることが出来るはずだが、そ
れはなかなかむずかしい。
衆院の選挙における投票率
の男女別は、はっきり発表さ
れているので、現在までに行
われた十一回の投票率の比較
ができる。最初の二十一年の
選挙では男七八・五二%、女
六六・九七%で、婦人は男子
より一一・五五%低かった。
市町村長と議員の選挙全部に

二十一年の最初の衆議院議員
の選挙の際には、総数三千六
百八十八万人で、男千六百三
十二万人、女千五百五十六万
人、婦人の方が四百二十四万
人多かった。婦人有権者数は二十
二年以後もずっと二百万人前
後多い。この選挙権こそは男
の方が二百三十二万人多い。
後多い。この選挙権こそは男

わたって、婦人の方が高くなっても、その内容が問題でなかった。特に四十年の都議会である。よい候補者、よい政党员選挙では三%、四十二年の都知事選挙では四・四一%の政治、社会の上ほどの程度婦人の方が高かった。これは何を意味するだろうか。一応、選挙に対しての関心が強くなったとはいえるが、必ずしも政治意識が高くなったとはいえない。

婦人議員は、衆議院では最初の二十一年の選挙で七十九人立候補し、三十九人当選したが、第二回には十五人に激減、現在は八人である。参議院においては最初十人だったのが現在は十三人に増加している。

地方議会の議員は、町村議会議員が減少しているだけで、あとは少しずつ増加しているが、たいした変化はない。町村長はじめ五人あったが、一人しか残っていない。

ところで婦人投票率は高く

政党の中に埋没

もっとも婦人有権者と婦人議員の協力で、婦人や母子福祉の立法がいくらか進んだし、売春防止法をはじめ、婦人の

活動は、アメリカの婦人議員に対して婦人は六十一人に員と同様に少ない。もっともある婦人議員がいうように、「私は婦人議員ではない。議員なのだから、政治家として党内で男子議員と同等に活動していれば結構だが、三、四の人を除いては、これも十分とはいえない。婦人が公職につき、公務を執行する」とも参政権の中に含まれ、婦人の政務次官は社会党から二人、自民党から十一人（延べ）、いずれも特別職公務員として婦人の議員が任命されているが、実質的な仕事はほとんどしていない。



構だが、三、四の人を除いては、これも十分とはいえない。婦人が公職につき、公務を執行する」とも参政権の中に含まれ、婦人の政務次官は社会党から二人、自民党から十一人（延べ）、いずれも特別職公務員として婦人の議員が任命されているが、実質的な仕事はほとんどしていない。

人権を守る立法も少しはでき、公務員になる道は開かれていて、国家公務員の管理職に進み得る上級試験の合格者は、三十八年には男子千六百七十五人に対して百六人あったが、四十五年は男子千四百三十五人の代表としての婦人のため

法部門では検事六人（総数千三百三十二人）、判事十四人（総数千二百六十八人）、判事補委員、保護司などとして、行政に参加している婦人もある（総数五百四十七人）程度いる。

地方に救いの例

以上が婦人参政権獲得二十年後、現在の日本の婦人の政治への参加の実情である。

政治家は当選したために、ただ地方自治体の選挙において、権力を維持したために、男より多い婦人有権者を意識しているが、くみし易しとして、もてあそんでいる格好である。せめてもの救いである。

⑮ 勇気ある闘いを

自覚の上に能力開発

権力や金の力に負けず

四十四年の労働力調査によ、雇用者を職業別に多い順にあげてみると、事務員三百十七万、技能工生産工程従事者（工場の労働者など）二百六十六万、サービス業百四十五万、販売業（労働力人口では全体の三九・四％が女子である）。女子就業者の内訳は、農業や中小企業での家族従業者が六百四十七万人、自営業主が二百八十九万人あり、雇用者は五二・八％の千四十八万人である。

縮まらぬ賃金格差

二十三年には三百二十九万人であったので、三倍以上に増加している。また現在の女子

とて、この人達の月平均賃金は、男七万五千九百円、女は三万六千八百円

で、男の四八・五％に過ぎない。もともと上昇率は女の方が少し高いが、絶対的格差が大きいので追いつけない。

これらの女性の年齢は十五歳から二十四歳までが四二・三％、二十五歳以上五十四歳までが五二・六％を占めており、既婚者が五〇・五％と初めて半数をこした。パートタイマーは約六十四万人、その九〇％が有夫者で、販売事務が四〇％、あとは工場の

専任技術職に従事している婦人のうち、組合に加盟している小中学校教師を除き、弁護士、女医、税理士などは男子と一緒に職能団体に加盟しているが、別個に婦人法律家協会、日本女医会、婦人

単純労働であるが、低賃金でなんらの社会保障なしに放置されている場合が多い。働く人たちの労働条件の改善、福祉の増進は、労働組合が団体協約その他で努力しているはずだが、組合幹部にほとんど婦人がいないせいか、特に働く婦人の地位向上には無関心で、女子の二十五歳定年制などに賛成している組合さえある。

専任技術職に従事している婦人のうち、組合に加盟している小中学校教師を除き、弁護士、女医、税理士などは男子と一緒に職能団体に加盟しているが、別個に婦人法律家協会、日本女医会、婦人

単純労働であるが、低賃金でなんらの社会保障なしに放置されている場合が多い。働く人たちの労働条件の改善、福祉の増進は、労働組合が団体協約その他で努力しているはずだが、組合幹部にほとんど婦人がいないせいか、特に働く婦人の地位向上には無関心で、女子の二十五歳定年制などに賛成している組合さえある。

専任技術職に従事している婦人のうち、組合に加盟している小中学校教師を除き、弁護士、女医、税理士などは男子と一緒に職能団体に加盟しているが、別個に婦人法律家協会、日本女医会、婦人

単純労働であるが、低賃金でなんらの社会保障なしに放置されている場合が多い。働く人たちの労働条件の改善、福祉の増進は、労働組合が団体協約その他で努力しているはずだが、組合幹部にほとんど婦人がいないせいか、特に働く婦人の地位向上には無関心で、女子の二十五歳定年制などに賛成している組合さえある。

婦人參政權を持ちながらほとんど役にたっていないようにも思われるのである。二十五年を機会に、現状を検討し、将来の進むべき方向を決定すべきだと思ふのである。

もっとも、びったりと金力と結びつき国民に背を向けている自民党に、三百余の議席を与え、半永久政權の座にあらをかせけている日本の現

では婦人運動の現状はどうすみ、対立の傾向も強くなった。

ては共同運動を行なっている。歩も前進していない、いや、これらの団体は全く男子の力をかりず、婦人たち自身で運営しているが、そのためか非常に強力とはいえない。前に

米国の模倣でなく



□あごら旭川

- ・旭川市緑ヶ丘5-4 那須友子
- ・☎ 0166=65=5690 〒078-11

□あごら札幌

- ・札幌市西区琴似1条6丁目グランドハイツ琴似408号 細田英理子
- ・☎ 011=644=2927 〒063

□あごら仙台

- ・仙台市人來田1-8-11 三船照子
- ・☎ 0222=45=5994 〒982-02

□あごら柏

- ・千葉県印旛郡白井町大山西口1-7-20 桑原ちゑ子
- ・☎ 0474=91=4843 〒270-14

□あごら新宿

- ・新宿区新宿1-9-6 <あごら事務局>
- ・☎ 03=354=3941 (BOC) 〒160

□あごら京王

- ・世田谷区南鳥山2-18-8 竹内全子
- ・☎ 03=307=3448 〒157

□あごら武蔵野

- ・三鷹市下連雀9-9-5-103 寺沢恵美子
- ・☎ 0422=44=2590 〒181

□東海BOC

- ・名古屋市中区栄3-28-2
- ・☎ 052=251=9064 〒452

□あごら大阪

- ・吹田市岸部中1-29-4 藤井里子
- ・☎ 06=387=6574 〒564

□あごら阪神

- ・(準備中)神戸市兵庫区神田町10-12 久保和子
- ・☎ 078=361=0004 〒652

□あごら京都

- ・京都市左京区一乗寺築田町56-1 塚崎美和子
- ・☎ 075=791=4623 〒606

□あごら山口

- ・下関市竹崎町2-6-3-5-202 重兼久子
- ・☎ 0832=31=9710 〒750

□あごら鳥取

- ・鳥取市古海1147 高草団地9号 前田享子
- ・☎ 0857=23=3074 〒680

□あごら九州

- ・福岡市中央区笹丘2-4-6 小島サカエ
- ・☎ 092=521=7624 〒810

□あごら佐世保

- ・佐世保市瀬戸越町3-21-8 内田佳崇
- ・☎ 0956=49=8591 〒857-01

体性を確立し、その能力を開発することから始めてほしいものである。それにしても、日本婦人が義理や人

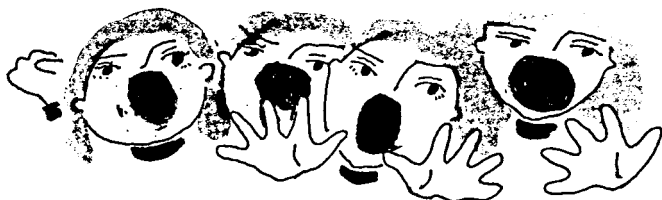
情はもちろん、権力や金力に屈しない強い勇気のある婦人とならなければ、絶対に婦人の地位は向上しない

ことを銘記しておいてほしい。(おわり)
(70年11月26日から12月12日まで、十五回にわたる市

川先生の報告は、今日でも極めて意義深いものなので、朝日新聞社と市川ミサオさん、カットの沢村美佐子さ

んのご了解を得て、原文のまま掲載させていただきま

1971



ベトナム戦争の泥沼化とともに経済力が衰退、前年から苦境を伝えられていた米国は、ついに通貨の金交換を停止、全世界にショックを与える。急落するドルに対し、円は変動相場制に。一ドル三百円時代に入る。ドル時代の終幕は、バックス・アメリカナ（アメリカの主導による世界平和維持）の終幕でもあり、中国の国連加盟とともに世界は大きな転換期を迎える。

前年安保に挫折した日本の市民運動グループは多くの分派に分かれていくが、スイスに女性参政権が出来、米国の各地のウーマンリブ大行進に人々が耳目をそばだてたこの年、前年からジャーナリズムを沸かせていた日本のリブは、五月の大会、夏の大合宿と、ますます意気盛ん。成田では農村の母たちが果敢に抵抗を続ける。

女性参政権行使二十五周年、全国規模の婦人団体も、物価・公害問題等で華々しく活躍する。革新都政は縫田暉子さんを初の女性局長に任命、野上弥生子さんに文化勲章、今井通子さんが北壁三冠など、女性進出の勢いは一段と増す。女性差別の提訴、勝訴も相次ぐが、参議院選で市川房枝、山高しげり両氏が敗れるなど、政治の壁は女たちにはまだまだ厚いことを示した。

らいてうさんの死が『青鞥』を思い起こさせたこの年、『ノンノン』創刊。アンノン族が全国各所を闊歩する。

【流行】アンノン族、カップラーメン、コールドチェーン、ホットパンツ、パンタロン、ボウリング

【流行語】抱かれる女から抱く女へ、シラケ、フィーリング、がんばらなくっちゃ、脱××

【本】亜紀書房『性差別への告発—ウーマンリブは主張する』有地享『婦人の地位と現代社会』塩沢美代子『結婚退職後の私たち』大原富枝婉という女！高野悦子『20歳の原点』大岡昇平『レイテ戦記』

【歌】よこはまたそがれ、また逢う日まで

【TV】セサミストリート、仮面ライダー 【映画】ある愛の詩、婉という女、沈黙、儀式

【物価】牛乳28円、みそ1キロ148円、カセット式ビデオ23万8,000円 【初任給】中卒女27,200円、

高卒女31,500円、大卒女36,100円 【月間平均労働時間】女172.6時間 男191.3時間 【雇用者中の女子の比率】27.2%

【物故】大石ヨシエ(5.7) 平塚らいてう(5.24) 戸叶里子(11.7) 内田百閒(4.20)高橋和巳(5.3) 志賀直哉(10.21) ココ・シャネル(1.10) ストラビンスキー(4.6) フルシチョフ(9.11)

1971年の主な出来事

1. 11 通産省、家電メーカーにカラーTV15%値下げ指示(地婦連等の運動奏功)
- 13 沖縄の毒ガス第1次撤去始まる(全量の1%)
- 〃 東北・上越・成田3新幹線の基本計画正式決定
- 14 公取委、家電二重価格を指摘(値下げの契機に)
- 15 アセアンハイダム完工式(60年1月超起)
- 25 ウンガダでクーデター、アミン新大統領に
- 30 主婦連など7団体、再販製品不買運動開始
- 31 美明で美容院宿舍全焼。身支度で遅れ10人焼死
- 〃 南ベトナム軍オス侵攻。米空軍も支援
2. 1 東邦亜鉛安中工場女子職員遺体からカドミウム
- 4 ロールスロイス社倒産
- 7 男性だけの国民投票でスイス婦人参政権承認
- 〃 札幌冬季プレオリンピック開幕
- 〃 小児科学会、森永ヒ素ミルク糾明へ(16年目に)
- 9 ロサンゼルス大地震、25万人が避難
- 〃 アポロ14号月高地着陸。216時間の旅から帰還
- 11 ロールスロイス倒産の波紋でロッキード危機説
- 15 英通貨10進法に(1200年の伝統を捨てる)
- 17 京浜安保共闘、真岡の鉄砲店を襲い、つかまる
- 〃 OPEC原油30%値上げを通告
- 18-19 第7回内職大会(総評主婦の会主催)参加200人
- 22 成田で第1回強制代執行開始、農婦必死の抵抗
- 27 原爆症死の女性に初の死後認定
3. 4 米関税委、日本製TVにダンピング税徴収決定
- 〃 成田2トリデ代執行終了、負傷50人以上
- 〃 阪大・大阪市大入試問題売買発覚(3年前から)
- 12 世界卓球選手権出場(中国選手60人入国許可に)
- 16 公取委、石油連盟など立入り検査(値上げ協定)
- 18 南ベトナム軍オス侵攻に失敗
- 26 バングラデシュ独立宣言
- 31 盲導犬の無料同伴乗車、国鉄が正式認可
4. 1 10年ぶりの新学習要領。漢字が増え、神話も登場
- 〃 慶応義塾、全女子学生従業員の有給生理休暇を廃止
- 〃 小児科学会でヒ素ミルク、医の倫理を告発
- 7 青法協理事再任拒否に抗議、裁判官続々と辞表
- 10-15 第23回婦人週間。テーマは「今日に生きる女性、その権利と責任—婦人参政25周年にあたって—」(13-14第19回全国婦人会議・於岡山)
- 11 第7回統一地方選、美濃部に続き大阪も黒田革新知事。府県議は自民横ばい社会退潮、共産3倍増
- 13-14 第19回全国婦人会議(於岡山)テーマは「母性」
- 16 天皇・皇后、広島原爆碑に初参拝
- 17 東バキスタン解放勢力バングラデシュ独立を宣言
- 24 ワシントンでベトナム反戦大集会
- 26 京浜1都4市に革新首長、「革新ベルト」誕生
- 27 四次防原案発表。海24万トン、空920機体制へ
- 28 朴正 大統領3選(不正票続出、金大中に7%差)
5. 5 マルク切上げの噂にドル売り殺到、欧州市場閉鎖
- 〃 日弁連、最高裁批判決議
- 9 マルク変動相場制に
- 12 金価格急上昇、円1ドル357円に
- 14 プレジネフ、東西兵力相互削減交渉を提唱
- 16 群馬の連続女性殺し大久保清、第1の殺人を自供
- 19 沖縄全軍労など54労組124時間スト
- 23 E.C. 英国の加盟に合意(申請後10年ぶり)
- 24 平塚らいてう死去(告別式は30日、500人参加)
- 25 政府、騒音環境基準を決定
- この月「ノンノ」創刊、アンソニー時代に
6. 8 チリ、国家非常事態宣言
- 11 東京都に初の婦人局長(縫田晴子)
- 〃 中教審4・4・6制など最終答申。日教組猛反対
- 11 ニューヨークタイムズ、ベトナム秘密文書連載
- 17 沖縄返還協定、東京・ワシントンで同時調印
- 29 参議院選、市川房枝・山高しげり落選。安西愛子・望月優子・田中寿美子、高位当選
- 30 富山地裁、イタイイタイ病第1次訴訟でカドミウムが発病原因と認め、住民側が全面勝訴
- 〃 米最高裁、ベトナム文書新聞掲載を認め連載再開
- 〃 ソユーズ11号の3飛行士、死の帰還
7. 初 秋田相互銀行女子社員7名、賃金差別で提訴
- 1 環境庁が発足
- 〃 医師会、医療制度抜本改正に反対、保険医総辞退
- 3 ばんだい号、函館で山に激突、死者68人
- 9 キッシンジャー、秘密裡に首脳相と会談
- 13 ヨルダン軍、パレスチナゲリラ掃討作戦開始
- 16 大統領、訪中計画を発表。日本政府は困惑
- 〃 沖縄で第2次毒ガス移送開始
- 17 今井通子グラッドジョラス北壁登頂、三冠王に
- 20 白竹のセメント工場進出反対、住民側が勝訴
- 23 米子で600万円銀行強盗。赤軍派の2人逮捕
- 30 全日空機と自衛隊機、磐石で衝突、162人死亡
- 31 アポロ2飛行士、月面車で初の月面ドライブ
8. 1 保険医総辞退中止(1か月ぶり)
- 6 原爆記念式に首相初出席、新左翼阻止で騒然
- 10 韓国に総額2億ドルの借款を約束
- 15 ニクソン、金ドル交換一時停止、世界にショック
- 16 東京株式市場防衛策に反応して暴落
- 21-24 ウーマンリブ大合宿(長野・信濃平・学生村)
- 26 米国でウーマンリブ大行進(参政権51周年記念日)
- 28 円、暫定的変動相場制に。1ドル360円時代終わる
- 〃 文部省、女教員の育休制度化検討開始
9. 1 アラブ連合・リビア・シリア、アラブ共和国連邦を結成
- 3 米英仏ソ、ベルリン協定に仮調印、ベルリン地域での武力中止で合意(72年6、3調印)
- 9 沖縄の毒ガス移送完了
- 12 林彪、毛沢東暗殺に失敗、墜落死
- 16 通産省、毒物たれ流し362工場を公表
- 16 成田第2次強制代執行。学生、機動隊と激突
- 学生二百数十人逮捕
- 27 天皇・皇后、欧州7か国親善訪問に。(10、14まで)
- 29 新潟地裁、阿賀野川水銀中毒訴訟で昭電の責任を指摘。2億7,000万円の支払を命じる
- 30 米ソ偶然衝突防止協定に調印、ホットライン改善
10. 1 第一銀行と勧銀、対等合併(金融界再編に拍車)
- 2 日中復交4原則を共同声明
- 3 八王子市で全国初のノー・カー・デー
- 5 公労委、国鉄マル生運動を不当と認定、陳謝命令
- 10 国鉄マル生運動を中止、不当労働行為で18人処分
- 25 国連、中国の参加を大差で可決。国府脱退表明
- 〃 美濃部都知事、中国・北朝鮮訪問(〜11、16)
- 30 パキスタン・インド両軍交戦
- 31 IRA爆弾テロ、ロンドンに続発
11. 3 野上弥生子に文化勲章(女性で2人目)文化功労賞に水谷八重子
- 10 沖縄完全復帰デモで衝突
- 〃 米上院、沖縄返還を大差で可決
- 11 川崎市がけ崩れ実験で15人死亡、10人重軽傷
- 15 中国代表、国連で初演説。米、佐藤政府を批判
- 〃 ウーマンリブ丸の内集会(丸の内職場連絡会)60人参加
- 19 沖縄返還協定抗議集会883か所で行比谷の松本楼全焼。逮捕1,785人。国連に連日デモ
- 24 衆院、沖縄返還協定を強行承認
- 25 英、ローデシアの現地人支配を認めるも日限未定
- 〃 東北・上越新幹線起工
- 〃 イギリス国教会初の女性司祭2人、香港で誕生
- 29 映画不振。大映、全従業員を解雇
12. 2 ベルギー・湾岸6首長国がアラブ首長国連邦を結成
- 4 インド・パキスタン全面戦争に(12、16、パ軍降伏)
- 6 東京・中野区教育委員に田中澄江
- 14 40大学病院で看護婦スト(待遇改善を求めて)
- 17 印パ戦争終結
- 〃 三井造船末浪と美、出産解雇で勝訴(大阪地裁)
- 20 円切り下げ、1ドル308円に
- 21 労組「勤労婦人福祉法」検討を婦少室に諮問
- 25 新宿でクリスマスツリー爆弾、12人重軽傷
- 26 米、北ベトナム大規模爆撃再開(5日間)
- 30 沖縄4法、自民単独で可決。法的返還準備整う

風潮

〔当世女事情〕

ウーマンこわい

ウーマンパワー旋風は、ことしもさらに風力・風速をパワーアップして、日本国中を吹きまくる。

わが国初の女性船員の登場も、その一例。この秋就職する世界最大のタンカー「日石丸」には、十人の女性船員がさっそうと乗り込む。外航船のおきて「女人禁制」は、時代の大波にもろくもくずれたわけだ。海の女のさわやかな船出は、ウーマンパワーの年を明るく象徴する。

旋盤工、プレス工、溶接工……従来の「男の職場」にも女性の進出はぐんぐん進む。昨年度の労働省の調査では、規模五百人

以上の事業所の三三%が、従来男子がついていた仕事の四百九十職種を女性に切りかえている。人手不足、機械化・オートメ化、女性の意欲と体位の向上などを背景に、女性の就労地図がことしもさらにたくましく拡大しそうだ。

そうした働く女性の行進の中で、ことさらに目ざましいのがおかあさん部隊の足なみ。昨年、働く婦人のうち既婚者の割合は五〇・五%を占め、初めて半数を上回った。人手不足を中年主婦でカバーしようと思死な企業側にこたえて労働省もことしの重点政策の一つとして中高年婦人雇用の一大キャンペーンをくり広げる。主婦パワーもまた拡大の年である。

そして生活面ではギャングブルを廃止せよ、カラーテレビを値下げせよと、婦人・消費団体の動きも、ことしはさらに激しさを増すに違いない。公害と物価

上昇のアラシに向かって生活を守るために「行動する主婦」はいよいよふくれあがっていく。

一方では「女性の抑圧者、男性を告発しよう」「出産ストライキを断行しよう」昨年名乗りをあげたウーマンリブの「おんな闘士たち」がいよいよ実力行使にはいる年である。

(1・1読売)

教育映画「沖繩の母たち」

働く母親たちの職場の姿、一家のくらし、わが子の育て方、教育隣組の活動、島の風習など、平凡な庶民の家庭の母親たちを追いつつ、沖繩の復興も繁栄も基地経済に依存している現実を撮る。

(1・6朝日)

仏教界にもウーマンパワー

兼業に忙しい住職に代わって有髪のまま得度した女僧が、読経から布教まで大活躍。「女同士だから話しやすい」と悩みこ

と相談でも好評。西本願寺派では二万一千人の僧りよのうち女性が三千四百人、女住職が百人。研修会でも男性顔負けの迫力、宗会議員選にも立つなど、さらに勢いを増しそう。宗務当局は「宗門の命綱」と手放しの頼りよう。

(1・8毎日)

子どもに人気、団地読書会

板橋区の前野台団地で日曜日ごとに開く「母と子の読書会」、ナレーターは団地のおかあさんたちだが、子どもたちに大人気。

(2・3朝日)

男と女姓

「民法七五〇条 夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」

しかし、すでに「文化」として続いてきた男女の姓に対する意識は「行政の便利さのため」という法律の実態と相まって、姓の選択権を無にしているよう

夫婦であることを表現するのに、同姓はやむを得ないのか。

中国では「夫と妻はそれぞれ自分の姓を用いる権利を有す」とし、西ドイツでは「男女同権法」で妻の旧姓を権利として夫の姓と並べて使うことを認めている。日本でも生まれながらの姓を「死守」するために、入籍しない結婚をしている夫婦もいる。

(2・14朝日)

映画「主婦が働きにでるとき」
家庭と職場をうまく両立させ、働きに出ることが本人にも家庭にもプラスにするにはどうしたらよいか。成功例と失敗例を描いている。

(3・4朝日)

占領と婦人解放政策
GHQは、婦人解放を占領政策の大きな柱とした。

アメリカの男女平等や民主主義を説明する記事を掲載するよう、雑誌、新聞社にしばしば指

示。労働基準法の手厚い婦人保護規定もGHQが残した。危険有害労働の禁止、残業の制限、出産、生理休暇。特に生理休暇は日本の例にならった韓国、インドネシアにしかなく「世界に冠たるもの」と高橋展子労働省婦人少年局長がニヤリとするほど。

日本女性がそれらの民主主義の理想のうちとびつのようににしてとり入れたのがファッショングングスカートとナイロンストッキングは、進駐軍をとりまく女性から一般の人々へすくい速さで広がった。(3・18朝日)

衣装代八千万円ナリの謝恩会

卒業式シーズンとあって、都内のどのホテルも謝恩会の真っ盛り。帝国ホテルの大広間ではT短大の約八百人がほとんど和服で。最低で見積もっても衣装総額なんと八千万円。

(3・20朝日)

姉さん女房、悪くないな

石坂浩二・浅丘ルリ子、関口宏・西田佐知子、姉さん女房が話題に。

結婚センターの調査では67年三・八%、71年五・七%、厚生省の調査でも65年一・一%、68年一・三%。仲代達矢夫婦などおしどり組も多い。昭和女子大の白石浩一氏は「ベビーブーム時代の女性は年上の男を求めると三人に一人はあぶれる。

一方、男はせちがらい世の中、世話女房を求める。男女双方の要求による。高齢妊娠もあり問題でなくなり、家事の簡素化で女が早くふけることもなくなった。女性が自信をもって振る舞えば結構」とコメント。

(4・11読売)

百万票差、美濃部さん再選

吹き出した住民パワーが、福祉重点施策、住民自治、「国と地方は、チェック・アンド・バ

ランスであるべき」と主張する美濃部氏を圧勝させた。

(4・12朝日)

若いママは体罰派

小・中生を持つ全国の母三千人の厚生省調査で、二十代の母の四九%が体罰実施。五十代は一九%。「家が狭くて気が立つのでは」と松田道雄さん。

(5・5読売)

病める医療を語りあう

広島市で開かれた日本看護協会(十二万五千人)の総会で、看護婦さんたちは「手違いから献血者を殺した千葉大採血ミス事件は、私たちみんなの問題」と、口ぐちに看護婦不足、過酷な深夜勤務の現状を訴えた。

(5・10朝日)

パンタロンで園遊会

家事評論家の犬養智子さんは、白のパンタロンで園遊会に出席。

「格別の動機はない。別に、勇気なんて……」(5・12朝日)

ごほうびの海外旅行

日東紅茶、イトーヨーカ堂、ボニーの三社では女性社員を海外旅行に行かせているが、会社側の「定着化対策」「定着のごほうび」がその「ごころ」。女子社員の定着に大きな効果が見られるという。(5・18朝日)

女性を支えるボウリングブーム
経企庁の調査では独身女性のレジャー第一位はボウリングで三四%。団地周辺のボウリング場は主婦たちで昼間から混む。女子プロの活躍がテレビで紹介されることも人気の一因。

(5・27読売)

誇り高き落選

「清潔選挙」の市川房枝さんが落ちた。

「北斗七星」とまで言われた

ほどの各政党の看板候補、実績豊かな無所属候補、知名度の高い新人候補らがひしめきあって狭き門に殺到、四議席をめぐり死闘をくりひろげた東京地方区。カネをかけない理想選挙の灯をかかげ、三期連続無敗で政界浄化に献身してきた市川さんもついに十八年の議員生活にピリオドを。

「落選したって大したことないのよ。おカネを使わない選挙運動を見事にやりとげてきたその事実のほうが大切」。東京・南新宿に近い「女の城」(婦選会館)で、涙を流す女性の支持者たちを市川さんはこう慰めた。市川さんの選挙費用一八八万八六一三円。法定額七五〇万円のわずかに四分の一。(6・28毎日)

売り込みはいや

「ごめんね、もともとハデな候補じゃないんだから」と、無所属の山高しげりさん。

カラーテレビ値下げ、百円化粧品であれだけ実績をあげた地婦連のリーダーが負けた。敗因は消費者運動を自分の売り込みの道具にしなかったこと。「私一人が落選したら消費者運動がだめになるようでは本当の運動じゃない。そうでしょ」

(6・29朝日)

同じ女性票にも差

参院選挙全国区で当選の安西愛子さん(自民)の支持層は、男二女八、年代は各年代とも二割代。望月優子さん(社会)は男三女七、支持者の八割までが二十一四十代。(6・29毎日)

主婦票は婦人に傾斜

全有権者の四分の一強を占めた主婦票はどの選挙区でも当落に大影響。地方区で支持者名をあげなかった人は三割未満、大部分で自民・社会のどちらかに投票。東京では主婦の一八%が

市川さんを支持したが、他は分散、市川さんは落選。

主婦票を集めた順位は①安西愛子②望月優子③田中寿美子④田英夫⑤町村金五。

(6・29毎日)

いのちの電話

孤独、不安、自殺への誘惑などにかられる人たちの身近な話し相手になろうと、東京ルーテルセンターに「いのちの電話」が開設される。相談相手は専門の訓練を受けた主婦たち。

(7・13朝日)

地下の水脈・明治の女たち

明治はわずか四十五年。人の一生がはみだすような短い期間、しかもその間に二つの戦争と二つの巨大な社会運動―民権運動と廃娯(はいしょう)運動―を含み、政治も経済も風俗も一変して農業国から工業国にのし上がった。晶子も知らず「青鞥」

も読まず、内発のエネルギーに目覚めた庶民の娘の地下の水脈は、それ自体の水圧でいつか地表に噴き出るはずだった。

明治三十八年夏、木下尚江と山田滴海遊説中の山形県の本覚寺で、警察の厳戒のなかだといふのに年若い娘から八十を超す老婆まで三十人も集まったという。東京で婦人会といえはインテリ女性と相場が決まっていたので一種異様な「神聖の氣にうたれた」そうだ。

明治三十一年鹿児島で生まれた高山ツルは、小学校もろくにやられず、隠れて本や新聞を読もうとしたがそのたに取られ上げられた。だが誰に教わるまでもなく年を偽って専売局の女工になり、やがて自由恋愛の結婚にふみきった。

日露戦争当時「何が名譽の戦死なのかね」とつぶやく若い女の声があったし、明治三十七年アメリカ赤十字から派遣された

看護婦一行が広島に向かったとき、途中の小さな駅で、深夜、老婆と若い嫁が「天にも地にも替えがたい息子(夫)が万一負傷してお世話になるときはよろしく」と泣きむせんだという。(村上信彦) (7・19朝日)

女高生二十四人が売春
暴力団員や悪徳金融業者が都内の女子高校生を誘って下校途中に制服姿でホテルで売春させていた。ほとんどが中流家庭の娘さん。遊ぶ金ほしさや好奇心から加わり、中には性病にかかったり妊娠した少女もいたが、両親はほとんど気づかなかったという。(9・15朝日)

ベビーブームから二十余年
いまや結婚ラッシュ
結婚シーズンの十月。昨年を大幅に上回る百二十万組の結婚が予想されるという。ベビーブームの彼らは、厳しい進学、

就職戦線をくぐりぬけ、ようやくゴールインと思ったら式場もラッシュという宿命。三、四歳年上の男性が少ないため女性たちにはさらに厳しい。男性が一つ年上というカップルが例年の四倍という。(10・1朝日)

全国から訴える手紙
「婦人公論」がレターフレンドの欄をもうけ男性を登場させたところ、文通を求める女性からの手紙が殺到。幸せだが物足りない日々や夫への不満を訴える内容がほとんど。マイホームの実態がいかに空疎であるかの証明、と瀬戸内晴美さん。(10・3朝日)

保育園つき公団団地デース
団地住まいの共働きにとって困るのは保育園。「保育園がないと妻が勤めをやめなければならぬ」などの苦情が続出。やっと保育園の建設が決まると、今

度は子どものない家庭から「団地共通の広場を奪われる」と苦情が浴びせられる。そこで関係各区では、日本住宅公団と話し合いを進め、区立保育園のスペースを初めから設けてもらうよう運動、来春にはテストケースとして板橋区高島平団地と足立区江北六丁目団地に区立保育園がそれぞれ誕生する。これをきっかけに新設の団地でも同様な動きが出るものと期待され、共働きに朗報。(12・13読売)

簡単に辞める大卒のOL
東京・飯田橋の職安の調査で、大学出の女子は離職率が高く、二年と続かないことがわかった。離職率は六か月八・七%、一年二一・二%、一年半三四・六%にもなっている。一人が結婚のためやめると、同期の女性には自然とみなやめてしまう、という傾向のあることもわかった。職安では「大学までいく女子は

生活に恵まれた人が多く、社会見学型、結婚相手捜しの就職が多い」といつている。

(12・30朝日)

〔進出〕

海外駐在員

東京銀行は、はじめてニューヨーク、ロンドン、香港各支店に二人ずつ計六人の女子行員を二月中にも送り出す。

(1・20朝日)

大卒女子就職の門開き始める

人手不足の中で、高卒、短大卒の女性はモテモテだが、大卒も都市銀行で男子と同じ職種で男子より多い採用にふみきったところがあるなど、この春は大学卒業の女子に門戸開放の企業が出はじめた。(2・18朝日)

都政参加へ婦人局長

美濃部東京都知事は、第二期

都政の課題である「都民参加の都政」の一環として、局長のレギュラー・ポストに、民間の女性を起用する意向を固め、人選を急いでいたが、十一日、NHK解説委員、縫田暉子さん(四九)の起用を決めた。縫田さん

自身も親しい人に、誘いをうける意向を明らかにしており、日本の自治体では初の女性局長が誕生することはほぼ確実。ポストは、女性にふさわしい民生局長の予定 (6・11毎日)

初の女性一佐誕生

陸上自衛隊幕僚監部衛生課勤務の岡部敏さん(四九)が、七月一日付けで一佐(旧軍の大佐)に昇任する。

岡部さんは昭和十七年日赤看護学校を繰り上げ卒業すると、すぐ従軍看護婦、シンガポール、サイゴンなど南方地域や中国大陸へ何度も渡った。戦後は郷里の日赤松山病院に勤め、二十七

年「米国式の新しい看護業務を学ぼう」と自衛隊の前身である保安隊に入隊。

抱負は「自衛隊看護婦の代表として昇任させていただいたまで。これからも看護業務の改善に努めたい」と控え目だが「将来は女性将官がぞくぞく出てほしいと思います」と、ウーマンリブの気炎も。(6・18読売)

新政務次官に女性二人

内閣改造にともない、郵政の松山千恵子氏、科学技術の粟山ひで氏と、二人の政務次官が誕生。(7・9朝日)

ごほうび付きです

女子社員 の 定着作戦

「三年勤めたら海外旅行に」、「七年勤続者の退職金百万円」定着性の薄い部門の女子社員を引き止めようと、こんなチャフレーズを打ち出す企業がふえている。

各企業が考えだした女子社員定着作戦は女性の「夢」を満たすねらいのものが多く。海外旅行、嫁入りじたくを整えられるだけの退職金、嫁入り道具になる自社製品の支給、持参金代わりの自社株の無償配布……。中でも多いのは海外旅行などのレジャー提供型。

こうした企業の試みを「女性に希望を持たせ、そのためにモラルが向上し、定着性が高まるなら大いに結構」(飯田橋職安 榎本伴蔵氏)、「これまで女性を消耗品のように使っていた企業が大事にするようになった」(高島屋 石原一子さん)と評価する声。

「配属、配置替え、能力開発などあらゆる面で女性はまだ十ばひとからげの傾向が強い。海外旅行などは励みとなるうが、まず全体的な労働条件の改善向上がないことには……。目先にとらわれず、その企業で自分の

能力がどの程度生かせるか、自分の一生とのかわり合いとして職場をとらえることが大事」

(労働省婦人労働課 長沢貞子さん)という声も。

石原さんは「その期間だけ過ごせばいいという意識では、地位向上は望めない」と指摘。

(10・27日経)

中野区教育委員に

田中澄江さん

中野区は四日、区教育委員大内正二氏の後任に劇作家の田中澄江(六三)さんを推すことを決めた。六日開かれる区議会本会議で同意を得たあと正式に任命する。

田中さんは、明治四十一年東京生まれ、東京女高師卒、聖心女子学院教師を経て文筆活動にはいり『悪女と目と壁』『はたの歌』など戯曲のほか、最近ではNHKテレビ『虹』のシナリオを執筆した。(12・5読売)

〔くらし〕

男パチンコ女ボウリング

経済企画庁が発表した独身動労者消費動向調査によると、レジャーの傾向として、男はパチンコ、ボウリング、マージャン、女はボウリング、観光旅行、ドライブが上位。(1・29朝日)

百貨化粧品に主婦殺到

主婦連・生協主催の百貨化粧品「ハイム」バザーに約八千二百人が集まり、化粧品七千九百二十点が売れた。一人で三十一個買った人も。(2・14朝日)

出かせぎ

出かせぎは家庭生活ばかりか、農村の地域社会そのものも揺さぶっている。火事があってもポンプが使えぬ、酒屋、床屋、タバコ屋みんな売り上げが落ちる。「郵便屋のくる時刻になると仕

事が手につかない」と初めて夫を出かせぎに送った妻。

(2・17朝日)

ずれてるんじゃない?大臣

「統制経済じゃないんだから、ヒズミができるのはしかたない。野菜は大切に使ってほしい」と衆院物価問題連合審査会で発言した佐藤首相に、傍聴席の女性たち、「一本百円もするダイコンを粗末にするはずがない」とカンカン。(2・19朝日)

円・実質的な切り上げ

きょうから変動相場制

政府は二十七日、日本円を二十八日から暫定的に変動為替相場制に移行させることを決め発表。49年四月以来続いた一ドル三百六十円の固定相場制の時代は幕を下ろした。二十八日から、ドルに対する円の交換比率は円高・ドル安の実勢を反映して、円は実質的に切り上げと

なり、正式な円切り上げも時間の問題となった。(8・28朝日)

本当はこんなに

上がったいた物価

東京の物価上昇率が一〇・三%と発表されたが、もつと上がっているのでは?と東京の主婦グループ二十五人が、一年間の物価追跡調査をまとめたところ、一五・六八%、政府発表の一・五倍と出た。(10・8朝日)

安いよ大学生協の野菜

東京・法政大学生協が大学近くの住宅街にも店を出したら、驚くほどの反響。消費生活協力組合法にふれるが、「値上がりで皆が困っているとき、法なんて。ダイコン一本売ってもらうのに学生証なんてバカげてますよ」と生協側。(11・24朝日)

国内仕立ての舶来

生地だけはあちらもので、仕

立てはこちらなのに、ラベルの表示は「メイド・イン・フランス」といったニセ舶来品がデパートの輸入品コーナーなどにも。商品名などの表示もすべて横文字。こうした無国籍の「混血商品」は消費者に誤認を与えるので不当表示の疑いが濃い。きびしく取り締まって、と、主婦連が公正取引委員会に現物を持ち込んで訴えた。(12・17朝日)

ヌードと復古調が目立つ

カレンダー

大日本印刷企画制作部の話では、ヌードと復古調が今年のカレンダーのデザインの特徴という。図柄の基調は人間性回復の主張。性の解放、伝統美の中に求める古き良きもの、あるいは大自然を舞台に人間を配するという具合。奇妙なことに企業公害が問題にされ始めた一、二年前から意識的に出るようになったという。(12・21朝日)

〔主婦〕

TV「居並び奥さん」繁盛記

モーニングショーなどのひな壇にズラリと並び奥さん。楽しみにして五百円から千円の謝礼がもらえる、名前を変えては申し込む常連も。続けて出ると告発の電話が必ずかかるが、これも「同業」から。民放各局も最近では出演者の顔写真を作り一人一回を厳守。(1・18毎日)

屋メロ全盛、「情事」に熱中

三十五歳以上の主婦の五〇％が視聴。「よろめき」ブームに「第二のゴールデン」とテレビ局は大喜び。(4・24読売)

主婦の減量教室

女子栄養大学で開かれている「栄養クリニック」は太っている人のための栄養講座。「栄養

学の勉強と言って出かけています」と参加者。(7・15朝日)

掃除きらい現代の主婦

アイデアバンクがまとめた主婦の意識調査によると、掃除はやりがいのある家事とはとても言えない。だが、やらねばならないという義務感強い。

やりがいのある家事は①料理②育児③家族および家庭の管理の順。専業主婦の七割が家の掃除は主婦がやるべきと考えているが、共働きの主婦の五割以上が主婦がしなくてもかまわないと考えている。(12・14朝日)

集会・活動

「濃い一票」へ日常活動

10円牛乳で連帯と資金作り
統一地方選挙、参議院など、ことしは選挙の年。一票の重み

が問われる年でもある。が、投票することだけが選挙のすべてではあるまい。正しい政治意識に目ざめた票でなければ、せっかくの一票も死票になってしまふ。政治への目ざめを、幅ひろい日常の地域活動を通じて一歩おし進めている主婦グループがある。地域活動十三年、会員百五十人、東京・代々木上原の「ヘマクラブ」。そのリーダーをつとめる伊藤輝子さん(六二)は、選挙の年を迎えますます元気にはり切っている。(1・8読売)

十年続けたリレー日記

通い合う農村主婦の心

十年ほど前、婦人会活動のひとつとして、リレー日記というもののはやった。一冊のノートにグループで日記を書き合うことにより、社会の動きを知り、生活を考え直す、そんな目的だった。長野県下伊那郡松川町の塩

とに対し、「富士をバラ線ではばるな」と立て看板で応酬。

(1・27朝日)

倉婦人会でも三十五年春から二十人で、このリレー日記を書き始めた。手あかで汚れた日記帳が、この一月で二十二冊になった。「生活や意識の向上にどれだけ役立ったかわからない」と婦人たちはいう。二十二冊のノートは、天候を気づかい、子供の成長を喜び、そして働き続ける農村婦人のぼう大な生活記録になった。そこには素朴な喜びや悲しみがあふれている。

(1・10朝日)

物価統制令廃止に反対

主婦連の五人は農林省を訪れ「消費者米価が物価統制令からはずされることに反対」と申し入れ。

(1・14朝日)

看板で抵抗

〈忍草母の会〉は、防衛施設庁が米軍北富士演習場に地元農民が出入りするのを締め出す目的でサクを作ろうとしているこ

とに対し、「富士をバラ線ではばるな」と立て看板で応酬。

(1・27朝日)

渡辺議員、菓のリベートただす
二日の衆院予算委員会で、渡辺道子議員(公明)は、製菓会社が医家向け菓子を問屋や医療機関に卸すさいに、表向きの数量の何倍もの菓子をリベートの形で渡す「現品添付」は、大衆薬との間に二重価格を生むものだとした。

(2・3朝日)

再販制度の改善を

主婦連、地婦連など消費者団体は、医薬品や化粧品が高いのはメーカーが小売価格を決められる再販売価格維持契約が認められていたためとして、公取委に廃止を要求する。

(2・5朝日)

バイト労組ガンバル

通産省の外郭団体であるアジ

ア経済研究所(東京・市谷)では、アルバイト職員が労組を結成し、「二か月単位で長期雇用しながら、使い捨てとは何よ」と女性三役の解雇にストライキで対抗中。

(2・6朝日)

「どんぐり」百号

環境浄化と闘った九年間
東京・田無市の主婦たちが力を合わせて教育、ゴミ処理など身近な問題を訴え続けてきた小さな新聞「どんぐり」が百号を迎えた。九年間、毎日欠かさず、主婦たちだけで発行し続けてきた。

(2・10朝日)

昭和三十二年主婦のサークル
へどんぐり」は誕生した。当時、このベッドタウンは都心からの急激な人口流入で、生活環境は悪くなる一方であった。役所への陳情に疲れ、その限界をさとしたとき、「訴えの輪を広げないとだめ。それには新聞を出す以外にない」と考えた主婦たち。

三十七年、第一号を発行。トッブ記事は「汚染処理に公開質問状」。「PTA役員会を料亭でやるのは非常識」町内からヌードショーを追放しよう

発行部数は五百だったが、議会や町のおえら方に与えた衝撃は大きかった。資金づくりのため、みんなで廃品回収をした。

現在、B6判四ページで発行部数三千。月三十円だが、有料読者は五百人に満たない。財政はピンチの連続だ。しかし、主婦たちは、町の人びとが「どんぐり」を「小さくて大きな新聞」と呼んでいることを知っている。

三万人の自民党婦人大会

自民党都連婦人部主催「はたの章氏を激励する総決起大会」が武道館で開かれ、三万人の女性がつめかけた。四月に行なわれる予定の都知事選で、美濃部氏にかなりの数の婦人団体が後

援をきめていることに対抗して開かれたもの。(2・12朝日)

地婦連、再販商品ポイコット

再販商品のポイコット運動を計画中の全国各地婦人団体連絡協議会(山高しげり会長)は、十三日、公取委から再販商品に指定されている化粧品歯みがき、家庭用石けん・合成洗剤、医薬品四品目について主要メーカー別のリストを作成し、全国の各婦人団体へ発送した。このリストは、どのメーカーが、どんな商品を再販ものとして扱っているかを示したもので、地婦連加入の各団体がポイコット運動を進めるうえでの「再販案内」。地婦連では来月十九、二十の両日、東京で指導者研修会を開き、運動の具体的な方針を固め、同月下旬から全国的な規模でカラーテレビ不買運動並みのポイコット運動を展開する。

(2・14読売)

チンドン屋もデモ

中野・板橋両区で、高層マンション建設に反対する住民デモ集会が開かれた。中野のデモでは、三人のチンドン屋に犬も参加。「太陽を奪うな」と行進。

(2・15朝日)

成田トリデに「抵抗のツエ」

新東京国際空港の建設をめぐる最大のヤマ場、強制収用代執行が迫ったが、反対派農民の一人瓜生つるさん(六七)も足かけ五年にのぼる長い反対闘争の中で、最後のどたん場に立たされている。「最後まで闘うべ。孫娘や嫁らと一緒に穴にもぐって……。おらあ死んでもかまわねえよ」と話すつるさんの一家は、反対運動の幹部として活躍した長男が病気で死亡、三男の警察官はつるさんとは「敵」の関係になった。長い闘争の中で一家の柱を失い、肉親の情に胸をつかれる苦しみを味わってき

たつるさんに、とうとう大詰め
の段階がやってきた。梅がほこ
ろび始めた老母の家の庭に、本
当の春がくるのはいつか。

(2・21読売)

先生あやまれ

国立図書館短大で、学生自治会が学校側の決めている自治会役員の届け出許可制に反対する決議をしたことから、二人の学生が無期停学と戒告処分にされたことに抗議する約五十人の女子学生が教授一人を二十五時間にわたって軟禁。「先生あやまんなさい」とつめよった。

(2・22朝日)

主婦パワー小田急しかる

「運賃値上げの時ばかりサー
ビス改善を口にして、あとは知
らん顔、ひどすぎる」と、小田
急沿線の主婦たち二十余人が小
田急本社に。「踏切が危険、老
人や病弱者の専用車を作れ」な

ど十以上の改善要求はすべて次
回もちこし。(2・23朝日)

土に根ざす抵抗

成田空港の代執行初日、立ち
木に身体をくくりつける老人、
婦人、トリデ前のみぞにぶちま
けたふん尿……。

白くのみたヒゲの老人隊員が
小屋にもたれ、首と柱に太い鎖
を巻きつけ、婦人の一人が錠を
かける。「はずせなくなるから
錠の番号を覚えておけよ」「そ
の必要ないっべ」

「一本の木に二人くくってく
ださい。それから私たちは農民。
外へ石を投げたりしないよう」
とリーダーが無抵抗の徹底抗戦
を指示。「おれたちいつ死んで
もいいんだ。この木にくくりつ
けて死ねりゃよ、一番幸せだっ
べ」(2・23朝日)

婦人ごとクイ倒す機動隊

雨ガッパを着てサクに体をし

ばった婦人行動隊はどしゃぶりの中、ついにクイが押し倒され、引き抜かれた。十四、五人の彼女たち「カエレ、カエレ」の絶叫。

(3・3朝日)

職員の仕事休暇無給に

看護婦さんスト権確立

慶応義塾は、四月一日から大学病院の看護婦をはじめ、全学的女子従業員の有給仕事休暇を廃止する。仕事休暇を「悪用」

するものがあり、財政負担が大きくなったというのがその理由だが、これに対して組合側は、全女性労働者への不当弾圧として、あくまで戦う姿勢を見せており、すでにスト権も確立した。仕事休暇は、労働基準法でも認められた権利だが、最近、財界などで廃止の意向が強くなり、東京商工会議所は昨年十月、労働省に「勤務をサボル口実になっているので手直しが必要」と、女性過保護追放の意見書を出し、

同省でも労基法研究会で検討中。慶応義塾の措置はその動きに便乗した格好だが、昨年ウーマンリブで氣勢をあげた女性にとつて、今年は受難の年になりそう。

義塾側が労組に有給仕事休暇の廃止を通告したのは昨年十一月。それによると、現在、一週期につき二日認めていた有給仕事休暇を廃止する、新しく無給の仕事休暇を無制限に認める、となっている。

理由は「妊娠中に仕事休暇をとった看護婦がいる。あきらかに不正使用だ。元日前後に出勤すると、高額な割り増し賃金がつくが、この間は仕事休暇をとるものはいない。また日曜、休日と続けてとるものが多いなど、休暇のとり方がきわめて不自然だ。仕事休暇を奪うというのではない。無給にしたのは苦しい台所のためだ」

ある看護婦は「慶応病院の看護婦が産んだ子どもは一〇〇%

心臓病や斜頸(けい)などの異常児だ。それほど激務なうえ、薄給なのに、これ以上、労働条件を切り下げられては生きていけない」という。組合側は「不正使用は言いがかり。仕事休暇は有給であつてこそ休暇になるのであつて、無給になれば当然ムリをする組合員がでてる。財界などが問題にした、女性過保護追放のお先棒をかつぐものだ」

(3・31読売)

ゆれ動く「母性」

全国婦人会議の討論から

「性」と「生殖」が切り離され、母性喪失の時代ともいわれる現代。職業をもつ女性がふえ、女の生き方そのものがゆれ動いているが、「母性」ということばの響きは昔と少しも変わっていないのではなからうか。産まない権利、育てない権利が女にあってはいけないのだろうか。

十三、十四日の両日、岡山市

で開かれた第十九回全国婦人会議の第一部会は、ゆれ動く「母性」がテーマ。「子育ては女の仕事」と片づけられていた昔にくらべると「母性」についての考え方は、多種多様。

部会は母性のもつイメージを話し合うことから始まり、「女は弱いが母は強い」「崇高でおおらか」「理屈抜きで甘えられる」といった定義が出された。また「今までの母性は美化されすぎている。もっとドロドロしたもの」と反論も出た。

出産は女の役割に違いないが、育児は果たして女だけの仕事なのだろうか。

生涯を通して何かの仕事もち、それに価値を見出すなら、とくに子どもは必要ない。産まない自由だって考えてよいではないか。

「母性は女性の一部にすぎない。母性である前に女性であり、女性である前に人間だ」という出

席者で最年長の福島の木幡久枝さん(六〇)の発言が参加者の共感を呼んだ。

「母性」と「個人」の兼ね合いをどうすればいいのか。部会
の討論は六時間半に及び、いろいろな意見に分かれたが「母性
として社会がしてほしいこと」

は、ほとんど全参加者共通の要求であった。「安全な遊び場」
「医療設備のある保育所を」「一時託児所、ベビーシッターをふ
やせ」「カネで解決のつくこと
には十分カネを使え」「産む権利を完全に行使できる社会に」

(4・16朝日)

差別に立ち向かう看護婦

「白衣の天使」を二つに分ける看護婦と准看護婦の身分。准看護婦は賃金、身分上で様々な差別を受けている、と「准看護婦の集い」(会員四千人)は初の全国大会を五月に開く。代表者の前嶋昭子さんは「患者の生命

を守るためにも資格を一本化すべき」と主張。(4・27朝日)

百貨化粧品を百貨店で売る

地婦連が十一月から三越やスーパーで二十五種の「ちふれ」を売り出す。(5・9読売)

看護総会、断絶

四十六年度総会最終日も、千葉大採血ミス事件をめぐる「問題の背景を追及せよ」という若手と「十分な経験と知識があれば事故はない」という年輩者が対立。決議文や要望書は作成できず、新役員と運動方針を決めただけで幕。(5・12読売)

森永不買・売運動

広島県生活協同組合連合会は、「森永乳業は中毒児の恒久的措置などについて誠意がみられない」と、後遺症に苦しむ子を救うため、森永全製品の不買・売運動を起こす。(5・15朝日)

「この痛みは職業病、クビはひどい」とハンスト

家電の花形、ソニー(井深大社長)の女子工員が「私の身体が傷ついたのは会社のせい。それを休職期間が切れたからといって解雇するのはひどい」と東京港区港南の芝浦工場の門前で三十一日から無期限ハンストを始めた。

ベルトコンベヤーで運ばれる大型テープレコーダーを検査するため、つり上げたり、強いバネのスイッチを一日二千回もひねっているうちに、「頸背腕症候群背腰痛症」という難病にかかった二十五歳の女子工員Iさんは、68年六月にソニーに入社。

その年の九月にはもう背中や腰が痛み出し、70年四月にはハンドバッグも持てないほどになったという。Iさんは「私だけではない。大崎工場のTさんもOさんも同じ病気にかかり、現に長期療養をしておられる。私だ

けの問題ではなく、このままでは労働者のスクラップ化が進むだけ」と「三人の業務上疾病を認めよ」と強く要求している。(6・1毎日)

労組婦人部

東京・調布市のミツミ電気労働組合は約二千人の組合員のうち七割が女性。この春闘では七、一九五円の会社回答を不満としてストライキに入ったが、女性も工場に泊まり込んだりピケを張ったりで氣勢をあげた。「生理休暇を有給に」「女性の日給制を月給制に」が女性社員の独自要求。(6・20朝日)

女目で食品公害監視

若い栄養士のグループ(家庭栄養研究会)は栄養のことだけでなく、少しでも食品公害をなくするように社会に働きかけることが必要と、地味だが着実な活動を続け、「食べもの通信」

という機関誌も発行。全国に二百人ほどの読者がいる。一般家庭に運動の輪を広げたいというのがグルーブの願い。

(8・17朝日)

『中国の女性たち』を書く主婦
革命後の中国の婦人たちはどんな生活を送っているか中国に長く暮らして帰国した六人の主婦が執筆。「家庭生活を中心に婦人の活動を同じ婦人の目を通して見たものだから、中国の生きた姿を理解してもらえと思う」と。

(9・18朝日)

女性の経済基盤確立めざす

「ライオネス・クラブ」(小坂花子会長)が創立三年度記念大会を一日午後一時から東京の日本工業倶楽部で開く。

「ライオネス(めすライオン)

クラブ」は女性が連帯して社会的地位の向上をはかろうと三年前結成され、アンネ社長・坂井

泰子さん、洋画家・桂ゆきさんたちも会員。前年度は「女性が職場に四割も進出している」時代だからと、女性の経済意識や婦人の老後の問題を調べた。

調査では、「婦人が職業を持つべきだ」が八九・四%で、女性も仕事を持ちたいという希望が端的に示された。反面、「育児は家庭で」という外で働くのとは矛盾した答えが七六・七%もあり、保育問題が浮き上がった。また老人ホームを調査したら女性に男性の二倍もあり、生活力のない老未亡人が将来ますますふえていくことがはっきりした。しかも老人ホームは六十五歳人口の1%しか収容する施設がないこともわかった。「だからこそ女性に経済力を持たねばならない」と石井元子理事長は力説する。

そこで三年度は、女性に仕事を持たせるような事業をしたり、カウンセリングをするなど、女

性の経済基盤を強める運動をするという。「今は女性の問題点を調べている段階だが、今後はさらに活動の幅を広げ、女性の地位向上をはかりたい」

(10・31毎日)

十七年続く「働く母の会」

職業を持ちながら子育てする女性の集まり「働く母の会」を、人は「世にも不思議な集団」と呼ぶ。ほとんどの会員が機関紙で結ばれているだけに、会のおかげで仕事を続けられたと感謝する人が意外に多い。戦前、数少ない女性が開いた共かせぎの細い道を大勢の足で根気よく踏み固める作業を受け持ち支え合うグルーブだ。

会がスタートしたのは昭和二十九年の暮れ。当時岩波書店に勤めていた小林静江さんが、長男の保育者捜しに苦労して、同じ悩みを持つほかの職場の人たちと、知恵を寄せ合おうと、自

宅で話し合いを開いたことから生まれた。翌年四月にニュースが初めて出て、すでに八十号を数える。現在の会員は約五百人。東京を中心として高学歴の人たちが比較的多く、また退職して主婦になりながら、会の生き方を支持してそのまま会員として残る人が約一割いる。ほとんどがいわゆる「ニュース会員」。

例会にはめったに顔を出さないかわり、ニュースはすみからすみまで読み、アンケートがあるところまゝと問題点や感想を書いてくる。その熱心さはまず類がない。

「この集団は、働く母親が仕事を続けることの困難さを、協力し合って少しでもやわらげるだけでなく、子どもには保育される権利があるという認識を育てながら、連帯してきた点を、私は高く評価している。働く母の育児研究集団」とさえないと思う。今のところ、集団保育

が個人のそれと比べてどれだけいいのかというはつきりしたデータは出ていない。人間形成の上から見てプラス、マイナスがどうなのか、今後はもっと突っ込んだところで、明確にデータを出してほしい。子供だけでなく、妻が働いたための夫への影響、近隣との関係などについても同様だ。創立の時からその歩みを見守ってきた評論家丸岡秀子さんはこう助言する。

(11・5日経)

佐藤さんヤメテ!

「いのちと暮らしを守るために女性も立ち上がろう」と十三日、東京・日比谷野外音楽堂で女性ばかりの「沖縄協定批准反対中央婦人総決起集会」が開かれた。主催は、日本婦人会議、新婦人の会、婦人民主クラブなど、総評、社会党、共産党系を中心とする十四の婦人団体、約七千人。「佐藤内閣打倒」「沖

縄返還協定反対」「自衛隊の沖縄配備をやめよ」とシュプレヒコールでウーマンパワーを盛り上げた。(11・14朝日)

奈良女子大で全学封鎖スト

奈良女子大学自治会(革マル系)は全学学生大会を開き「沖縄返還協定批准粉碎のための全学バリケードスト」を可決、二か所の門を封鎖した。革マル系全学連の統一行動に沿ったもので、沖縄返還協定の批准まで続けるという。同大のバリケードストは、一昨年十一月の「佐藤訪米阻止闘争」以来二年ぶり。

(11・17朝日)

活発な女教師の権利拡大

「中教審答申の『五段階給与』は男女同一労働、同一賃金の原則をくずすので絶対に許してはならない」―東京都教組婦人部(一万六千五百人)は、母親や婦人団体の人たちをまじえ、各

地で学習会を開き、運動の盛り上げに懸命だ。一昨年あたりから小学校教師の過半数を女教師が占め、その七割が既婚、共働きとなるに及んで「婦人労働者としての権利、母性の保護、権利の拡大」が現在大きな課題。

(11・23朝日)

生木をさくのはヤメテ!

「夫婦同居をかちとる全国連絡会議」という変わった集まりが去る二十、二十一日の両日、東京で開かれた。夫婦共働きでどちらか一方が転勤させられ、あるいは家庭の事情で単身赴任というとき、夫婦別居反対、一緒に生活できる勤務にせよ!という要求運動だ。四年間に十三組が集まってつづられ、「夫婦は夫婦らしく、親子は親子らしく、人間は人間らしく」を合言葉に活動してきた。いま会員は六十九組、今回が九回目の総会。

(11・24朝日)

ゲバ前線の女教師

中核派による東京・日比谷公園の松本楼放火事件の逮捕者の中に反戦女教師がいたが、最近反戦女教師を含めた女性闘士の活動が目立っている。留置場での彼女たちは何を聞いても一言もしゃべらず、貝のように押し黙っている。面会に来た親を追いつ返すが、ひとりになると泣いている。(12・3朝日)

四十大学で病院スト

「看護婦の待遇改善」「第二次定員削減の大学への適用反対」を掲げて日教組加盟の四十四国立大学が十五日早朝から三十分半日ストに入った。

日教組では「看護婦の待遇が悪いことは誰もが知っている」と言っているが、文部省の反応はさっぱり。大病院課にストの内容を聞くと、「人事課審査班にきいてくれ」「うちは公務員がサボったかどうかを見るだ

けで、診察がどの程度行なわれたかは全然わからない」とすました顔。大学病院の看護婦がストに入っても文部省は痛くもかゆくもないというわけか。病院関係者のなかには「これではないつまでたつても看護婦の待遇は改善されない」と非難する声も。

(12・15毎日)

公害告発、昭電三人娘

「新潟水俣病は終わっていない。新認定患者が続々出ている。会社は患者さんたちに十分補償

せよ」——新潟水俣病判決が出て三か月。昭和電工本社で、今年初め企業内公害告発に立ち上がった菊池啓子さん(二三)ら三人のタイピストは、ポーナス差別、労組の圧力など四面楚歌の中で奮闘を続けている。仲間が地方の工場に少しずつ増え、二十四日朝、千葉、秩父など全国十か所で一斉に抗議行動を起こす。「どんないやがらせを受

けても、会社が反省するまでガンバラナクッチャア」。深刻な戦いを、現代っ子らしくホイホイとやつのけるお嬢さんたちは、会社や労組にとっては、ヘルメットやゲバよりやっかいな存在のようだ。(12・24朝日)

リブ

行動します——リブの渦

「二夫一婦制ナンセンス」「抱かれる女から抱く女へ」——いささかショッキングな見出しで日本のウーマンリブ運動が紹介されるようになって半年近い。10・21おんな解放デモ、11・14性差別を告発する討論会、12・8侵略・差別と戦うおんな集会(全部70年)。リブの女性たちが街へ出るたびに話題を呼ぶ。へぐるーぶ闘う女。へ女性解放運動準備会。へ女性解放戦線。へ

へLCC)など運動の表面に出ている団体から、友達同士で作った二、三人の会まで、リブを名乗るグループは数多い。

リブの女たちは、男や社会のつごうのよいように作り上げられてきたへ女らしさへを拒否し、女が本当の女のままで人間らしく生きられる社会を求める。そのために、性、生殖、育児、一夫一婦制度、家といった問題を、仮面をはぎとってつきとめていくこうとする。それは女の意識変革を目ざすものであり、同時に反権力闘争となる。リブの運動は、社会を支配している男の論理、生産性の論理に対する女の論理の復権の叫びともいえる。しかし運動は始まったばかり。彼女たちの主張も、描く未来像もさまざまである。「女のうら

みつらみを男と権力にたたきつける中で解放の論理を築き、とりみだしつとりみだしつ、敵に迫って闘っていく」(へぐ

るーぶ闘う女)のパンフレットより)

(1・9毎日)

リブ、大阪でも旗上げ

女性解放を目ざす「おんな解放関西集会」が六、七の両日、大阪市内で開かれた。昨年六月、東京で起きたウーマンリブの関西デビュー。男性をすべてオフリミットにした集会には、学生、事務員、主婦ら約百三十人参加。おとこにしいたげられた体験発表から「都市ゲリラこそウーマンリブの旗じるし」と革命理論まで、二日間で延べ十一時間の討論。来年は「おんな」だけで生活する拠点を東京、大阪に作り、いずれは世界の「リブ」とも手をつなぐと最後まで意気軒昂。(2・8毎日)

日常での政治を、とリブ集会ウーマンリブを叫ぶへぐるーぶ闘うおんなは、バレンタインダーの十四日、文京区民セン

ターで「子どもと生きるおんな集会」を開く。子どもを育てながら聞えなければウーマンリブではない、と考えての集会。

(2・11朝日)

ウーマンリブ大合唱

意欲とグチとゴロ寝と

ウーマンリブの大合唱が、二十四日まで、長野県信濃平の学生村で開かれた。全国から参加した約二百人のリブたちは、大半が「反戦チック」な若い子。子連れの若いママも、一割弱。ロックビートと赤ん坊の泣き声にのって、「おんなの解放」を模索する四日間だった。

一日目「合宿ドール集会」は自己告白集会になった。

二日目からゴロ寝のリブが目立った。起きるはずの「ハプニング」はいつまでたっても起こらない。「何かやろうよ」とだけれかが言う。「何かやろう?何がやりたいか、それが一番、わ

かんないじゃん」

合宿のあちこちで、欲求不満がくすぶった。家で、社会で、閉ざされた未来を、敏感に感じとった女たちのいらだちがあった。

(8・25朝日)

ウーマンリブの一年

アメリカと日本

ウーマンリブの波が世界をゆるがしてから一年。二千年にわたって抑圧されてきた女たちによるはじめての問いかけは男たちに衝撃を与えた。マリーン・ディクソンはなぜリブが起こるのか社会的要因として①アメリカ社会でも、職業婦人が、雇用条件、賃金、仕事などのさまざまな面で差別を受けている②結婚・妻・家庭が女への抑圧を永続させる一番の手段である。ベティ・フリーダンの『新しい女性

性の創造』で結婚生活の仮面はがれた③古きよきアメリカの愛がベトナム戦争で引き裂かれ、

従来の価値観が崩壊しはじめたことの三点をあげる。アメリカにおけるリブは、一つの意識改革、女の側からつきつけた「文化革命」であったといえよう。

日本のリブ運動は昨年十月の「おんな解放」のデモでうぶ声を上げたが、まだ歴史が浅いので、「言葉だけ」とか「観念的」という批判もある。しかしこの一年、リブがわが国の男たちに投げかけた波及効果は大きい。労組の中で女の力が強くなった所も。リブは、小さいけれど各地に核を作った。へぐるーぶ闘うおんなの田中美津さんは「女にかけられている束縛があまりに日常的で意識しにくい。それが女の思考から疑問符を奪ってきた。解放されるべきは自分自身」と言う。

(9・22―23朝日)

ああ断絶ウーマンリブ

札幌、藤女子大学園祭に招か

れた市川房枝氏の講演「ウーマンリブによせて」を、「帰れ」「ばばア引ッ込め」と妨害、ついに講演はできず。

(10・24北海タイムス)

女性解放に「場」を開放

「脱」時代である。サラリーマンはイヤ、OLもイヤ、役人もイヤ。中には重役もイヤ、なんていう人まで現れた。その行く道は、いずれも牛後より鶏口。

ヘレディース・ボイス・リリーダー沢登信子さんは、東京・渋谷のデパートで、そうした女性の「脱族」に、三・三平方メートルの「場」を提供する。一週間は、デパートの一角で「小さな店主」になれるという仕掛け。百人分を確保した。

こしし四月、仲間と、五人で三十万円を集め「女の側に立って、女性の声を広く社会に響かせよう」と運動を起こした。

ウーマンパワー?「でしやう

ね。一種の……と否定しない。

「いえ、もっと積極的なんです。なんでも女性に解放して、その場を提供してもらう、そんなことかしら」(11・4毎日)

新宿の「ウーマンリブ前史」

「四谷怪談のお岩さん以来、新宿はレディー・ファーストの土地だ」元「婦女新聞」記者、石川大助さん(七〇)が、新宿風俗史を戦後コッポツと書きためた。女性解放の先駆的役割を果たした人たちの新宿での活動ぶりを中心に、ようやく繁華街への性格を強めた大震災以後、第二次大戦までの風俗をエッセイ風に描いている。

『婦女新聞』は明治三十三年に創刊された、婦人向けの新聞で、市川房枝、山高しげり、奥むめおさんら婦人解放運動の先駆者たちとともに、当時、全国の婦人たちの指導的役割を果たした。この新聞の記者だった石

川さんは、当時のスクラップを前後二十回にわたる引つ越しの間に紛失してしまい、思い出を書きとめておこうとしたのが、執筆のきっかけだという。

これら「ウーマンリブ前史」

は石川さんによれば、新宿が活動の中心で、原稿には「洋服姿でたばこをくわえ男まさりな言葉づかいで婦人参政権運動にかけまわる」女性活動家の若かりしころの姿が浮きぼりにされている。(11・29読売)

ウーマンリブ実践の米女性

今年印象に残った人として、もろさわようこさんは、一年間滞日していたアメリカのウーマンリブのグループ・ヘレッドストッキングンに属する活動家シャーリー・ハーマンさんをあげた。彼女の運動の原理原則をゆるがせにしない実践の態度に教えられたという。たとえば、リブの活動家を見世物的に出演さ

せることしか考えていない日本のテレビ局が出演依頼してきた時に出した彼女の条件は、現場のスタッフをすべて女性にすること、彼女以外の出演者もこちらで選ぶこと、そのテレビ局が女の二十五歳定年制を実施していることをその番組の中で告発することだった。(12・28朝日)

婦人運動の人脈

(日本の人脈「婦人運動編」として4・11・6・20、60回にわたり読売に連載。執筆金森トシエ記者)

〔消費者運動〕

一八七八(明治十一)年、区会議員選挙に際し、女戸主ゆえ選挙権がないのは不当と、県庁と内務省に抗議した高知の「民権はあさん」楠瀬喜多はじめ、中島湘煙、福田英子らに始まる

婦人運動は、参政権、廃娼を旗印に、あるいは社会主義運動を通して長く苦しい闘いが続けられたが、限られた少数の運動だった。新憲法で戦前の目標をほとんどかちとった戦後の運動は、次第に大衆婦人の手に移った。今は特に消費者運動が真っ盛りだが、その起原は29(昭和四)年にさかのぼる。婦選獲得同盟など東京市の婦人団体がガス代値下げで共闘、32年から一年間は築地市場の単一株式会社化反対に十二団体が共闘、34年二会社設立の成果をあげ、さらに市政浄化に五団体が結束、一方市議会にナマゴミとチリゴミの分別収集予算を要求、山高しげり、市川房枝らが宣伝用対話劇「お春さんの夢」を巡回公演して大熱演。今日の分別収集の先駆となった。

へ主婦連

かかわった五団体を結ぶ系は「婦選獲得」だったが、22年選

挙関係法の一部改正に成功、婦人も政治演説会に参加できるようになると、奥むめおは戦列から離れる。「政治演説会はどこも満員なのに婦人聴衆は少ししか混じっていない。女たちはまるで無関心で喜びの言葉もかけたくない。私は婦人参政権運動がいやになった。大衆婦人とともに暮らしをよくしていこう。貧乏退治から無知退治にも進んで、みんなが婦人参政権をほしいと思うようになる生活の基盤を作らなければと思った」と。

同年、奥は「職業婦人社」を作り月刊誌「職業婦人」を発行。翌年、中野の消費組合（生協の前身）に参加、28年婦人消費組合を設立、「貧乏と無知退治」を呼びかける。30年、東京・本所に婦人セツルメントを作り託児所を開く。一方、職業婦人社を中心に生まれた婦人グループの集会所として牛込に一軒家を借り「東京働く婦人の家」を開

設、婦人問題の夜間講座なども開くが、共に45年の空襲で全焼。

戦後48年九月、奥の呼びかけで配給の「不良マッチ追放主婦大会」をきっかけに「主婦連」が誕生。まずフロロ抑制に成功。織維品の公聴会では「幅はあっても丈の足りない手拭いは役立たず」と追及。役人「総面積が合えばよいと思った」など、主婦と役人の生活感覚の差を見せつける。暮れの日比谷、全国主婦連決起大会には三千人がプラカードを掲げる。

マーガリン、タクアン、コンビーフ、ウソつき食品は化学分析して追及、厚生省や農林省の公定試験法の欠陥も見つけて改善させるなど、科学的手法で成功、52年電気料金不払い、53年トーフ五割値上げ反対不買、54年黄麥米配給反対、十円牛乳運動など輝やかしい成果をあげ続ける。が、米価問題をめぐって三巻秋子副会長が64年「科学

的消費者運動」を唱え「消費科学センター」を設立、分離する。

業界も手口を覚えて巧妙になったが、チクロ、カラーテレビ、物統令の条件つき反対ですそ野が広がった。これからが本舞台と春野鶴子副会長は威勢がよい。四谷の主婦会館は55年に完成、傘下団体は都内二百三、地方二百五十三、計百十万人。地区代表が毎週一回の常任委員会に参加する。からだを張って地域で活動する婦人たちの力が大きい、フロロやトーフなどの小企業に強く、大メーカーに弱いとの声もある。

〈地婦連〉

チクロ追放などに主婦連と手を結んで活躍した地婦連の事務局長田中里子（四五）は、45年生田花世の松花塾に学んだことが契機。師のすすめで山高しげりが選挙事務長の竹内茂代の選挙運動を手伝い、山高と縁を持つ。48年東京地婦連誕生、山高

が会長に。52年日本独立で、全国組織の婦人会が許され「全国地域婦人団体連絡協議会」となる。当時の加盟は二十二府県。今は四十五都府県、会員六百万。

大日本婦人会の系統を受け、戦前の人脈の名残りもあれば土地の有力者も多いが、地域リーダーによっては自主的な運動をしている。結成後まもなく拠金で母親プロ「櫻映画社」を設立、「おねえさんと一緒」ほか佳作を生み出した努力も評価されるが、目的を持って組織された団体ではなく、「その地域に住んでいるから」入会する地域網羅団体のため、運動は広く浅くなりやすい。七五三や結婚式の簡素化、悪書追放、一円玉貯金、飲酒運転追放など、「なんでも運動」の陥りやすい形骸化の傾向もあるが、百元化粧品「ちふれ」発売など消費者問題に重点を置き、カラーテレビ問題では五団体の中心に。「消費者運動

の歴史が浅いので全国的ネットワークを動員して二重価格の実態調査をしたことがカラーテレビ問題の口火となった。大きく広がったのは手を結んだ他団体のおかげ」と田中は言う。

しかし、なんでも屋。「風が吹けば吹いたほうへ頭だけ動かすけど、風が過ぎれば元どおり。竹ヤブ婦人会」では敬老の日

ぐらいしかマスコミも相手にしてくれないのは当たり前」と会長大友よふ（六六）は脱皮を考え、67年、プロパンガスの価格を一万三千世帯で調査、三倍も価格差があり、安全性の管理も粗末なことを明らかに。「実態をつかんで執念深くやること。他団体や団地主婦とも手を結ぶこと」でカラーテレビ問題は大成果。年末のボーナスシーズンを越えてもメーカー在庫百三十万台、に発展させた。

71年四月、渋谷に七階建ての全国婦人会館を完成。総工費二

億七千万円、会員一人三十円の募金のはか業界や関係団体から一億円の寄付。この矛盾が「地婦連」に限らず多くの婦人団体の最大の弱点。諸外国では消費者運動は男性の活躍がめざましい。消費者問題を女にだけ負わせてきた反省もされてしかるべきだろう。

〈生協〉

『輝かしき今日を築くまで―城西消費購買創立十周年記念出版』（昭和十二年四月発行）の会員名簿には、中条百合子、窪川稲子、平林たい子、奥むめお、丸岡秀子、神近市子、大宅壮一、吉川英治らの名が並ぶ。26（大正十五）年創立、その婦人組織の初代会長は与謝野晶子。活動家に平塚らいてう、野村かつ子ら。第一次大戦後、関西では賀川豊彦、東京では吉野作造を中心に家庭購買組合が発展。「婦人が被圧迫者であることは労働者と共通の運命である。消費組

合運動における婦人の任務もまた、労働者と共に闘ってはお果たすことができない」（29年〈関消連〉婦人部役員の辞）。

しかし、戦時体制の中で解散や休業状態に。現在の〈日本生活協同組合連合会〉（会長 石黒武重、加入単協五百九、組合員二百七十万）は、かつての活動家たちが大同団結、50年に結成したもの。

「女の本領は育てること。生協運動は『育てる消費者運動』ととらえて二十四年間貫いた」と「おふくろ」の自信を浮かべるのは灘神戸生協常務理事永谷晴子（六一）。37年〈友の会〉

（『婦人の友』の読者グループ）に入り、敗戦後、一種の内職グループ〈婦人協力会〉を結成、作品展示会を生協で開いたのがきっかけ。47年、焼跡の紙芝居活動でグループづくり、48年、技術はないが稼きたい主婦の家政婦グループを結成。「学

ぶ」（商品知識や政治、経済の学習会）「行なう」（調査とテスト）「役立つ」（洋裁型紙配布、虚弱児施設の奉仕）「楽しむ」（明治生まれの会、大正生まれの会などグループづくり）、全体がまとまって「力になる」を合言葉に、三十一地区の家庭会代表と千人の運営委員が本部で開く会合だけでも年間二千五百回、自家工場で一日五万食生産する無漂白パンなど、組合員が育てた製品も少なくない。

山形・鶴岡生協組織部長、船見幸子（四一）も、55年一月の売上高七千円からスタートした生協を、組合員一万二千人、一日の供給高四百万円に育てたリーダー。スパーが安売り攻勢をかけた数年前、家庭班二百七十単位の主婦が目玉商品を買集め、そのまま生協で売って危機を防いだエピソードは名高い。

東京・世田谷の下馬生協、十七人の役員は全部女性。専務理

事竹井二三子（五四）は童顔、ショートカット。「髪ふり乱した活動家タイプは好きでない」。敗戦を前に二児を失い、家庭のただけでは平和は守れないと、46年発足の下馬生協に参加。経営困難を女たちで乗り切り、中心人物に。56年再スタート。料理・踊り・子どもやしつけ等の教室を開き主婦組合員急増。68年には第三店を開く。「十二円三十銭で仕入れた牛乳を一日三千本売る。一日二百万本さばく

大メーカーは一本一円値上げしても月六千万円の増収。独占化にもつながるから、一円の値上げでも戦わねば」―主婦と消費者の感覚をつきまぜた素朴な論理が原動力。

へ消費者五団体ほか

機関紙購買者一万三千、栄養改善普及会常務理事近藤とし子（五八）は、36年から川崎で工場従業員一万人の集団給食を三年間担当、48年厚生省を経て54

年栄養改善普及運動に入り、栄養素をわかりやすく表す「三色運動」や量目記入の「グラムつけ運動」を。メーカー会員も七十八社、着色料を使わないソーセージなどの開発を進める。

メーカーとの協調は消費科学連合会会長三巻秋子（六三）も共通。会員一万、移動販売車、共同購入をすすめる、消費者教育講座にはメーカー代表も招く現実派。

こうした姿勢を含めた末の生協運動を厳しく批判するのが日本消費者連盟委員の一人、野村かつ（六九）。〈主婦連〉などの功績は大いに認めるが、高いとか有害とかの局所的運動は政府や企業には痛くもかゆくもない。政府にも業者にも従属しない運動でなければ厚い壁は越えられない」と。賀川豊彦系の消費組合に参加した戦前派。50年にアメリカの消費者運動にふれ、51年〈婦人職業協会〉を作り戦

争未亡人などに機械編みを指導、〈婦人有権者同盟〉（日中友好協会）に参加、57年〈総評主婦の会〉事務局入り。一昨年、六人のサムライで〈日消連〉を創立、デモ・陳情型に対し、少数精鋭・告発型戦術をとる。

同連盟の委員青木淑子は〈全国サラリーマン同盟〉を結成した夫、茂と夫婦共闘。消費者運動もようやくマンパワー登場時代に。

消費者五団体の一つ〈消費者の会〉代表和歌森玉枝（四六）は大学教授夫人。62年東京都公募の消費経済モニター千人の一人に。その文京区グループ十人で勉強会を続け、68年区から十萬円の援助を受け〈文京区消費者の会〉を結成、現会員七百五十人。いわば行政の申し子。

それを、主婦連・地婦連と結ばせたのが〈新生活学校〉。64年、〈新生活運動協会〉を母体に地域の消費者教育を目的に誕生。

現在全国に千三百校、十一万人。最初の三年〈新生活協〉から年間四萬円の助成金を受け、以後は会費と市町村の助成で自主的に運営。チクロ追放を機に「勉強から行動へ」幅を広げている。推進要員八人のうち三人は女性。その一人勝部三枝子（四七）は、

三十年前、奥むめおのセツルメントを手伝った女子大生。65年主婦連を出て66年新生活協会へ。〈消費者の会〉も〈新生活学校〉も行政と密着した組織だが、そうした地域活動が、中央団体の旗ふりで浮き上がりやすかった消費者運動を下から支える力になったという評価もある。

「米価据え置きで本当に自殺者が出るか、見てみよう」―昨夏、米価審議会の放言事件で騒がれた〈関西主婦連合会〉会長比嘉正子（六五）は、物統令撤廃にも、いち早く賛成の声をあげ反発をかった。「古々米の保管料だけでも大変な金額。ムダ

使いをやめて総合農政にふりむけよ」と言う実力派。五十七団体、四万六千人を率いる。沖縄出身、戦前はセツルメントや保育所で働く。45年主婦十五人と配給公団支所へ「米よこせデモ」、同年へ鴻池・主婦の会」

結成、翌年へ日本主婦の会」に発展させ、48年へ関西主婦連」を名乗る。「縮んだ化せんお召し」「買ってみたら虫食いだった桐ダンス」など実物を示しての運動は一貫して現実的。「手伝う会員には日当を払う。一割五分の利益もちゃんとソロバンはじいてやるから、業者も、婦人団体やから安う売れる」とは言えん。物統令を廃止しても大阪では安い米を売れる自信がある」と自信満々。

比嘉と途中でたもとを分かつたへ大阪主婦の会」(会員四万人)会長馬場チミ(六八)はヤミ物価と取り組む。地方では、へ北海道消費者協会」(会員一

万二千人)会長後藤まさ(五七)が異色。札幌市内に牛乳販売店頭ケースを置かせて宅配二十二円を十七円にする。へ地婦連」にも北海道だけは参加していない。

へ京都府生活学校連絡協議会」会長伊藤さかえ(五七)は、五年前誕生の賀茂生活学校、四年前から市内の小売り店四十店に「生活学校の店」の看板を掲げて開発した無添加食品を販売中。いま扱い商品百二、「運営は会費のほか知事さんから年十万円もろてます」

東京都生活学校推進委員並木良(五二)は「有害食品を買わない食べないだけでは消極的。作らない、売らない、運動を」と五年前から呼びかけ、昨年安全豆腐を開発。

四国では徳島県阿南市の中農の主婦森幹子(五九)が異色。65年生活学校を作り、値下げや品質表示に成果。

「米価据え置きや減反で収入は頭打ち」と、全国農協婦人組織協議会(会員二百八十万)も、会長白井小浪(七〇)以下、各地で消費者運動を開始。昨年の第九回全国消費者大会にも初めて参加した。

公団住宅自治会協議会(会員八万五千人)も消費者パワワーの拠点。日吉、高根台団地などは特に活発。

が、「消費者運動には、法律・経済・科学などの専門学者にぜひ参加してもらいたい」(高田ユリ)「物価は政府の物価政策を動かすのが根本。台所と政治を結ぶ教育を」(市川房枝)の声も。「理論的指導者がいない、ヒモのつかぬ自主的な運動が少なくない。そして運動の基本である婦人の権利意識が乏しい」という決定的な弱点はあるが、消費者運動は厚みを増し、すそ野を広げ、いきいきと力をみなぎらせ始めている。七〇年代はウー

マンパワワーとマンパワワーの結婚の時代かもしれない。

「廃娼運動」

へ矯風会」

天皇がめかけを持っていた時代に「男子ニシテ妾ヲオキ妓ニ戯ルルハ姦通ナリ」と書いた婦人矯風会の祖、矢島楯子の縁者久布白落実(八八)は、楯子の志を継いで七十五年。14年からへ矯風会」の幹事、16年、飛田遊廓問題で日本最初の「母親デモ」も効なく「公娼廃止のためには参政権運動を」と、19年へ婦人参政権協会」会長に。廃娼資金作りには「五錢玉運動」(袋に五錢玉を入れる運動)で四十万袋二万円を集める。さらに、「握り飯運動」「イワシ漁運動」で資金づくり、全国七万の寺を歩いての署名集め、戦前、秋田・埼玉など二十二県の廃娼をかちとる。戦後56年、売春防止法がザル法ながら成立。現在会員

五千人、1901(明治三十四)年、吉原を脱出した一少女に始まる保護更生施設は三都市で事業を続け、1893(明治二十六年)創刊の機関誌「婦人新報」はいま八百四十六号。

〔女流民権運動〕

「婦女幼者廃疾及び無字文盲知識ヲ欠く所ノ人ハスベテ此權利ヲ有スルコトヲ得ザルヲ以テ適法トス」(明治七年、津田真道『明六雜誌』所載)「婦女少年狂人刑人及極貧ニシテ教育ヲ受ケザル者等ハ一コノ權利ヲ有サザルナリ」(明治八年、加藤弘之、『国体新論』)——此權利とは選挙權のこと。しかしこの二人、カチカチの石頭ではない。津田は福沢諭吉らとともに廃娼論や夫婦同權を、加藤は天賦人權説を唱えた人。『新知識人』も、男は建て前と行動が違っていた。それを一致させたのが岸田俊子(中島湘煙)、景山英子

(福田英子)らだった。「汝等は口を開きぬれば改造と言ひ改革と言ふにあらずや。何とて独りこの(男女)同權の一点において旧慣を慕ひぬるや」と突きあげた俊子は1863(文久三)年生まれ。二十歳で民権運動の演説会で熱弁をふるう。それに感銘を受けたのが英子。『岡山女子懇話会』の人びとと明治十六年に自宅に学舎を開き、婦人に自立を説く。「赤心資本の独占に抗して不幸なる貧者の救済を」と、階級解放こそ婦人解放への道と社会主義運動に投じ、六十三年の生涯を「危険人物」として終える。

社会主義の系列では堺利彦の妻、堺ため子、幸徳秋水の愛人菅野須賀子、日露の非戦論では与謝野晶子。その一方、六十万人の『愛国婦人会』を創った奥村五百子も出、新しい女の波が次々と生まれるなか、世を驚かせる運動を展開したのが平塚ら

いてうの『青鞥』創刊1901(明治三十四)年だった。「私は新しい女である」と13(大正二)年、中央公論誌上でらいてうは挑戦、「新しい女」特集を組む。これを導火線に総合雑誌も婦人問題を取り上げ始め、尾崎行雄は「婦人参政權運動當然論」を発表、読売新聞は与謝野晶子、田村俊子の入社を誇らにうたう。らいてうは五歳下の奥村博史と同居、家制度にゆさぶりをかける。『青鞥』は伊藤野枝が継ぐが16(大正五)年廃

刊に。しかしらいてうは19年、婦人参政權や母性保護制度の実現をめざす『新婦人協会』を市川房枝と呼びかけ、20年創立。その一方、増える女工。「工場は地獄よ主任は鬼よ。廻る運転火の車」の女工哀史。14(大正三)年、東京モスリンの女工としてストに加わった山内みな(現在の『日本婦人団体連合会』幹事)の当時の日給は十八銭、

食費と寮費を引かれると八銭だけ。正午から深夜零時、零時から正午までの二交代制十二時間労働、四割が結核で死亡した。みなは19年「婦人労働者大会」で演説、その会の縁で『新婦人協会』を一時手伝う。

奥むおもも加わり「治安警察法改正(女も政治結社や政談演説会に参加自由に)」と「花柳病男子の結婚制限法」を要求するが、前者は見送り、後者は否決。21年再び上程された治警法改正は衆議院を通過したものの貴族院で「国体に反する」と否決。22年、演説会の参加のみようやく可決される。が、その暮れ、『新婦人協会』は解散、幹部は『婦人連盟』などを組織、23年、尾崎行雄らの呼びかけで『婦人参政權同盟』が生まれる。黒地に赤くRW(レッドウェーブの頭文字)を組み合わせた旗を掲げて21年第二回メーデーに参加したのは『赤潮会』の山川

菊栄（八〇）ら。「私達兄弟姉妹を窮乏と無知と隷属に沈淪せしめたる一切の圧制に対して断固として宣戦を布告する」——宣言文起草した菊栄は、与謝野晶子、らいてうらとの母性保護論争でデビュー、男女同一賃金、教育と職業の機会均等などを説き、労組や無産政党に影響を与える。47年労働者婦人少年局初代局長に。

堺利彦の娘で「日本婦人有権者同盟」会長、近藤真柄（六七）も「赤潮会」の会員。25年解散後も無産婦人運動を続け、29年に「無産婦人同盟」を組織、人身売買や女子深夜業禁止などに取り組み、後、市川房枝の片腕に。

「新婦人協会」解散後、婦選を目指す小団体が乱立したが、震災後の救助運動等を契機に、「東京連合婦人会」が生まれ、その一部の人を中心に「婦人参政権獲得期成同盟」が24年誕生。

参加者の一人、竹内茂代（八九）は東京女医学校（現、東京女子医大）の第一回卒業生。「卒業式は、女子の高等教育は晩婚をふやし人口減となる。手術をして平気で血を流すような女がふえたら日本は滅亡する」と「女医亡国論」の討論会場になった。大隈重信が、明朝まで発言しても結論は出まい。十年、十五年見守ろう、と発言して閉会できた」と回顧する。

婦選運動で「一番苦労したのは金」と市川房枝は言う。大学の運動会でバナナ売り、手刷り印刷機をもらって名刺や封筒刷り。25年三月、婦人の参政権、公民権、結社権が衆議院に上程される。ビラ五万枚をまいて氣勢をあげたが貴族院で葬られる。以後毎議会に提出、議員過半数の署名をとりつけた29年三月も葬られ、黒ワクハガキで「死亡通知」を出す。30年には同盟など無産婦人団体も含む七団体、

六百人で第一回日本婦選大会を開くが、または貴族院が握りつぶす。当時の主な参加者は山高しげり（七二）、地婦連会長、元国民新聞記者）、加藤シヅエ（七四）、参院議員、当時は石本男爵夫人）、新妻イト（63年六十五歳で没、労働省初代婦人課長）、河崎なつ（66年七十八歳で没、文化学院学監、参院議員）、藤田たき（七二、津田塾大学長）、山本杉（六八、医師、参院議員）、

米山久子（六七、当時同盟金沢支部長、現全日本仏教婦人連盟顧問）。が、婦選に好意的な犬養首相が32年五・一五で倒れ、婦選案は提出すらできなくなる。女工の外出自由などを求め警官隊の催涙弾に立ち向かった無産系運動も集合離散をくり返す。その一つ、労働農民党系の「関東婦人同盟」に加わったのは野坂電、丹野せつ、新妻イト、田島ひでら。27年結成、参政権、男女教員の同一待遇、公費によ

る託児所と助産院、深夜労働廃止など二十一项の要求を打ち出す。

29年待望の深夜業禁止が成立。これには26年結成の「国際労働協会婦人委員会」も一役買った。市川房枝、帯刀貞代、加藤タカ、渡辺松子、山高しげり等が委員。26年日本労働総同盟に加わり、のちに婦人部長となった赤松常子（65年没）も多くの争議で活躍したが、38年、すべての労組が「産業報告会」に吸収されて終止符を。

27年の大不況以来母子心中が続出したが、29年の「母子救護法」の対象は十歳未満の子と妊産婦などごく一部。同年「母性保護法制定促進婦人連盟」（翌年「母性保護連盟」と改称）結成。委員は河崎なつ、堺真柄、市川房枝、加藤シヅエ、山高しげり、奥むめお、久布白落実のほか阿部静枝（無産婦人運動家、戦後評論家）、吉見静江（セツ

ルメント、戦後厚生省母子福祉課長）、村岡花子（児童文学者、徳永恕（保育事業家）など。委員長は山田わか。

女工哀史の女工の母、貧農たちの暮らしは娘以上にみじめだった。小作料は六割五分から八割、各地で争議が起きる。24年日本農民組合に婦人部が誕生、部長山上君恵は賀川春子らとともに講習会や巡回講演で農村婦人を教育。

こうした姿を調べ、37年「日本農村婦人問題」を発表したのが産業組合（農協の前身）勤務の丸岡秀子（現、全国農協婦人組織協議会顧問、評論家）。しかしすべては「戦争」に吸い込まれ、45年敗戦。

〔母親運動〕

毎年一万余千人の母親を全国から集める「日本母親大会連絡会」、トップに立つのは山家和孩子（五六）。PTAで毎月戦後

教育の教科書の勉強会。やがて「日本子どもを守る会」に参加。55年の第一回母親大会をたまたまのぞいてのめりこみ、59年の第五回大会では副委員長、60年の反安保デモでは「母親大会」の旗を振る。

ポツダム宣言で「日本の民主化」の文字を見た市川房枝は婦選を予想、45年八月末には「戦後対策婦人委員会」（現「日本婦人有権者同盟」）を作る。

46年、「婦人民主クラブ」（通称「婦民」）（委員長松岡洋子、現、佐多稲子）、48年「主婦連合会」（既述）、50年「全国未亡人団体協議会」（酒井まつ守田厚子）などが相次いで生まれる。その中から消費者運動と平和運動が二大潮流となる。

杉並のPTAの主婦百人の読書グループ「杉の子会」（安井田鶴子（五七））は49年ビキニ水爆実験に憤り、四月、原水爆禁止署名運動に参加する。区

民の八五%、二十八万人が署名、そのうち二十万は婦人たちが集めたもの。九月、署名は全国規模に広がり二千万を突破、50年の第一回原水爆禁止世界大会へとなる。

これに参加した丸木俊（五九）は48年以来原爆の図を描き続け、50年三部作を背負って日本中を歩き、三年間に六百か所で展覧会。53年コペンハーゲンの世界婦人大会から、ハンガリー、ルーマニア、中国を巡る。66年には丸木美術館開館、70年アメリカでも巡回。

52年以来、「公娼復活反対協議会」（久布白落実ほか）、「戦争おもちゃ追放運動」（関西主婦連など）、「再軍備反対婦人委員会」（平塚らいてうほか）、「家族制度復活反対協議会」（田辺聖子ほか）が次々と生まれたが、農村婦人の問題に取り組み続けるのは丸岡秀子（六七）。53年、第二回全国婦人教育協議

会（日教組婦人部）の講師となり、弁当のない欠食児童、ボン引きで小遣いを稼ぐ基地の子らの話に心を打たれ翌年も参加、
「母と女教師の会」が芽ばえる。

55年世界母親大会準備会に参加、六月、第一回「日本母親大会」を開く。「世界のおかあさん手をつなぎましよう」らいてうの字を染めた手拭いは原価二十六円五十銭、販価四十五円、十三万本が売れる。大会事務局は日教組、企画部長は山下正子、実行委員は日教組・婦団連・婦人民主クラブなど約六十団体。

46年三月、加藤シズエ、羽仁説子、宮本百合子、佐多稲子、赤松常子、山室民、山本杉、松岡洋子らが呼びかけた「婦人民主クラブ」の発会式には二千人も集まり二百人が入会。初代委員長松岡洋子（五四）、事務局長樺田フキ（七二）。「米よこせか」ら内職あっせん、青空保育所などさまざまな地域活動を

くり広げ、母親大会誕生の力の一つにもなる。

46年「民主保育連盟」を結成して新しい保育を呼びかけたのは羽仁説子(七八)。レッドパージの波の中で52年に解散、その年出来た「日本子どもを守る会」(会長、長田新)に入り副会長となる。初代事務局長は清水慶子。

「日本母親大会」事務局長(のち実行委員長)は河崎なつ(66年七十九歳で没)。「母親が変われば社会が変わる」を、第十二回大会で繰り返し遺言とする。

「母親大会」はえらい先生の話を黙って聞く会ではなかった。嫁・しゅうとめの問題、たんば仕事、母子家庭、二千人の参加者がナマの声を張りあげた。55年「母親大会のつづり方集」を出した「生活をつづる会」は、52年の鶴見和子の提唱で生まれる。「投書夫人」という言葉が生まれたこの年、参加者は三十

人。現在も牧瀬菊枝(五七)を中心に続き、庶民の生活の聞き書きなどを続ける。

「政党系列下団体」

日本PTA協議会、全国都道府県教育委員会も後援し、補助金を出すほど拡大した「母親大会」は、動評反対の意志表示で教委や福島県の補助を打ち切られる。59年自民党は「母親大会偏向」を表明、逆に平和分科会は満員の盛況に。

一方、各政党的な婦人対策強化で婦人団体の系列化も始まる。

「全日本婦人連盟」(60年、自民党系、現会長山岸信子)、「日本婦人会議」(通称「婦人会議」、62年、社会党系、現議長田中寿美子、高田なほ子)、「日本民主婦人の会」(61年、民社党系、現会長小糸きみ子)、「新日本婦人の会」(通称「新婦人」、62年、共産党系、現代表委員樺田ふき、石井あや子)、「主婦同盟」(68年、公明党系、現会

長伊藤富貴子)。

この渦の中で、「婦民」も「解散して「新日本婦人の会」の中核に」、と要請される。佐多稲子らは共産黨員だったが、「婦民」は市民運動、大衆婦人組織を党の傘下に置くのは間違い」と自主性を貫き、党から除名される。日共系会員は「婦民再建連絡会」(代表、色部百合子)をつくる。

新左翼婦人運動の先頭に立つのは松岡洋子(五五)。69年「安保を闘う婦人会議」、70年には「侵略Ⅱ差別と闘うアジア婦人会議」を呼びかけ千人の集会を開く。46年「婦民」初代委員長、56年「日本ペンクラブ」事務局長、57年「婦人会議」結成以来70年まで議長団の一人であったが、70年「ペンクラブ」を脱退、三里塚・忍草闘争にかかわる。

「体制内左派では、パンソウコウの役にしかない」。

一方、「少数過激派はかえっ

てマイナス」と言うのは「新婦人」の樺田フキ。公害・物価・戦争反対の三点で70年代の婦人運動は足なみを揃えられる。パンソウコウと言われても、一人の百歩より百人の一步が大切」。

「日教組婦人部」も、「新婦人」系(山本あや子ら)と「婦人会議」系(高田なほ子、山下正子ら)に分裂。「母親大会」は「多くの組織が分裂した中でケガをしながらも中央は統一、地域は日常活動で共闘」と、自信満々。

「保育所運動」

保育所づくり運動も花ざかり。足立区保育問題協議会事務局長和田章子(三七)は共働きの十年の中学教師。西新井団地の保育所づくりなど、この十年間に輪を広げる。華やかな人脈はないが「おもしろくてたのしい」網の目人脈。

「ひよこの家 共同保育所」運営委員長、有吉多恵(五五)は「東京都無認可保育所連絡協議

会」通称「無保協」の事務局長。

「婦人労働者を支える思いがなかったらとても頑張っただけでなかった」。給料は四万円、高卒初任給なみ。

「東京保育問題連絡会」代表橋本宏子（四一）は、共同保育から公立保育所づくり。活動家から専門家になり、いま短大の保母養成科講師。

戦前からの保育運動家には、徳永恕、三木道子、塩谷アイ、細谷光代らが。

「全国心身障害児（者）を守る会」副会長北浦雅子（五〇）は「この子より半年だけ長い寿命をお与え下さいと、どの母も苦しんできたが、最近、どこかの施設が守ってくれるだろうとはのかな光がさしてきた」と言う。61年、必死の陳情がみのり島田療育園開園、64年、自宅を事務所に会をつくる。いま全国十五支部、三千人。へ全日本精神薄弱者育成会」（仲野美保子

ら）へ日本筋ジストロフィー患者の会」（高橋英子ら）等、障害者運動にも女性が活躍。

「親と子のよい映画を見る会」（堀田てる子ら）、へ公害から子どもを守る堀浜・三浜・母の会」（代表、清水民子、四日市）、へ生活環境を守る婦人の会」（代表、佐藤茂子、喜多方）、へ水俣病対策市民会議」（会長、日吉フミ子）など全国各地でのちと心を守る運動を婦人たちが展開。

学童保育を誕生させたバウアー・多摩川団地保育の会」（会長、関口暢子ほか）、高校教育を変えさせたへ富山県教育をよくする母親の会」（会長、塚崎昌子）など、母親たちの運動は地下水脈のように広がる。

〔婦人労働〕

女子雇用者は70年に一千万人を突破、53年（四百七十万）の二倍以上に。が、平均賃金は男子の四八・五％。働く婦人は

婦人問題の最後の解決者と言われる。その中心は総評婦人対策部。部長山本まき子（五〇）は「生休取得率六七％が、一昨年は五四％に低下、権利を獲得しても行使となると弱い」と嘆く。

万、平均勤続年数十三年、平均年齢三十二歳、既婚六割を誇る。へ全専売労組婦人部」は55年頃から保育所運動に取り組み全国三十八工場全部に保育所を実現、62年には子看（こかん）休暇を実現させた。一万五千人の平均年齢は三十五、勤続年数十五年、既婚率七割を誇る。現部長園田順子は二十六歳の純戦後派、「合理化には攻撃が最大の防御」とストも辞さない。「婦人の弱さは、逃げて帰れる場所（家庭）があると錯覚しているところ。逃げたってパートか内職しかない。現在の職場の条件をよくしなくては」

お茶くみ闘争に立ち上がったのはへ日教組婦人部」。月給が六十円になると昇給がストップしていた初代部長高田なほ子から千葉千代世へ山本あやへ木村俊子へと受け継いで、いま奥山えみ子（五〇）が部長。48年、東京を先がけに男女賃金差完全撤廃を実現させ、55年産休補助教員設置に成功、いま育児休業法案に懸念。

46年に発足したへ全織同盟」は日本労働組合総同盟で最大の婦人組合員を持ち、初代婦対部長は赤松常子。54年婦対部に代わり寄宿舎対策部となり、65年同部廃止、婦対部となる。部長多田とよ子（四五）は「三十六万人の組合員を背後にILO三

65年、他に先がけて育休試行にふみ切り、68年から実施したのはへ全電通婦人部」。部長は内山栄子（三三）。現在無給の賃金を六割支給目指す。組合員七

条約の批准と労基法改悪反対に当面力を入れる」と、控え目ながらキッパリ。同盟系二十八団体のうち、婦対部があるのは全織だけ。総評系六十四団体で専従部長は十三人だけ。

〔裁判闘争〕

「結婚退職制は憲法違反」を東京高裁で勝ち取ったのは住友セメント四倉（よつくら、いわき市）工場の鈴木節子（三二）。机とイスを取り上げられても闘い抜いた。これに勇気づけられて、67年、神戸市の会社員勝野睦生（むつみ、当時二四）、68年神戸市の高校教師、樋口睦（二七）、茂原市役所の河野栄子（二六）らが次々に結婚退職無効の地裁判決をかちとる。

〈夫婦同居をかちとる全国連絡会議〉で活動するのは東京海上火災保険の松沼絢子（三七）。「転勤は不当労働行為」と提訴した夫は和解成立、六年目に帰

る。69年には九州転勤を拒否して解雇された日本生命茨木支社樋口文男・裕子の訴えに「転勤命令と解雇は共に無効」の大阪地裁判決。70年には秋田相互銀行萩原輝男・和子夫妻が勝訴、二十数組が次々に同居を実現した。

若年定年制を法廷に持ち込んだ第一号は東急機関工業の志賀穂子（四〇）。66年春闘で「三千円の賃上げと引き替えに」労働使協定された「女子三十五歳定年」に対し、67年、東京地裁に身分権保全を申請、地域の労組や婦人団体も支援、〈女子三十歳定年制反対、働く権利を守る会〉が生まれる。68年東京地裁で勝訴、いま高裁で争っている。

71年3月には盛岡地裁で「女子三十一歳定年制は民法九十条違反、無効」の判決が岩手県経済連の大沢栄子（三一）に。職場復帰し、後続の人も働き続けられることになった。が、民放、

自治体等にも若年定年制はまだまだ残存。

“キーパンチャー病”で体当たり闘争、労災認定を獲得したのは全損保の婦人組合員たち。65年、三十企業から四百人が集まって〈東京職業病対策連絡会〉が発足、同年、興亜火災名古屋支店、安藤啓子が「頸肩腕症候群」として労災認定をかちとる。69年労働省は業務の対象を広げる新通達を出した。

看護婦の「二人以上の複数制、月八日以内の夜勤制限」制度化を求める運動は、68年、県立新潟病院から始まり、全国の病院に人脈はないまま広がっている。婦人運動は多様に幅を広げ、人脈は厚みをまし、人間尊重、人間優先を共通の要求に声を高めていっている。

別の視点から人間宣言を始めたのがウーマンリブ。へぐるうぶ・闘う女〉〈女性解放運動準備会〉ほはいくつかのグループ

が初の統一行動をしたのが、70年10月の「おんな解放集会・デモ」。それに続く「性差別への告発」討論集会には五百人が参加。子どもを産まない権利を！等のプラカードには好奇とひやかしの反響を呼んだが、奇矯とばかりは言えない女の主張がある。へぐるうぶ・闘う女〉の田中美津（二六）たちが子殺しの女の裁判に結果しようと呼びかけているのもその一環。彼女はまた七人の女たちと奇妙な共同生活の実践運動をすすめている。新左翼反戦運動の中の男たちもカワイ子ちゃんを求め、それに応えようとした「内なる女の告発」の一つが共同生活。収入から下着まで共有、日常の経験すべてを話し合い、女同士のごまかしのきかない目で「作られた女」を取り払おうとする。

男の論理ではなく女の論理を、という新しい波も、消費者や母親という役割による権利運動も、

共に管理社会、経済優先社会の否定につながって、70年代の婦人運動は歩もうとしている。

労働

あなたも資格を—ふえてきた

女子の写植オペレーター

最近、写真植字（写植）がふえてきた。従来の活版印刷は一つ一つ活字を拾っていたが、写植は写真植字機を使う印刷方法。写真植字機は一種のタイプライターのようなもので、そこに活字の書体に相当する文字盤（ネガ母型）があり、その文字の上をタイプで打つと印画紙に文字が撮影される仕組み。これまでの活版印刷はある程度の労働量が必要とするため男子が主力だったが、写植だとタイプライターと同じなので、最近では女子の写植オペレーターが多くなっ

てきた。わりあい収入が多く、高卒で技術をおぼえた人なら月収二万五千円ぐらい。経験二、三年になると四、五万円に、また独立すると、一台の機械を一日八時間、月二十五日動かした計算で月に二十万円の収益があると言われる。（1・12読売）

責任感や定着性で劣る

婦人パートタイマー

「パートタイマーは作業態度や職場での人間関係はよいが責任感や定着性の点で劣る」池袋公共職業安定所がこのほど管内八百四十七の事業所を対象に行なった婦人パートタイマーの雇用調査で雇用主はパートタイマーにこんな評価を下した。

雇用主が出動状況、仕事に対する慣れ、作業態度など七項目について、パートタイマーをどう見ているかという質問に「非常によい」「ややよい」が多かったのは作業態度四一%、職場の

人間関係二三%など。

反対に、「非常に悪い」「やや悪い」が目立つのは、仕事に対する責任感二五%、定着性二六%など。定着性については、「よい」「ややよい」も多かったが、「非常に悪い」が四・五%と、七項目中最も多かった。

（1・17毎日）

売り切れです女子短大卒

「お断りするのが大変です」と言うのは都内の女子短大の就職係。希望者のほぼ全員の「とつき先」が決まったというのに求人はいきもきならず。五、六年前まではほとんど見向きもされなかったが、高卒の採用難から、今や短大卒はわが世の春。企業にとって女子短大生はまさにOし予備軍。

東京には八十九校の短大があり、ことしの卒業見込み数は約十二万六千人。その八割が女子。就職希望者のほとんどはすでに

就職先が決まった。

求人の職種は種々雑多だが、とくに目立つのは銀行が多いこと。短大生に人気があるのは、広告、マスコミ、レジャー関係、航空会社など、一見はなやかな職種と、損害保険会社など勤務時間の短いところという。

このように短大生がモテるのは、長い勤続年数が期待できる高卒女子の採用のアテが少なくなったためだが、去年あたり、さらに「短大市場」は狭くなるというのが、各社の人事部の一致した予想。この現象が続くと、こんどは、四年制の女子学生に「わが世の春が移行する」という見方も出ている。（1・23毎日）

不況の影？パート異変？

主婦の「失業」ふえる

深刻な労働力不足の解決策として家庭の主婦を動員してきたパートタイムに、最近、異変が。逆にパートを解雇する企業が家

庭電器関係を中心に続出。求人
の広告もがっかり減少している。
昨春秋からの不況ムードに、カ
ラーテレビの不買運動など消費
者攻勢が拍車をかけたためと見
られるが、パートの収入が家計
費の中で大きなウエートを占め
ている家庭婦人にとっては「失
業」と物価高のはさみ打ちを招
くことになるかもしれない。

都労働局の調べによると、都
下の通信機やカラーテレビなど
の部品メーカーが、昨年十二月
からことし三月までに二百五十
人のパートタイマーに解雇通告
いま次々に首切り中。求人も
ピーク時の一昨年十一月十二月
には二万九千四百八十七人だった
のが昨年の十一月十二月には一
万九千八十三人と、約三〇%もの
減。

ゆれる主婦パート

(2・13読売)

同じ仕事で安給料

十八、十九の二日間、総評主
婦の会主催「第七回内職大会」

が開かれた。第一日、会場の東
京都勤労福祉会館では内職、
パートの二分科会に分かれ、朝
十時半から午後四時まで、熱心
な話し合いが続いたが、時代の
波を映してパート部会出席者
は二百人あまり、全国各地から
集まった。パートをめぐる問題
は、賃金、保険、労働時間など
山積。総評婦人部長山本まき子
さんは訴える。最低賃金二百円
を目標。パートで一家をささえ
る主婦も、ヒマだから働く主婦
も、賃金は労働に対して支払わ
れるものだどハッキリ承知して
遠慮しないこと。要求は組合を
通したり、組合のない小企業な
ら同じ仕事をしている者同士で
横の連絡をとるとか、地域単位
でパートの会を作るとかしてま
とまること。労災保険は会社が
掛けるものだから要求すること。
一人前の権利をとるには健保そ
の他にも入ること。家族手当は
妻の職業の有無には全く関係な

いのだから、別途に要求するこ
と。ともかく労基法はパートに
とっても最低条件であることを
承知して、この線に近づけるよ
うがんばろう」(2・21読売)

モテナイ、優能婦人

「優能婦人センター」が、東
京・飯田橋職業安定所に開設さ
れて三年。各種の資格、技術が
ある女性にパートタイム主体の
再就職斡旋をスムーズに、との
ねらいだったが、案に相違して
需要が少ない。単純職種には求
人が殺到しているのに、「優能
婦人」はなぜこんなに人気がな
いのだろうか。

経済の高度成長で女性労働力
への需要が高まり、女性のほう
も、積極的に社会に出て働くよ
うになり、パートタイムがふえ
てきた。同センターは、この傾
向に即して、単純作業ではない
特殊な資格や技能をもつ婦人、
とくに主婦を対象に設けられた。

扱う職種は三十種。発足以来、
求職者は一万一千人にのぼるが、
求人の伸びに比較して需要のほ
うが足りない。求人が求職を上
まわっているのは、医師、看護
婦と、キーバンチャーなどコン
ピューター関係の計五職種だけ。
翻訳、タイピスト、編集者、デ
ザイナー、栄養士、秘書、司書、
電話交換手は求人が求職の半分
から四分之一、五分の一にすぎ
ない。これとは別に雑役、掃除、
商店の売り、筆記といった格別
の技能を必要としない職種の
パートタイムも扱っているが、
こちらは求人が非常に多く、求
職者はいつでも働ける状態。

「女性は、なんでもいいから
資格をとっておけばいい」と言
われているが、社会的に供給過
剰の資格、技能も少なくない。
だから、技能を身につけ、本当
に社会の中で生かしたいという
のなら、かっこよさとか、流行
にとらわれず、その技能の将来

性、必要性などを十分に考えて選択すべきだ。優能婦人センターというアイデアを出した一人、熊谷明・飯田橋職安次長の感想である。(3・4朝日)

深刻なバスガイド不足

春の観光シーズンだが、首都圏のバスガイド不足は深刻。応募者が少ないのだ。早出、泊まり、おそ番といった不規則な勤務体制のせい。(3・5朝日)

看護婦さんも春闘

「白衣の天使なんておだてられても生活は苦しくなるばかり。春闘はがっちりいたさきよ」

日赤中央病院(東京渋谷区広尾)の看護婦さんたちも二十六日朝から大幅賃上げ、一人夜勤反対の要求をしかけて、病院の玄関前で深沢栄子労組委員長ら約四十人が「もうガマンできません」と外患者らへ訴えた。だが、泊りしたのは泊まり明け

看護婦らで、これも全体の一割ちょっと(病院側の話)で、診療にはほとんど影響なかった。(3・26毎日)

中高年、家庭婦人対象に

技能訓練機関ふやす

わが国の高度経済成長により、技能労働者は四十五年度で百八十四万人も不足、労働市場は深刻化している。労相の諮問機関である中央職業訓練審議会(会長、内田俊一東工大名誉教授)

は二十九日東京・丸の内ホテルで開かれた総会で「職業訓練基本五カ年計画」(四十六年―五十年)を決め、原労相に答申した。計画では中・高卒卒の労働者はだんだん減ってくるので、中高年齢者、家庭婦人、農民などを対象とした技能訓練機関をふやし、「有技能」労働力を全体として確保することに力を入れるとともに、すでに働いている人たちの「生涯訓練体制」を

確立して技術革新に対応すべきだと強調。(3・30毎日)

女性の報酬

働く女性は一千万人。分野も

多彩。なお労働力不足が叫ばれ、女性の社会進出が要請されているが、基盤となる保育所の設備さえまならない。そんな悪条件の中でも仕事に生きがいを見いだして黙々と働く女性もいる。収入は月三万円にしかない人も

いるかと思うと銀座のクラブあたりでは男も及ばない一晩三万円の派手なかぜぎもある。職種別では、事務が一番多く約三分の一。次いで技能工と生産工程従事者が約四分の一、サービス業約六分の一。給料は、初任給では男女差は中卒で約千円、大卒で三千五百円ぐらい。四十四年度の労働省の統計で男女の平均月収を比べてみると、男七万五千九百四十八円、女三万六千八百三十八円。女の報酬は男

の五割にも満たないのが現実だ。対照的な断面を紹介してみよう。
* スチュワーデス

初任給二万四千円(高卒)

二万七千円(短大卒)

三万円(大卒)

六か月の訓練後機上勤務

六万八千円(高卒)

七万一千円(短大卒)

七万五千円(大卒)

三年後アシスタント・パーサー(スチュワーデス指導)

八万一千円(高卒)

八万四千円(短大卒)

八万七千円(大卒)

一日の乗務時間九時間以内、月六十時間以内が基準。

* 内職(技術を持たない人)

一時間当たり/製本三十円、

おもちゃ加工三十九円、包

装荷造り四十七円。

(全国平均一時間当たりの工

賃は八十七円)

一日五・七時間、月二十一

日働いて月収一万二千二百円。

*アナウンサー

TBS (司会・アナ歴三年)

月収六万円、ほかにボーナスが年四十万円以上

*パートタイマー

全国平均一時間当たり／
百三十四円

(月二十一働いて／
一万六千六百円)

東京・ビール会社のミセスの

ハーフタイマーの例

午前八時～午後四時／

月収三万四千六百円

残業および強制的な一か月の

休みあり、本採用なし。

*国際電話の交換手

六か月の訓練を経て六年目

月収約五万五千円(男女共)、

管理職三十四人中十五人が

女子。

三年間の育児休職と、子供

が十二歳になるまでの特別

勤務制度がある。

各国語の日常会話の特訓を

受ける。

*保母

全国平均初任給約二万六千円

(全社協保母会推定)

厚生省の保母措置費に見込ま

れた保母の平均本俸／

戦後四年目で三万六千円

*モデル

二十一歳・高卒・デパートの

元店員(三万円弱)

三か月間訓練生無給

四か月目五万円

現在ワンステージ六万円

月収五、六十万円

*看護婦

高卒後三年の専門教育を受け

た正看護婦の初任本俸／

三万六千円(四十五年度)

(准看護婦／二万九千円)

過労、夜勤、待遇不十分

四十五年度に約六百人の看護

婦中、百二十七人がやめた。

(5・3 毎日)

職場の花”も海外進出

十二人のスーパードレディー

海を渡る、といっても、いま流

行のOL海外旅行ではない。

レッキとした海外駐在員として、

パリへ、ロンドンへ、香港へ。

国際化時代、ウーマンパワーの

進出、さらに海外での人手不足

を反映して、三井物産が、わが

国初の試みとして実施するもの

で、勤務先は七か国の八支店。

四千五百人の同社女子社員の中

から選ばれた十二人は、晴れの

出発を前に、六、七の両日、東

京・港区の高輪プリンスホテル

で全員合宿して最後の仕上げ。

午前十時半から夜の十時半まで

みっちり実習に精を出すという

ハッスルぶり。男性モータリッ

社員にとって代わり、経済大国

ニッポンの先兵となる気概は十

分。しかしまた「外国男性にプ

ロポーズされたら、その気分次

第じゃないの、フフ」とおっ

しゃる現代的ヤマトナデシコの

やさしさも忘れてはいない。

(5・7 毎日)

“ちふれ”を作る主婦パート

地婦連が販売する化粧品“ち

ふれ”のメーカー東京実業は、

東京・板橋にあり、四十六人の

ママさん工員、パートタイマー

が主役。手仕事と設備儉約が安

値の秘密で「これからもできる

限り安あがりの設備でコストを

下げたい」と工場長。

(5・14 朝日)

職安、求人情報を公開

パートタイムの求職者は69年

に都内で四万人だったのが、昨

年は五万人に。

職安窓口での紹介方式を、情

報公開法に切り換え、求職者が

自らの判断で決められるように

なった。(8・17 朝日)

雲行きあやしい

女子短大生の就職戦線

来春卒業する女子短大生の採

用計画を中止する企業が出はじ

め、高卒採用中止の企業もふえ

てきたため、就職先を高卒と奪い合うことも予想される。夏休みあけの女子短大ではどこでも「早めに就職を決めるように」と指導にのり出している。

来春卒業予定の大学生は約四十五万四千人、このうち女子短大生は約十万七千人。女子短大生の就職は、この数年好調で、一昨年は六万二千二百人、昨年は六万八千三百人、今春は七万人を突破したと見られている。高卒の大学進学がふえ、短大生も金のタマゴ並みになり、七月に開かれた私立短大協議会の就職担当者会議でも、求人難なのに短大生の就職意欲が低い点が論議されるなどのんびりしていただけに、ドル・ショック以後の対策が立っていない実情だ。

(9・19読売)

働く女性過保護論

女性の解放が世界各国で取り上げられているとき、日本では

「労基法は女性を保護しすぎていゝ」という意見が東京商工会議所から持ち上がり、労基法改正意見書が、このほど労働省に出された。意見書は、ことし五月、東京に本社のある二千企業を対象に行なったアンケートの結果に基づいて提出されたもの。女子労働について再検討してほしいとあげられたのは、①時間外労働の制限(一日二時間、一週六時間、一年百五十時間以内)をゆるめる②危険有害業務への就業制限を再検討する③深夜業禁止の規制緩和④生理休暇の廃止または制限を設ける、の四点。深刻な労働力不足に対処するため、労基法的女子保護規定を大幅にゆるめよと「男性なみ」の労働条件を期待しているのが特徴。

(10・22毎日)

ベルトコンベアー病が職業病に
東京・品川労基署は四日、家電メーカー、ソニーの女子工員

がベルトコンベアーの単純反復作業によって肩や腕が痛んだと訴えていたことに對して、職業病と認定することを決めた。

(12・5朝日)

法・制度

〔裁判〕

浮気とめぬしゅうとも悪い

福岡地裁は、浮気を知りながら止めなかった夫の父も有責と、父子連帯で嫁に三百万円支払うことを命じ、嫁(四七)の希望する離婚も承認。二十六日、生田謙二裁判長。(3・27読売)

女性ゆえの損、

四年で五十一万円

秋田相互銀行の女性従業員七人(縄田屋圭子さんら)は「女性を理由に、男性との賃金に差

をつけている。銀行は男性との差額分を私たちに支払え」と、七月初め、秋田地裁に訴訟を起こした。不当利得返還請求、つまり差別で銀行が得た「不当利得」を返せという訴訟。「労働基準法四条(女子であることを理由に賃金で差別的扱いをしてはいけない)に真正面から取り組んだ訴訟は、初めてではないか」と労働省労働基準局の話。

基準内給与は、毎月基本給与と諸手当という形で支払われる。

基本給はさらに職能給と本人給に分かれている。職能給は学歴や本人の能力を会社が査定して個人差もでる。本人給は、年齢が同じであれば同じ賃金だが、67年からはA B二つの異なった賃金表が基準になった。初任給から二十五歳まではAとBで差はないが、69年では二十六歳で四百円ではじまる差が三十一歳で六千六百円、四十一歳で一万四千四百円(Aの67%)の大差

となる。ところが67年四月から

独身、既婚の別なく男子従業員には割のいいA表を、女子にはB表を適用していた。

給与体系では、賃金差は、銀行が査定する職能給とか資格手当、役付手当など、本人給以外のもので算定されるはずのものだ。高卒の七女性の仕事の内容は、一般男子従業員と変わらない同一労働。だから本人給で男女を区別する根拠は全くない。二本立ての本人給は明らかに憲法十四条（法の下平等）、労働基準法四条（男女同一賃金原則）に違反する、と労組はいう。

（8・8朝日）

サリドマイド裁判

きょうからレントツ証言

サリドマイド裁判のため、西独から呼ばれたレントツ博士の証言が東京地裁で二日から始まる。博士は証言の中で、国と製薬会社側の過失、サリドマイドの因

果関係を立証する。

（11・2朝日）

出産解雇訴訟に勝つ

「女子社員は出産したらやめてもらう」という会社を相手に、「出産解雇は無効」と訴えていた末浪和美さん（二十七）が、大阪地裁で勝訴した。

末浪さんが三井造船に入社したのは63年。68年結婚、その十二月に健一ちゃんが生まれた。翌年二月、出社したが、出産退職を取り決めた労働協約をたてに解雇された。三か月後、末浪さんは、夫（団体職員・靖司さん、三三）と相談して、大阪地

裁へ地位保全を求める仮処分を申請。「当時、化工機営業部の事務をしていました。三年目ごろから仕事がおもしろくなり、何でもわかるので、絶対続けたかったんです」。それに当時の夫の給料が約三万円。共働きしないと生活できない。三井造船

の女子社員を中心に、約十人の「末浪和美さんを守る会」が出来た。

「結婚して子どもができて働かせてほしい」「結婚・出産退職をやめてほしい」――末浪さんの願いは、多くの働く女性に共通のものであろう。一審では勝訴したものの案観はできない。

「でもあと一步がんばれば職場へ戻れる、という新しい期待が生まれました」。〈守る会〉は末浪さんの職場復帰の日まで解散しない。

（12・18朝日）

〔制度〕

妊娠先生の体育免除

都内の小学校の先生は半分以上が女性。ウーマン・ティーチャー時代となっているが、都教育庁はこの四月から小・中学校の婦人教諭が妊娠した場合、体育の授業を全面的に免除する方針を決めた。これは妊娠中の

体育実技で、流産や死産のケースが目立ち、婦人教諭の間に「賃上げより、体育を休ませて」という声が強くなったため。二月都議会に提案される四十六年度予算に代役をつとめる非常勤講師の経費五百五十人分四千二百万円が盛り込まれた。全国でも初めての措置。（1・23読売）

家内労働法って？

昨年十月一日に施行された家内労働法。総評の第七回内職大会で、全国に二百万人と推定される内職の主婦や家の中で働く人たちに、家内労働手帳を交付して仕事の契約をはっきりさせようとする法の主旨は少しも浸透していないことがわかった。「手帳のことを言ったら二軒から仕事を断られた」の声も。

（2・20朝日）

占領が残した女の一票

45年十月十一日、GHQから

「五項目の民主化指令」が出された。その一番目は「日本婦人が参政権獲得によって解放され、政治体の一員となることは、日本に政治の新しい観念をもたらすだろう」。

日本の婦人たちは終戦十日目、早くも「戦後対策婦人委員会」を発足させ、「自分たちの手で参政権を」と動き始めていた。

(2・27朝日)

働くママを守ろう

労働省が次国会に法案提出

「労働環境の整備が出来ていないのに乳幼児をかかえた主婦をやたらにかり集めて仕事につかせるのは問題だ。国はもっと保育施設の整備などをせよ」との答申が二十七日、婦人の就業に関する懇話会（座長藤田たき津田塾大学長）から労働大臣に出された。

懇話会は、学者、文化人ら十五人で三月に発足。審議の過程で

第一分科会は国民経済、第三分科会は婦人の地位などの立場から婦人が働くことは望ましい」との立場をとったが、母性、育児、教育などの面からとり上げた第二分科会では「乳幼児をもつ主婦の就業は本人の自主的選択にまっすべきであり、自由選択ができるような条件を整えることが必要である」との態度を明らかにした。

このため答申は、一般婦人の就業については好ましいとしながらも、乳幼児をもつ婦人についてはは保育施設の設定、勤務時間の配慮、育児休業制度の普及などが急務で、育児のために退職した主婦の再就職を不利にするわが国の終身雇用制度なども近代化する必要がある、と指摘。

(7・28朝日)

二分二乗で、妻を評価

ウワツ、たいへん。前後左右から、重力がかかる。男では

負いきれない重荷を、主婦は負う。その労働力は外で働く主人よりも、時には高価なこともある。夏の旅ともなればその力またひとしお。

だが、主人が持って帰る妻手当は三千元―五千元。化粧品代にもなりはしない。政府は税金面で配偶者控除を月一万五千八百三十円認めている。夫の月給から妻に分けなさい、――考えようでは「公定」の家事労働に対する報酬なのだ。妻の内助の功への月給はほんとうに少ない。ウーマンリブが生まれるゆえん。もし妻ないしお母さんが病気になるって家政婦さんを頼んだらどうか。一日二千五百円、月に七万五千元。主人の月給ふつとびます。ことはどさように家事労働は高いもんです。

そこで、税金面でも妻を大事にしようとして政府が検討しているのが「二分二乗方式」。亭主の給料の半分は妻のものとし

て、半分ずつにそれぞれ税をかける。そうすると税率が低くなって、税金が安くなる。妻の働きを評価する考えを税制面に反映しようというわけ。

(8・2毎日)

女の先生の育休制度化

検討始める・文部省

女子教員の占める割合が年々ふえている。中教審答申で教員の待遇のあり方が問題になっているが、文部省は女子教員についても育児休業制度の法制化を検討し始めた。

教員に占める女子の割合は現在、小学校七五％、中学校六一％、高校三八％（四十五年度文部省調べ）で、しかもその比重はふえる一方。女子教員に育児休暇をという要望は、もともと日教組などから出されていたが、いまだに実現していない理由は①有給制を前提にしている②女子教員だけを特別扱いして

看護婦などの他の女子公務員を除くわけにいかない③世界的に例がないなどである。

文相が、この問題に積極的に取り組むことにしたのは、中教審答申を受けた「教育改革」の実施に当たり、教員の待遇改善を重視しなければならぬと考えているからだ。

文部省は具体的な方法として①休暇中は無給にするが、復職したらその間の給与を追加払いする②産休補助教員の給与は一般教員より低く抑えられているので、その差額の一部を回す、などを検討している。

(8・23朝日)

日立も女子再雇用制度新設

東芝に続いて日立製作所も労働協約を改正、五十六歳の定年を六十歳に延長するとともに、出産や育児のため退社した女子従業員を再雇用する制度を新設。

(10・20毎日)

働く主婦に保護法

働く婦人を保護するため「勤労婦人福祉法」をつくることになり、原芳相は二十一日、婦人少年問題審議会に内容の検討を諮問した。この法律は「仕事と家庭生活の調和」をめざしたもので、これまでの法のワクを越えた「働くママの憲法」として期待される。

労働省では、この法律の骨子となる基本構想をまとめたがそれによると「婦人の能力を十分發揮できるような仕事と、育児、家事など家庭生活との調和をもたせる」のがねらい。具体的には①婦人向けの職業訓練などを行なう②企業内託児所の設置、育児休暇の促進をはかる③妊婦や産婦の健康診断に特別の便宜を与える④「働く婦人の家」を増設する、など。

同省では二月上旬に答申を受け、次の通常国会に法案を提出する予定。これに基づく育児休

暇制度の研究費、女性向け職業訓練の開設費などを来年度予算要求に組み込んでいる。

(12・22朝日)

産休で昇給三月遅らす

埼玉県所沢市で、産休をとる女子職員は「勤務成績不良」とみなし、昇給を三か月遅らせていたことが二十三日開かれた市議会で明るみにでた。追及を受けた市側は不利益をこうむった女子職員の救済措置をとることを約束したが、この制度は市制を施行した50年以前の町時代からやっていたと聞いて市民の間から驚きと批判の声が出ている。同市は給与条件で「市長裁量で一年間勤務成績良好な者に限り昇給を認める」と定めているが、妊産婦は産休の間「ほかの職員に迷惑をかける」として、年四期に分けて実施している定期昇給を一期分の三か月間遅らせていた。

(12・24読売)

調査・統計

ウーマンリブへの道遠し

「男が協調してくれること、それに女自身なんでも結婚に頼り過ぎないこと。でなければ、いくらウーマンリブなんて騒いだって結局はダメよ」先日の本紙・71年の対話で、とくに強調された婦人解放の条件だが、その後、あいついで発表された二つの意識調査が、この二つの力をはっきりと浮きぼりにした。昔ながらの男尊女卑の男性、結婚こそがすべてといった女性が、実は大変多いという。それも、二つの調査とも対象はあすを引き継ぐ二十代、三十代前半の若い人たち。女性解放のカベは、口でいうほどたやすい。敵ではないようだ。

二十代、三十代前半の若いサ

ラリーマン五百人を対象にしたある団体の調査結果によると、「適性や才能を無視し、男はこう、女はこうという『らしさ』を強調する社会の風習はしだいに薄れていく」というのは、わずかに七％。

「男女平等論、人手不足による女性の戦力化で、仕事の上で男女の区別がなくなってくる」という意見に「そうなってくる」と答えたのは一五％、「ならない」が五七％。

逆に「男女平等が進めば、女性には男性の役割をより認めるようになる。つまりウーマンリブは長続きせず、次は完全男上位時代」というのが三〇％。二十十年後、いくら世の中が変わっても、かりにも一妻多夫などという現象は起こってこない」が百人のうち実に九十九人。

同じ若い世代（女子大生、〇一、三十代前半までの主婦）を対象にしたある医薬品メーカー

の調査で「この十年以内に、セックス中心の自由恋愛はふえていく」二四％、「ハイティーンのカップルも珍しくなくなる」五三％。

しかし、いざ「家庭」のこととなると、保守派がぐっとふえる。「実質的な男女平等が進めば、当然夫の財産と妻の財産の分離意識も強くなる。そのことは今までの家庭における一心同体観を薄くすることにもなりかねない」という意見に「なる」と肯定的なのはわずかに七％。「ならないと思う」という確信より、ならないではしといと願うほうが大」という注釈回答が目につく。
(1・22読売)

伸びる「妻の収入」

最近、家庭婦人の職場進出が盛んになってきた。労働力不足時代、企業でも製造業の約三割（労働省調べ）がパートタイム制を認めるなど、歓迎するところもふえていく。

るもふえていく。

先ごろ発表された69年全国消費実態調査（総理府統計局）の勤労者世帯家計収支概況によると、十年前と比べ、一世帯平均の人員数は四・三三人から三・八五人へと減少しているが、有業者数は一・四六人から一・五九人へと増加し、収入も世帯主が一・七倍にふえ、その他世帯員が〇・九倍と減少している中で、妻の収入は三・八倍ととびぬけた増加を示している。配偶者のある女子の非農林業雇用者数は四十四年で四百七十七万人、最近では四百六十六万人前後となっており、これは全非農林業雇用者の一四％程度で、同未婚女子雇用者数を上回っている。

こうした共かせぎの増加の中で一つ注目されるのは、それが低所得層ばかりでなく全階層にひろがり、世帯有業率の階層間格差が縮小してきたことである。

(3・12日経)

都知事選への女性の関心度

男性と並ぶ

告示から五日後の朝日新聞世論調査では、支持候補を明らかにした人が全体の六八％。これまでの知事選にくらべ、男性の態度は変わらないが、女性では六割を上回る人が、今回は支持候補を明らかにし、従来の四割程度にくらべて格段の高率に。

(3・25朝日)

婦人参政権25年目にして

労働省がまとめた資料によると、わが国の女子人口は、四十五年間で五千二百七十九万人で男子を百八十七万人も上回っている。

平均寿命も七十五歳で、男子より五年長い。この結果、婦人有権者数は三千五百八十万に達し、男子を二百三十四万人も上回り、過半数を上回る婦人票は政治に大きな影響を与えている。

一方、わが国の高度経済成長に伴う人手不足から、婦人の職場への進出も目立ち、三千万労働者の三分の一に当たる千四十八万人が婦人労働者（平均二十九・五歳。平均賃金は四万二千七百十円）。技術者、教師、弁護士、医者などの専門職も九十三万人、社長、重役など管理職は五万人にのぼり、「女性上位」時代を現出している。

さらに婦人団体、PTA、自治会など団体への加入が七割。消費者運動、市民運動を活発に展開し、「ウーマンパワー」は年ごとに強まっていく傾向にあり、わが国の政治、経済、労働など各分野で婦人問題が大きな比重を占めるに至っている。

(4・9 毎日)

子どものしつけ

文部省、厚生省の調査によると、母親のほとんどが子どものしつけを「自分の仕事」と決め、

しつけぶりも「まあまあ」、「夫は子どもに甘すぎる」と考えていることがわかった。

(5・5 朝日)

女は接遇、男は？

ウーマン・パワー教育で、最も盛んなのは接遇訓練。職場の潤滑油としての期待が強いからだろう。

日経連の調査では、昭和三十一年代の後半から六〇%の企業で実施、熱心なのは銀行と保険会社。

(7・11 朝日)

平均出産児二・七二人に

国勢調査抽出集計によると日本の女性は世界的にみて最も子どもを産まなくなってきた。

また二十年前に全体の五〇%近くを占めていた第一次産業従事者がついに二〇%を割り、十五歳から六十四歳までの働ける人の割合が外国に比べて非常に高く、高度成長に一役買っている

ことがわかった。

(8・9 朝日)

OLは社会見字型？

「職場の意識調査」から

東京の保険会社で、管理職を除く全内勤職員を対象に行なった「職場に関する意識調査」の結果が、このほどまとまった。ウーマンリブの時代のはずなのに、男子社員と女子社員の意識が、まだ、かなりくいちがっているのが興味深い。

「あなたはどのポストまで昇進できるか」という質問に対する答えは、男子社員は六〇%までが課長・部長クラスになると考えており、重役（取締役から社長まで）に出世できると思っている人も一〇%。一般職員で終わると思っているのはたった三%。

これに対して、女子は七五・八%が「一般職員どまり」とあきらめた返事。係長以上社長ま

でのイスにつけると思う人三%。「昇進できる」「一般職員どまり」の割合は、男女で逆転している。

「モレーツ型か」「マイホーム型か」では、女子にモレーツ型がほとんどいないのは予想どおりとしても、注目されるのは、生活態度の男女差。女子職員が「今求めたいもの」は①知識・教養②余暇③最良の夫の順。男子社員は①知識・教養②よき上司③金銭と答えており、女子ではゼロだった「出世」も男子では六位にランクされている。この答えは、勤続一三年のOLが最も多いという保険会社の社員構成にもよるだろうが「女子の就職は依然、社会見字型」という皮肉な声も聞こえてきそう。

(9・9 毎日)

働く女性の保護規定

欧米諸国と比較すると
就労制限や産休など、働く女

性の保護規制は少なくないが、
「過保護で女の力が十分發揮できない」「いや、実情はまだ国際水準以下」と評価はまちまち
結論を出す前に、欧米女子保護と比較してみよう。

(就労制限)

日本…技能や経験の必要な仕事
(クレーンや土木機械の運転)
を「危険有害業務」に指定、女子の就労を禁止。重量物運搬三十キロまで。たて穴中の作業
深さ五メートルまで。立ち木の伐採直徑三十五センチまで。
米(カリフォルニア州)…重量
平地で二十二・五キロ以下、
階段を上る時は四・五キロ以下。
英国…ガラス溶解作業を禁止。
西独…コークス製造作業禁止。
フランス…石切り場の地下作業を禁止。

(残業制限)

日本…一日二時間、週六時間、
一年百五十時間まで。
英国…一週六時間、一年百時間

まで。残業を行なう週は年間二十五週以内。

西独・フランス…一日の最長労働時間十時間

ソ連…男女とも年間百二十時間まで

(深夜労働)

米(十九州)が禁止

フランス以外の各国とも、次のとおり例外を設けている。

日本…スチュワード、電話交換手

米・英…管理職の婦人も除外の対象

(深夜の定義)

日本…午後十時―午前六時

英国…午後八時―午前七時

西独…午後八時―午前六時
(生理休暇)

日本、韓国、インドネシアのみ。
(産休・育児時間)

◆産前産後の休暇
日本…前後各六週間(前は本人の請求)
米(ミズーリ州)前後各三週間

ニューヨーク州前後各四週間
ワシントン州前四、後六週間

英国…産後四週間
西独…前六、後八週間

フランス…産後六週間を含め八週間

イタリア…産前三か月―六週間
産後八週間

ソ連…前後各八週間

◆育児時間
日本…生後一年間は一日二回各三十分以上

米(国)なし
英国…なし

西独…一日一回一時間または一日二回各三十分

フランス…生後一年間は一日二回三十分

イタリア…一日二回各一時間
ソ連…三時間ごとに三十分の授乳時間

(9・10日経)

男女賃金差は仕方がない？

「働く婦人の福祉運動」が十五日から始まる。ことしのスロー

ガンは、働く婦人の能力を広く生かすこと。補助の役割だけでなく、女性も本格的な仕事に取り組む自覚を高めようという趣旨。しかしサンケイ一千人調査によると、次のような結果がでた。

①女性は結婚したら家庭にはいり育児・家事に専念する。それとも結婚後も職業をもち、外で働くのがよいと思うか。

二・〇% (男五三・〇% 女三一・四%)

職業を持ち外で働くのがよい…二七・九%

一概に言えない…二九・六%
わからない…〇・五%

②一般に女性は男性より職業的能力が低いと言われるが。

全くそのとおり…二四・一%
(サラリーマン三〇・一%)

〇・一八・五%)

ある程度は同感…三五・七%
(サラリーマン三〇・一%)

〇L四五・七％

一概に言えない…三三・九％

(サラリーマン三三・八％

〇L二九・三％)

全く違う…五・五％

わからない…〇・八％

③多くの職場で男女間に賃金差があるが。

差別は当然…一九・四％

(男二四・二％、女一四・

八％)

仕方がない…四六・五％

(サラリーマン四〇・二％

〇L五一・一％)

差別はおかしい…二一・五％

撤回すべきだ…八・一％

わからない…四・五％

④一般の職場では、女性に与えられる仕事は男性の補助的なものが多いが。

企業に問題…二八・九％

(サラリーマン四二・五％

〇L三三・七％)

女性に問題あり…四一・一％
一概に言えない…二六・四％

わからない…三・六％

⑤労働基準法の女性保護規定を撤廃したり、制限を緩和するなど、再検討すべきだという声が出ているが。

撤廃すべき…一〇・四％

再検討すべき…二六・三％

従来どおりでよい…五二・八％

(男五一・三％、

女五四・二％)

緩和して労働強化を招くのは

よくない…六・三％

その他…一・八％

わからない…二・四％

(9・15サンケイ)

「女工哀史」を生き抜いた

女性たち―昔の仲間が追跡調査

青春の日々を製糸工場で働き、

結婚退職して主婦の座におさ

まった女性たちはその後どんな

生き方をしているかその追跡調

査がまとまり、近く出版される。

戦後にまで残った「女工哀史」

を生きぬいた彼女たちは、行動

的で、たくましい妻や母になっ
ていた。

調査をまとめたのは全国蚕糸
労働組合連合会の婦人対策部長
だった塩沢美代子さん(四六)。

塩沢さんが工場や寄宿舎の民主

化を目ざして彼女たちとともに

働いたのは、49―63年までの製

糸産業の激動期。

今回約二百人にアンケート調

査をし、五十人に面接調査をした。

結果は

「夫とのめぐりあい」は、見

合い五〇％、組合活動や職場で

知り合った三六％。「結婚へ踏

み切った理由」は、ものの見方

が一致し、本人に魅力を感じた

六二％。結婚相手にふさわしい

条件だから二七％で「妥協」は

九％にすぎない。夫を主体的に

選んだことがうかがえる結果

だった。

夫の職業は兼業農家を含めて

会社員、工員、運転手、国鉄職

員、郵便局員、教師などサラリー

マンが七割、残りが農家と自営
業者。

収入は五―六万円から七―八
万円が大半をしめ、典型的な庶

民生活。彼女たちの半数は内職

やパートで働いていた。

(9・21朝日)

保育・教育

〔保育〕

退職教師に保母の資格

内田厚相は二十四日の参院予

算委員会第四分科会で、「幼稚

園、保育所の教育内容の均等化

をめざすとともに、小、中学校

の退職教員に保育所保母の資格

を与え門戸を開く」と、幼児教

育の基本姿勢を明らかにした。

荻原幽香子氏(民社)の質問に

答えたもので、厚相はじめ厚生

省の坂元児童家庭局長は①中央

教育審議会が審議中の「幼児教育の義務化」に見合った保育所のあり方を検討中だ②保育所の環境、保母の資格、待遇などを幼稚園なみに向上させる③保育所の数を大幅にふやすなどのほか、四十六年度に保育所保母の実態調査に乗り出すことも約束した。

(3・25読売)

「保育時間を延ばして」

東京・足立区竹ノ塚保育園父母の会が、保育時間に関するアンケート調査の結果をまとめた。この保育園に子どもを預けている母親は八割強が外に勤めに出ており、一日の労働時間は七九時間、通勤時間も一時間以上かかる人が四分の一、という実情。一日の保育時間の延長が、数年来の課題になっていた。

決められた時間までに保育園に子どもを迎えに行けない家庭では、どうしているのか。調査によれば、三割が、母親が帰る

まで近所の人など他人に預かってもらっている。いわゆる「二重保育」だが、謝礼は月平均約五千五百円。保育園の保育料を合わせると、かなりの負担である。「子ども(姉、兄)に迎えに行かせる」「年寄りに頼む」と答えた人もいるが、そうした家族がいないため、「子どもを引きとり、職場へ連れ戻って仕事をする」という人も数人いた。

「いまの保育時間では、パートの仕事にしかつけない」「保育時間に合わせて早く帰してもらっているが、勤務時間外の研修会や会合もあり、仕事はパツチリ一人前にやりたい。時間が延長できればみんなと一緒に仕事ができ、会社の生活がスムーズにいくと思います」という訴えも目立った。

結局、父母の三分の二が一日一時間半―二時間程度の保育時間延長を希望。現行の保育時間に満足している人は、少ないこ

とがわかった。しかし、保母さんの労働時間も考えなくてはならない。「保母さんの大幅増員こそ、解決の方向」と、この調査は結んでいる。(9・22毎日)

病児保育室

住民運動で市を動かす

大阪枚方市に公立ではおそろく全国で初めてという「枚方病児保育室」がある。同保育室の嘱託医をしている保坂智子さんは「子どもは三つぐらいまでは病気の問屋さん。だから絶対病児保育所は必要なのです」

しかしこれも簡単にできたわけではない。親たちの住民運動が、市の重い腰を上げさせたのだ。病児保育室設置の請願の声は各地にひろがっている。

(9・27朝日)

学童保育をひたむきに
「あめんぼクラブ」の子どもたち
学童保育の指導と運動」とい

本が出た(大塚達男・西元昭夫編著、鳩の森書房刊)。東京のベッドタウンとして近年急速に発展してきた埼玉県福岡町で、66年から始まった学童保育の記録。最近全国的に働く母親がふえてきたが、学童たちの保育施設はきわめて不十分。指導員らが学童保育を切り開いていった感動的な記録。(10・1毎日)

保育所は幼稚園と別

中央児童福祉審議会は、保育対策特別部会がまとめた、「保育所における幼児教育のあり方について」の意見を採用、厚生大臣に答申した。その内容は、①保育園と幼稚園を併存し、それぞれの役割を発揮すべき②保育所の教育水準が幼稚園より低くならぬよう設備、保育者などの充実、改善を図るべき、など。幼保一体論を真っ向から否定し、保育所に対して母親の役割を協調している。(10・6朝日)

家庭の自立めざし共同保育

《育児を考える市民会議》は、埼玉・浦和市の若い父母たちが「新しい共同保育所をつくろう」と集まったグループ。これまでの保育所づくりの運動とはちよつと趣がちがひ、「夫と妻と子が自立したそれぞれの生活を実現するための場」を目ざす。その名もへこどもシタデル（とりで）。近くその生活が始まる。同市民会議の代表小沢遼子さん（三四）は「わが子を預けて引きとりにくるといふ保育所ではなく、ここが子どもにとってわが家そのもの、つまり夫、妻、子、保母たちのコミュニケーション（共同体）にしたい。（11・13朝日）

〔教育〕

女教師バンザイ

全国の教壇乗っ取り

新学期。福岡市内の小学校に新しく就職する先生への辞令交

付式。市教育委員会に集まった「新先生」のなんと七〇％が女性だった。

ウーマンパワーの波は学園にも押し寄せ、小学校はどれも女教師王国。文部省の昨年の調査によると、三十一都府県で、女性のはうが多い。全国一の福岡県ははじめ四府県では、すでに六割を上回っている。男性が優位に立っているところでも、五〇％すれすれというのが実情で、辛うじて教育県といわれる長野、北海道で男が七割を超えているだけ。（1・1読売）

教育にものいう母親

一万人を超えるマンモス集会
の日教組第二十次、日高教第七次教研集会。教育を教師まかせにしない母親たちの、「学校は子どもだけのものではない。教師と語りあえたとき子どもに何が最も必要なのかわかった。教師に要求できる母親になりた

い」「小学六年の子どもの担任は私の目にはまったくの役人」と、「物言わなくなった」教師への不満発言が特に目立った。（1・18朝日）

教育とはなに？

成田空港用地でトリデにこもる子どもたち。彼らの通う小学校の校長六人が「学校にもどりなさい」と説得。子どもたちは泣きながら「先生も一緒にトリデを守って」と訴え。母親は遠まきにする校長たちに「子どもとじかに話してください」。（2・26朝日）

ある家庭科教育

新宿区落合第二中学の鯨井あや先生は、家庭科を、いつも身のまわりに関心をもち、みづめよりよい生活のために考える教科と考え授業をすすめている。

「東京の空」「光化学スモッグ」「柳町鉛公害」「イタイイタイ病、

水俣病」「中性洗剤」などのテーマが生徒から出されると、①事実をはっきりさせる②害を調べ③どうしてそうなるか④地域は何をしているか⑤国や都の対策⑥私たちはどうしたらよいかの順で学習し、生徒たちは都の公害研究所、区の公害担当課、柳町住民との交流、水俣の中学校生徒会との文通、理科・社会科の先生から聞く、区民集会への母の参加をすすめる、といった行動をとる。文部省はそんな鯨井先生の家庭科に強い顔をしている。（5・16朝日）

現代女性教師像

今の小学校でやる気があるのは若い女の先生だけ。女性の高等教育は進んだが、社会の窓口はせまい。だから比較的良質な層が教師になる。栄進の道には無縁だから、男の先生みたいにヘイコラしない。いま小学校で子どもと一緒に遊んだり、子ど

ものおしりをたたいているのは
女の先生だけ、とも。

(12・3朝日)

からだ

非喫煙者は生命保険割引

英国王立医師会特別委の「タバコによる殺人をこれ以上許すな」との報告に、生命保険会社二社がタバコを吸わない人の保険料割り引きを決定。タバコの自動販売機のメーカーも六十万ポンドもの販売契約を自発的に取り消した。(1・7朝日)

川崎市でぜんそく教室

公害認定患者三百二十二人中六人死亡。さらに三百五十一人が認定を申請中の川崎市で、認定者を対象に「ぜんそく教室」を開いた。保育園では「公害に負けない体づくり」を目標に、

うがい、乾布摩擦、日光浴が毎日行なわれる。(1・18朝日)

アスピリン、妊婦には危険

英国、エジンバラ大学の小児科医フォーファ、ネルソン両博士は「妊娠の初期段階でアスピリンやある種の消化剤を飲むことは、奇形児出産のおそれがある」と発表。(3・6朝日)

母乳、全国で農薬汚染

厚生省は、農家、非農家を問わず、母乳からベータBHC、DDTなど肝臓に慢性中毒を起こすおそれのある有機塩素系農薬や殺虫剤の検出されない母親はいなかったというショッキングな調査結果を発表。(6・1朝日)

(6・1朝日)

経口避妊薬に警告

世界的に急ピッチで普及したピルの副作用が話題になっているが、ニューヨーク人口問題審

議会の美甘氏は「染色体異常の子どもができる危険がある」と報告。(10・25朝日)

豊胸術で全身に症状

日本形成外科学会で、豊胸手術で、異物の注射を受けた女性には、リウマチのような全身症に悩まされているものが多く、中には死亡例もあると報告された。(10・30朝日)

(10・30朝日)

意見・投書

男と女——愛について

純粋な愛情といえば、自己愛しかない。時代が移ろうと、社会のしくみが変わろうと、このことは不変であって、他者に対する愛が常にあやふやな印象であるのは、究極のところ自己愛を満足させるための手段でしかないから。(野坂昭如)

(野坂昭如)

現代は純愛の成り立つ要素が希薄。性のタブーはゆるみ、昔みたいなお手打ち覚悟！という姦通(かんつう)のスリルもない。夫婦のきずなははかなくもろく、いやになりや別れればいいじゃん、とまことに腰軽いい浅ましい時節になりました。(田辺聖子)(1・1朝日)

(田辺聖子)(1・1朝日)

妻も百%生きよ

「夫婦不和の被害者はなんたって女性。世の中が忙しくなって、生活が合理化され、うっせきた不満が家庭の外へはけ口を求める」「生け花は主の枝と従の枝で構成。主枝を中心に従の枝はこれを支える役目をするが、同時に従の枝自体も生きていなければ良い花にならない。妻は夫を支えるだけでなく、自分自身も一〇〇%生きなければ」とは生け花のお師匠たるへあおい離婚診断室(民間の調停機関)室長の弁。(1・19朝日)

(1・19朝日)

家政学の未来像

家政学を学ぶ女子学生の数は他の分野に比べて圧倒的に多いが、なぜ家政学が女子教育とのみ結合するのか。なぜ女性研究者によって担われなければならないのか。「女の生き方」を何に求めるかについてはかつての「女らしい従順な妻」が「現代的でかわいい奥さん」に変わったにすぎないのではないか。

私は国民が直面している生活困難、物価、公害、有害食品などに對して有効な解決方向を示す学問こそが家政学だと思う。現在、全国各地の公害反対運動に参加している地域の婦人たちの中にこれまでの家政学の常識を打ち破る力強い動きが見える。(広原盛明) (1・20朝日)

しゃべりすぎの亭主も困る
婦人雑誌に、帰宅すると「めし、ふろ、寝る」しか口をきかない夫のことが書いてあって、

男性評論家が「疲れて帰ってくるのだから夫はくだらぬことはしゃべりたくないのだ」と書いていた。

女はおしゃべりと相場がきまっているが、私はしゃべりたくない妻で、私の夫は非常なおしゃべり。ゴシップが大好きで町内のいろいろな情報をもってくる。「フンフン」と気のない返事の私。「めし、ふろ、寝る」しか言わない亭主がうらやましい。(星銅てる子) (1・26朝日)

十か月で退職の私

私は一昨年、横浜市に誕生した婦人消防官の二期生。わずか月で退職します。子どももできたからです。医師も上司も「内部の事務に配転」「協力するから」と言ってくれますが、他人から「何もそんな処置をとってもらってまで働かなくて……」などと言われるの

が恐ろしかったので辞めることにしたのです。私たちの仲間には適齢期の人や既婚者がいて、私がいい前例を作っておくべきだったのですが、私にはその勇気がありませんでした。(岡田須美子) (2・14朝日)

お嫁にゆく?

「お嫁にゆく」「嫁にもらう」と言うが、これは「妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル」という法のあった頃のこと。私の子どもたちも両性の平等の前提である一人立ちを身につけ、苦業を共にする同伴者を得て、自分たちの経済力だけで果立ってゆきました。「お嫁にいった」娘は一人もないことが私どもの最上の喜びです。(岩崎多鶴) (3・7朝日)

男子にも家事知識を
家庭生活を合理化し、女性の家事への隷(れい)従を打ち破

り、女性の地位を高めるためには、男性の協力が必要である。そしてその必要に応えるためには、家庭的知識というか、家事労働に関する知識が必要である。しかるに、はたしてばかり男性にこのような知識があるか。普段の生活でかなりのものを得ているといっても、教育という形態をとり、学校で学ぶことはなかった。特に最近の中学では、「職業・家庭」という時間が工業・商業的なものになって男子は家庭科をやらない。高校における家庭科が男子にも必要だと言える。(都立戸山高校三年 男子) (3・14朝日)

静かに反戦訴える主婦のデモ
威勢のいい学生デモに慣れた通りの人々の目に、中年婦人のこの行列はさぞかし奇異なものに映じたことだろう。もの珍しげに立ち止まる人、飛び出してくる店員、ニヤニヤする運転手

さん、かと思うと「ごくろうさん」といってねいに会釈されて恐縮する。ウインドーにうつった私の、大きなゼッケンを背にしてビラを配る姿は、まるで大売り出しのサンドイッチマンのよう。

戦争に反対するということは、カッコ悪いことと見つけたりのががある。《草の実》の「十五日デモ」が二年目を踏み出した三月十五日、私たちは美しい花を胸に「地方自治を私たちの手に」と訴えた。私たちの意志に反して戦争への道をたどろうとしている政府に、私たちが選ぶ私たちの自治体で、人間尊重のトリデを築くために(島田信子)

(3・18朝日)

婦人参政権亡国論

石川達三氏は「婦人参政権亡国論」(『サンデー毎日』2月28日号)で「近ごろの女がだめになってきたのは、自由平等の

悪結果」と断じ、そもそも女性に選挙権を与えたのがまちがいだと論じている。田辺聖子氏はそれに對し「夫や子どもとの生活を守るために主婦が立ち上がらねばならぬとき。女に家庭の雑事をおしつけて、自分は高尚な論議をもてあそび、女に知性がないと言う男の意見は、奴隸制度の上に成り立ったギリシャ、ローマの男の文化と同じ」(同誌、3月21日号)と反論。

こうした論戦をよそに、婦人雑誌は教育記事、室内装飾、手芸、ファッション。雑誌の普通の記事より投書欄に女の座標は示される。

「妻が実家に行くことは容易に許可せず、果ては『行ってきたす、とはなんだ。やっていったきますすといわぬか』という夫」(『暮らしの手帖』)「共働きの妻がマンガ本に夢中の夫に、『少し手伝てくれる?』と声をかけると『なに言ってるんだ。オ

レは疲れているんだ」と。女は男につくす奴隸であらばいい」(『婦人公論』)

問題は女自身が何を選び、どの方向を目指すかだ。それをしても女性性は「男の方にきめていただきたい」とはよもや思わぬはずである。(樋口恵子)

(3・29朝日)

婦人参政二十五周年

今年のテーマは「今日に生きる女性、その権利と責任」。都知事選のカギを握るのもウーマンパワー。女子労働者は千九十万、未婚者は四八・三%で半数を割ったが職場での女性の地位はまだ低い。「民族の文化を計る最良の尺度は婦人の地位」と言われるが、この尺度では日本の文化はまだ高くない。婦人議員の中央政界での数は減少しているが、地方自治体に婦人がもっと進出すべき。五万を超える町村議員のうち女性は二百二

人、一万八千余の市議のうち二百九人。パートタイム地域住民に過ぎない男性に代わりもっと進出すれば町や村はよくなるだろう。(社説)(4・10読売)

生理休暇をめぐる(座談会)

(東京商工会議所企業経営部長)「何をするにも労働者の負担が大きかったが、技術革新でラクになった。婦人の地位も向上した今、不安」

(産科医・菅井正朗)「妊娠・出産に影響。絶対に必要」

(渋谷労基署相談員・池田キミエ)「大企業ではとれるが中小企業ではとれない。日本では九〇%が後者。実施されてもいなので廃止するどこじゃない」(大羽綾子)「使用者の疑心暗鬼は許されない」「無給では休めない」

(東商)「ノーワーク・ノーペイが原則」

(4・10読売)

どう結ぶ婦人と政治

参政権二十五年座談会

(一番ヶ瀬康子) 全体としてみると婦人が政治に参加する機会を得た、という意味は大きい。

52年ごろ、家庭制度の復活が行なわれようとしたとき、婦人たちが猛然と反対した。売春防止法の制定にも、女性の力がものをいった。

(もろさわようこ) 地方議会では51年、女性議員がワッと出た。その後町村合併などで出にくくなったが、67年の統一地方選挙で盛り返してきた。身近な地方選挙では、候補者が生活に密着した要求をにかけている場合、女性も政治にかかわっているという意識が高まってくる。台所と政治が結ばれつつあることは見のがせない。

(近藤真柄) 投票したあとで、議員の行動を見ながらこちらの意見を申し入れていくこと。後押しも必要。世界の情勢、国の

政治などの全体的な勉強をしよう。男の政治は、戦争へひきずりこむ政治と言える。家庭を守り、平和に暮らしていくための政治を考えたい。

(田畑佐和子) 女というだけでなぜ他人に従属しなければならぬのか。「子どもを持って働いて大変ね」とよく言われるが、本来、子どもがいてふつうに働けるのが政治の前提でなければ。女だけでなく、国民全体の働く権利が保障される社会をつくるのが政治だ。(4・11朝日)

老残の母

寺の娘として教育を身につけていた母は、私が中学生になった頃、姿が何となく崩れた。十年間の再婚生活が解消され、男の世話を受け、姑もいなくなり、愛されることだけがとめになつた。その頃から母の老年が用意されていた。後年芸者置き屋に出入りして感覚や想像力が

ずれたが、母は一度も反省したことはなかったであろう。第三者なら嘲笑すればよいが、私だけがたった一人の身元引受人ではないか。私はつつ放そうと、母に会わないことにした。

(丹羽文雄) (4・11読売)

東南アジア出向の女子社員

石川県の帝人加工糸(株)から、勤続五年以上の女子社員(二十一歳六人)がタイの合併会社(帝人と現地資本)で加工糸の機械操作を現地の女性に教えている。月給はなんと十四万円。タイの女工さんたちの日給は三百円から五百円。

同社副社長は、これからも繊維だけでなくタイと日本の協力体制に女性の能力の海外出向がふえるだろうと言っている。

(上坂冬子) (4・12朝日)

身の上相談から見た世相

NET「女の学校」の一番の

特色は、当事者自身の口から事実を語らせること。一番ふれられたくない部分を思いきってぶちまけることでカタルシスになる。ただの、のぞき趣味と誤解されては困る。

悩みごとのほとんどは男女の愛のかつとで、当然金とセックスがからむ。四泊五日の新婚旅行で不能に終わった夫と別れた女性には賛否両論が殺到、七十日間頑張つて不能を治したという手紙もあったが、「愛しあっていたらセックスなんかいらない」という声がなぜ聞かれないのか。男と女が全存在を燃えあがらせ一つにとけあう、原始的で人間的な愛のいとなみはすでに失われてしまったのか。

(菊村 到) (4・21読売)

出かせぎをやめた喜び

今年の春早くに友の夫は十年に及ぶ出かせぎをやめて帰ってきた。畑苗代のビニールは深々

と土をかけられ、杉丸太が両わきを押さえて、どんな風にも飛ばなくなった。

思い切ってやめた出かせぎ。

土から遠ざかっていった友の夫は、かつて額に汗して切り開いた開拓地へ出かけて、荒れ果てた山野を連日手入れしている。「金には不自由するごったもス」。そう言いながらも、再びわが手で山野に生産をもたらす日の戻ってきたことを、この友はどんなにか深い喜びで受け止めていることだろう。

(岩手県 一条ふみ)(6・2朝日)

日本の女性

一般にいう女性と日本女性は区別すべきだ。日本女性は自分たちだけの世界、固有の着つけ、話し方、身のこなしをもつ。女性だけの言葉のある国は、その伝統的な衣装がこれほどに普及している国は、そして独自の会話と客のもてなしの技術がこん

なに発達している国は、ほかにみられない。男性との同権を主張するために身をかめるのは、彼女のほうではない。

(ミシェル・ミダン)(6・20朝日)

私は女性トラック運転手

初免許は41年。本職は自動車塗装工だが、金になれば板金も修理もする。私の車の走らせ方は①自分の前後と左右だけを注意する②停車信号から発車する場合③五つ数えてから④左手に自転車や人影を見たら堂々とセンターオーバー、人を負傷させるより接触事故をとる④速度は安全な道路で平均5*オーバ。運転歴三十年の間に、野犬を殺し、右手を負傷し、速度違反一回の加被書計四件。

(日野弘美)(7・3朝日)

女性解放はばむ男性の意識

日本の労働時間の長いことにシヨックを受けた。男女ともに

労働条件を良くせねば。

女性の解放をはばむ三つの原因は①可愛い女のイメージとコマーシャル②育児・料理記事ばかりの婦人雑誌③女はかわいくあってほしいと望む男の意識。

(オランダの婦人労働運動リ

ダー、ネル・テヘラー)

(10・12朝日)

母乳銀行つくってね!

あり余るほど出る母乳を、乳が足りなくて困っている母親に分けてあげようと、神戸市・パルモア病院長の三宅廉さんは主張している。ヨーロッパで行なわれている「母乳センター」にヒントを得て、病児や未熟児を守るために同病院ですでに実験的に実施中。(11・6朝日)

ヨーロッパのウーマンリブ

アメリカのリブの主張のほとんどがヨーロッパの歴史の中に芽びいていることとアメリカの

ウーマンリブを直輸入することへのためらいから、西ヨーロッパのリブたちは米国の影響を否定する。彼女たちは、男性敵視と言われることも否定。男性の持つまちがった考え方に対してだと主張。今一番大事なことは女性の団結で男女差別撤廃を進めることだという。

(水田珠枝)(11・10朝日)

婦人雑誌に望むこと

婦人雑誌の合評を中心に四年間続いた「ホームジャーナル」が連載を終わるにあたり、合評会のメンバーが婦人雑誌に何を望むか話し合った。

「社会の変化につれ、婦人雑誌のニュースは増えたが、教育記事はわが子の知能をいかにのばすかというものばかり。これからの婦人雑誌は、総合性を回復し、主婦の暮らしの視点からあらゆる問題に迫ってほしい」。

(12・22朝日)

相談

私の再婚を嫌う母

十二年前、親のすすめで泣く泣く結婚、二か月で離婚、弟の理容店を手伝っています。再婚したいが、母が強く反対…。

(東京・K子・35)

〔答〕あなたの思いすごしか、深い事情があるのか、離婚の事情が危ぶまれているのか…。再婚の意思があり相手もいることをはっきり告げて話し合いを。

(小糸のぶ) (3・2読売)

年上の女性と相思相愛

四歳上の彼女はなくてはならない存在だが私は二十歳。若すぎるので心配。二、三年待つと彼女が年をとります…。

(宮城・0)

〔答〕少年マザーコンプレック

スでは。友達としてつきあい、三、四年お待ちなさい。

(小山いと子) (3・3読売)

祖母の扶養義務はあるのか

共働きしてきたが、主人が母と祖母を引き取るという。私は子を持ちたいので反対、大ゲンカ中。(神奈川・U子・27)

〔答〕夫婦の円滑な生活維持が互いの義務。そのためにどう譲り合うかが大事。母と祖母の扶養は五人の子が負担するのが当然。(大浜映子) (3・6読売)

プロポーズに迷う

交際三年、好きな男から求愛されたが酒好きと聞き心配。彼二十六歳。(東京・S子・27)

〔答〕お酒のタイプもいろいろ。心配なら一度一緒に飲んでみては。そこまで燃えあがらないのはほんとに好きではないのでは。百点満点の人はいません。(戸川エマ) (3・7読売)

女の幸福を求めたいが

兄の負債整理で青春を忘れて働いたが…。

(北海道・T子・28)

〔答〕家を出るのは大賛成。兄には賠償を求めず新天地で運を開いて。

(小山いと子) (3・15読売)

髪結い、ゆえに嫌われる

家計を助けて働き続けた三十七歳の妹、職業を嫌われて縁談がなく、仕事をやめて主婦に…とと言うと相手は仕事の継続を希望する…。(東京の姉)

〔答〕髪結いの亭主はイヤという男は見栄っぱりかいくじなし。商売を続けることを要求する男は計算高い。今のままで共働きできる人を待っては。女は結婚さえすれば幸福…とは限りません。(福島慶子) (3・16読売)

再婚で娘と不仲に

三年前妻に死なれ、教員(四

五)と再婚したが、「亡き母がかわいそう」と、娘と絶縁状態になった。(五十六歳の男)

〔答〕子どもの感情より妻が第一。玉を捨てて石を取るな。(小山いと子) (3・21読売)

戦争で婚期逸し五十歳に

特別才能もなく、周りから軽べつの目で見られ寂しい。

(東京・A子)

〔答〕縁は異なるもの、自信を持つ。五十過ぎて結婚、一財産作った人もいますよ。(福島慶子) (3・23読売)

子は再婚を勧めるが

結婚三年で別れ、一人息子も結婚した五十六歳。アパートと店の経営と趣味に生きているが…。(神奈川・A子)

〔答〕地位も財産もない若輩なら愛情と機会を頼りに結婚できるが、財産のある勝ち気な年配婦人は難しい。が、縁というも

のもある。広く頼んでよい人を探してもらったら。結婚をあせてくだらぬ男をつかまないよう。女は結婚すれば幸福とは限らない。相手次第、慎重に。

(福島慶子) (4・13読売)

結婚するまでは父の世話を

六十七歳の父、二十三の弟と住む二十七歳。結婚をすすめられるが弟が結婚するまでは老父の面倒を見たい。父とは性が合わず、恐ろしいことだが父が死んで母が生きてくれたらと思うことがある。(群馬・I子)

「答」結婚は一年でも早いほうがいい。結婚後も同居する気があるなら別だが、弟が結婚、余計なお荷物になったとき、いい相手がすぐ見つかりますか？

(小山いと子) (4・14読売)

義母と折り合えない

結婚後一年。夫は給料袋を母に渡す。夫とケンカしたが結局

負け。独立を申し出たら義父母は激怒、二度も実家に戻った。

実父に叱られ義母を立てるよう気をつかっているが、表面的な平和でほんとの幸福は……

(埼玉・M子・25)

「答」先方の話をもし聞いたら言いがあまりに達うので意見の出し方がわからなくなるだろう。気が強く相手に耳を貸せないところは互いに好敵手。敵同士が同居していたのでは地獄。

職を持って家をあげる、子どもを産んで非武装地帯をつくる、夫を捕虜にする……方法はいろいろ。北風と太陽のとえもある。知恵と気立ての問題。

(島崎敏樹) (4・16読売)

今さら「子がほしい」

子が産めぬ体と告白して十五年前十歳下と再婚した四十五歳トラック運転手の主人は大型車まで持つようになったら、実家(農家)に帰り放し。子が欲

しいと言う……。(山梨・T子)

「答」子は持てなくてもいいと言った二十歳が、三十五歳の今、気持ちが変わっても自然なこと。先方の両親はあなたとあまり年が違わない由、向こうに行くより別れて再出発なさったら。

(小糸のぶ) (4・17読売)

結婚歴を打ち明けたら破談

気だてのよい二十五歳の妹がかわいそう。(東京・F子)

「答」初婚といつわるのはウソツキ商品のようで感心しない。断わった相手はメンツにこだわる人。本人の人柄や能力を重んじる人も多いから、広い世間を泳がせて恋人ができるチャンスをつくるように。

(福島慶子) (4・19読売)

女ぐせの直らぬ夫

小二・小六の二児の母、四十歳。主人は小工場経営者四十二歳。長男を妊娠したとき女と関

係、私に中絶を迫ったが、会社

の人が間に入り女と別れた。以後平安に暮らしていたが、九年前からその女を囲っていたことがわかった。(秋田・U子)

「答」口をきかないのでは女のほうに追いやるだけ。長く続いているのは単なる浮気ではない。といって妻と別れる気もない。あなたが魅力ある妻になること。

(小糸のぶ) (4・23読売)

夫の母は異常性格

私のダンスの中を調べる。夜は隣室でイヤホンで聞く。たまりかねて別居、送金だけは続けている。(東京・M子)

「答」送金はご主人の三人の兄弟で平等に。先のことは思いわずらっても仕方がない。どこの家にも何か問題があるもの。

(大浜英子) (4・24読売)

二号生活が不安

彼と関係を持って十年、七か

月の子を持つ三十二歳。彼は中
小企業経営者(三九)、奥さん
は四十二、二児の母。今のうち
に手を切りたいが、①認知され
ている子の養育費はとれるか②
適当な職があるか③母子寮に入
るには④別れ話を持ち出すと彼
はカッとなる⑤数十万円彼に貸
してあるが返してもらえるか。
〔答〕家裁ではじめをつけるこ
と。別れ話に怒るなら奥さんと
別れてもらうこと。

(戸川エマ) (5・3読売)

不貞妻に離婚を迫られる

二歳の子を持つ妻が職場の同
僚と不貞、叱ると私の母との別
居を条件にした。住宅難で実行
できず、妻は家出。許して再出
発したいが。(山梨・28の男)

〔答〕いくらあなたが愛してい
ても、奥さんは帰るまい。気の
すむまで待つて、あきらめがつ
いたら再出発を。

(小山いと子) (5・8読売)

主婦の座と大学進学

福祉関係で働くため進学した
い。(北海道・主婦・36)

〔答〕進学は価値あることだが、
体が弱いのが心配。よほど夫と
子の協力がなくては無理。心配
ならできることを少しずつやり、
子に精神を植えつけること。

(戸川エマ) (5・15読売)

妻の相手から慰謝料とりたい

結婚十九年、二児のある共働
き妻(三八)が不義の子を中絶
したことを知り大ショック。

(神奈川・40の夫)

〔答〕男なら一度や二度は浮気
も。奥さんも通勤車中で誘われ
るほど魅力のあるご婦人、泣い
て謝り許したのなら水に流すこ
と。慰謝料はジゴロのすること。

(福島慶子) (5・19読売)

嫁の来手がない農家の長男

縁談は断われ、交際の際の機会
もない。(千葉・30歳の男)

〔答〕知人・友人・先生など幅
広く頼むこと。あなた自身も、
捜すのに情熱を傾けなくては。

(高田敏子) (6・28毎日)

借金・性病・暴力の夫

職場結婚七年目、二児の母。

婚前同居の女からの夫の借金を
やっと返したが梅毒とわかった。
暴力をふるわれ難聴になった。

(岡山・33歳)

〔答〕耐え忍べば忍ぶほど増長
したと思う。家裁に申し出て早
く離婚を。今よりはよくなる。

(中川正文) (7・2毎日)

人

〔ひと〕

太田洋子と取り組む

原爆作家の作品を『女人芸術』
時代から掘り起こし出版しよう

と資料集めを続ける主婦、江刺
昭子さん(二八)。早大時代、
病床の洋子の口述筆記をしたの
がきっかけ。(1・9毎日)

二十四年の議員生活に幕

全国の市議会ただ一人の女性
議長、保谷市の金子みさほさん
(六六)は「若い世代にバトン
を渡したい」と、立候補締切日、
正式に引退。(1・23朝日)

老ナインゲールの死

東京・中野で二十七日、また
一人暮らしの老女、元鉄道病院
絵看護婦長・村岡キクさん(七
〇)が死んだ。目が不自由だっ
たのに二階から降りようとして
ころげ落ちたのか、階段の下で
首の骨を折って死んでいた。

四十年間も看護婦をして数多
くの命を救い、たくさんの後輩
を指導してきたが、その当人は
誰ひとりみとる人もなく息をひ
きとった。(1・28読売)

四十七歳の大学ママさん

「勉強は、年齢に関係なく楽しんでいいものだと思いますよ」と、木瀬（きのせ）かほりさんは働きながら夜間大学に。東京都立大学総務課のタイピストで、立正大学の教養課程の一年。家事、育児から解放されて後、女性性は本当の自分を取り戻す。我に返った自分の後半生をしっかりと生きたい、と思ったのが入学の動機。娘が二十歳を過ぎたら自分も高校から大学へ行こうと心に決め、都立園芸高校定時制に四十三歳で入学。昨年卒業し、娘と同じ立正大学に。社会学科で沖繩の政治、経済、社会の問題に取り組みたいという。すでに二回沖繩へ出かけた。「勉強したことは社会に還元し、さらに学問の域に」と勉強を楽しんでいる。（2・3朝日）

育児を終え船医やアマ作家に

女性 は三十五歳で転機を迎え

るという。育児を終え、自分のために使える時間がふえてくるのが三十五歳ごろ。それからどう過ごすかは女性にとって大きな課題だが能力や興味を生かして第二の人生を設計した人も

七万—十万トンのマンモスタンカーに乗り組み、海の男たちを相手にしている船医、岩沢明子さん。68年以来、中東、アメリカ、北米、オーストラリア等世界中を回っている。以前は小児科医の夫を助け、一人娘の教育に熱心な普通の奥さんだった。「娘が大学に入り、これからはお母さんも何か趣味を、と勤めるのです。娘はイタリア語専攻で、将来イタリアへ勉強に行きたいと言う。私は医師の資格があるので、じゃ、船医になって会いに行くと、母娘で史跡や美術館めぐりができたらと、イタリア航路に」。こうして、日本歴代四人目、現役ただ一人の女性船医さん誕生。

もう一人は児童小説に入選した、農村の主婦、永井順子さん。主婦業のかたわら書いてきた初めての長編小説が毎日新聞社の第二十回児童小説に入選、いま中学生新聞に連載されている。

「子どもは学校でどんどん成長して、母親の私はやらねばならぬ。こんなことでは、とり残されてしまう。子どもと一緒に考えていこうと思って」と、入選作の『風と光と花と』が生まれた。「土にまみれて働く人たちの中にいると、ウーマンリブの運動など遠いところで起っているような気がしますが、私はせめて子どもと一緒に進歩していきたい」（2・5毎日）

看護婦被病状調査を

看とめた大森文子さんは五十ハ歳。「四十人の患者を受け持つ夜勤が月十五回もあったり。特に消化器系の病気が多い。食事時間が不規則なうえ、短い時

間で食べ終えるから」「病院こそウーマンリブにしたい。看護婦を大切に、看護婦が力持てる病院はうまいってる」

ニューギニア、マニラの従軍看護婦も経験。47年日本看護学会の開設に参加、68年から看護婦部会会長。（3・3毎日）

モーレッツに生きる

映画界の「女性立ち会い屋」はいま日本で三人。その一人、松崎安佐子さん（三四）は日本ヘラルド映画の宣伝部渉外係の紅一点。テレビ、ラジオなどの電波関係担当。生き馬の目を抜くようなこの世界、的確な見通しとすばやい判断力がモノをいう。失礼だが女性向きの職場ではなさそうに見えるが、松崎さんはモーレッツ社員そのものの激務が生きがい。「テレビ、ラジオへの売り込みが仕事の中心ですが、会社のコマーション製作、映画紹介番組

のビデオ撮り、試写会などいろいろなところでの「立ち会い屋」でもあります。企画の段階から関係者と顔をつき合わせ、その反応、効果を計りながら会社の意図を通すわけ。ですから封切り初日はドキドキ。それだけに当たった時のうれしさは格別です」
(3・18朝日)

73歳セールスおばあちゃん

蛇の目ミシン立川支店でセーリスを担当する山下あきのさん(七三)は戦前一年、戦後十一年のキャリア、三か月で六十五台契約をとらないと「ちょっとまずい」が「どんな仕事だって、やる気があればできます。年齢なんか気にしませんよ」と町の人気者。
(3・26朝日)

テレビで活躍大宅昌子さん
大宅壮一さんが生前「恐妻」と名づけた昌子さん、フジテレビの「お茶の間コラム」と「小

川宏ショー、日本の女」にレギュラー出演。

ハレンチ漫画を「淫画」と名づけ、「フィーリングとかいってまずけど、あれ、デタラメを売り物にしてるみたい」「暑いサモア島でも、隠すべきところは隠しています。この文明国で何ですか、すぐハダカになる」
(3・27朝日)

怒りの転身―薬害を告発

クスリ愛好国ニッポンの「薬害」に立ち向かうことを誓って一人の女性が弁護士になる。大手製薬会社の薬剤師のイスを捨てて正に百八十度の転身だが、きっかけは、会社が新薬開発の大義名分で強いた社員の「人体実験」。仲間の一人は若くして死んだ。「薬害追放」を旗印に日本の女性ラルフ・ネーダーとして立ち上がった宇都宮晴子さん(三〇)。薬害の恐ろしさを身をもって体験しているだけに、

混とした現状に一筋の光をさしこむに違いない。

63年秋、当時の勤務先、「レスタミン・コーク」で知られる興和株式会社が行なった新薬の人体実験。会社側は社員二百人にカゼのウィルスを殺す「キセナラミン」を飲ませ、その効能と副作用を調べた。その結果、約一か月後に身体の変調を訴える社員が続出、うち重症の十五人は入院、ついに一人が死亡した。しかし会社側は「キセナラミンとはまったく関係ない」と冷たい説明。この一言が宇都宮さんの心を大きく揺さぶった。「国民の健康を守るためにという会社、調査すると言いながら積極的でなかった厚生省、治ってもいないのに治ったという医者。この三者が一線に並んだときには、何が起こるか」
「私にできることは何だろう。会社、国、学会、すべて壁が厚すぎる。これをブチ破るため弁

護士になり、公の場でこうした被害者を擁護しよう。そう決心したんです」
(4・3朝日)

初の「父娘検事」誕生

東京地検公安部副部長、伊藤幸吉検事(五一)と長女の幸江さん(二四)。幸江さんはきょう日終了式を迎える第二十三期司法修習生の一人で、明日付けで検察官に任官するが、すでに東京地検刑事部へ配属が内定。「検事になったのは、好きだから。与えられた時間内で仕事を処理しなければならぬきびしさにひかれて」
(4・5朝日)

異色の女性区議

東京・中野区の大槻和子さん(二九)は「金なし、地位なし、地盤なし」だが「公害反対」と「働く母子の健康づくり」をスローガンに、ひとり娘を二十四時間保育所に預けて選挙を戦い見事初当選。
(4・13朝日)

ヒロシマのためリサイタル

歌手の葦原邦子さんは岩波ホールでリサイタルを開き、純益を広島市に寄付する。

「原爆資料館を見て、心がふるえ、足がぐづけになった。何かしたい」
(5・12朝日)

選管の不祥事を嘆く

「選管の皆さんも人間ですもの、感情があるわよ。美濃部がいい、秦野がいいと。でも委員になったら、そういう気持ちを捨てていただかなくては」「不祥事が逆に、いい刺激になれば……」と中央選管委員長・大浜英子さん。
(5・15朝日)

女性のシナリオライター

橋本忍氏の長女、綾さんは、父親の跡継ぎをめざす。デビュー作『されどわれらが日々 別れの詩』(森谷司郎監督)の完成も近い。追いつき追い越せ二十四歳。
(5・25朝日)

異議申し立て原爆患者に認定

内海トシ子さん(六四)は、当時四人の子をかかえた三十八歳の未亡人。疎開家屋の片づけに動員されて被爆。一昨春秋、盲腸の手術をしたら、跡がケロイドのように盛り上がった。放射能の影響認定患者の申請をしたが、却下。医師のあと押しで異議申し立てをし、やっと認定。「痛みやかゆみはガマンできるが、ケロイドの顔はもとにもどらん」
(5・27朝日)

騒音おばさん自費出版

東京品川区の騒音被害者の会(の会長、佐野芳子さん(六二))は八か月かかって被害者の声を集めパンフレットを自費出版。役所の無策を訴えている。
(6・3朝日)

地方公演ひとすじ

劇団・新制作座の真山美保理事長は、劇団創立いらい二十年

「スターなし、エロなし、スベクタクルなし。これで毎日、全国どこかで公演しているのだから不思議」と語る。近くブラジル公演も。
(7・4朝日)

女性初の「北壁三冠王」

さる67年にマッターホルン北壁、翌々年にはアイガー北壁を征服。今月十七日にグランド・ジョラス北壁の登頂に成功、女性アルピニストとして世界初の「欧州北壁三冠王」になった今井通子さん(二九)が二十七日、帰国。

今井さんは、東京勤労者山岳連盟所属の四人にまじってグランド・ジョラス北壁のアタックを開始、四日目にアラレと吹雪に襲われながらも午後六時過ぎ頂上に達した。この夜は吹雪を避けて頂上から十メートル下の雪庇にビバークし、翌十八日朝、再度、頂上に登り、イタリア側に降りた。
(7・27朝日)

D・Jの記録」を出版

文化放送の成田あつ子アナウンサーがD・J生活のあれこれをまとめた『話そう夜明けまで』を出版。深夜放送のD・Jといえは、男性アナと独身の女性アナの領域になっているのに、彼女は主婦で一児(四歳の女の子)の母。三年がかりで出版を決意したのも、自殺しようとした一聴取者からの手紙がきっかけという。自ら「カアちゃんアナ」と名乗る。このエネルギッシュな女性の「生活と意見」は「女だからというあきらめはいや。男性と認めて合って女の力が発揮できなければ。でも一方的な女の主張はいやです。私の場合はおしゅうとさんと主人の理解が大きいし、その点は恵まれています」
(7・21朝日)

働く夫婦

◆昼は役人、夜おかみ すし屋の中山正さん(三四)と名古屋

市社会教育主事の恵子さん(三八)。婦人グループの指導、育成にあたる恵子さんは「家以外のこと、社会、文学、政治、宗教に目を向けた女性には、背筋が通っている。泣きごとと言わない。したかな強さがある、そういう生き方が正しい」。正さんは「お互い好きなことをやっているんですよ。だからこれの仕事も認めてやらんと」。夜は二人で店に並ぶ。

◆同居のために 古閑勝子さん(三三)には扶養家族が二人。夫の恭司さん(三四)と長男の敬ちゃん(三三)。恭司さんは大阪への転勤を断って解雇され、現在は勝子さんが働いて生活を支え、裁判闘争中。恭司さんは家事育児をしながら夫婦同居を勝ちとる全国連絡会議の事務局長。「会社といえども、労働者の生活を破壊してまで転勤させることはできない」。勝子さんは「私が働き続けたいと言

えば夫がそれを理解してくれ、夫が闘いたいと言えば私が理解する。夫婦は対等でなければ」

◆法廷の外で 夫婦そろって裁判官の浅田潤一さん(三四)と登美子さん(三三)。「女だからできない裁判などありえない。労働、公安関係の事件は大変だが、それは男性も同じ」と二人は同じ考え。

現在女性裁判官は全国で約四十人。「数が少ないから差別が生まれる。どんなに辛くても仕事をやめず、後に続く人たちのためにがんばる」と登美子さん。潤一さんは子どもをふろへ入れ、布団を敷き食事のできあがるのを待つ。

◆学びながら 大学一年生の渡辺とし子さん(二〇)と受験勉強中の昭夫さん(二五)。夫婦で新聞配達と家庭教師、塾教師をしながら学ばず毎日、としさんは弁護士を目指し、昭夫さんは医師を目指す。家事は半分ず

つ、手のあいているほうがやる。「自立してから結婚すべきだ」という考え方はわかるが、親の考える幸せな生活と、私たちの考えるしあわせは違う」と言うとし子さんに、「二人で社会的に生活できればいい。楽に生きることが生きがいではない」と昭夫さん。



つ、手のあいているほうがやる。「自立してから結婚すべきだ」という考え方はわかるが、親の考える幸せな生活と、私たちの考えるしあわせは違う」と言うとし子さんに、「二人で社会的に生活できればいい。楽に生きることが生きがいではない」と昭夫さん。

精薄児の能力を引き出すために奔走。

◆ツイン・マザー 小学校教諭松本熙さん(二五)とアナウンサーの町子さん(二四)。一歳になるふたごの男の子がある。陸上とスキーの国体選手である熙さんは仕事以外にも忙だが町子さんは子どもの頃からあこがれていたアナウンサーをやめる気にはなれない。夜の三時間おきの授乳とおむつの取り替えが二人分。ビタミン剤を飲みながら会社へ。熙さんは眠る時間以外によく協力する。「世間知らずの世話女房よりも視野の広い妻であってほしい」と。

◆酪農への夢十五年 立命館大学法学部で三年ちがいの同窓生の土本裕さん(四二)と満智子さん(三六)は開拓農民。「知識がないために当然の権利も主張できない農民のことを知り、農民のために役立ちたい」という使命感をもった」と、周囲の農

家や青年団、婦人会に飛び込み、読書会や学習会を開く。開拓農協理事、町農業委員、農協婦人部幹事、PTA役員、保育所父母の会役員……と何でもやった。

出かせぎや地元の賃労働にと、開拓農民もかり出されるいま、夫妻は「ほんまものチチしぱりになる」と、BHCなどの残留農業のない牛乳の生産に余念がなく、真冬、牧草地へのたい肥運びの毎日。

◆われら行動派 サル研究家・

水原洋城さん(三九)の妻博子さん(三六)は団地自治会の常任委員、自治会婦人児童部へ生活を守る会代表、愛知県公害対策連絡協議会副会長へ物価値上げから生活を守る会」の団地常任委員、幼稚園母の会会長を歴任。洋城さんはマイホーム主義・家庭サービスを断固拒否。家事にはいっさいノータッチ。しかし「主体性のない、独立心のない、自由を求めない、知性

のない」タイプの人を最もきらう。博子さんは洋城さんの全面的な支援を背後に団地パワース先導役として自転車で飛び回る。

◆BBS運動 原爆症認定患者で貯金局職員山口直輝さん(三五)と長崎大学教育学部講師の康子さん(三六)は、BBS運動(わき道にそれた少年少女の兄弟になって、再びふみはずすのを防ぐ運動)で結ばれ、結婚して七年、三児を持ちBBS運動から次第に遠のいたが「共働きはあたり前。働きながら社会活動をどう続けていくか工夫しなくては」と言う。直輝さんは職場にある保育所を男性として初めて利用。「保育所は女性だけが利用すると決めてかかる人、市場に買物に行くと、男のくせにという目でしかみない人がいる。男と女を分けて考えず、二人でどううまく運営するかを考えるべき」

◆隠居なんて 橋本惣右衛門さ

ん(七八)とつやさん(七三)は一昨年金婚式を迎えた。惣右衛門さんは自転車で浦和市を中心に走りまわり老人を中心とした健康診断の世話を。つやさんはその事務局。検診の日には、どんなに遠方でも担当医師とともに夫婦そろって現地向かう。千人以上のこの会も九年目。私たちのやっているのはほんのお手伝い。検診が続くのは親身になってみて下さるお医者がいるから、と夫妻はけんそんする。

「今年は無医村でも検診を」が夢。(1・4・14連載 朝日)

【賞】

田村俊子賞は 江夏さんと本多さん 三十年間も下積みの創作を続けてきた主婦作家・江夏美好さん(四八)が五年かけた『下々(げげ)の女』千五百枚で受賞。「私はオヤジの寄生虫。お金が

目的じゃないから書きたいものを書く」(3・21読売)

「婦人民主新聞」の記者、デスク、カメラマン、校閲もかねる本多房子さんの受賞の感想は「『婦民新聞』の広告になるからうれしい」。インタビュを申し込むと「『婦民新聞』の広告になるから受けましょう」。考えることは「新聞」のことばかり。理屈っぽい記事は苦手でルポルタージュが好き。時の人のインタビュ記事「ごめん下さい」は十五年この人が書き続けた。(3・23朝日)

農民文学賞・新聞さんに 出産予定日も近い開拓農家の主婦が吹雪の山中で腰まで雪に埋もれながら一束二十八円にしかならぬ小枝の束をつくっている姿を描いた詩、「雪山の呼び声」と処女詩集「炎」で受賞。「生きていくってことはああいうこと」と、人生を耐えている

る東北の女たちへの進軍ラッパを吹き鳴らす。

丸い大きな顔、がっしりしたからだ。地蔵さまのように柔らかな新開ゆり子さん（四七）の詩は厳しい。

（3・2 読売／4・25 朝日）

『髪の花』で群像新人文学賞

小林美代子さん（五一）。精神病院同室の患者たちの髪を花のように美しく結う娘の自殺までを核に、狂気と正気の間を揺れ動く患者と、病院側の非人間的な仕打ちを描く。

四年間の入院患者の受賞とあってインタビュー引きもきらず「おいたちから今までを書くために来た」週刊誌もあったとにこやかに笑う。（5・19 読売）

野上さん、文化勲章受賞

「私、長く生きていますでしょ。長生きのごほうびと思ってるのよ」北軽井沢の山荘で受賞を

知った野上弥生子さんは、実に淡白な感想をひと言。八十六歳とは思えない若々しい声だが、受賞が声にハリを持たせたとはみえない静かな口調である。

漱石の紹介で「縁」を「ホトトギス」に発表したのが明治四十年だから創作歴は六十五年にもなる。戦後の「迷路」「秀吉と利休」で読売文学賞と女流文学賞を得たが、はなやかな流行作家とは程遠かった。しかし、シンの強い持続力を持つ「確実な存在」である。自作には厳しく「今までの作品の中で好きなものなんか一つありません。完成当時はまあまあと思っても時間がたつてみるとだめね。日記だけがあるの。大震災の年から書いている日記が続いていて大学ノートで何十冊とある。それだけは私が死んで三、四十年して発表したら書いたものより面白いかもれません」。

（7・27 読売）

女性初の優秀技能賞

中山きよ子さん。十五歳のときから、二十八年間時計ばかり作って来た。いま作っているのは、市価二十五万円もする最高級品。全部品の組み立てから調整まで手づくりの腕時計。68年、ジュネーブ天文台クロノメーターコンクール腕時計部門で、女性としては世界初の調整者賞を受賞。今回、女性として初めて優秀技能賞を労働大臣から受けた。（11・11 朝日）

【計報】

平塚らいてうさん 二十四日午後十時三十六分、胆のう胆道がんで昨年十一月以来入院の代々木病院で死去。八十五歳。本名奥村明（はる）。婦人解放に始まり、消費者運動、原水爆禁止、世界平和とアピールと続いた運動の火が一つ消えた。

「らいてう」——北アルプスに住む「雷鳥」からペンネーム

をとったこの人の始めた活動は衝撃を社会に与えた。一人の人間として認められていなかった当時の女性には「新しい女」がまぶしく見えた。

『青鞥』はブルー・ストッキングの和訳。十八世紀の英国でインテリ婦人たちが、そろいの青い靴下をはき、それをからかうニュアンスがあったことから、先手を打つ意味で評論家の生田長江が名づけた。平塚さん自身には雑誌発刊の気持ちになかったが、生田長江の強いすすめで踏みきったという。

女性のあり方に疑問を持っていた人たちは、こぞって、青鞥社へ入社した。『青鞥』は「予想以上に若い女性の魂をゆり動かした」と平塚さんは回想している。

そのころの世相は、平塚さんの運動を受け入れるほど甘くはなかった。「女だてらに」と風当たりも強くなる。周囲の非難が、かえって彼女のファイトを

かき立てた。封建的な結婚制度を否定して夫の奥村博士さんとの「共同生活」を始めたあたりに、彼女の面目躍如たるものがある。戦後は一貫して平和運動に徹し、世界平和アピール七人委のメンバーになった。

(5・25毎日)

「現代は物の生産にばかり価値のある時代。生命を産む母としての価値が社会的に確立されていないのが心残り」(金森トシエ記者のインタビュに応じられず、秘書に託したらいうさんのメモ) (5・25読売)

「本当の意味でウーマンリプの草分け。常に強い意思と熱情と自信を持っていた」(市川房枝)

(5・25朝日)

女性史の中のらいてうさん

らいてうさんは、男に従属して生きなければならぬ女の運命をきっぱりと拒否、女の人間的自己解放を正面にすえた社会的な訴えを初めて行なった。

女ばかりでつくった雑誌「青鞥」が創刊されたのは明治四十四年九月。らいてうは、この時二十五歳。「元始、女性は大陽であった。真正の人であった」に始まる創刊の言葉は、日本における最初の女権宣言の史的位置を占め、女たちの自我の確立と個性の発言を目的とした青鞥社運動は、日本の女の歴史にエポックを画した。(もろさわようこ) (5・26朝日)

大石ヨシエさん 七日午前十一時四十分、愛知県西春日井郡師勝町六ツ師、建築塗装業大橋力さん(四一)方で脳軟化症のため死亡。元社会党代議士。七十四歳。京都府出身。

戦後第一回の衆院選に京都府から立候補して連続五回当選。社会党右派の国会対策委員長など「女傑代議士」として活躍した。(6・8読売)

戸叶里子さん 七日慢性ジン炎のため死亡(六二)。オシドリ議員で知られ、46年四月、婦人参政権が認められた戦後第一回の衆院選挙以来、連続当選十一回。今年の春、永年勤続議員として表彰されたばかり。霊前で夫の武・参院議員は「一緒に北京に行こうと話し合ったのは昨日のことなのに」と絶句。

「政治は男であれ、女であれ生命がけ。二十五年間、女とは思わずにやってきた」と語ったのは最近のこと。追放になりかけた夫の「身代わり立候補」で家庭の主婦から政界入りして以来、党の中執、婦人部長、渉外部長、昨年十二月には社会党代議士九十一人をまとめる代議士会長にもなった。

「妻は妻なりに打ちこめるもの、一つの生き方を持つべきだ」という持論だった里子さん。病床で「沖繩国会にどうしても登院しなければ……」と言い続けた里

子さん。一人のユニークな政治家が消えた。(11・8毎日)

本

「戦争をみつめて」

毎日新聞の家庭欄「女の気持」の投稿者たちの大阪ベングルーブが、二年がかりで戦争体験をまとめて70年十一月出版。原爆症の主婦の遺稿も含まれる迫力に、毎日のように感激の手紙が舞い込み、三千部を増刷する。(発行元、和歌山市真砂町二一―二四 那須徳子 一五〇円) (1・10毎日)

「あなたはどう生きるか」

犬養智子著 中学生向き「おつきあい読本」。「異性に関心を持つとう」「女は強く、かわいく」「男もこれからは選ばれる立場」等々、母親も読む必要が

ありそう。(毎日新聞社刊・四百二十円)
(1・5 毎日)

公害克服へ手がかり

『公害と住民運動』宮本憲一著

(自治体研究社 五五〇円)

『原点四日市公害10年の記録』

小野英二著

(勤草書房 七五〇円)

公害をめぐる住民運動の苦悩と盛り上がりをも、当事者がつづったもの。(3・23朝日)

『誰も書かなかったソ連』

鈴木俊子著

第二回大宅壮一賞受賞。モスクワ特派員となったサンケイ新聞記者の夫とともに暮らしたモスクワでの率直な見聞記録。物資不足、粗悪さ、自由のなさ、民衆の不親切等、平凡な主婦の率直な観察が、厳しい内容にかかわらずいや味のないものになっている。(サンケイ新聞社出版局 五六〇円)

(4・19朝日)

アイヌ差別への怒り

『コタンの痕跡をめぐる』

少数民族であるために差別と偏見に苦しむアイヌ系住民の人權の問題に真正面から取り組む姿勢を示したユニークな本として注目される。

三十余人の論稿を集めた六百ページ近い大著。(旭川人權擁護委員連合会 一〇〇〇円)

(7・15朝日)

『対話・原爆後の人間』

重藤文夫・大江健三郎著

みずから被爆者であり、広島の日赤病院院長、原爆病院長として今日まで原爆症患者の診療一筋に打ち込んできた重藤博士と作家大江氏との対話の記録(新潮社 三百六十円)

(8・9朝日)

『元始・女性は大陽であった上・下』

平塚らいてう著

道徳によってつくられること

を拒否し、みずからの生命の発露を求めつづけた一人の女性の精神史。衰えを知らぬ探究心と柔軟な判断力と、たえず未来をめざす姿勢が示されている。女性ひいては人間解放のこの先駆者の見事な記念碑。(大月書店 八五〇円)

(9・20朝日)

『泥まみれの死』

沢田教一ベトナム写真集

報道カメラマンとしてのあらゆる賞を得て三十四歳で死んだ一青年の遺品の中から発見された約四千カットのネガフィルムから選び出したもの。(講談社 一五〇〇円)

(11・15朝日)

公害

公害許すな

―臼杵、風成の主婦たち

大分県臼杵市でセメント工場

の誘置計画に反対して市長を辞任に追いこみ、典型的な「公害追放選挙」に持ち込んだが、敗れた風成(かざなし)地区の主婦たち。

「選挙は公害反対を前進させた。負けても公害はイヤだという私たちの気持ちは引っこめない」「過激すぎるとか、バカ、気違い、アカといわれた。でも「公害」という言葉も知らないところから私たちは飛び出していたのだから、その時その時にできることを精いっぱいやるしかなかった」

真白に粉じんにおおわれた同市の町並み。このうえ海を埋め立てセメント工場が来たらこの町はどうなる。漁師を夫に持つ彼女たちは自力で留守を守らなければならぬ。「平凡な漁村の女として風成に生きること十分しあわせ。それを守ろうとして飛びこんだ運動で夢がさめた。社会のこと政治のことがわ

かるようになった。今、もう元には戻れない」と婦人会長の中村さん。
(1・20朝日)

カドミウムの痛みで自殺

岡山大学の小林純教授は、群馬県の東邦亜鉛安中工場の元女子従業員で69年八月、列車から飛び降り自殺した中村登子さん(当時二八)の遺体を解剖した結果、「二万PPMを超える異常に多いカドミウムが検出された」と発表。登子さんはカドミウムを薄い箔(はく)にする作業に従事して激しい腰痛や胃腸症状に襲われた。「はらわたを五臓を地面に引き出してたきつけたし 苦痛に耐える」という歌を遺していた。

(2・1朝日)

イタイイタイ病

富山県衛生研究所の調査で、神通川流域のうち三地区で、四十歳以上の三〇―五〇%が潜在

患者であることがわかった。男女はほぼ同数。(4・10朝日)

内部からもチッソ告発

十年前、退職金をはたいて買った約五千株のチッソ株を「水俣病を告発する会」に委任した由良貞子さん(四三)は、元チッソの社員。「会社は加害者。家屋敷をたたき売っても十分な補償をするのが当然」と。

(5・24朝日)

患者ら怒りの集会

「なぜ企業は公害対策に真剣に取り組まないのか」「ぜんそくは地獄の苦しみだ」と公害発生源工場への抗議集会(主催へ川崎から公害をなくす会)で患者やその家族、市民はつきつぎに立って怒りをぶちまけた。認定患者八十五人中二十人が死に、特にこの一か月余の間に五人の死者を数えた川崎市で初めての怒りの集会。(11・7朝日)

愛知全県で一日ノーカー

くるま優先の社会を考え直す「一日ノーカー運動」が、十日愛知県全域で実施された。東京の八王子で始められたのをきっかけに、全国各地にこの運動が広がっているが、全県的に行なわれたのはこれが初めて。マイカー通勤の自粛を主体にしたこの運動では、公務員と一部の会社、工場の従業員が協力、団地などの一般市民のなかにもハンドルを捨て、バス、電車に乗り換えた人もみられた。

(11・10朝日)

差別

活動家の子はお断り

全国全共闘議長代理、鈴木優一さん(三二)昌子さん(三一)夫妻の生後五か月になる長男隆弘ちゃんは、預けられていた無

許可保育所「仲よしの家」から「ゲバ棒を振り回す親の子どもは面倒をみられない」と保育を断られた。都民生局でも初の例とびつくり。(2・2朝日)

女は公務員宿舎に入れない?

国会図書館で、有夫の女性職員は宿舎に入れないことが労使紛争となっている。館側は「立派なご主人がいるのだから、社会通念で」と。しかし神奈川県立病院看護婦公舎には「立派なご主人」を持つ看護婦さんが大勢入居しており、県は増設を計画中という。(2・28朝日)

今も差別が

「女の職場なのに女は下働き。十五年で男は課長、月十二、三万だが女は五、六万。同期の男のためにお茶くみ、掃除……」(デパート勤続十五年)「経理など女のベテランに比べたら部課長も足もとにも及ばないのに男に

だけ高給を……。社会運動にまで発展させないとダメ」（会社秘書）「男に劣らず頑張って重要なポストについたが、二十五歳定年、結婚退職などと身分も保障されず退職金をとるのもむずかしい。国で保障するよう労働省もがんばって」（中小企業の社員）「人手不足で大事にされるようになった」（寮母）「産休、生休、日直宿直拒否など権利をいろいろと主張できるようになった」（元教員）「産休、生休、育休、育児時間は保障され、育児中は特別勤務制度があり一日四時間勤務で賃金の五七％が認められる」（電電公社交換手）など、明るい話題もあり、「人手不足の今こそ声をあげるチャンス」と一同うなずきあった。九日の「東京地方婦人会議」で。

（4・13読売）

まだある「お茶くみ」

女子社員のお茶くみを廃止し

た職場はふえているが、お茶くみ問題は依然くすぶり続けている。廃止した職場では「自動湯沸かし器のセルフサービスは味けない、やはり女性にお茶をだしてもらいたいな」という男性の不満も出ている。一昔前盛んだったお茶くみ論争の行方はどうなっているのだろうか――。

大学院を卒業後、中央官庁に就職した上級公務員A子さんは「お茶くみはただ拒否すればいいというような単純な問題ではないですね。私がやらなければ女の人のだれかがやらなければならぬのが現状。中央官庁ではたいていのところで上級公務員として入った人もお茶くみや掃除をやっているみたい。お茶くみは、女性が補助的な仕事しか与えられていない、遅れた状況の象徴だと思う」と言う。

評論家の樋口恵子さんは、女のほうにも、男の人が働きたいようにとの思いやりからお茶を

出すことは当然とか、お茶をくんでいるのだから男ほど仕事ができなくても……という甘えや、職場にも家庭的なものを求める感じが強くあって「よき時代の妻のイメージ」が期待される女子社員像と重なっていると指摘。東京農工大、日高敏隆教授は、一人の男と一人の女という一対一の関係で相手を見るとき、セックスとか育児とか生物学的分業が成り立つが、そういう相手を異性として必要とする男と女の関係が、そのまま職場に持ち込まれているのではないかという意見。

「たとえば銀行の窓口、デパートのエレベーターの前に、チャイミングな女性を置いている。お客は用事がたせればいいのであって、一対一としての男と女の関係と、社会の場での男と女の関係がごちゃまぜになっているようにですね」

（4・27毎日）

「道徳」の教材、男ばかり

登場する主人公の例を見ると、福沢諭吉、織田幹雄、トルストイ、藤田伝三郎、シュバイツァー、アムンゼン、ガンジー、西行、パスツール、栗本雲、豊田佐吉、岡倉天心、野口英世、児島謙、宮城道雄、高村光雲、高村光太郎、J・ケネディ、リンカーン……。女性はヘレン・ケラー、キュリー夫人、ジェーン・アダムス、カベル女史。

文部省編の中学一年から三年までの指導資料をトータルすると百二十六編のうち女性は二十七。（6・13朝日）

程遠い男女平等

大学四年生の就職は七月が追い込み。しかし女子大生には男子ほど求人がない。大学に張り出される求人表に「女子も可」の赤いハンコは四百枚中約三十。それも「珠算二級以上」「二年以上勤務可能」「英語た

んのう」「自宅通勤」「確かな身元引受人」など。

女子学生が最初に希望した業種の順位は①出版②教育③通信④海・空運⑤公務であったが、実際の就職内定者は①銀行②電気機器③サービス④卸売・小売⑤出版の順。(7・25朝日)

初任給・昇給に格差

大卒女子を採用の三十社のうち、二十一社が職種の違いや女子の勤続年数が短く会社への貢献度が少ないことを理由に男女に差をつけている。経済学者竹中恵美子氏は「労働者全体の低賃金を引き上げ、労働の対価という広い視野から賃金を考えない限り女性の賃金は改善できない」と指摘。(8・1朝日)

奪われた受胎の権利

48年に優生保護法が成立する前には人工中絶が法的に許されず、産みたくない子も産まざる

を得なかった。優生保護法成立後も女の解放の基本的条件である「産む権利、産まない権利」の確立は法的にもまだ女に保障されていない。(もろさわ・ようこ)(8・23朝日)

男性優位 労組の中にも

日本の労組の役員ほとんどが男性。先進的な運動をしている日教組も男性優位が実態。女性の勤続年数が短いことも一因。「まず自分自身の意識を変え、次に自分の働く職場の中を変え、男の意識を変えろ」と食品労連の青婦部長。(8・29朝日)

指導力 理由になお差別

雇用促進事業団の転業研究所長、兼子 宙さんが実施した女性の管理職進出の実態調査の結果では、指導力を理由に昇進差別があるが、研修を受けたり、資格試験を受けるなどの機会均等ははやや進んだ。(9・5朝日)

うっかり産休もとれないの

埼玉県所沢市議会で、女子職員が出産休暇をとると定期昇給が三か月間遅れるという差別を受けていることが明るみに出た。市側は過去五年間に四十三人を差別していたことを認め、「これらの女子職員には権利回復の処置をとり、今後は差別を改める」と約束。労働省婦人少年局は「国家公務員にはそのような例は全くない。法で決められた権利を制限するのは好ましくないと指摘。(12・24朝日)

戦争

毒ガス撤去

米軍沖縄基地に毒ガスが貯蔵されていることが、中毒事故からわかり、琉球立法院をはじめ、原水協など民主団体も撤去を要求してきたが、一月十三日、人

影絶えた美里村からトレイラー五台で移送された。ハワイ南西のジョンストン島で無毒化の方針という。(1・13朝日)

なぜ原爆患者と認めぬ

東京都小金井市の内海トシ子さん(六二)は爆心から一・五キロの広島市で被爆。一昨年十二月認定患者の申請をしたが、昨年十一月厚生省は「却下」とだけ書いた紙切れ一枚を返したのみ。内海さんは却下の理由を教えよと厚相に異義を申し立てる。(1・19朝日)

丸木夫妻の次のテーマ

アメリカでの「原爆の図」展を終えた丸木位里、俊夫妻は、新春早々「戦争と平和」という人類共通のテーマに取り組みはじめている。(2・2朝日)

東京空襲忘れまじ

『へ草の実会』と『ぎくろ』を出

している主婦たちが東京空襲の体験文集を作った。文集の名は『あつい焦土の夜』。戦争を考える起点にと、十九名が45年三月から五月にかけての被爆の体験を書いた。(8・14朝日)

中国核実験の放射能が

新潟大工学部工業数学教室の小林宇五郎教授は、二十日午後二時半すぎに、降った雨のなかから、一cc当たり〇・二七ピコキュリー(平常時平均〇・〇三ピコキュリー)と、十八日に行なわれた中国の核実験の影響と思われる放射能を観測した。(11・21朝日)

ある主婦の戦時日記

東京杉並区の主婦岩田阿喜子さん(六一)は「いまわしい戦争の体験を忘れてはならない」とへ草の実会」の同人誌『十人集』に戦時下の44年の日記を、母の日記とともに連載。当時の

戦局、疎開、身内の出征から台所、衣類などを克明に記録したもの。(12・7朝日)

繁栄の陰に

「楽しみない」と自殺

神奈川県足柄上郡の女性社会員(二五)は「楽しみがないのでおばあさんのところへ参ります」と記して。(1・5各紙)

結婚話きらって姉妹自殺

群馬県沼田市の姉妹(二六、二四)はいずれも今春結婚の予定だったが、姉が結婚に乗り気でなく、同情した妹と焼身心中。(1・6各紙)

空港でひっかかる主婦急増

空港で海外からの免税以外の品物を隠すのは①会社員②会社役員③商店主④主婦。ハンド

バッグやコートのポケットに貴金属を忍ばせる主婦の違反もモレツ。(1・22毎日)

荒かせぎ女親分

警視庁は、花札とばくで二十万円以上をかせいだ暴力団の女親分を逮捕。(1・23各紙)

身支度で逃げ遅れ十人焼死

北海道美唄市の店舗併用住宅が焼け、二階に寝ていた美容院経営者と美容師ら十二人のうち十人が死亡、二人が重軽症。ほとんどが十六歳から二十歳前後の女性で、みんなきちんと服を着て階段にからみあうように倒れていた。(2・1各紙)

主婦とばく

横浜・寿署は花札賭博を開いている主婦五人を現行犯で逮捕。五人は数年前から夫の留守中、ほとんど毎日のように開いていた。(2・6各紙)

捨て子、置手紙と一緒に

足が不自由で、この子を育てることができません——の置き手紙といっしょに、新生児が、東京・新宿の小田急百貨店に。(2・16各紙)

保険かけ社長殺した愛人

和歌山北署は、会社社長に二千二百万円の保険金をかけ、知人に殺人させた社長の愛人(四八)を逮捕。(2・19各紙)

保険かけ主婦毒殺

秋田県下で村議(四八)とその妻(四一)が、営林署作業員の妻(三五)を毒殺。貸した金を返さず、選挙費用に窮して。(3・3読売)

寒夜赤ちゃん捨て

神奈川県下の草むらで二か月ぐらいの女児を発見。気温二度、もう少しで凍死するところだった。(3・5読売)

病死に驚き捨てて？

横浜でビニールに包まれた男児の死体。死因は気管支炎。預かっていた家庭保育福祉員（保育ママ）（三九）は百五十万円持って蒸発。（三・八読売）

四歳児を虐待死

言うことを聞かない、と連日せっかんして。無職の父（二九）と母（二八）。（三・一三読売）

六人目の女兒を絞殺

「姑もいて」と、いわき市の石工の妻（四〇）。（三・一三読売）

独身タイピスト放火自殺

東京の女性（三九）将来に希望がない、と。（三・一三読売）

恋がたきの部屋で焼身自殺

二十八の男を二十三歳に奪われたと、相手の部屋に放火、焼身した四十六歳。東京・練馬で。（三・一四読売）

産褥からひったくり捨てる

妻（二八）に「今の二児でたくさん」とどなってえい児を川に捨てた夫（東京の工員・五〇）（三・一六読売）

青い母乳で死ぬ

下痢で突然死した九か月の乳児を解剖したところ胃から硫酸銅イオンが。近所の工場からの廃液が井戸を通じて母体に…と判明。鳥取で。（三・一八読売）

ローションで炎症

資生堂のセットローションを使ったら顔や手のはれあがったと、船橋市の主婦二人が厚生省に現物を持ち込んだ。（三・二〇各紙）

逃げた妻を刺す

妻（三〇）の実家に押しかけ、妻とその母、弟を刺した元五輪陸上選手（三四）。（三・二九読売）

小児科学会、

森永ヒ素ミルクにそっぽ

十六年待ってやっと許された小児科学会での被災児の惨状発言は、休憩時間の十五分だけで冷たく打ち切られた。「この事件は加害企業と国、自治体がゆ着した処理体制の中で小児科学会の「権威」によって葬られた。だが歴史はあざむかれないし買収もされないだろう」と、発言を封じられた「森永ミルク中毒の子どもを守る会」岡崎哲夫事務局長。（四・四読売）

電気ゴテで虐待

神奈川県浦賀署は、懐かないからと実の子にタバコの火を押つけたら、電気ゴテをあてたりしていた母親を書類送検。（四・六各紙）

飼犬に学童かみ殺される

千葉県岬町で小五の男子がグレートデン三匹に襲われ無残な

死。鳥小屋のように粗末な犬小

屋から出た三匹は狂犬病予防注射もしておらず、飼主（会社員二二）を起訴。（四・一〇読売）また犬が学童襲う

入学したばかりの学童三人がケガ。十二日朝、東京・北区で。（四・一四読売）

また野犬殺人

十三日、千葉県富津町で四つの坊やが。（五・一四読売）

犬害また二件

二十二日、都内で四歳と七歳が負傷。（五・二三読売）

またも犬害

三十日、都内で五歳が二十四針も縫うケガ。（五・三一読売）

おさな妻、自殺

夫が最近家に寄りつかないのを苦にした十七歳。横浜で。（四・一四読売）

女闘士マイト百本

十五日夜、大阪・門真市で指

名手配の石井功子（元教員、二二）を逮捕、マイト百数十本等を押収。（4・16読売）

変心クヤシイ女高生が放火

男友達の変心にイライラしたと県立熊本高校三年生が自供。（4・16読売）

米軍心理戦に加担する日本

「朝鮮語、ベトナム語の宣伝ビラは日本で印刷、小道具の万年筆やラジオは日本製。ラオスで住民に配られた石けんをこすると「自由世界のためにこうしろ」という文字が出たが、これも日本製」——復帰後も沖縄に居座る第七心理作戦部隊の脱走兵、デービッド軍曹が実物を示して証言。（4・17読売）

おばあちゃん急死で二幼児も

孫（一歳、二歳）が風呂桶に取り残されやけどで死亡。二十一日、東京で。（4・23読売）

沖縄で女性殺さる

宜野湾市でバーに勤める女性（二四）が顔を右でなぐられ殺されていた。犯人はバーと一緒に出了た顔見知りの米兵とみられる。（4・23各紙）

沖縄でまた米兵が女性絞殺

暴行後四十二歳を。（5・2読売）

相次ぐ子殺し

岡崎市のメリヤス工場で働きながら三児を育てていた母子家庭の母親（二七）が、粗そうをした末っ子（四つ）をなぐり殺した。（5・8読売）

豊中市の母親（二一）は、生後二か月の長男を「よく泣く」とビニール袋をかぶせて殺害した。（4・26各紙）

無認可託児所で窒息死

九か月児がうつ伏せに寝かされて。八日、東京・豊島区で。（5・8読売）

羣別で女性登山隊全滅

「えぞ山岳会」の三人が九日、凍死体で発見された。自衛隊の訓練ヘリを救助隊と間違え、後を追って。（5・10読売）

母子が公害心中

名古屋市中で小児ゼンソクの一歳を苦に、四歳と母（三四）が入水した模様。（5・13読売）

BHC母乳全国に広がる

二十日都道府県の調査で各県に。大阪府衛生部では基準の五倍と発表。厚生省は発表を渋る。（5・15読売）

不明の娘さん七人公開捜査

群馬県藤岡市の会社員竹村礼子さん（二一）誘かいの疑いで十四日逮捕した高崎市無職大久保清（三六）と若い女性の行方不明事件の関連を追及している群馬県警は、最近消息を断った女性七人について、公開捜査に

踏み切った。この中には女高生二人が含まれている。（5・23各紙）

連続女性誘かい殺人

大久保清は三月以降つかまるまでに「約十人に婦女暴行をした」と自供。大久保に誘われた女性は七十八人にのぼる。（6・1朝日）

女高生自衛

大久保清に殺害されたと思われる女性に高校生三人が含まれていたことは教育関係者に大きなショック。同県下の各高校では、二人以上が組んで「複数通学」を始めた。（6・5各紙）犠牲者ついに八人

大久保清が殺害を自供。遺体が見つかった犠牲者は八人。いずれも十六歳から二十一歳の女性。一人で八人の女性を殺し、しかも死体を土中に埋めるといふ手口の凶悪さは、戦後の日本の犯罪史上初めて。（7・30朝日）

恐ろしい誘い

群馬県下で帰宅途中の女子高生が「お茶でも飲みませんか」という言葉にひっかけられ、車

に乗せられホテルで乱暴された上、東京のバーに売り飛ばされそうになった。(6・6朝日)

女子新入社員自殺

千葉で会社員の女性(二一)がガス自殺。「会社の仕事が満足にできないので仲間に迷惑をかけている」と手帳に。

(6・7朝日)

夫婦げんかの末母子心中

埼玉県東松山市で妊娠二か月の妻(二八)が子ども二人(四、二)に毒を飲ませ自分も自殺。妊娠中の子どものことで夫(三四)に黙って実家に相談に行ったことが原因。(6・8朝日)

沖縄返還協定に調印

十七日、東京とワシントンで

同時調印。二十六年間の念願ようやく成就、復帰は来年早々の予定。(6・18各紙)

高家貧苦に主婦自殺

豊島区の理髪店の妻(三二)がガス自殺。店舗とアパートの家賃に毎月の収入七万円中四万三千円をとられて生活が苦しかった上、店舗家賃値上げの要求を苦にして。(6・23朝日)

ねらわれる団地の幼女

東京・世田谷の住宅団地で白昼幼女が、階段のおどり場や木かげで若い男にいたずらされる事件が続発。(6・25朝日)

老女医療費苦に首つり自殺

三年前の内臓手術以来病院通いの老女(六四)、医療費がかさむのを苦に。(7・17朝日)

銀座に女のスリ集団

東京銀座のデパートの婦人用

品売場で、二日間に十八件(二十五万円)のスリ被害。犯人は女性で数人のグループらしい。(7・23朝日)

(7・23朝日)

こづかいかせぎにおどし乱暴

女子高一年生ばかりの二十五人のグループが十八件のおどしや乱暴、盗みをしていた。髪を切っておどしたり、なぐる蹴るの乱暴。グループのほとんどが中流家庭の子。(8・4朝日)

主婦ひまつぶしに花札トバク

夫が出動した後、買い物に出かけるふりをして近所に集まり花札トバクに興じていた主婦のグループが現行犯でつかまった。負けがこんで預金通帳を持ち出した妻の夫から通報で御用。

(8・22朝日)

ノイローゼの母幼児絞殺

横浜で二十四歳の母が二か月の次男を絞殺。自分もガス自殺

を図ったが死にきれなかった。

出産のため長男を実家に預けていたが、別離を悲しんでノイローゼになっていたもの。(8・31朝日)

(8・31朝日)

ドルショックで自殺

証券取引業の女性(四八)がドルショックで九百万円ほど損をしたことを苦に自殺。(9・6朝日)

(9・6朝日)

オンナ四人指輪盗む

銀座の宝石店で女四人(二五―一五〇)が組んで店員の目をくらまし、指輪(二百十万円相当)を盗んだと築地署に届け。(9・7朝日)

(9・7朝日)

内職捜しの主婦を釣る

架空会社を作り「精力剤を飲んで効能を知らせるモニターをしてくれれば月五万円」とうまい話で内職を捜している主婦をだまし、保証金などの名目で一

人当たり一万五千円をまき上げていた男が逮捕された。

(9・18朝日)

保育先で赤ちゃん墜落死

杉並のベビーホームで生後五か月の男の赤ちゃんがベッドから落ち、頭を打って死亡。園長と十七歳の少女の二人で十二人の子どもの世話をしていた。

(9・26朝日)

ひっぱたいた仕返しに

女高生殴られ重体

スカートからシュミーズが出ていると二度あざ笑った男子同級生を素手で二回なぐった女子高生が、仕返しに棒で頭をなぐられ重体。

(9・28朝日)

無認可保育所で窒息死

豊島区の無認可ベビーホームで生後五か月の赤ちゃんが、うつ伏せに寝ていて窒息死。職員は園長と保母見習の二人だけ。生後二か月から二歳までの幼児

十六人を月一万二千円で預かっていた。認可保育所の欠員待ちでここに預けて二日目のこと。

母親は「共働きでやむをえず預けた。無認可保育所はどこも同じ状態なので、園長だけを責められない。公立や認可保育所の不足が根本的原因」と涙。

(10・6朝日)

自衛官殺害事件で

女性も二人逮捕

陸上自衛隊朝霞駐とん地の自衛官殺害事件で少年二人のほか女子大生二人が強盗殺人の疑いで逮捕された。四人はいずれも日大の学内団体「現代哲学芸術思潮研究会」のメンバー。

(11・19朝日)

歩行者天国で火炎ビン

東京銀座で広報活動中のパトカーめがけて火炎ビンが投げられた。けが人はなかったが、投げたのはミニスカートの若い女

性二人と若い男一人のグループ。(11・24朝日)

女性も目立つ過激派

東京・渋谷駅周辺の交番や民家に火炎ビンを投げるなど、中核派を中心とした「11・14沖縄調印阻止事件」で東京地検は六日、小・中学校の女教師二人を含む百二十人を起訴したが、同地検によれば、①サラシ②女性③笛、これが今度の事件で出て来た特徴。地検が身柄拘置して調べた二百八人中、女性も含めて九十九人が腹にサラシを巻いていたという。(12・7朝日)

海外

〔中国〕

解放された女性たち

「婦人は天の半分を支えてい

る」とは、毛沢東主席の言葉。

中国女性を完全に解放したのは文化大革命。妻や母親が劣等視され、こずき回され、売春させられるなら、またその能力、技術、創意が十分に発揮されるのを阻まれるなら、その社会は健全ではない。地上に天国ができるとするなら、婦人もまた男性と一緒にそれを築いていかねばならないと教え、数千万人の中国女性が文化大革命に参加した。人民公社で生産の各戸割当てが実施された62年から65年にかけて、婦人は再び「家のもの」となったが、文化大革命が始まって、また社会へと進出できた。現在、革命委員会の少なくとも三割の指導者は女性だし、六九年の九全大会の代表の二二%が十七歳から十九歳までの婦人だった。今日の中国では、女の子が生まれるのをいやがるものはいない。結婚後も自分の姓を名乗り、どんな仕事にも男性

同様に就ける。(ハン・スーイン)

(4・13(20朝日))

〔ベトナム〕

夫や息子を返せ

サイゴン市郊外で、約千人のベトナム女性が米国支援下の南ベトナム政府軍のラオス侵入に對して抗議デモ。(2・12朝日)

〔イギリス〕

女の先生勇み足?

英国・バーミンガムの高校教師ジェニファ・マスカットさん(二三)は性教育映画『おとな

になる』にヌードで出演。教育委員会は試写会後、彼女を停職処分に。(4・21朝日)

〔USA〕

やはりきびしい主婦の再就職

アメリカ・カリフォルニア・レーズン協会のホーム・エコノミスト、マーサ・ローラー女史が来日。最近、子育てのあとで再就職したいという希望が日本の主婦の間に高くなっているが、ローラーさんの場合は、この再就職に成功した例。アメリカの再就職事情を聞く「私の場合、資格もあったし、

家で勉強を続けていたの、それ

はほど問題はなかったが、一般には希望どおり就職するのはかなりむずかしいのではないかと。専門分野が家政学なら男性の競争者はいないが、男性と同じ仕事だと衝突しますからね」という答え。アメリカでも、女性にとって労働戦線は、日本と同じように厳しい。(3・17毎日)

女性もバスで反戦デモに

ワシントンの反戦デモは、ベトナム戦争帰還兵のデモにひきつづき、十五万人が参加。学生に加え、労組員、婦人を加え層が広がった。(4・25朝日)

ウーマンリブ大行進

米国婦人参政権五十一周年記念日の二十六日、米国各地でウーマンリブのデモや集会が開かれた。ニューヨークでは六千人の女性たちが「男女同一賃金をよこせ」「妊娠中絶の自由を認めよ」などのプラカードで行進。

(8・27朝日)

リブには勝てず奥さまお火を

全米シガー愛好者協会も長い間、男性会員オンリーだったが、ウーマンリブの波はここにも押し寄せ、シガー愛好女性の入会を認めた。(9・1朝日)

男女で学ぶ家庭科の新時代来たる!

家庭科新時代

— Weからの提案 —

日本図書館協会選定図書

「家庭科新時代へのいわば、船出の書」(日本教育新聞)

半田たつ子編 A5判・三六〇頁・定価二〇〇〇円・送料三〇〇円

二注文は、最寄りの書店に(地方小出版流通センター扱)。ウイ書房に直接お申し込みの場合は、送料をお添えの上振替で
〒103(326)1380 振替東京6159867
ウイ書房

Bank Of Creativity

女性の創造力と社会を結ぶ銀行です。

1964年創業“創意と誠意”がモットー。

主として下記の仕事をお引き受けできます。

●リーフ・ポスターから豪華本までの企画と編集・印刷製本

●講演・座談会等の速記・リライト・取材記事作成

●スライド・映画の制作

●各種調査・マーケティングリサーチ



創造力の銀行BOC

〒160 東京都新宿区新宿1-9-6

PHONE 03-354-3941(代)・密着 東京 3-39331

あごろ可能性 教室にどうぞ

「すべての人は可能性を持つ」を信条に、へあごろでは、女から女たちに伝え合う教室を開いています。お気軽にご参加を(参観歓迎)。

●フェミニストのための英語教室

英語を母国語とする女性とフェミニズムについて楽しく話しながら自然に英語をマスター

●自立の心理学

しまようこさんの指導で自分を見つめ、自分をひらいていく楽しいクラス

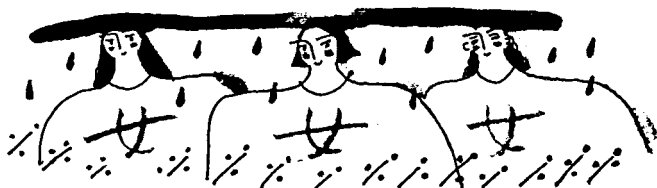
●あなたも編集ができる

少人数で本づくりの基礎から学習と実習を

●その他ほしいコース、

伝えたい方、ご連絡を

1972



二十七年ぶりに沖縄が本土に復帰、横井さんが帰国、戦後が終わったかに見えた年、沖縄では基地従業員の大量解雇、一人の売春婦など深刻な問題が続く。70年代に入ってから、物価・公害等で横の連絡を深めていた全国規模の婦人団体は、参政権二十五周年の71年集会でいよいよ結束を固め、核めき基地ぬき返還を求めて沖縄問題でも果敢に抗議する。が、浅間山荘のTV実況放送は、国民に過激派の恐怖と、権力の強大さを植え付ける。公害はますます深刻化し、ローマクラブが全世界に警告を発し、国連の人間環境会議で水俣病やカネミ油症患者のアピールが国際的な話題となり、おそまきながら各種の環境調査や公害規制立法も進められ、基本的人権としての環境権が共通認識となっていく。沖縄返還に伴う秘密協定報道をめぐり、「知る権利」も話題となるが、外務省の女事務官の人権はじゅうりんされ、女たちは「へ連見さんを守る会」をつくって支える。

アメリカの経済的破綻が拡大する反面、トヨタ自工は年産二百万台を達成、本田技研は米国のマスキー法基準に達する低公害車を世界に先がけて開発、クルマを先頭に日本が貿易大國化する端緒が見え始める。北アイルランド、バングラデシュ、カンボジアと世界の各地で戦火の一方、ニクソン訪中、米ソ新時代も幕明け。女たちは腐敗と汚職の自民党を糾弾して国会解散、社共が急伸する。世界各地で中絶解禁の運動が盛り上がったこの年、優生保護法改悪提案は、リブから大婦人団体までの団結で継続審議に阻止したが、勤労婦人福祉法は成立、育休法は審議未了になる。

〔ブーム〕 同様、Gパン、パンダ、ロマンポルノ、自然食品、電卓 〔流行語〕 未婚の母、産む産まないは女の権利、列島改造、恥ずかしながら、総括、ヘンシーン、恍惚の人

〔本〕 有吉佐和子『恍惚の人』山崎朋子『サンダカン八番娼館』岡田秀子『反結婚論』藤井治枝『誰のための家庭か』池上千鶴子『アメリカ女性解放史』桐島洋子『寂しいアメリカ人』佐多稲子『樹影』田中角栄『列島改造論』 〔歌〕 瀬戸の花嫁、女のみち

〔TV〕 刑事コロンボ、木枯し紋次郎 〔映画〕 忍ぶ川、故郷、軍旗はためく下に、死刑台のメロディー、ゴッドファーザー

〔物価〕 消費者物価指数(70年:100)110.9、食パン1斤60円、白米10キロ1600円、とうふ1丁40円
 〔実質賃金指数〕 女122.5 男117.8 〔パート時間給(全国平均)〕 189円 〔完全週休2日の企業〕 1.0% (労働者数5.8%) 〔初任給男女格差〕 (男子:100) 中卒97.5 高卒93.4 大卒85.0
 〔物故〕 吉見静江(1.3) 久布白落実(10.23) 鎌田貞子(11.15) 河崎なつ(11.16) 平林たい子(2.17) 鍋木清方(3.2) 川端康成(4.16) 伊東深水(5.8) エドガー・スノー(2.15) トルーマン(12.25)

1972年の主な出来事

1. 3 日米繊維協定調印
- 20 原油8.49%値上げ
- 22 E.C. 英・アイルランド・デンマークの加盟調印
- 24 横井庄一、グアム島で発見 (2. 2帰国)
- 26 ニクソン、ベトナム和平 8 項目秘密交渉経過公表
- 30 北アイルランドで市街戦 (血の日曜日)
2. 3 札幌で冬季五輪 (〜2. 13) 実況に女性アナ初登場
- 4 東京・池袋で無認可保育所に行政援助を、のデモ
- 6 参院補選で中村登美当選。女性議員 参14, 衆 8 に
- 8 未決定の四次防の予算計上で国会紛糾
- 10 政府、バングラデシュを承認
- 12 30歳定年の志賀穂子勝訴 (東京高裁)
- 15 『あごら』創刊 (A 5, 96 p. 280円, 2000部)
- 19-28 連合赤軍、浅間山荘に籠城。銃撃戦生中継
- 21 ニクソン大統領訪中、米中新時代に入る
- 〃 新座市に主婦市議誕生 (太田博子)
3. 4 米・日渡り鳥条約に調印
- 7 自衛隊、立川基地に深夜抜き打ち移駐
- 9 自民党、育休法提出。各界に賛否両論
- 10 カンボジア、ロン・ノル首相が賀年首宣に
- 15 山陽新幹線、岡山まで開通
- 21 ロッククラブ、地球資源涸渇・汚染を警告
- 22 通産省 P C B 使用禁止通告。家電業界大あわて
- 22 米上院 E R A (男女差別禁止憲法修正) 可決
- 27 社党、国会で沖縄軍用地補償費用を追求
- 27 制服自衛官 5 人、防衛庁に沖縄派兵即時中止要求
- 31 タイピストの白ろう病を職業病に認定 (札幌地裁)
4. 1 コメに 5 段階の味の格付け。銘柄格差を認める
- 2 総評、労基法的女子保護拡大を提案
- 4 日米空間問題で外務省女事務官と毎日記者逮捕
- 8-9 第11回はたらく婦人の中央集会 (労基法が焦点)
- 9 ソ連、イラクと15年間の友好条約に調印
- 11 芸術院恩賜賞に平林たけ子。院賞に宇野千代
- 12-13 第20回婦人会議「婦人の地位〜その現状と課題」
- 13 米大統領、大統領の議会承認なき宣戦を禁じる
- 〃 <蓮見さんのことを考える女性会> 発足。60名
- 21 アポロ16号月面に着陸。岩石96キロを採取
- 26 政府、優生保護法改正案提出 (経済的理由削除)
- 27 空前の春闘交通ゼネスト。2, 500万人の足乱れる
- 28 名古屋放送30歳定年勝訴 (名古屋地裁)
- 30 5 リブ大会前夜祭 (渋谷・山手教会)
- 〃 最高裁「妻は自賠法でいう他人」と認める
5. 1 老人福祉法改正案成立 (70歳以上の医療無料化)
- 5-7 第1回 5 リブ大会、延べ1, 900名参加
- 13 大阪千日前火事。アルサロの客と従業員118人死亡
- 21 <中年リブ> (小沢正子提唱) 発足
- 22 環境庁、瀬戸内海水質汚濁調査を開始
- 26 初の『環境白書』公害損失年間1兆5, 000億
- 〃 東京で連日光化学スモッグ被害
- 〃 米ソ、戦略兵器削減 (S A L T) に 7 回目に調印
- 30 テルアビブ空港で日本赤軍が乱射
- 〃 この月、パリのリブ大会にポー・ボワール初参加
6. 1 イラク、シリア、石油を国有化
- 〃 18大学の研究者、瀬戸内の 3 分の 2 は死の海と発表
- 5-10 ストックホルムで第1回国連人間環境会議。カネミ油症。水俣病患者ら公害の恐怖をアピール
- 6 銀座で公害反対の「赤ちゃんデモ」
- 〃 ニューヨークで女による女のための映画祭
- 11 田中通産省、日本列島改造構想を発表
- 〃 優生保護法改悪反対リブ集会
- 12 7 婦人団体、優生保護法改悪反対陳情
- 14 中比連結成される
- 15 沖縄返還協定発効。27年の米統治終わる
- 〃 初の女性家裁所長に三淵嘉子 (新潟家裁)
- 16 勤労婦人福祉法成立。所得税法一部改正 (未亡人に寡婦控除)。相続税法一部改正 (婚姻20年以上の配偶者は2, 000万円まで非課税に) 優生保護法改正案は継続審議。育休法は審議未了に
- 17 ウォーターゲート事件の発端発覚
- 23 ボンド変動相場制に。ドル各所で暴落
- 24 最高裁、日照権・通風権を認める
- 26 沖縄知事選。革新・屋良氏が圧勝
- 27 I R A, 英国と停戦
7. 1 勤労婦人福祉法施行
- 3 革新婦人ガボロリスに 5 人目の革新知事 (埼玉)
- 4 南北朝鮮、平和的統一実現で共同声明
- 5 三角大福の争い決着。6日、田中角栄内閣発足
- 20 男70. 17歳。女75. 58歳。北欧に迫る長寿国に
- 〃 女子国家公務員。妊娠中の遅刻早退認められる (28日、地方公務員も)
- 21 チェコで大粛清
- 24 四日市公害で患者側勝訴。賠償額8, 800万円に減
- 26 連日、エニセイ川に世界一の発電所 (600万 Kw) 完成
- 29 環境庁、全国河川・海域の汚濁調査結果を発表
- 30 中国、馬王堆漢墓を公開。2, 100年前の女性発見
8. 1 政府、経済白書で、福祉強化・内需主導型を強調
- 4-5 米軍基地に革新自治体反対。相模〜横浜戦車搬送を学生デモが阻止
- 9 イタイイタイ病、名古屋高裁も患者が全面勝訴
- 15 志布志湾開発。住民の反対で振り出しに
- 〃 森永乳業17年前の責任を認め恒久救済の交渉開始
- 16 東証ダウ初の4, 000円台に (3, 000円台から半年で)
- 22 五輪、人種差別的なローデシアを締め出し
- 25 全米各地で女性のデモとスト
- 26 第20回ミュンヘンオリンピック開幕 (〜9. 11)
- 〃 初の女性による宣誓。旗手のうち 4 人が女性
- 30 南北朝鮮赤十字団初会談。離散家族捜し等合意
9. 1-2 田中・ニクソンハワイ会談。「緊密な協議」を声明
- 5 アブラグエリヤ五輪村テロ。イスラエル中東で報復
- 9 東京地裁、日活ボルノを起訴
- 10 中東危機で国連安保理開く
- 〃 有権者 女3, 806万 男3, 565万 (女が294万多数に)
- 〃 米軍装甲車搬送。負傷双方で400人
- 〃 本木技研低公害エンジン開発
- 28 美濃部都知事、自衛隊戦車の都道通行を不許可に
- 29 日中国交回復。日台条約は終了
9. 30 新宿リブセンター開所
10. 1 リブニュース「この道ひとすじ」創刊。8 p 50円隔月
- 3 米ソ A B M (対弾道弾防衛組織) 条約を批准
- 6 A B C C (原爆障害調査委) 被爆 2 世調査発表
- 9 年 1 兆円を超す四次防を正式決定
- 14 中比連、初の街頭デモ
- 19 フィリピンで元日本兵発見。1人射殺。1人逃亡
- 23 アイヌ文化財連続爆破される
- 26 B 52 120機。グアムから沖縄へ移送
- 28 パンダ (ランランとカンカン) 来日 (11. 5 公開)
- 31 首相、国会で列島改造を強調
11. 1 古河鉦業、足尾閉山に踏み切る (73. 4 月)
- 6 北陸トンネルで急行炎上。30人死亡。719人負傷
- 9 石狩炭鉱でガス爆発
- 13 海洋投棄規制ロンドン条約に79か国が仮調印
- 〃 衆院、福祉・防衛を争点に解散
- 14 婦少審、中高婦人の労働力活用を建議
- 17 国連、東京の物価高は世界一と発表
- 21 東京高裁メーデー事件騒乱罪破棄。84被告無罪に
- 〃 韓国、大統領中心制を認める改憲成立
- 〃 腐敗と汚職の自民党を糾弾し国会解散を要求する婦人集会 (11・19には10万枚のピラマシ)
- 25 タイの反日不買高まる
12. 1 辰野事件 (辰野・辰野署襲撃) 東京高裁で全員無罪に (12月 7 日)。検察、控訴を断念
- 10 衆院選、自・公・民は減。社共急増。共産第 3 党に
- 12 11月の卸売物価2. 3%急騰 (敗戦直後を除き最高)
- 19 ベトナム北爆激化・アポロ計画終了
- 20 結婚退職制で住友セメント鈴木節子、東京地裁で勝訴
- 〃 地方急騰。地方にも波及
- 21 政府、P C B 汚染全国で深刻化と発表
- 22 第2次田中内閣。スビー・組閣
- 23 ニカラグアで大地震。首都潰滅状態に
- 24 住民投票で秋田市長のリコール成立
- 27 自衛隊、立川に強行移駐

風潮

〔進出〕

ここにも女性進出

民生児童委員は現在県下に千三百六十二人いるが、母子保健対策や青少年の健全育成などの面での仕事が多くなっているため、女性委員の増加が目立つ。全委員の三一・八%を占め、前回より十五人増。(1・13四国)

奥さん医博誕生

丸亀市の内田冴子さん(三八)は、子供をかかえた主婦には難しいと言われていた臨床医学部門の論文「眼科領域におけるハビリテーション・リハビリテーションの研究」で見事医学博士に。このほど岡山大学長から晴れの学位授与。交通事故などに

よる中途失明者は心理的な指導や作業能力のテストによって社会復帰に近づけ、立体視できない子供も訓練や機具で救われるという。(1・15四国)

札幌五輪で女性アナ

スポーツ実況に初登場代表取材するNHKテレビでは、三十八人のアナウンサーを、この中に紅一点の女性アナとして、高島多恵子さんが起用されている。スポーツの実況といえ、男子アナの担当というのがこれまでの例で、オリンピック放送に女性アナが登場するのは初めて。(2・1サンケイ)

森田たまバイオニア賞は

新しい仕事をした女性に贈られる第一回「森田たまバイオニア賞」が、東京女子医大助手で登山家の今井通子さんに決定、

三日午後、東京のホテルオークラで授賞式が行なわれた。同賞は、故森田たまさんをしのぶ集まりである「菜の花会」が、贈るもの。受賞した今井さんは、昨年、登山家としてグランドジョラス、六九年にはアイガー北壁の登頂に成功し、日本女性として新しい道を開いた。

(3・4サンケイ)

婦人刑務所長13年ぶり誕生

現職では全国ただ一人の婦人刑務所長が誕生した。これまでは三人目。栃木刑務所管理部長から岐阜県の笠松刑務所長に就任した星野君子さん(五四)。34年、前橋高女を卒業後、東京で一年間簿記学校に通う。36年前橋刑務所に就職、終戦後、栃木刑務所に転勤、三年後和歌山刑務所。このころ女性で初の刑務所長三田庸子さんに比べ、一緒に女性職員、女性収容者の地位向上に取り組んだ。昨年栃木

刑務所に戻る。独身を通す予定だが「私みたいな平凡な女が所長だなんて思いもしなかった」と語った。(3・16朝日)

岐阜県下に初の女子高校長

大垣女子高校の青木時子さん(五〇)。公立高では全国でも二人目。家庭科の充実に抱負。青木さんは42年東京女高師卒、勤務四年で結婚退職、一人息子の成長後再就職した人。(3・28岐阜日日)

教育界にもウーマンパワー

愛知県下で新採用は、小学校76%、中学校61%、小学校長一名と校長補佐一名が誕生したが、二名ともおしどり教員。(3・28中日)

デュナン記章、橋本さんに

国際赤十字最高の栄誉章、アンリ・デュナン記章が日本赤十字囑託の橋本祐子さん(六三)

に与えられることが決まった。

橋本さんは48年に日赤入りし、ずっと青少年赤十字活動を手がけ、60年から昨年まで青少年課長を勤めた人。(4・1朝日)

日本の二女性隊がアタック

「女ばかりで八千メートル級の高峰を征服しよう」という威勢のいい女性グループ二つ。一つは74年春に、世界の最高峰エベレストにいどむ東京の女子登山クラブ。もう一つは同じ時期に、日本人初登頂の山「マナスル」をめざす京都の山岳クラブ「同人ユングフラウ」。

(4・11サンケイ)

花の検事

一挙に五人の女性検事が誕生。法曹界空前の快挙だそうで、PRざらいの法務省がさかんにPRしている。それもそのはず、全国に千百三十二人いる検事のうち、これまで女性検事はたっ

た八人。「鬼」「非情」「冷酷」

など、実態とかけ離れたイメージが先行する検察界で、うら若い女性検事の大量誕生はイメーヂ・チェンジの絶好の素材ではある。十二弁の白菊を型どった真新しい検事バッジをエリにつけた五人。揺れる司法界に春風を持ち込んだことだけは確かのように。(4・12毎日)

芸術院恩賜賞は故平林さん

「多年の業績」に対して故平林たい子さんに恩賜賞。

院賞は女性では宇野千代さん(七四)。女性の微妙な心理のニュアンスを節度ある端麗な文体で描いた功で。(4・12各紙)

宮城県に初の女性課長補佐

知事的一声で、県民生活課に女性の課長補佐が誕生。三浦典さん(四三)は、56年県下女性第一号で生活改良専門技術員の国家試験に合格した人。「女性

でなければできない領域で男の人のじゃまにならずに役立ちたい」と。(4・10河北)

五十七歳の主婦もヒマラヤへ

福岡山の会の会員二十二人が登頂をめざす。うち九人は女性。(4・14西日本)

愛知県に初の女性部長

コロニー中央病院の増田英子医師が同病院指導相談部長に。(4・15中日)

(4・15中日)

都政と婦人のパイプ役に

東京都は十四日、日本婦人権者同盟名誉会長の市川房江さん(七八)に、都政のアドバイザーである「参与」を委嘱。(4・15サンケイ)

(4・15サンケイ)

「もっと婦人議員を」と

第一回赤松賞の中川さん

中川三枝さん(六七)は大正末から婦人運動を続け、地味な

縁の下の役割に甘んじて半世紀を歩いてきた。現在、日本民主婦人の会・副会長。

赤松賞は、戦前、婦人労働運動の指導者として数々の大争議をたたかい、婦選運動にも尽くした故・参議院議員赤松常子さんを記念して、婦人や地域、平和のために長年尽くした「草の根運動家」に贈られる賞。

同賞は、戦後、世界連盟の建設運動を進めてきた都きちさん(六四)にも贈られた。(4・20読売)

(4・20読売)

探検にも進出めだつ女性陣

サンケイ、アドベンチャーズでの応募三百六十件の中から、「シルクロードの夢をさぐろう」という、女性・外国人を含む五人のグループや、「スタンレーの『暗黒大陸横断記』から百年経ったのを機会に、大陸を東から西へ」という女性三人組が当選。(5・1サンケイ)

選。(5・1サンケイ)

破られた女人禁制

青函トンネルに女性見学者

トンネルの神様は女だから、

と女人禁制だった見学に、67年、ある女性評論家がかみついたが、

「現場に縁の深い私たちを入れて」と70年8月、職員、作業員の奥さんら七十人が入坑、71年三月には女子職員五十人も坑内を見学。後のたたりもなく「夫の苦勞を知った」「男たちの仕事を理解できた」と好評。ちなみに本州側(竜飛口)は依然として女人禁制。(5・24道新)

二十五年、がんばりました

婦人議員

参院議院運営委員会は、三十日、加藤シズエ、藤原道子さん(いずれも社会)の二人を、六月二日の本会議で、永年在職議員として表彰することを決めた。「脱第二衆院」を唱える参院は、自主性をめざしてその存在価値が問われているが、ウーマンリ

ブの元祖、加藤、藤原さんを心から祝おうと、超党派で計画している。(5・31読売)

ウーマン裁判所長誕生

女性の進出は難しいと言われている裁判官の職場で、日本では史上初の女性裁判所長が誕生。最高裁の十五日付異動で東京地裁判事から新潟家裁所長に任命された三淵嘉子さん(五七)。「信念にしたがって、いい裁判ができる、そんな雰囲気を作りたいわねえ」と気負わずに抱負を語っている。(6・15毎日)

ふえてきた女性管理職、

だが創造力不足、幅がほしい

新潟地裁に初の女性所長…そういうった女性管理職へは「男の論理に組み込まれて、鼻持ちならない」と若いリブたちは批判する。だが、男性優位の職場にあって、女性の実力を認めさせようというウーマン・パワーは

健在。むしろエスカレートの傾向すらある。勤続年数の伸びも加わって、あたり前の女性」の中でも上昇志向のタイプがふえてきた。(6・22読売)

ウーマンリブの町?

岩倉市では去る五月末、初の女性市議長が誕生、ひき続き市議会議員連会長、市の給食センター運営委員長、岩倉団地(市の人口の五分の一を占める)自治会副会長、事務局長に、いずれも女性が選ばれ、「これでは女上位の町に…」という声も。屋間は圧倒的に女性の数が多い住宅都市・衛星都市のためか?(6・24中日)

氷河調査隊に紅一点

北大低温科学研究所の第二次アラスカ氷河調査隊に、若浜隊長の助手水野悠紀子さん(三〇)が加わり、四十日間の調査活動をする。(6・27道新)

女性チエス・オリンピックに

四選手初めて参加

今秋ユーゴスラビアのマケドニア共和国の首都スコピエで開かれるチエスのオリンピックに、日本の女子代表選手四人が初めて参加する。(8・1読売)

「出場する以上、決して負けられません。日本の女性を考えることは男の人にまかせっぱなし。もっと女性も考えることを身につけなければ」と意気けんこう。(7・11サンケイ)

(7・11サンケイ)

日比谷図書館長に貞閑さん

東京都は、十五日、日比谷図書館長に貞閑晴民生局婦人部長(五三)を起用。08年十一月開館の同図書館第二十代館長に。

女性館長はもちろん初めて。部内から女性局長級が誕生したのも初めて。(7・16毎日)

「私は職場では、男だ女だって考えたことないんです。上野の都美術館の副館長だった経験を

生かして」(7・16サンケイ)

「あとの方(女性職員)のために励みになるだろう、という意味では、今度のこと、うれしいです」(7・16朝日)

張り切る「公募」主婦二人

中野区は二十五日、区長給与等の引き上げを検討する報酬審議会の委員に十人を決めたが、都内唯一の「革新区」らしく、うち二人は公募した主婦十人から抽選で選ぶなど新鮮味を盛り込んだ。(7・26毎日)

女性だけの登山隊

はじめてエベレストに挑む
このほどネパール政府は、75年春のエベレスト登山を日本女性隊に許可した。隊長は宮崎英子さん(三九)。メンバー十四人中の一人渡辺百合子さん(二九)は、三つと二つの子供の母親。ご主人も東京岳人倶楽部に所属、いつも夫婦で山に出かけ

るとき子供たちは両親に預ける。しかし「夫と穂高の岩場に出かけるときには、ザイルパーティーを組まないことにしています。万一のことを考えて子供のために片親でもいてやらなければ」と。(7・30朝日)

さっそうと婦人消防官

二十四日朝、東京消防庁の消防学校で、男性にまじって初の婦人消防官六十人が卒業した。全国から公募の短大、大卒のお嬢さんたちで、平均年齢二十一歳。火事や救急現場には出勤しないが、事業所や家庭の主婦たちにとけ込んで火災予防の指導などをしている。丸の内、神田など十五か所の消防署に配属され、ソフトムードの活躍が期待されている。(8・24朝日)

女ばかり六人

三井銀行の「調査月報」
平均年齢二十二・三歳、入社

後まだ六か月の女性六人が「婦人労働の現状と将来」と題する論文を書き上げ、調査月報に掲載された。

調査月報といえば、経済の動きを調査・分析して産業界に指針を与える重要なカルテで、秀才エコノミストたちの独壇場。いわば女人禁制の感さであった。

六人のヤングレディは、「これだけの大役を任せてくれる三井銀行の『婦人労働の現状と将来』は悪くないようです」と明るい。(10・12サンケイ)

日本女性が紅一点

美容師の世界大会
国際美容家協会(ICD)の創立五十周年を記念して、ベルギーのブリュッセルで世界大会が開かれた。二十か国三十八人の美容師が参加、女性は日本代表の本橋政子さんただ一人。髪型と技術を二日間にわたって披露した。(11・7朝日)

多様化する婦人学級

婦人学級が今曲がり角にきているという。講師の話を聞くだけの会から、行動するグループへ、身近な問題から社会的な視野へ、形も内容も変わってきたからで、最近そこには、主婦の「学ぶことへの意識」の変化も見られるようだ。(11・21日経)

【主婦】

◆勉強

余暇に通信教育で勉強

文部省認定の社会通信教育が見直され、昨年度は百四十余コース、約百三十万人が受講、近年は学生や主婦がきそって利用している。先ごろの修了者表彰式で文部大臣賞を受けた調布市の宮林武子さん(四〇)は猛烈な勉強奥さん。最初、病院勤めの夫が開業するとき役立つようにと、保母コースを選んだ。そ

の後、書道、人形づくり、洋裁コースを卒業。今年は医療経営コースに進む計画。主婦業、出張教授、勉強と忙しいスケジュールの合間にはデニスもする。

(5・3毎日)

中高年婦人の職業講習会大もて再就職の壁の厚い中高年婦人を対象に、大阪婦人少年室と大阪府労働部が開いた医療事務講習会に、定員七十人に対して約十倍の申し込み。「事務の仕事は三十五歳までの制限つき、私たちどこへも行けない」「資格、特技がないため、アルバイト的なことしかできない」「子どもの独立後、と自活できるように」「老後をばんやり暮らすのはつまらない」「自立ということに気づくのが遅すぎた」と参加者の声。(6・6朝日)

ふえる主婦のおけいこと

「アイディア・バンク」(代表

・佐藤慶さん)のデータによると、おけいことに打ち込む主婦が、六〇年代では一割弱だったのが七〇年には三割、ことは五割と急増している。これは、主婦が自由に使える余暇時間の増加と無関係ではなさそう。三十代は趣味と実益、五十代は老後の楽しみが主。(6・24朝日)

花ざかり婦人講座

札幌市教委が婦人文化講座を開設して十年、十九講座、四十八教室は大阪市と並んで国内のトップ。当初は料理、和洋裁など実用が多かったが最近では木彫り・陶芸・手芸などが人気の的。三十四代が圧倒的に多く、終了後プロに転じたり内職する人も多い一方、三か月の終了時には三十人の定員が五、六人に減る講座も。(7・3道新)

「トップ女房」猛勉強

長野県軽井沢、ゴルフ場に囲

まれたホテルを借りきって、毎年、社長さん、重役さんが九日から十四日まで猛勉強。日本生産性本部主催「軽井沢トップセミナー」。ことは「奥さま」にも声がかかった。「これから、外国人とのつきあいがますます多くなる。欧米のご婦人に負けないような慣習を身につけなければ」と主催者。題して「軽井沢トップレディース・プログラム」十九人が参加。(7・12毎日)

「トップ・レディー」という呼称には抵抗を感じます」と言いながらも、ご主人同伴の夫人たちは「トップ・ビジネスマンの苦労もよく理解でき、大変勉強になりました」と満足げ。(7・14サンケイ)

◆主婦パワー

かあちゃん貯金急増

漁協のかあちゃん貯金が急増

して一人当たり十四万九千円。県漁協婦人部では「漁業労働の中で婦人の地位が認められてきたことと、漁業家庭の生活設計が進んできたため」とかあちゃんパワーの進展を喜んでいる。(5・25西日本)

妻の発言力強まる

―離婚の動機に見る―

ひと昔前まで、家裁に夫が申し立てた離婚の動機は「性格の不一致」「家族との折り合いが悪い」などが圧倒的に多く、男性上位は歴然としていたが、昭和四十四年度の司法統計年報を見ると「性格の不一致」について「妻の異性関係」「妻が同居に応じない」などが二、三位に。こうした変化は妻の側から見るとさらにはつきりし、中・高年齢層の離婚率が徐々にふえているのは見のがせない。調査官が事情をきいても「もうあの人に尽くすのはごめん」の一点張

り。かくて夫一人がわび住まいをかこつケースが非常に多くなっている。(8・7日経)

太りすぎも女性上位

「中年女性の三人に一人は太りすぎ」と、厚生省のまとめた四十六年度国民栄養調査で明らかになった。

太り具合を表す指数を見ると一一〇以上の肥満体は男の二十代では全体の約四〇％、三十代で約一〇％にふえ、三十代以降ではほぼ一〇％、五十代では二・七％と減っている。

これに対し女性では一一〇以上は二十代一〇・六％、三十代二三％、四十代三一％、五十代では三七％と二十代の四倍近くになっている。

肥満者には高血圧に悩む人が多く「このままだと心臓病患者も激増するのではないか」と土井厚生省栄養課長は心配している。(8・17日経)

この結果、厚生省では、四十七年度の国民栄養調査は「十八歳から六十歳の女性の、肥満と貧血」を重点テーマに、十一月実施の予定。(8・17朝日)

夫陣痛、時代

ふえる産院付き添い亭主

このところ産院に「付き添い夫」として泊まり込み、妻の陣痛の苦しみを分かち合う昭和二ケタがモレツに増えている。男のツラよごし、と旧世代に慨嘆されようと、実にアツケラカシと二人寄り添っている。

(8・21読売)

流行？主婦のウサ晴らし

「バカもん！ てめえなんぞに用はない。トットとうせやがれ」「シクシク…それでは実家に帰らせていただきます」(昭和初期までの夫婦ゲンカ)。

「こんちくしょう。おれをバカにして…」「あら、そお。ほん

じゃ、ビフテキでもたべに行こうかしら」(現代の夫婦ゲンカ)。けつしてオーバーな話ではない。主婦の「日帰り蒸発」は、飛行機で東京に一飛びしてウサを晴らし、そのうちにUターン。あとはケロリと元のサヤへ、という家出がはまっている。

(8・24西日本)

◆団地にて

幼児教室を運営

名古屋市虹ヶ丘南団地の主婦グループの会が、五年前団地の集会所に開設。先生はお母さんたち、教材は各家庭から持ち寄った古いおもちゃ。「幼稚園に送り出すまでに、たのしみながら集団生活に慣れさせたい」希望で。いま三歳児を中心に四十人が。(6・20中日)

一日農婦引き受けます

親しめる農協へのヘンシンを

ねらう千葉県木更津市の農協に、農家の主婦ならぬ団地のママさんが集団加入し、話題を呼んでいる。全国で初めてのケース。加入すでに二百十人で、新鮮で安い野菜の購入が最大の魅力。農協の建物を利用して料理、お茶、生け花などのサークル活動に出席、密室の孤独から抜け出せる仕組みとあって、生産者と消費者の対話も深まっている。農繁期には「一日農婦」を買って出て、土に親しみながら農家との対話をとプランを練っている。(7・18西日本)

団地に育つか コミュニティ

日本住宅公団の「住まいに関する主婦の意識調査」では団地に住む人の七〇％以上が近所づきあいを望んでいるが、必ずしも住民のつきあいは活発でないところが多いようだ。同じ所に住んでいてもつきあうにはキッカケが必要。主なものは「子ど

もの関係」。住民の共通の問題を通じてつきあいが深まり、新しい地域コミュニティにまで発展させるケースが徐々にだが出ている。

しかし、サークルや自治会の役員になって世話をしようという人がまだ少ない。近所づきあいをそれだけに終わらせず、新しい地域社会づくりにまで伸びるかどうかは、団地住民の気持ちひとつといえそう。

(8・28日経)

◆問題点

ムダはないか八時間家事

七時間五十七分Ⅱ専業主婦の平均家事労働時間である。

同じ調べで41年では最高が八時間四分。家事労働の多くの面が電化、自動化されている現代、主婦の八時間労働にムダはないだろうか、考えてみる必要がある。

①女性の家事労働時間

主婦 七時間五十七分
有職婦人 三時間二十三分
全体 五時間二十六分

②主婦の家事労働の内容

すいじ 二時間五十八分
そうじ 五十六分
洗濯 一時間三分
ぬいもの・あみもの 五十四分
買いもの 四十七分
子どもの世話 一時間七分
家庭雑事 四十分

〈注〉「ながら労働」があるの
で、労働時間の合計は七時間五十七分を超える(NHK世論調査所編「国民生活時間調査・四十五年度」から)

(3・28サンケイ)

女手ひとつ……

母の日に表彰された十四人の
お母さんの手記を読み、表彰され
ない脱落お母さん思った。
中年すぎでの女の職場は狭い。
安定した職場を得た人は顔が明

るく、子どもにもうるおいのある
態度で臨める。したがって子
どもも情緒的に安定する。母子
家庭に安定した職場を与えるこ
とこそ急務ではないか。

(5・12道新)

夫より子に生きがい
都民衛生局が六日、十二歳未
満の子どもを持つ母親二千人を
対象にした「婦人の意識と実態
調査」をまとめた。回答は千八
百五十八人、回収率は九三%。

現在就労中が四割、内訳は自
営業の手伝いが圧倒的。次いで
パートを含む店員や会社勤め、
内職。働く時間は四割が八時間
以内。働く理由は、「家業だか
ら」が中高年層に多く、三十歳

以下の層になると「より豊かな
生活のため」が多くなる。
自営業を手伝う母親のほとん
どが自分で子どもの面倒をみて
いるが、悩みはやはり「接触時
間が少ない」こと。このため母

親の四五%が家事育児のために
仕事をやめた経験を持ち、三分
の二は働く希望をもっている。
そして生きがいは、各年代とも
子どもの成長がトップ。

(6・7毎日)

働き中毒の夫に寛大な妻たち
「私をとるか、政治をとるか」
と妻に最後通告をつきつけられ
て「妻と家族により多くの時間
をさくために」「夫の座」に戻っ
た米政治家。また数か月前、ホ
ワイトハウスに勤めるエリート

の夫を、妻が射殺し、無理心中
を図るという事件も起きて
いる。

働き中毒患者の夫たちへ妻た
ちのこうした造反が続いている
が、モレツ社員が多い日本では、
妻たちのハデな造反はあまり
聞かない。

欧米では生活優先なのに、日
本の妻は「主人と主婦」という
役割を分担し、母と子の結びつ

きは強固だが夫への要求は小さい。亭主は連者で留守がよい」ということばは妻たちの本音ともとれる。(7・14西日本)

母より女

無責任ママふえる

最近、東京、横浜、千葉などの家庭裁判所に目立ってふえているのが、主婦からの「親子関係不存在確認」の訴え。

浮気した妻が相手の男との間に子を生み、夫と別れ、新しい男と同居生活にはいる。さて、その子が幼稚園や小学校にあがる段になって戸籍謄本を取り寄せてみると、その子は前の夫の籍にはいったまま。びっくりして「本当の父親はこっち」と戸籍書き換えを訴えるもの。戸籍上のケジメにルーズな無責任ママの姿である。

申し立てにくるのは八割までがふつうの家庭の主婦、残り二割が水商売勤めの女性などで、

年を追って件数はふえる一方という。(妻に、ほかの男の子どもができた場合、夫からの「自分の子ではない」という法律上の手続きができる期間は、一年以上以内と決められている)

(7・21毎日)

離乳していないのは母親

福岡市の舞鶴幼稚園が阿蘇山の盆地で一人立ち訓練のため二泊の合宿。自然にふれ、体を動かして、自主性を育て、極端に言えば母親の翼の下から子どもたちを離すことが第一の目的。だが、見送りに行つて涙ぐむ母親たちの姿。子どもへのべったりぶりはすこい。

(8・9西日本)

◆内職・パート

もうけ話にはご用心

東京・神田警察署は、内職希望の主婦を相手に保証金や材料

費をだましとっていた男を、詐欺の疑いで逮捕した。神戸市内などでも、最近、ネズミ講方式の通信販売や誇大広告気味の紙ふうせん造り内職が問題になるなど、世間知らずの主婦を相手に甘言商法が横行している。

内職従事者を保護するために家内労働法が一昨年から施行されておき、同法には内職委託者の届け出義務が定められている。労働省婦人少年局の足立婦人課長補佐は「もよりの内職公共職業補導所が労働基準監督署へ照会して、委託業者の届けが出されているか、もし出ていない場合は、募集文面などを持って行ってインチェックくさくないか判断してもらったほうがよい」と忠告。(2・19朝日)

楽しく稼ぐ主婦アルバイト

主婦のアルバイトがふえてきている。職安の窓口にも、このところパートタイマーを希望する

女性の姿がめつくり多くなってきたのも、その現れか。不況、物価高へのささやかな目衛手段とも受けとれるが、「家でボンヤリしていても仕方がない」という一時的な家事脱出組が大半。仕事の内容も「裸電球の下での夜なべ」的なものは敬遠され、「楽しみながら実益を」といったかっこいい職種が大モテ。テレビの番組、CMなどを見ては批評、感想を書いて報告するモニター屋さん。ショッピング知識や地域の問題など暮らしに密着したニュースを提供する地域生活情報紙の配達とニュース提供をするコンパニオン。バンテイストッキングのセールズ。古いブームに目をつけて「リリース」で副収入を得ている主婦。バイト主婦もさまざま。

(3・16サンケイ)

ご用心！内職奥さん

紙のオモチャづくりで高収入

を、の折り込み広告に釣られて北九州一円で被害続出。甘い話にはトゲが。(4・11西日本)

内職紹介に主婦ワンサ

四月から開設の鹿児島市の相談コーナーに、借金返済余暇利用などで殺到。相談に応じ切れず予約制を。労賃は一時間五十―百円。(4・15西日本)

ご用心！内職の、うまい話

婦人の内職者は全国で百八十五万人。また週休二日制で生まれたヒマを、サイドビジネスに回すサラリーマンもいる。ところがこうした内職の、うまい話には、落とし穴のあることが少なくない。国民生活センターでは「一日二、三時間の内職で月収四、五万円なんてことは、特別な技能を持った人以外には、まずないと疑ってかかるべきだ」と警告しているが、苦情は絶えそうもない。(5・2毎日)

「家内労働旬間」実施

手内職保護へ監視の目

このところ主婦の手内職を中心にした家内労働者が全国的にふえているが、はっきりした企業の労働者とはちがっている。面で保護されておらず、主婦が夜おそくまで手内職をしたのに工賃をなかなか払ってもらえなかったり、インチキ内職にひっかかったりする傾向が出てきた。このため二十一日から三十一日まで、主婦たちを守る「家内労働旬間」が全国的に実施される。福岡労働基準局では、デパートや呉服商店などが下請けに出す和裁の仕立物にまで監視の目を光らせることになった。

(5・17フクニチ)

法だけでは解決できぬ内職

家内労働者の労働条件を引き上げるため「家内労働法」が決められたが、実際には「文句があれば辞めろ」と言われるのが

オチ。訴え出たケースは今までほとんどないという。労働者不足から企業の委託の傾向もふえる一方、物価上昇の折、内職を求める情勢も強まる中で法の力だけで条件改善はもともと無理。団結して委託者と交渉するなど内職をする主婦たちの自覚が望まれる。(5・19サンケイ)

一時間の内職収入は百二円

家内労働旬間(二十一日三十一日)の行事として労働省家内労働室は、家内労働者、委託者関係の座談会を開き家内労働の問題点を話し合った。

現在、家内労働者は二百二十万人と言われ、九二％が女性。いわゆる内職的な家内労働者は百六十一万人、一時間当たりの平均賃金百二円。パートタイマー

の百六十八円よりウンと少ない。身分や工賃支払いの安定のため「家内労働手帳」を使うよう労働省では勧めているが、そこ

にも難しい問題があり、抜本的な対策が必要。(5・27毎日)

家内労働手帳もらおう

「委託業者から原材料の提供を受け、その下請けとして製造・加工する人に与えられる」手帳。パートや、知人に依頼された仕立物などは適用されないが、普及率が低い。道内の家内労働者は一万六千人、その九一％が主婦と推定されるが、手帳をもつのは一〇％程度。カベは「税金がかかる」というおそれ。「年収二十八万六千円までは課税されない。ただし二十一万四千円を超えると夫の配偶者控除はなくなるが、それよりも賃金不払いなどを防ぐ効果は大きい」と、北海道労働基準局では指導。

(5・29道新)

ママさんバスガイド

「夕食のしたくに間にあいます。あなたの力を観光発展にお貸し

講料で教えるというふれこみだった。

(7・14朝日)

ストアに職安が「出店」

買物の主婦を「買います」

パートタイムを主婦に紹介あっせんする墨田職安の出張総合相談が二十一日、葛飾区東金町一丁目の東光ストア金町店で開かれた。職業あっせんの仕事は、もはや求職者がやってくるのを役所で待っている時代ではない。職員が出向いて行ってサービスしなくてはという、いわば「愛される職安」をねらったの新作戦。(7・22毎日)

主婦の内職に落とし穴

「簡単なクツ下編みで自宅にしながら安定収入を」と、サイドビジネスの流行に目をつけた巧みな宣伝で主婦をつり、十万円もするクツ下編み機を押しつける新手法が登場、埼玉県大宮消費者センターに苦情が相つ

いでいる。会社の組織や実態がつかめないうえ、東京、神奈川にも同様の苦情が続出しており、近く国民生活センターで被害をまとめ、警視庁、埼玉県警と連絡をとり、対策をねる。

(8・2サンケイ)

責任軽く気も軽く

当世パートタイマーかたぎ

パートタイマーの中には転々と仕事をかえる職場ジプシーもまじっている。責任軽く気も軽く給料袋もまた軽く、それで結構というリラックス組、時間給に十円の差があると聞けばささと職場を移る。経済的理由で働く場合は少しでも有利なほうへ移るのが当然といえる。しかし、職場の環境、通勤の便、仕事の内容など、いろいろな要素を加えないと損トクの判断はつきにくい。思ったほどよくなかったと、もとの職場へ平気でもどってくるというのもパート

の気楽さかと、使用者側は考える。こむ。

(8・11日経)

医療事務大はやり

新しい主婦の内職として、病院や開業医の健康保険点数計算が最近、人気を呼んでいる。通信教育で資格がとれるという手軽さと、月に二日間働くだけで手取り二万円になるという報酬の良さがその秘密のようで、医師、看護婦不足に悩む病院にとっても大助かり。(8・11毎日)

サイドビジネス

「やりたい」が六割

「脱サラ」ブームでサラリーマンや主婦の間にサイドビジネスが大はやり。やりたいと考える人は「できたら…」という人をふくめ五七・七％。主婦では六割強もいる。半面詐欺まがいのインチキ商法にひっかかって泣く人も。(8・15コンピュータ一千人調査より、サンケイ)

ください」——こんなチラシが鳥取、米子両市内とその周辺の家庭に配られている。ガイド不足に悩むバス会社が、主婦にパートタイム・ガイドを頼もうというもの。制服貸与で勤務時間は昼間の四時間。一日二千元。

(6・17朝日)

内職を食った男「ご用

「サイドビジネスをあっせんする」と主婦や会社員から技術指導料を受け取ったまま雲隠れしていた、東京・台東区の「ニッパク」社長勅使河原俊明(三七)は、知人宅に立ち寄ったところを、張り込み中の東京地検特別執行課員につかまった。

勅使河原は昨年十一月、新聞・雑誌に「月収八十万円のサイド

ビジネスをあっせんする」と広告を出し、倒産したことし六月までに千人近い会員を集め、ガラス板に箔を使って浮世絵などを書く作業を、二万円余りの受

紙風船のユメ一億六千万円

だまされた女性五万五千人

「五百円送れば、紙のおもちやぶくりで月収三万六千円になる説明書を送る」と宣伝。申し込みがあると、説明書と同時に、代金引換郵便物で紙風船の作り方のパンフレットと材料を無断で送り、代金三千円と引き替えて受け取らせ、一億数千万円もだましとった男が逮捕された

代金引換郵便物の、引き取り手が代金を払うと渡す仕組みを巧みにつけた手口で、おまけにこの紙風船、器用な人でも一時間六、七個仕上げるのが限度なのに、工賃は一個二円くらい、一日六百五十個つくらないと月収四万円にならない代物だった。だまされたのは主婦をはじめ女性ばかりという。(8・25朝日)

ますますお盛ん主婦パート

家計よりも優雅な生活

都内では、主婦パートの新規

の求人は、ここ数年間、求職者をはるかに上回る。

渋谷職安の窓口からみた最近の傾向は「レジャー資金かせぎに…」という主婦がふえ意識の面でも「家庭にこもりきりになりたくない」「社会とのつながりを」という気持ち強い。子どもに手がからなくなった年配の婦人が多いが、子どもができるまでという若い人も目立つ。

一方、求人側の評判は「職業人意識が低い」と、必ずしもよくない。(10・6朝日)

まだむずかしい主婦の職場探し
栄養士として働いていた私は、出産で二年間職場を離れたが、今にして思えば、ムリしてでも続けていればよかった。

産業界も社会も、働く婦人が力さえあれば責任ある仕事につけるよう方向づけてほしい。三食昼寝つきの一生は、私は望まない。(10・21読売/投書)

日本語の先生に人気

「外国人に日本語を教えています」——大阪市の主婦、中山桂子さん(三五)の投稿に、三、四十代の主婦から「どこで資格を」などの問い合わせが殺到。「先生」として外国人と友達になれ、小遣いも…というのがうけたらしいが。(11・17毎日)

真夜中の主婦パート

「家を建てたい」「車を買いたい」という主婦の心理に巧みにつけ込んで、深夜の午前一時から同八時まで、交代で働かせていた製菓会社を六日水戸労働基準監督署が摘発。(12・7毎日)

◆その他

ママのおモチャ観テスト

母親たちのおもちゃへの関心や買い方をアンケートした「家庭でのおもちゃ調査」の中間集計が、八日、文部省でまとまっ

た。調査でみる限りでは、創造性が育つおもちやに期待をかけた子どもの希望を取り入れ買い与えるという「優等生ママ」の姿がくっきりと浮かび、人気者の怪獣おもちやも落第点。

(6・9中日)

魅力をひき出す努力を

福岡・明治生命ホールで、夕刊フクニチ新聞主催の「奥さま大学」。ご主人の食べたいものを知ろうとする努力こそ妻の魅力、と、料理や服装など楽しい家庭生活へのアドバイスがあった。(6・26フクニチ)

主婦が開いた

ファッション・ショウ

東京渋谷の主婦、田実碧さんは、渋谷区のデパートの一角でモデル、司会、すべてしろうとばかりのファッション・ショウを開催。終演後は予約殺到して大好評。(7・11中日)

母は強し山中に四十三時間

札幌市内の山にキノコ狩りに
いって道に迷った主婦が、二昼
夜ががんばって豪雨の中を生き抜
き救助された。彼女を支えたの
は子どもと夫への愛情。

「主人にすまない。子どもの冬
支度も終わっていない」と、生
への執着をかき立てていた。

(9・25道新)

カアちゃんホッケー特訓中

岩手県岩手郡岩手町にはカア
ちゃんだけのホッケーチームが
三つある。平均年齢三十九歳、
チームメイトは九十人、全員が
農家や商家の主婦。

二年前の岩手国体のとき岩手
町がホッケーの会場となり、以
来ホッケー熱が高まった。この
七月、主婦だけのチームを公募
したら、たちまち九十人が集
まった。

グラウンドは小学校の校庭で
週二回三時間ずつのハード・ト

レーニング。練習時間は夕食の
終わったあとのナイターで、父
ちゃんたちがライト係。やがて
開かれる大会に出場するため、
揃いのユニホームまで作って目
下猛練習中。(10・7サンケイ)

ふえる「外注」女房

家事の電化は進み、主婦の拘
束時間は短くなった。さらに自
由時間を手っとり早くふやすた
め、洗たく、掃除、育児などの
面で徐々に家事の「外注」は進
んでいるが、便利さにおぼれる
と「害虫」女房になりにかねない。

(10・9日経)

韓国の日本人妻

四十四年ぶりに帰郷
「子どもといっしょに暮らした
い」——年老いた母の願いが
実って、戦争で生き別れになっ
ていた韓国の日本人妻が名古屋
で母親と感激の対面。

祖国を離れて四十四年、いま

は五人の子どもの母親でもある
大内カヘデさん(四七)は、で
きれば夫も呼んで、新しい生活
を築きたいという。

(10・21中日)

主婦の話し相手に

物まね鳥の静かなブーム
札幌市内で物まね鳥を飼う家
庭が増えている。

子どもの情操教育と、余暇の
ふえてたいくつしている主婦の
話し相手に飼われているのでは
と、業者は分析。

この「話し相手」代はカゴつ
き一万円也。(10・22道新)

女性の生活記録で

解放運動の混沌打破へ

女性の歴史を、無名の平凡な
女性たち、あるいは二重三重に
虐げられてきた底辺の女性たち
の歴史を記録することによって
立体的にしようとする試みがこ
のところ盛んだ。「サンダカン

八番娼館」「ああ野麦峠」「信
濃のおんな」「母の時代愛知の
女性史」「おんなの近代史」「お
かあさんの百年史」……

(10・23毎日)

何が証明する、主婦の身分

印鑑証明が必要になって区役
所へ行った。登録と同時に証明
書を交付してもらいたかったの
だが「身分を証明するもの」が
なければ、同時交付はできない
という。「あなた名義の預金通
帳か生命保険の証書」があれば
よいのだそうだが、そのどちら
も主人名義である。

もし一冊の預金通帳が私の身
分を証明してくれるのなら、
たった一円でも私の預金を持と
うかしら？(11・25朝日/投書)

戦死の夫の遺体を執念で発見

二十年も沖繩に眠っていた夫
の遺体を、無事帰還した戦友か
ら状況を聞きだし、執念で探し

あてた七別市の執念の妻が、遺骨とともに帰ってきた。

(11・29道新)

雪の保母さん―母親のスキー―
滋賀県にあるスキー場では、大人立入禁止の「子どもバーン」をつくり、幼い子どもたちの世話にあたる。「パパとママは存分にスキーを。お子さんは雪の保母におまかせを」と。

(12・15中日)

〔高年婦人パワー〕

ベビーホテル大当たり

東京・世田谷の七十歳の主婦が自宅で開業して二年半。一日二人限り、一人七千円。申し込み殺到に「かわいい赤ちゃんの世話もできて二重の楽しみ」と「社長」は語る。(3・24中日)

老婦人が「平和の郷」づくり
大津市の「ビワ湖老人の家」

理事長である六十八歳の井上勝子さんは、伊勢市の山中二十一万平方メートルの地に心の傷ついた人のために「開化精舎（ひらげしょうじゃ）」と名づける家を建てた。69年に土地を買い、70年から建設にかかり、このほど完成。建具は中古品。電気、ガスなし、水は家の前後に流れる溪流を使うという。「自給自足の生活をしながら、若者には理想を、疲れた人にはすばらしい生き方を身につけてもらいたい」と。

(5・1中日)

ペン画の沖縄展を開いた画家、

隅山きよみさん

「わが内なる、沖縄展」を新宿の東京ギャラリーで開いた隅山さんは、数年前までは沖縄とは無縁の人だった。子どもが手を離れ、さて、と周りを見まわすと、世の中は大変な方向に向かっていった。一九六八年、沖縄返還問題が始めたことである。

沖縄に関する本をむさばり読み、そのイメージを絵に描き始めた。今度の絵は、彼女が沖縄をどう受けとめているかの証しである。六十歳近くになって、絵に没頭するために家族と別居した。

「私なりのウーマンリブだった。闘争することが好きなんですわ」――三里塚へも立川基地へも行く。デモやビラまきをする六十五歳。(5・2毎日)

老いてますます――神近さん

「わが愛、わが闘い」と題した

『神近市子自伝』（講談社刊）

の出版記念会が九日午後東京霞が関の憲法記念館で開かれた。約三百人が出席。

自伝は、アナキスト大杉栄との恋愛事件など波乱に富んだ八十三年の生涯を振り返り、戦前の婦人運動、戦後の代議士としての生活など多彩な活動をまとめたもの。

神近さんは「誠実さにあふれ

た日本の女にひかれる。後に続く女性たちのため、もっと書きたい」と意欲。(5・10毎日)

がんばってます

――七十三歳で通学指導

その人は小粥ふみさん。昭和十六年から始め、戦中はキャハ、戦闘帽姿で指導したこともあるとか。途中中断したが、三年前からまた始め、大いにがんばっている。(5・10中日)

九十四歳で日本舞踊の発表会

名古屋市の西川友松（本名坪

井とも）さんは五月二十日中京

ホールで踊りの発表会を開いた。

踊りは六歳から始め、結婚後十年で夫を失って以来、ずっと踊りで身をたててきた人。本格的な発表会は、去る53年以来十九年ぶり。(5・20中日)

性解放の必要を説く老婦人

ウーマンリブ大会で若い人々

にまじっていた銀髪の有賀喜代子さん（六三）。不能の長男に代わって二男の子種をもらってくれと土蔵におしこめられる嫁の物語を書いた異色作『子種』で第一回女流新人賞を得た人。夫の反対でその後やむなく筆を折ったが、昨年その夫も死亡、「いまが私の青春」と、第二作『静（とろ）』に打ち込む。

（5・25道新）

八十三歳で踊りの名取に

小谷きくのさん（作家小谷剛氏母室）は、約十年前から日本舞踊を習い始め、今度名取に。

「西川登茂きく」を名乗り、心やすい人たちに無料で教授。「いかにも老人くさい考えの老人、いやですねえ。好きなことやって年齢を忘れなきゃア、長生きできませんよ」（6・22中日）

ガイド・マリイ

「港のマリー」―横浜港を訪

れる外国の船員たちは、親しみをこめてそう呼ぶ。太田みさ子さん（六六）。「横文字が読んでみたい」ばかりに、裁縫学校から、親の反対を押し切って津田英学塾に進学。夜学でYWCA英会話学校に通い、東京・警視庁でのガイド試験に合格したのは二十七歳のとき。四十年近く横浜港でガイドを続け現役を退いた今も、入国手続きや税関検査を手伝う毎日。マリイの人生は、そのままハマの歴史ともいえるようか。（7・13読売）

子どもの話を聞いてあげて

留岡さん（七二）は、東京都児童会館こども相談室担当主事。すでに一万人を超える人々の話を聞いたが、その半数以上が、小学生を中心にした子どもたちからの訴え。「どんなことでも聞いてあげちゃうのよ」という留岡さんは、「バカッ」とどなりたいのに気おくれする子と、

どなりたいのに気おくれする子どもと、相談室で「バカッ」の合唱をしたことがあるとか。あくまで話し相手で解答は出さず、道は自分で選ばせる。

このほど子どもとの人生相談を出版。（11・2朝日）

〔第二十回全国婦人会議〕

婦人の地位・その現状と

課題をテーマに

第二十回全国婦人会議（主催労働省ほか）は十一、十二の両日仙台市で、全国からの代表六十人が四つの分科会に分かれて討議。地元の婦人など三百人が傍聴に。ことしは沖縄からも二名が参加した。（4・13朝日）

女の子の育て方にも問題

家庭分科会での発言。家庭教育の中に男女差別があるのではないかとの意見も。

（4・13読売）

働く女性の第二部会から（リーダーの声）

職場の地位向上には能力、知識が必要。余暇の自由な時間に何を勉強し、獲得するかで決まる。また労働力不足がもっと進めば、婦人の地位も上がるだろう。

〔共働き家庭の声〕

一分でも早く帰りたい。週休二日より一日の時間短縮を。

〔日給の女工の声〕

週休二日で給料がダウンした。

（4・14毎日）

ほんとうに向上したか

〔家庭における婦人の地位〕

専業主婦と、未婚婦人の意識がきわだった対照を。

「家事は楽ではないが、夫や子どもの愛情や感謝で、十分報いられている」

「妻、母として安住しているだけじゃ女の解放はありえない」

〔職場における婦人の地位〕

さまざまな問題を抱えている

ので、熱をおびた現状告発が続出。生理休暇、育児休暇についても意見が対立、問題の複雑さをのぞかせた。

(4・14 サンケイ)

地位向上戦略困難を再認識

相変わらず困難さの再認識だけにとどまって進展はなかった。

(4・14 信濃毎日)

農村にはまだ差別が残る

農村部会Ⅱ老後、跡継ぎに大きな不安。市民部会Ⅱ効果ある発言を育て、政治に発展させる努力を。

(4・14 河北)

向上はみずからの手で

いまさらこんなテーマを、の意見もあるが、とりあげなければならぬところに今日の日本の婦人問題の核心があるとの声もある。その中で出色は瀬戸内さんの講演。責任を他者に転嫁して「その日」を待つ態度への

告発とも受け取れた。

(4・15 中日)

瀬戸内さんの講演に感銘

男性中心の政治が根本原因、

一人でも多くの女性を政治に：が結論になったが、それを告発した、「男が敵ではない」瀬戸内さんの講演に感銘した人も多い。

(4・15 道新)

男性の意識改革が必要

開催地元の街頭録音で多かった意見。しかしウーマンリブには反発。

(4・15 河北)

〔物価・消費〕

物価高に挑戦する主婦たち

横浜生活協同組合消費者委員会「戦う家計簿」を作った。

「今までの家計簿は、項目の立て方や分類の仕方に精密さがたりなかった。私たちの科学的家計簿で、インフレの真犯人を必

ず政府の前に突き出してみせませう」と委員会の婦人たちは意気ケンコウ。

(1・4 読売)

安全豆腐と殺菌剤入り豆腐

東京都西多摩郡羽村町で、一年ほど前から「豆腐戦争」が始まった。町内の豆腐屋さんが作る安全豆腐と、外の業者が持ち込む殺菌剤入り豆腐がそれぞれ約三千丁ずつ。安全豆腐を支持する同町婦人会では「殺菌剤入りの豆腐しかない所では選択の自由はないが、安全豆腐がある以上、すべての主婦がこちらを選ぶようになるでしょう」と自信をもって言う。同婦人会の活動は「かしこい消費者から行動する消費者へ」と題して、社会教育映画のフィルムにもおさめられている。

(1・11 読売)

買うとき一声それ何グラム？

物価高に挑戦して千葉消費者の会は「もう業者の言いなりに

はなっていられない」と昨年暮れから「一声運動」を始めた。これまでハカリ売りの肉などを買うとき見のがしがちだった

「風袋」の重さについて、「お金を払うのは中身にに対してだけ。風袋まで買われるのはかわらない」という態度をはっきりさせようというもの。「それ何グラム？」という一声、千葉県計量検定所のバックアップもあって次第に効きめをあらわしている。

(2・8 読売)

ボロもうけの高級化粧品

千二百円の原価は五十五円

主婦連・地婦連・日本生協連など消費者八団体が原料価格構成分析表を発表、「消費者の夢を食うメーカー商法ときびしく対決する」ことを決めた。

(4・9 道新ほか)

思惑はズレたか「抵抗」？

十日朝からの二七・四％の大

幅なタクシー値上げに、相変わらざるの乗客。東京などの乗車拒否とは違うと、福岡市消費者協議会の富田事務局長は渋い顔。

(4・10西日本)

——しかし一週間後。お客ガタ減り、運転手ハラハラ。くやむ会社。

(4・17西日本)

奥さまも拒絶反応。九二％は「乗らない」(4・21西日本)

違反電子レンジは三銘柄

日本消費者協会の行なった電子レンジの商品テストの結果、電気用品取締法に違反しているものが十銘柄中三銘柄もあり、一般に外観にとられ、性能や安全性の改善はないがしろにされている。(5・5西日本)

ガス代、大幅アップ

シャモジ連反撃の構え
平均的な家庭で四〇％もハネ上がる値上げ申請を東京瓦斯が通産省に提出。消団連、主婦連、

地婦連など消費者八団体はいっせいに撤回を要求する構え。

(5・5サンケイ)

売れました百円化粧品

全国地域婦人団体連絡協議会が大手化粧品メーカーに対抗して、全国のデパートで、スーパーで「ちふれ」を売り出して、ちょうど一年目の十一日、地婦連がこれまでの売れ行き状況を発表した。一年間の販売個数は千五百六十八万一千九百六十個。女性の「お化粧品人口」の二人に一個の割りで使われた計算。三大大手と肩を並べる。

(5・12毎日)

「予想を上回る売れ行き」で、地婦連は鼻高々。

(5・12朝日)

ガッチリと女心をつかんだ結果。

(5・12読売)

ウソつき化粧品締め出し

公正取引委員会の指導で業界

の作った公正規約が先月二十六日から発効され、ウソつき化粧品が締め出されるようになった。

(5・15読売)

衣料が買えないミセス族

国際羊毛事務局がまとめた七一年消費者購入実態調査によると、洋服代の支出が最も多いのは二十代前半で年間四万四千二百十三円、次が十代後半の二万八千二百二十六円。二十五—三十九歳は二万六千八十円、四十—六十歳は一万四千二百円。二十歳前後を断層として洋服型が定着し、ファッションのパターンも変化。(5・19道新)

無公害ウインナー誕生

無着色ウインナーを、との主婦たちの要望で、サンミート株式会社が豚肉七〇％、マトン・豚油ゼロ、添加剤なしの無公害ウインナーを製作し、札幌の市民生協で発売。(5・24道新)

安い野菜を奥さんたちに

毎月八の日に野菜や果物を安く売っている青果商のグループがある。北九州市八幡区荒生田市場の野菜まつりの会の野菜屋さんたち。昨年三月から始め、一年三か月。主婦たちの間にすっかり定着し、人気の的。

(6・1西日本)

通産省、ガス代値上げを認可

アップ率の平均は二・七％というものの、母子・老人家庭など小口利用家庭ほど大きな打撃をこうむるもので、利用する七割近くの家庭にとっては、三〇％以上の値上げを押しつけるひどいもの。(6・27読売)

標準家庭にとっては実質四〇％に近い値上げ。(6・27日経)

過大包装追放の動き

神戸市消費者協会(土井芳子会長)は、主婦たちの手で過大包装をなくすための基準を作り、

業界に働きかけている。

(7・5毎日)

好評の日付入りタマゴ

あるスーパーが売り出した日付入りタマゴが好評。日付から三日すぎたものは生産者に返品する。人手がかかるのでコスト高、日付にごまかしはないかなど問題はあがる。

(7・6日経)

盛況です不用品交換会

さきごろ主婦連合会が開いた第三回不用品交換会には、一般家庭から約五千点の不用品が集まった。家庭で要らなくなった品物に主婦が値段をつけ、ほしいう人に売る仕組み。出品する品物が本当に「不用」かどうか反省できれば、その意義も高まるのでは…。

(7・11日経)

仕入れに消費者の声を

大手スーパーマーケットが北

海道の農産物、乳製品の買い付けに同行する主婦を募集。六日間の北海道旅行を無料でプレゼント、となれば主婦がとびつき

そんな企画だが、主催者は「小売値段の正当性を理解してもらう」という計算、どうやら消費者運動のホコ先をかわそうというものか…。

(7・17日経)

「米価」はやりにくい

——消費者パワー

消費者米価のシワ寄せ値上げに、各消費者団体は反対運動の盛り上げに躍起だがその足並みは乱れがち。消団連の足立農相への陳情に主婦連が欠席したり、会員の六割以上が農村婦人である地婦連も統一見解が打ちだせず、大団結の農民パワーに對し、音なしの構え。

(7・21朝日)

やはりまずい標準米

名古屋市地婦連が試食

「消費者米価が値上がりしたが

味はどうか」と、市地婦連がコメの試食会を開き、標準価格米、自由米、自主流通米の味くらべをした。

一位は自主流通米、いちばんまずいのが標準米。しかし同じ価格でも味にバラつきがあり、「米屋も食べる身になって仕入れて」というのが試食した主婦の声。

(10・6中日)

治療費領収書の長崎方式

明細で主婦の不信一掃

治療費の明細書をもらいましょう——各地の生活学校などで、この呼びかけがさかんだが、長崎市では、医師会が独自の領収書を発効して一年になる。医療問題を勉強する主婦たちとの対話の中から埋まれた全国でも珍しいケース。

(10・10朝日)

アラ、これも寸足らずヨ

一日、東京、千駄ヶ谷で開かれた「品質をよくするための消

費者大会」で、消費者グループの主婦たちが、自ら実施した商品調査とテストに基づいて、ウソツキ商品や品質の劣る商品を

「告発」した。このグループは、財団法人「日本科学技術連盟」の「QC(品質管理)講座」を半年間受講した都内や千葉県下の主婦八人。

(11・2朝日)

だまされまい庶民生活

お米の値段が上がって二か月半。農林省のモタモタ農政や一部米屋のデタラメ販売に消費者は泣かされていると主婦連が十四日、東京・四谷の主婦会館に全国の主婦代表を集めて国や業者を激しく突き上げた。

(12・15毎日)

〔風潮〕

ささやかれる新厄年説

「女の二十五歳って、曲がり角ね。新しい厄年だわ」最近、

〇しの間で新厄年説が盛んにきかれるようになった。二十五歳は、高校出て七年、大学卒で会社に入って三年目。いずれも世に言われる結婚適齢期から、完全に取り残されるかどうかの瀬戸ぎわで、女心が微妙に揺れ動く時期のようだ。

(5・15フクニチ)

府立大阪女大の結婚相談室

公立の女子大生といえば、かなりウーマン・リブ度が高いはず。そこに結婚相談室ができて、しかも三年間に百組がめでたくゴールインという好成績。この制度に多少のひっかかりを感じている先生たちに比べて、学生側からフンサーイの声がある気配はミジンもない。現代の女のコもやっぱり結婚となれば割り切るのか。(7・7サンケイ)

最高よ！雲の上のバイト

富士山吉田口登山道の山小屋

と下界を五合目まで結ぶ電話交換が、こしも山開きとともに始まった。九月上旬まで五合目に泊まり込み、三交代で昼夜を問わないハードな仕事を受け持つのは、三人のアルバイト女性。山小屋の予約申し込み、救助隊や救急車の手配、登山者の安否の連絡、「山の迷子」を各小屋に手配するなど唯一の貴重な通信機関である。(7・11毎日)

夏にかせぐ、脱〇し組

江戸川区の若い女性二人が全国でも初めてという「動く喫茶店」を開業。改造した軽自動車に冷蔵庫や貯水タンクを乗せ、車に取り付けたカウンスターで、コーヒーと各種のジュースをどうぞ、というスタイル。

(7・19読売)

結婚難に悩む女性理容師

かっこよさ、仕事より遊びに価値を求める若者たちに、徒弟

制度の風習が残る職人の世界は敬遠されがち。理容師もその例外でなく、男性より女性理容師が増えてきた現在、結婚問題は意外と深刻。(7・20西日本)

お寺さんも、共かせぎ

お寺のお坊さんは、教員、公務員とかけもちで忙しい。そこで「あなたの代わりにひとつわたしが」大黒さんの尼僧志願がにわかにふえだした。64年一、七九八人、69年二、〇五一一人、71年三、四八五人。これからは「黄色い声」の続絃が、ちまたにあふれそう。(7・30読売)

イルカやトドのトレイナー

六年間、パーマ屋さんに勤めて、美容師の免許をとった女性が、海の動物のトレイナーに転身。福島県いわき市の照島ランドに勤める蛭田くによさん(二一)

一)だ。エサにする魚も大きらいで、さわれなかったほどだが、

転身して三か月、いまではエサ箱を腰につけて、芸を終わったらイルカたちに与える。

(8・4毎日)

被害者も犯人も女性上位

スラれるのも女性なら、スルのも女性！銀座、有楽町など都心を受け持つ築地署がまとめた最近の「スリ白書」は、犯罪の女性化を指摘。(8・28読売)

手づくりはいい？ 困る？

男性の喜ぶ贈り物

一流企業の男性百人を集め恋人からどんな贈り物がうれしいか聞いたところ、一位は「手づくりのもの」であった。愛する女性の心のこもった手づくりのものはうれしい…女性もそう信じて疑わないがはたしてそうだろうか。

デザイナーの中村乃武夫さんの話。「一番困るのが手づくり趣味に合わぬものは置く場所に

困り、捨ててに捨てられず……
相手を困惑させたり、好意の押し売りにならぬよう、くれぐれもご注意。(10・2サンケイ)

オカにあがる海女

「房州海女」の本場で知られる安房郡白浜町の海女さんたちが年々減り、地元漁協関係者は頭を痛めている。若い女性たちが割りの合わない海女さん業をきらって、旅館やホテルのホステスなどに転向していくため、最近の現役組は四十代以上の「あちゃん海女」ばかり。

(10・6毎日)

教育界の静かな交代

「短所」あつたらうより

制度再検討を

女の先生が増えた。とくに小学校では著しく、校長はじめ職員の内割が女性という所もある。産休や結婚退職がもとで、父母たちから「子どもの落ち着きが

なくなった」「女教師はかなわん」とひんしゆくをかつたりもするが、今や初等教育の現場では男の先生は金の卵。もう「女は困る」などとはいっていられない時代に。(10・19毎日)

下町の花嫁さんヤイ!

「下町は花嫁ひでり」という男性にとつては悲しい現実。東京・江戸川区結婚相談所の調査によると「嫁一人にムコ九人」という結果が出ており下町の中小企業で働く花ムコ候補は悩みそう。最近流行している若者の脱都会、いなかへのＵターン現象は、ここいらへんに原因があるのかも……。

(10・19サンケイ)

女の寝正月

小さな田園に残る風習

正月の一日、主婦に息抜きを与える——そんな風習が残されている。

千葉県木更津市から房総半島の内陸、この正月安息日をへ女のひやり」という。山口県萩市から阿武隈川の支流の阿武郡福栄村にも、「女の寝正月」の習慣がある。山村の女にとって、正月だけが唯一の安息日なのである。(12・19読売)

小紋をポップに

伝統には長い歴史のなかで育った丸みがあるし、優しさがあつて、多くの人々の心をなごませてくれる。目下、そんな心の優しさが潮流のように求められ、クラシックルックが大流行。

麻の葉、小桜の江戸小紋にオレンジ、紫、ブルーなどの大きな梅の花柄。伝統の柄のポップは現代的な配色が素敵。日本の味があつて外国の女性にも好評。(10・22読売)

中学一年はウーマンリブ?

十歳から十三歳までは、女子

のほうが一時的に身長、体重ともに男子にまさるといふ時期で「おとなっぽい女の子」と「子どもっぽい男の子」の学校生活が共同して始まるのが中学一年の教室風景。

委員会活動でも男子が主導権を持っているように見えて実は女子の指示で動いていたり、マスコット・ボーイのように動かされている例すらあり、この傾向は年々強くなってくるようだ。しかし、中学二、三年になれば、女子の方が受動的になつていくという。(10・23サンケイ)

相次ぐ子殺し、置き去り……

未婚の母や夫婦仲が悪くなつた母親が子どもを殺したり置き去りにする事件が各地で相次いで起こっている。そのほとんどの理由が「子どもが足手まといだから」というものだが「母親の愛情ほど利己心のない愛はない」と言われた「母の愛」はど

こへ行ってしまったのだろう。

「加害者」はごく一部の母親だが、事件の原因は母親個人にあるのだろうか、それとも、父親や社会により多く責任があるのだろうか。

(11・5 毎日)

きもの学校・満員

伝統美へのあこがれ、美しくなりたい女心……。高まる一方の和服ブーム。それを反映して、着付け教室はウケにっている。

(11・12 毎日)

子ども三人 は宝だが

現在二人の子持ちである父親の七六％、母親の八五％が「もう要らない」と答え、理由として「子どもを少なくして十分手をかけたい」からという。しかし実際に子どもを育ててみるとどうも一人よりは二人、二人よりは三人のほうが、子どもの社会的適応訓練などにはよさそう。「手をかけたい」という少産の

理由は親の論理であって子どもに都合がよいとは限らない。

(11・13 読売)

才女ほどノイローゼに

かかりやすい

ノイローゼという病気は、心のトラブルが結晶したときに現れる。仕事が楽しい、仕事が生きがいと感じるとたんに無理な努力が強いられる。現代の女性に新しい自然らしさを発見する必要があるのではないか。

(東大分院精神科医長平井富雄氏の意見) (12・15 読売)

集会・活動

〔活動〕

未来の総理大臣を

市民の手で生み出そう

昨年暮れ、東京新宿の婦選会

館で「理想選挙推進市民の会」

の幹部会が初めて開かれた。母体は、参院選で「誇り高く」落選した市川房枝さんの推薦会。

市川さんをはじめサラーマン同盟の青木茂さん、婦人有権者同盟の近藤真柄さん、参院事務総長だった河野義克さん、女性電信電話局長の影山裕子さんら、主婦、保母さん、地下鉄職員、菓子屋さん、消費者運動・公害反対運動の人たち四十一人が役員になって、政治団体として届け出た。「出したい人」を推薦し、選挙母体となり、選挙運動を行なうという規約。

その候補者は①無所属で②議会制民主主義、平和と人権の尊重に熱意があり③政策について推薦母体と一致するという三つの条件つき。最初の目標は二年後の東京都議選、それから全国の自治体そして参議院にその手を伸ばそうという。

(1・6 毎日)

女の出世

壁は内なる要求の低さ

大阪で「女性はずえ管理職になりにくいかな」をテーマに日本有職婦人クラブの全国研究会が開かれ、管理職の十一人の女性が苦労話を。仕事と心中するほどの気迫で男性の聖域に割り込んでいっても続く若い人たちがいなくてはせっかくの道も閉ざされてしまうと慨嘆。だがお茶くみやタバコの使い走りでクサクサしている人たちは「女の出世」どう思う。(1・28 毎日)

防衛費よりも福祉予算を

「防衛費増額に重きをおいた72年度予算案を国民の生活と福祉優先に切り替えるよう組み直してください」と二十八日後、主婦連、婦人有権者同盟など全国十七の婦人団体が佐藤首相あてに申し入れたが会見を断られ、三原官房副長官に要望書を手渡した。(2・19 毎日)

日米の婦人有権者同盟会談

来日中のアメリカの婦人有権者同盟の代表団六人は、東京・代々木の婦選会館で、日本婦人有権者同盟の代表と話し合った。有権者の教育や市民の政治責任の自覚を高めることが目的で出発した同盟が最近では消費者運動や中国の国連加盟促進、福祉問題など、活動は大きく広がっており、こんどの来日の目的も、日本経済の仕組みや実態を見る経済問題が中心。(2・19朝日)

悲惨な、沖縄売春婦

「前借金にしばらく、暴力団の見張りがつく」——沖縄売春婦の実態を聞く会が二十三日午後、
「日本婦人会議」の呼びかけで開かれた。田中寿美子、藤原通子参院議員、市川房枝元参院議員、鍛冶千鶴子弁護士ら本土の売春防止法にゆかりの深い人たち約三十人が出席。与野党婦人議員、婦人団体に呼びかけて四

月はじめには「沖縄売春問題と取り組む会」をスタートすることにした。米軍施政権下の沖縄では売防法はなく、売春が公然と認められている。しかし五月十五日の復帰と同時に本土の売防法が適用されることになり、約一万人といわれる売春婦の生活をどうするかが大きな社会問題になろうとしている。

(3・24毎日)

離島の悩み切実

第二回全国離島婦人会議が、このほど東京の日本離島センターで開かれた。過疎、医師不足、牛乳一本五〇円に代表される物価上昇、観光公害などを中心に問題は山と出て、まず、何を解決すべきか、までにはしきれなかったが、離島振興法が施行されて十九年になるのに依然として問題が重くのしかかっていることが訴えられた。

(4・4毎日)

一万超す沖縄の「特殊婦人」

さる十二日、東京・参院会館で「沖縄の売春問題ととりくむ集会」が開かれた。集まったのは、売春対策国民協会、救世軍、在京沖縄婦人会、全職同盟など十七団体百六十人。①前借金の無効②暴力団の撲滅③保護、厚生施設の完備④職業指導とあっせん⑤社会保障充実の早期実現を求めた声明を採択した。

(5・15読売)

「連見免職」の撤回要求

「沖縄密約漏えい事件」で逮捕、起訴された連見元外務事務官の人権を守ろうと作られた「連見さんのことを考える女性の会」(代表、谷民子さん)は十三日午後、代々木の婦選会館で第二回の会合を開き、「元事務官が懲戒免職されたことについて外務省に抗議するとともに処分撤回を要求する」など今後の運動方針を決めた。

(5・14毎日)

72東京婦人会議から

東京都主催の72東京婦人会議がさる七日、台東区の東京文化会館で開かれた。参加した六十六人の婦人は、婦人週間によせて東京都が募集した記念論文の入選者たちで、中年の主婦がほとんど。主婦は一日の大半を家庭で過ごす「全日制市民」だけに、この日の話しあいもゴミ処理から老人ホームまで、具体的な体験を通じた提案が目立っていた。

(6・10読売)

過大包装はごめん

主婦ら業界につめよるムダな包装をなくすにはどうすればいいか。都内の各消費者団体などの主催による、「ムダな包装追放都民集会」が丸の内東京商工会議所で開かれた。

(6・21サンケイ)

沖縄の売春その後

やっと手がつけられた沖縄の

売春問題を本土からバックアップしよう、去る四月に発足した「沖縄の売春問題」とりくむ会」のメンバー約二十人が、今後の活動などについて話し合った。とりあえず、沖縄で更生をめざす女性たちに、前借金はふみたおしてかまわない、更生への勇気をもってほしいなどを訴える啓発活動と一般の人にも関心を求める機関誌発行などにカンパのお金を使うという。

(7・13朝日)

やる気ありそう主婦連

財界、労働界に続いて十四日、消費者パワーマの主婦連が田中首相と初の懇談会を開き公共料金値上げ反対、福祉対策の充実など八項目の要望を申し入れた。

(7・15朝日)

主婦連・首相すれ違い

春野副会長「首相は地下鉄や私鉄の値上げ抑制については

はっきりした答えをしなかったが、消費者米価については、標準米や徳用上米は五年でも十年でも上げないでおきたい」。公害病患者はできれば国で面倒をみたい」と約束した」

首相「あれは断定的な話ではない。こんな誤解を受けるようでは、もう気安く会えない」
「話がくいちがって春野副会長らはガックリ。(7・15日経)

婦人十八団体代表が

首相と懇談

先の主婦連との懇談とは違い、社会党、総評、共産党系団体の代表が参加、テーマにも政治色が強いためか、首相は初めのうちニコリともせず緊張ぎみ。

公害についての質問に「重工業重視のイギリス型から空気のスイス型へ」など、途中からきげんもなおり得意の弁舌。終わって代表たちの感想は「具体的な成果は憲法改正をしないと

いう話ぐらだった」。

(7・17朝日)

夫名義の財産、妻に二分の一を結婚後、夫婦が築いた財産は、夫名義であっても妻の持ち分を二分の一と認めよ――きのう六日、京都で開かれた全国婦人税理士連盟第十五回総会で、こんな項目を含む特別決議が行なわれた。これは会員七人の「夫婦財産について」という研究報告に基づくもの。(8・7読売)

「妻の家事労働は家族への単なる奉仕ではなく、外で働く夫と同等の経済行為として評価しよう」ということは、これまでも各方面で叫ばれていたが、財産権の夫婦対等原則を民法上打ち立てようという具体的な動きは初めて。(8・16サンケイ)

手を結ぶ農協ママと団地ママ
農協各組合の中に婦人部があり、料理、洋裁などのサークル

活動が行なわれてきたが、臨海工業地帯として急速に発展を続けている千葉木更津市の木更津農協婦人部では近くの清見台団地の主婦たちが参加、肌合いのまったく違う主婦人がたが、おけいこことや野菜の取引きなど共存共栄の仲良し運動を実践、稲刈りのお手伝いもの声も出ている。(8・22サンケイ)

第十八回日本母親大会

環境破壊に「母親の抗議」

「生命を生み出す母親は生命を育て、生命を守ることを望みます」をスローガンに第十八回日本母親大会が、二十、二十一の両日仙台市で、全国のお母さん一万三千人を集めて開かれた。

第一日目は、子供、生活、平和、母親運動の進め方を四つの柱に、四十三の分科会討議、二日目の全体会で幕をとじる。

(8・21読売)

講師百八十人を助言者に教育

物価、公害、老人問題、基地問題から婦人の生きがいまで話した。関心が集まったのは教育と公害問題（8・21西日本）「幼児教育」の分科会では、迷う母親、悩む母親の声が出る中で「みんなで話し合い、仲間をつくっていくことで自信を深めよう」という発言に共感。

（8・23サンケイ）

「消費者運動をすすめるために」という分科会が新設され①いのちとくらしを守る消費者運動を②運動を發展させ有害食品を追放しよう③消費者の立場に立った消費者行政を確立させよう④公共料金をはじめとする諸物価の値上げに反対する消費者運動をすすめるよう、など申し合わせた。

（8・23毎日）

エリート女性の集団を率いる

ビナ・ロイさん来日

国際大学婦人連盟。参加国五十四か国。会員数約二十一万人。

有名大学を卒業した婦人たちの世界的組織である。このほど、74年第十八回総会が京都で開かれることに決まり、その準備と視察のために、会長ビナ・ロイさん（インド）が来日した。

（8・23読売）

蓮見さんのことを考える

女性の会

「政府が隠していた事実を国民に暴露するキッカケをつくった蓮見さんがなぜ裁かれねばならないのか。事件の本質をみんなで考えよう」と沖繩「密約」漏えい事件初公判を前に、十一日「蓮見さんのことを考える女性の会」が東京の文京区民センターで開かれ、三百人以上が参加、事件に対する関心の深さを示した。

（10・12毎日）

高速道路に「待った！」

阪神高速道路大阪・西宮線の建設が、尼崎市内で待ったをか

けられた。先月十二日には「公害病の認定地域に高速道路をつくるのは、健康で文化的な最低限度の生活すら奪う憲法違反だ」と、工事の禁止を求める仮処分を申請。そのリーダーとして、工事現場ですわりこみをするのが43号線公害対策尼崎連合会の森島千代子さん、明治四十年大阪生まれ。（10・13毎日）

産む権利で全国各地で集会
優生保護法改正（中絶禁止法）の動きに反対する「闘う女たち」の集会が十五日、東京、大阪、札幌、福岡、弘前の五か所で開かれた。

東京・神田の常盤公園に集まったウーマンリブは約百五十人。〈グループ、闘うおんな〉〈集団エス・イー・エックス〉

〈東京うむうぬ〉などを名乗る様々なグループの主張は「妊娠し、産む産まないの自由は権力でなく、女自身に」「生きるこ

とはセックスすること」

（10・16毎日）

女性10人が子供図書館を

東京・中野区で家庭文庫に働く女性たちが自分らの手で子ども図書館をたてる準備を進めている。

都内にある四つの家庭文庫で働いている人たちが、もっと大きな規模で思いきり子ども読書にとり組むのが願ひ。昨年十一月に発足、いまは毎月一回開くお話の会、小冊子の発行、子どもの本についての相談、昔話研究会などが主な活動の内容。会の運営はいま個人の資金だが、来年、財団法人が設立されれば寄付など資金のメドがつくという。

（10・17読売）

団結スローガンに

全国消費者大会
第十一回全国消費者大会が七八の両日、東京都内の七つの会

場で開かれる。大会には全国の消費者団体の代表約三千人が参加、国鉄運賃値上げ法案反対、再販制度廃止など一年間の活動を総括、今後の消費者運動の進め方について話し合う。

(11・5日経)

「暮らし守れ」66決議

「ストップ・ザ・インフレ、公害」。主婦連、生協連から農協婦人協議会、サラリーマン同盟まで三十二の消費者パワーが結集した全国消費者大会は七日、六会場に千五百人、八日、日比谷公会堂に三千人の代表が集まり、総決起大会。

(11・7／8毎日)

明るい選挙へ

婦人有権者同盟青空集会

総選挙の公示を二日後に控え、日本婦人有権者同盟と理想選挙推進市民の会は、十八日東京・渋谷のハチ公前で、青空集会を

開いた。有権者の主体性と、事前運動の監視や棄権防止を訴えようというもの。(11・18読売)

有権者同盟街頭PRへ

「選択をあやまらないよう、ごいっしょに今回の選挙を考えましょう」——明るく正しい選挙をと、婦人有権者同盟が放送宣伝。

(11・28朝日)

候補者事務所をバトロール

「今度の選挙の費用はいくらであげるつもりですか」

「法定選挙費用がいくらか知っていますか」——日本婦人有権者同盟は、二十八日から都内で

「選挙事務所バトロール」を始めた。

(11・29朝日)

選挙に「金」出さな

経団連にかみつく

理想選挙推進市民の会代表市川房枝さんは、二日、経団連

を訪れ、財界から多額の選挙資金が流れていることに抗議し、政財界のゆ着、金権政治に対する不信等、十五項目の質問を提出した。

(12・2読売)

欠陥ベランダ早く直せ

団地パワー直談判

団地ベランダ欠陥問題で騒がれた東京・町田市の公団鶴川六丁目団地の主婦を中心とする住民約百人が、千代田区九段の日本住宅公団本社に押しかけ、総裁室前の廊下を一時「占拠」。

(12・6読売)

ムード選挙反省しよう

婦人参政27年記念で論議

日本の婦人が参政権を獲得して、この十七日が満二十七年。

婦人有権者同盟などでつくっている七婦人団体議会活動連絡委員会は、参政権獲得以来二番目の高率を記録した「高まった婦人の政治意識」についてパネル討議。パンダやカエル、バトンガールまでくり出しているムード選挙に、自主的に責任ある投票を行なったか、という反省の声が目立った。

(12・17読売)

市ぐるみの愛のスープ運動

年とった親と子ども夫婦同居するには家がせまい、別居するには親の経済力がたりない、ないないずくしの問題を、親子の血縁関係だけで防ごうとしても限界がある。

武蔵野市が行なっている「愛のスープ運動」は、一人暮らしの老人を近隣の他人が見守り支えようという運動。市が一人年間一百万円の予算を計上し地域の主婦のボランティア活動で成果をあげている。(12・27読売)

「グループ」

芦屋に共働きの「城」

十二世帯、みんな共働き。この間まで見ず知らずだった人びとが、「二十万円で自分の家が建つぞ」の呼びかけに集まって鉄筋五階建ての城をとうとう建てた。レールに乗せられた甘いマイホーム主義ではなく、みずから築きあげるネオ・マイホーム・スピリットだ。

毎朝二人の子を幼稚園、保育園に送り届ける夫もいる。「そんなにまでして、なんで共働きを？」城の奥さんたちは答える。「どうして女にだけそんな質問をするんでしょうね。女房の一方的な立ち遅れの上に立って、亭主の解放なんてないわ。まして子どもは……。お金たまっても仕事やめへん」

みんなの願いは、一階の「あゆみ保育園」となって実現。保

育料月八千円、市から四千円の補助を受けている。

(1・1読売)

海辺の団地に散らばる

赤トンボの無数の死がい
昨年六月、千葉県習志野市の袖ヶ浦団地にやってきた赤トンボの大群は、低い松の枝や芝生などにハネを休めた後、ふたたび飛び立つことはなかった。指でふれると、はらりと落ちた。生活をむしばむ何かが進行しているのではないか——団地に女性ばかりのグループへ環境を守る会」が生まれた。

赤トンボが死ぬ前も目やノドの痛みを訴える子供たちがいた。あの日も光化学スモッグ警報が出ていた。子供たちを公害から守るために私たち母親が……と会員の主婦は語る。どんな政党、団体にも属さず母親の立場から行動するという原則以外は規約も代表もない。会員十六人。結

成わずか半年だが、企業進出のために始まった近くの海の埋め立てに反対を叫んで環境庁を訪れたり、市長に会ったり、署名運動を繰り広げたり……二新聞も発行する。(1・15毎日)

婦人会「新生」の方向

役員改選期に際しての意見から「一人一人の会員をたいせつに」「小グループを育成、市民運動の第一線に」「活動の内容に魅力を」「社会に訴えよ」

(4・3信濃毎日)

延べ会員二千人

十四年も活発な活動を続ける愛知県食生活改善協会豊橋支部。不良食品の見分け方や料理講習講演会など毎月の例会はいつも熱がはいる。会費年間千五百円、料理材料費は十回で千五百円。現会員は百五十人だが、今年度は二百人に増員の予定。

(4・7中日)

婦人会の会員に！デモ

「そんなに会員が少ないんですか」と皮肉られながら、「婦人会の転換期なんです」とみずから先頭に立つ六十四歳の佐久市野沢地区婦人会会長鷹野福さん。

(4・7信濃毎日)

婦人有権者同盟

会長に紀平氏を選出

同盟は副会長に松浦三和子、本尾良、伊藤千恵子の三氏、地方副会長に佐伯言子氏をそれぞれ選出。また、「次回衆院選挙を公正に」など七項目の運動目標を討議、「公害企業の無過失損害賠償責任制の政府案反対」「沖縄恩赦に選挙違反者を含める」の二決議を採択。

(5・1サンケイ)

自然に親しむ母と子ら

お金をかけずに野山を歩き、幼児を中心に自然に親しみながら体力をつくろう。札幌、へみ

ちくさ会」は数家族から出発、

いまは三十家族が参加、春秋は月に三、四回。他は月一回の集会。テレビ番組以上の人気。

(5・2道新)

昭和生まれの会長誕生

三十日、日本有権者同盟会長に選ばれた紀平梯子さんは、昭和生まれの四十四歳。50年事務局入り以来、事務局長、副会長と、主婦の政治教育運動一筋。市川房枝、近藤真柄さんに続いて三代目会長に。(5・10中日)

児童演劇は免税に

観劇や読書会、キャンプなどの文化活動を通じて「子どもたちに夢と、豊かな創造性をのばそう」とする福岡子ども劇場の母さんたちが九日から福岡市と周辺部で「子どもたちに見せる児童演劇にまで、歌謡ショウなみの税金がかかります。免税になるよう運動しましょう」と

署名活動を始めた。

(5・10西日本)

好評「仲人の会」

適齢期を過ぎても縁遠い娘さんを持つ母親が、新聞の投稿欄に「同じ悩みを持つ親の意見を」と投書したのは六年前。たちまち反響があり、五十人の親たちが月に一度集まって花婿、花嫁候補の情報を交換し合う「つくしの会」がスタートした。現在、会員四百人。

(5・30読売)

「深大寺文庫」七日開館

三鷹市深大寺のお母さんたちは、子どもたちがもつと良書に関心を持ち、良書に親しむようにと読書運動を始め、「ママさん図書館」をつくった。その熱心さに町内会もバックアップ。スチール製の本箱を提供、同地区の集会場所、深大寺公会堂に開設する。(6・6毎日)

家庭から公害告発

福岡市内の団地の主婦グループが二十四日、「家庭用洗剤についての一年間の調査結果」をパンフレットにまとめた。ほと

んどの台所用、洗たく用の洗剤からABSが検出されたが科学技術庁は無害と結論づけている。皮膚炎や肝臓障害を起こすと指摘する学者もあり、さらに研究を進め「人体に安全で、かつ公害を起こさない洗剤は何か」を検討①台所用には固形石けんかクレンザー②洗濯用には粉石けんか高級アルコール系を使用するなどの結果を打ち出した。

(6・25西日本)

満員札止め、親子劇場

武蔵野、三鷹、調布のお母さんたちの手でへむさしの親子劇場」が誕生、初の試みとして劇団「風の子」を招き、二十八日から三鷹公会堂で公演、親子連れが詰めかけた。「うるおいの

ある広場を母親の手で」という有志の呼びかけは大きな反響を呼んでいる。(7・29朝日)

「比較研究ちびくろさんぼ」

福島市のお母さんグループが、よい本を見分ける目を育てようと、各種絵本の比較を通して民謡や童話の基礎を学ぶ勉強会を月二回ずつもち、討論しあってきた成果をまとめた報告集を出した。現在出版されている「ちびくろさんぼ」のうち、絵本十六冊について文章や絵を原作とくらべたもの。(8・21朝日)

身障児の作業場づくり

母八人、力強く

「身障児のために、健康な人はその力の一部を提供してください」。東京江戸川区の都立江戸川養護学校に通う身体不自由児をもつ母親八人が、こう訴えながら区内でワカメの「行商」を始めた。将来独力で生き抜いて

いくために、不自由な身体でも働けるように作業場建設のための基金集めに。(10・19毎日)

「移動生協」開きます

主婦連が発足して二十五年目の記念行事の一つとして、五日から月末まで東京都内と関東の数十か所で、食料品を中心とした「暮らしを守る移動生協」を開く。新しい消費時代を前進させようという一つの試み。(11・4毎日)

消費者参加の食品づくり

東京都西多摩郡羽村町の、はむら生活学校の主婦たちが、着色、発色、保存の添加物を入れないソーセージ製造を企業に申し入れて成功し、安全食品を共同購入している。

また、立川の生活学校では、バター、マーガリン、無漂白パンをと、積極的に無公害食品の活動を広げている。(12・4読売)

手をつなぐホームヘルパー

「日本家庭奉仕員協会」発足

寝たきり老人や心身障害者児などの家庭を訪問して身の回りの世話をするホームヘルパーの全国組織、へ日本家庭奉仕員協会」が八日旗揚げした。

会長には、長野県岡谷市の飯沢節子さん。(12・10読売)

消費者守りおしゃもじ25年

消費者運動の草分け「おしゃもじ」の主婦連が創立二十五年目を迎えた。十三日、東京、四谷の主婦会館で全国の主婦三百五十人が集まり「二十五周年記念式典」が開かれ、「新しい出発」を誓った。(12・13毎日)

「リブ」

第一回リブ大会から

あたり前の女から女へをスローガンに、第一回ウーマンリブ大会が五日から三日間東京で

開かれ、北海道から鹿児島まで全国約三百人が参加。OL、教師、主婦、中には子連れママも十人ほど。(5・7読売)

日本にリブが登場して一年余、初めての自主的な大会。「どうして女だけが子どもを育てなければならぬのか」を約四百人が討論。(5・6サンケイ)

「目前」の第一回大会。子産み、子育てが一つの焦点。(5・6道新)

七日、初めての男性をまじえた討論会で閉幕。今までがん強に拒否してきた男性を入れたことは「内なる女」の弱さの克服にかなり自信が出てきた証拠かもしれない。(5・10読売)

生活実感のあるリブを

過激なリブから、生活に根ざした問題意識をもつ中年女こそと、約五十人のへ中年リブの会」が発足。(5・5サンケイ)

「どうも若い人の言うことはわ

かんない。中年リブの会をつくらうヨ」。三十日の前夜祭に出席した小沢遼子さんが呼びかけ、第一回の集まりが、二十一日東京渋谷の婦人民主クラブで開かれる。(5・10読売)

女の権利デモ

中絶禁止法に反対しビル解禁を要求する女性解放連合(中ビ連)の三十人ほどの女性たちが十四日、都心を練り歩いた。半数は生物学でメスを表わす記号をつけたピンクのヘルメット、先頭の旗手は目のところだけくりぬいたストッキングで覆面。「政府はビルの販売を禁止、優生保護法を改悪して中絶を締め出そうとしている。産む産まないは女の固有の権利、優保解体まで闘う」とリーダーの榎美佐子さん。(5・15朝日)

赤ちゃんデモ銀座を行く
スウェーデンのストックホル

ムで開催中の国連人間環境会議に合わせて、日本でも連日各地で行事が続いている。六日は午後四時過ぎ東京・有楽町の交通会館前を母親を中心に「赤ちゃんデモ」が出發。「食品公害から子どもの命を守ろう」というスローガンのもと約四十人の母親やおばあさんは人形の赤ちゃんをオンブしたりプラカードを掲げたりして安全食品を要求。銀座の道行く人々にPCB汚染やBHCなど残留農薬の恐ろしさを訴えた。(6・7日経)

職場

「お茶くみイヤよ」

十九日夕、横浜市中区の神奈川県庁内に「お茶くみをなくそう」と書かれたチラシ二千五百枚がばらまかれた。自治労傘下の「神奈川県庁婦人の集い」の

ときならぬ造反。その理由は①毎日二時間もお茶くみに時間がかり、仕事が中断され能率が下がる。②職場女性の地位向上というが、本庁の男子職員はびっくり。(1・20毎日)

華やかな選手のかげに

働く五輪女子通訳の要求

開会式を五日後に控えた二十九日午後、札幌オリンピック選手村で女子通訳代表四人が船津村長に待遇改善を中心にした四項目の要望書を出した。内容は

①練習割当担当の女子通訳(十一人)が十日から二日分の日当六千円の支給を受けたが、後になって「研修期間だった」と返金させられた。再支給せよ②超過勤務手当が五分も五時間も同じ五百円というのは納得できない。時間支給にせよ③人数の割振りとローテーションが不合理で疲労しやすい。合理的な勤務体制を、など。(1・29毎日)

働く女性はぐんと減る

総理府統計局は十日、71年七月現在の就業構造基本調査の結果を発表した。これは、三年に一回行なわれており、国勢調査に次ぐ大規模なもの。今度の結果をみると、有業者(ふだん働いているもの)の増え方が鈍る中で、特にウーマンパワーの減退が目立つ。十五歳以下の女子は、一三・一%から一・五%へと大きく落ち込んだ。また十五・十九歳の女子は三二・三%となり、68年の調査より五・八%低下(男子は五・二%低下)。(3・11朝日)

気になるOLパワー

春闘シーズン到来。ことしはとりわけ不況下の闘争とあって企業と労組の対決も近年になくきびしくなりそう。こうした状況の中で、企業側の交渉窓口となる人事部長たちがひととき関心をよせているのが、OLの動

向。

「ウーマンリブの波に乗って扱いにくくなった」「どういうわけか最近、男子社員以上にしっかりしてきた」など、ビヘービアも多様化時代に入ったようだ。

女子社員の発言力は職種によってかなり傾向を異にする。動きが活発なのは、女子従業員が圧倒的に多い繊維メーカー、デパート関係、銀行、都県庁、学校関係など。しかし労使交渉の執行委員は男子が圧倒的に多い。

東京都の労組連合会組合員の三分の一は女性だが、中執委員三十人は全部男性。社員の七〇%が女性の伊勢丹も交渉委員三十六人中、女性は三人。これではいくら女子社員の要求や行動が積極的でも、企業側に伝わるケースはごく限られる。わが国ビジネスの一端を担うOL族も、企業での行動は至って静かというところか。(3・16サンケイ)

女子賃金の差別

実は労組もかんでいた

ベースアップの配分をめぐり、静岡県の大手の工作機械メーカー東芝機械会社沼津事業所が女子従業員の賃金に格差をつけていたことがわかった。沼津労基署は労基法第四条違反としてとりあえず過去二年間にわたる男子との賃金の差額を精算して支払うよう勧告(4・8朝日)

働く婦人の数二十二万人減

主婦は夫の低賃金を支える産業予備軍というのが、労働省婦人局が発表した昨年一年間の「婦人の現状」によると、不景気とともにこの傾向はますますきわ立ち、ここ十年、働く婦人の数は年々ふえる一方だったのが、昨年はじめて二十二万人の大幅減となった。減反政策などで農業に見切りをつけた農村婦人が大量にやめたり、ドルショック以来の不景気でパートタイマー

や臨時工の首切りがふえ、女子の新規採用が減ったせいとみられる。(4・8読売)

女性保護規定を主題に

総評が主催する「第十七回はたらく婦人の中央集会」が八、九の両日、全国から約二千人の婦人労働者を集めて東京で開かれた。第一日に「働く婦人と労働基準法改正をめぐる」をテーマにしためづらしい構成劇が上演され、ふん囲気を盛り上げた。二日目は、「働く婦人と労基法改正」「働く権利と母性保護」など、十三の分科会にわかれて討議が行なわれた。(4・10朝日)

お別れですバスの子車掌さんのどかなよき時代には華やかな存在だったバスの女子車掌が、全国のトップをきって東京の都心から今年度限りで姿を消す。民営バスでは多摩地区などごく

一部の「山道路線」を除いて一足先にサヨナラしており、都バスも最近の募集難と東京都交通事業再建計画でとうとう完全廃止にふみきった。(4・19毎日)

女性管理職の可否で論争

信州教育への女性の進出を取りあげた投書(九日)に対し、「激職だから女性の登用は当分無理(待合人事、酒席などでの激論・乱闘)」と反論(十三日)がぜん大反響となった。「過去のようななりっぱな婦人教育者は今はいないというが、男子も同じではないか」「管理職は先生全部の投票でめればいい」などなど反論の反論続出。(4・24信濃毎日)

多様化する婦人の労働

新しい時代の労働力開発について、先ごろ経済審議会人的開発研究委員会が発表した報告書の中から、婦人に関係の深い問

題をひろうと――

これまでは結婚まで勤めるタイプが一般的だったが、最近は結婚や出産後も勤める者、復帰する者、中高年になって職につき者など就労タイプが多様化。職業生活期間は延長の傾向。雇用者の三分の一を婦人が占め、既婚者を中心に婦人の職場進出はふえそう。(5・2読売)

OL十年選手の平均値

転勤がほとんどないから社内
の百科事典的存在、男性とちがって仕事は慣れるほど楽になる。いい気になっているうちに年をとり、若い子の結婚退社でショック、海外旅行でウサ晴らしがパターン。貯金はあるが、人生を見つめる目は複雑……(5・10中日)

女性の労働人口減少

就学率の高まりが原因?
総理府統計局が十八日まとめ

た71年度の労働力調査によると、

十五歳以上の人口は七千九百九十一万人で前年度より八十五万人増加。このうち労働力人口は五千七百七十九万人で前年度よりわずかに十万人（〇・二％）しか増えていない。この増加は例年にくらべて目立って低く、中でも女子の労働力人口は千九百九十六万人で三十一万人（一・五％）の減少と58年度以来十三年ぶりの減少となった。

一方、非労働力人口は二千七百九十九万人で前年度より七十二万人増加。女子は七十四万人と大幅に増えている。

（5・19毎日）

働く母に週休二日を

全国民生委員児童委員の四十七年度総会で母と子の福祉を確保するため、「他の勤労者に優先して働く母の労働時間を短縮すること」を決議。

（6・15道新）

——女子国家公務員

妊婦中は遅刻早退認めます
人事院は十五日付で人事院規則を改正、妊娠中の女子職員に二十日からちよびりイキなはからいをする事になった。

しかし、公務員共闘会議では「民間ではとつくの昔から実施中、むしろ遅きに失した」とさんさん。組合からの多年の突き上げをほったらかしにできなくなったのが実情か？

（7・15中日）

地方公務員も遅刻OK

自治省は二十八日、妊娠中の女子地方公務員は遅刻、早退してもよろしい——という通達を各都道府県知事あてに出した。

これは勤労婦人福祉法の趣旨によつて、大都市やその周辺のひどい交通機関の混雑で、妊娠中の女子職員に危険が及ぶおそれがあり、実際に早産や流産が最近目立っていることから、これ

を認めようというもの。個人の事情に応じて遅刻、早退を認めるわけで、一日に一時間をオーバーしなれば遅刻、早退OKとなる。

（7・29日経）

夏を鍛える女性管理職

電話交換手は教員や看護婦と並んで伝統的な女性の職種。ウーマンパワーの波は、ここにも大きくうねり始めている。レジャーの季節をよそに、このほど東京で日本電電公社の女性管理者研修セミナーが開かれた。

こんどの研修者は全国十一プロックの代表二十二名、ほとんどが電話交換から他分野に進み、管理職についた女性たち。勤続三十年、四十五歳前後が中心で既婚者も多い。（8・17読売）

工場を女の園に

育児は付属保育園で

三吉電機（本社群馬県邑楽郡大泉町、資本金二千万円）はト

ランジスタの検査と組立を行なっている女性ばかりの企業。

ここで働く九十人の従業員はすべて東京三洋電機の社員と奥さん。朝、夫を送り出したあと子どもを連れて出勤。会社の入り口でママは右手の工場へ、坊やは左手の保育園へ。午後四時になると、ママと坊やは手を取り合つて家路に。ママさんたちは育児の心配もなくウーマンパワーを発揮。れっきとしたサラリーウーマンとして社会に貢献しているという誇りもあつて働くママさんの顔は明るい。

（8・25日経）

自分の体を知りましょう

働く女性、とくに必要

労働省が主催する「第二十回働く婦人の福祉運動」のひとつとして、このほど東京で婦人職場指導者セミナーが開かれた。

勤労婦人福祉法が施行されて約二か月。約百人が参加して、こ

の法律に盛り込まれている働く婦人の問題点について話し合った。
(9・26朝日)

道庁内に七、八百人

女子の臨時雇

たいてい日給千円くらいで雇用期間は二か月で自動的にクビになり、失保も健保もなく、各部課を転々と渡り鳥のように再雇用されてある。仕事内容はお茶くみやコピーなど。
「結婚までの腰かけよ」と、割り切っているひとも多いため、組合員の取り組みも身が入らない。
(11・17道新)

看護婦さん時限スト

看護婦不足による労働強化反対や平均二十五万円の一時金などを要求して日本医療労組協議会は二十日、日赤など全国二十三の病院、血液センターで統一時限ストを行なう。

(11・19日経)

看護婦に戻ろうとしたが…

重い責任・ひどい労働条件

十余年前、結婚期に看護婦の職を退職し、家庭に入ってしまったが、看護婦不足の声の高い折から、もう一度現代の看護学を学んで社会のためにお手伝いできたらと、潜在看護婦講習会を受講した。

何とか自信もついたが、具体的な労働条件を聞いて、あきれた。私のような主婦の場合パートで一日六時間働いて千二百円。一か月二十四日働いて二万八千八百円。一年働けば三十四万五千六百円となり主人の扶養家族から除かれ、したがって税金面、健康保険などでどれだけプラスが残るだろうと考え込んでしま

う。
いくら老人医療がただになっても、福祉施設が出来ても肝心の看護婦がなければ開店休業。労働条件が悪いから人が集まらない、人が集まらないから労働

条件が悪くなる。この悪循環が続く限り、福祉問題の解決はないと思うのだが…。

(12・4朝日/投書)

看護婦不足で病院事務長自殺

市立川崎病院の事務長が、看護婦確保や待遇改善問題でノイローゼになり自殺。同病院は深刻な看護婦不足のため、先月までに百六ベッドを閉鎖している。
(12・14読売)

法と制度

〔制度〕

育児休暇は一年間

育児休暇制度について、自民党は九日、育児休暇専門委員会を開き、具体化を協議した。席上、内田委員長は①女子教職員および保母、看護婦を対象とす

る②休暇期間は産後休暇に引き続き一年間とする③本人の申請があれば人事管理者は正当な理由がなければ休暇を拒むことができない④休暇中は無給とする。

ただし社会保険の適用、退職金の計算、その他本人の身分上の取り扱いについては別に検討すること⑤休暇期間を終えた場合、職場復帰について不利益な扱いをしない⑥私立学校、その他民間の同種の施設についてもできるだけ育児休暇をとらせるよう勸奨規定を設ける、を骨子とした「試案」を提出した。

(3・10読売)

「難産」です育児休暇

自民党の「女子教職員の育児休暇に関する専門委員会」が二月十日に出したはじめの試案は「女子教員だけを対象に一年間有給の育児休暇を創設する」という内容のものであったが、三月九日大幅に改正され、「女子

教員、保母、看護婦に一年間の育児休暇を創設するが無給とする」となった。これに対して、「公立のしかも三つの職種にしばった理由が納得できない。不公平だ」「一年間無給としているが、応分の手当を支給すべきではないか」「働く婦人の声をもっと広く聞いてから慎重に法制化すべき」など働く婦人の間から異論が続出、同委員会でも収拾がつかないようだ。

(3・24サンケイ)

育児休暇制度

—サンケイ一千人調査

①女の先生に、一年の育児休暇を認める制度が政府や自民党で検討されているが

・お産のために学校をやめる必要がなくなるからよい

20・4%

・女の先生も母親として育児に専念できるから認めたほうがよい

40・4%

・一年間も休まれては子どもの教育にさしさわりがでる

12・4%

・労基法で産前産後の休暇が合計六週間も認められているから、そこまでする必要はない

24・9%

・わからない

2・4%

②休暇中は有給にすべきか無給にすべきか

・有給にすべき

29・1%

・給与は出す必要はないが、研修費などの名目で手当を出す

47・7%

・無給でよい

21・7%

・わからない

1・4%

③育児休暇制度の適用について

・先生、看護婦、保母だけでよい

27・0%

・他の職業の人にも広げたほうがよい

62・4%

・なんともいえない

8・4%

・わからない

2・2%

④育児休暇制度を実施するよりも保育所や乳児院の充実が先だ

という意見があるが

・保育所の充実が先だ

37・8%

・育児休暇制度をつくるほうがよい

52・5%

・どちらともいえない

7・7%

・わからない

2・0%

(3・28サンケイ)

労基法改正要綱案発表(総評)

「現行の労働基準法」は世界の大勢からみて遅れており、労働者を十分保護していない総評は69年以来、現行の労働基準法について検討を続けてきたが、このほどその問題点をまとめ、労基法改正要綱案として発表した。女子労働者の保護についても、現行夜十時から朝五時の深夜業禁止を午後八時から午前七時、現行六週間の産前産後の休暇は八週間にし、これを有給とし休暇を義務づけることが必要だとしている。また、つわり休暇の

保障(創設)、生理休暇は現行法の「生理日の就業が著しく困難な場合」としているのを、削除することなども求めている。

(4・3福井)

勤労婦人福祉法案に問題点

働く婦人はすでに一千万人を超え、その半数以上が既婚者。その婦人たちを守るため労働省が提出した「勤労婦人福祉法案」が今国会で成立する見通し。法律として初めて「育児休業」の言葉を盛り込むなど、主に既婚女性に関係の深い法案だが、総評、同盟等から、働く女性の立場からの批判が出ている。時代の流れの中で提出された法案だが、最近、労働基準法の女性保護規定を再検討すべきだとの意見を出しているときだけに、受け取り方は複雑。(4・4朝日)

骨抜きではないか
結構ずくめだが、あまりにも

抽象的な精神規定のら列。「有給制度はゆずれない」と、日教組奥山婦人部長はふんまんやる方ない表情。「未組織労働者が七百万人もいます。零細企業では育児休暇が首切りになりかねない」(総評山本婦対部長)の声もある。ノーワーク・ノーペイの労働経済の原則からみて無給が妥当の考えも出るが、母性機能が現代の労働力の再生産そのものである点からみると、経済的保障を同時に考慮すべきだったのでは。(4・8道新)

企業は運用に慎重
「時代の方角としては認めるが、あくまで労働者の権利と義務を明確にした上でのことと思う」と、ある企業は、運用には慎重ながら、法案の示す方向は認めている。一方、総評は、努力目標を示しただけで、労基法のように、守らなければ罰せられるという強制法規になっていない

点などで基本的に反対。さらに育児休業では、「選択制、有給制、現職復帰」の三原則を明示するよう修正案を提出している。また育児休業そのものには賛成だが、有給化については「甘ったれてはいけない」というきびしい意見もある。

(4・12サンケイ)

沈黙の評論家たち

育児休暇の具体化は労使交渉に任されたこと、その場合未組織労働者が放置されることなどが問題。いつもなら華々しい論陣をはる婦人問題評論家たちが一斉にノーコメントで口をつぐんだのは異様。(4・9中日)

優生保護法改正の動き

政府・自民党は、人工中絶の認定基準をきびしくする優生保護法改正案を二十三日の閣議で決定、この国会に提出する。

(5・22各紙)

今度の改正は長年のガンとされてきた「経済的な理由」の項目を削除すること。関係者は、「優生保護政策の大きな前進」と評価。

(5・22読売)

この法律が通ると、医師は純粹に医学的な立場から母体の健康に影響があるかどうかを考えることになり、「裁量権」の範囲が広がるともいえる。アメリカのカリフォルニア州法などでは「母体の健康に相当な危険があると認めた場合は例外として」認めており、審査は、別の二人以上の医師の審査も必要。ただ米・仏では、中絶自由化のリップ運動が活発で、問題の背景は複雑。だが現在の日本の実情は異常であり、その意味で法改正は一理あるがそれだけで片づく問題ではない。(5・24読売)

母子福祉貸付アップ

厚生省は、母子家庭を対象とした母子福祉貸付金の金額を

アップするなど母子福祉法施行令の一分改正を決め、三十日の閣議に提出する。(5・30読売)

改正案に反対声明

改正は「国民生活を無視する暴挙」と日本家族計画連盟(古屋芳雄会長)が八日反対声明を出した。「人工中絶は国民が不安定な現代生活に適応しようとする最後の生活の知恵。中絶の『最大の動機』を削除すべきでない」と、声明書を衆参両議員・厚生省・学者らに配付。

(6・9毎日)

安心して産める対策が先

「侵略・差別と戦うアジア婦人会議」の世話人松岡洋子さんから十人が八日、保護法改悪反対のため国会に請願、同時に斉藤厚相に陳情、法律いじりより住宅を作った公害をなくすのが先決と、つめよった。

(6・9道新)

中絶禁止にリブが集会

「産みたいのに産めない世の中じゃないか」リブの女性たちが中心になって、東京で「中絶禁止法」に反対する女の集会を開き、デモをする。

同改正案には、「人工増大をまねく危険性がある」とする国立遺伝研究所の松永人類遺伝部長らの意見書や、日本家族計画連盟の「改正反対声明」など批判が起きているが、女性たちによる反対行動は初めて。

(6・10朝日)

優生保護法で七団体要望

日本基督婦人矯風会、日本婦人有権者同盟など、七婦人団体が参加している議会活動連絡委員会は、今国会に上程された優生保護法の一部改正について検討した結果「改正点は生命を産みはぐくむ女性の立場からは十分に納得できない問題を含んでいる」として十二日午後、衆院

社会労働委員会に慎重審議を申し入れた。これは改正を会期末のどさくさのうちに成立させないことをねらったもので、今後婦人の意見を十分きいてほしいと要望。

(6・13日経)

優生保護法の行方

十一日、東京・神田で約二百人の未婚女性や若い母親が集まった。リブ主催の「中絶禁止法に反対する女の集会」。「人間の住める社会で生きたい！産みたい！」がスローガン。「受

胎は個人の自由」「公害、PCB母乳、狭い部屋、ギリギリの生活、これで産めるか」「禁止はモグリ中絶をふやすだけ」「子宮の管理は人間総管理につながる」と一時間にわたり討論。今後「リブ・センター」をつくり自由に中絶できるように「中絶預金」したり、安心して中絶をまかせられる医師を紹介することなどを決議、デモ行進した。

年間中絶数は55年が百十七万件、その後漸減したが、70年度でも七十三万件、労働力不足を気にする産業界から「経済的理由」が元凶、とやり玉にあげられていたもの。「胎児の生命尊重」をかかげる宗教団体の声を背景に改正の動きが出たわけだが、女に選択・決定権があるとする「産み側」の反対意見は強い。厚生省案は世界の潮流に逆行といふかる論議が出るのも当然か。

(6・13、15朝日)

勤労婦人福祉法案のみ成立

今国会で婦人の関心を集めていた三法案のうち、勤労婦人福祉法案は成立、反対論の多かった優生保護法改正法案は継続審議。また日教組が六年がかりで努力してきた育児休暇は廃案となった。

(6・20読売)

スタートした福祉法

育児休業やつわり、通院休暇

などを盛りこみ、働く女性の職業と家庭の調和を目ざした勤労婦人福祉法が一日から施行されたが、労働省は法律の効果的な運用や来年度の予算獲得のため具体的に動きはじめた。

(7・11朝日)

活用しよう勤労婦人福祉法

中高年婦人労働力の安上がりな狩出しに手をかすだけ」と反発していた総評も、いくつかの修正と付帯決議で保育所設置の促進などが配慮されたので、罰則がなく強制力がない甘さを目指しながらも「成立した以上、前進的な面は活用していく」(総評山本まさ子さん)という方針。

(7・18朝日)

〔裁判〕

“三十歳定年”の壁破る

“女子三十歳定年制”によって解雇された女子社員が会社を

相手に争っていた「地位保全仮処分事件」について、十二日、東京高裁民事十六部で和解が成立、志賀穂子（すいこ）さん（四一）は約五年ぶりに職場復帰することになった。和解条件は①三月十三日から元の職場に復帰する②会社は解雇期間中の給与、合計約三百六万一千円を支払う、で、志賀さん側の主張が全面的に認められた。

志賀さんは日産工機会社で一般事務職員として働いていたが「女子社員は三十歳で定年」という組合との協定により、67年三月、三十歳以上の他の女子社員七人と一緒に解雇されたもの。なお昨年同社では「女子社員の定年を一般なみの五十歳とする（男子は五十五歳）」と労協協定が行なわれた。（2・12毎日）

タイピストの白ろう病

職業病と認定

タイピストとしての激務から

白ろう病になり、解雇された磯田和子さん（三八）が「職業病だから当然労災保険を適用すべきだ」と、その支給を拒んだ札幌労働基準監督署を相手どって「療養補償不支給処分取消し請求訴訟」を起こしていたが、札幌地裁は三十一日「労災保険法による療養補償不支給の処分を取消せ」と原告側の主張を全面的に認める判決を言い渡した。これまで「白ろう病」はチェーンソーなどの振動工具を使う造材作業員の職業病として認められているが、事務系労働のタイピストが認められたのは全国的にも珍しいケース。

（4・1毎日）

名古屋でも勝訴

女子三十歳定年は無効と、名古屋地裁が初判決を言い渡し、名古屋放送を相手どった大木捷代さんの勝訴となった。

（4・28中日）

自賠法「妻は他人」

初の最高裁判断

夫婦が自動車損害賠償保障法のいう「他人」にあたるかで争われていた損害保険金請求事件で、最高裁第三小法廷は三十日午前「妻は他人」とした二審の東京高裁判決を支持、保険会社の上申を棄却して、治療費十六万一千円の支払いを命じた。

（6・1西日本）

夫の運転する乗用車が川に転落、同乗の梅津砂江子さんは足を折り、六か月のケガをしたので、自賠法の規定にもとづき、東京海上火災保険会社に治療費、慰謝料など合計三十万円を請求、同社が「夫が同乗の妻にケガをさせた場合、保険金は支払えない」と拒否したものを。

（5・30毎日）

主婦の家事は職業労働と同じ交通事故で家事労働ができなくなった主婦に逸失利益が認められるかどうか争われていた

損害補償請求訴訟で、三十一日名古屋地裁民事三部は「炊事洗たくなどの主婦の家事労働は、外で働く女性とそう変わらない労働とみなされるべきで、その給与は全産業女性平均給与の八割に相当する」との判断を示し、訴えた名古屋市の主婦の中川幸子さん（三七）の逸失利益を認める判決を。

主婦に「休業補償」なし

家事専門の主婦が交通事故でけがをした場合、いくら休業補償をもらえるか交通事故で家事労働ができなくなった主婦、京都市・岡田直子さん（三〇）が女子労働者の平均賃金を元に六万余円の休業補償を求めている訴訟で京都地裁民事四部古崎慶長裁判官は十九日「立証する証拠がなく算定できない」と休業補償を認めない判決を言い渡した。

（7・20毎日）

共働き奥さん、会社に勝つ

結婚式の翌日、職場結婚した夫が他に配転され、長男の出産直後には本人も配転を命じられたうえ、拒否すると解雇された奥さん。「不当処分だ」と地位保全の仮処分を申請して三年半、

横浜地裁民事二部は二十四日、訴えを認める判決を言い渡した。

訴えていたのは横浜市の東洋鋼板の研究所職員、立中修子さん（二八）。

この日の判決では「修子さんが結婚、出産後も退職しないため、合理化で職場がなくなったのをよいことに配転させ、労働意欲を失わせることで退職させようとしたものである」として、復職と解雇後の給料約百二十四万円を支払うよう命じた。

（8・15毎日）

歩道橋訴訟の主婦敗訴

渡辺さん（四九）は、高熱の子を乳母車にのせて病院に行く

途中、歩道橋にはばまれたことが動機で歩道橋訴訟を決意した。

訴えはしりぞけられたが、敗れてなお闘志満々、「弱者を犠牲にした交通対策はおかしい」と、第二次訴訟を考慮中。

（9・22中日）

公害に主婦勝訴

工場からはき出されるばい煙、騒音、振動に悩まされた住民が訴えをおこしていた利川製鋼公害訴訟は十九日、名古屋地裁で大気汚染では初めて差止め請求が認められ、総勢二百七十七人の原告に対する慰謝料が確定した。原告の主婦たちは屈折した怒りが喜びに変わった時も一瞬、静かなどよめきが延内に響いただけだった。

（10・19毎日）

疑わしきは回収せず

サリドマイド訴訟の第三十九回口頭弁論が十五日、東京地裁民事三十一部で開かれ、当時の

厚生省課長が被告の国・会社側承認として出廷、「サリドマイド剤が奇形を起こすという科学的根拠が確定されなければ、厚生省としては販売停止や回収を会社側に指示するなどの行政措置をとるつもりはなかった」と述べた。

（11・16日経）

「堀木訴訟」きつかけに

児童手当と福祉年金併給
厚生省は、これまで禁止されていた児童扶養手当と障害・福祉年金の併給を、来年度から認めることを決めた。

これは、盲目の母親が、兵庫県知事を相手どって訴えていた「堀木訴訟」により、現行制度を改善するもの。しかし同省としては、この判決の控訴を取り下げる考えはないという。

（11・29読売）

「母の愛」に軍配

三歳の男児をめぐる、実母

と父方の祖母が「私の方で育てた方が幸福になる」と争っていた幼児争奪訴訟の判決が二十日から大阪地裁民事二部で行なわれ、石川裁判長は「こまやかな配慮とあたたかな愛情のある母親のもとで育てられる方がしあわせ」と実母に軍配を。

（12・20毎日）

離婚同様の別居に

「生活保護」適用を

婚姻関係が破れていれば別世帯と認め、生活保護申請の対象となる。東京地裁で「所帯」の定義に新判断。

藤木イキさんは、国立村山療養所でセキツイ・カリエスで十二年間入院していた。その間夫は他の女性と同居。夫は妻の面倒を見られず離婚の申し出を出してきた。生活を営む資力のない藤木さんは、生活保護を申請したが、夫との同一世帯を認定され生活保護が受けられなかった。

たもの。生活保護法の「世帯」に新判断。(12・26読売・毎日)

二十七年ぶりの親孝行

動員で死んだ子の遺族年金

44年、学徒動員で戦死した大学生の遺族年金が、老母の知事への直訴が実を結んで支払われた。一時金六十六万円、年金二十四万円の証書を受け取った老母は、「二十七年ぶりの親孝行」と涙。(12・23道新)

調査・統計

婦人対策を強力に推進

まず五万人意識調査

政府は婦人に関する諸問題を初めて総合的に調査するため、新年度から「婦人関係の諸問題に関する調査会議」を総理府に設ける方針を固め、二十三日までにその具体的構想をまとめた。

調査の目的は「婦人関係行政を総合的に推進するため」婦人に関する諸問題を具体的に明らかにする、というもので①主婦、

母親としての役割②婦人の労働

③婦人の能力開発④高齢婦人の生活⑤婦人の地位などに関し

て、あらゆる年齢、階層、社会的立場の婦人を対象にまず大が

かりな意識調査を行なう。これ

まで「婦人問題」といえば、「婦

人の政治的地位」や「働く婦人

の問題」が中心だったが、社会

・経済情勢の急速な変化の中で

「ウーマンリブ」など婦人の生

きがい観も変わってきた。そこ

で婦人の能力が家庭や社会で有

効に発揮され婦人の活動が家庭

生活の安定と社会の発展に寄与

して十分の評価を受けるととも

に、婦人が障害を通じて健康の

保持と生活の安定を図れるよう

にすることが、これからの行政

の重要な課題だとし、「婦人関

係問題」を総合的に調査するこ

とになったもの。

(1・24読売)

愛知県下は女性上位?

婦人の地位のデータを集めて

みると、

離婚Ⅱ妻からの申し出が、71

年度は70%、また男の訴えとし

て「妻が暴力をふるう」18件、

「妻が酒を飲みすぎる」8件、

「妻に精神的に虐待される」32

件、「妻が生活費を渡してくれ

ない」9件など、新項目も統出。

ドライバーⅡ県下では22・1

%。東京15・3%、大阪11・1

%に比して全国一。5人に1人

が免状持ち。

喫煙Ⅱ55年12・8%、65年15

・7%、71年14・7%。20人に

3人がスパスパ。

大学生Ⅱ名大文学部で、47年

には76人中四年生5人、一年生

は97人中35人と女性上位のハシ

すっかり定着。

先生Ⅱ71年で、県下の小学校

は46・7%、中学33・9%、高

校21・2%、役職者が小中学で

75人、高校で2人、給料の最高

は十四万円。

保母Ⅱ総数は県下で公立四百

九十人、私立二千九百三十人。

だが私立の初任給は三万余円、

公立とは一万円以上の差。

(4・8中日)

職場ではまだ低い地位

サンケイ一千人調査

「家庭では、だいたい男女平等

だが、職場での女性の地位はま

だ低い」と半数以上が回答。若

い人ほど、この意見。家庭での

女性の発言権は

だいたい男女同じ 54・7%

男性のほうが強い 30・3%

女性のほうが強い 13・7%

わからない 1・3%

職場での女性の地位は 22・0%

男性より低い	30・7%
ある程度上昇	36・3%
男性と変わらない	7・3%
わからない	3・7%
女性の社会的地位をあげるため	
には	
女性自身の努力が必要	
男性の協力が必要	55・5%
なんともいえない	37・0%
わからない	6・8%
結婚後は	0・7%
家庭にはいるのが望ましい	
職業を持ち外で働くのがよい	53・6%
一概にいえない	24・4%
わからない	21・5%
社会的地位向上のため、一番力を	0・5%
をいれたいと思うものは	
こどもの教育	27・6%
生活の環境づくり	30・5%
消費者運動	10・7%
職場での能力発揮	14・9%
政治への発言力	8・7%

その他 3・6%
わからない 4・0%

(4・12サンケイ)

核家族はイヤ、お年寄り

総理府が行なった国政モニター調査(四百八十六人中三百七十四人回答)によると、老後はやはり子どもと同居して暮らすほうがしあわせと答えたのが六五%。その理由は「子どもや孫と一緒に生活するのが真の幸福、孤独からも救われる」が六一%で最高。

95年には六十歳以上の老人は一七%、二千二百五十万人に達し世界有数の高齢社会になる見込み。厚生省ではこの調査結果を老人政策の参考資料にする方針。
(5・29サンケイ)

一段と核家族化、人口動態

自治省では三月末現在の全国人口は昨年より約百三十万人ふえ一億五百八十万人と発表。増

加率は初めて一%を上回り、一二・五%。

大都市圏の人口増が目立っている一方、過密県と過疎県の不均衡が拡大。

一世帯あたりの人口は核家族化を反映して三・四三人と昨年の三・四八人をわずかながら下回り、これまでの最少記録。

(7・17サンケイ)

女子の寿命七十五歳の大台に

二十日厚生省発表の71年「簡易生命表」によると昨年の寿命の伸びは著しく、一気に男七〇・一七歳、女七五・一八歳(前年、男六九・三三歳、女七四・七一歳)の大台に達し、世界の長寿大国の仲間入りをした。老人福祉の面でも早く大国になりたいもの。
(7・21サンケイ)

女教師時代に向かう:

小学校全教員の五二・四%
文部省が五月一日現在でまと

めた調査によると、小学校の教員数は全国で三十八万二千人。昨年より六千六百人ふえた中で、六千人が女教師だという。

一方中学校の教員数は昨年より千二百人ふえたが、この増加分はすべて女子教員。

戦前ごく少なかった女性の管理職も、最近では女性の校長や教頭がふえて、東京都では小学校で校長四十八人、教頭六十七人、中学校では校長、教頭にそれぞれ七人を数えるまでになった。

女性が男性よりすぐれている点は、やさしい、よく気がつくなどで、とくに低学年の指導に向いているが、能力や体力の面で男性より遅れをとりとくに共働きになると勤務や勉強の時間が制約される、自主性に欠けるなどの疑問や不満もよくきく。

いづれ欧米なみに、義務教育は女教師にまかされる時代がくるかもしれない、という声もある。
(「今日の問題」10・4朝日)

女性の意識と行動は？

婦人少年局が総合調査

労働省婦人少年局では、婦人に関する諸問題の総合調査の準備をしてきたが九日そのアウトラインがまとまった。

調査は、総理府の協力で行なわれ、期間は約二年間。アンケート調査や実態調査、専門家委員による研究討議、各界からの意見聴取、一般からの意見公募などの手段を使い対象は二万数千人、74年三月末までに終了する。このような大がかりな調査は戦後初めてで、婦人の地位や考え方を知ら手がかりを与えてくれるものと期待されている。

(10・10サンケイほか)

生きがいなし米国の十倍

さきごろ帝人が東京とニューヨークに住む十八・二十二歳の若い女性五百人ずつに生活意識の比較調査を行なったところ万事米国女性のほうが関心度が高

く、実生活に対する満足度も高いとわかった。

問題別にみると、大気汚染への関心があるのは米四八％、日三二％。物価問題、米四二％、日二三％。職場の女性の地位、米二六％、日十九％の順。また全身で打ち込むものは、米国では「夫・恋人、勉強・研究、仕事」が上位だが日本では「趣味」二六％がトップ。「生きがいなし」だけは一六％と、米国の十倍にもなった。

(10・11日経)

主婦が見た列島改造論

日本婦人有権者同盟(紀平悌子会長)は、総選挙の焦点となっ

ている日本列島改造論について、全国五十三支部の会員にアンケート調査を行なった結果、生産第一主義への批判がつよく、全体の六割以上が、「改造論に期待しない」という、きびしい結果だった。(12・7読売)

女性の政治意識

「高い」の回答は14％

婦人参政権が実施されてから二十七年。女性有権者もふえ、投票率でも男性をしのぐ勢だが、政治を暮らしとは縁遠いものと見る向きも少なくない。二年前労働省婦人少年局が調査したところ、「女性の政治意識が高い」と答えた男性はわずか一四・〇％。五人に三人が「低い」と見ていることがわかった。

(12・8日経)

保育・教育

〔保育〕

働く母親の声を文集中に

たりない地域保育園を肩代わりする「職場保育園」の一つ、港区の国家公務員共済組合連合会の東京保育所父母の会で、働

きながら育てる母親の不満や苦しい体験をまとめた文集づくりが続けられている。69年に第一号が、こんど第二号が発行された。会員、園児、保母さん、そして卒園生が寄稿。三百部の用紙、印刷代は会員が出し合い、スタッフ全員が「仕事と保育」のかけもちの身で、二号の編集に一年間も費やした。薄緑の表紙に黒く「とうきょうはいくしょぶんしゅう」の文字が踊る。

(1・5読売)

市長さん！学童保育所ふやして

共働き家庭の小学校低学年生を預かる施設は、一学校に一つといった都の理想方針に対し、現実ほど遠い。入学期が迫りたいま施設不足は深刻な問題。

「悩んでいるのは解決にならない。団結して声を聞いてもらおう」。不況に加え、諸物価高騰というパンチのあらしのなか「父親だけの収入では食べて行けません。

せめて、子供を昼間預ける施設を学校の近くに……」と三鷹市の親たちは、五日、市長に「直訴」する。(2・4読売)

無認可保育所に援助を

無認可保育所に国や都はもっと援助してください。生後六週間の子供も預けられる公立の施設をつくって。四日朝、東京駅丸の内口、池袋駅東口の二か所で、都内の無認可保育所の保母さんや父兄約百五十人が通勤者に無認可保育所の実情を訴えるピラを配った。この運動は

東京都保育室連絡協議会が新年度予算に保育所増と補助金増額を盛り込んでもらうために行ったもの。ピラまきの後、水道橋の労音会館で集会、午後は代表が国会、都議会、厚生省などに陳情した。(2・4毎日)

公立で初めての乳児保育

福井市では公立で初の乳児保

育を対象にした市立勝見保育園が完成した。同保育園は、ゼロ歳児を含む公立の乳児保育園をという強い要求に答えて、市が昨年から総工費二千七百三十万円を投じて建設したもの。鉄筋二階建て延べ五百平方メートルのスマートな建物。定員は三歳未満の乳児六十人、三歳以上児三十人。職員は井上愛園長以下保母さん十四人、看護婦、栄養士各一人、開園を間近に、地域の共働き家庭などにとって大きな期待が寄せられている。

(4・5福井)

五歳児全員に月額千円支給

千葉県八千代市は同市初の市立幼稚園「勝田台幼稚園」の開園を機会に、九月から市内の五歳児全員に月額千円のエデュ補助金を支給する方針を決め、六月定例市議会に提案する。父母の経済負担軽減と幼児教育の振興が目的。(4・6毎日)

せっかくの保育所融資に……

道内の事業内保育所は、三月末で七十二。三年間に倍増した。ふえる一方の婦人労働者に対し、地域の保育所数の不足が原因だが、労働省の予算要求が通り、今年度から施設運営費だけでなく、託児用具の購入にも融資されるというのに、ほとんど申請がない。限度額は団体四千万円、事業主二千万円、変換期間十五年、二十年、利子は六・五七％と有利だが。(4・6道新)

安心して働けます

カギツ子の「第二の家」として福井県下の各市に開設された留守家庭児童会は昨年、文部省の補助打ち切りで自然消滅したが、勝山市の同会だけは続けられ、この春で満五年、指導は元小学校教諭が担当。児童らは恵まれたあたたかな家庭的雰囲気の中で宿題に遊びに元気がいっぱい。空き家になった元市役所庁

舎を利用し、人件費は年間約五十七万円、市教委が担当、父兄負担はおやつ代を含めて毎月千円という格安な会費で運営。今までに二百人のカギツ子が巣立ち、共働き夫婦から感謝されている。(4・13福井)

ホテルにベビールーム登場

宿泊客やレストランの客をはじめ、結婚披露宴に出席する人たちから「託児設備がほしい」という声。ベビールーム、タイニートゥツをオープンさせたのは東京千代田区のホテルニューオクタニ。契約医師にも小児科の権威を迎えている。対象は〇歳―五歳の幼児で、ホテル利用客以外でもOK。宿泊は一泊一万円、時間制では二時間まで千五百円で、三十分増すごとに五百円プラス。午前九時から午後十時まで。医師のほか、保母、看護婦もそろえ、育児、医療相談にもなる。(5・9毎日)

活躍する「保父さん」

大阪・日之出保育所

「保父さん」と呼ばれる人たちが保育所にふえだした。女性の保育者は保母さんだから、男性の場合は「保父」さん。保育園関係者や親たちの間で年々「保父」さん要求の声は高まっているのだが、制度的には保育者は保母さんに限られている。

(6・29朝日)

ベビーホテル大繁盛

時間制の高級託児所、「赤ちゃんホテル」がふえている。ホテルニューオータニの「ベビールーム」たつむら青山マンションの「青山ベビーホテル」、九月にはやまのべもとこさんも「赤ちゃん銀行」を開設の予定。どの施設も一か月預けっぱなしだと十数万円かかるとあってはやはりエリート女性だけの解放に終わりそう。

(7・31サンケイ)

多すぎる労基法違反

保育園や幼稚園の人手不足や待遇が各地で問題になっているが、愛知労働基準局は、このほど私立保育園と幼稚園の労働条件などについて実態を調べた。そのうち、保育園の九二%に当たる百九園、幼稚園の八九%に当たる五十一園が、何らかの点で労基法に違反していた。違反件数が多いのは、休憩時間、就業規則、有給休暇など。

(8・7朝日)

ベビールーム足踏み

応募少ない福祉員

東京・板橋区では、高島平団地の住民の切実な要望に応じて、団地内にベビールームを新設したが、乳児の世話をする家庭福祉員が集まらない。

そのため、十二月一日開設の予定であったが、開園を延期せざるを得ないハメに陥った。

(12・1読売)

働く母の頼りは「無認可」

東京・江東の都営辰巳団地のAさん宅は二か月から満一歳の赤ちゃんを預かっている無認可保育所。近くの認可保育所ではゼロ歳児は預かってもらえない。無認可といえど保育所行政からこぼれ落ちた部分をすくいあげてきた役割は大きい。

(12・4読売)

私設保育所、目届かず

十四日午後二時半ごろ、東京足立区の私設「竹の塚ベビーセンター」育児ルームのベビーベッドで同区の会社員、東健治さんの長男(一年二か月)が窒息死。(12・15毎日)

【教育】

育児の悩みに答えます

核家族化で、育児に自信のない母親が続出。文部省の半額援助で、テレビ、はがき相談や巡

回相談班派遣などを全国十二府県で実施する。(5・5道新)

教育の中の母親像

学校教育の中のおかあさん像は、現実と遊離していないか。婦人集会では働く母親からよくこんな発言が出る。職業を持つて働く母親は年々ふえているし、公害や物価とたたかったり、PTAや婦人サークルで勉強するなど現実のおかあさん像は多様さを増す一方だ。ところが、子供たちの教科書やテストにえがき出されるのは、エプロン姿で家事・育児に専念するおかあさん像。現実を見つめることを素通りする教育のあらわれではないか、そんな母親や教師の声もある。

(5・3読売)

団地に「育児教えます」

団地の育児ママのイライラ解消——を埼玉県は全国でも珍しい「母と子のヘルス・ステー

ション」を今春開設。核家族団地に進出した。おしゅうとさん役の育児コンサルタントだが、若いママや妊婦に好評を呼んでいる。

(5・23毎日)

全国親の幼児教育意識調査

親の九七%が、子どもを幼稚園か保育所に入れたいと思っている。また、八八%が早い時期からの教育の成果を期待。「家庭教育の補充」と考えている親は九〇%。一歩進め「家庭保育の代替」の役割を期待する親は四七%。ことに、共かせぎの母親、それもフルタイムの場合には「代替」の必要を「しばしば感じた」人が六八%と三分の二、働いていない母親の中にも二七%の「しばしば」組がいた。

(6・18サンケイ)

◆性教育盛ん

くわしい新教科書 来春ガラリとかわる高校の「保健体育」新

教科書では性教育関係の記事がさらに詳しくなり、基礎体温表など避妊の方法まで解説してある。

(6・21サンケイ)

デパートで 東京銀座のデパートで「パパとママの子供性教育展」が開かれた。会場には欧米六か国の受胎・妊娠・出産などを図解したパネルがズラリ。デスマークのコナーには両親の性交を描いたパネルもはり出されて思わずドキリ。

(7・25日経)

カギっ子締め出し

留守家庭児童会

札幌市教委の留守家庭児童会は、この春オーブンして二か月たつのに、どの地域も軒なみガラあき。にもかかわらず市教委は共働き家庭の児童の参加を押さえ続けている。

「生活困窮者、欠損家庭の児童がこれからでも入るので」がその理由だが、共働き家庭の不満

は高まるばかり。

(6・22道新)

重度身障児にも教育を

愛知県で身障児を背負う母親約二〇人が訴え。愛知県議会文教委は、全員一致でこの誓願を採択した。

(7・5中日)

母乳銀行―特派員メモ

最初の娘がモスクワで生まれたとき母乳が出ず、医者に相談した。「びん詰めの母乳を売っています。証明書をおげるから買いに行きなさい」。もらい乳ならともかく、とてもそんな気にはなれなかった。しかし、血液学の専門家Sさんに聞くと、

「母乳というのは完全食で、血液銀行のように、どこの国でも母乳銀行を作ろうとしている。いま、こうした先進的システムを持っているのはソ連とオランダぐらい」とのこと。(ワシントン・大谷)

(10・7朝日)

ものぐさっ子まかり通る

親が努力の根本を

「体育の時間になかなか着がえをしない」「数学の計算に家庭で計算機を使う子が多い」「辞書を引いて漢字を捜すことをせず、ひらがなばかり使う」

最近こんなものぐさっ子が増えてきた。これは個性発揮とも考えられるが、ただのものぐさとわかれれば、努力を教える必要がある。

「それには、おかあさん自身がある。ものぐさから抜け出さなくては。ある女子大では卒業生の懇親会を開くたび、もう母親になっている卒業生たちが会場づくりにあとかたづけにも手を貸さず、ぼんやり見ている。これでは子どもがものぐさになるのも、ムリはない」心理学者、永野重史の話。

(10・9サンケイ)

考え直そう過剰育児

さまざまな育児用品が売られ

ている。あれば便利そうだし、赤ちゃんも喜びそうな気がするが、はたして本当にそうだろうか。物を買いきこんでの過剰育児のマイナスを小児科医の光山恭子さんへ実地医家のための会へは指摘する。(10・10朝日)

手刷りの絵本で親子の

断絶をなくそう

東京・京橋のギャラリーで女性四人が手刷り絵本展を開いた。そのうちの一人、二児の母親である主婦は、「最初は自分の子どもに見せるつもりで作ったが、希望者にわたるため五十部ほど印刷している」と言っているが、芸大出身だけあって、市販の絵本以上の美しさ。(10・10中日)

千葉県ぐるみで三歳児教育

親たちに「生きた育児指導を」と千葉県では、この春から三歳児をもつ県内の若いママを対象に、はがきによる通信指導、巡

回相談、それにテレビ放送を組み合わせた家庭教育相談を続けて大きな成果をあげている。(11・12読売)

超過保護型が40%も

「近ごろのお母さん方は子どもに遠慮や気がねが過ぎるのではないか」——東京都青少年対策部は十二日、家庭でのしつけとかまいぶりなど、家庭教育が子どもにどんな影響を与えているかについてのレポートをまとめて発表した。(12・13毎日)

保育料二千円補助本決まり

東京都議会は、二十三日の本会議で総額五百億円にのぼる十二月補正予算を可決成立させ、十二月定例会の日程を終えた。これで、私立幼稚園児(五歳児)の保育料をとし十月にさかのぼって一人月二千円公費補助することが本決まりとなった。(12・24日経)

からだ

PCB・BHC総汚染

京都で 母乳中のPCB蓄積量を調査中の京都市衛生研究所は、二日「検査した母親四十三人全員からPCBを検出した」と発表、市内の母親はほぼ例外なく汚染されているのではないかとショッキングな警告。(5・2読売)

◆母乳礼賛

人工栄養児の死亡率は四倍 人工栄養で育てられた赤ちゃんは、母乳児の死亡率の四倍にのぼるという調査結果が乳児死因調査研究会で明らかにされた。また厚生省は、母乳で育てられる赤ちゃんは三割にすぎないという結果をまとめ、小児科の専門家たちは「母乳が出ないのは、母

親や産婦人科医らの努力が足りないせい」だと指摘する。(5・4読売)

ママ、母乳を 厚生省統計調査部の保健衛生基礎調査によると、生後三か月以内の子どもの栄養調査で「母乳」は三二・七％で三人に一人。人工栄養児などに比べ健康状態は良好。(5・4サンケイ)

人工栄養劣勢 厚生省がまとめた母親と乳児の保健衛生調査のおもな結果——▽妊娠中の健康診査率は上昇▽低体重児は異常の発生率が高い▽母乳栄養は三人に一人。乳児の健康状態については「良好」のトップが母乳栄養児、次が「混合」、人工栄養は劣勢だった。(5・4中日)

総点検 厚生省は六月から全国都道府県のママと赤ちゃんを対象に、大がかりな健康調査を実施することを指示、全国の母乳中のPCBの濃度検査、母乳汚

染の経路も追及、汚染の実態をつかむ。
(5・9 毎日)

◆母乳の汚染

BHC残留量は減る 厚生省は、九日、有機塩素系農薬による第二回母乳汚染結果をまとめた。全対象から検出され、残留性の強さを示したが、前回昨年五月に比べ残留量は減。

(5・10 サンケイ)

妊産婦に警告 PCB汚染が顕著なのは東京湾でとれた魚。特に妊産婦はこれらの魚の内臓を食べないよう警告も。BHCなど有機塩素系農薬でも食物は汚染され、母乳から高濃度のBHCを検出。
(5・18 朝日)

都内の母乳にも 東京都立衛生研究所は、都内の母親を対象に母乳と市販牛乳のPCB汚染調査を行っていたが五日、検査した二十人の母乳全部から最高〇・〇五二Ppmが検出されたと発表。
(6・6 読売)

長野で 全通長野地区本部は長野地方郵便局でPCB入りのノーカーボン紙を取り扱った女子職員五人の母乳検査を行なった結果、一般女子職員の二十倍にあたる異常に高いPCB量を検出したと発表。
(7・30 朝日)

妊産婦は魚に注意

母乳がPCBに汚染されている実態調査を分析していた中央児童福祉審議会の母子保健対策部会は、二十七日「母と子にPCBによるとと思われる健康障害は認められなかったので、母乳を飲んでも大丈夫」との意見書を斎藤厚相に提出した。しかし厚生省では、母乳の汚染濃度が、農村地域よりも漁村地域の母親から高く検出されている点を重視「妊産婦はなるべく脂肪分の多い魚をたくさん食べないように指導せよ」と、全国の保健所などへ指示することになった。
(12・28 毎日)

どうしよう、赤ちゃん和妈妈

困るタンパク源

厚生省が二十七日、母乳のPCB汚染調査に基づいて出した警告は、全国の妊産婦に大きなショックを与えた。一人の例外もなくPCBに汚れた母乳。しかも汚染の平均値までが、許容量ギリギリ。人工授乳は赤ちゃんの死亡率が高いといわれ母乳を飲めばPCB入り。食事のとり方によっては、さらに汚染が高まるとあっては、ママたちの不安は増すばかりだ。
(12・18 毎日)

妊産婦の保護を

「東京の妊産婦はある面では全国一悪い条件のもとで放ったらかしにされている。健康な赤ちゃんを産むために都の母子保健対策は根本的に改善しなければならぬ」

都児童福祉審議会母子保健対策部会は都の母子保健対策のう

ち大急ぎで改めなければならぬ点をまとめ、一日、美濃部知事に意見書を出した。
(6・2 毎日)

活躍する保健婦集団

新しく生まれてくる赤ちゃんを一人も死なせるな。こんな願いをこめて、千葉県松戸市役所に「健康管理室」が新設されて二か月になる。母と子の相談コーナーを設けたり、保健婦を大量にふやして、新生児家庭を戸別訪問するなど思い切った活動で、早くも保健婦の応援団まで誕生しているという。
(6・15 毎日)

注目あびる事後避妊薬

いま各国の家族計画運動の関係者たちは「プロスタグランディン」という物質に注目している。いわば事後避妊薬で、これがあれば妊娠中絶の手術さえ不要になるというもの。研究は

始まったばかりで解決すべき問題が多いが、今後、副作用の少ないものの開発など、十分に実用化される可能性があるという。

(7・10朝日)

高年齢の出産に多い奇形児

母親が四十歳以上で出産した第三、第四子以上の子は、先天性奇形児で死亡の率も高いという統計が発表された。愛知ガンセンター研究所(疫学部)と名古屋大医学部(予防医学)の両グループが「日本先天性異常学会総会」で発表したもの。

(7・15サンケイ)

ハリ麻酔浜松で成功

わが国初めてのハリ麻酔による帝王切開手術が、浜松の産婦人科医院で行なわれ、無事、男児出産に成功した。

手術をしたのは同市住吉町の蛸崎要医師(三二)、手術を受けたのは浜松市のA子さん(三

一)。ハリ麻酔は谷美智士医師(三四)が行ない、Aさんの経過は良好。出産した男児は三七〇〇グラムであった。

(8・7日経)

胎児チェック

「不幸な子が生まれないようにする」ため、現代医学のいくつかの面でそれが可能となった。

羊水を採取し、胎児の脱落細胞の染色体を調べると、ダウン症候群その他の先天性異常を発見できるなど。日赤産院の雨森医師により「看護」十月号にその方法が紹介されている。

(10・20読売)

卵巣移植で妊娠アルゼンチン

アルゼンチンの外科医、ラウル・ブランコ博士は、サンパウロで十五日開かれる産婦人科学会で、世界最初の卵巣移植手術による妊娠に成功した臨床例を発表する。

(11・16日経)

意見・投書

利口ゆえの悲劇

「女の悩みは結局性の悩みですね」性的な知識過剰。昔の女ならがまんして活路を開こうとしたのに、いまは逆に悲劇を生むと、博多福祉事務所婦人相談員十五年の林ユキさんは指摘。

(4・3西日本)

とかく女というものは……

ある社宅で、向かいの主婦より早く起きて掃除をといわれ、八時に掃除したら、七時、六時、五時とエスカレート。そのバカらしさに、相手に「苦労さま」と声をかけ悠々としていたら、いつか社宅内の気風が変わった。女はどうでもいいことに苦しんだり悲しんだりする。佐藤愛子さんの講演。

(4・5中日)

義理・人情、勤労婦人にや

わすらわしい?

五百人の調査で「うれしい」74%「なんともいえない」21%に対し、勤労婦人は前者が六割、後者が四割と点からい。

(4・6中日)

現代若い女性バイト気質

ポートショアのコンパニオン第一次合格者百六十七名の応募動機のトップは、「ヒマがあつて割がいいから」。4割強が経験者。謝礼の使いみちは、レジャー、貯金、学資の順。

(4・7中日)

同性にも迷惑な腰かけ意識

トリ・タマゴ論争に、太平洋観光札幌営業所次長高崎愛子さんは「もっと職業に徹してほしい」

(4・11道新)

甘えてませんか0しさん

妻子を養うためにこそあるの

だという男の職業と、服や旅行の費用のための職業では根底から異なる。女に不満は多いが、不満を生む社会の仕組みがすべて女自身の依存性からきていることも忘れてはなりませんまい。十返千鶴子さんの意見。

(4・11信濃毎日)

共働き寸感

職場と家庭を両立させるのは、なかなか難しい。忙しいとき、疲れたときなど、つい、おこりんぼう、やかまし屋の母さんになりやすいが、これは幼い子には迷惑な話。私はどんなときにも子どものように無邪気で明るくありたい。そして毎日を豊かな、充実したものとして、共働きの中に生きがいを見つけていきたい。

(5・2西日本)

嫁の権利は拡大したが

戦後法制的に男女平等になったのはご承知のとおり。もっと

も妻の座の強化といっても、それは夫婦が円満な間のこと。今の社会では何といっても妻の座を強化する必要がある。

ところが家庭内に妻の座が二つある場合、しゅうとめと嫁がいるときは後者の強化になっている。男女の対比だけで妻の座を強化することは、女の一生を通じて女性の地位の向上になるだろうか。

(札幌家裁所長、室伏壮一郎氏の意見)

(5・3道新)

自信持ち美点生かそう

「働く婦人と憲法」の座談会で、権利主張はもう浸透していると結論。(出席加藤三重婦人室長ほか)

(5・3中日)

母の日にあえて望む

「一流大学・会社へわが子を」が生きがいの教育ママは、昔の平均的母親像とどれだけのちがひがあるだろう。一面、相変わ

らず忙しい母親たち。家族はもっと知恵と手を貸そう。カーネーションより「ご苦労さん」の一言を。(5・14中日/社説)

ときどき大きらい

「お母さんは、もの覚えのよいのが玉にきずです。ぼくをしかるとき、この前のまた前のことまでいいだします。つまらないことまで覚えているから、よけいそがしいのではないかと思えてきます」(小六男。小中生の入選作から)

(5・14中日)

与謝野晶子の二つのナツ

第一は、歌に比べて小説が格段に見劣りすること。第二は十一人もの子女を産み育てたのに、なんの感懐も残していないこと。

もし、子どもが二、三人だけだったら、彼女の業績はもっとあがっていたのではないか、と田辺聖子さんが指摘。

(5・27道新)

女・ああ！その偏見

マーケットの肉屋で順番を待っていると、必ず「マア！」という驚嘆と軽べつをミックスしたヒステリックなひとみにねらいうちされる。晩のしたくは女の領分、男のくせに邪魔するなといったのだろう。ホンネは、たまには男どもにも足を運ばせたいのでは？ 女性は何も自分を家事ドレイにおとしめる必要はあるまい。(23歳の男性の投書)

(5・28道新)

大阪と東京の

公衆便所を比較して

トイレの研究家天野圭子さん。大学の卒論に「公衆便所について」という題で三百枚の大論文。「人間の排せつ行為は、暗くてこわい場所という小さな空間の中におしこめられてきた。とくに日本人は羞恥心が強く、セックスと排せつ行為は、みだらなものとして、暗いところへ閉じ

こめる傾向がある。便所空間からの解放は、セックスの解放に、セックスの解放は、人間の解放につながる……」（7・10毎日）

主婦もやる気を出せ

私の所の幼稚園は、園児五百数十人で施設もりっぱです。その母の会主催で、大学の先生の講演会を開きましたが、出席は九十人。手芸の講習会には三十人。二千平方メートル余もある芝生の園庭で、りっぱなリリーダーを迎えてバレーボールをやりましたが、出席は十数人。どれも無料でしたが。

一人一人が本当にやる気にならなければ、よいリーダーや施設があっても何にもなりません。主婦もファイトを持ちましょう。

（主婦・31 7・24朝日）

・脱母性のすすめ

女にとって、母性は確かに美德には違いないけれど、押しつ

けの母性にしがみついて生きていては、美しい中年は望めない、いさぎよく一人立ちして女の顔を取り戻そう、と美容家の大関早苗さん。（8・18西日本）

相談

夫に愛情が持てない

結婚十二年、二児の母、三十六歳。いなかから出て来て、主人の愛情にはだされ結婚したが、いまだに彼を愛することができず、子どもにのみ愛情が向く。主人はそれが不満で時々暴力をふるう。いっそ彼が浮気でもしてくれるといいが……。

（東京・P子）

〔答〕生活が安定した今、夫なんか要らない、では怒るのもあたり前のこと。甘えすぎではないか。

（福島慶子）（1・5読売）

内職に疲れた

結婚二十二年、二十二歳を頭に三人の子の母。夫が怠け者、ミシンを踏んで家計を支えて来たが疲れ果てた。

（栃木・四十歳の主婦）

〔答〕だんなさまと思うから腹が立つ。たまに部屋代をくれるいそうろうと割り切るか、子どもたちと連合軍を作り、ある日突然上京して別世帯を持つか。

（戸川エマ）（1・6読売）

夫どころか金魚まで

夫がある女性とずっと浮気していたのは知っていた。銀婚式のときキッパリ縁を切ると言ったのに、式のプレゼントの金魚が彼女の手に移った。

（魚気違いの女）

〔答〕あなたが取り戻したいのは夫なのか金魚なのか。もし、答えるのにとまどうようなら、ご主人が彼女の家で金魚を眺めている気持ちもわかる

というもの。

（ヘレンおばさん）（1・16読売）

「板前」がばばむ再婚

六年前、二児を置いて協議離婚、家売り払い、慰謝料、養育費に充てた。再婚したいが学歴もなく職業を嫌われる。

（東京・三十九歳の板前）

〔答〕問題は、職業ではなく生活態度。店で妻帯者と称していることがおかしい。まじめに働いているなら相手はあろう。が、元の妻とよりを戻すのが一番いいのでは。

（福島慶子）（1・17読売）

「婚約」で同棲した娘

私大在学中に恋人が出来た娘。男より高学歴ではよくないと、二年で中退させ、幸せに同棲しているが、相手は「結婚」はまだ駄目と言う。（石川・父親）

〔答〕娘さんが尽くして幸福ならそれでいいが、自分の両親に

紹介しないという彼の言動に若干の不安がある。調べてみては。

(小山いと子) (1・26読売)

私を捨てた二人の妻

農業で体をこわしたとき妻が去り、商業に転じて得た二度目の妻は、二児が大きくなると男のもとへ走った。

(北海道・五十男)

〔答〕非はすべて妻にあるのか。養老院に……など片意地にならず、意地を捨ててやり直しては。男の五十はまだこれから。

(小糸のぶ) (3・8読売)

おしゃべりすぎる夫

夫のジョーは夫婦ゲンカまで友人にペラペラしゃべるので友人が皮肉を言う……。

〔答〕あなたも負けず劣らずのおしゃべりになったら……。友人が皮肉を言い始めたら、周りに聞こえるぐらいの大声でケンカのいきさつを話し、ご主人を笑

いものになさい。

(ヘレンおばさん) (5・7読売)

三度離婚、私は悪い女か

結婚十五年、十二歳のむすこがいる三十八歳。この間に三度離婚しては父を恋しがる子に迫られ三度復縁した。この二年間「交通事故で不能になった」という主人をあわれみ尽くしてきたが、数々の浮気があることがわかった。また別れたいが。

(神奈川・L子)

〔答〕三度も復縁したのはあなたにも未練があったからではないか。まだ未練があるかどうかよく考えてみる。愛情のかけらもないのなら別れるのが本当。

(小山いと子) (7・1読売)

結婚した父に悩まされる

父の暴力で去年母子三人が家を出たが、母は父の関係者の邪魔で職場を去り、私は父に連れ

戻された。母の家に逃げ帰ったが、父から財産はもらえないか。

(千葉・高一女生徒)

〔答〕十二、三歳以上なら父の指定した家に住まなくてよい。

扶養料は請求できるが、財産の生前分与は請求できない。しかし妻子を失った父の寂しさも理解できる心の広さを持つてほしい。

(鍛冶千鶴子) (9・11読売)

女ひとり生きる道は？

短大卒業後三年間OL、その後家事を手伝っている二十八歳。三十歳までに何か身につけ一生独りで生きたいが……。

(東京・独身女)

〔答〕結構なお考えだが、なぜ一人で生きる決心をしたのか。

特技を身につけたいなら、三十までなどとあせらずじっくりと就業を。結婚もかたくなに拒否しなくてもいいのでは。

(小山いと子) (11・4読売)

人

(ひと)

あわれみはいらぬ

「いたわってもらわなくてもいい。ただ精神的にのみ健康な人と同じく過ごしたいと思います」——三年間に十万字、カナタイプを打ち続け、小児マヒの苦しみを自費出版した大里知子さん(三〇)。BOC出版刊の「アテナノナイテガミ」は、初版二千、再版四千をほぼ売りつくし、全国から百二十通もの手紙が来た。(2・2朝日)

法輪寺三重塔再建に執念

万国博建築ブームのあおりでとん座した法輪寺再建、老師は念願むなしく逝った。頭領は八十八、急がなくなちゃ、と頼まれ

もしないのに資金づくりに飛び
回る幸田文さん(六七)。亡父
の名作『五重塔』を胸に。

(1・7読売)

国連人間環境会議の

事務局で働く

桑原幸子さん(二五)。水俣
や海洋汚染問題を調べて国連職
員を志願。「一日十時間労働、
土日出勤手当もゼロだが、好き
な仕事なので楽しい」

(1・8読売)

復帰後の不安を訴える

沖縄婦人連合会副会長小崎清
子さん(六一)。返還は五月十
五日に決まったが通貨問題は素
通り。これからの再生が心配と、
冷静さの中に激しい闘志を秘め
るウーマンリブのリーダー。四
男三女の母。(1・9読売)

五十一歳の中学卒業

働きながら葛飾区の双葉中夜

間部に通い勉強し続けてきた主
婦、松谷静枝さん(五一)が十
八日、晴れて卒業した。入学す
るきっかけは三年前「区のお知
らせ」で夜間中学があるのを
知ったことと、ご主人の戦死後、
女手一つで育ててきた一人息子
が大学を卒業する見通しができ
ひと安心ということ。小学校
しか出ず、助産婦、雑役婦、派
出婦、緑のおばさんと苦労ばか
りしてきた母親の相談に息子さ
んも大喜び、話はすぐ決まって
入学した。四十八歳だった。こ
の四月からは、南葛飾高校夜間
部に進学する予定。

(3・19毎日)

女囚たちの肝っ玉かあさん

歴代三人目、現在ただ一人の
女性刑務所長(岐阜県笠松刑務
所)となった星野君子さん。昭
和初期のモガ、今のウーマンリ
ブのはしり。36年前橋刑務所に
就職、向こうっ気で生きた上州

女、体重八十キロ。「受刑者に
はしっかりした職業教育を。新
生の武器になる」(3・25読売)

アイヌ文化を誇りで表現

アイヌ模様のペンダントやブ
ローチの個展を開いた画家、亀
田アユミさん(三三)。「作品
をどんなにけなしてもいいけど、
アイヌの娘が作った作品という
目では見てほしくない」

(4・4毎日)

おシャモジ運動の女子学生

主婦会館地下の生協売店で時
給百八十円で働く三浦みさ子さ
ん(早大二年)。一年前から主
婦連の個人会員に。

「学生運動よりやりがいがあり
ます」(4・10中日)

女性でただ一人の

盲人歩行訓練士

地味で忍耐力のいる重労働で
ある。大阪府守口市の松本富美

子さん(二八)。女性訓練士の
第一号として、男性にはない指
導法をめざす。松本さんを「心
のつえ」に生きる自信をとりも
どした人たちは数えきれない。

(4・12サンケイ)

戦火のハノイへ保健婦さん

札幌市のベテラン保健婦、中
里淑子さん(四五)が、北ベト
ナムの働く女性をこの目で見た
いと、櫛田ふきさんらと共に出
発。(4・14道新)

共働き五十二年

八十二歳になる国語のヒゲ先
生と七十九歳のやはり国語担当
講師の女の先生が、この三月、
東大阪市にある樟陰東高校を退
職した末、広長・トマさん夫婦。
広長さんは東京美術学校を卒業
してから六十年間、トマさんは
奈良女高師卒業後、出産などで
六年間教職を離れただけで通算
五十二年間、ともに教師生活を

続けた人。八十歳の共白髪もおめでたいが、四人の子どもをかかえて共働きの期間五十二年、合算百年余というのも例が少ないようだ。(4・16朝日)

口説かれて

NHK「こんにちは奥さん」のレポーターになった高原須美子さん。「エコノミスト」の記者から評論家、レポーターに。「着たきり雀ではみつともない。アタマにも行かなければならないし」——新しい忙しさにとまどう、一橋大出の三十九歳。(4・17毎日)

アイデアおばさん二人

名古屋市の荒木すみさん。たとえばセパレーツのきもの。よこれやすい下を二枚つくって愛用など。思いついたことをすぐ実行がコツ。

金沢市の中村喜代子さんは子ども用トイレ用具などを開発。

日曜発明教室に通う。ともに五十代の忙しい夫婦。(4・18中日)

夫婦の経験を生かして

「仲人連盟」は奥さん二十人がカウンセラーとして縁結びに活躍している組織。コーディネーターの坂田久江さん(四七)は四年前に「主婦としての経験を生かせる仕事につこう」と思って、結婚式場の花嫁介添役を一年間、その後、結婚式場センターのカウンセラーになり、若い男女やその両親と話し合っているうちに、しっかりした家庭の子女が意外と縁遠いことを知り、センターの社長らと相談、60年、同連盟を発足させた。(4・25毎日)

名古屋の婦人、北京へ

後藤すず子さん(前日本卓球協会会長、故後藤錫二氏夫人)は、中国卓球協会の招きで、中

国を親善訪問するため六月二十九日空路北京入り。(5・1中日)

政治と男は大キライ

四月三十日、日本婦人有権者同盟会長になった紀平梯子さん。「不適任、不適任」と、るる述べ立てるが、透る声、よどみない話しぶり「適任、適任」と聞こえる。「字まで似てきた、ミニ市川房枝の批判がある」と気にする。(5・3読売)

沖繩の心を舞う

琉球舞踊の名手、金城美枝子さん(三一)。「復帰はうれしいけど物価も上がりそう。これからが大変」と言う三児の母。(5・13読売)

女性秘書日本一(第三回)決定

モービル石油の西部幸子さんが、晴れて日本一に。(5・14中日)

料理についての企画を売る

クッキング・ディレクターズ・アソシエーションなるものをつくってその代表となった渡辺典子さん(四三)。NHKでの二十三年間のキャリアを生かし、料理に関する企画の知恵を貸す。料理教養番組の制作や、食品などの新製品発表会の企画・演出、料理の本一冊の企画から製作までのほか、PTAの料理講習会などが仕事。(5・17サンケイ)

加算機オペレーター技能大会

第一位は二十二歳の女性 岐阜県、十六銀行の国島登喜子さん。優勝した成績は、一分間三百十二タッチ、一秒間に五回以上加算器のキイを叩いた勘定。(6・3中日)

アパートで子どもの図書館

名古屋市の天野貞子さんはせきついカリエスのため就学が遅れ、64年、三十七歳で大学を卒

業、その後就職してアパートでひとり暮らし。67年、自室に子どものための「あまの文庫」を開館。目下会員百十人、蔵書千六百五十冊。(6・17中日)

ななせ織の創作者

池辺まささん(七〇)。機の上下運動を回転運動に変えた簡易機械で38年実用新案、豊後民芸として四十年、高崎山の裏側で織り続ける。

『女人芸術』に参加、同人誌『女人』を発行、産児制限や婦人の経済的自立などの運動もした新しい女。(6・20毎日)

能面を打つ

京都の能面師に弟子入り、女面十九点の個展を開いた谷口明子さん(三二)。修業八年、傷だらけの手。「よい面が見たい、舞台で使ってほしい」と、四流の家元のある東京で下宿。

(6・25毎日)

名古屋に無料縁談紹介の会

会長は服部さださん(六二)すべてお金でことを運ぶ職業結婚屋に腹を立てて——。

(7・3中日)

ゆたかな町づくりに燃える

マさん編集長

各地で住民運動が盛んだがこれが育つためには、暮らしの中から芽生えた住民の声を集め、広く伝えることが必要。『住民パワーのパイプ役を』と毎月一回、四ページの地域新聞を作る奥藤編集長・加藤恵子さん(三三)。大阪府枚方市香里団地に住む三児のママ。

(7・5サンケイ)

ハンムラビ法典のイラスト訳を

現存世界最古の成文法典、バビロニアのハンムラビ法典のユーモラスなイラスト化に取り組む西田明美さんは元スチュワート。日本障壁画協会に所

属する画家であり、イラストレーターである。今年中に出版の予定で、京大研究室の人たちも応援。(7・13サンケイ)

外人登録を拒んでいる

韓国帰りの日本人妻

韓国に帰化したわけではないのに、52年のサンフランシスコ条約で自動的に韓国籍となり、故国へ着いたとたんに外人扱い。このため外人登録をしたうえで帰化手続きをとらないと日本人にはなれない。これに敢然と抗議している引き揚げ妻たちの一人、西山梅さん(六六)は「わたしだって日本人」と叫ぶ。

(7・19サンケイ)

幼児向け性教育絵本を出版

『なぜなのママ』を出した北沢杏子さん(四三)。一昨年、中学生、昨年高校生向けスライドを作り、小学生向けを企画中。「われめちゃん」の呼称で反響

を呼んだ口八丁、手八丁。インタビュー中もウイスキーをぐいぐい。「私、全く無邪気で」「私、単純ですから」の連発。とりよによって傍若無人、とも聞こえた。(8・2毎日)

イルカやトドのトレーナー

いわき市昭島ランドの蛭田くによさん(二二)。六年間の美容師から転業、さわるのもイヤだった魚も今はエサ箱に入れて腰に「楽しいし健康的ですよ」(8・4毎日)

仕事で勝負します

安井信さん(四七)は、東急サービス株式会社食堂部サービス課長。七年前、新聞広告の「フロント係募集」に応募、主婦から転身、チーフ、課次長を経て課長に。本社の部課長会議では二十七人中女性は一人。男性の視線の中で「今は仕事で勝負するしかない」(8・8朝日)

将来は「世界母親大会」も

意気盛んな母親大会実行委員長山家和子さん（五七）。戦前の厚生大臣令嬢、芸術家志願が、五人の子を引き取って離婚、今は自称世話やきおばさん。今年の行動目標は①市販テストを考える②食物総点検③ベトナムの平和支持。（8・15毎日）

厄年を迎えた01評論家

女も働いてれば厄年は四十二、と笑う上坂冬子さん。「三十五までは普通の奥さんになりたいと思ってたけど、何をやってもいいんだ、どいつもこいつも死んでいく人だと思うようになった」。政治・セックスは扱わない、人の世話はしない、世話にならないの三つのセ抜きで生きている美人。（8・23毎日）

私は「町の教育係」

地方の町に朝市が復活し始めた。都会では縁日が好評。デパー

トには駄菓子屋が顔を見せ、ペーゴマやケン玉がおとなたちの郷愁をそる。そんな世の中の流れと関係なく、東京・葛飾区の一角で十七年間「駄菓子屋のおばさん」と子どもたちに親しまれ、「町の教育係」として駄菓子屋の誇りを持ち続けている人がいる。ことし五十五歳の脇田はるさんだ。（8・28読売）

「看護の理論化」目指す

川島みどりさんは二十一年間働いた看護婦の現場を離れ「東京看護学セミナー」を自宅の書斎にもったのが64年。はじめ十人ほどの看護婦さんの集まりだったが、今では参加者は百人を超え研究テーマごとに部会を開くまでに成長。

「現場の経験を理論化し、看護婦みんなのものにしないで」と語る川島さんは、最近の様々な場所ではほとんど毎日開かれてあるグループと討議に加わり、

記録を整理し、体系づけて、本当の看護学を創りだす努力を続けている。（10・11サンケイ）

楽しく老後を生きる

賤ヶ岳のおばあさん

週末、若者たちでにぎわう滋賀県賤ヶ岳の古戦場で、山の茶店のおばあさん、川越ひさのさん（七八）は山の人気者。ファンレターも届く。

八年前、賤ヶ岳にリフトがついたのを機会に、週末に店を開く。手づくりのおだんごに熱い番茶のもてなし、戦国時代の話が巧みに語られ、若者たちはお返しに都会のホットな話題を告げる。

肩をはずらず、さわやかに、きょうの命を大切に生きる、見事なひさのさんである。

（10・18サンケイ）

女工ひと筋に50年

花王石鹼の小林アキさん（六

一）は、石鹼工場の女子作業員として半世紀を働き続けた人。いまま囑託として毎日勤務し、会社の最古参である。

同社では五十八歳が定年であるが、三年前、小林さんが五十八歳のとき、「小林さんを退職させないで」。工場の約千人の女子社員のリーダーとしてどうしても必要」との声があがって、現在まで続いている。

「仕事についてはコンピュータより適切だ」という評判。「根っからの仕事好き」と苦笑する小林さんである。

（10・26サンケイ）

「女のアフリカ」の著者

能城律子さん

東京のホテル・ニューオータニにある世界でも初めてというベビールームの総長。

場所がら預けられる赤ちゃんは白・黒・黄と国際色豊かで「赤ちゃんの国連総会」と能城さん

は言う。ひよんなことからLPレコードを輸入する仕事を始め、これをきっかけに、男も顔まけの貿易商人となった。これまでに訪問した国は百二十三か国、テレビや雑誌にもよくひっぱり出される。

ベビールームのアイデアはこんな能城さんでなければ思いつかないものと言えそう。

(10・27読売)

女の一生スリ50年

スリ、万引稼業を五十年、前科二十犯、通算刑務所生活が三十年七か月というおばあさんが、スリの現行犯でつかまった。増田ふみ子、七十歳。

二十歳のとき、父親の道楽の借金のかたに芸者に売られたが、着物もなく、反物の行商人のカゴから反物を万引したのが泥棒人生のはじまり。以後はスリと万引で生計をたて、盗んだ反物は自分で仕立てて着て、現金は

生活費、残った金は預金、五百万円の定期預金を持っていた。

(10・27・31読売)

望郷 帰国する岡田嘉子さん

38年にソ連に渡って以来、三十四年ぶりの帰国がきまった元女優、岡田嘉子さん。

日本には三か月滞在の予定。帰国したらなにはさておき亡夫の墓づくりと決めたという。

「会いたい人はたくさんいます」と過ぎ去った時の重みをかみしめるふぜい。(10・31読売)

看護婦十六年ののちに

三十二年の人生を振り返ってみて「無我夢中で突っ走って来たようなものだ」と、奥野照子さん。東京・慶応病院の外来手術室で働く勤続十六年目のベテラン看護婦。主婦であり、二人の子の母親でもある。無我夢中の「疾走」のせいか、いま自律神経失調症に悩まされながら、

肌で感じる医療の現実が、心に重くのしかかる。

(11・30朝日)

女性の力で議席奪還

看護婦の母親、金子さん「ナイチンゲールのお母さんが勝った」——社会党の復活ムードの中で、東京四区の女性新人金子みつさん(五八)がみごと当選。

(12・11読売)

〔賞〕

日本文学大賞、円地文子さん

『遊魂』で。賞金百万円。

(3・2読売)

森田たまパイオニア賞

第一回アルプス三大北壁征服の今井通子さん(三〇)に。銀のメダルと十万円。「うれしい。でもパイオニアだなんて。私は趣味で登っただけ」

(3・4読売)

第十二回田村俊子賞

広津桃子「春の音」と石垣りん「石垣りん詩集」、江刺昭子「草いきれ」評伝太田洋子」に。

(3・7読売)

女流文学賞新設

二月十七日に逝った平林たい子さんの遺産で新設。

(3・20読売)

恩賜賞に故平林さん

第二十八回日本芸術院恩賜賞に平林たい子さん。「平明な写真主義にもとづき人間の生をテーマとしたすぐれた作品を数多く残した」と。(4・12各紙)

大宅壮一ノンフィクション賞

桐島洋子さんに
都立駒場高校を卒業して文芸春秋に入社、九年勤めてフリーのライターになる。この間、独学で英語をマスターして68年にアメリカに渡り二年後に帰国、

「淋しいアメリカ人」で受賞。
未婚の母、三十四歳。

(5・2 サンケイ)

サンケイ児童出版文化賞に
北畠八穂著「鬼を飼うゴロ」

若い才女おびただしい児童文壇で、大賞に選ばれた北畠八穂さんは、病弱にもめげず執筆四十年の大先輩。現代の山村がかえる多くの問題を、出稼ぎで両親を失った主人公ゴロをとおして詩情豊かに語っている。

(5・5 サンケイ)

一戸さん三つの受賞

第二十三回国際学生科学技術博覧会(ニューオリンズ)で青森西高校今春卒の一戸幸恵さんが化学部門で第四位(賞金二十五ドル)アメリカ化学会賞第三位(同五十ドル)と同陸軍賞を受賞。「鉄の新しい比色定量」の独創性が高く評価されて。

(5・7 読売)

主婦が第五回新美南吉文学賞

山本知都子さん(四六)の児童文学作品「海がめのくる浜」が受賞。「思いがけない受賞です。児童文学の仲間や主婦の方々の励みになればうれしい」

(5・17 中日)

吉岡弥生賞は林さん

救うライ四十年の女医、林富美子さん(六四)が受賞。

「日本のライの歴史は、今世紀で終わります」と断言。

(5・23 中日)

国際ポスタービエンナーレ展

石岡瑛子さんが社会部門ブロンズ賞を受賞。(6・3 毎日)

読売教育賞に二女性

理科教育の城谷義子さん(姫路市立城北小教諭・三六)と幼児教育の新田旭子さん(島根県六道町立六道幼稚園教諭・四三)に。「意欲と主体性持たせた

探究」「砂あそび」で心の育成」が評価されて。(7・5 読売)

バタヤの町のママ先生に

キワニス賞

バタヤ町に住みついで二十二年、みなし児や浮浪者たちのかげのささえとなっていた東京都足立区の種田あいさん(六一)をキワニスクラブが十四日、表彰することに決めた。ケンカの仲裁から病人の世話まで社会の底辺に働く人たちによろず相談で勇気と生きがいの灯を与え続けた毎日。知られざる善行がやっと明るみに。(7・12 毎日)

報われぬ後進よ続け

平林たい子文学賞創設

故平林たい子さんの遺言で、財団法人「平林たい子記念文学会」が設立されることになり、四日、文部大臣から許可がおりた。作家の丹羽文雄氏が理事長をつとめ、年に一回、小説と評

論の分野で貢献した人に賞を贈る。同会の資産は八千万円。来年から小説、評論の両部門から各二人(男女は問わず)の受賞者を決め、記念品と副賞五十万円を贈る。(8・5 毎日)

第十五回女流新人賞

入賞はなく、佳作に丸山浩子さん(主婦、五六)の「熾火」が。(8・21 各紙)

女性で勲一等

社会党の参議員藤原道子さん(七二)、女性で三人目。(11・3 日経)

野間文芸賞は佐多さん

第二十五回野間文芸賞は八日佐多稲子作「樹影」に決まった。(11・9 日経)

芸術院新会員に女性二人

二十四日、会員補充選挙の開票を行なった日本芸術院では新

会員八名を決めたが、小説の宇野千代さん（七四）、声学の柳兼子さん（八〇）の二人が新しく芸術院会員となった。

（11・25朝日）

氷の女王は十三歳

フィギュアスケートの四十七年度女子チャンピオンに渡部絵美さん。十三歳とは思えない演技で、ダブルアクセルも見事にこなし完ぺきに近いものだった。

（11・29読売）

〔訃報〕

福田幹子さん 十三日、心臓衰弱で。八十二歳、東京女子医大評議員。
（1・15読売）

平林たい子さん 作家の平林たい子さん（本名タイ）が十七日心不全のため東京・信濃町の慶応病院でなくなった。六十六歳。長野県諏訪郡出身。諏訪高等女

学校在校中から社会主義思想に刺激され卒業後上京、電話交換手、店員、女給、事務員、女工などを経て、二十二歳のとき短編小説「嘲る」で大阪朝日の懸賞小説に当選、二十三歳で「投げ捨てよ」「施療室にて」を発表、作家生活に入った。代表作「かういふ女」「砂漠の花」など。
（2・17毎日）

本島百合子さん 前衆院議員、民社党婦人部長本島百合子さんが二十一日、脳出血のため死去。六十四歳。北九州市出身。都議三期、衆院議員四期。
（5・22読売）

久布白落実さん 二十三日午後七時二十九分心不全のため死去、八十九歳。二十歳の時渡米、売春の実態を知り、帰国後、全国廢娼連盟を組織。また、市川房枝さんと婦人参政権獲得同盟を結成するなど、日本女性解放

の先駆者。（10・24毎日）

婦人解放家にふさわしい葬儀 二十九日、久布白さんの母校、女子学院の講堂で行なわれた葬儀には、千人近い女性が参列。

藤原道子、加藤シズエ両参議院議員をはじめ、縫田暉子東京都民生局長、赤松良子労働省婦人労働課長、貞閑晴日比谷図書館長らも連なり友人を代表して山高しげり前参議院議員が弔辞をのべた。
（10・31朝日）

本

宇野千代

『或る一人の女の話』

著者にしては珍しく三人称で書かれた新作。だが実質は女主人公の問わず語り。足なえの兄に遠慮して家を飛び出した放蕩無頼の父を描き、その父に似た男を求めている男性遍歴を見事に語る。

語る。

（文芸春秋 一、八〇〇円）

（3・27朝日）

富岡多恵子

『わたしのオンナ革命』

オトコとオンナについてのユニークな観察。そのユニークさが奇抜でも新奇でもなく、偏見のため見えなかっただけの当たり前のことをズバズバ言っているの、それがオトコ社会への痛罵にもなり、ウーマンリブの偏狭さへの批判にもなっている。「こういう文明社会で女のいちばんいいところはなんにもしないで生きられるという特性だ」と思う。女でよかったと思うのは、ああ自分は男のように出世しなくてもいい、人類の文明のためにコナゴナになるまで働かなくてもいいと思う時である。女は人間の文明の進歩の足手まといになるヤバンなものである。この野蛮な文明の進歩にとって

たえず批評であるはずだった。

だからオナナ革命が、この批評の論理化にならないところでは意味がないと思う」

(大和書房 五九〇円)

(5・1朝日)

尾崎礎磔子

放送詩集『植物都市』

NHKラジオ第一放送「夢のハーモニー」のために書いたものをまとめたもの。脱文字、脱活字、新しい日本語をとりもどすための新しい聴覚詩。

「女の人って、子どもを産んで育てるというように、生まれながらに生きる目的が決まっているようなところがある。でもそれではつまらないから、何か創造的なことをしたいと思う。私の詩は女であり、妻であり、母であるその残りでつくっていて遊びがありますね」この半主婦論、彼女の持論である。

(5・9毎日)

「あの子は帰らない」

進学高校三年で自殺した息子に語りかける母(岡島八重子)の手記。「育児は残念なものとは知りました。自由に生きてほしいと育てた結果が自殺とは」

(三省堂 六〇〇円)

(6・7毎日)

青春の情熱を点訳に

博多の伝統行事や風俗習慣を歳時記ふうにとめた「がめに」(西日本新聞社発行)が点字本になる。点訳者は福岡青年赤十字奉仕団点訳グループのお嬢さんたち。上下各巻八十ページの小冊子だが一冊の点字本完成には九人で三か月かかる。この地味な仕事の中に若ものたちは青春の何かを燃焼させるに違いない。

(6・15西日本)

孫に贈った昔話が本に

門真市の元小学校教師、渡辺たま子さん(六〇)の『海坊主』。

初孫への便りに書き送っていた話を、たま子さんの娘、息子たちが金を出し合い、還暦を祝って出版したもの。

冬の日、日だまりにどこからともなくやってきては、こどもたちからイモをもらって食べる目の見えないおじいさんの話、町へくる魚売りの話、お通路親子の話、雨の日のこと、お盆のことなど、二十五編のお話が季節ごとに収録され、さし絵も自筆のすみ絵である。(福井市北四ツ居三〇ノ一六、北荘文庫、六〇〇円)

(6・18朝日)

松田解子『地底の人々』

53年発表の同名の小説(花岡鉦山中国人俘虜虐殺事件)を現地と中国での調査を重ねて書き改めた新刊。「父も日露のころ鉦山で死んだ。戦争があると鉦山で必ず多くの労働者が死ぬ」と。(民衆社刊 九五〇円)

(6・28毎日)

かあちゃんをつくった文集

字も不ぞろいなガリ版刷りで百ページ足らずの『むぎ』。粗末な農村の生活体験文集だ。

きれいいことや理屈ではない農村のなまの声で埋まっている。子どもも書くし老人も書く。出かせぎ先の夫も力二漁に行く若者の声もある。

「庶民の生き方は、すべてその時代に大きなかわりがあると思うんだナス。農村の出かせぎだって日本を経済大国にした原動力のひとつでしょう」と発行者の岩手県二戸郡一戸町小島谷一条ふみさん(主婦・四七)は言う。

(7・2朝日)

『子どものモスクワ』

夫について二年間モスクワで暮らし、子を現地の幼稚園と小学校に通わせた母(松下恭子)のほほえましい観察と記録。

(岩波書店 一八〇円)

(7・10読売)

『愛と反逆』出版記念の会

東京・千駄ヶ谷区民会館で佐多稲子さんら約六十人が集まり、著者本多房子さん(六五)の処女出版を祝った。

本多さんは婦人民主クラブの機関紙のベテラン記者。同紙に十六年間、インタビュ記事「こめん下さい」を書きつづけ、昨年、田村俊子賞を受賞。インタビュした中から約六十人を選んで、こんど一冊の本にまとめ出版したもの。

(7・20朝日)

主婦が翻訳した

ソ連の自然保護テキスト

『自然環境の保護公害理論と実際』という大部の訳書を出版したのは、杉山利子さん(四二)。結婚後十年もたってからロシア語を習い始め「自然保護に役立ちたくて……。主婦業もサボっていません」

(7・28毎日)

本になった医療の底辺

入院している人たちの療養生活や家庭問題の相談相手になる医療ケースワーカー、名古屋市の浦辺竹代さん(六二)が「患者とともに——ある医療ケースワーカーの記録」を出版した。

社会福祉の道を進むのが、少女のころからの夢だった浦辺さんは、労災による患者の悲惨な現実を身近に見て、労災病院で働くことを決めた。この本に盛られた事例は、誠実な働く人たちが、災害や高齢や病身ゆえにどんなに苦しみ、それをいやす医療保障がいかに貧しいか、強い怒りをもって描かれている。

(ミネルヴァ書房 六五〇円)

(7・30朝日)

主婦がまとめたゴミ白書

『公害前線を探るー主婦のゴミ白書』という本がこのほど出版された。ヘサングループ」という東京都内に住む七人の主婦

たち。ごく普通の主婦たちだが、全員が家事の合間に時間をやりくりし、この二年というもののゴミと聞けば東へ西へと走り回った貴重な体験をまとめた。

(8・11毎日)

手づくりの『震災体験記』

ことし春、大田区に住む村田静代さん(六八)が、「関東大震災の体験をつづろう」と呼びかけ、五十人の体験者が集まり、一冊の本にまとまった。本は、当時の避難所、上野公園で九月一日に配られる。A5判、二百ページ、二百部限り。無料。

(8・12朝日)

PCB絵本

三部作がこのほど完成。消費者を守り公害をなくす創造的な仕事をめざすヘコンシュートピア創造群(新宿区若葉一の一〇東京デザイン内)の作品。

(10・2朝日)

在日朝鮮女性の聞き書き

むくげの会が『身世打鈴』

「シンセタリョン」と読む書籍。へむくげの会(朝鮮の人々に対する日本人の差別を否定する、七人の女性の会)の手で集められた在日朝鮮女性の苦しさを書き連ねてあるが、ぐちではなく、不幸のぎりぎり状態を生き抜く女たちのたくましさ、かき鳴らされている。

へむくげの会代表、久保文さんは、小学校六年生で関東大震災にあい、朝鮮人虐殺事件を知って、人間の悪意は天災より恐ろしいと感じた。その心を何十年も持ち続けて出来た本である。

(10・3サンケイ)

城夏子さんと老人ホーム

随筆集『薔薇の小篋』

「一九〇二年生まれの老女」が千葉県流山市の老人ホームに入居して三年間の生活体験記。上手に、賢く、美しく生きる

老人たちのさまざまな生き方が紹介されている。

著者は「若き日の詩集」というアンソロジーも出版したところ。いま幻想的な小説を書きたいと構想を進めている。

(読売新聞社 七〇〇円)

(10・11サンケイ)

永田洋子「生いたちの記」

仲間十四人を殺害して裁きを待つ連合赤軍最高幹部、永田洋子(二七)の「生いたちの記」。

評価はマチマチだが、敗戦で多くの人がそれまでの価値観を根こそぎ失い父的な權威が地に落ちた時代に育った一人の女性が過激派になってゆく心とその背景を知る上で貴重。

(10・13毎日)

母親たちの童話同人誌

「きばっこ」

童話に関心をもつ主婦ら三人が児童文学研究会で知り合い、

素人ばかりで本づくりを始め、雑誌「きばっこ」を完成した。

申込先 愛知県稲沢市稲沢公園住宅四九ノ一一 町田紀久子さん方。一部百円のカンパ。

(11・22中日)

女性が集団自殺の真相も

強制連行朝鮮人の記録

「ホッカイドーッ、生キテ再ヒ帰レヌ地」と題した小冊子が、当時の体験者たちのナマの声を集めてつくられた。慰安婦になることを強要されて集団で抗議入水自殺した女性たちの記録もある。

(12・4道新)

繁栄のかげに

病院だらけい回し、赤ちゃん死ぬ

深夜、病院を捜したが、当番医制が不備なせいか、不親切なためか、しっかりした治療をし

てもらえず、肺炎が手遅れになった。お正月で北九州市小倉区の実家に里帰り中。父親(二七)は諦め切れず「あまりにもむごい」と憤慨。(1・5朝日)

若夫婦十万円で

赤ちゃんを「売る」

「生活が苦しいので育てられない」と大阪で、若夫婦の元自動車運転手Aさん(二六)と内妻(二一)が、生まれたばかりの赤ちゃんを、子どものない近所の家庭に十万円で譲り、行方をくらました。譲られた夫婦は「売買」については否定しているが、警察は児童福祉法違反の疑いで、譲った夫婦の行方を捜している。(1・27朝日)

妊婦に乗車拒否

パトカー内でうぶ声

東京都江東区で、十六日早朝産気づいた妊婦(二五)が、タクシーを拾いに大通りへ出たが、

乗車拒否の連続。寒空に十五分もうずくまっていたところへ、

パトカーが通りかかり、病院へ。当直助産婦が様子を見たところ、院内に移すと生まれてくる赤ちゃんが窒息を起こす心配があるため、パトカー内で出産。(1・17朝日)

グアム島で元日本兵発見

二十五日午前零時五十分、タロホホ川のほとりで五十八歳くらいの男を発見。「元日本兵ヨコシヨウイチ」と名乗ったが、深夜のため確認できず。

(1・25朝日)

絶句する戦争経験者たち

「つかまれば殺されるという絶望的な恐怖心。孤独の密林暮らしだったろう。よく生きていてくれた。これでたくさんさんの遺族が「もしや」と希望をお持ちになるでしょう」(大岡昇平)

「つらいなあ、つらいなあ、一生をめちゃめちゃにされた姿を

まざまざと見る思い」

(遠藤周作) (1・26朝日)

二十八年間の国家補償は給与月額九万円と恩給年額十二万円

記者会見で声かけられ「ハイ」「こちらを向いて」のカメラマンの声に「ハイ」。「笑って下さい」にはキョトキョトして顔をしかめたまま。「困ったのは衣類と火。日本語は、そりゃ忘れない」 (1・26朝日)

陛下のために生きた

「恥ずかしながら帰って参りました。銃は陛下にお返しします。陛下にお会いしたい。もうお亡くなりになったとばかり思っていた。陛下を信じて生き続けたことだけはお伝えしたい」。

興奮で睡眠薬も効かず、三日目にやっと安眠した横井さん。

(1・27/2・2各紙)

連合赤軍、ろう城

長野県軽井沢町の河合楽器の

保養寮「浅間山荘」に、十九日午後、「連合赤軍」と見られる

男五人が押し入った。管理人の妻(三二)を人質にたてこもり、警察側と銃撃戦。警官二人が負傷。 (2・20各紙)

関係のない妻を早く返して——夫は訴える。近くの寮の一室から山荘を見守る目は、真っ赤。 (2・21朝日)

息子よ、出てきて

犯人たちに二人の母親が、昨夜に続いでの説得。その母たちにも発砲。 (2・22朝日)

泰子さん

二百十八時間ぶり救出

連合赤軍による軽井沢「浅間山荘」事件は、二十八日午後六時十五分、警察側の「強行作戦」によって、解決した。

人質の泰子さんは無事だった。犯人も全員つかまった。が、銃撃戦で、警官二人が死亡。さらにテレビカメラマンを含む十三人が重軽傷。 (2・29各紙)

連合赤軍の大量リンチ殺害

連合赤軍事件を捜査中の群馬県警は妙義山麓沢アジト等で逮捕した同派最高幹部森恒夫(二七)同幹部永田洋子(二七)ら

四人の取り調べと遺留品から、グループが穴ぐらアジト内で裏切り行為をした仲間の一人をリンチして殺したことをつきとめた。アジト付近を捜索し男一人の遺体を発見。 (3・7各紙)

肅清は男八人、女四人

一連の殺人は十二月末から始まり、連合赤軍の党規に反するものは、中央委員といえども容赦なく銃をつきつけ、刃物で胸を指し、絞首刑にするなど、榛名山麓周辺で八人、迦葉山アジトと妙義山アジトで四人を処刑という陰惨な犯行の連続だった。 (3・31各紙)

(3・31各紙)

チタンで肺おかされた

重電工場の女工

横浜の工場に半年勤務した主

婦がジン肺に、と胸部疾患学会で田島玄呼氏が発表。「半年で起こし、八年たっても排出されないとは重大」と。 (4・14毎日)

息子の結婚をきらい母自殺

二十三日、茨城県土浦市で、運転手(三〇)が、隣家へ「母がのどを切って自殺した」と急報。隣人が一九番をしかけてかけたところ息子ものどや左胸を刺して苦しんでいた。母親は出血多量で死亡、子は重体。

母親は、一人息子が東京の勤め先で知り合った未亡人との結婚に反対していた。 (4・24朝日)

(4・24朝日)

両親夜遊び、乳児窒息

二十六日午前五時ごろ、東京都北区のアパートで、トビ職Aさん(二四)と内妻(二二)の長男(七か月)が冷たくなっているのを、帰宅した二人が見つ

け、あわててタクシーで病院へ

運んだが、すでに死亡。タオル
ケットが顔の上にかかっていた
ことから窒息死とみられる。

二人は、二十五日午後四時半
ごろから出かけ、約十三時間
の間、赤ちゃんはミルクを一滴
も飲んでいなかった。

(4・26朝日)

胸張って韓国学校へ登校

四月八日の入学式の夜、東京
都北区、私立武蔵野高等学校に
本籍誤記により入学を取り消さ
れて以来、二十日ぶりに、黄真
紀さん(一五)は、東京都新宿
区、東京韓国学校高等部へ通学
を始めた。

母親が「韓国籍をふせてほし
い」と地元教育委員会に頼みこ
み、小、中学校を通じて学籍簿
にものっていた日本籍、日本名
をきっぱり捨て、この日からは
戸籍どおりの韓国名「ファン・
ジンギ」。

(4・29朝日)

看護婦不足で

縮小やむなし老人病院

行き届いた老人医療と福祉を
めざして建設された全国初の老
人専門病院、板橋区栄町の「東
京都養育院付属病院」は六月一
日オープンするが、看護婦不足
から縮小を余儀なくされている
せ、かくの老人専門病院にも看
護婦不足の壁は厚い。

(5・9サンケイ)

アルサロ火事で百十七人死亡

大阪千日デパート火事で男四
十八人女六十九人が死亡。八十
一人のホステスのほとんどが死
傷。ホステスの大部分は三、四
十歳代。女性従業員の最高齢は
六十歳。(5・14・15各紙)

母の日無残、千日前惨事

母の日を前に十三日大阪・南
区千日前の千日デパートビルが
猛火につつまれ、館内にとり残
されたキャバレーのホステスら
が逃げ場を失い、窓から飛びお

りるなど、大惨事となった。無

残に死んでいったホステスたち
には「母親」が多かった。女ひ
とりで子どもを育てるために、
夫と一緒に店を持つために、精
いっぱい生きがいに毎日を送
りへらしていた。明けて十四日、
悲しい「母の日」であった。

(5・14サンケイ・読売)

相次いだママさんホステスの死
千日前デパートビル火災の犠
牲者のなかには、ママさんホス
テスが多かった。

大阪市西成区の市立天下茶屋
小学校五年の津田恵己子ちゃん
(一二)と、同校二年剛司君(八
つ)の姉弟は、五年前の父親の
病死に次いで、母親の康子さん
(三八)を猛煙の中に奪われ、
孤児となった。(5・15朝日)

四つの坊や、赤ちゃん殺す

四歳の男の子が近所の女の赤
ちゃんを階段から落としたうえ、
農業用水に投げこんで死なせる

というショッキングな事件が富

山県で起きた。児童心理学者は
「この年ごろは、自分が何をし
ようとしているのかわからない
危険な年齢だ」とみる。

(5・20朝日)

資金源のヌードダンサーに

むりやり中絶させる

埼玉県川越市、暴力団住吉連
合平塚一家組長(三六)ら三人
は、資金源にしていたヌードダ
ンサーA子さん(二三)が男の
ダンサーBさん(二五)と親し
くなり妊娠、「結婚したい」と
言ったというので、三月二十五
日夜Bさんを電話で自宅に呼び
出し、中絶の同意書を無理やり
書かせた。A子さんは、組長の
内妻に連れられ川越市内の病院
でやむなく中絶したという。

(5・26朝日)

小学五年生、幼児を殺す

三日、東京都中野区の保育園

の砂場で遊んでいた二歳五か月の男の子が、五日午後、自宅近くのマンションの屋上で全裸の他殺死体となって見つかった。

犯人は、当時いっしょに遊んでいた小学五年生だった。砂場で砂をかけられ、カッとなり腹などをなぐっているうちに死んだという。

少年の家は繁華街の店の二階で、二部屋に親子六人が同居。六人兄妹の末っ子だった。最近父親が労働者として働きに出るようになり、母親も勤めている。少年が家に帰っても、だれもないことが多かった、という。

(6・6朝日)

スモンの主婦自殺二件

スモンに苦しむ主婦が二人、相次いで自殺した。いずれも国と製薬会社と訴訟中で医薬公害救済策の立ち遅れが生んだ悲劇だった。

一人は川崎市伊勢町の鈴木タ

マさん(四二)で、階段の手すりて首をつった。「家庭が暗く」と家族あての遺書。

一人は米沢市大町の佐藤あいさん(六七)、自宅わきの便所で首をつって自殺「死にたい」ともらしていた。(6・13日経)

老母服毒、娘は殺しきれず

愛知県豊橋市弥生町で、老婆が服毒自殺、そのそばでうば車にのった長女(三六)が助けを求めていた。死んだのは上田つなさん(七二)で、進行性筋ジストロフィーで入院中の長女を連れ出し、心中しようとしたが殺しきれず、自分だけ服毒自殺をはかったものとみられる。

(6・14日経)

小学二年生が自殺

両親は離婚、愛情不足か
両親が三年前に離婚、母親と妹とともにアパート住まいをしていた愛知県西春日井郡西枇杷

島町の小学校二年生の男の子が包丁などで首などを切り自殺した。小学低学年生が家庭的な悩みで刃物を使って自殺したケースは全国でもまれだけに関係者たちに大きなショックを与えている。(7・8サンケイ)

保母さんは疲れている

東京北区の保母会が行なった保母検診の結果、「異常なし」三八・七%に対し「異常あり」は過半数を越えた。病気は一種類にとどまらず、一人あたり平均二・一の疾病をかかえる。とくに職業上の病気と推定されるのが腰痛、頸腕症候群、声帯異常などで、患者も多い。

(7・16毎日)

早まったお母さん

坊や道連れにガス心中
二十六日、東京都足立区で長男(九か月)のミツクチを苦しめた母親(二五)が無理心中し

た。この赤ちゃんは、三月に手術をしてかなりよくなっており、秋には残りの部分を再手術する予定だった。

医学関係者は「現代の医学では、ほとんどなおる。周囲の人も偏見をもたないようにして、家族もおなるといふ希望を持てがなければ、こんな悲劇はふせげる」と訴えている。

(7・27朝日)

ドアに指はさんだまま発車

おばあさん転落死
二十六日午後、東京の国鉄新宿駅で、電車に乗ろうとした老女(八二)が間にあわず、ドアに左手指をはさまれたまま引きずられ、ホーム下に転落死。

(7・27朝日)

子ども殺し相次ぐ

東京都保谷市で、三日「いたずらがすぎるので」と、二歳の長男を母親(二二)が殺した。

神奈川県厚木市で、四日、母

親（三〇）が連れ子の長女（六つ）を「父親が違うので育てる自身を失った」ため絞殺した。

四日、堺市で、マッサージ見習いA（三八）が二女（三つ）を包丁で刺し殺した。Aは四十一年ごろ、視力が落ちる病気にかり、勤めていた会社も辞め、生活保護を受けるようになった。将来に不安を持ち、かわいがっていた次女を殺し、自分も自殺するつもりだったらしい。

（8・4朝日）

森永、因果関係認める

十七年前のヒ素ミルク事件を認め、「守る会」の要求に沿い、未確認児の救済・補償も行なうと、森永が基本方針を発表。

（8・17毎日）

突然の変心に患者ら不信

十七年も放置して今さら、と、今も苦しみ続ける患者たちは不信感。

（8・17毎日）

立ち上がる「被害者の会」

生活・就職の保障を、と、第四回総会。

（8・20毎日）

肺ガンの夫と老妻が心中

秋雨の降る二十二日、東京王子で肺ガンの夫をかかえた老いた妻が「いくじなしですみません」との遺書を残し、夫を道づれに心中した。

この老夫婦は家族もあり、経済的にも恵まれていたが、王子署は「結局は生きがいの問題でしようか」と言っている。

（8・23サンケイ）

コンピュータ病？

名づけて頸肩腕症候群。キーパンチャー、電話交換手、タイピスト。学校を卒業して二、三か月の若い女性に起こりやすい。肩こり、首の痛み。群というのは、原因がわからないのでひっくるめて呼ぶ。ここ数年、急激にふえている。

（8・6毎日）

「からゆきさん」眠る墓

からゆきさんと呼ばれ、明治、大正期に東南アジアへ流れていった悲しい日本女性たちを、親身になって面倒みた女親分の木下クニさんと働いていたからゆきさんの墓が、マレーシアの北ボルネオ・サンダカンにあるのが日本人商社員によって発見された。近代日本のアジア進出の犠牲者として、はるか故郷の親、兄弟を思いながら異国で死んでいった底辺女性たちは、半世紀以上も訪れる者もなく、南方のかん木の下に静かに眠っていた。

（8・28毎日）

米国式育児法で

赤ちゃん窒息死

三日朝、東京都東大和市で育児パパが「アメリカ式育児法」と呼ばれる形で生後一か月半の乳児をうつぶせに寝かせていたところ、下のふとんがやわらかすぎて窒息死。

（9・4朝日）

うつぶせ乳児また死ぬ

六日、午後二時ごろ、東京都渋谷区で、生後四十日の赤ちゃんが、母親が買物の間、ベッドでうつぶせに寝かされ、窒息死。

（9・7朝日）

無認可保育所で赤ちゃん窒息死
十四日午後、東京・足立区の無認可保育所で、ベッドで昼寝をしていた一歳の幼児が、毛布の下で窒息死していた。パートの主婦ばかりの素人保母さんの目が行き届かなかったためとみられるが、共働きの両親は「保母さんを恨む気はしない。ちゃんとした保育所に入れたくてもなかなか入れない児童施設の貧困が原因」と訴えている。

（12・15朝日）

「うつぶせ」乳児死ぬ

二十四日朝、都内でうつぶせに寝かせたゼロ歳児が死ぬ事故が二件あった。警察では、アメリカ式育児法として最近広まっている「うつぶせ」が直接の原

因になった窒息死とみているが、一方、小児科医の間では「ゼロ歳児の死を、すぐうつぶせによる窒息に結びつけるのは間違いだ」とする意見もあり、「うつぶせ」の是非が改めて論議を呼びそうだ。

(12・25朝日)

頼まれて病苦の夫殺す

老妻は自殺図って失敗

東京・練馬区で、一日、心不全で寝たきりの八十歳の夫に「苦しいから殺してくれ」と頼まれ、七十五歳の妻が首を絞めて殺した。

そのあと妻は後追い自殺をはかったが死にきれず、練馬署に連行されたが、同署は約二時間調べたあと、老衰がひどいために帰宅させた。

ひとり娘の夫婦は仕事の都合で午前零時ごろ帰宅する生活だが、毎朝、夫婦交代で起きて温かいミソ汁を老夫婦に出すほど親孝行、暮らしむきも悪くなく

近所でも「いいおばあちゃん」という評判である。

(10・2サンケイ)

赤ちゃん殺し石膏づめ

東京・大田区で、私生児を産んだマネキンガール(二七)が、母子もろとも姿を消した。警視庁捜査一課と池上署の調べで、母親はわが子を殺し、石コウ詰めにして広島の実家へ送り、犯跡をくらまそうとしたことが判明。わが子がじゃまになって殺したと断定された。

(10・5サンケイ)

修学旅行で捨て子預かる

大島の女高生

修学旅行中の伊豆大島の女高生が、六日夜、東京駅の雑踏の中で、若い母親に小さな兄妹を「ちょっとあずかって」と託されたが、母親はそれきり戻らず、衣類をつめた紙袋に「子供たちをよろしく」と書いた紙が。

あずかった高校生は「かわいそう」、捨てるようなおかあさんとは思えません。まちがいであってほしい」と涙ぐんでいた。

(10・7サンケイ)

国の無策こそ真犯人

また、脳性マヒの子を祖父が……。父親は三十七年間も一貫して国の冷酷な仕打ちに耐えねばならなかった。「福祉問題を血縁だけに押しつけてきた行政のひずみによる悲劇」としか表現のしようがありません」と那須栄一中大教授(老人社会学)。

「殺人にまで追いつめたのは誰か、をもう一度みんなで考える必要があるのでは」と全国重症心臓児を守る会の北浦雅子副会長。途中で何回かことばがとぎれ、涙声で。(10・11読売)

娘を返してください

水俣訴訟いま終着へ
十一日、熊本地裁に集まった

原告の患者、家族五十一人。二十年間の苦しみ、法廷でセキを切ったようにあふれた。

「二人の子どもが水俣病になったあと、生まれてきた三人目の子は胎児性でした。主人も最近認定され、私も手足がしびれるようになりました。何度死のうと思ったか」

「四つのおき失った娘を返してください。生きていたら大学一年、戻してください、お願いします」

消え入るような声が、長く長く、法廷に尾を引いた。

(10・11読売)

知恵遅れの娘を殺す

北九州市小倉区で十三日、知恵遅れの二十七歳の娘を病身の母親が絞め殺して自殺未遂。十一日には、東京で七十六歳の父親が重症心臓者の三十七歳の息子殺して自首するという悲劇があったばかり。こんどの場合

も、長い間めんどろを見つづけてきた母親が娘の将来を案じての出来事だった。(10・14朝日)

生後五日、を捨てる

十六日朝、営団地下鉄虎ノ門駅階段下のくずかごの裏でビール手さげ袋がごそごそ動くのを通行人が見つけ、中を開いたところ、生後間もない赤ちゃんがはいっていた。赤ちゃんは空腹のあまり泣く元氣もなかったが、渋谷の日赤産院乳児院に収容され、元氣をとりもどした。

(10・16読売)

モダンな母子寮で一家心中

二十九日朝、東京滝の川の区立母子寮で、孤独に耐えかねた母親が二児を道連れに心中した。きさくな下町の民営アパートから引越して二か月目のこと。近代的なコンクリートの中で母と子の心は冷え切り、希望をなくしていったという。「つめた

い壁が鉄の扉にくい」と遺書があった。(10・30サンケイ)

東名高速を幼児とぼとぼ

捨てた母親都内で逮捕

二十九日午前五時すぎ、静岡県裾野市御宿の東名高速道路を歩いている二、三歳の女の子を、通るかかりの人が見つけた。

親に置き去りにされ、捨てられたとみて手配中、東京・日本橋で検問中の中央署員が無灯火の軽ライトバンを発見、調べたところ同乗の女が「長女を置き去りにしてきた」と自供。

夫婦仲の悪いこの母親は、工事現場で知り合った男と一緒に暮らそうと、長女を乗せ男と一緒にに車で家出、途中長女が邪魔になり、ほ乳びん一本を与えて置き去りにしたもの。

(10・30朝日)

「動く歩道」で学童死ぬ

三日、東京・稲城市の遊園地

「よみうりランド」で、小学一年生が「動く歩道」式のエスカレーターに両腕を巻き込まれ、顔を床に押しつけられて窒息死した。

(11・4朝日)

森永、十五億円の回答

「守る会」は即答避ける

森永乳業は森永ミルク中毒事件を解決するため、被害者の救済資金として総額十五億円を支出することを決め、四日「森永ミルク中毒のこどもを守る会」全国本部を訪れ回答した。昭和三十年の事件発生以来、森永が被害者救済として金額を明示したのは初めて。(11・5日経)

出かせぎの妻自殺

ことしも出かせぎの季節。五日、山形県では「出かせぎ未亡人」の農家の主婦が、病苦とさびしさに耐えかね、首つり自殺した。

「オド(父親)のいない家」に

しのび寄る家庭崩壊の悲劇、村を出る男たちの表情も暗い。

(11・6読売)

殖産興国の陰の人柱

過去帳に見る工女たち

群馬県富岡市で、官営富岡製糸場の創立百年祭が催され官営時代に全国から集められて若くして死んだ工女ら六十五人の慰霊祭が行なわれた。これにあわせて地元郷土史研究家の手で、寺に残された過去帳を中心とする工女たちの死亡状況の調査もまとめられた。(11・7朝日)

売春タコ部屋の

少女ら十五人保護

東京新宿区の暴力団員らは家出少女(一七)を「タレントにならないか」とだましてマンションに連れこみ、子分らに乱暴させたうえ、マッサージュ業者に見習いとして三十万で売りつけ、マッサージュ業者はこの少女

に、一年間に三百七十回も売春させていたことがわかった。

調べによると、このほかにも家出少女を三十万から六十万で売買していた。

(11・18読売)

校庭の回旋塔ポッキリ

下敷きの学童死ぬ

二十一日午後、神奈川県小田原市の市立富水小学校の校庭にある回旋塔が倒れ、これに乗って遊んでいた同小四年男子(九つ)が下敷となり、頭や胸を打って死んだ。

(11・22朝日)

主婦作業員死傷

茨城県の花火工場で爆発、作業をしていた主婦作業員ら三人が死傷した。

(11・25日経)

水深十センチのパケツで死ぬ

二十八日、東京都練馬区のある社員宅で、長男(一つ)が玄關わきに置いてあったパケツ(水

深十センチ)の水の中に首を突っ込み死んでいた。母親が二階でそうじをしていたわずか十分ほどの間だった。

(11・29朝日)

「よだれかけ」が乳児殺す

七日午後、静岡県浜松市の共同保育所で、八か月の男の赤ちゃんが、ベビーサークルのさくによだれかけのひもをひっかけ、首をつったようになって死亡。

このよだれかけは市販のもので、首にかけて結ぶひものほか、幅二センチほどの胴ひもがついているが、ベビーサークルの中であまり立ちして遊んでいるうち胴ひもが高さ四十センチのさくの柱にひっかかり、座りこんだときに首をしめつけたらしい。

(12・8朝日)

幼児の交通事故死増加

今年の交通事故死者が十三日で一万五千二十六人になった。老人をはじめ各年齢層の死者

が減少傾向にあるなかで六歳以下の子の死亡事故だけが急カーブでふえ、年内に千四百人を超え、年間合計では、66年以来的の最高という不幸な記録をつくりそうだ。

(12・14朝日)

差別

女性を締め出す公務員募集

北九州市の来春の公務員募集要項をみて驚いた。ほとんどの区分で「男子に限る」とあり、中に二、三、「女子でも受験できるが、採用予定は少数」とある。性差別を認めない憲法の下で、官庁で、こういうことが堂々となわれていることに深い憤りを感じる。

(6・23朝日「声」)

二回も妊娠中絶…放り出す

姫路から十八キロ、瀬戸内海の家島群島に今も「足入れ婚」

の風習が残っていた。同島に住む女性から「婚約を不当破棄された」と慰謝料二百万円を求める訴えがあり、神戸地方裁判所姫路支局は十九日、人権侵犯の疑いで調査。

(7・19毎日)

西独新聞、小島監督を非難

日本女子バレーボールチームのすさまじい練習ぶりがヨーロッパ人の目には「野蛮」と映り、女子五時間、男子二時間の練習について同監督が「男は脳ミソがいいからそれでいい」と答えた男女差別に腹をたてている。

(8・29日経)

海外

(中国)

農村にはまだ差別

全般に女性の地位は高まった

が、労働の報酬、進学・婚姻の自由にまだ差があると宋慶齡女史が論説。(3・11朝日)

中国バレーボールチームを

主婦ら出迎え

来日中の中国バレーボールチームが北海道入り、空港には、ママさんバレーボールチームが出迎え。午後親善試合を行なった。(10・7道新)

秋田でも日中交歓バレー

日中国際バレー交歓試合秋田大会、中国日立武蔵で中国のママさん選手、蘇彩霞が大活躍、ストリートで日立武蔵をくだす殊勲をたてた。(10・12読売)

「フィリピン」

性の商業化許せない

厳肅な「性」を利用して金もうけをするなどんでもない、フィリピンに誕生したへ新女性運動のメンバーがこのほ

ど、ミス・インターナショナル代表選出大会が開かれていたマニラ市内のアラネタ・コロシアル前に押しかけ、デモを繰り広げた。(7・15読売)

「ベトナム」

戦争ある限り子どもは不幸

北ベトナム婦人代表団

北ベトナムから初の婦人代表団が、日本婦人団体連合会とベトナム母と子保健センター設立運動連絡会の招待で来日、各地で北爆の実情を訴え婦人たちとの友好を深めている。

代表団の話によれば「わが国

は農業国で食糧不足はない。腹いっぱい食べて抗戦」「市民生活も比較的平穩で、清楚なおしゃれを結構楽しんで」「疎開した子どもたちが都会で得られない経験をし、知識を広げることができたのはプラス」とのこと、和平への機運が高まっ

ていることもあってか、代表団の表情も明るい「子どもを殺された母親の悲しみは言いつくせない」と語るときは、きびしい口調であった。(10・28朝日)

婦人代表が交歓

——日本・北ベトナム

ハノイ訪問中のベトナム被爆都市視察代表団一行は、六日、ハノイのベトナム婦人連盟を訪れた。(11・8毎日)

「インドネシア」

子どもは四人まで

インドネシアのスハルト大統領は、人口政策上、一家庭の子どもを四人に制限した。(12・28読売)

「シンガポール」

三人の子持ちはぜいたく

四人目から税控除せぬ

シンガポールのチュア保健相

はこのほど、国会で家族計画を断固推進するとの政府の決定を明らかにした。高度工業化を目指すこの国で、国民全体の生活教育水準を引き上げるためには、社会の足手まといになる「貧乏人の子だくさん」は認められない、というのがその理由。(11・10朝日)

「ブルガリア」

電算機の研修に来日

富士通がブルガリアの材料供給所にオンラインシステム用として売り込んだ大型電算機の研修のため来日している十五人のうち七人が女性。六人は既婚者。東京・大田の富士通情報処理システムラボラトリで電子計算機のプログラミングを勉強している。男女の差別なく国家机关で選抜された人ばかり。(2・26サンケイ)

「フィンランド」

日本でも女性差別撤廃宣言を

ECFAFEのアジア人口会議に出席するため来日した国連の社会人道問題担当事務次長補ヘルビ・シピラ夫人（フィンランド）が五日、「世界人権宣言女性版ともいふべき女性差別撤廃宣言が七日に五周年を迎える。日本の女性もこの宣言が実行されるようがんばってほしい」と語った。シピラ夫人は、この宣言の生みの親の一人で、国連事務局の女性では最高のポストにいる人。（11・7朝日）

「スウェーデン」

父親にも産休

スウェーデンでは父親にも十日間の産休が与えられ、休み中の給料は国から支払われるという案が出た。母親の産休期間も現在の六か月から八か月に延長、

その中で夫婦ともに産休をとれるのが十日間。また子供が病気の時は父母のうち仕事の都合のつくほうが休みをとれる。来春の国会で承認を得たうえで実施されるもよう。（8・10朝日）

売春国営化論で大反響

自分のために、そしてその収入に見あった納税をすれば売春は合法であるとするスウェーデンで、「売春を国営化したらどうか。そうすれば、税収面にもプラスだし、衛生面も向上する」という動議を一保守系議員が提出し、大反響。（10・10朝日）

「スイス」

六百年がかりの男女同権

スイスのグラールス州

七日、グラールス州で開かれた伝統の州民集会（ランズ・ゲマインデ）に初めて女性有権者

が出席。この集会は直接民主制のモデルとして世界に紹介されているが、過去六百年近く女性は出席できなかったが、昨年二月の国民投票で連邦政治への婦人参政権が認められた。保守性の強かったこの州も、ことしからやっつと地方自治への女性参加に踏み切った。（5・10読売）

「ドイツ」

宣誓に旗手にウーマン旋風

ミュンヘン・オリンピックク

開会式の選手宣誓に史上初の女性選手、女子陸上のハイディ・シュラー嬢が選ばれた。旗手も、オリンピック出場五回目のオルガ・コノリー夫人（米国）をはじめアルバニア、台湾、シंगाポールの四人が女性。シュラー嬢は西ドイツ、ケルン大学医学部学生。四児の母で円盤投げ選手のコノリー夫人は米国ハンマー投げ選手ハロルド・コノ

リーと恋愛、チエコスロバキアから米国に渡った話題の女性。

（8・16毎日／8・27朝日）

リブは幼心から！

男の子には人形を、女の子には電気機関車を――。西ドイツの「女性解放運動本部」が採択したことしのクリスマスプレゼントのちよつと風変わりなスローガンに、西ベルリンっ子はびっくり。（11・25朝日）

「フランス」

花のバリーに女性市長誕生

パリーの市長にあたる市議会議長に市政史上初めて女性が選出された。選ばれたのはニコル・ド・オートロック夫人（五九）で第二次大戦中はレジスタンスの闘士として活躍。その功績によりレジョン・ド・ヌール勲章など、いくつかの勲章を授けられている。ドゴール派。二十五

年近く市議會議員をつとめてきた。
(6・13朝日・中日)

ボーボワール、リブ戦線に

『第二の性』以来二十年以上女権拡張運動に加わろうとしなかったボーボワール女史が、五月、パリのリブ大会に参加、行動の先頭に立つようになった。

「これまでの運動は改良主義的で根本的な反逆ではなかった。

新しいウーマンリブは家事も何もすべて拒否し、男が主人公であるという状況を全面的に否定しようとする体制変革をめざす闘い。社会主義も必ずしも女性解放をもたらさない。中世と同じ女性の地位の改革には、男性敵視もやむを得ない。仕事・賃金・教育・資格など、あらゆる面での男女差別をなくし、家事のような無償労働をなくしていくことが必要。これは女性の搾取によって成り立っているいまの社会をくつがえし、新しい社

会をつくることにつながる」と強調し、最後に「日本の女性も各国の女性たちのように戦ってほしい」とメッセージ。

(6・25朝日松井記者)

フランス女性もガンバル

フランスでも今夏はウーマンパワーがもつぱらの話題。六月にはパリ市政史上初めての女性市長が出現。女性に初めて門戸を開いたエコール・ポリテクニーク(理工科大学)には八人が難関を突破し、うち一人は男女を通じて最高点で合格。七月十四日、革命記念日の行進では、野戦移動病院部隊に属する看護婦兼運転手の女性部隊が市民や外人観光客の盛んな拍手をあびた。
(8・26毎日)

中絶論争に揺れる

妊娠中絶は認められるべきか——非合法の中絶をした十七歳の少女とその母親ら四人の「共

犯者」に対する裁判をきっかけに、いまフランスでは再び中絶論争が起こっている。二十二日の判決を前にウーマンリブが立ち上がり「胎児はいつから人間なのか」という医学論争も活発。避妊教育の遅れも指摘され「こうした面でフランスは後進国」の声まで。
(11・22毎日)

共かせぎも結構

「男性から見た女性」という題名のアンケートがフランスで実施された。全国から選んだ二十一・六十五歳の千人の男性を対象に十二の質問をした結果、亭主関白で封建的といわれてきたフランス男性も、ここ十年で女性に対する認識が改まったことがわかった。
(11・25朝日)

「イギリス」

「女性競馬」お目見え
紳士の国ロンドンで、二百年

来認められなかった女性騎手が認められ、女性騎手だけの競馬で、五月六日、メリエル・タムネル嬢が優勝。(5・8道新)

精神病院に幽閉五十年

英で私生児産んだ二女性

ヨークシャーの精神病院で、七十四歳と六十六歳の二婦人が、私生児を産んだのを理由に五十年間も幽閉されていたのが発見され、話題をよんでいる。一九一三年の精神欠陥法により、私生児出産は「道徳的欠陥」として強制的に精神病院に収容されることになっていたため。その後、同法は消滅したが、病院の患者点検が不十分だったのが原因。
(5・22道新)

名門学園に新風

ケンブリッジ男女共学に

男子カレッジと女子カレッジに分かれ、男子カレッジは約八百年にわたり、女子に固く門を

閉ざしてきた、有名な英国の名門校ケンブリッジ大学が、伝統を破って三カレッジに女子の入学を認めた。

この門をくぐった女子学生は百十二人。「生活上の不便はほとんどない」という意見である。

(10・25サンケイ)

発ガンの証拠ない

経口避妊薬の販売許可

英医薬品安全委員会は二十六日、経口避妊薬を長期間服用しても発ガンするという証拠はないと報告、これに基づき英厚生省は同日、新しい経口避妊薬約十種類の発売を許可した。同委員会は八年前より経口避妊薬の調査に着手していたが、このほど、ある系統のネズミに避妊薬成分を大量投与すると発ガン効果認められるが、このことから直ちにこれらの避妊薬が発ガンの危険をもたらすとはいえない、との結論に達したものの。我

が国では「不安がないとはいえない」との結論がだされ、いぜんとして発売は承認されていない。

(10・27日経)

男女で差別あり

避妊薬無料配給

英国の一部市・区議会はこのほど、家族計画に基づいて男性に無料で配っていた避妊薬の数を制限する法案を提出した。一か月間に無料で男性に配給される避妊薬は、区により十二錠、七錠、または制限なしなどバラバラ。各地方議会のために実際に避妊薬を配っている家族計画協会では「女性に制限はない。男性で割り当て以上にはしい人はその分だけ有料」といっている。

(10・31朝日)

産制用具サービス

全国民にタダで

英国は、十九日、諸国に先がけて家族計画の無料サービスを

実施する方向に一歩踏み出した。上院はこの日、全国民に受胎検査、必要処置、避妊用具の配布を無料で行なうという国民健康保険修正法案を七十六対五十一で可決した。

(12・22毎日)

〔アメリカ〕

米国もやっと男女平等

上院通過した憲法修正

下院で可決されていたE R A (男女平等の憲法修正)が二十二日、上院で圧倒的多数で可決された。一九二〇年の参政権以来五十年。

しかし全米五十州のうちの四分の三、三十八州が批准したのち二年後に発効する。実現には三年はかかるが、たとえば「妻自身の名で訴える能力を制限する(メリーランド州)」「信用を必要とする職業に就くことを女は制限する(ユタ州)」など

は憲法違反となる。

アメリカでこんなにも遅れているのは各州の「婦人労働者保護」問題。平等を訴える有職婦人クラブや大学婦人協会に対し、各州の労組や婦人団体が、残業・深夜業を認めることになると強く反対してきたため。しかし週休二日制など一般的な労働条件が向上したこと、婦人の保護をはずすのでなく、男性を女性と同じように保護することで平等を実現すべきだという考え方が主流になり、下院を通れば上院を通らず、上院で可決すれば下院で否決を繰り返した修正が、やっと上下両院を通過したもの。

(3・25朝日)

日系人女性が初めて名のり

米国史上初めて日系人女性がオレゴン州予備選挙で民主党の大統領候補として正式に登場する。この女性にはハワイ州選出のバツイー・タケモト・ミンク米

下院議員。米本土の革新陣営内で「リベラル中のリベラル」と高く評価されている。出馬理由は「東洋人や女性が大統領候補にすならないという、古い米國」であってはいけない」

(4・3福井)

米國の新しいノラたち

今は第二の解放期。だが収入は男性の六割。有利な地位を得られないのは雇い主の偏見と差別による。そこで政府に圧力をかけ、女性勤労者を差別する企業に仕事を出不さいことにさせた。さらに、あえて危険な仕事をしても平等をと全米で約一千の婦人保護条令廃止を進めるなど運動は積極的。八百万人がピルを愛用、性的にも男性から独立、ミス・ミセスの区別のないMSの称を主張する人も。

だが「結婚と家庭は最もたいせつ」という主婦も多い。

(タイム誌) (4・19中日)

「中絶」やはりノー

ーニューヨーク州議會

妊娠中絶の完全自由化というリブの要求に逆らい、ニューヨーク州議會は、二年前に中絶を合法と認めた現行法を廃止、中絶を禁じる古い法律を生き返らせることを議決した。カトリック協会など保守派からは「胎児の生命を守ろう」と反対運動が強く、賛成反対両派のデモがくり返された。

ニクソン大統領は廃止派支持などと、大統領選挙の年の政治とからみ思惑はさまざま。

(5・12朝日)

ホットパンツで出廷厳禁

米国オレゴン州、マリオン巡回裁判所の離婚裁判に出廷したドーラ・ポール夫人、ホットパンツ着用のため審理中止となった。ミニや超ミニならOKなのに、と同夫人は憤慨。

(5・24道新)

米海軍に初の女性提督

ベルタ・デュアク海軍少将、五十二歳。二万六千人の看護婦、看護兵を擁する米海軍看護部隊の司令官に。宣誓ではワナー海軍長官にキスして話題をよんだ。

(6・4道新)

米の主婦が反リブ運動

リブの本来アメリカで、反ウーマンリブ運動の火の手があがった。「女性の本分は二にも二にも家庭生活を守ること。この世は男性上位が天の摂理」——この運動の教祖さまはヘレン・アンデリンさん(五一)。「女性よ家庭に帰れ」を強調する著書「魅力的な女性」は三十万部も売れ、講演会も大入り満員とか。

(6・29読売)

サラ洗いは夫が？妻が？

お血は妻が洗うべきか夫が洗うべきか……現代文明の改革がなるかならないかは、この問題

の解決にかかっている、とアメリカのウーマン・リブ雑誌「MS(ミズ)」最新号は述べている。これを受けて、ロサンゼルス・タイムズ紙は婦人欄で「サラ洗いはだれがするべきか」を特集。

(7・17読売)

FBIにもリブの波

米連邦捜査局(FBI)が始まって以来、初の女性捜査官がこのほど誕生した。この勇敢な女性の前米海兵隊将校スーザン・ロリー嬢(二五)と元尼僧ジョアンヌ・ピアス嬢の二人で、最近就任したグレー長官代行の政策変更によるもの。フーバー前長官は、女性には危険すぎるとして、女性捜査官の登用に反対していた。

(7・19朝日)

モンローこそ「女」の旗手

マリリン・モンローの十回忌を迎えて、モンロー両評価の動きが、ウーマンリブ運動の側で

みられる。なにがモンローを死に追いやったか、そのとき、女性たちは彼女を救うために何をしたかを考え、人間モンローをまじめに再評価することが、女性の革新を叫ぶウーマンリブの役割ではないかというわけ。

(8・5読売)

・女は男と平等よ

東京プリンスホテルで開かれている国際心理学会議の社会心理学会で十七日午後、アメリカの女性心理学者がウーマンリブ(女性解放)を訴えた。ミシガン州マスケゴン心理相談所員、ドロレス・ストレイさんで、NOW(米国女性協会)に属する活動家。(8・18毎日)

新段階の米ウーマンリブ

アメリカ主要都市ではウーマンリブ主催の女性ゼスネットが一斉に展開。ニューヨーク五番街では二十五日夕方、「妊娠中絶

は女性の権利」「物価高と戦おう」「レズビアンよ団結せよ」などのスローガンを掲げたデモ行進が行なわれた。最近ではリブの政治的活動が脚光を浴び「男性上位」を根本から揺るがす成果を次々にあげている。リブの雑誌「MS」も三号で、すでに五十万部近い発行。野球のアンパイア、ユタヤ教会の牧師などにも女性が進出し、軍艦にも女性が乗るようになった。

(8・23朝日、8・26毎日)

鉾山に女性是不吉

女性技師、迷信に挑戦

米コロラド州ジョージタウンの鉾山にこのほど女性が入坑。同鉾山の技師ジャネット・ボネマさん(三三)で、宿願を果たしてニコリ。(11・11朝日)

性差別修正進む

来日の女性高官語る

AID(国際開発援助機関)

の労働担当顧問ベイヤー夫人と、労働者婦人問題担当顧問アクロイド夫人の二人が来日、性差別運動以後変化しているアメリカ婦人の現状について語った。

「権利の平等は性によって変わらな」と明らかにした憲法の修正案も五十州のうち二十三州がみとめた。効力を発するのは三分の二の承認が必要だから、あとは時間の問題と自信をもっていう」。(11・13中日)

同性結婚式

十月五日、ヒューストンで米国史上初めて法的に認められた「同性結婚式」が行なわれた。新郎は高校時代フットボールのスターだったデキサス男、「新郎」は女性タレント。

(11・19読売)

アンジェラ・デビス無罪

二年前、判事ら四人が射殺された囚人脱走事件を審理中の米

カリフォルニア州サンノゼの法廷は、四日、黒人反戦運動指導者アンジェラ・デビス嬢に無罪の判決を言い渡した。物的証拠のない状況証拠だけの「政治的裁判」、米国の権力と反体制派の対決として内外の注目を集めていたが、反体制派が勝利をおさめた。(6・5日経・中日)

女による、女のための、

女を描いた映画祭

ポーボワール、ジェーン・フォンダさんらが主催、六日ニューヨークで開幕。フランスのバルダ、スウェーデンのゼッタリング両女流監督や、米国のウーマン・リブ映画社など、すべて女性の手になる作品を上映。場内は大歓声。

(6・8毎日・道新)



あじら読書室

女という快楽

上野千鶴子著

勁草書房

5年程前に、〈へあじら札幌〉の月例会で子どもをもつことについて話し合ったことがある。結婚・出産に対するブレッシヤが口々に語られ、産む・産まないは女が自由に選ぶべきことで、子持ち、子無し、單身者……いろいろな在り方が可能な社会が良いという話になった。その時に、「でも、本当に自由に選べるようになったら、人は子どもを産みたいと思うんじゃないか」と発言し、「なぜ、そう思うのか」という質問に答えられなかったことがあった。

ブレッシヤはあった。しかし、それだけではない。どこかで私自身が確かに望んで産んだ。母になることが女の生き方の正統だという謀略にはとうに気づいていて、それでも確かに望んだ。あれは何だったのだろう。

『女という快楽』（上野千鶴子、勁草書房）の中の「個の解放と種の解放」を読んで、今、

長い間のこだわりをやっと入口をみつけたように感じている。上野さんは「我思うから出発する西歐型思维は（中略）一人称単数形の世界を私たちに植えつける。私たちは、その世界のことで自己形成してきてしまったから、自分が種であることを、後になって発見して驚く」と書いているが、まさに私もそうだったのだ。

ベティ・フリーダマンが報告して話題になったキャリアアウーマンたちの家族帰帰現象も、この「類的本質からの疎外」という視点からとらえれば、つながってくるのではないだろうか。

その他、上野さんのフェミニズム研究の出発点になった主婦論争や、家族論、あまり学者たちがとりあげたがらない性の問題など、研究者として普遍的な事実をつかみ出しつつ、しかも上野さんの「私」がどこにいるのかも明確である。

（四六判 二九〇ページ、千九百円）

（札幌 細谷洋子）

危険な話

―チェルノブイリと日本の運命―

広瀬隆著

八月書館

「原発は不安だけど、NO」と言いきれない」とためらっている人には是非読んでもらいたい。

一九八六年四月二十六日、ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で起きたあのいまわしい事故によって、地球上の生物は今後百年におよぶ「時限爆弾」をその生命の中にとりこんでしまったのです。

事故によって放出された放射線の量は数億キュリー（広瀬氏は確証をもって十億キュリー前後と主張）。この量は「過去に人類がおこなってきた核実験で出された死の灰すべてを合計したものに等しい」（一九八六・九・二三「ニューヨークタイムズ」）という。

二百種を超える放射線が九年後くらいから少しずつ体の各部分に障害をもたらし始めます。白血病、甲状腺障害、ガン……。例えばセシウムは卵巣にたまり凝縮し、胎児に影響を与え、放射能障害を伝えてゆくのです。

日本は大丈夫などと言っておられません。八〇〇kmも離れているのに死の灰は降って

きましたし、食糧をとおして放射能は確実に私たちの体に入ってくるのですから。

ふんだんな資料を提示しながら事実をのみ語る広瀬氏の真剣さの前に、私たちは逃れようのないがけつちに立たされていることはつきり知ってしまいます。次はフランス？日本？

安全な商品を買いたいという消費者の願いを尊重するのは企業の義務です。グリーンで安全、安価の宣伝のウソが暴かれたいま世界中の原発はすぐにも止めるべきです。

(四六判 二九六ページ、千六百元)

(仙台 三船照子)

女と男の経済学―暮らしとエロス

深江誠子著
社会評論社

女性問題を考える場合、女は男や男社会の被害者として語られることがほとんどであるが、しかし、本当にそうだと言いきれるだろうか。男の差別意識や男社会をささえているのは女たち自身が持っている差別意識であり、この一見豊かそうな日常を失うことへの恐れなのではないだろうか。

深江さんは、千日前ビルの火災や一条さゆ

りさんの裁判、買春ツアーなどについて自身がかかわることによって悩み、とまどった気持ちや率直に語ることにより、加害者としての女たちの姿をこの本の中で問うのである。また、経済学者としての深江さんの知識の深さをもって、経済と女、女と世界のかかわりを、やさしく、鋭く女たちに伝えてくれる本でもある。さらに、女と男の自然な関係―「暮らしとエロス」の示唆が読む者をドキッとさせるのである。

(四六判 二三四ページ、千六百元)

(札幌 伊藤初江)

強姦された男

マッタ・ティツカネン
多勢真理訳
草思社

「トーヴァ・ランダースは、市立図書館の貸出係として働いている。そこには三年近く勤めており、この秋からは年齢手当が支給されることになっている」と、この小説は主人公トーヴァの日常から始まる。

離婚してミックとヨックムという愛すべき二人の息子と暮らしている。前の夫から養育費をもらっているが、生活は楽ではない。そ

れでも安い公立の学校で週一度モダンバレエを習っているのは、太り過ぎ（特に腰まわりと太腿）防止と、それがいつかはダンスホールか、あるいは男性と一緒にベッドの中で役に立つかもしれないという期待があるからである。

「トーヴァは今でも、誰か相手が見つかると思っている。何度か失敗したが、少なくともその希望はなくしていない」

「トーヴァは自由を信じている。人が相手を傷つけず、いっしょに暮らせると思っている」

そのトーヴァが七月十七日、一人だけの四十歳の誕生日に強姦される。

屈辱に震え、声を上げて泣きながらトーヴァは考える。警察に届けばどうなるか、新聞は事件をどう報道するか、裁判は……。彼女は強姦した男に宣戦布告する。密かに戦いを練り、調査をし、準備を整え、ついに実行に移す日が来る。目には目を！

彼女は暴力を好まない。恐怖と戦い、時間おじけづきながら、しかし憎悪の炎は彼女を駆り立てる。恐れるトーヴァ、傷つくトーヴァ、やさしいトーヴァ、勇敢なトーヴァ……。もし、よくいわれるように、女性の最大の

長所のひとつが心配りであり、相手の立場に容易になれることであり、そして男は自分勝手な女の気持ちで理解できないのなら、「性」における男女の関係は、まさに象徴的といえる。世界中いたるところで、今も多くの女たちが強姦され続けている中、男に強姦された側の屈辱を理解させるには、トーヴァの取った方法しかないのか。

トーヴァを強姦したマッティ・ヴェステルのように、自分の肉体について聞かされ、卑猥な言葉を浴びせられることによって女は欲望にかられる、と思っている男がいる。会う前に綿密にベッドでの作戦を立てるが、いざとなると思うようにいかない、とぼやく男がいる。フツの女の子とやらが、いやらしいオジサンたちにさわれ、脱がせられ、セックスをさせられる(強姦ではなく楽しいゲームとして)ボルノビデオと一緒にホテルで見ている若いカップルがいる。深夜酔って帰って来た夫に追いかけて逃げまわる妻がいる……。強姦の要素の全く無い、トーヴァの好きな「並んで立つ」関係を持ち得る男女の交わりがどれほどあろうか。

頑健でひげづらの男は流行遅れで、サラサラツルツルの清潔な男の子が今モテるとか、

服装や髪型にやたらこだわったり、化粧をしたり、料理を研究したり、見かけは随分違ってきたても、男の性の本質は変え難いのか、その本質とは、本質なのか幻想なのか。

(この本は一九八〇年に日本語訳が出版されている。読みやすくていい翻訳だと思う)「発表と同時に大評判となり、北欧諸国をはじめ、アメリカ、フランス、イタリアなど十か国に翻訳、紹介された。また本書の映画化『男は強姦されない』は、カンヌ映画祭に出品され高く評価された」とある。作者マッティ・カネンの凛とした写真が載っている。幸いにも彼女のメッセージはかなり広く共有されたようだ。

遅ればせながら、まだ愛すべきトーヴァを知らなかった人たちに、トーヴァと会ってほしい。自分の中のトーヴァと話ができるかもしれない。

(B5判 九百八十円) (福岡 甲木京子)

女性のライフサイクルと法

佐々木静子編

ミネルヴァ書房

女性のための法律解説書は数多いが、女性のライフサイクルを、「家庭人」「職業人」

「社会人」の三本立てでとらえ、家庭人としては婚姻、子ども、住居、老人介護、年金、相続、職業人としては働く女性の権利と地位、独身女性と仕事、家事労働と仕事、保育と仕事、パートタイマー、社会人としては刑事法、悪徳商法、消費者運動、家庭教育と家庭教育、女性教育と社会参加の十六章に分け、佐々木静子、渥美雅子、田中恒子、金田絢子、安藤幸子、徳本サダ子、金城清子、松尾道子、久場嬉子、庄司洋子、大沼順子、白井典子、久岡真佐代、井上善雄、上原絹江、服部正の各氏がそれぞれ専門的立場でわかりやすく解説している。

これだけの学者を揃えたため、一冊の本としての統一性には欠けるが、それぞれの個性がにじみでて、法律書としては抜群のおもしろさ。電車の中で読める本を、という意図は十分満たされている。とくに第三部第五章執筆の服部氏は、『あこら』十七号、三十二号等から多くを引用、「彼女たちのこの鋭い批判精神こそ、実は生涯教育の培うべき最もたいせつなものだ、とても逆説的にいえるかもしれない」と評価している。

(B6判 三三二ページ、二千円) (A)

結婚バースポート

佐藤文明著

現代書館

結婚という社会通念にさからって、あえて挙式しない、入籍しない人たちを、筆者は「アウトピスト」と呼ぶ。「アウト・マリッジ」と「ユートピスト」の合成語とか。が、社会通念にさからえば、当然風狂も大きい。そこを「どこ吹く風」と居直って生きるノウハウが、おもしろおかしく、時に大マジメに語られている。

「ある型の結婚は、ある宗教なりある利権団体の踏み絵にすぎない」と言い切る筆者は、さまざまな結婚の形式や取り決めに挙げて、「あえて結婚の共通点を書き出すとすれば、生まれる子どもに対する権利を、だが、あるいはどこのグループが手に入れるかをあらかじめ取り決める手続き（儀式）といえるんじゃないか。そして、この手続きを正当化するために、性道徳やら「常識」やらがつくり出され、愛情さえ、それにフィットするようにゆがめられていく」と指摘する。読んでいううちに、ウーン、革命の原点は結婚かな？ という気になくさせられてしまう。（「妙案・結婚いらず本」本書は幼児の手の届かな

いところに置いて下さい」帯のことば）
(B 6 判 二四六ページ、千六百元) (R)

「女 あんたが主人公」

小西 綾 おおいに語る

駒尺喜美+あつ、わかったの会編

松香堂

魔女の中の大魔女、小西さんの話は、一度でも聞いた者の心をとらえて離さない。その話を本にしたら……という企画は何度も話題になったが、とうとう待望の本が出た。

「生い立ちの記」に始まり、「眼をひらいてみよう」「世界と社会と自分」「進路指導」そして「論・論・談」（駒尺喜美との対談）に至る七章、そのすべてがぐいぐいと人を引き込み、魔術にしばれて動けなくなる。

よけいなものを捨て去り捨て去り、たしかに己れを真心得てぶつける迫力の美しさ。世相を指摘したどの断片にも、すべて澄んだ女の目が光る。

たとえば「信楽青年寮」と「かにた婦人の村」が朝日新聞に表彰された記事を追って「信楽」に問い合わせると、肢体不自由児、精神薄弱者と呼ばれる人たちに陶芸を教え、社会人として自立させるその施設は、女は入所さ

せないと言う。売春婦を迎える「かにた村」の牧師さんは自信に満ちて語る。「かにた村には、かにた川という美しい川が流れています。売春でボロボロになった人たちをこのかにた川で洗い清めてやるんです」

綾さんは大いに怒る。「売春は一人でするんですか。買った男はそのままできれいなんですか。女を買いにゆく男ばかり集めて、その男たちを清めてやるというのなら私は承知するんですよ。結局、売春をするような女はけがらわしいという差別ではありませんか。男の人だけが実権を握っている社会だと、こういうふうな差別があっても気がつかないのです。私、男の人が悪いということばかりを言うのではないのです。しかし気がつかない」

このたしかな目は、鐘紡のストライキに参加し、柳原白蓮や原阿佐緒の「自由恋愛」に若い心をかきたてられた大正デモクラシー世代ならではのものと、概念として知っていた「大正デモクラシー」が、ぐっと身近なものになる。生きた女性史としても必読の一書。
(B 6 判 二八九ページ、千五百円) (斎)

オバサンは怒ったゾ!

働く中高年婦人白書

働く婦人の会編

ミネルヴァ書房

女性への世論調査によると、「結婚・出産で一度家庭に入り、育児が終わると再就職する」という一時中断型を支持する人が、一番多い。しかしこの考え方は、離婚をせず、夫が定年まで元気に働けることが前提であって、その型からはみ出したとたんに女性差別の壁が立ちふさがるのである。

Hさん(五十二歳)は、離婚して小さな工場で十六年間、男性と同じ仕事をしてきた。正社員だが給料は男性の六割。工場が倒産したとき、経営者が、社会保険料や、厚生年金を未納にしていたことを知り、がく然とする。職安に行っても、五十二歳の女性に仕事はなく、自分で就職を捜さねばならない。

この本には、中小企業で何の保障もなく働く大部分の中高年女性への差別の実態、パートタイマー、母子家庭、独身女性の実例があげられている。

巧みに女性を分析し、弱者切り捨ての方向へ動いていく行政への怒りと、このような中で学習し、団結することが、どんなに大切な

痛切に感じる。

(B5判 千円) (藤本)

老後を考える

一五年間のあゆみの記録

小金井老後問題研究会

高齢者問題を、一九七一年から問い続けてきた、小金井老後問題研究会の十五周年記念記録集。五年目、十年目の記録集に続く第三集であるとともに、十五年間の総集編でもある。

毎年秋に開かれる集会の記念講演はじめ、「老後と社会」を考える意見集、会が行なった要望・陳情・請願書、会員の座談会、随想等、盛りだくさんな内容のなかに、この会の地道な活動が克明に記されている。

「テープ起こしは時間のかかる作業なので、小さな時間をつぎ合わせて、新幹線や中央線の中でもイヤホーンをつけて原稿用紙に向かいました」という編集後記に、会を支えてきた人たちの姿がほの見える。

(A5判 二二八ページ、千円、申し込みは〒184 小金井市緑町五一二―三四 二瓶方、同会へ)

(さ)

0度の女

死刑囚フィルダス

ナワル・エル・サードウイ著

鳥居千代香訳

三一書房

「私は、ある一人の女囚に遭遇したことから、この小説を書くことになった」

エジプトきってのフェミニスト文学者、そして精神科医として知られる筆者の、この言葉に始まる小説は、誇り高い売春婦フィルダスの生い立ちから、男殺しの罪に死ぬまでの生涯をみずみずしく描く。

幼女期の性のおのき、割礼の屈辱と苦痛、性感の喪失と高揚……。「叔父」という近親に始まり、王子に至る数々の男とのかかわり、その暴力的な性関係。低く、時には高く鳴り響くBGMのような性の物語の中で、なぜか性を超えた気高いフィルダス、美しく、勇気にあふれ、誇りをもって生きるために生をも拒否した女の姿が、白蓮のように浮かび上がる。

そして、蓮沼の泥のような、多くのエジプト女性たちの悲しみがそくと伝わってくる。

筆者にフィルダスを引き合わせた女看守は

言う。「殺人を犯そうが犯すまいが、フィルダスに罪はないんですよ。絞首刑にされなきゃならないのは、彼らのほうだ」

そしてフィルダスは言う。「私はナイフでなく真実で殺人を犯したのです。だから権力者たちは私を恐れて死刑にしますのです。この真実は私に大きな勇気を与えてくれます。死の恐怖からも生きることの恐怖からも私を守ってくれます」——大統領に嘆願すれば釈放される希望が持てる、という権力者に対し「私はどのような恩赦も受けたくない。私はあなたたちが犯した犯罪のために死ぬよりも自分が犯した犯罪のために死にたい」と、彼女は自らの刑死を選択する。

サードウィの二十に余るフェミニズム小説の本邦初訳。フランス・アラブ友好文学賞受賞作。が、今でも性暴力の象徴、女子割礼が行なわれている中東の数か国では発売禁止の本。

(四六判 一七五ページ、千三百円) (S)

女やるって お・も・し・ろ・い

大阪府企画部婦人政策課編

自治体で出している広報紙の中には、東京都中野区の「中野の女性」のように結構おも

しろいものがあるが、とびきりおもしろい広報紙が出た。女たちの不揃いなモノローグのサブタイトルどおり、これは企画なし(実は大アリ?)、画一性なし、政府用語のアイロニーが無作為に並べられていて、オモロイ、オモロイ。

たとえば「女のLIFE STAGE」の見開き。進学・就労・結婚・老人介護の四ステージの紹介、M字型就労のグラフがバツと目に入ってアーアーと思うが、読んでみるとどうしてどうして。M字の谷の部分が幾分浅くなってきたことを指摘したあとで、「女は家庭と思いこまれてきたオバさんたちは、今頃になってやっと働ける条件を手に入れたものの、もうだれも雇ってはくれませんものね」と結んでいたり。あちこちに、「理性が男の独占物でないのと同様、女が感性を独占する根拠もない。男も女も同様に、論理的でも感情的でもありうる」など上野千鶴子語録がちりばめられていたり。レイアウトもとびきりおしゃれ。

これが無料で配られるなんて、私も大阪府民にならなくなった。

(A4変形 三十二ページ) (千)

均等法時代を生きる

―働く女性たちへの応援歌

大脇雅子著

有斐閣選書

ナイロビのへあごろのワークショップで思ったことに始まり、均等法成立の背景を簡潔に紹介、「均等法を職場で生かすために」「保護と平等をどう組み変えるか」「人間らしい労働条件の確立をめざして」の三項に特に重点を置き、「家庭責任は男女共同で」「働いて生きる」と、今後の具体的な展開で結んでいる。

看護休暇制度・病気休暇制度・勤務時間短縮制度などについても、的を得た紹介があるほか、女性の権利の国際的履行確保できつちりと締めくくった、さすが法律の専門家らしい目配りのきいた「応援歌」。

(B6判 二六五ページ、千四百円) (S)

『フェミニズムの歴史』

ジャン・ラボー著

加藤康子訳

新評論社

紀元前一世紀、ガリア女性のローマ法による権利縮小に始まり、一九八四年に至るフラ

社会全体が女の地位をひき上げていかなく
ては、家という名の閉ざされた世界の中では
女は弱いです。

女性ががまんすることなく一人の人間とし
て生きることが、男性をも解放することだと
私は信じます。

へあごろに参加し、いろいろな人の考え
方に耳をかたむけ、自分自身の中の女である
ことに対する考え方を見直し、女性の地位向
上のため、女が一人の人間として、がまんす
ることなく、自分の考えをしっかり持って生
きることでできるようがんばりたいと思いま
す。

(長野市 関 恵美子)

◆私事ではございますが、先頃離婚いたしま
して、子供の成長その他の点を考えてやむを
得ず神奈川を離れました。地方の生活は十数
年ぶり。我が事情もさることながら厳しい状
況にあります。

はじめて、製造工の仕事をいたします。能
力・自信、あらゆるものを捨てた気分になり
きれず悶々としています。

三歳と一歳の子どもがいて保育の自主サー
クル、また働く親たちとの関係についてこれ
から出発したいと考えています。

大学在学中は大学新聞の編集をやって参り

ました。何か活かせれば幸いです。

三年後に上京のつもりで、就職等に働きか
けています。その間へあごろを通して力を
つけたく思っています。

新しい人生のために、助けて頂きたく、よ
ろしく願います。

山陰地区の会員の連絡先を教えてくださいま
せ。

(島根県大田市 三宅 雅子)

◆お元気でいらっしますか。一一九号届
きました。一読感激、ペンをとりました。今
回の選挙で女性候補が組織型選挙ではない
ネットワーク選挙というか、自分たちの代弁
者、代表を送ろう、という動きがあるという
ことは新聞報道の中で知っていました。しか
し、自分としてはかわりもなく、へあごろ
札幌」としても選挙でだれを応援しよう、だ
れを出そう、という話はいいさいなし。メン
バーの何人かは市民グループの選挙に首まで
つかってしまつたようですが。四月例会は「女
と政治」をテーマに、特に今回の選挙と自分
の態度などを話しあいました。大方の人は消
極派。市民グループ参加の人は自分勝手な？
選挙の楽しさを語ってくれ、選挙っておもし
ろい！という実感。もちろん運動であり選挙
である以上当選せねばならぬという厳しさは

ありますが、見方をかえれば日頃の自分の主
張を大勢の人にPRするチャンスでもあるの
でしょう。

一一九号を読んで、ますますその感を強く
しました。しんどい活動の中にもせいっぱ
いやった、楽しく工夫してやった、という充
実感、これだけの人にわかってもらえた、支
持してもらえた、という喜び。経験してみた
いと思つてしまいました。政治はちよつと、
政治はともかく選挙運動をやるには、なんて
しりごみしてるのはつまらない。要は慣れと
ノリで一回選挙にかかわればやみつきになる
かもしれない。

ふだんの生活の中での活動の中から、選挙
を展望してネットワークをひろげつつ、いつ
か必ず自分たちの代表を市議会・区議会に出
したいものです。いつになるかな。

最近「赤ちゃんに乾杯！」という映画を見
ました。ご存じセロー監督の、男三人で子ど
も、それも赤ん坊を育てていたら子どもがか
わいくなつてしまつた、という筋です。私が
行った日はけっこう人が入つていて、中年の
女性、若者は男女とも多かったのが印象的。
つくづくマス・メディアの威力は大きいと思
いました。もちろん娯楽のための映画ですか

ら、見た人がどれだけのことを考え感じるのかはわかりません。が、それでもメッセージは明確で、何より動員数が違うと思えました。女のための映画は数あるものの、コマ・シャル・ベースにのらないと、すでにそういうものを見たいと思っている層にしかひろがりません。まして「女もの」の本の読者、ニコミの読者とケタが違うでしょう。もちろん目的が違うのですからそれはそれでいいし、むしろ数が増えすぎると困る面もあると思います。が、何も考えていない層への浸透を図るには、メッセージ性はあるけど楽しいものがみんなの手に触れやすい形でもっとでこないかな。映画も「トツツイー」なんかはけっこういいセンいってと思うし「喝采のかげで」というのもよかった。マンガでは樹村みのりのほか、私は読んでいないけれど「しんきりり」、あと「安穩族」等々、ほりおこせばけっこうあると思う。小説でも私が好きなSFものでは、性の問題や性差別を、性転換とか性のない動物生物などの形で扱ったものがあります。カタイ理論書・現状報告の本の紹介だけでなく、マンガや映画や小説なんかの紹介もどんどんやっていきたいと思いました。

(札幌市 後藤晶子)

◆優雅に生きてみたいと、好きな音楽、指の運動と楽譜を読みとって頭の運動を兼ねて、若い孫のような先生について、ピアノを始めてみました。私の指が好きなメロディーを破壊しちゃうのです。スメタナのモルダウの流れをやると、流れが止まっちゃう。ショパンの別れの曲、ようやく上がって、何だか、変だなと思うと、原曲ではムリですから八調に書き直しました、と、先生。ぜんぜん、私の好きな音楽とは異質なんです。そのうち、ペー・トーベンじゃないけど、右の耳がゴーゴー鳴り出し四月選挙ごろのムリの後遺症らしい。絵筆は過去、どんなときにも持ちたかったのでした。ご存知滅私的長い生活で絵は諦めて捨てて五十年でした。描くことは全く考えないことにしていたのでしたが、「市長の家」の乱雑を片づけ片づけするうち、空いた壁に「絵」が一つ二つ欲しくなった。よい絵といっても好みはあるけれど、なかなか手に入らない。第一、高くて。

それで或る日、よし、模写してやれ、と最もシンプルな「西ドイツの白い家」を、有り合わせのポスターカラーで真似ちゃいました。安い額へ入れてみたら「絵」は「絵」なんですネ。

そうしてお盆がやってきて、育てた五家族集合というわけですが、それぞれ四十を超え、いわば立派な平均的家庭構成者で、実は、これが私に、人生の節目ということ、非常に強く感じさせたのです。

社会では、老人を子が見るのみなのと、モロモロですが、わたくしは、私自身、親らしい役割から、はっきり離脱してよい時期と判断できました。

政治のほう、田村朝雄が非常によい活動が続けており、仲太郎の身辺も、優れた男たちが守ってくれており、私は、右の耳の中の音を忘れたためではありませんが、どんなときにも持ちたかった絵筆を、生来はじめて時間の制約無しに持ってみました。

不思議ですねえ、描けるんです。全く習ったこともないのに、描き始めると筆の先に、五十年の執念が出てくるようなのです。

私が絵を描きあげるなんて、私自身驚いています。まわりも驚き、仲太郎も、市展ぐらに出せばと申しますが、わたしはその気はないのです。幸い皆が奪い合いみたいに欲しがるので、文章は、てがみでも少し長いと人は読まないけど、絵は、皆、びんと感じるらしいので、これから、モチーフがきまれば

【編集後記】

◆特集は、毎号、ある問題に新しい視点をおいてやうと四苦八苦します。今度のテーマは、いつもの特集に比べると、ずっとカンタンに出来そうだと案観していたのですが、いざ始めてみると、いつもほどではないにしても、やはりタイヘンでした。当時は夢中で切り抜いた記事を、今日の眼で再編集しようと思うと、あれも足りない、これも調べなくては、そうあせりながら、結局、思ったことの十分の一もできなかった。期待して待っていてくださった方々に、本当に申しわけないと思ひながらも、とにかく第一集を送り出します。不完全でもいい、あえて批判を受けることの中から成長しよう。お気づきのことを、どしどしお知らせください。(千)

* ◆私が、この特集の編集作業に最後までかわったのは、大きく二つの理由があった。一つは、新聞の切り抜き記事をピックアップしてくれた友たちへの友情から。何で、その地味で根気のいる作業を無にするものか、という気持ちであった。

もう一つは、70年に二十歳を迎え、新聞社へ就職決定、70・72年は、まさに、私の二十代へのダ・カーポであったから。活字が大好きだったこと、男女差別の実態を知ったこと――そのころに抱いた思いが、今の私を動かしているのだと思う日々でもあった。(み)

* ◆初めてかわった特集号作り。一冊の本を産み出すのに、こんなにたいへんなエネルギーに要するとは思ひませんでした。今までいろいろな人たちが支えてきた『あこら』であることを、改めて知りました。(の)

◆毎号のことながら、ああ、今度もお金がない、お金がない！

特集に注ぎたいエネルギーを、まず資金づくりに吸い取られ、時間がどんどん失われていくあせりの中で、結局、心残りの多い仕事になってしまったのが本当に残念。ジャーナリストの方々のAGORAZINEは五月、出席された方々も、呆れからやがてアキラメに変わられたよう。何も彼もスミマセン。ひたすらお詫びします。(R)

* ◆「あなたも編集ができます」というへあごら可能性教室」に参加して、この記念すべき特集のン・ページをレイアウトしました。

「ここがお母さんのページよ」と、お子さんにも話してあげられますよ」とのテューターの甘言にのせられて四苦八苦。でも何とか仕上がった喜びはやっぱり格別です。サテ私のかページ、何ページから何ページまでか、わかった方にはン万円さしあげます。(佳)

* ◆クリッピングの専門家じゃない、フツウの女たちが切り抜いた記事、というのが、この特集の特徴かな。

記事の終わりに書かれた新聞名と日付を目じるしに捜しても、なかなか見つからない記事も多いですよ。そう言えば十五年前、マスメディアが小さく小さく扱った記事を拡大して載せ、ヤッター！と自画自賛したっけ。でも、とにかく、いま読み返してみるとオモシロいですね。大掃除のとき、たたみの下の新聞紙を読みふけて母に叱られたことを思い出しました。(う)

* ◆シンドイナア、と途中ではうり出したくなりながら、それでもほうり出さなかったのは、

切り抜きを送り続けてくださったあの方、この方のお顔を思い出したからでしょう。

二歳と四歳のお子さんを保育園に預けて働きながら、深夜切り抜きを続けたOさん、家の中の新聞紙の山に家じゅうの非難を浴びながらがんばりぬいたMさん、有給休暇のすべてを切り抜きとリライトに注ぎ、いつも航空便で送ってくださったTさん……。みんなつかしい古い戦友です。

切り抜きやリライトをしてくださったのは、なぜか人一倍忙しく働いていた方々ばかりです。多分、だからこそ、新聞の文字が目につき刺さる思いだったのでしょう。そういう意味で、この特集は、やっぱりとても貴重だと私は信じます。(と)

●索引は最終号にのせます

「新聞切り抜きに見る女の十六年」は五分冊になる予定ですが、最終号に索引をのせます。次号以下どうぞご愛読ください。

●一緒に編集しませんか！

引き続き73年以降の分をお届けします。が、細かい仕事は山のようにあります。お礼はほとんどできませんが、一緒に考え、一緒に仕事をしてくださる方、ご連絡ください。地方の方、在宅の方でできる仕事もたくさんあります。

へあごらは、ギリシャ語でへひろばの意味。

女の生き方、人間の解放について話しあうへひろば。さくのないへひろばです。

経歴も年齢も性別も関係なく、同じ平場で話しあおう。ちがう価値観にも耳傾けよう。

そして、女も、男も、生き生きと、のびやかに生きられる社会を目指そう、

と、一九七二年以来、資料誌『あごら』(年二回刊)を、また一九七七年からは『月刊あごら』を発行してきました。

特定の、管理された情報は氾濫していますが、私たちのほんとうにほしい情報は手に入りにくい現状のなかで、女の側が必要とする情報を集め、資料に基づいて討論したいと願っています。

あなたの地域の、職場の、そしてあなたの自身の情報を、どしどしお寄せください。全国各地のへあごら拠点にもお出かけください。

●へあごらは、どの企業、どの政党、どの宗教とも、いっさい無関係。

会費と、有志の基金と、雑誌の売上代で運営しています。

●全国各地の拠点では、それぞれ、その地域に応じた活動をしています。

●現在の主な活動は、

①拠点を軸にした勉強会や社会活動

②『月刊あごら』および『特集あごら』の発行

③女性の創造力や専門的技術を集めた創造力の銀行(BOC)の運営

④読書室の運営

⑤可能性教室(英語教室、再就職準備講座など)の運営、その他。

●会費は月額六百元(月額七千二百円)、前納制。入会金は不要。

●申し込みとお問い合わせは、

〒1160 東京都新宿区新宿一の九の六 あごら事務局(T E L 03-3354-3941)へ

『あごら』125号(特集33号) 1987年12月10日発行

- 編 集 浅野美和子/植木夏美/小川淑子/川崎尚子/小島サカエ/後藤多見/
加藤田カツ子/斎藤千代/佐波克美/菅原政子/竹内全子/中島克子/
中谷みゆき/西野厚子/根井 春/野村博子/藤本美千子/北条暢子/
真下久司/三船照子/森川万智子/山口のり子(切り抜き提供・印字を含む)
- 発行所 BOC出版部〒160東京都新宿区新宿1-9-6 ●03-354-3941 ●振替東京3-39331
- 発行人 〈あごら〉運営会議 ●定価 1,800円
-

この ひろい宇宙に
たった一つの地球

その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

かけがえのない地球
かけがえのないわたし

かけがえのないあなただから
たいせつに たいせつに しよう

あなたも
わたしも

地球も

たった一度きりの人生だから

思いきり

のびやかに生きよう

だれもが だれをも

ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと

ほほえみあえる地球にしよう

へあごら

人と人の出会うひろば

へあごら

人と人の共に生きるひろば